令和8年度

工　事　仕　様　書

1 工　事　名　　芝川ポンプ場耐震補強工事

2 工 事 場 所　　芝川ポンプ場

3 工　　期　　契約締結日から令和9年3月26日まで

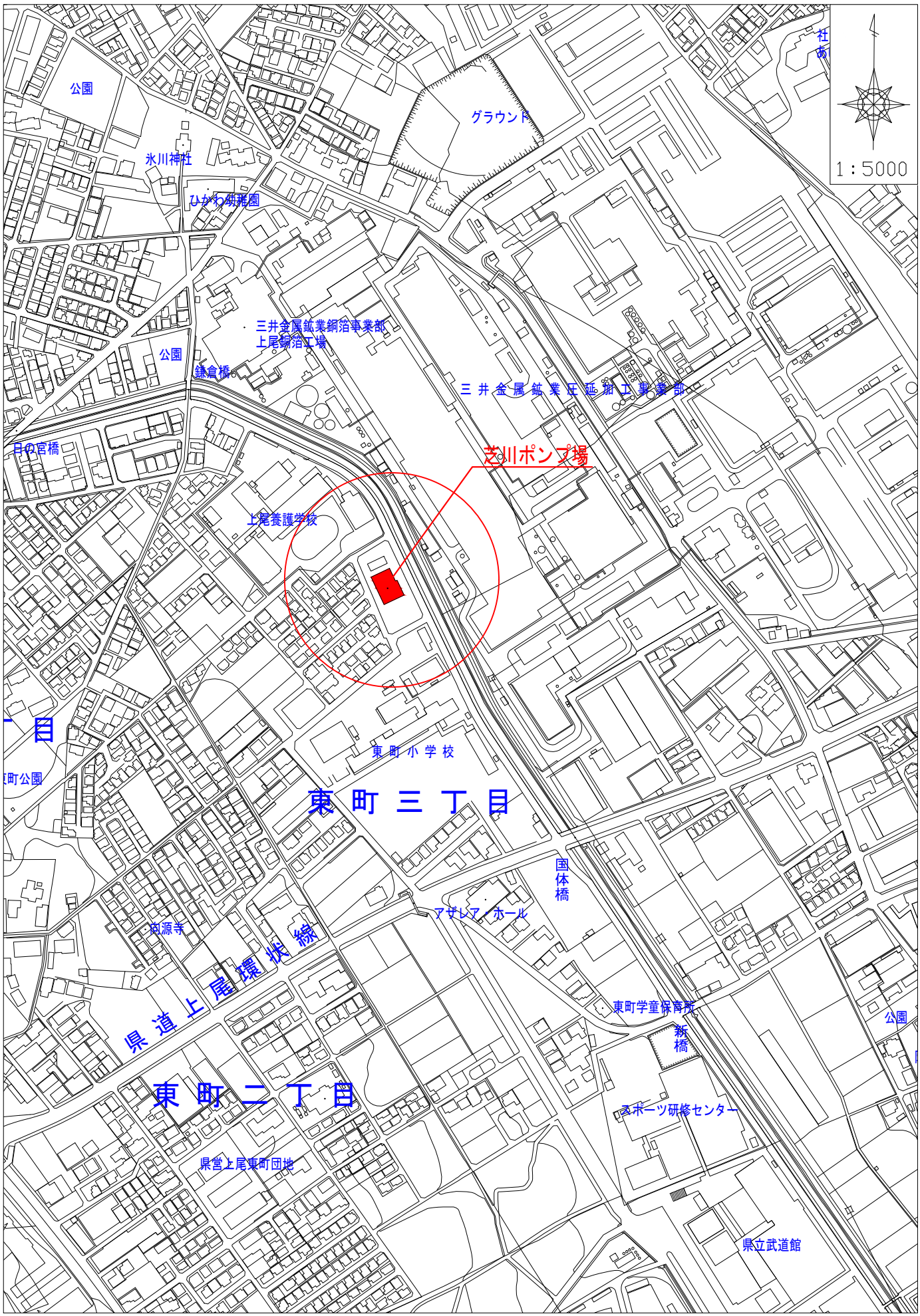
工　事 の 大　要	耐震補強工(土木)　1式 耐震補強工(建築)　1式 建築電気設備工　1式 プラント電気設備工　1式 建築機械設備工　1式

上尾市上下水道部下水道施設課

変更理由						
備　　考						
地　　区	県南（北本県土整備）		労務費補正	1.02	機械経費（賃料）補正	1.00
単価適用年月	令和08年05月01日付 公共					
工　　期	当初	自		至		
		日数				
	変更			至		
経費適用年月	公共　令和07年度					
主たる工種	耐震補強工事（下水道工事（3））					
設　　計	当　初　金　額			変　更　金　額		
	工　事　価　格					
	消費税相当額					
	合　　計					
請　　負	工　事　価　格					
	消費税相当額					
	合　　計					
	請負増減額					
週休２日区分	完全週休2日(土日)補正					

上尾市上下水道部下水道施設課

位　置　図


1：5000
公園
グラウンド
氷川神社
ひかわ幼稚園
三井金属鉱業銅箔事業部
上尾銅箔工場
公園
鎌倉橋
三井金属鉱業圧延加工事業部
日の宮橋
芝川ポンプ場
上尾養護学校
東町小学校
東町三丁目
国体橋
アザレアホール
河源寺
県道上尾環状線
東町学童保育所
新橋
公園
東町二丁目
スポーツ研修センター
県営上尾東町団地
県立武道館

工事場所

本工事費内訳書								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
芝川ポンプ場耐震補強工事								
本工事費								
	土木工(C)							下水道工事(3)
		直接工事費		1	式			
		間接工事費		1	式			
			共通仮設費　(率)	1	式			下水道工事(3) 市街地(DID補正) (1)－3
			技術管理費	1	式			
			小計					
		純工事費		1	式			
			現場管理費	1	式			下水道工事(3) 市街地(DID補正) (1)－3
			小計					
		工事原価		1	式			
		一般管理費等		1	式			

上尾市上下水道部下水道施設課

本工事費内訳書								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
土木工工事価格合計				1	式			
	建築工(A･S)							
		直接工事費		1	式			
		共通仮設費		1	式			改修建築工事
		純工事費		1	式			
		現場管理費		1	式			改修建築工事 完全週休2日(土日)補正係数1.01
		工事原価		1	式			
		一般管理費等		1	式			建築工事
建築工工事価格合計				1	式			

本工事費内訳書								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
	電気設備工(AE)							
		直接工事費		1	式			
		共通仮設費		1	式			改修電気設備工事
		純工事費		1	式			
		現場管理費		1	式			改修電気設備工事 完全週休2日(土日)補正係数1.01
		工事原価		1	式			
		一般管理費等		1	式			電気設備工事
電気設備工(AE)工事価格合計				1	式			

上尾市上下水道部下水道施設課

本工事費内訳書								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
	電気設備工(PE)							
		機器費		1	式			
		直接工事費		1	式			
		間接工事費		1	式			
			共通仮設費	1	式			電気設備工事 完全週休2日(土日)補正係数1.02
			現場管理費	1	式			電気設備工事 完全週休2日(土日)補正係数1.03
			据付間接費	1	式			
		据付工事原価		1	式			
		設計技術費		1	式			
		工事原価		1	式			
		一般管理費等		1	式			電気設備工事
電気設備工(PE)工事価格合計				1	式			

本工事費内訳書								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
	建築機械設備工(AM)							
		直接工事費		1	式			
		共通仮設費		1	式			改修機械設備工事
		純工事費		1	式			
		現場管理費		1	式			改修機械設備工事 完全週休2日(土日)補正係数1.01
		工事原価		1	式			
		一般管理費等		1	式			機械設備工事
建築機械設備工(AM)工事価格合計				1	式			
工事価格合計								土木工(C)＋建築工(A･S)＋電気設備工(AE)＋電気設備工(PE)＋建築機械設備工(AM)
消費税等相当額				1	式			10%
本工事費計								

本工事費内訳書								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
芝川ポンプ場耐震補強工事（土木工事）								
本工事費								
	土木工							
		直接工事費						
			耐震補強工	1	式			第1号内訳書
			開口設置閉塞工	1	式			第2号内訳書
			仮壁設置撤去工	1	式			第3号内訳書
			計					直接工事費
		間接工事費		1	式			共通仮設費＋現場管理費
			共通仮設費　（率）	1	式			下水道工事（3） 市街地（DID補正） （1）－3
			技術管理費	1	式			第4号内訳書
			小計					共通仮設費

上尾市上下水道部下水道施設課

本工事費内訳書								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		純工事費		1	式			直接工事費＋共通仮設費
			現場管理費	1	式			下水道工事(3) 市街地(DID補正) (1)－3
			小計					現場管理費
		工事原価		1	式			直接工事費＋間接工事費
			一般管理費等	1	式			
工事価格合計								工事原価+一般管理費等
消費税等相当額				1	式			10%
本工事費計								

第1号内訳書								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		耐震補強工						
			あと施工せん断補強工	1	式			第1号明細書
			撤去工	1	式			第2号明細書
			復旧工	1	式			第3号明細書
		計						耐震補強工

第2号内訳書								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		開口設置閉塞工						
			開口設置工	1	式			第4号明細書
			開口閉塞工	1	式			第5号明細書
		計						開口設置閉塞工

第3号内訳書								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		仮壁設置撤去工						
			仮壁設置工	1	式			第6号明細書
			仮壁撤去工	1	式			第7号明細書
			水替え工	1	式			第8号明細書
			土砂浚渫工	1	式			第9号明細書
		計						仮壁設置撤去工

第4号内訳書								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		技術管理費						
			鉄筋探査工	1	式			第10号明細書
		計						技術管理費

上尾市上下水道部下水道施設課　内訳書

第1号明細書								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		あと施工せん断補強工						
			あと施工せん断補強（CCb工法） 【両端先端型】	1	式			見積
			現場発生品及び支給品積込み・荷卸し ﾄﾗｯｸ[ｸﾚｰﾝ装置付]ﾍﾞｰｽﾄﾗｯｸ2t積、吊能力2.9t	3.020	t			第1号代価表
			現場発生品及び支給品運搬 ﾄﾗｯｸ[ｸﾚｰﾝ装置付]ﾍﾞｰｽﾄﾗｯｸ2t積、 吊能力2.9t DID区間有り 5.0km以下	3.020	t			第2号代価表
			廃材持込料 区分 北本県土整備事務所 適用区分 Co廃材[無筋]	3.020	t			
			足場工 単管足場 不要	23.290	掛㎡			第3号代価表
			足場工 単管傾斜足場 不要	1.200	掛㎡			第4号代価表
			残水ポンプ排水工 （沈砂池へ排水）	4	回			第5号代価表
		計						あと施工せん断補強工

第2号明細書								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		撤去工						
			構造物とりこわし 無筋構造物 人力施工 制約無 夜間無	1.060	m^3			第8号代価表
			ｺﾝｸﾘｰﾄはつり 3cm以下	4.750	m^2			第9号代価表
			現場発生品及び支給品積込み･荷卸し ﾄﾗｯｸ[ｸﾚｰﾝ装置付]ﾍﾞｰｽﾄﾗｯｸ2t積､吊能力2.9t	2.760	t			第1号代価表
			現場発生品及び支給品運搬 ﾄﾗｯｸ[ｸﾚｰﾝ装置付]ﾍﾞｰｽﾄﾗｯｸ2t積、 吊能力2.9t DID区間有り 5.0km以下	2.760	t			第2号代価表
			廃材持込料 区分 北本県土整備事務所 適用区分 Co廃材[無筋]	2.760	t			
		計						撤去工

第3号明細書								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		復旧工						
			コンクリート 小型構造物 人力打設 18-12-25(20)(高炉)生コンクリート小型車割増無 一般養生 現場内小運搬有り	1.060	m^3			第10号代価表
			型枠 一般型枠 小型構造物	2.460	m^2			第12号代価表
			モルタル金ｺﾞﾃ仕上げ 床	4.750	m^2			第13号代価表
		計						復旧工

第4号明細書								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		開口設置工						
			ｺﾝｸﾘｰﾄ削孔(さく岩機) 100mm以上200mm未満	4	孔			第15号代価表
			ｺﾝｸﾘｰﾄ削孔(さく岩機) 300mm以上400mm未満	18	孔			第16号代価表
			ﾜｲﾔｰｿｰｲﾝｸﾞ 低配筋鉄筋比率0．4%未満	0.600	㎡			積算資料公表価格版
			ﾜｲﾔｰｿｰｲﾝｸﾞ 中配筋鉄筋比率0．8%未満	5.550	㎡			積算資料公表価格版
			構造物とりこわし 鉄筋構造物 人力施工 制約無 夜間無	1.430	㎥			第17号代価表
			構造物とりこわし 無筋構造物 人力施工 制約無 夜間無	0.620	㎥			第8号代価表
			現場発生品及び支給品積込み･荷卸し ﾄﾗｯｸ[ｸﾚｰﾝ装置付]ﾍﾞｰｽﾄﾗｯｸ2t積､吊能力2.9t	4.930	t			第1号代価表
			現場発生品及び支給品運搬 ﾄﾗｯｸ[ｸﾚｰﾝ装置付]ﾍﾞｰｽﾄﾗｯｸ2t積、 吊能力2.9t DID区間有り 5.0km以下	4.930	t			第2号代価表
			廃材持込料 区分 北本県土整備事務所 適用区分 Co廃材[有筋]	3.500	t			
			廃材持込料 区分 北本県土整備事務所 適用区分 Co廃材[無筋]	1.430	t			
		計						開口設置工

第5号明細書								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		開口閉塞工						
			コンクリートはつり 3cmを超え6cm以下	12.240	㎡			第18号代価表
			現場発生品及び支給品積込み・荷卸し トラック[クレーン装置付]ベーストラック2t積、吊能力2.9t	1.400	t			第1号代価表
			現場発生品及び支給品運搬 トラック[クレーン装置付]ベーストラック2t積、 吊能力2.9t DID区間有り 5.0km以下	1.400	t			第2号代価表
			廃材持込料 区分 北本県土整備事務所 適用区分 Co廃材[無筋]	1.400	t			
			コンクリート 小型構造物 人力打設 24-12-25(20)(高炉)生コンクリート小型車割増無 一般養生 現場内小運搬有り	2.010	㎥			第19号代価表
			コンクリート 小型構造物 人力打設 18-12-25(20)(高炉)生コンクリート小型車割増無 一般養生 現場内小運搬有り	0.620	㎥			第10号代価表
			耐震改修工事 無収縮モルタル注入【材工共】 試験費共 Fc=30	0.040	㎥			
			型枠 一般型枠 小型構造物	1.440	㎡			第12号代価表
			型枠 化粧型枠 小型構造物	1.440	㎡			第21号代価表
			化粧型枠(材料費) 一般工事ピアス・ワンダー共通	1.440	㎡			第22号代価表
			コンクリート表面処理工(ウォータージェット工 300m2未満 制約無 夜間無 上向無 減額無(単価に含む)	6.990	㎡			第23号代価表
			鉄筋工[市場単価] 各種 一般構造物 10t未満 制約無 夜間無 トンネル無 法面無 太径10%未満(補正無) 補正無(一般構造物) D13mm0.995kg/m	22	kg			第24号代価表

			鉄筋工[市場単価] 各種 一般構造物 10t未満 制約無 夜間無 ﾄﾝﾈﾙ無 法面無 太径 10%未満(補正無) 補正無(一般構造物) D16mm1.56kg/m	231	kg			第25号代価表
			ARｹﾐｶﾙｾｯﾀｰ HPｱﾝｶｰ【材工共】 回転･打撃型 異形鉄筋Ⅰ D16×530 横向打(壁)	16	本			
			ﾌﾚｱ溶接工 夜間無 制約無 V型溶接 下向き･横向き D13*D13	40	箇所			第26号代価表
			ﾌﾚｱ溶接工 夜間無 制約無 V型溶接 下向き･横向き D16*D16	236	箇所			第27号代価表
			[小口]H形鋼(SS400) 広幅 200×200×8×12mm 49.9kg/m	613.770	kg			
			ｽﾃﾝﾚｽ鋼 熱間圧延鋼板(SUS304) 厚10×幅2438×長6100mm	658.820	kg			
			ﾜｲﾔﾛｰﾌﾟ 1号 A種C/L 6×7 径20mm	10.920	m			
		計						開口閉塞工

第6号明細書								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		仮壁設置工						
			切梁・腹起し設置 火打ちﾌﾞﾛｯｸ無	2.160	t			第28号代価表
			作業員(補助) 足場等仮設含む	5	日			第29号代価表
			[小口]H形鋼(SS400) 広幅 125×125×6.5×9mm 23.6kg/m	30.210	kg			
			[小口]H形鋼(SS400) 広幅 200×200×8×12mm 49.9kg/m	439.620	kg			
			[小口]溝形鋼(SS400) 大形 6.5×75×150mm 18.6kg/m	1012.770	kg			
			[小口]溝形鋼(SS400) 大形 7.5×80×200mm 24.6kg/m	66.170	kg			
			[小口]等辺山形鋼(SS400) 中形 10×100×100mm 14.9kg/m	30.100	kg			
			[小口]厚板(SPHC又は無規格) 6.0×914×1829	8.480	kg			
			[小口]厚板(SPHC又は無規格) 9~12×914×1829	2.210	kg			
			[小口]厚板(SPHC又は無規格) 9~12×914×1829	102.690	kg			
			[小口]厚板(SPHC又は無規格) 16~25×914×1829	24.730	kg			
			鋼床版現場溶接工 発動発電機 総延長4.3m t=12mm	4.26	m			第31号代価表

			ｺﾝｸﾘｰﾄｱﾝｶｰ(樹脂ｶﾌﾟｾﾙ)取付 M10	2	本			第33号代価表
			ｺﾝｸﾘｰﾄｱﾝｶｰ(樹脂ｶﾌﾟｾﾙ)取付 M16	14	本			第36号代価表
			ｺﾝｸﾘｰﾄｱﾝｶｰ(樹脂ｶﾌﾟｾﾙ)取付 M22	4	本			第38号代価表
			耐震改修工事 無収縮ﾓﾙﾀﾙ注入【材工共】 試験費共 Fc=30	0.010	m^3			
			ｼｰﾙ材	2.03	m			第40号代価表
			ｼｰﾙ材(材料費)	2.03	L			第41号代価表
		計						仮壁設置工

第7号明細書								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		仮壁撤去工						
			切梁･腹起し撤去	2.16	t			第42号代価表
			作業員(補助) 足場等仮設含む	3	日			第29号代価表
			桁材2次切断(ｶﾞｽ切断機) 部材厚:20mmまで	4.280	m			第43号代価表
			鉄ｽｸﾗｯﾌﾟ ﾍﾋﾞｰ H1	-1.550	t			
		計						仮壁撤去工

第8号明細書								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		水替え工						
			残水ポンプ排水工 （沈砂池へ排水）	8	回			第44号代価表
		計						水替え工

第9号明細書								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		土砂浚渫工						
			掘削 土砂 現場制約あり	2.900	m^3			第47号代価表
			人力運搬(積込み~運搬~取卸し) 20m以下	2.900	m^3			第48号代価表
			土砂等運搬 小規模 ﾊﾞｯｸﾎｳ山積0.13m3(平積0.1m3) 土砂(岩塊・玉石混り土含む) DID有り 24.0km以下 良好	2.900	m^3			第49号代価表
			処分費	2.900	m^3			第50号代価表
		計						土砂浚渫工

第10号明細書								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		鉄筋探査工						
			鉄筋探査工 探査方向 下向き 深度200mm程度 距離10m	27.790	㎡			第51号代価表
			鉄筋探査工 探査方向 横向き 深度200mm程度 距離10m	98.590	㎡			第52号代価表
		計						鉄筋探査工

第1号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		現場発生品及び支給品積込み・荷卸し	ﾄﾗｯｸ[ｸﾚｰﾝ装置付]ﾍﾞｰｽﾄﾗｯｸ2t積、吊能力2.9t					
			ﾄﾗｯｸ ｸﾚｰﾝ装置付・積載質量 2t積・2.9t吊		供用日			
			特殊運転手		人			週休2日補正
			特殊作業員		人			週休2日補正
			軽油 1.2号 ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油		L			
		計						現場発生品及び支給品積込み・荷卸し

第2号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		現場発生品及び支給品運搬	ﾄﾗｯｸ[ｸﾚｰﾝ装置付]ﾍﾞｰｽﾄﾗｯｸ2t積、吊能力2.9t DID区間有り 5.0km以下					
			ﾄﾗｯｸ クレーン装置付・積載質量 2t積・2.9t吊		供用日			
			特殊運転手		人			週休2日補正
			特殊作業員		人			週休2日補正
			軽油 1.2号 ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油		L			
		計						現場発生品及び支給品運搬

第3号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		足場工	単管足場 不要					
			土木一般世話役		人			週休2日補正
			とび工		人			週休2日補正
			普通作業員		人			週休2日補正
			ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ[油圧伸縮ｼﾞﾌﾞ型] 25t吊		日			週休2日補正
			諸雑費		%			足場工仮設材等
		計						100掛㎡当たり
		計						1掛㎡当たり 足場工

第4号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		足場工	単管傾斜足場 不要					
			土木一般世話役		人			週休2日補正
			とび工		人			週休2日補正
			普通作業員		人			週休2日補正
			ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ[油圧伸縮ｼﾞﾌﾞ型] 25t吊		日			週休2日補正
			諸雑費		%			足場工仮設材等
		計						100掛㎡当たり
		計						1掛㎡当たり 足場工

第5号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		残水ポンプ排水工	（沈砂池へ排水）					
			ﾎﾟﾝﾌﾟ設置･撤去		日			第6号代価表
			ﾎﾟﾝﾌﾟ運転 排水量0m3/h以上120m3/h未満 揚程10m 発動 発電機 作業時排水		日			第7号代価表
			諸雑費	1	式			調整金
		計						残水ポンプ排水工

第6号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		ﾎﾟﾝﾌﾟ設置･撤去						
			土木一般世話役		人			週休2日補正
			特殊作業員		人			週休2日補正
			普通作業員		人			週休2日補正
			ﾊﾞｯｸﾎｳ(賃料) ﾊﾞｹｯﾄ容量･山積0.8(平積0.6)m3･吊能力2.9t		日			第1号単価表
			諸雑費	1	式			調整金
		計						ﾎﾟﾝﾌﾟ設置･撤去

第7号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		ﾎﾟﾝﾌﾟ運転	排水量0m3/h以上120m3/h未満 揚程10m 発動発電機 作業時排水					
			特殊作業員		人			週休2日補正
			工事用水中ﾓｰﾀﾎﾟﾝﾌﾟ(賃料) 径200mm11kW揚程10m		日			第2号単価表
			発動発電機(賃料) 出力45kVA低騒音・超低騒音		日			第3号単価表
			諸雑費		%			ﾎﾟﾝﾌﾟ配管材料の損料 分電盤の賃料等
		計						ﾎﾟﾝﾌﾟ運転

第8号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		構造物とりこわし	無筋構造物 人力施工 制約無 夜間無					
			構造物とりこわし工 昼間施工[手間のみ] 無筋構造物 人力施工 制約なし	1.000	m^3			
		計						構造物とりこわし

第9号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		ｺﾝｸﾘｰﾄはつり	3cm以下					
			空気圧縮機[可搬式･ｴﾝｼﾞﾝ駆動･ｽｸﾘｭ型] 吐出量5.0m3/min		日			週休2日補正
			特殊作業員		人			週休2日補正
			普通作業員		人			週休2日補正
			土木一般世話役		人			週休2日補正
			軽油 1.2号 ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油		L			
		計						ｺﾝｸﾘｰﾄはつり

第10号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		コンクリート	小型構造物 人力打設 18-12-25(20)(高炉)生コンクリート小型車割増無 一般養生 現場内小運搬有り					
			普通作業員		人			週休2日補正
			土木一般世話役		人			週休2日補正
			特殊作業員		人			週休2日補正
			生コンクリート 18-12-25(20)(高炉) 生コンクリート小型車割増無	1.060	m^3			第11号代価表
		計						コンクリート

第11号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		生コンクリート	18-12-25(20)(高炉) 生コンクリート小型車割増無					
			生コンクリート 18-12-25(20) 高炉 (60%以下)	1	m^3			
		計						生コンクリート

第12号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		型枠	一般型枠 小型構造物					
			型枠工		人			週休2日補正
			普通作業員		人			週休2日補正
			土木一般世話役		人			週休2日補正
		計						型枠

第13号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ仕上げ	床					
			左官		人			週休2日補正
			普通作業員		人			週休2日補正
			ﾓﾙﾀﾙ練 普通 1:3 ﾊﾞﾗ物	0.020	m^3			第14号代価表
		計						ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ仕上げ

第14号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		ﾓﾙﾀﾙ練	普通 1:3 ﾊﾞﾗ物					
			普通作業員		人			週休2日補正
			土木一般世話役		人			週休2日補正
			ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ 普通 ﾊﾞﾗ物	0.530	t			
			ｺﾝｸﾘｰﾄ用砕砂 粒径5~0mm	1.050	m^3			
		計						ﾓﾙﾀﾙ練

第15号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		ｺﾝｸﾘｰﾄ削孔(さく岩機)	100mm以上200mm未満					
			空気圧縮機[可搬式･ｴﾝｼﾞﾝ駆動･ｽｸﾘｭ型] 吐出量3.5~3.7m3/min		日			週休2日補正
			さく岩機[ﾊﾝﾄﾞﾄﾞﾘﾙ(空圧式)]〈ﾊﾝﾄﾞﾄﾞﾘﾙ〉 空圧式15kg級		共用日			
			特殊作業員		人			週休2日補正
			普通作業員		人			週休2日補正
			土木一般世話役		人			週休2日補正
			軽油 1.2号 ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油		L			
		計						ｺﾝｸﾘｰﾄ削孔(さく岩機)

第16号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		ｺﾝｸﾘｰﾄ削孔(さく岩機)	300mm以上400mm未満					
			空気圧縮機[可搬式･ｴﾝｼﾞﾝ駆動･ｽｸﾘｭ型] 吐出量3.5~3.7m3/min		日			週休2日補正
			さく岩機[ﾊﾝﾄﾞﾄﾞﾘﾙ(空圧式)]〈ﾊﾝﾄﾞﾄﾞﾘﾙ〉 空圧式15kg級		共用日			
			特殊作業員		人			週休2日補正
			普通作業員		人			週休2日補正
			土木一般世話役		人			週休2日補正
			軽油 1.2号 ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油		L			
		計						ｺﾝｸﾘｰﾄ削孔(さく岩機)

第17号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		構造物とりこわし	鉄筋構造物 人力施工 制約無 夜間無					
			構造物とりこわし工 昼間施工[手間のみ] 鉄筋構造物 人力施工 制約なし	1.000	m^3			
		計						構造物とりこわし

第18号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		ｺﾝｸﾘｰﾄはつり	3cmを超え6cm以下					
			空気圧縮機[可搬式･ｴﾝｼﾞﾝ駆動･ｽｸﾘｭ型] 吐出量5.0m3/min		日			週休2日補正
			特殊作業員		人			週休2日補正
			普通作業員		人			週休2日補正
			土木一般世話役		人			週休2日補正
			軽油 1.2号 ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油		L			
		計						ｺﾝｸﾘｰﾄはつり

第19号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		コンクリート	小型構造物 人力打設 24-12-25(20)(高炉)生コンクリート小型車割増無 一般養生 現場内小運搬有り					
			普通作業員		人			週休2日補正
			土木一般世話役		人			週休2日補正
			特殊作業員		人			週休2日補正
			生コンクリート 24-12-25(20)高炉(55%以下) 生コンクリート小型車割増無	1.060	m^3			第20号代価表
		計						コンクリート

第20号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		生コンクリート	24-12-25(20)高炉(55%以下) 生コンクリート小型車割増無					
			生コンクリート 24-12-25(20) 高炉 (55%以下)	1	m^3			
		計						生コンクリート

第21号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		型枠	化粧型枠 小型構造物					
			型枠工		人			週休2日補正
			普通作業員		人			週休2日補正
			土木一般世話役		人			週休2日補正
		計						型枠

第22号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		化粧型枠(材料費)	一般工事ﾋﾟｱｽ･ﾜﾝﾀﾞｰ共通					
			残存型枠 ﾋﾟｱｽ用組立部材(ｽﾃﾝﾎﾞﾙﾄﾌﾟﾚｰﾄ)	1	m^2			
		計						化粧型枠(材料費)

第23号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		コンクリート表面処理工 (ウォータージェット工)	300m2未満 制約無 夜間無 上向無 減額無(単価に含む)					
			コンクリート表面処理工(ウォータージェット工)[材工共]	1	m^2			
		計						コンクリート表面処理工 (ウォータージェット工)

第24号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		鉄筋工[市場単価]	各種 一般構造物 10t未満 制約無 夜間無 ﾄﾝﾈﾙ無 法面無 太径10%未満(補正無) 補正無(一般構造物) D13mm0.995kg/m					
			[小口]異形棒鋼 SD345 D13mm 0.995kg/m		t			
			鉄筋工 加工･組立[手間のみ] 一般構造物		t			
			諸雑費	1	式			調整金
		計						1000kg当たり
		計						1kg当たり 鉄筋工[市場単価]

第25号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		鉄筋工[市場単価]	各種 一般構造物 10t未満 制約無 夜間無 ﾄﾝﾈﾙ無 法面無 太径10%未満(補正無) 補正無(一般構造物) D16mm1.56kg/m					
			[小口]異形棒鋼 SD345 D16mm 1.56kg/m		t			
			鉄筋工 加工･組立[手間のみ] 一般構造物		t			
			諸雑費	1	式			調整金
		計						1000kg当たり
		計						1kg当たり 鉄筋工[市場単価]

第26号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		フレア溶接工	夜間無 制約無 V型溶接 下向き･横向き D13*D13					
			フレア溶接工 V型溶接 時間的制約 無 下向き･横向き D13×D13 機･労･材 昼間単価	1	箇所			
		計						フレア溶接工

第27号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		フレア溶接工	夜間無 制約無 V型溶接 下向き･横向き D16*D16					
			フレア溶接工 V型溶接 時間的制約 無 下向き･横向き D16×D16 機･労･材 昼間単価	1	箇所			
		計						フレア溶接工

第28号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		切梁・腹起し設置	火打ちﾌﾞﾛｯｸ無					
			土木一般世話役		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			とび工		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			溶接工		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			普通作業員		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ(作業料金)(長期割引あり) 25t吊 ｵﾍﾟﾚｰﾀ付 日極		台/日			週休2日補正
			諸雑費		%			設置 溶接機、 溶接棒、ｱｾﾁﾚﾝｶﾞｽ等
		計						10t当たり
		計						1t当たり 切梁・腹起し設置

第29号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		作業員(補助)	足場等仮設含む					
			普通作業員		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			足場工 単管足場 必要		掛㎡			第30号代価表
			諸雑費	1	式			調整金
		計						作業員(補助)

第30号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		足場工	単管足場 必要					
			土木一般世話役		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			とび工		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			普通作業員		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ(作業料金)(長期割引あり) 25t吊 ｵﾍﾟﾚｰﾀ付 日極		台/日			週休2日補正
			諸雑費		%			足場工仮設材等
		計						100掛㎡当たり
		計						1掛㎡当たり 足場工

第31号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		鋼床版現場溶接工 発動発電機	総延長4.3m t=12mm					
			橋りょう世話役		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			橋りょう特殊工		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			鋼床版現場溶接工機械器具損料 燃料費含む		共用日			
			消耗材料費 t=12mm		m			第32号代価表
			諸雑費		%			雑消耗材料、空気圧縮機、 溶接工具等
		計						100m当たり
		計						1m当たり 鋼床版現場溶接工 発動発電機

第32号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		消耗材料費	t=12mm					
			鋼床版現場溶接工消耗材料費 12mm	100	m			
		計						100m当たり
		計						1m当たり 消耗材料費

第33号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		コンクリートアンカー (樹脂カプセル)取付	M10					
			取付孔さく孔	100	本			第34号代価表
			アンカー取付	100	本			第35号代価表
		計						100本当たり
		計						1本当たり コンクリートアンカー (樹脂カプセル)取付

第34号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		取付孔さく孔						
			土木一般世話役		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			特殊作業員		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			普通作業員		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			発動発電機(賃料) 出力2kVA低騒音型		日			第4号単価表
			諸雑費		%			労務費・機械賃料 諸雑費
		計						100本当たり
		計						1本当たり 取付孔さく孔

第35号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		ｱﾝｶｰ取付						
			接着系ｶﾌﾟｾﾙ方式ｱﾝｶｰ HVU2 M12×110 12.9×135mm	100.000	本			
			全ﾈｼﾞﾎﾞﾙﾄ(N･W含む) φ20.0mm×L300mm	100.000	本			
			土木一般世話役		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			特殊作業員		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			諸雑費		%			労務費諸雑費
		計						100本当たり
		計						1本当たり ｱﾝｶｰ取付

第36号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		コンクリートアンカー (樹脂カプセル)取付	M16					
			取付孔さく孔	100	本			第34号代価表
			アンカー取付	100	本			第37号代価表
		計						100本当たり
		計						1本当たり コンクリートアンカー (樹脂カプセル)取付

第37号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		ｱﾝｶｰ取付						
			接着系ｶﾌﾟｾﾙ方式ｱﾝｶｰ HVU2 M16×125 16.9×132mm	100.000	本			
			全ﾈｼﾞﾎﾞﾙﾄ(N･W含む) φ20.0mm×L300mm	100.000	本			
			土木一般世話役		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			特殊作業員		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			諸雑費		%			労務費諸雑費
		計						100本当たり
		計						1本当たり ｱﾝｶｰ取付

第38号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		コンクリートアンカー (樹脂カプセル)取付	M22					
			取付孔さく孔	100	本			第34号代価表
			アンカー取付	100	本			第39号代価表
		計						100本当たり
		計						1本当たり コンクリートアンカー (樹脂カプセル)取付

第39号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		ｱﾝｶｰ取付						
			接着系ｶﾌﾟｾﾙ方式ｱﾝｶｰ HVU2 M24×210 25.7×210mm	100.000	本			
			全ﾈｼﾞﾎﾞﾙﾄ(N･W含む) φ20.0mm×L300mm	100.000	本			
			土木一般世話役		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			特殊作業員		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			諸雑費		%			労務費諸雑費
		計						100本当たり
		計						1本当たり ｱﾝｶｰ取付

第40号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		シール材						
			普通作業員		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			土木一般世話役		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
		計						シール材

第41号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		シール材(材料費)						
			弾性シール材	0.002	m^3			
		計						シール材(材料費)

第42号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		切梁・腹起し撤去	火打ちﾌﾞﾛｯｸ無					
			土木一般世話役		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			とび工		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			溶接工		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			普通作業員		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ(作業料金)(長期割引あり) 25t吊 ｵﾍﾟﾚｰﾀ付 日極		台/日			週休2日補正
			諸雑費		%			撤去 溶接機、 溶接棒、ｱｾﾁﾚﾝｶﾞｽ等
		計						10t当たり
		計						1t当たり 切梁・腹起し撤去

第43号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		桁材2次切断(ｶﾞｽ切断機)	部材厚:20mmまで					
			土木一般世話役		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			溶接工		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			普通作業員		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ(作業料金)(長期割引あり) 25t吊 ｵﾍﾟﾚｰﾀ付 日極		台/日			週休2日補正
			諸雑費		%			労務費諸雑費
		計						10m当たり
		計						1m当たり 桁材2次切断(ｶﾞｽ切断機)

第44号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		残水ポンプ排水工	（沈砂池へ排水）					
			ﾎﾟﾝﾌﾟ設置･撤去	1.000	日			第45号代価表
			ﾎﾟﾝﾌﾟ運転 排水量0m3/h以上120m3/h未満 揚程10m 発動 発電機 作業時排水	1.000	日			第46号代価表
			諸雑費	1	式			調整金
		計						残水ポンプ排水工

第45号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		ﾎﾟﾝﾌﾟ設置･撤去						
			土木一般世話役		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			特殊作業員		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			普通作業員		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			ﾊﾞｯｸﾎｳ(賃料) ﾊﾞｹｯﾄ容量･山積0.8(平積0.6)m3･吊能力2.9t		日			第1号単価表
			諸雑費	1	式			調整金
		計						ﾎﾟﾝﾌﾟ設置･撤去

第46号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		ﾎﾟﾝﾌﾟ運転	排水量0m3/h以上120m3/h未満 揚程10m 発動発電機 作業時排水					
			特殊作業員		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			工事用水中ﾓｰﾀﾎﾟﾝﾌﾟ(賃料) 径200mm11kW揚程10m		日			第2号単価表
			発動発電機(賃料) 出力45kVA低騒音・超低騒音		日			第3号単価表
			諸雑費		%			ﾎﾟﾝﾌﾟ配管材料の損料、 分電盤の賃料等
		計						ﾎﾟﾝﾌﾟ運転

第47号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		掘削	土砂 現場制約あり					
			普通作業員		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
		計						掘削

第48号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		人力運搬 (積込み~運搬~取卸し)	20m以下					
			普通作業員		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
		計						
		計						人力運搬 (積込み~運搬~取卸し)

第49号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		土砂等運搬	小規模 ﾊﾞｯｸﾎｳ山積0.13m3(平積0.1m3) 土砂(岩塊･玉石混り土含む) DID有り 24.0km以下 良好					
			ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ ｵﾝﾛｰﾄﾞ･ﾃﾞｨｰｾﾞﾙ･積載質量2t積級		供用日			
			運転手(一般)		人			週休2日補正 夜間(割増×1.5)
			軽油 小型ﾛｰﾘｰ･ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油 2~4KL積載車		L			
		計						土砂等運搬

第50号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		処分費						
			中間処理場委託料金 汚泥処理	100.000	m^3			
		計						100m^3当たり
		計						1m^3当たり 処分費

第51号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		鉄筋探査工	探査方向 下向き 深度200mm程度 距離10m					
			技師(A)(土木工事)		人			週休2日補正
			技師(B)(土木工事)		人			週休2日補正
			技師(C)(土木工事)		人			週休2日補正
			諸雑費		%			探査機器損料、 消耗品、用紙等
		計						鉄筋探査工

第52号代価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		鉄筋探査工	探査方向 横向き 深度200mm程度 距離10m					
			技師(A)(土木工事)		人			週休2日補正
			技師(B)(土木工事)		人			週休2日補正
			技師(C)(土木工事)		人			週休2日補正
			諸雑費		%			探査機器損料、 消耗品、用紙等
		計						鉄筋探査工

第1号単価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		ﾊﾞｯｸﾎｳ(賃料)	ﾊﾞｹｯﾄ容量･山積0.8(平積0.6)m3･吊能力2.9t					
			特殊運転手		人			週休2日補正
			軽油 小型ﾛｰﾘｰ･ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油 2~4KL積載車		L			
			ﾊﾞｯｸﾎｳ･ｸﾛｰﾗ型ｸﾚｰﾝ付(賃貸)(長期割引あり) ﾊﾞｹｯﾄ容量･山積0.8(平積0.6)m3･吊能力2.9t		台/日			週休2日補正
			諸雑費	1	式			調整金
		計						ﾊﾞｯｸﾎｳ(賃料)

第2号単価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		工事用水中ﾓｰﾀﾎﾟﾝﾌﾟ(賃料)	径200mm11kW揚程10m					
			水中ﾎﾟﾝﾌﾟ(賃貸)(長期割引あり) 径200mm 11kW 揚程10m		基/日			週休2日補正
		計						工事用水中ﾓｰﾀﾎﾟﾝﾌﾟ(賃料)

第3号単価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		発動発電機(賃料)	出力45kVA低騒音・超低騒音					
			軽油 小型ﾛｰﾘｰ・ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油 2~4KL積載車		L			
			ﾃﾞｨｰｾﾞﾙ発電機(賃貸)(長期割引あり) 出力45kVA 低騒音・超低騒音		基/日			週休2日補正
		計						発動発電機(賃料)

第4号単価表								
費目	工種	種別	細別　規格	数量	単位	単　　価	金額	摘　　要
		発動発電機(賃料)	出力2kVA低騒音型					
			ﾚｷﾞｭﾗｰｶﾞｿﾘﾝ ｽﾀﾝﾄﾞ		L			
			ｶﾞｿﾘﾝ発電機(賃貸)(長期割引あり) 出力2kVA 低騒音型		基/日			週休2日補正
		計						発動発電機(賃料)

芝川ポンプ場耐震補強工事

数 量 計 算 書（土木）

令和８年

埼　玉　県　　上　尾　市

耐震補強工

工　　種			単位	数　量	摘　　要
芝川ポンプ場					
耐震補強工					
	あと施工せん断補強工（梁）				下向き施工
	1F	鉄筋径D13　鉄筋長1140mm　削孔長1140mm	本	14.00	
		鉄筋径D16　鉄筋長1259mm　削孔長1259mm	本	16.00	鉄筋長・削孔長は平均値
	M1F	鉄筋径D13　鉄筋長640mm　削孔長640mm	本	14.00	
	B1F	鉄筋径D13　鉄筋長1374mm　削孔長1374mm	本	44.00	
	B2F	鉄筋径D25　鉄筋長1730mm　削孔長1730mm	本	166.00	
		鉄筋径D25　鉄筋長2730mm　削孔長2730mm	本	32.00	
		鉄筋径D29　鉄筋長1730mm　削孔長1730mm	本	72.00	
	あと施工せん断補強工（柱）				横向き施工
	B1F	鉄筋径D22　鉄筋長1430mm　削孔長1430mm	本	8.00	
	B2F	鉄筋径D16　鉄筋長1430mm　削孔長1430mm	本	6.00	
	あと施工せん断補強工（壁）				横向き施工
	B1F	鉄筋径D22　鉄筋長730mm　削孔長730mm	本	154.00	
	B2F	鉄筋径D22　鉄筋長630mm　削孔長630mm	本	225.00	
		鉄筋径D22　鉄筋長611mm　削孔長611mm	本	59.00	
		鉄筋径D22　鉄筋長730mm　削孔長730mm	本	78.00	
	コンクリート殻運搬・処分工				
		無筋構造物	m^3	1.31	
			t	3.02	
	水替え工				
		残水ポンプ排水工	回	4.00	
	鉄筋探査工				
		下向き	m^2	27.79	
		横向き	m^2	98.59	
	足場工				
		単管足場	掛m^2	23.29	
		単管傾斜足場	掛m^2	1.20	

耐震補強工

工　　種	単位	数　量	摘　　要
撤去工			
コンクリートとりこわし工			
無筋構造物	m^3	1.06	
コンクリートはつり工			
t=3cm以下	m^2	4.75	
コンクリート殻運搬・処分工			
無筋構造物	m^3	1.20	
	t	2.76	
復旧工			
コンクリート工			
無筋コンクリート	m^3	1.06	
型枠工			
一般型枠	m^2	2.46	
モルタル金ゴテ仕上げ工			
床面	m^2	4.75	

種　　別	略　図　計　算　式		数　　量
耐震補強工			
あと施工せん断補強工			
①梁			
1F　Y1通り　X1-X2	鉄筋径D13　鉄筋長1140mm　削孔長1140mm　下向き		
	N ＝ 7.00×2	＝	14.00　本
コンクリート殻処分 削孔径φ30mm	V ＝ 0.030^2×π/4×1.140×14	＝	0.011　m^3
1F　X2通り　Y0-Y2	鉄筋径D16　鉄筋長1259mm(平均値)　削孔長1259mm(平均値)　下向き		
	N ＝ 8.00×2	＝	16.00　本
コンクリート殻処分 削孔径φ30mm	V ＝ 0.030^2×π/4×1.259×16	＝	0.014　m^3
M1F　Y1通り　X5-X6	鉄筋径D13　鉄筋長640mm　削孔長640mm　下向き		
	N ＝ 7.00×2	＝	14.00　本
コンクリート殻処分 削孔径φ30mm	V ＝ 0.030^2×π/4×0.640×14	＝	0.006　m^3
B1F　X2通り　Y1-Y2	鉄筋径D13　鉄筋長1374mm　削孔長1374mm　下向き		
	N ＝ 11.00×2	＝	22.00　本
コンクリート殻処分 削孔径φ30mm	V ＝ 0.030^2×π/4×1.374×22	＝	0.021　m^3
B1F　X4通り　Y1-Y2	鉄筋径D13　鉄筋長1374mm　削孔長1374mm　下向き		
	N ＝ 11.00×2	＝	22.00　本
コンクリート殻処分 削孔径φ30mm	V ＝ 0.030^2×π/4×1.374×22	＝	0.021　m^3

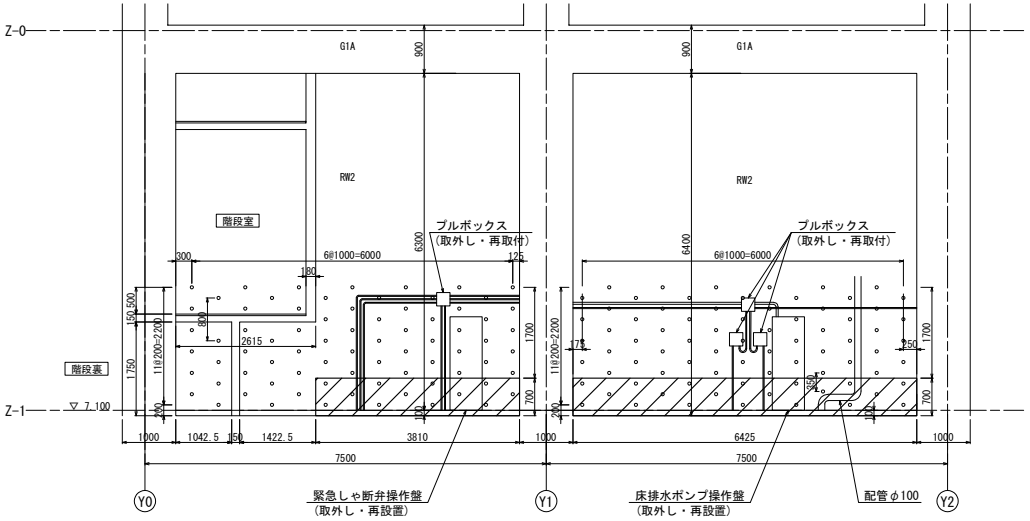
種　　別	略　図　計　算　式		数　　量
B2F　X2通り　Y0-Y1	鉄筋径D25　鉄筋長1730mm　削孔長1730mm　下向き		
	N ＝ 13.00×3	＝	39.00　本
コンクリート殻処分 削孔径φ46mm	V ＝ 0.046^2×π/4×1.730×39	＝	0.112　m^3
B2F　X3通り　Y0-Y1	鉄筋径D25　鉄筋長1730mm　削孔長1730mm　下向き		
	N ＝ 13.00×4	＝	52.00　本
コンクリート殻処分 削孔径φ46mm	V ＝ 0.046^2×π/4×1.730×52	＝	0.150　m^3
B2F　X2通り　Y1-Y2	鉄筋径D25　鉄筋長1730mm　削孔長1730mm　下向き		
	N ＝ 17.00×3+12.00×2	＝	75.00　本
コンクリート殻処分 削孔径φ46mm	V ＝ 0.046^2×π/4×1.730×75	＝	0.216　m^3
B2F　X4通り　Y1-Y2	鉄筋径D25　鉄筋長2730mm　削孔長2730mm　下向き		
	N ＝ 8.00×2×2	＝	32.00　本
コンクリート殻処分 削孔径φ46mm	V ＝ 0.046^2×π/4×2.730×32	＝	0.145　m^3
B2F　Y1通り　X5-X6	鉄筋径D29　鉄筋長1730mm　削孔長1730mm　下向き		
	N ＝ 15.00×4+6.00×2	＝	72.00　本
コンクリート殻処分 削孔径φ50mm	V ＝ 0.050^2×π/4×1.730×72	＝	0.245　m^3

種　　別	略　図　計　算　式		数　　量
②柱 B1F　Y2-X3	鉄筋径D22　鉄筋長1430mm　削孔長1430mm　横向き		
	N ＝ 8.00	＝	8.00　本
コンクリート殻処分 削孔径φ36mm	V ＝ 0.036^2×π/4×1.430×8	＝	0.012　m^3
B2F　Y2-X4	鉄筋径D16　鉄筋長1430mm　削孔長1430mm　横向き		
	N ＝ 3.00×2	＝	6.00　本
コンクリート殻処分 削孔径φ30mm	V ＝ 0.030^2×π/4×1.430×6	＝	0.006　m^3
③壁 B1F　X0通り　Y0-Y2	鉄筋径D22　鉄筋長730mm　削孔長730mm　横向き		
	N ＝ 6.00×13.00×2-2	＝	154.00　本
コンクリート殻処分 削孔径φ36mm	V ＝ 0.036^2×π/4×0.730×154	＝	0.114　m^3
B2F　Y2通り　X4-X6	鉄筋径D22　鉄筋長630mm　削孔長630mm　横向き		
一般部	N ＝ 7.00×12.00-9+4.00×12.00	＝	123.00　本
コンクリート殻処分 削孔径φ36mm	V ＝ 0.036^2×π/4×0.630×123	＝	0.079　m^3
	鉄筋径D22　鉄筋長611mm　削孔長611mm　横向き		
横端部	N ＝ 5.00×3.00×2-1	＝	29.00　本
コンクリート殻処分 削孔径φ36mm	V ＝ 0.036^2×π/4×0.611×29	＝	0.018　m^3

種　　別	略　図　計　算　式		数　　量
B2F　Y0通り　X4-X6	鉄筋径D22　鉄筋長630mm　削孔長630mm　横向き		
一般部	N ＝ 7.00×10.00+4.00×12.00-8.00×2.00	＝	102.00　本
コンクリート殻処分 削孔径φ36mm	V ＝ 0.036^2×π/4×0.630×102	＝	0.065　m^3
	鉄筋径D22　鉄筋長611mm　削孔長611mm　横向き		
横端部	N ＝ 5.00×3.00×2	＝	30.00　本
コンクリート殻処分 削孔径φ36mm	V ＝ 0.036^2×π/4×0.611×30	＝	0.019　m^3
B2F　X6通り　Y0-Y2	鉄筋径D22　鉄筋長730mm　削孔長730mm　横向き		
	N ＝ 4.00×13.00×2-2.00×13.00	＝	78.00　本
コンクリート殻処分 削孔径φ36mm	V ＝ 0.036^2×π/4×0.730×78	＝	0.058　m^3
コンクリート殻処分 合計	無筋構造物	ΣV ＝	1.312　m^3
	W ＝ 1.312×2.30	＝	3.018　t
水替え工 残水ポンプ排水工	揚程　10m B2F水張部(4箇所)		
	N ＝ 4.0	＝	4.00　回

種　　別	略　図　計　算　式	数　量
鉄筋探査工		
下向き		
①梁		
1F　Y1通り　X1-X2	A ＝ 0.40×1.40×2 ＝	1.12 ㎡
1F　X2通り　Y0-Y2	A ＝ 0.30×(1.70+0.95+0.65) ＝	0.99 ㎡
M1F　Y1通り　X5-X6	A ＝ 0.35×1.40×2 ＝	0.98 ㎡
B1F　X2通り　Y1-Y2	A ＝ 0.50×1.70×2-0.15×0.35 ＝	1.65 ㎡
B1F　X4通り　Y1-Y2	A ＝ 0.50×1.70×2-0.35×0.50 ＝	1.53 ㎡
B2F　X2通り　Y0-Y1	A ＝ 1.10×(1.20+1.45) ＝	2.92 ㎡
B2F　X3通り　Y0-Y1	A ＝ 1.10×(1.20+1.45) ＝	2.92 ㎡
B2F　X2通り　Y1-Y2	A ＝ (0.40+0.25)×2×5.925 ＝	7.70 ㎡
B2F　X4通り　Y1-Y2	A ＝ (0.40+0.25)×2×(1.50+0.25)×2 ＝	4.55 ㎡
B2F　Y1通り　X5-X6	A ＝ 0.775×(4.275+0.15) ＝	3.43 ㎡
	合計＝	27.79 ㎡
横向き		
①柱		
B1F　Y2-X3	A ＝ 0.25×(0.15+1.40+0.25) ＝	0.45 ㎡
B2F　Y2-X4	A ＝ (0.16+0.09)×(0.15+0.40+0.25) ＝	0.20 ㎡
②壁		
B1F　X0通り　Y0-Y2	A ＝ (0.20+2.20+0.25)×6.425×2-0.15×(1.75+2.615)-0.18×0.50 ＝	33.31 ㎡
B2F　Y2通り　X4-X6	A ＝ 5.00×3.00-1.00×1.00-1.50×1.00/2+4.925×(1.40+1.67)-(1.125-0.25×2)×(1.57-0.25)-0.18×(1.565+0.335+0.25×2)-0.20×0.25×2 ＝	27.01 ㎡
B2F　Y0通り　X4-X6	A ＝ (2.50+1.50)×3.00+4.925×(1.40+1.67)-3.195×0.93-(1.125-0.25×2)×(1.57-0.25) ＝	23.32 ㎡
B2F　X6通り　Y0-Y2	A ＝ (0.20+1.40)×(6.425+3.91+2.335)-0.93×6.425 ＝	14.30 ㎡
	合計＝	98.59 ㎡
足場工		
単管足場		
①壁		
B1F　X0通り　Y0-Y2	A ＝ 0.70×(3.81+6.425) ＝	7.16 掛㎡
B2F　Y2通り　X4-X6	A ＝ 0.30×(1.00+1.00)+1.30×2.50+1.37×1.90 ＝	6.45 掛㎡
B2F　Y0通り　X4-X6	A ＝ 1.30×(2.50+1.50)+0.44×1.90×2+0.93×(1.50+0.23)+0.80×1.50 ＝	9.68 掛㎡
	合計＝	23.29 掛㎡
単管傾斜足場		
①壁		
B2F　Y2通り　X4-X6	A ＝ (0.30+1.30)×1.50/2 ＝	1.20 掛㎡

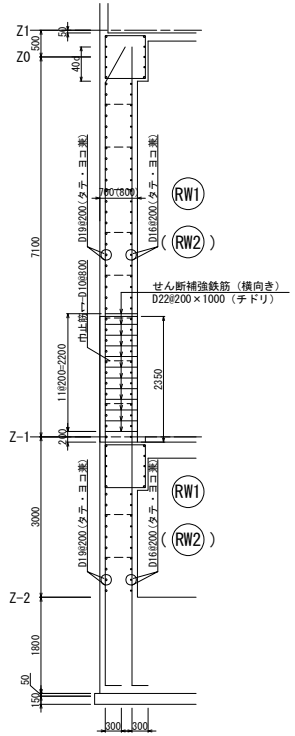
芝川ポンプ場足場工根拠図(1)



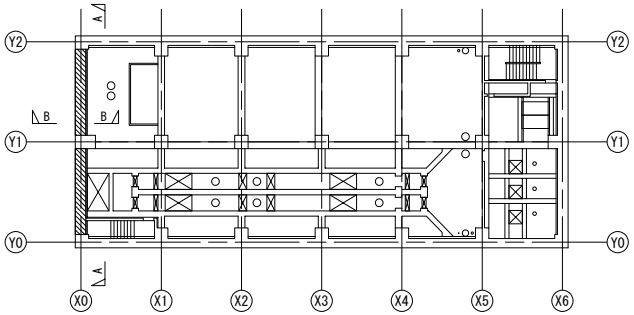
A-A断面図 1/50

地下壁リスト

[注記]・( )内寸法はRW2を示す。



B-B断面図 1/50



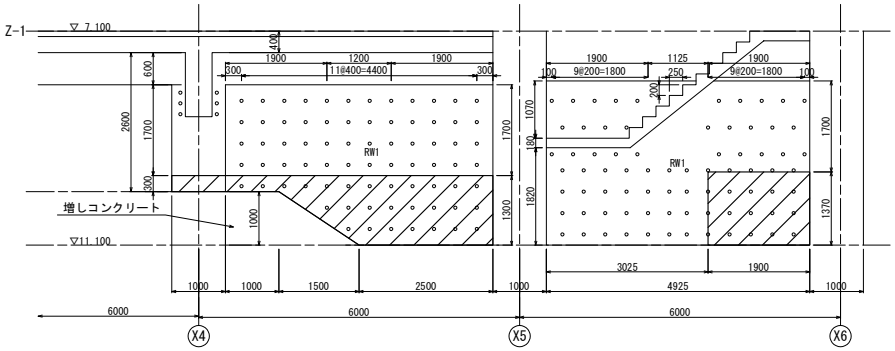
位置図
(B1F平面図)

凡例

：足場範囲

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	芝川ポンプ場足場工根拠図(1)		
作成年月日	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	
会社名	株式会社　日建技術コンサルタント		
事業者名	埼玉県　上尾市		

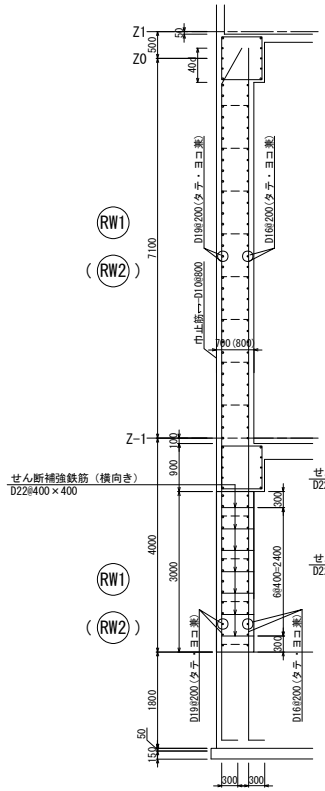
芝川ポンプ場足場工根拠図(2)



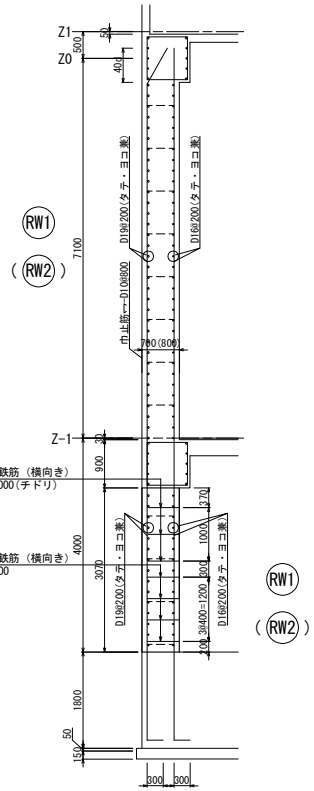
A-A断面図 1/50

地下壁リスト

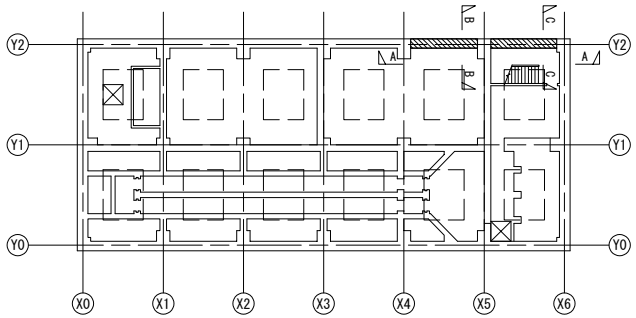
［注記］・（ ）内寸法はRW2を示す。



B-B断面図 1/50



C-C断面図 1/50



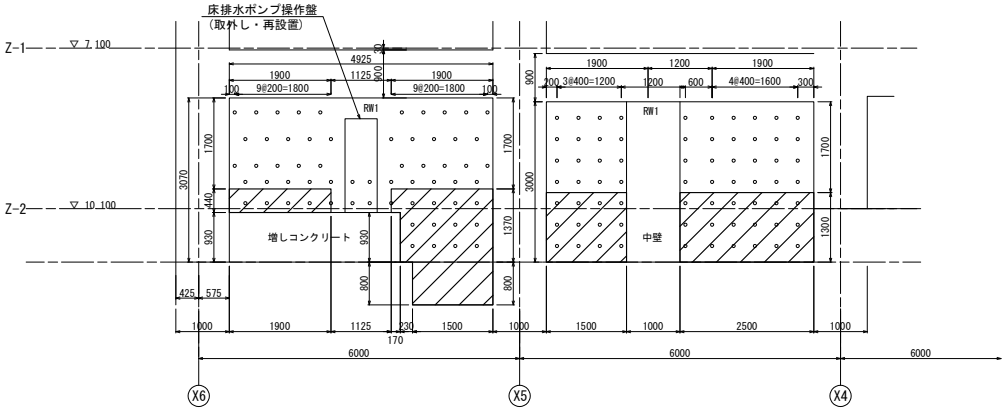
位置図
(B2F平面図)

凡例

：足場範囲

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	芝川ポンプ場足場工根拠図　壁(2)		
作成年月日	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	
会社名	株式会社　日建技術コンサルタント		
事業者名	埼玉県　上尾市		

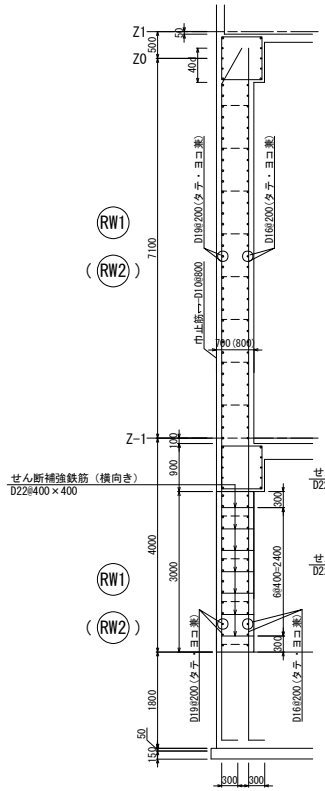
芝川ポンプ場足場工根拠図(3)



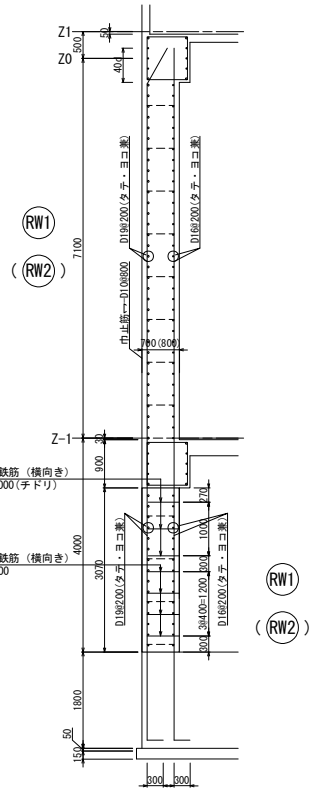
A-A断面図 1/50

地下壁リスト

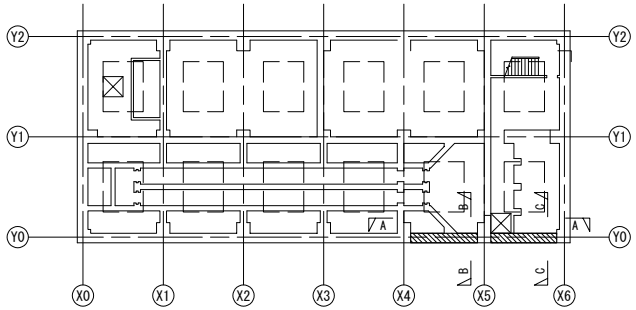
[注記]・( )内寸法はRW2を示す。



B-B断面図 1/50



C-C断面図 1/50



位置図
(B2F平面図)

凡例

：足場範囲

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	芝川ポンプ場足場工根拠図(3)		
作成年月日	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	
会社名	株式会社　日建技術コンサルタント		
事業者名	埼玉県　上尾市		

種　　別	略　図　計　算　式	数　量
撤去工		
コンクリートとりこわし工	無筋構造物	
①梁		
1F　Y1通り　X1-X2	V ＝ 0.40×1.40×0.10×2+	
	((0.30+0.225)×0.40)-(0.30×0.20)×0.40 ＝	0.30 m³
1F　X2通り　Y1-Y2	V ＝ 0.30×(0.95×0.30+0.65×0.10) ＝	0.11 m³
B1F　X2通り　Y1-Y2	V ＝ 0.50×(1.70+1.55)×0.10-0.15×0.35×0.10 ＝	0.16 m³
B1F　X4通り　Y1-Y2	V ＝ 0.50×(1.70+1.55)×0.10-0.35×0.50×0.10 ＝	0.15 m³
B2F　X2通り　Y0-Y1	V ＝ 1.10×(0.20×0.30/2×2+((0.20+0.16)×2+0.24)×0.10)	
	＝	0.17 m³
B2F　X3通り　Y0-Y1	V ＝ 1.10×(0.20×0.30/2×2+((0.20+0.16)×2+0.24)×0.10)	
	＝	0.17 m³
	合計＝	1.06 m³
コンクリートはつり工	t=3cm以下	
①梁		
1F　X2通り　Y0-Y1	A ＝ 0.30×1.70 ＝	0.51 m²
M1F　Y1通り　X5-X6	A ＝ 0.35×(1.25+1.40) ＝	0.93 m²
B2F　Y1通り　X5-X6	A ＝ 0.775×4.275 ＝	3.31 m²
	合計＝	4.75 m²
コンクリート殻処分工	無筋構造物	
	V ＝ 1.06+4.75×0.03 ＝	1.20 m³
	W ＝ 1.20×2.30 ＝	2.76 t
復旧工		
コンクリート工	無筋コンクリート	
	コンクリートとりこわし工と同量	
	V ＝ ＝	1.06 m³
型枠工	一般型枠	
①梁		
1F　Y1通り　X1-X2	A ＝ 0.40×0.40 ＝	0.16 m²
B1F　X2通り　Y1-Y2	A ＝ 0.50×0.10 ＝	0.05 m²
B1F　X4通り　Y1-Y2	A ＝ 0.50×0.10 ＝	0.05 m²
B2F　X2通り　Y0-Y1	A ＝ 1.10×0.10×4+1.10×0.30×2 ＝	1.10 m²
B2F　X3通り　Y0-Y1	A ＝ 1.10×0.10×4+1.10×0.30×2 ＝	1.10 m²
	合計＝	2.46 m²
モルタル金ゴテ仕上げ工	床面	
	コンクリートはつり工と同量	
	A ＝ ＝	4.75 m²

仮設開口設置閉塞工

工　　種			単位	数　量	摘　　要
芝川ポンプ場					
開口設置工					
コンクリート削孔工					
横向き　φ50　t=150mm			孔	4	開口E
下向き　φ50　t=300mm			孔	18	開口A～D
ワイヤーソーイング工					
低配筋（鉄筋比率0.4%未満）			㎡	0.60	開口E
中配筋（鉄筋比率0.8%未満）			㎡	5.55	開口A～D
コンクリートとりこわし工					
鉄筋構造物			㎥	1.43	
無筋構造物			㎥	0.62	
コンクリート殻運搬・処分工			t	4.93	合計(鉄筋+無筋)
鉄筋構造物			㎥	1.43	
			t	3.50	
無筋構造物			㎥	0.62	
			t	1.43	
開口閉塞工					
コンクリートはつり工		t=100mm	㎡	6.12	
		t=30～60mm	㎡	12.24	積算用数量(×2)
コンクリート殻運搬・処分工					
無筋構造物			㎥	0.61	
			t	1.40	
コンクリート工					
鉄筋コンクリート			㎥	2.01	
無筋コンクリート			㎥	0.62	
無収縮モルタル注入工		Fc=30	㎥	0.04	材工共
型枠工					
一般型枠			㎡	1.44	
化粧型枠			㎡	1.44	
コンクリート表面処理工			㎡	6.99	
鉄筋工					
本体配筋		SD345　D13	kg	22.00	
		SD345　D16	kg	231.00	
あと施工アンカー		D16用　横向き	本	16	削孔長L=170mm
フレア溶接		D13	箇所	40	
		D16	箇所	236	

進入用開口設置閉塞工

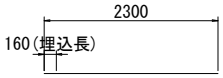
工　　種	単位	数　量	摘　　要
仮設材			
H形鋼(SS400) 広幅			
200×200×8×12mm	kg	613.77	49.9kg/m
受枠　ステンレス鋼			
熱間圧延鋼板(SUS304)	kg	658.82	t=10mm
吊材　ワイヤーロープ1号 A種C/L			
6×7　径20mm	m	10.92	

種　　別	略　図　計　算　式	数　量
開口設置工		
コンクリート削孔工	横向き　φ50　t=150mm	
	N ＝ ＝	4 孔
	下向き　φ50　t=300mm	
	N ＝ 4×3+6 ＝	18 孔
ワイヤーソーイング工	低配筋（鉄筋比率0.4%未満）	
	A ＝ 1.00×0.15×4 ＝	0.60 m^2
	中配筋（鉄筋比率0.8%未満）	
	A ＝ 1.00×0.30×4×3+(2.50×2+0.50×3)×0.30 ＝	5.55 m^2
コンクリートとりこわし工		
	鉄筋構造物 合計＝	1.43 m^3
	V ＝ 1.00×1.00×0.15 ＝	0.15 m^3
	V ＝ 1.00×1.00×0.30×3 ＝	0.90 m^3
	V ＝ 2.50×0.50×0.30 ＝	0.38 m^3
	無筋構造物 合計＝	0.62 m^3
	V ＝ 1.20×1.20×0.10×3 ＝	0.43 m^3
	V ＝ 2.70×0.70×0.10 ＝	0.19 m^3
コンクリート殻運搬・処分工		
	鉄筋構造物 ＝	1.43 m^3
	W ＝ 1.43×2.45 ＝	3.50 t
	無筋構造物 ＝	0.62 m^3
	W ＝ 0.62×2.30 ＝	1.43 t

種　　別	略　図　計　算　式		数　　量
開口閉塞工			
コンクリートはつり工　t=100mm		合計＝	6.12　㎡
	A　＝(1.00+1.20)×0.15×2	＝	0.66　㎡
	A　＝(1.00+1.20)×0.30×2×3	＝	3.96　㎡
	A　＝2.50×2×0.30	＝	1.50　㎡
コンクリート殻運搬・処分工			
	無筋構造物		
	V　＝6.12×0.10	＝	0.61　㎥
	W　＝0.61×2.30	＝	1.40　t
コンクリート工	鉄筋コンクリート	合計＝	2.01　㎥
	V　＝1.20×(1.20-0.20)×0.15	＝	0.18　㎥
	V　＝1.20×1.20×0.30×3	＝	1.30　㎥
	V　＝2.50×0.70×0.30	＝	0.53　㎥
	無筋コンクリート	合計＝	0.62　㎥
	V　＝1.20×1.20×0.10×3	＝	0.43　㎥
	V　＝2.70×0.70×0.10	＝	0.19　㎥
無収縮モルタル注入工　Fc=30			
	V　＝1.20×0.20×0.15	＝	0.04　㎥
型枠工	一般型枠		
	A　＝1.20×1.20	＝	1.44　㎡
	化粧型枠		
	A　＝1.20×1.20	＝	1.44　㎡
コンクリート表面処理工		合計＝	6.99　㎡
	A　＝1.20×0.15×3	＝	0.54　㎡
	A　＝1.20×0.30×4×3	＝	4.32　㎡
	A　＝(2.50×2+0.70×3)×0.30	＝	2.13　㎡

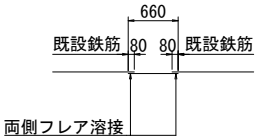
・　・

種　　別	略　図　計　算　式		数　　量
鉄筋工(SD345)	鉄筋加工表より		
	D13	＝	22.00　kg
	D16	＝	231.00　kg
	あと施工アンカー		
	D16用　横向き　削孔長L=170mm		
	8×2		16　本
	フレア溶接		
	D13　20×2		40　箇所
	D16　(34+84)×2		236　箇所
仮設材			
H形鋼(SS400) 広幅			
200×200×8×12mm	単位重量：49.9kg/m		
支持材	W ＝ (1.20×2+2.50×2)×49.9	＝	369.26　kg
吊鋼材	W ＝ (1.60+1.10×3)×49.9	＝	244.51　kg
		合計＝	613.77　kg
受枠　ステンレス鋼 熱間圧延鋼板(SUS304)(t=10mm)			
	単位重量：79.28kg/㎡		
	A ＝ 1.40×1.40×3+2.70×0.90	＝	8.31　㎡
	W ＝ 8.31×79.28	＝	658.82　kg
吊材　ワイヤーロープ1号　A種C/L　(6×7　径20mm)			
	L ＝ (0.20＋(0.20×2＋0.40＋0.01)×2)×(3+1×3)	＝	10.92　m

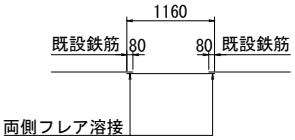


Ⓢ1 8-D16x2300
(横向きあと施工アンカー)

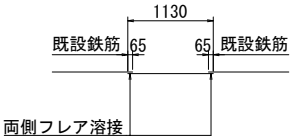
Ⓢ2 8-D16x1160
(横向きあと施工アンカー)



Ⓢ3 34-D16x660



Ⓢ4 84-D16x1160



Ⓢ5 20-D13x1130

鉄筋加工表

部　材	鉄筋番号	鉄筋径	鉄筋長 (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質　量 (kg)	摘　要
開口閉塞	S 1	D16	2300	8	1.56	3.59	29	横向きあと施工アンカー
	2	D16	1160	8	1.56	1.81	15	横向きあと施工アンカー
	3	D16	660	34	1.56	1.03	35	
	4	D16	1160	84	1.56	1.81	152	
	5	D13	1130	20	0.995	1.12	22	
							253	kg

本体配筋	SD345	質量	
	D16	231	kg
	D13	22	kg
	合　計	253	kg

あと施工アンカー

	向き	本数	
D16	横向き	16	本

仮壁設置撤去工

工　　種	単位	数　量	摘　　要
芝川ポンプ場			
仮壁設置工			
切梁腹起し設置工	t	2.16	
H形鋼(SS400) 広幅			
125×125×6.5×9mm	kg	30.21	23.6kg/m
200×200×8×12mm	kg	439.62	49.9kg/m
溝形鋼(SS400) 大形			
6.5×75×150mm	kg	1,012.77	18.6kg/m
7.5×80×200mm	kg	66.17	24.6kg/m
等辺山形鋼(SS400) 中形			
10×100×100mm	kg	30.10	14.9kg/m
鋼板　厚板(SPHC又は無規格)			
PL-6 (6.0×914×1829)	kg	8.48	47.1kg/㎡
PL-9 (9～12×914×1829)	kg	2.21	70.6kg/㎡
PL-12 (9～12×914×1829)	kg	102.69	94.2kg/㎡
PL-30 (16～25×914×1829)	kg	24.73	235.5kg/㎡
現場溶接工　t=12mm	m	4.26	
あと施工アンカー工　M10　L=100	本	2.0	
M16　L=160	本	14.0	
M22　L=220	本	4.0	
無収縮モルタル注入工　Fc=30	㎥	0.01	材工共
シール材　弾性シール材	m	2.03	
仮設足場工　単管足場	掛㎡	18.6	
仮壁撤去工			
切梁腹起し撤去工	t	2.16	
鉄スクラップ処分　ヘビーH1	t	1.55	
桁材2次切断工　t=20mm以下	m	4.28	ガス切断機
仮設足場工　単管足場	掛㎡	18.6	
水替え工			
残水ポンプ排水工　揚程　10m	回	8.0	設置時(5回)+撤去時(3回)
土砂浚渫工			
掘削工　人力施工	㎥	2.9	
発生土処分工	㎥	2.9	

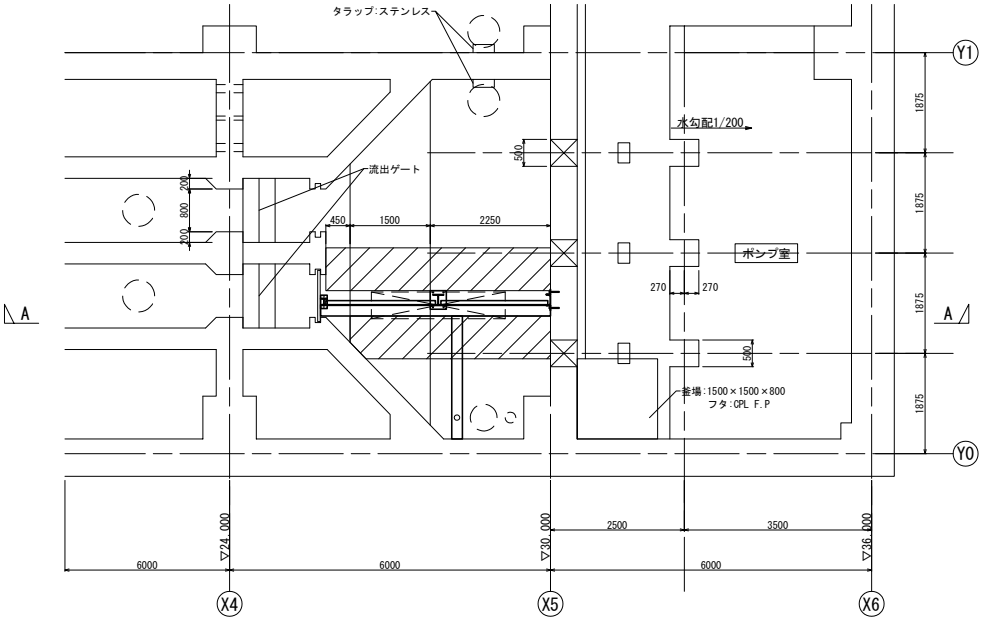
種　　別	略　図　計　算　式		数　　量
仮壁設置工			
切梁腹起し設置工			
材料			
H形鋼(SS400) 広幅	125×125×6.5×9mm　23.6kg/m		
	W ＝ 1.28×23.6	＝	30.21 kg
	200×200×8×12mm　49.9kg/m		
	W ＝ (2.66+4.30+1.85)×49.9	＝	439.62 kg
溝形鋼(SS400) 大形	6.5×75×150mm　18.6kg/m		
	W ＝ (2.00×18+2.05×9)×18.6	＝	1012.77 kg
	7.5×80×200mm　24.6kg/m		
	W ＝ 2.69×24.6	＝	66.17 kg
等辺山形鋼(SS400) 中形	10×100×100mm　14.9kg/m		
	W ＝ 2.02×14.9	＝	30.10 kg
鋼板			
厚板(SPHC又は無規格)	PL-6 (6.0×914×1829)　47.1kg/㎡		
	W ＝ 0.18×0.10×10×47.1	＝	8.48 kg
	PL-9 (9～12×914×1829)　70.6kg/㎡		
	W ＝ 0.125×0.25×70.6	＝	2.21 kg
	PL-12 (9～12×914×1829)　94.2kg/㎡		
	W ＝ ((1.528+0.885)/2×0.60+(0.885+0.060)/2×0.775)×94.2	＝	102.69 kg
	PL-30 (16～25×914×1829)　235.5kg/㎡		
	W ＝ 0.35×0.30×235.5	＝	24.73 kg
		合計＝	1,716.98 kg
	副部材(A)：主部材×0.22、副部材(B)：主部材×0.04		
	W ＝ 1716.98×1.26/1000	＝	2.16 t

・　・

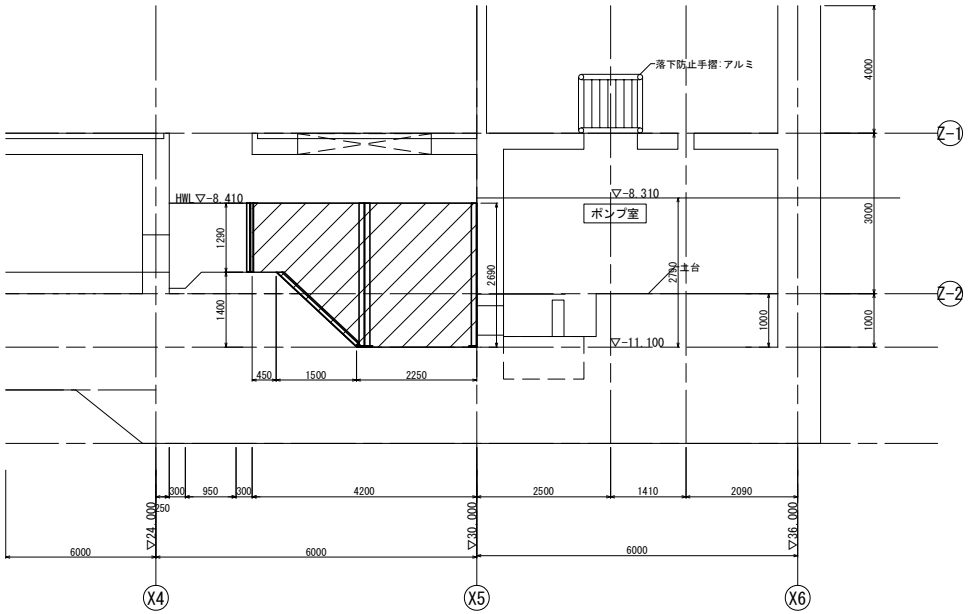
種　　別	略　図　計　算　式		数　　量
現場溶接工	鋼板t=12mm　隅肉溶接		
	L ＝ 2.008+1.37+0.885	＝	4.26 m
あと施工アンカー工	M10　L=100		
	N ＝ 2.00	＝	2.00 本
	M16　L=160		
	N ＝ 10+4	＝	14.00 本
	M22　L=220		
	N ＝ 4.00	＝	4.00 本
無収縮モルタル注入工	Fc=30		
	V ＝ 1.80×0.20×0.03	＝	0.01 m^3
シール材	弾性シール材　厚10mm		
	L ＝ 2.025	＝	2.03 m
仮設足場工	単管足場（止水壁両側に配置する）		
	A ＝ (2.69×2.25+(1.29+2.69)/2×1.50)×2+1.29×0.45	＝	18.6 掛m^2

種　　別	略　図　計　算　式	数　量
仮壁撤去		
切梁腹起し撤去工	W ＝ 1716.98×1.26/1000 ＝	2.16 t
鉄スクラップ処分 ヘビーH1	H形鋼　125×125×6.5×9mm　23.6kg/m	
	W ＝ 1.28×23.6/1000 ＝	0.03 t
	H形鋼　200×200×8×12mm　49.9kg/m	
	W ＝ (2.66+4.30+1.85)×49.9/1000 ＝	0.44 t
	溝形鋼　150×75×6.5×10　18.6kg/m	
	W ＝ (2.00×18+2.05×9)×18.6/1000 ＝	1.01 t
	溝形鋼　200×80×7.5×11　24.6kg/m	
	W ＝ 2.69×24.6/1000 ＝	0.07 t
	PL-6　180×100	
	合計＝	1.55 t
桁材2次切断工	t=20ｍｍ以下	
	L ＝ 2.015+1.375+0.885 ＝	4.28 m
仮設足場工	単管足場（止水壁両側に配置する）	
	A ＝ (2.69×2.25+(1.29+2.69)/2×1.50)×2+1.29×0.45 ＝	18.6 掛㎡
水替え工		
残水ポンプ排水工	揚程　10m 設置時(5回)+撤去時(3回)	
	N ＝ 5.0+3.0 ＝	8.00 回
土砂浚渫工		
掘削工	人力施工（ポンプ井内に20cm堆積と仮定する）	
	V ＝ (2.25×6.725-0.50×0.80-0.04×0.04/2-0.26×0.25/2)×0.20 ＝	2.9 ㎥
発生土処分工	V ＝	2.9 ㎥

芝川ポンプ場足場工根拠図(4)



地下2階平面図 1/50



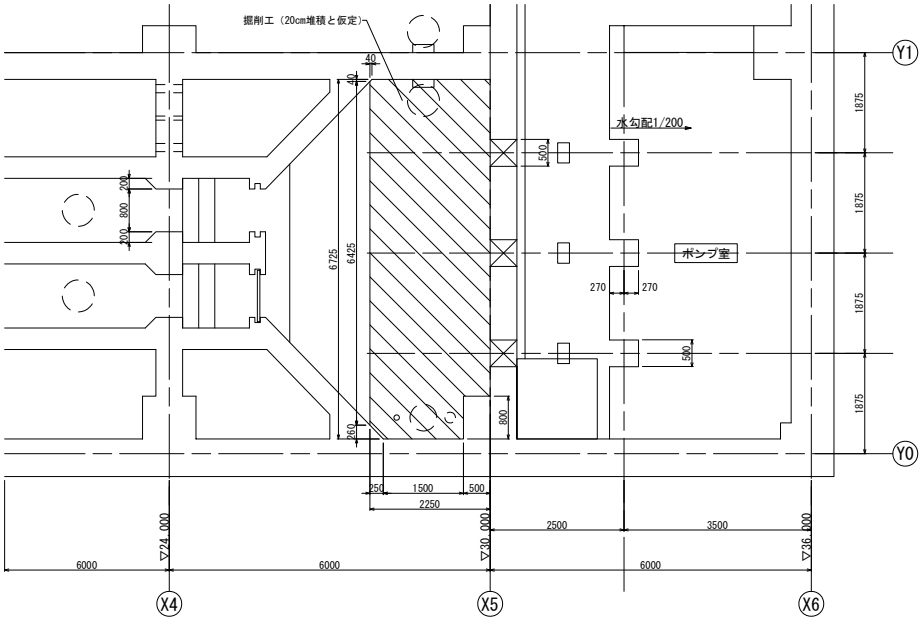
A-A断面図 1/50

凡例

:足場範囲

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	芝川ポンプ場足場工根拠図(4)		
作成年月日	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	
会社名	株式会社　日建技術コンサルタント		
事業者名	埼玉県　上尾市		

芝川ポンプ場土砂浚渫工根拠図



地下2階平面図 1/50

凡例

：掘削工範囲

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	芝川ポンプ場土砂浚渫工根拠図		
作成年月日	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	
会社名	株式会社　日建技術コンサルタント		
事業者名	埼玉県　上尾市		

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
直接工事費	建築工事							
		耐震補強等工事		1	式			建築工事小計より
		別紙明細書		1	式			別紙明細書より
	計							

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
直接工事費				1	式			
	共通仮設費率							改修建築工事
	共通仮設費			1	式			千円未満切り捨て
純工事費	（直接工事費＋共通仮設費）			1	式			
	現場管理費率							改修建築工事
	完全週休2日（土日）補正＝現場管理費率×1.01							
	現場管理費			1	式			千円未満切り捨て
工事原価	（純工事費＋現場管理費）			1	式			
	一般管理費等率							建築工事
	一般管理費等			1	式			円未満切り捨て
	一般管理費等			1	式			万円未満調整後
工事価格	（工事原価＋一般管理費等）			1	式			万円未満切り捨て
	消費税相当額			10	%			
	計							

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
建築工事	直接仮設工事			1	式			
	配筋工事			1	式			
	型枠工事			1	式			
	コンクリート工事			1	式			
	防水工事			1	式			
	木工事			1	式			
	金属工事			1	式			
	ガラス工事			1	式			
	左官工事			1	式			
	塗装工事			1	式			
	内装工事			1	式			
	ユニット他工事			1	式			
	撤去工事			1	式			
	発生材処分			1	式			

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
	建築工事小計							

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
	直接仮設工事	墨出し	躯体　RC	73.9	延m2			
	直接仮設工事	清掃跡片付け		131.6	延m2			
	直接仮設工事	周囲養生	仕上用	119.9	延m2			
	直接仮設工事	枠組本足場手摺先行w600	耐震壁施工用3ヶ月	135.1	架m2			
	直接仮設工事	枠組本足場手摺先行ｗ600	耐震壁施工用1ヶ月	146.9	架m2			
	直接仮設工事	床養生シート張り	作業員通路用（2重張り）	30.8	延m2			
	直接仮設工事	枠組本足場手摺先行w900	作業員外部通路用4ヶ月	29.2	架m2			
	直接仮設工事	脚立足場	内装改修室用	16.1	延m2			
	直接仮設工事	配線ケーブル養生	操作室床ピット内（型枠合板）	1.2	m2			
	計							

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
	配筋工事	鉄筋D10（所要数量）	所要数量＝設計数量 1469.8kg×104%）	1,529.0	kg			
	配筋工事	鉄筋D13（所要数量）	所要数量＝設計数量 340.9kg×104%）	355.0	kg			
	配筋工事	スパイラル筋75		18.0	m			
	配筋工事	スパイラル筋100		143.6	m			
	配筋工事	スパイラル筋200		24.1	m			
	配筋工事	鉄筋加工手間		2.0	t			
	計							

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
	型枠工事	耐震補強壁用	開口周囲小口ふさぎ含む	274.9	m2			
	型枠工事	無収縮モルタル注入用	注入口および目張り対応	58.0	m			
	型枠工事	化粧目地（20x20）	外壁：開口部閉塞部周囲	10.6	m			
	型枠工事	型枠運搬費		274.9	m2			
	計							

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
	コンクリート工事	普通コンクリート	Fc21-18S	40.7	m3			
	コンクリート工事	打設手間（ポンプ車）	耐震補強壁　流し込み	40.7	m3			
	コンクリート工事	無収縮モルタル	FC30	2.0	m3			
	コンクリート工事	無筋コンクリート	Fc18-15S	3.2	m3			
	コンクリート工事	打設手間（ポンプ車）	床：土間コンクリート	3.2	m3			
	コンクリート工事	コンクリートポンプ車（基本料のみ）	各回30m3未満	4.0	回			
	計							

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
	防水工事	シーリング（耐震スリット用）	MS-2：20×10mm	3.8	m			
	計							

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
	木工事	木軸壁（仮設間仕切り壁用）	耐震工事各区画封鎖用	186.9	m2			
	木工事	床板張り（耐水合板）	耐水合板Ｉ種	2.5	m2			
	木工事	上り框（木製）	タモ材・塗装品	1.3	m			
	計							

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
	金属工事	アンカー上向き（差し筋）D10	差し筋上D10	325.0	本			
	金属工事	アンカー横向き（差し筋）D10	差し筋横D10	335.0	本			
	金属工事	アンカー下向き（差し筋）D10	差し筋下D10	305.0	本			
	金属工事	アンカー上向き（差し筋）D13	差し筋上D13	51.0	本			
	金属工事	アンカー下向き（差し筋）D13	差し筋下D13	51.0	本			
	金属工事	アンカー横向き（シアコネクタ）	シアコネクタ横M12	1,385.0	本			
	金属工事	LGS天井下地	（19形直貼り）	17.6	m2			
	金属工事	LGS天井下地	（19形捨貼り）	2.0	m2			
	金属工事	LGS壁下地	（65形）直貼り	11.4	m2			
	金属工事	LGS天井開口補強	（600x600）	2.0	箇所			
	金属工事	LGS壁開口補強	（800x1800）	1.0	箇所			
	金属工事	天井点検口	（600x600）額縁タイプ	2.0	箇所			
	計							

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
	ガラス工事	GA-1_複層合わせ	PW6.8+A6+FL3&FL3	4.1	m2			一位代価表_01
	ガラス工事	GA-2_網入り合わせ	PW6.8&FL6	12.3	m2			
	ガラス工事	GA-3_合わせ厚10	FL5&FL5	8.0	m2			
	ガラス工事	GA-4_合わせ厚10	FL5&FL5	64.1	m2			
	ガラス工事	GA-5_合わせ厚6	FL3&FL3	3.7	m2			
	ガラス工事	ガラス留めシーリング	5mm x 5mm　シリコン1成分系	225.0	m			
	計							

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
	左官工事	モルタル金ゴテ	床：木ゴテ	12.9	m2			
	左官工事	モルタル金ゴテ	床：張物下地用	5.8	m2			
	左官工事	モルタル金ゴテ	壁	246.9	m2			
	左官工事	モルタル金ゴテ	天井	5.0	m2			
	左官工事	複層仕上塗材RE	ゆず肌　ローラー塗 下地調整共	3.5	m2			一位代価表_02
	左官工事	躯体断面欠損補修	□200深100程度	30.0	箇所			一位代価表_07
	計							

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
	塗装工事	EP塗_モルタル壁	素地ごしらえB種含む	263.9	m2			
	塗装工事	EP塗_モルタル天井	素地ごしらえB種含む	5.0	m2			
	塗装工事	EP塗_ボード壁	素地ごしらえB種含む	11.4	m2			
	塗装工事	EP塗_ボード天井	素地ごしらえB種含む	7.1	m2			
	塗装工事	EP-G塗装	木製額縁：細物	10.6	m			一位代価表_03
	計							

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
	内装工事	GWボード張り_壁		57.3	m2			
	内装工事	GWボード張り_天井		1.5	m2			
	内装工事	RB張り_天井		2.0	m2			
	内装工事	GB-D張り_天井		10.5	m2			
	内装工事	GB-R張り_仮設間仕切り壁用		170.4	m2			
	内装工事	GB-S張り（壁：耐水）		11.4	m2			
	内装工事	巾木（塩ビ製）		21.8	m2			
	内装工事	天井廻り縁（塩ビ製）		25.4	m2			
	内装工事	GB-S張り（天井：耐水）		7.9	m2			
	内装工事	乾式二重床（置床式：H100）		2.5	m2			
	内装工事	際根太	置き床下地	5.3	m			
	内装工事	床クッションフロア張り	床：無地	2.5	m2			
	内装工事	床長尺シート張り		3.2	m2			
	内装工事	塗床防水塗布		4.0	m2			

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
	計							

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
	ユニット他工事	ユニットバス（1216タイプ）		1.0	箇所			一位代価表_04
	ユニット他工事	壁点検枠（塩ビ製：300角）		2.0	箇所			一位代価表_05
	ユニット他工事	ロックウール充填（巾20mm）		3.8	m			一位代価表_06
	計							

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
	撤去工事	カッター入れ_床		54.7	m			
	撤去工事	カッター入れ_壁		134.9	m			
	撤去工事	カッター入れ_天井	（コンクリート）	54.7	m			
	撤去工事	カッター入れ_天井	（ボード）	64.7	m			
	撤去工事	目荒らし_床		27.6	m2			
	撤去工事	目荒らし_壁		276.6	m2			
	撤去工事	目荒らし_天井		15.0	m2			
	撤去工事	モルタル撤去_壁		275.4	m2			
	撤去工事	コンクリート解体	（人力：床：溝堀）	3.2	m3			
	撤去工事	壁コンクリート解体	（人力：W200）	10.3	m			
	撤去工事	建具周囲コンクリート解体	（人力：W200）	5.8	m			
	撤去工事	アスファルト防水撤去		2.5	m2			
	撤去工事	木床組解体（ころばし）		8.1	m2			
	撤去工事	床板はがし（合板）		8.1	m2			

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
	撤去工事	床Pタイル撤去		7.7	m2			
	撤去工事	ビニル巾木撤去		11.8	m			
	撤去工事	タイル撤去（モルタル下地共）w100		0.3	m2			
	撤去工事	塗膜撤去（壁面：建具周囲）		2.1	m2			
	撤去工事	コンクリートブロック撤去（壁：モルタル共）		2.0	m3			
	撤去工事	甲板撤去（テラゾーブロック）		2.7	m			
	撤去工事	天井GB-D張り撤去		10.5	m2			
	撤去工事	天井ボード撤去（フレキシブルボード VP）		8.6	m2			
	撤去工事	天井ボード撤去（岩綿吸音板）		2.0	m2			
	撤去工事	天井ボード撤去（断熱パネル）		2.5	m2			
	撤去工事	LGS天井下地撤去		23.6	m2			
	撤去工事	木製額縁撤去		10.4	m			
	撤去工事	鋼製建具撤去（アルミ製ドア撤去：700x1900）		1.0	箇所			
	撤去工事	鋼製建具撤去（アルミ製窓撤去：600x2300）		1.0	箇所			

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
	撤去工事	鋼製建具撤去（SUS製扉：PS用300角）		2.0	箇所			
	撤去工事	化粧鏡撤去（800 x 500）	ガラス撤去（1.0m2）	1.0	箇所			
	撤去工事	化粧鏡撤去（1500 x 700）	ガラス撤去（1.0m2）	1.0	箇所			
	撤去工事	ガラス撤去		92.2	m2			
	撤去工事	ガラス留めシーリング撤去		225.0	m			
	撤去工事	積込み（人力）無筋コンクリート類		3.6	m3			
	撤去工事	積込み（人力）モルタル類		3.5	m3			
	撤去工事	積込み（人力）内装材類		2.4	m3			
	撤去工事	積込み（人力）ガラス類		0.9	m3			
	撤去工事	除去アスベスト処理		5.6	m3			
	計							

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
	発生材処分	収集運搬費（コンクリート類）	4tダンプ車（概ね25km）	3.0	台			
	発生材処分	収集運搬費（モルタル類）	2ｔコンテナ車(概ね25ｋｍ）	4.0	台			
	発生材処分	収集運搬費（内装材類）	2ｔコンテナ車(概ね25ｋｍ）	2.0	台			
	発生材処分	収集運搬費（ガラス類）	2ｔコンテナ車(概ね25ｋｍ）	1.0	台			
	発生材処分	収集運搬費（アスベスト類）	2ｔコンテナ車(概ね25ｋｍ）	3.0	台			
	発生材処分	中間処分費	無筋コンクリート類(30cm以下)	6.6	t			
	発生材処分	中間処分費	モルタル類(埼玉県平均)	3.5	m3			
	発生材処分	中間処分費	内装材類(埼玉県平均)	2.4	m3			
	発生材処分	中間処分費	ガラス類(埼玉県平均)	0.9	m3			
	発生材処分	最終処分費	アスベスト類(安定型群馬県　下限値)	5.6	m3			
	計							

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
（別紙明細書）								
	収集運搬費	2ｔコンテナ車	片道距離概ね25ｋｍ（鉄筋類）	2.0	台			
	収集運搬費	2ｔコンテナ車	片道距離概ね25ｋｍ（非鉄金属）	1.0	台			
	スクラップ控除	金属くず（鉄）	ヘビーH2：異形鉄筋 LGS天井下地	0.13	ｔ			
	スクラップ控除	金属くず（非鉄金属）	アルミ材：サッシ枠	10.0	ｋｇ			
	スクラップ控除	金属くず（鉄）	ステンレス新断：13Cr：扉	10.3	ｋｇ			
	計							

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
建具	ガラス	PW6.8+A6+FL6　材工価格	網入り透明ガラス厚6.8＋空気層6＋透明板ガラス厚6　4㎡以下	1	m2			
建具	ガラス	透明板ガラス　FL6材のみ	透明板ガラス厚6　4㎡以下	1	m2			
建具	ガラス	FL6を減じた金額	網入り透明ガラス厚6.8＋空気層6＋（ガラス無し）　の価格	1	m2			
建具	ガラス	合わせガラス FL3&FL3　材のみ	み込み＆透明板ガラス厚3　4㎡以下	1	m2			
建具	ガラス	FL3&FL3を加えた金額	網入り透明ガラス厚6.8＋空気層6＋合わせガラス厚3＆厚3	1	m2			
一位代価表_01	ガラス	PW6.8+A6+FL3&FL3　材工	GA-1_複層合わせ					m2当り
左官	複層仕上塗材（RE：ﾛｰﾗｰ塗）	不陸調整	コンクリート打放し面補修	1	m2			
左官	複層仕上塗材（RE：ﾛｰﾗｰ塗）	下地調整	合成樹脂溶剤系シーラー	1	m2			
左官	複層仕上塗材（RE：ﾛｰﾗｰ塗）	複層塗材RE	ゆず肌　ローラー塗	1	m2			
一位代価表_02	複層仕上塗材（RE：ﾛｰﾗｰ塗）	下地調整共						m2当り
塗装	EP塗装（木製額縁：細物）	素地ごしらえ	木部　細物（100mm程度）	1	m			
塗装	EP塗装（木製額縁：細物）	つや有合成エマルションペイント塗	木部　細物（100mm程度）	1	m			
一位代価表_03	EP塗装（木製額縁：細物）	壁点検口取付	樹脂製枠300角					m当り
仕上げユニット	ユニットバス	1216タイプ　材のみ	BL認定品程度	1	箇所			JXV1216

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
仕上げユニット	ユニットバス	据付け	普通作業員		人			
仕上げユニット	ユニットバス	据付け	軽作業員		人			
仕上げユニット	ユニットバス		その他	1	式			
一位代価表_04	ユニットバス	1216タイプ設置	BL認定品程度					箇所当り
仕上げユニット	「金属A1-14-4：目地ジョイナー取付」流用	壁点検口300角	樹脂枠300角	1	箇所			スマート点検口
仕上げユニット	「金属A1-14-4：目地ジョイナー取付」流用	取り付け	内装工		人			
仕上げユニット	「金属A1-14-4：目地ジョイナー取付」流用		その他	1	式			
一位代価表_05	「金属A1-14-4：目地ジョイナー取付」流用	壁点検口取付	樹脂製枠300角					箇所当り
仕上げユニット	「金属A1-14-4：目地ジョイナー取付」流用	ロックウール材設置	樹脂枠300角	1	箇所			
仕上げユニット	「金属A1-14-4：目地ジョイナー取付」流用	取り付け	内装工		人			
仕上げユニット	「金属A1-14-4：目地ジョイナー取付」流用		その他	1	式			
一位代価表_06	「金属A1-14-4：目地ジョイナー取付」流用	壁点検口取付	樹脂製枠300角					m当り
左官	断面欠損補修	□200深さ100程度	溝モルタル塗　糸幅200mm	0.3	m			
一位代価表_07	断面欠損補修	□200深さ100程度						箇所当り

芝川ポンプ場耐震補強工事

建築工事数量調書

令和 8年

種　　別	数量集計表							数　　量	
大集計表				集計1_耐壁	集計2_附帯	集計_硝子			
直接仮設工事	墨出し			54.7	19.2			73.9	延m2
直接仮設工事	清掃跡片付け			109.4	22.2			131.6	延m2
直接仮設工事	周囲養生			109.4	10.5			119.9	延m2
直接仮設工事	枠組本足場手摺先行w600_耐震壁用_3ヶ月			135.1				135.1	架m2
直接仮設工事	枠組本足場手摺先行ｗ600_耐震壁用_1ヶ月			133.2	13.7			146.9	架m2
直接仮設工事	床養生シート張り（m2）			15.2	15.6			30.8	延m2
直接仮設工事	枠組本足場手摺先行w900_4ヶ月			29.2				29.2	架m2
直接仮設工事	脚立足場				16.1			16.1	延m2
直接仮設工事	配線ケーブル養生			1.2				1.2	m2
配筋工事	鉄筋D10			1408.2	61.6			1,469.8	kg
配筋工事	鉄筋D13			340.9				340.9	kg
配筋工事	スパイラル75			18				18.	m
配筋工事	スパイラル100			143.6				143.6	m
配筋工事	スパイラル200			24.14				24.1	m
配筋工事	鉄筋加工手間			2	0.04			2.04	t
型枠工事	型枠_耐震補強用			257.5	17.4			274.9	m2
型枠工事	型枠_グラウトコンクリート用			54.2	3.8			58.	m
型枠工事	化粧目地（20x20）				10.6			10.6	m
型枠工事	型枠運搬費							274.9	m2
コンクリート工事	普通コンクリートFc21-18S			39.8	0.9			40.7	m3
コンクリート工事	打設手間（ポンプ車）耐震補強用			39.8	0.9			40.7	m3
コンクリート工事	無収縮モルタル			1.8	0.2			2.	m3
コンクリート工事	無筋コンクリートFc18-15S			3.2				3.2	m3
コンクリート工事	打設手間（ポンプ車）			3.2				3.2	m3
コンクリート工事	コンクリートポンプ車			4				4.	回
防水工事	シーリング（耐震スリット用）				3.8			3.8	m
木工事	木軸壁（仮設間仕切り壁用）			164.3	22.6			186.9	m2
木工事	床板張り（耐水合板）				2.5			2.5	m2
木工事	上り框（木製）				1.3			1.3	m
金属工事	アンカー上向き（差し筋）D10			325				325.	本
金属工事	アンカー横向き（差し筋）D10			333	2			335.	本
金属工事	アンカー下向き（差し筋）D10			302	3			305.	本
金属工事	アンカー上向き（差し筋）D13			51				51.	本
金属工事	アンカー下向き（差し筋）D13			51				51.	本
金属工事	アンカー横向き（シアコネクタ）			1385				1,385.	本
金属工事	LGS天井下地（19形直貼り）			10.5	7.1			17.6	m2
金属工事	LGS天井下地（19形捨貼り）				2			2.	m2
金属工事	LGS壁下地（65形）				11.4			11.4	m2
金属工事	LGS天井開口補強（600x600）				2			2.	箇所
金属工事	LGS壁開口補強（800x1800）				1			1.	箇所
金属工事	天井点検口（600x600）				2			2.	箇所
ガラス工事	GA-1_複層合わせ					4.1		4.1	m2
ガラス工事	GA-2_網入り合わせ					12.3		12.3	m2
ガラス工事	GA-3_合わせ厚10					8		8.	m2
ガラス工事	GA-4_合わせ厚10					64.1		64.1	m2
ガラス工事	GA-5_合わせ厚6					3.7		3.7	m2
ガラス工事	ガラス留めシーリング					224.99		225.	m
左官工事	モルタル金ゴテ_床			12.9				12.9	m2

種　　別	数量集計表							数　　量
大集計表				集計1_耐壁	集計2_附帯	集計_硝子		
左官工事	モルタル張物下_床			3.7	2.1			5.8 m2
左官工事	モルタル金ゴテ_壁			237.5	9.4			246.9 m2
左官工事	モルタル金ゴテ_天井（梁下）			5				5. m2
左官工事	複層仕上塗材（RE：ﾛｰﾗｰ塗）				3.5			3.5 m2
左官工事	躯体断面欠損補修(□200深100)			30				30. 箇所
内装工事	GWボード張り_壁			57.3				57.3 m2
内装工事	GWボード張り_天井			1.5				1.5 m2
内装工事	RB張り_天井				2			2. m2
内装工事	GB-D張り_天井			10.5				10.5 m2
内装工事	GB-R張り_仮設間仕切り壁用			164.3	6.1			170.4 m2
内装工事	GB-S張り（壁：耐水）				11.4			11.4 m2
内装工事	巾木（塩ビ製）			10.1	11.7			21.8 m2
内装工事	天井廻り縁（塩ビ製）			11.7	13.7			25.4 m2
内装工事	GB-S張り（天井：耐水）				7.9			7.9 m2
内装工事	乾式二重床（置床式：H100）				2.5			2.5 m2
内装工事	際根太				5.3			5.3 m
内装工事	床クッションフロア張り				2.5			2.5 m2
内装工事	床長尺シート張り				3.2			3.2 m2
内装工事	塗床防水塗布			3.6	0.4			4. m2
塗装工事	EP塗_モルタル壁			237.5	26.4			263.9 m2
塗装工事	EP塗_モルタル天井			5				5. m2
塗装工事	EP塗_ボード壁				11.4			11.4 m2
塗装工事	EP塗_ボード天井				7.1			7.1 m2
塗装工事	EP塗装（木製額縁：細物）				10.6			10.6 m
ユニット他工事	ユニットバス（1216タイプ）				1			1. 箇所
ユニット他工事	壁点検枠（塩ビ製：300角）				2			2. 箇所
ユニット他工事	ロックウール充填（巾20mm）				3.8			3.8 m
ユニット他工事	ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ（アルミ製：500角）				0			0. m2
撤去工事	カッター入れ_床			54.7	0			54.7 m
撤去工事	カッター入れ_壁			97.8	37.1			134.9 m
撤去工事	カッター入れ_天井			54.7				54.7 m
撤去工事	カッター入れ_天井（ボード）			54.7	10			64.7 m
撤去工事	目荒らし_床			27.4	0.2			27.6 m2
撤去工事	目荒らし_壁			276.6				276.6 m2
撤去工事	目荒らし_天井			15.04				15. m2
撤去工事	モルタル撤去_壁			265.1	10.3			275.4 m2
撤去工事	コンクリート解体（人力：床：溝堀）			3.2	0			3.2 m3
撤去工事	壁コンクリート解体（人力：W200）				10.3			10.3 m
撤去工事	建具周囲コンクリート解体（人力：W200）				5.8			5.8 m
撤去工事	アスファルト防水撤去				2.5			2.5 m2
撤去工事	木床組解体（ころばし）				8.1			8.1 m2
撤去工事	床板はがし（合板）				8.1			8.1 m2
撤去工事	床Pタイル撤去			5.26	2.4			7.7 m2
撤去工事	ビニル巾木撤去			10.7	1.1			11.8 m
撤去工事	タイル撤去（モルタル下地共）w100				0.3			0.3 m2
撤去工事	塗膜撤去（壁面：建具周囲）				2.1			2.1 m2
撤去工事	コンクリートブロック撤去（壁：モルタル共）				2			2. m3
撤去工事	甲板撤去（テラゾーブロック）				2.7			2.7 m
撤去工事	天井GB-D張り撤去			10.5				10.5 m2

No.

・　・

種　　別	数量集計表							数　　量
大集計表				集計1_耐壁	集計2_附帯	集計_硝子		
撤去工事	天井ボード撤去（フレキシブルボード VP）				8.6			8.6 m2
撤去工事	天井ボード撤去（岩綿吸音板）				2			2. m2
撤去工事	天井ボード撤去（断熱パネル）				2.5			2.5 m2
撤去工事	LGS天井下地撤去			10.5	13.1			23.6 m2
撤去工事	木製額縁撤去				10.4			10.4 m
撤去工事	鋼製建具撤去（アルミ製ドア撤去：700x1900）				1			1. 箇所
撤去工事	鋼製建具撤去（アルミ製窓撤去：600x2300）				1			1. 箇所
撤去工事	鋼製建具撤去（SUS製扉：PS用300角）				2			2. 箇所
撤去工事	化粧鏡撤去（800 x 500）				1			1. 箇所
撤去工事	化粧鏡撤去（1500 x 700）				1			1. 箇所
撤去工事	ガラス撤去					92.2		92.2 m2
撤去工事	ガラス留めシーリング撤去					224.99		225. m
	（撤去発生材は別集計表に記載）							

	種　別		数量集計表												数　量
		集計表1			耐壁01	耐壁02	耐壁03	耐壁04	耐壁05	耐壁06	耐壁07	耐壁08	耐壁09	耐壁10	
8		耐震壁工事	【躯体等数量】												
9			鉄筋												
10			補強筋　横筋　D10　材料長さ	64	116.4	92.8	103	103	107.3	105.8	107.15	135.5	80.25	79.65	1030.9 m
11			補強筋　縦筋　D10　材料長さ	70		151.8	169.32	169.32	169.3	166.9	184.72	215.48	129.1	127.9	1483.8 m
12	配筋	材　鉄筋D10	小計												2514.7 m
13			単位重量0.560kg/m 小計(kg)												1408.2 kg
14			補強筋　縦筋　D13　材料長さ	70	237.88										237.9 m
15			開口補強縦横斜筋　D13　材料長さ	81	7.66	22.38	0	0	7.66	13.92	7.72	28.24	5.38	11.78	104.7 m
16	配筋	材　鉄筋D13	小計												342.6 m
17			単位重量0.995kg/m 小計(kg)												340.9 kg
18	配筋	材　スパイラル75	スパイラル筋　直径75　設置長さ	85	17.96										18.0 m
19	配筋	材　スパイラル100	スパイラル筋　直径100　設置長さ	85		17.96	20.26	20.26	18.5	18	18.46		15.4	14.8	143.6 m
20	配筋	材　スパイラル200	スパイラル筋　直径200　設置長さ	85								24.14			24.1 m
21			補強筋　横筋　D10　単位重量	65	65.18	51.97	57.68	57.68	60.09	59.25	60	75.88	44.94	44.6	577.3 kg
22			補強筋　縦筋　D10　単位重量	71		85.01	94.82	94.82	94.81	93.46	103.44	120.67	72.3	71.62	831.0 kg
23			補強筋　縦筋　D13　単位重量	71	236.69										236.7 kg
24			開口補強縦横斜筋　D13　単位重量	82	7.62	22.27	0	0	7.62	13.85	7.68	28.1	5.35	11.72	104.2 kg
25			スパイラル筋　直径75　単位重量1.10kg		19.76										19.8 kg
26			スパイラル筋　直径100　単位重量1.46kg			26.22	29.58	29.58	27.01	26.28	26.95		22.48	21.61	209.7 kg
27			スパイラル筋　直径200　単位重量2.93kg									70.73			70.7 kg
28			小計(kg)												2049.4 kg
29	配筋	工　鉄筋加工手間	小計(t)												2.0 t
30															
31	金属	材 工　差し筋上D10	アンカー上向き（差し筋）D10	88		34	34	34	34	31	44	44	35	35	325.0 本
32	金属	材 工　差し筋横D10	アンカー横向き（差し筋）D10	89	36	31	40	40	34	34	26	44	24	24	333.0 本
33	金属	材 工　差し筋下D10	アンカー下向き（差し筋）D10	90		34	34	34	34	34	34	44	29	25	302.0 本
34	金属	材 工　差し筋上D13	アンカー上向き（差し筋）D13	88	51										51.0 本
35	金属	材 工　差し筋下D13	アンカー下向き（差し筋）D13	90	51										51.0 本
36	金属	材 工　アンカ横M12	アンカー横向き（シアコネクタ）	95	157	169	110	110	183	179	126	155	98	98	1385.0 本
37															
38			型枠												
39			壁面（開口部等控除含む）	98	24.27	23.02	25.65	25.65	25.66	25.26	27.65	33.28	19.37	19.19	249.0 m2
40			開口部1（小口）	99	0.42	0.53	0	0	0.53	0.53	0.69	1.74	0.5	0.5	5.4 m2
41			開口部2（小口）	100	0	0.8	0	0	0	0.32	0	1.74	0	0.18	3.0 m2
42	型枠	材 工　型枠_耐震		101	24.69	24.35	25.65	25.65	26.19	26.11	28.34	36.76	19.87	19.87	257.5 m2
43	型枠	材　グラウトコンクリート 工　用型枠	グラウトコンクリート用型枠	102	5.15	5.15	5.15	5.15	5.15	4.65	6.65	6.65	5.25	5.25	54.2 m
44			コンクリート												
45	ンクリー	材　普通ｺﾝFc24	普通コンクリート	106	2.79	3.3	3.7	3.7	3.7	3.64	3.95	9.58	2.75	2.72	39.8 m3
46	ンクリー	工　打設手間	普通コンクリート	106	2.79	3.3	3.7	3.7	3.7	3.64	3.95	9.58	2.75	2.72	39.8 m3
47	ンクリー	材 工　無収縮ﾓﾙ	グラウトコンクリート	107	0.12	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.2	0.4	0.16	0.16	1.8 m3
48	ンクリー	工　コンクリートポンプ車			1	←	←	←	1	←	←	1	1	←	4.0 回
49			【撤去等数量】												
50	撤去	工　目荒らし_床	床（既存壁から500mm）	112	2.58	2.58	2.58	2.58	2.58	2.58	3.33	3.33	2.63	2.63	27.4 m2
51	撤去	工　カッター入れ_床		109	5.15	5.15	5.15	5.15	5.15	5.15	6.65	6.65	5.25	5.25	54.7 m
52			壁面（床上～梁下）	115	25.65		25.65		27.04	27.04	32.45	36.04	21.53	21.53	216.9 m2
53			壁面（袖壁区切り当該室側）	116		15.31		15.31							30.6 m2
54			柱型（梁幅分）2面	118	2.69	2.99	2.99	2.99	3.15	3.15	2.93	3.25	2.46	2.46	29.1 m2
55	撤去	工　目荒らし_壁	小計												276.6 m2
56	撤去	工　カッター入れ_壁		110	9.96	9.96	9.96	9.96	10.5	10.5	9.76	10.84	8.2	8.2	97.8 m
57			壁面（天井裏除く）	117	25.65		25.65		27.04	27.04	32.45	36.04	15.76	15.76	205.4 m2
58			壁面（袖壁区切り当該室側）	116		15.31		15.31							30.6 m2
59			柱型（梁幅分）2面	118	2.69	2.99	2.99	2.99	3.15	3.15	2.93	3.25	2.46	2.46	29.1 m2
60	撤去	工　ﾓﾙﾀﾙ撤去_壁	小計												265.1 m2
61	撤去	工　ｺﾝｸﾘｰﾄ解体_床	床（シンダーコンクリート厚300）	120					0	0		0	1.61	1.61	3.2 m3
62	撤去	工　目荒らし_天井	梁下（梁下端）	119	1.39	0.92	1.55	0.92	1.55	1.55	2	2	1.58	1.58	15.0 m2
63	撤去	工　カッター入れ_天井		111	5.15	5.15	5.15	5.15	5.15	5.15	6.65	6.65	5.25	5.25	54.7 m

No.

. .

	種　　別		数量集計表												数　　量
	集計表1				耐壁01	耐壁02	耐壁03	耐壁04	耐壁05	耐壁06	耐壁07	耐壁08	耐壁09	耐壁10	
64	撤去	工　床Pタイル撤去		113									2.63	2.63	5.3 m2
65	撤去	工　ビニル巾木撤去		114									5.35	5.35	10.7 m
66			【仕上等数量】												
67	左官	材 工　ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ_床	床（500mm－増厚壁）	123	1.96	0.93	1.8	0.93	1.8	1.8	2.33	1.33			12.9 m2
68	左官	材 工　ﾓﾙﾀﾙ張物下_床	床（500mm－増厚壁）	123									1.84	1.84	3.7 m2
69	左官	材 工　塗床	床（500mm－増厚壁）	123					1.8	1.8					3.6 m2
70															
71	ンクリー	材　無筋ｺﾝFc18	床（シンダー厚300）	124	0	0	0	0	0	0	0	0	1.61	1.61	3.2 m3
72	ンクリー	工　打設手間	床（シンダー厚300）	124	0	0	0	0	0	0	0	0	1.61	1.61	3.2 m3
73															
74			壁面（天井裏除く）	126	25.65		25.65		27.04	27.04	32.45	36.04	9.99	9.99	193.9 m2
75			壁面（袖壁区切り当該室側）	125		15.31		15.31							30.6 m2
76			柱型（梁幅分-増厚壁）2面	127	1.49	1.49	1.49	1.49	1.58	1.58	1.46	0	1.23	1.23	13.0 m2
77	左官	材 工　ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ_壁	小計												237.5 m2
78	塗装	材 工　EP塗_ﾓﾙﾀﾙ壁													237.5 m2
79															
80			壁面（天井裏除く）	126					27.04	27.04					54.1 m2
81			柱型（梁幅分-増厚壁）2面	127					1.58	1.58					3.2 m2
82	内装	材 工　GWﾎﾞｰﾄﾞ張り_壁	小計												57.3 m2
83															
84	左官	材　ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ_天井（梁 工　下）	梁下（梁下端）	128	0.77	0.46	0.77	0.46	0.77	0.77	1	0			5.0 m2
85	塗装	材 工　EP塗_ﾓﾙﾀﾙ天井													5.0 m2
86	内装	材 工　巾木（塩ビ製）	巾木	129									5.05	5.05	10.1 m2
87	内装	材 工　GWﾎﾞｰﾄﾞ張り_天井	梁下（梁下端）	128					0.77	0.77					1.5 m2
88	内装	材 工　天井廻り縁（塩ビ製）	天井廻り縁	131									5.85	5.85	11.7 m2
89	撤去	材 工　LGS天井下地撤去	天井（仕上材共）1m巾	130	0	0	0	0	0	0	0	0	5.25	5.25	10.5 m2
90	撤去	材 工　GB-D張り撤去													10.5 m2
91	金属	材 工　LGS天井下地													10.5 m2
92	内装	材 工　GB-D張り													10.5 m2
93	左官	材 工　断面欠損補修	□200深100程度	132	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30.0 箇所
94			【直接仮設】												
95	仮設	材 工　墨出し	躯体墨だし（作業範囲1m巾）	135	5.15	5.15	5.15	5.15	5.15	5.15	6.65	6.65	5.25	5.25	54.7 m2
96	仮設	材 工　清掃跡片付け	清掃跡片付け（作業範囲2m巾）	137	10.3	10.3	10.3	10.3	10.3	10.3	13.3	13.3	10.5	10.5	109.4 m2
97	仮設	材 工　周囲養生	周囲養生（床面：作業範囲2m巾）	139	10.3	10.3	10.3	10.3	10.3	10.3	13.3	13.3	10.5	10.5	109.4 m2
98	仮設	材　枠組本足場手摺先行 工　w600_耐震壁用_3ヶ月	枠組本足場手摺先行（W600）	141	25.65	25.65	25.65	25.65			32.45				135.1 架m2
99	仮設	材　枠組本足場手摺先行ｗ 工　600_耐震壁用_1ヶ月	枠組本足場手摺先行（W600）	141					27.04	27.04		36.04	21.53	21.53	133.2 架m2
100															
101	木工	材　木軸壁_仮設間仕切り壁 工　用	仮設間仕切壁（木軸片面ボード）	144	0	0	0	12.45	68.25	0	0	38.48	22.55	22.55	164.3 m2
102	内装	材　GB張り_仮設間仕切り 工　壁用													164.3 m2
103		材　床養生シート張り 工　（m）	作業員通路（ｗ600、養生ｼｰﾄ敷）	146	0	0	0	11.6	8.5	0	0	5.3	0	0	25.4 m
104	仮設	材　床養生シート張り（ｍ 工　2）	作業員通路（ｗ600、養生ｼｰﾄ敷）												15.2 m2
105	仮設	材　枠組本足場手摺先行 工　w900_4ヶ月	仮設外部足場（ｗ900）GL～2FL+1.8	148	0	0	0	0	0	0	0	0	29.16	0	29.2 架m2
106	仮設	材 工　配線ケーブル養生	2階操作室床ピット内（合板張り）	150										1.2	1.2 m2
107															

No.
・　・

		種　　別	数量集計表										数　　量
		集計表2		附帯01	附帯02	附帯03	付帯4-1	付帯4-2	附帯05	附帯06	附帯07	耐水化	
8		附帯工事	【撤去数量】	耐震スリット工事	脱衣・浴室改修工事	手洗所改修工事	袖壁打替改修工事	袖壁打替改修工事	防油堤打替改修工事	開口部閉塞工事	点検口設置	堤防新設工事	
9	撤去	工　カッター入れ（壁）	カッター入れ（壁）	7.6	2	6	4.95	4.95	1	10.6			37.1 m
10	撤去	工　カッター入れ（床）	カッター入れ（床）										0 m
11	撤去	工　目荒らし_床	目荒らし（床）									0.17	0.2 m2
12	撤去	工　ｺﾝｸﾘｰﾄ解体（人力：床：溝堀）	ｺﾝｸﾘｰﾄ解体（人力：床：溝堀）										0 m3
13	撤去	工　壁ｺﾝｸﾘｰﾄ解体（人力：W200）	壁ｺﾝｸﾘｰﾄ解体（人力：W200）				4.95	4.95	0.4				10.3 m
14	撤去	工　ｱｽﾌｧﾙﾄ防水撤去	ｱｽﾌｧﾙﾄ防水撤去		2.47								2.5 m2
15	撤去	工　木床組解体（ころばし）	木床組解体（ころばし）		8.05								8.1 m2
16	撤去	工　床板はがし（合板）	床板はがし（合板）		8.05								8.1 m2
17	撤去	工　床Pタイル撤去	床Pタイル撤去		0.36	2							2.4 m2
18	撤去	工　ﾓﾙﾀﾙ撤去_壁	ﾓﾙﾀﾙ撤去（壁）			1.8	3.98	3.98	0.5				10.3 m2
19	撤去	工　タイル撤去（ﾓﾙﾀﾙ下地共）w100	タイル撤去（ﾓﾙﾀﾙ下地共）w100	0.3									0.3 m2
20	撤去	工　塗膜撤去（壁面：建具周囲）	塗膜撤去（壁面：建具周囲）							2.1			2.1 m2
21	撤去	工　ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ撤去（壁：ﾓﾙﾀﾙ共）	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ撤去（壁：ﾓﾙﾀﾙ共）	0.02	1.33	0.61							2 m2
22	撤去	工　甲板撤去（ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸ）	甲板撤去（ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸ）	0.1	0.95	1.65							2.7 m
23	撤去	工　建具周囲ｺﾝｸﾘｰﾄ撤去 W200	建具周囲ｺﾝｸﾘｰﾄ撤去 W200							5.8			5.8 m
24	撤去	工　LGS天井下地撤去	LGS天井下地撤去	1	8.05	2					2		13.1 m2
25	撤去	工　ビニル巾木撤去	ビニル巾木撤去			1.14							1.1 m
26	撤去	工　天井ﾎﾞｰﾄﾞ撤去（ﾌﾚｷ VP）	天井ﾎﾞｰﾄﾞ撤去（ﾌﾚｷ VP）	1	5.58	2							8.6 m2
27	撤去	工　天井ボード撤去（断熱パネル）	天井ボード撤去（断熱パネル）		2.47								2.5 m2
28	撤去	工　木製額縁撤去	木製額縁撤去		10.42								10.4 m
29	撤去	工　鋼製建具撤去（ｱﾙﾐ製ﾄﾞｱ撤去：	鋼製建具撤去（ｱﾙﾐ製ﾄﾞｱ撤去：700x1900）		1								1 箇所
30	撤去	工　鋼製建具撤去（ｱﾙﾐ製窓撤去：	鋼製建具撤去（ｱﾙﾐ製窓撤去：600x2300）							1			1 箇所
31	撤去	工　鋼製建具撤去（SUS製扉：PS用300角）	鋼製建具撤去（SUS製扉：PS用300角）		1	1							2 箇所
32	撤去	工　化粧鏡撤去（800 x 500）	化粧鏡撤去（800 x 500）		1								1 箇所
33	撤去	工　化粧鏡撤去（1500 x 700）	化粧鏡撤去（1500 x 700）			1							1 箇所
34			【躯体等数量】										
35	配筋	材　鉄筋D10	鉄筋D10長さ				19.2	19.2	3.2	16.8		3.18	61.6 m
36			鉄筋（重量：kg）				10.75	10.75	1.79	14.62		3.16	41.1 kg
37	配筋	工　鉄筋加工手間											0.040 t
38	型枠	材 工　型枠_耐震	型枠（少量：普通程度：打放しB種）				4.95	4.95	0.28	6.96		0.29	17.4 m2
39	型枠	材 工　化粧目地（20x20）	化粧目地（20x20）							10.6			10.6 m
40	コンクリート	材　普通ｺﾝFc24	普通コンクリート（Fc24：s18）				0.19	0.19	0.02	0.48		0.02	0.9 m3
41	コンクリート	工　打設手間											0.9 m3
42	コンクリート	材 工　無収縮ﾓﾙ	無収縮ﾓﾙﾀﾙ				0.07	0.07		0.04			0.2 m3
43	金属	材 工　差し筋横D10	アンカー横向き（差し筋）D10									2	2 本
44	金属	材 工　差し筋下D10	アンカー下向き（差し筋）D10									3	3 本
45			【仕上等数量】										
46	左官	材 工　ﾓﾙﾀﾙ張物下_床	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ（床：張物下）			2			0.07				2.1 m2
47	左官	材 工　ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ_壁	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ（壁：塗装下地）	0.56	4.76	0.3	1.73	1.73	0.28				9.4 m2
48													
49	内装	材　乾式二重床（置床式：H100） 工	床下地（置床式：H100）		2.5								2.5 m2
50	木工	材　床板張り（耐水合板） 工	床板張り（耐水合板）		2.5								2.5 m2
51	内装	材 工　床ｸｯｼｮﾝﾌﾛｱ張り	床ｸｯｼｮﾝﾌﾛｱ張り		2.5								2.5 m2

No.
・　・

		種　　別	数量集計表										数　　量
		集計表2		附帯01	附帯02	附帯03	付帯4-1	付帯4-2	附帯05	附帯06	附帯07	耐水化	
52	木工	材 工　上り框（木製）	上り框（木製）		1.25								1.3 m
53	内装	材 工　床長尺シート張り	床長尺シート張り		1.18	2							3.2 m2
54	内装	材　巾木（塩ビ製： 工　H80）	巾木（塩ビ製：H80）		8.55	3.1							11.7 m
55	金属	材　LGS壁下地（W65： 工　直貼り）	LGS壁下地（W65：直貼り）		8.38	2.97							11.4 m2
56	金属	材　LGS壁開口補強 工　（800x1800）	LGS壁開口補強（800x1800）		1								1 箇所
57	内装	材　耐水ﾎﾞｰﾄﾞ張り 工　（壁：GB-S）	室内仕上用		8.38	2.97							11.4 m2
58	内装	材　耐水ﾎﾞｰﾄﾞ張り 工　（壁：GB-S）	仮設間仕切り用（屋外）							4.48			4.5 m2
59	型枠	材　グラウトコンクリー 工　ト用型枠	グラウトコンクリート用型枠				0.7	0.7		2.4			3.8 m
60	ユニット	材　ユニットバス（1216 工　タイプ）	ユニットバス（1216タイプ）		1								1 箇所
61	ユニット	材　壁点検枠（塩ビ製： 工　300角）	壁点検枠（塩ビ製：300角）		1	1							2 箇所
62	塗装	材 工　EP塗_ﾓﾙﾀﾙ壁	EP塗装（ﾓﾙﾀﾙ面）	0.56	14.55	7.8	1.73	1.73					26.4 m2
63	塗装	材 工　EP塗_ボード壁	EP塗装（ﾎﾞｰﾄﾞ面）		8.38	2.97							11.4 m2
64	内装	材 工　塗床防水塗布	塗床防水塗布						0.35				0.4 m2
65	左官	材　複層仕上塗材（RE： 工　ﾛｰﾗｰ塗）	複層仕上塗材（RE：ﾛｰﾗｰ塗）							3.48			3.5 m2
66	塗装	材　EP塗装（木製額縁： 工　細物）	EP塗装（木製額縁：細物）		10.56								10.6 m
67	ユニット	材　ﾛｯｸｳｰﾙ充填（巾 工　20mm）	ﾛｯｸｳｰﾙ充填（巾20mm）	3.8									3.8 m
68	防水	材　シーリング（変成シ 工　リコン：20mm）	シーリング（変成シリコン：20mm）	3.8									3.8 m
69	ユニット	材　ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ（ｱﾙﾐ 工　製：500角）	ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ（ｱﾙﾐ製：500角）										0 m2
70	木工	材 工　際根太	乾式二重床壁端部受		5.25								5.3 m
71	金属	材 工　LGS天井下地	LGS天井下地（19型：直貼り）	1	4.1	2							7.1 m2
72	内装	材　GB-S張り（天井：耐 工　水）	耐水ﾎﾞｰﾄﾞ張り（天井：GB-S）	1	4.1	2				0.8			7.9 m2
73	塗装	材 工　EP塗_ボード天井	EP塗装（ﾎﾞｰﾄﾞ面）	1	4.1	2							7.1 m2
74	内装	材　天井廻り縁（塩ビ 工　製）	天井廻り縁（塩ビ製）	2	8.55	3.1							13.7 m
75			【直接仮設】										
76	仮設	材 工　墨出し	躯体墨だし（RC：普通）	1.6	8.41	2				1.2	4.5	1.44	19.2 m2
77	仮設	材 工　清掃跡片付け	清掃跡片付け（仕上）	1.6	8.41	2	1	1	1	1.2	4.5	1.44	22.2 m2
78	仮設	材 工　周囲養生	周囲養生（床面：仕上ｼｰﾄ養生）	1.6			1	1	1		4.5	1.44	10.5 m2
79	仮設	材 工　脚立足場	室内脚立足場（H2.0）		8.41	2				1.2	4.5		16.1 m2
80	仮設	材　枠組本足場手摺先行 工　w600_耐震壁用_1ヶ	枠組本足場手摺先行（W600：1ヶ月）	3.8			4.95	4.95					13.7 架m2
81	木工	材 工　木軸壁	仮設間仕切壁（木軸：片面ボード）	6.08						4.48	12		22.6 m2
82	内装	材　GB張り_仮設間仕切 工　り壁用		6.08									6.1 m2
83		材　床養生シート張り 工　（m）	作業員通路（w600、養生ｼｰﾄ敷）	16							10		26.0 m
84	仮設	材　床養生シート張り 工　（m2）	作業員通路（w600、養生ｼｰﾄ敷）										15.6 m2
85													
86	撤去	材　カッター入れ（天 工　井）ボード	カッター入れ_天井ボード			2					8		10.0 m
87	撤去	材　天井ボード撤去（岩 工　綿吸音板）	ボード撤去（岩綿吸音板）								2		2.0 m2

No.

・　・

		種　　別	数量集計表										数　　量
		集計表2		附帯01	附帯02	附帯03	付帯4-1	付帯4-2	附帯05	附帯06	附帯07	耐水化	
88	金属	材　LGS天井下地（捨貼 工　り）	LGS天井下地（19型：捨貼り）								2		2.0 m2
89	金属	材　LGS天井開口補強 工　（600角）	LGS天井開口補強（600角）								2		2.0 箇所
90	金属	材　天井点検口（600 工　角・額縁）	天井点検口（600角・額縁）								2		2.0 箇所
91	内装	材　天井ボード張り（岩 工　綿吸音板下地共）	天井ボード張り（岩綿吸音板下地共）								2		2.0 m2

No.

・　・

種　別	数量集計表									数　量																
大集計表					集計1_耐壁		集計2_附帯	集計_硝子																		
											積込み（人力）									除去アスベスト処理		スクラップ			
											掛け率(mm)			数量		無筋コンクリート類	モルタル類	内装材類	ガラス類			単位重量	スチール	アルミ	ステンレス
											巾	高さ	厚	m3											
撤去工事	モルタル撤去_壁			60	265.1	18	10.3			275.4 m2			30	8.26											
	耐壁01～04、07～08									168.3 m2			30	5.05						5.05					
	耐壁05～06、09～10									96.8 m2			30	2.9			2.9								
	附帯04-1、-2									8. m2			30	0.24						0.24					
	附帯03、05									2.3 m2			30	0.07			0.07								
撤去工事	コンクリート解体（人力：床：溝堀）			61	3.2	12	0			3.2 m3				3.2		3.2									
撤去工事	壁コンクリート解体（人力：W200）					13	10.3			10.3 m	200		150	0.31		0.31									
撤去工事	建具周囲コンクリート解体（人力：W200）					23	5.8			5.8 m	200		150	0.17		0.17									
撤去工事	アスファルト防水撤去					14	2.5			2.5 m2			100	0.25				0.25							
撤去工事	木床組解体（ころばし）					15	8.1			8.1 m2			200	1.62				1.62							
撤去工事	床板はがし（合板）					16	8.1			8.1 m2			10	0.08				0.08							
撤去工事	床Pタイル撤去			64	5.26	17	2.4			7.7 m2			10	0.08						0.08					
撤去工事	ビニル巾木撤去			65	10.7	25	1.1			11.8 m		100	10	0.12						0.12					
撤去工事	タイル撤去（モルタル下地共）w100					19	0.3			0.3 m2			50	0.02			0.02								
撤去工事	塗膜撤去（壁面：建具周囲）					20	2.1			2.1 m2			20	0.04						0.04					
撤去工事	コンクリートブロック撤去（壁：モルタル共）					21	2			2. m3			120	0.24			0.24								
撤去工事	甲板撤去（テラゾーブロック）					22	2.7			2.7 m			120	0.32			0.32								
撤去工事	天井GB-D張り撤去			90	10.5					10.5 m2			10	0.11				0.11							
撤去工事	天井ボード撤去（フレキシブルボード VP）					26	8.6			8.6 m2			10	0.09						0.09					
撤去工事	天井ボード撤去（岩綿吸音板）					87	2			2. m2			25	0.05						0.05					
撤去工事	天井ボード撤去（断熱パネル）					27	2.5			2.5 m2			30	0.08				0.08							
撤去工事	LGS天井下地撤去			89	10.5	24	13.1			23.6 m2				23.6								3	70.8		
撤去工事	木製額縁撤去					28	10.4			10.4 m			25	0.26				0.26							
撤去工事	鋼製建具撤去（アルミ製ドア撤去：700x1900）					29	1			1. 箇所				1								5.18		5.18	
撤去工事	鋼製建具撤去（アルミ製窓撤去：600x2300）					30	1			1. 箇所				1								4.86		4.86	
撤去工事	鋼製建具撤去（SUS製扉：PS用300角）					31	2			2. 箇所			200	0.4								25.7			10.3
撤去工事	化粧鏡撤去（800 x 500）					32	1			1. 箇所	500	800	10	0.01					0.01						
撤去工事	化粧鏡撤去（1500 x 700）					33	1			1. 箇所	1500	700	10	0.02					0.02						
撤去工事	ガラス撤去							92.2	ガ	92.2 m2			10	0.92					0.92						
撤去工事	ガラス留めシーリング撤去							224.99		225. m	20		20	0.09				0.09							
配筋工事	鉄筋加工（設計数量）									2.04 t															
	（所要数量）＝設計数量×104%									2.12 t															
	（所要数量）－（設計数量）									0.08 t			70%										56		
	発生材数量									m3						3.68	3.55	2.49	0.95	5.67					
	単位重量（ｔ/m3）															1.8	1.8	0.8	1.8	0.9					
	重量									t						6.62	6.39	1.99	1.71	5.10			0.13	10	10.3
																							t	kg	kg

No.

・　・

種　　別	略　図　計　算　式		数　　量
耐震壁工事			
図面番号：S-10			
補強番号：01	構築場所：Y0、X2～X3		
1階	補強対象既存壁仕様		
工作室・倉庫	33 壁記号	TW18A	
	34 横筋（径）	D10 @ 200	
	35 縦筋（径）	D13 @ 100	
	1 既存壁厚	0.18	0.18 m
	2 増設壁厚	0.12	0.12 m
	3 階高	6.00	6.00 m
	4 スパン	6.00	6.00 m
	5 梁成（上階）	0.75	0.75 m
	6 梁下がり（上階）	0.3	0.30 m
	7 梁下がり（下階）	0.03	0.03 m
	8 柱巾	0.85	0.85 m
	9 かぶり厚（壁厚方向）	0.12 - 0.03 * 2.00 =	0.06 m
	10 高さ（床SL～梁下端）	6.00 + 0.03 - 0.30 - 0.75 =	4.98 m
	11 巾（柱内面～内面）	6.00 - 0.85 =	5.15 m
	12 壁面（控除前）	4.98 * 5.15 =	25.65 m2
	13 壁面（開口控除後）	25.65 - 1.38 - 0.00 =	24.27 m2
	14 開口1w	0.60	0.60 m
	15 開口1h	2.30	2.30 m
	16 開口1周長	(0.60 + 2.30)* 2 =	5.80 m
	17 開口1面積	0.60 * 2.30 =	1.38 m2
	18 開口2w	0.00	0.00 m
	19 開口2h	0.00	0.00 m
	20 開口2周長	(0.00 + 0.00)* 2 =	0.00 m
	21 開口2面積	0.00 * 0.00 =	0.00 m2
	既存梁幅	0.45	0.45 m
	32 床（シンダー厚）	0.00	0.00 m
	38 ピッチ（柱）	200.00 / 1000	0.20 m
	39 ピッチ（梁）	100.00 / 1000	0.10 m
	40 ピッチ（壁）シアコネクタ	400.00 / 1000	0.40 m
	配筋ピッチ		
	横筋	4.98 / 0.20 = 24.90 → 25.00 - 1 =	24 本
	縦筋	5.15 / 0.10 = 51.50 → 52.00 - 1 =	51 本

種　　別	略　図　計　算　式	数　　量
	【躯体等数量】	
	補強筋	
	横筋　5.15 * 24 本 =	123.60 m
	控除：開口1　横筋　- 0.60 * 12 本 =	▲ 7.20 m
	控除：開口2　横筋　- 0.00 * 0 本 =	0.00 m
	小計	116.40 m
	D10　単位重量　0.560 * 116.40 m =	65.18 kg
	縦筋　4.98 * 51 本 =	253.98 m
	控除：開口1　縦筋　- 2.30 * 7 本 =	▲ 16.10 m
	控除：開口2　縦筋　- 0.00 * 0 本 =	0.00 m
	小計	237.88 m
	D13　単位重量　0.995 * 237.88 m =	236.69 kg
	開口補強筋	
	↓該当なしの場合、x 表記	
	開口1　横筋　(0.60 + 0.013 * 40 d * 1)* 2 =	2.24 m
	開口1　縦筋　(2.30 + 0.013 * 40 d * 2)* 1 =	3.34 m
	開口1　斜筋　(0.013 * 40 d * 2)* 2 =	2.08 m
	x 開口2　横筋　(0.00 + 0.013 * 40 d * 2)* 0 *0=	0.00 m
	x 開口2　縦筋　(0.00 + 0.013 * 40 d * 2)* 0 *0=	0.00 m
	x 開口2　斜筋　(0.013 * 40 d * 2)* 0 *0=	0.00 m
	小計	7.66 m
	D13　単位重量　0.995 * 7.66 m =	7.62 kg
	スパイラル筋	
	設置長さ　(5.15 + 4.98) * 2 - 2.30 =	17.96 m
	差し筋アンカー	
	上向き（開口部等控除含む）　51.00 * 1 - 0 =	51.00 本
	横向き（開口部等控除含む）　24.00 * 2 - 12 =	36.00 本
	下向き（開口部等控除含む）　51.00 * 1 - 0 =	51.00 本
	小計	138.00 本
	シアコネクタアンカー	
	横向き　13 * 5 + 11 * 6 =	131.00 本
	横向き　13 * 2 =	26.00 本
	小計	157.00 本
	型枠	
	壁面（開口部等控除含む）　24.27 =	24.27 m2
	開口部1（小口）　(0.60 * 2 + 2.30 * 1)* 0.12 =	0.42 m2
	開口部2（小口）　(0.00 * 0 + 0.00 * 0)* 0.12 =	0.00 m2
	小計	24.69 m2
	グラウトコンクリート用型枠　5.15 * 1 =	5.15 m
	コンクリート	
	普通コンクリート　24.27 * 0.12 =	2.91 m3
	グラウト部分（上端200mm）　- 5.15 * 0.12 * 0.20 m =	▲ 0.12 m3
	小計	2.79 m3
	グラウトコンクリート　-0.12 * -1 =	0.12 m3
	【撤去等数量】	
	カッター入れ_床　5.15 =	5.15 m

No.

・　・

種　　別	略　図　計　算　式	数　量
	カッター入れ_壁　4.98 * 2 =	9.96 m
	カッター入れ_天井　5.15 =	5.15 m
	床（既存壁から500mm）　5.15 *(0.50 - 0.00) =	2.58 m2
	床Pタイル撤去 =	0.00 m
	ビニル巾木撤去 =	0.00 m2
	壁面（床上～梁下）　5.15 * 4.98 =	25.65 m2
	壁面（袖壁区切り当該室側）　(5.15 - 0.00 + 0.000)* 4.98 =	25.65 m2
	壁面（天井裏除く）　25.65	25.65 m2
	柱型（梁幅分）2面　4.98 *(0.45 - 0.18 - 0.00)* 2 =	2.69 m2
	梁下（梁下端）　5.15 *(0.45 - 0.18 - 0.00) =	1.39 m2
	【仕上等数量】	
	↓該当なしの場合、ｘ表記	
	床（500mm－増厚壁）　5.15 *(0.50 - 0.12) =	1.96 m2
	ｘ床（シンダー厚300）　0.00 * 0.30 *0=	0.00 m3
	壁面（袖壁区切り当該室側）　(5.15 - 0.00 + 0.000)* 4.98 =	25.65 m2
	壁面（天井裏除く）　25.65	25.65 m2
	柱型（梁幅分-増厚壁）2面　4.98 *(0.45 - 0.18 - 0.12)* 2 =	1.49 m2
	梁下（梁下端）　5.15 *(0.45 - 0.18 - 0.12) =	0.77 m2
	ｘ巾木（塩ビ製）　(5.15 +(0.50 - 0.12)* 2) *0=	0.00 m
	ｘ天井（仕上材共）1m巾　5.15 * 1.00 m *0=	0.00 m2
	ｘ天井廻り縁（塩ビ製）　0.00 *0=	0.00 m
	躯体断面欠損補修(□200深100)　3 =	3.00 箇所
	【直接仮設】	
	↓該当なしの場合、ｘ表記	
	躯体墨だし（作業範囲1m巾）　5.15 * 1.00 m =	5.15 m2
	清掃跡片付け（作業範囲2m巾）　5.15 * 2.00 m =	10.30 m2
	周囲養生（床面：作業範囲2m巾）　5.15 * 2.00 m =	10.30 m2
	枠組本足場手摺先行（W600）　5.15 * 4.98 =	25.65 架m2

No.

・　・

種　　別	略　図　計　算　式											数　　量
耐震壁工事												
図面番号：S-11												
補強番号：02	構築場所：Y0、X3～X4											
1階	補強対象既存壁仕様											
工作室・倉庫	33 壁記号	W15										
	34 横筋（径）	D10	@	250								
	35 縦筋（径）	D10	@	150								
	1 既存壁厚	0.15										0.15 m
	2 増設壁厚	0.15										0.15 m
	3 階高	6.00										6.00 m
	4 スパン	6.00										6.00 m
	5 梁成（上階）	0.75										0.75 m
	6 梁下がり（上階）	0.3										0.30 m
	7 梁下がり（下階）	0.03										0.03 m
	8 柱巾	0.85										0.85 m
	9 かぶり厚（壁厚方向）	0.15	-			0.03	*	2.00			=	0.09 m
	10 高さ（床SL～梁下端）	6.00	+	0.03	-	0.30	-	0.75			=	4.98 m
	11 巾（柱内面～内面）	6.00	-	0.85							=	5.15 m
	12 壁面（控除前）	4.98	*	5.15							=	25.65 m2
	13 壁面（開口控除後）	25.65	-	1.38	-	1.25					=	23.02 m2
	14 開口1w	0.60										0.60 m
	15 開口1h	2.30										2.30 m
	16 開口1周長	(0.60	+	2.30	)*	2					=	5.80 m
	17 開口1面積	0.60	*	2.30							=	1.38 m2
	18 開口2w	0.60										0.60 m
	19 開口2h	2.08										2.08 m
	20 開口2周長	(0.60	+	2.08	)*	2					=	5.36 m
	21 開口2面積	0.60	*	2.08							=	1.25 m2
	既存梁幅	0.45										0.45 m
	32 床（シンダー厚）	0.00										0.00 m
	38 ピッチ（柱）	250.00	/	1000								0.25 m
	39 ピッチ（梁）	150.00	/	1000								0.15 m
	40 ピッチ（壁）シアコネクタ	500.00	/	1000								0.50 m
	配筋ピッチ											
	横筋	4.98	/	0.25	=	19.92	→	20.00	-	0	=	20 本
	縦筋	5.15	/	0.15	=	34.33	→	35.00	-	1	=	34 本

No.

・　・

種　　別	略　図　計　算　式	数　　量
	【躯体等数量】	
	補強筋	
	横筋　5.15 * 20 本 =	103.00 m
	控除：開口1　横筋　- 0.60 * 8 本 =	▲ 4.80 m
	控除：開口2　横筋　- 0.60 * 9 本 =	▲ 5.40 m
	小計	92.80 m
	D10　単位重量　0.560 * 92.80 m =	51.97 kg
	縦筋　4.98 * 34 本 =	169.32 m
	控除：開口1　縦筋　- 2.30 * 4 本 =	▲ 9.20 m
	控除：開口2　縦筋　- 2.08 * 4 本 =	▲ 8.32 m
	小計	151.80 m
	D10　単位重量　0.560 * 151.80 m =	85.01 kg
	開口補強筋	
	↓該当なしの場合、x 表記	
	開口1　横筋　(0.60 + 0.013 * 40 d * 2)* 2 =	3.28 m
	開口1　縦筋　(2.30 + 0.013 * 40 d * 2)* 1 =	3.34 m
	開口1　斜筋　(0.013 * 40 d * 2)* 2 =	2.08 m
	開口2　横筋　(0.60 + 0.013 * 40 d * 2)* 2 =	3.28 m
	開口2　縦筋　(2.08 + 0.013 * 40 d * 2)* 2 =	6.24 m
	開口2　斜筋　(0.013 * 40 d * 2)* 4 =	4.16 m
	小計	22.38 m
	D13　単位重量　0.995 * 22.38 m =	22.27 kg
	スパイラル筋	
	設置長さ　(5.15 + 4.98) * 2 - 2.30 =	17.96 m
	差し筋アンカー	
	上向き（開口部等控除含む）　34.00 * 1 - 0 =	34.00 本
	横向き（開口部等控除含む）　20.00 * 2 - 9 =	31.00 本
	下向き（開口部等控除含む）　34.00 * 1 - 0 =	34.00 本
	小計	99.00 本
	シアコネクタアンカー	
	横向き　17 * 4 + 13 * 4 =	120.00 本
	横向き　15 * 1 + 17 * 2 =	49.00 本
	小計	169.00 本
	型枠	
	壁面（開口部等控除含む）　23.02 =	23.02 m2
	開口部1（小口）　(0.60 * 2 + 2.30 * 1)* 0.15 =	0.53 m2
	開口部2（小口）　(0.60 * 2 + 2.08 * 2)* 0.15 =	0.80 m2
	小計	24.35 m2
	グラウトコンクリート用型枠　5.15 * 1 =	5.15 m
	コンクリート	
	普通コンクリート　23.02 * 0.15 =	3.45 m3
	グラウト部分（上端200mm）　- 5.15 * 0.15 * 0.20 m =	▲ 0.15 m3
	小計	3.30 m3
	グラウトコンクリート　-0.15 * -1 =	0.15 m3
	【撤去等数量】	
	カッター入れ_床　5.15 =	5.15 m

No.

・　・

種　別	略　図　計　算　式	数　量
	カッター入れ_壁　4.98 * 2 =	9.96 m
	カッター入れ_天井　5.15 =	5.15 m
	床（既存壁から500mm）　5.15 *(0.50 - 0.00) =	2.58 m2
	床Pタイル撤去 =	0.00 m
	ビニル巾木撤去 =	0.00 m2
	壁面（床上～梁下）　5.15 * 4.98 =	25.65 m2
	壁面（袖壁区切り当該室側）　(5.15 - 2.50 + 0.425)* 4.98 =	15.31 m2
	壁面（天井裏除く）　25.65	25.65 m2
	柱型（梁幅分）2面　4.98 *(0.45 - 0.15 - 0.00)* 2 =	2.99 m2
	梁下（梁下端）　(5.15 - 2.50 + 0.425)*(0.45 - 0.15)=	0.92 m2
	【仕上等数量】	
	↓該当なしの場合、ｘ表記	
	床（500mm－増厚壁）　(5.15 - 2.50)*(0.50 - 0.15) =	0.93 m2
	ｘ床（シンダー厚300）　0.00 * 0.30 *0=	0.00 m3
	壁面（袖壁区切り当該室側）　(5.15 - 2.50 + 0.425)* 4.98 =	15.31 m2
	壁面（天井裏除く）　25.65	25.65 m2
	柱型（梁幅分-増厚壁）2面　4.98 *(0.45 - 0.15 - 0.15)* 2 =	1.49 m2
	梁下（梁下端）　(5.15 - 2.5+0.425)*(0.45 - 0.15 - 0.15)=	0.46 m2
	ｘ巾木（塩ビ製）　(5.15 +(0.50 - 0.15)* 2) *0=	0.00 m
	ｘ天井（仕上材共）1m巾　5.15 * 1.00 m *0=	0.00 m2
	ｘ天井廻り縁（塩ビ製）　0.00 *0=	0.00 m
	躯体断面欠損補修(□200深100)　3 =	3.00 箇所
	【直接仮設】	
	↓該当なしの場合、ｘ表記	
	躯体墨だし（作業範囲1m巾）　5.15 * 1.00 m =	5.15 m2
	清掃跡片付け（作業範囲2m巾）　5.15 * 2.00 m =	10.30 m2
	周囲養生（床面：作業範囲2m巾）　5.15 * 2.00 m =	10.30 m2
	枠組本足場手摺先行（W600）　5.15 * 4.98 =	25.65 架m2

No.

・　・

種　　別	略　図　計　算　式		数　　量
耐震壁工事			
図面番号：S-12			
補強番号：03	構築場所：Y1、X2～X3		
1階	補強対象既存壁仕様		
工作室・倉庫	33 壁記号	TW15	
	34 横筋（径）	D10 @ 250	
	35 縦筋（径）	D10 @ 150	
	1 既存壁厚	0.15	0.15 m
	2 増設壁厚	0.15	0.15 m
	3 階高	6.00	6.00 m
	4 スパン	6.00	6.00 m
	5 梁成（上階）	0.75	0.75 m
	6 梁下がり（上階）	0.3	0.30 m
	7 梁下がり（下階）	0.03	0.03 m
	8 柱巾	0.85	0.85 m
	9 かぶり厚（壁厚方向）	0.15 - 0.03 * 2.00 =	0.09 m
	10 高さ（床SL～梁下端）	6.00 + 0.03 - 0.30 - 0.75 =	4.98 m
	11 巾（柱内面～内面）	6.00 - 0.85 =	5.15 m
	12 壁面（控除前）	4.98 * 5.15 =	25.65 m2
	13 壁面（開口控除後）	25.65 - 0.00 - 0.00 =	25.65 m2
	14 開口1w	0.00	0.00 m
	15 開口1h	0.00	0.00 m
	16 開口1周長	(0.00 + 0.00)* 0 =	0.00 m
	17 開口1面積	0.00 * 0.00 =	0.00 m2
	18 開口2w	0.00	0.00 m
	19 開口2h	0.00	0.00 m
	20 開口2周長	(0.00 + 0.00)* 0 =	0.00 m
	21 開口2面積	0.00 * 0.00 =	0.00 m2
	既存梁幅	0.45	0.45 m
	32 床（シンダー厚）	0.00	0.00 m
	38 ピッチ（柱）	250.00 / 1000	0.25 m
	39 ピッチ（梁）	150.00 / 1000	0.15 m
	40 ピッチ（壁）シアコネクタ	500.00 / 1000	0.50 m
	配筋ピッチ		
	横筋	4.98 / 0.25 = 19.92 → 20.00 - 0 =	20 本
	縦筋	5.15 / 0.15 = 34.33 → 35.00 - 1 =	34 本

種　　別	略　図　計　算　式	数　　量
	【躯体等数量】	
	補強筋	
	横筋　5.15 * 20 本 =	103.00 m
	控除：開口1　横筋　- 0.00 * 0 本 =	0.00 m
	控除：開口2　横筋　- 0.00 * 0 本 =	0.00 m
	小計	103.00 m
	D10　単位重量　0.560 * 103.00 m =	57.68 kg
	縦筋　4.98 * 34 本 =	169.32 m
	控除：開口1　縦筋　- 0.00 * 0 本 =	0.00 m
	控除：開口2　縦筋　- 0.00 * 0 本 =	0.00 m
	小計	169.32 m
	D10　単位重量　0.560 * 169.32 m =	94.82 kg
	開口補強筋	
	↓該当なしの場合、x 表記	
	x 開口1　横筋　(0.00 + 0.013 * 40 d * 2)* 0 *0=	0.00 m
	x 開口1　縦筋　(0.00 + 0.013 * 40 d * 2)* 0 *0=	0.00 m
	x 開口1　斜筋　(0.013 * 40 d * 2)* 0 *0=	0.00 m
	x 開口2　横筋　(0.00 + 0.013 * 40 d * 2)* 0 *0=	0.00 m
	x 開口2　縦筋　(0.00 + 0.013 * 40 d * 2)* 0 *0=	0.00 m
	x 開口2　斜筋　(0.013 * 40 d * 2)* 0 *0=	0.00 m
	小計	0.00 m
	D13　単位重量　0.995 * 0.00 m =	0.00 kg
	スパイラル筋	
	設置長さ　(5.15 + 4.98) * 2 =	20.26 m
	差し筋アンカー	
	上向き（開口部等控除含む）　34.00 * 1 - 0 =	34.00 本
	横向き（開口部等控除含む）　20.00 * 2 - 0 =	40.00 本
	下向き（開口部等控除含む）　34.00 * 1 - 0 =	34.00 本
	小計	108.00 本
	シアコネクタアンカー	
	横向き　11 * 10 =	110.00 本
	横向き =	0.00 本
	小計	110.00 本
	型枠	
	壁面（開口部等控除含む）　25.65 =	25.65 m2
	開口部1（小口）　(0.00 * 0 + 0.00 * 0)* 0.15 =	0.00 m2
	開口部2（小口）　(0.00 * 0 + 0.00 * 0)* 0.15 =	0.00 m2
	小計	25.65 m2
	グラウトコンクリート用型枠　5.15 * 1 =	5.15 m
	コンクリート	
	普通コンクリート　25.65 * 0.15 =	3.85 m3
	グラウト部分（上端200mm）　- 5.15 * 0.15 * 0.20 m =	▲ 0.15 m3
	小計	3.70 m3
	グラウトコンクリート　-0.15 * -1 =	0.15 m3
	【撤去等数量】	
	カッター入れ_床　5.15 =	5.15 m

No.

・　・

種　　別	略　図　計　算　式	数　　量
	カッター入れ_壁　4.98 * 2 =	9.96 m
	カッター入れ_天井　5.15 =	5.15 m
	床（既存壁から500mm）　5.15 *(0.50 - 0.00) =	2.58 m2
	床Pタイル撤去 =	0.00 m
	ビニル巾木撤去 =	0.00 m2
	壁面（床上～梁下）　5.15 * 4.98 =	25.65 m2
	壁面（袖壁区切り当該室側）　(5.15 - 0.00 + 0.000)* 4.98 =	25.65 m2
	壁面（天井裏除く）　25.65	25.65 m2
	柱型（梁幅分）2面　4.98 *(0.45 - 0.15 - 0.00)* 2 =	2.99 m2
	梁下（梁下端）　5.15 *(0.45 - 0.15 - 0.00) =	1.55 m2
	【仕上等数量】	
	↓該当なしの場合、ｘ表記	
	床（500mm－増厚壁）　5.15 *(0.50 - 0.15) =	1.80 m2
	ｘ床（シンダー厚300）　0.00 * 0.30 *0=	0.00 m3
	壁面（袖壁区切り当該室側）　(5.15 - 0.00 + 0.000)* 4.98 =	25.65 m2
	壁面（天井裏除く）　25.65	25.65 m2
	柱型（梁幅分-増厚壁）2面　4.98 *(0.45 - 0.15 - 0.15)* 2 =	1.49 m2
	梁下（梁下端）　5.15 *(0.45 - 0.15 - 0.15) =	0.77 m2
	ｘ巾木（塩ビ製）　0.00 - 0.00 *0=	0.00 m
	ｘ天井（仕上材共）1m巾　5.15 * 1.00 m *0=	0.00 m2
	ｘ天井廻り縁（塩ビ製）　(5.15 +(0.45 - 0.15)* 2) *0=	0.00 m
	躯体断面欠損補修(□200深100)　3 =	3.00 箇所
	【直接仮設】	
	↓該当なしの場合、ｘ表記	
	躯体墨だし（作業範囲1m巾）　5.15 * 1.00 m =	5.15 m2
	清掃跡片付け（作業範囲2m巾）　5.15 * 2.00 m =	10.30 m2
	周囲養生（床面：作業範囲2m巾）　5.15 * 2.00 m =	10.30 m2
	枠組本足場手摺先行（W600）　5.15 * 4.98 =	25.65 架m2

種　　別	略　図　計　算　式	数　量
耐震壁工事		
図面番号：S-13		
補強番号：04	構築場所：Y1、X3～X4	
1階	補強対象既存壁仕様	
工作室・倉庫	33 壁記号　TW15	
	34 横筋（径）　D10 @ 250	
	35 縦筋（径）　D10 @ 150	
	1 既存壁厚　0.15	0.15 m
	2 増設壁厚　0.15	0.15 m
	3 階高　6.00	6.00 m
	4 スパン　6.00	6.00 m
	5 梁成（上階）　0.75	0.75 m
	6 梁下がり（上階）　0.3	0.30 m
	7 梁下がり（下階）　0.03	0.03 m
	8 柱巾　0.85	0.85 m
	9 かぶり厚（壁厚方向）　0.15 - 0.03 * 2.00 =	0.09 m
	10 高さ（床SL～梁下端）　6.00 + 0.03 - 0.30 - 0.75 =	4.98 m
	11 巾（柱内面～内面）　6.00 - 0.85 =	5.15 m
	12 壁面（控除前）　4.98 * 5.15 =	25.65 m2
	13 壁面（開口控除後）　25.65 - 0.00 - 0.00 =	25.65 m2
	14 開口1w　0.00	0.00 m
	15 開口1h　0.00	0.00 m
	16 開口1周長　(0.00 + 0.00)* 0 =	0.00 m
	17 開口1面積　0.00 * 0.00 =	0.00 m2
	18 開口2w　0.00	0.00 m
	19 開口2h　0.00	0.00 m
	20 開口2周長　(0.00 + 0.00)* 0 =	0.00 m
	21 開口2面積　0.00 * 0.00 =	0.00 m2
	既存梁幅　0.45	0.45 m
	32 床（シンダー厚）　0.00	0.00 m
	38 ピッチ（柱）　250.00 / 1000	0.25 m
	39 ピッチ（梁）　150.00 / 1000	0.15 m
	40 ピッチ（壁）シアコネクタ　500.00 / 1000	0.50 m
	配筋ピッチ	
	横筋　4.98 / 0.25 = 19.92 → 20.00 - 0 =	20 本
	縦筋　5.15 / 0.15 = 34.33 → 35.00 - 1 =	34 本

種　　別	略　図　計　算　式	数　　量
	【躯体等数量】	
	補強筋	
	横筋　5.15 * 20 本 =	103.00 m
	控除：開口1　横筋　- 0.00 * 0 本 =	0.00 m
	控除：開口2　横筋　- 0.00 * 0 本 =	0.00 m
	小計	103.00 m
	D10　単位重量　0.560 * 103.00 m =	57.68 kg
	縦筋　4.98 * 34 本 =	169.32 m
	控除：開口1　縦筋　- 0.00 * 7 本 =	0.00 m
	控除：開口2　縦筋　- 0.00 * 0 本 =	0.00 m
	小計	169.32 m
	D10　単位重量　0.560 * 169.32 m =	94.82 kg
	開口補強筋	
	↓該当なしの場合、x 表記	
	x 開口1　横筋　(0.00 + 0.013 * 40 d * 2)* 0 *0=	0.00 m
	x 開口1　縦筋　(0.00 + 0.013 * 40 d * 2)* 0 *0=	0.00 m
	x 開口1　斜筋　(0.013 * 40 d * 2)* 0 *0=	0.00 m
	x 開口2　横筋　(0.00 + 0.013 * 40 d * 2)* 0 *0=	0.00 m
	x 開口2　縦筋　(0.00 + 0.013 * 40 d * 2)* 0 *0=	0.00 m
	x 開口2　斜筋　(0.013 * 40 d * 2)* 0 *0=	0.00 m
	小計	0.00 m
	D13　単位重量　0.995 * 0.00 m =	0.00 kg
	スパイラル筋	
	設置長さ　(5.15 + 4.98) * 2 =	20.26 m
	差し筋アンカー	
	上向き（開口部等控除含む）　34.00 * 1 - 0 =	34.00 本
	横向き（開口部等控除含む）　20.00 * 2 - 0 =	40.00 本
	下向き（開口部等控除含む）　34.00 * 1 - 0 =	34.00 本
	小計	108.00 本
	シアコネクタアンカー	
	横向き　11 * 10 =	110.00 本
	横向き =	0.00 本
	小計	110.00 本
	型枠	
	壁面（開口部等控除含む）　25.65 =	25.65 m2
	開口部1（小口）　(0.00 * 0 + 0.00 * 0)* 0.15 =	0.00 m2
	開口部2（小口）　(0.00 * 0 + 0.00 * 0)* 0.15 =	0.00 m2
	小計	25.65 m2
	グラウトコンクリート用型枠　5.15 * 1 =	5.15 m
	コンクリート	
	普通コンクリート　25.65 * 0.15 =	3.85 m3
	グラウト部分（上端200mm）　- 5.15 * 0.15 * 0.20 m =	▲ 0.15 m3
	小計	3.70 m3
	グラウトコンクリート　-0.15 * -1 =	0.15 m3
	【撤去等数量】	
	カッター入れ_床　5.15 =	5.15 m

No.

・　・

種　　別	略　図　計　算　式	数　　量
	カッター入れ_壁　4.98 * 2 =	9.96 m
	カッター入れ_天井　5.15 =	5.15 m
	床（既存壁から500mm）　5.15 *(0.50 - 0.00) =	2.58 m2
	床Pタイル撤去 =	0.00 m
	ビニル巾木撤去 =	0.00 m2
	壁面（床上～梁下）　5.15 * 4.98 =	25.65 m2
	壁面（袖壁区切り当該室側）　(5.15 - 2.50 + 0.425)* 4.98 =	15.31 m2
	壁面（天井裏除く）　25.65	25.65 m2
	柱型（梁幅分）2面　4.98 *(0.45 - 0.15 - 0.00)* 2 =	2.99 m2
	梁下（梁下端）　(5.15 - 2.50 + 0.425)*(0.45 - 0.15)=	0.92 m2
	【仕上等数量】	
	↓該当なしの場合、ｘ表記	
	床（500mm－増厚壁）　(5.15 - 2.50)*(0.50 - 0.15) =	0.93 m2
	ｘ床（シンダー厚300）　0.00 * 0.30 *0=	0.00 m3
	壁面（袖壁区切り当該室側）　(5.15 - 2.50 + 0.425)* 4.98 =	15.31 m2
	壁面（天井裏除く）　25.65	25.65 m2
	柱型（梁幅分-増厚壁）2面　4.98 *(0.45 - 0.15 - 0.15)* 2 =	1.49 m2
	梁下（梁下端）　(5.15 - 2.5+0.425)*(0.45 - 0.15 - 0.15)=	0.46 m2
	ｘ巾木（塩ビ製）　0.00 - 0.00 *0=	0.00 m
	ｘ天井（仕上材共）1m巾　5.15 * 1.00 m *0=	0.00 m2
	ｘ天井廻り縁（塩ビ製）　(5.15 +(0.45 - 0.15)* 2) *0=	0.00 m
	躯体断面欠損補修(□200深100)　3 =	3.00 箇所
	【直接仮設】	
	↓該当なしの場合、ｘ表記	
	躯体墨だし（作業範囲1m巾）　5.15 * 1.00 m =	5.15 m2
	清掃跡片付け（作業範囲2m巾）　5.15 * 2.00 m =	10.30 m2
	周囲養生（床面：作業範囲2m巾）　5.15 * 2.00 m =	10.30 m2
	枠組本足場手摺先行（W600）　5.15 * 4.98 =	25.65 架m2
	仮設間仕切壁(木軸片面ボード)　(1.00 + 1.50)* 4.98 =	12.45 m2
	作業員通路（ｗ600、養生ｼｰﾄ敷）　0.50 + 3.80 + 3.80 + 3.50 =	11.60 m

No.

・　・

種　　別	略　図　計　算　式											数　　量
耐震壁工事												
図面番号：S-14												
補強番号：05	構築場所：Y2、X2～X3											
1階	補強対象既存壁仕様											
発電機室	33 壁記号	TW15										
	34 横筋（径）	D10	@	250								
	35 縦筋（径）	D10	@	150								
	1 既存壁厚	0.15										0.15 m
	2 増設壁厚	0.15										0.15 m
	3 階高	6.00										6.00 m
	4 スパン	6.00										6.00 m
	5 梁成（上階）	0.75										0.75 m
	6 梁下がり（上階）	0.3										0.30 m
	7 梁下がり（下階）	0.30										0.30 m
	8 柱巾	0.85										0.85 m
	9 かぶり厚（壁厚方向）	0.15	-			0.03	*	2.00			=	0.09 m
	10 高さ（床SL～梁下端）	6.00	+	0.30	-	0.30	-	0.75			=	5.25 m
	11 巾（柱内面～内面）	6.00	-	0.85							=	5.15 m
	12 壁面（控除前）	5.25	*	5.15							=	27.04 m2
	13 壁面（開口控除後）	27.04	-	1.38	-	0.00					=	25.66 m2
	14 開口1w	0.60										0.60 m
	15 開口1h	2.30										2.30 m
	16 開口1周長	(0.60	+	2.30	)*	2					=	5.80 m
	17 開口1面積	0.60	*	2.30							=	1.38 m2
	18 開口2w	0.00										0.00 m
	19 開口2h	0.00										0.00 m
	20 開口2周長	(0.00	+	0.00	)*	2					=	0.00 m
	21 開口2面積	0.00	*	0.00							=	0.00 m2
	既存梁幅	0.45										0.45 m
	32 床（シンダー厚）	0.30										0.30 m
	38 ピッチ（柱）	250.00	/	1000								0.25 m
	39 ピッチ（梁）	150.00	/	1000								0.15 m
	40 ピッチ（壁）シアコネクタ	500.00	/	1000								0.50 m
	配筋ピッチ											
	横筋	5.25	/	0.25	=	21.00	→	21.00	+	1	=	22 本
	縦筋	5.15	/	0.15	=	34.33	→	35.00	-	1	=	34 本

種　　別	略　図　計　算　式	数　　量
	【躯体等数量】	
	補強筋	
	横筋　5.15 * 22 本 =	113.30 m
	控除：開口1　横筋　- 0.60 * 10 本 =	▲ 6.00 m
	控除：開口2　横筋　- 0.00 * 0 本 =	0.00 m
	小計	107.30 m
	D10　単位重量　0.560 * 107.30 m =	60.09 kg
	縦筋　5.25 * 34 本 =	178.50 m
	控除：開口1　縦筋　- 2.30 * 4 本 =	▲ 9.20 m
	控除：開口2　縦筋　- 0.00 * 0 本 =	0.00 m
	小計	169.30 m
	D10　単位重量　0.560 * 169.30 m =	94.81 kg
	開口補強筋	
	↓該当なしの場合、x 表記	
	開口1　横筋　(0.60 + 0.013 * 40 d * 1)* 2 =	2.24 m
	開口1　縦筋　(2.30 + 0.013 * 40 d * 2)* 1 =	3.34 m
	開口1　斜筋　(0.013 * 40 d * 2)* 2 =	2.08 m
	x 開口2　横筋　(0.00 + 0.013 * 40 d * 2)* 0 *0=	0.00 m
	x 開口2　縦筋　(0.00 + 0.013 * 40 d * 2)* 0 *0=	0.00 m
	x 開口2　斜筋　(0.013 * 40 d * 2)* 0 *0=	0.00 m
	小計	7.66 m
	D13　単位重量　0.995 * 7.66 m =	7.62 kg
	スパイラル筋	
	設置長さ　(5.15 + 5.25) * 2 - 2.30 =	18.50 m
	差し筋アンカー	
	上向き（開口部等控除含む）　34.00 * 1 - 0 =	34.00 本
	横向き（開口部等控除含む）　22.00 * 2 - 10 =	34.00 本
	下向き（開口部等控除含む）　34.00 * 1 - 0 =	34.00 本
	小計	102.00 本
	シアコネクタアンカー	
	横向き　18 * 4 + 15 * 5 =	147.00 本
	横向き　18 * 2 =	36.00 本
	小計	183.00 本
	型枠	
	壁面（開口部等控除含む）　25.66 =	25.66 m2
	開口部1（小口）　(0.60 * 2 + 2.30 * 1)* 0.15 =	0.53 m2
	開口部2（小口）　(0.00 * 0 + 0.00 * 0)* 0.15 =	0.00 m2
	小計	26.19 m2
	グラウトコンクリート用型枠　5.15 * 1 =	5.15 m
	コンクリート	
	普通コンクリート　25.66 * 0.15 =	3.85 m3
	グラウト部分（上端200mm）　- 5.15 * 0.15 * 0.20 m =	▲ 0.15 m3
	小計	3.70 m3
	グラウトコンクリート　-0.15 * -1 =	0.15 m3
	【撤去等数量】	
	カッター入れ_床　5.15 =	5.15 m

No.

・　・

種　別	略　図　計　算　式												数　量
	カッター入れ_壁	5.25	*	2								=	10.50 m
	カッター入れ_天井	5.15										=	5.15 m
	床（既存壁から500mm）	5.15	*(	0.50	-	0.00	)					=	2.58 m2
	床Pタイル撤去											=	0.00 m
	ビニル巾木撤去											=	0.00 m2
	壁面（床上～梁下）	5.15	*	5.25								=	27.04 m2
	壁面（袖壁区切り当該室側）	(5.15	-	0.00	+	0.000	)*	5.25				=	27.04 m2
	壁面（天井裏除く）	27.04											27.04 m2
	柱型（梁幅分）2面	5.25	*(	0.45	-	0.15	-	0.00	)*	2		=	3.15 m2
	梁下（梁下端）	5.15	*(	0.45	-	0.15	-	0.00	)			=	1.55 m2
	コンクリート解体（無筋）	0.00	*	0.30								=	0.00 m3
	【仕上等数量】												
	↓該当なしの場合、ｘ表記												
	床（500mm－増厚壁）	5.15	*(	0.50	-	0.15	)					=	1.80 m2
	床（シンダー厚300）	0.00	*	0.30								=	0.00 m3
	壁面（袖壁区切り当該室側）	(5.15	-	0.00	+	0.000	)*	5.25				=	27.04 m2
	壁面（天井裏除く）	27.04											27.04 m2
	柱型（梁幅分-増厚壁）2面	5.25	*(	0.45	-	0.15	-	0.15	)*	2		=	1.58 m2
	梁下（梁下端）	5.15	*(	0.45	-	0.15	-	0.15	)			=	0.77 m2
	ｘ 巾木（塩ビ製）	0.00	-	0.60								*0=	0.00 m
	ｘ 天井（仕上材共）1m巾	5.15	*	1.00	m							*0=	0.00 m2
	ｘ 天井廻り縁（塩ビ製）	(5.15	+(	0.45	-	0.15	)*	2	)			*0=	0.00 m
	躯体断面欠損補修(□200深100)	3										=	3.00 箇所
	【直接仮設】												
	↓該当なしの場合、ｘ表記												
	躯体墨だし（作業範囲1m巾）	5.15	*	1.00	m							=	5.15 m2
	清掃跡片付け（作業範囲2m巾）	5.15	*	2.00	m							=	10.30 m2
	周囲養生（床面：作業範囲2m巾）	5.15	*	2.00	m							=	10.30 m2
	枠組本足場手摺先行（W600）	5.15	*	5.25								=	27.04 架m2
	仮設間仕切壁(木軸片面ボード)	(6.00	+	0.50	)*	2	*	5.25				=	68.25 m2
	作業員通路（ｗ600、養生ｼｰﾄ敷）	1.00	+	3.00	+	3.00	+	1.50				=	8.50 m

種　　別	略　図　計　算　式		数　　量
耐震壁工事			
図面番号：S-15			
補強番号：06	構築場所：Y2、X3～X4		
1階	補強対象既存壁仕様		
発電機室	33 壁記号	TW15	
	34 横筋（径）	D10 @ 250	
	35 縦筋（径）	D10 @ 150	
	1 既存壁厚	0.15	0.15 m
	2 増設壁厚	0.15	0.15 m
	3 階高	6.00	6.00 m
	4 スパン	6.00	6.00 m
	5 梁成（上階）	0.75	0.75 m
	6 梁下がり（上階）	0.3	0.30 m
	7 梁下がり（下階）	0.30	0.30 m
	8 柱巾	0.85	0.85 m
	9 かぶり厚（壁厚方向）	0.15 - 0.03 * 2.00 =	0.09 m
	10 高さ（床SL～梁下端）	6.00 + 0.30 - 0.30 - 0.75 =	5.25 m
	11 巾（柱内面～内面）	6.00 - 0.85 =	5.15 m
	12 壁面（控除前）	5.25 * 5.15 =	27.04 m2
	13 壁面（開口控除後）	27.04 - 1.38 - 0.40 =	25.26 m2
	14 開口1w	0.60	0.60 m
	15 開口1h	2.30	2.30 m
	16 開口1周長	(0.60 + 2.30)* 2 =	5.80 m
	17 開口1面積	0.60 * 2.30 =	1.38 m2
	18 開口2w	0.50	0.50 m
	19 開口2h	0.80	0.80 m
	20 開口2周長	(0.50 + 0.80)* 2 =	2.60 m
	21 開口2面積	0.50 * 0.80 =	0.40 m2
	既存梁幅	0.45	0.45 m
	32 床（シンダー厚）	0.30	0.30 m
	38 ピッチ（柱）	250.00 / 1000	0.25 m
	39 ピッチ（梁）	150.00 / 1000	0.15 m
	40 ピッチ（壁）シアコネクタ	500.00 / 1000	0.50 m
	配筋ピッチ		
	横筋	5.25 / 0.25 = 21.00 → 21.00 + 1 =	22 本
	縦筋	5.15 / 0.15 = 34.33 → 35.00 - 1 =	34 本

種　　別	略　図　計　算　式	数　　量
	【躯体等数量】	
	補強筋	
	横筋　5.15 * 22 本 =	113.30 m
	控除：開口1　横筋　- 0.60 * 10 本 =	▲ 6.00 m
	控除：開口2　横筋　- 0.50 * 3 本 =	▲ 1.50 m
	小計	105.80 m
	D10　単位重量　0.560 * 105.80 m =	59.25 kg
	縦筋　5.25 * 34 本 =	178.50 m
	控除：開口1　縦筋　- 2.30 * 4 本 =	▲ 9.20 m
	控除：開口2　縦筋　- 0.80 * 3 本 =	▲ 2.40 m
	小計	166.90 m
	D10　単位重量　0.560 * 166.90 m =	93.46 kg
	開口補強筋	
	↓該当なしの場合、x 表記	
	開口1　横筋　(0.60 + 0.013 * 40 d * 1)* 2 =	2.24 m
	開口1　縦筋　(2.30 + 0.013 * 40 d * 2)* 1 =	3.34 m
	開口1　斜筋　(0.013 * 40 d * 2)* 2 =	2.08 m
	開口2　横筋　(0.50 + 0.013 * 40 d * 2)* 1 =	1.54 m
	開口2　縦筋　(0.80 + 0.013 * 40 d * 1)* 2 =	2.64 m
	開口2　斜筋　(0.013 * 40 d * 2)* 2 =	2.08 m
	小計	13.92 m
	D13　単位重量　0.995 * 13.92 m =	13.85 kg
	スパイラル筋	
	設置長さ　(5.15 + 5.25) * 2 - 2.30 - 0.50 =	18.00 m
	差し筋アンカー	
	上向き（開口部等控除含む）　34.00 * 1 - 3 =	31.00 本
	横向き（開口部等控除含む）　22.00 * 2 - 10 =	34.00 本
	下向き（開口部等控除含む）　34.00 * 1 - 0 =	34.00 本
	小計	99.00 本
	シアコネクタアンカー	
	横向き　16 * 2 + 18 * 2 =	68.00 本
	横向き　15 * 5 + 18 * 2 =	111.00 本
	小計	179.00 本
	型枠	
	壁面（開口部等控除含む）　25.26 =	25.26 m2
	開口部1（小口）　(0.60 * 2 + 2.30 * 1)* 0.15 =	0.53 m2
	開口部2（小口）　(0.50 * 1 + 0.80 * 2)* 0.15 =	0.32 m2
	小計	26.11 m2
	グラウトコンクリート用型枠　(5.15 - 0.50)* 1 =	4.65 m
	コンクリート	
	普通コンクリート　25.26 * 0.15 =	3.79 m3
	グラウト部分（上端200mm）　- 5.15 * 0.15 * 0.20 m =	▲ 0.15 m3
	小計	3.64 m3
	グラウトコンクリート　-0.15 * -1 =	0.15 m3
	【撤去等数量】	
	カッター入れ_床　5.15 =	5.15 m

No.

・　・

種　別	略　図　計　算　式	数　量
	カッター入れ_壁　5.25 * 2 =	10.50 m
	カッター入れ_天井　5.15 =	5.15 m
	床（既存壁から500mm）　5.15 *(0.50 - 0.00) =	2.58 m2
	床Pタイル撤去 =	0.00 m
	ビニル巾木撤去 =	0.00 m2
	壁面（床上～梁下）　5.15 * 5.25 =	27.04 m2
	壁面（袖壁区切り当該室側）　(5.15 - 0.00 + 0.000)* 5.25 =	27.04 m2
	壁面（天井裏除く）　27.04	27.04 m2
	柱型（梁幅分）2面　5.25 *(0.45 - 0.15 - 0.00)* 2 =	3.15 m2
	梁下（梁下端）　5.15 *(0.45 - 0.15 - 0.00) =	1.55 m2
	コンクリート解体（無筋）　0.00 * 0.30 =	0.00 m3
	【仕上等数量】	
	↓該当なしの場合、ｘ表記	
	床（500mm－増厚壁）　5.15 *(0.50 - 0.15) =	1.80 m2
	床（シンダー厚300）　0.00 * 0.30 =	0.00 m3
	壁面（袖壁区切り当該室側）　(5.15 - 0.00 + 0.000)* 5.25 =	27.04 m2
	壁面（天井裏除く）　27.04	27.04 m2
	柱型（梁幅分-増厚壁）2面　5.25 *(0.45 - 0.15 - 0.15)* 2 =	1.58 m2
	梁下（梁下端）　5.15 *(0.45 - 0.15 - 0.15) =	0.77 m2
	ｘ巾木（塩ビ製）　0.00 - 0.60 *0=	0.00 m
	ｘ天井（仕上材共）1m巾　5.15 * 1.00 m *0=	0.00 m2
	ｘ天井廻り縁（塩ビ製）　(5.15 +(0.45 - 0.15)* 2) *0=	0.00 m
	躯体断面欠損補修(□200深100)　3 =	3.00 箇所
	【直接仮設】	
	↓該当なしの場合、ｘ表記	
	躯体墨だし（作業範囲1m巾）　5.15 * 1.00 m =	5.15 m2
	清掃跡片付け（作業範囲2m巾）　5.15 * 2.00 m =	10.30 m2
	周囲養生（床面：作業範囲2m巾）　5.15 * 2.00 m =	10.30 m2
	枠組本足場手摺先行（W600）　5.15 * 5.25 =	27.04 架m2

No.

・　・

種　　別	略　図　計　算　式											数　　量
耐震壁工事												
図面番号：S-16												
補強番号：07	構築場所：X2、Y0～Y1											
1階	補強対象既存壁仕様											
工作室・倉庫	33 壁記号	W15										
	34 横筋（径）	D10	@	250								
	35 縦筋（径）	D10	@	150								
	1 既存壁厚	0.15										0.15 m
	2 増設壁厚	0.15										0.15 m
	3 階高	6.00										6.00 m
	4 スパン	7.50										7.50 m
	5 梁成（上階）	0.85										0.85 m
	6 梁下がり（上階）	0.3										0.30 m
	7 梁下がり（下階）	0.03										0.03 m
	8 柱巾	0.85										0.85 m
	9 かぶり厚（壁厚方向）	0.15	-			0.03	*	2.00			=	0.09 m
	10 高さ（床SL～梁下端）	6.00	+	0.03	-	0.30	-	0.85			=	4.88 m
	11 巾（柱内面～内面）	7.50	-	0.85							=	6.65 m
	12 壁面（控除前）	4.88	*	6.65							=	32.45 m2
	13 壁面（開口控除後）	32.45	-	4.80	-	0.00					=	27.65 m2
	14 開口1w	1.60										1.60 m
	15 開口1h	3.00										3.00 m
	16 開口1周長	(1.60	+	3.00	)*	1					=	4.60 m
	17 開口1面積	1.60	*	3.00							=	4.80 m2
	18 開口2w	0.00										0.00 m
	19 開口2h	0.00										0.00 m
	20 開口2周長	(0.00	+	0.00	)*	1					=	0.00 m
	21 開口2面積	0.00	*	0.00							=	0.00 m2
	既存梁幅	0.45										0.45 m
	32 床（シンダー厚）	0.00										0.00 m
	38 ピッチ（柱）	250.00	/	1000								0.25 m
	39 ピッチ（梁）	150.00	/	1000								0.15 m
	40 ピッチ（壁）シアコネクタ	500.00	/	1000								0.50 m
	配筋ピッチ											
	横筋	4.88	/	0.25	=	19.52	→	20.00	-	1	=	19 本
	縦筋	6.65	/	0.15	=	44.33	→	45.00	-	1	=	44 本

種　　別	略　図　計　算　式	数　　量
	【躯体等数量】	
	補強筋	
	横筋　6.65 * 19 本 =	126.35 m
	控除：開口1　横筋　- 1.60 * 12 本 =	▲ 19.20 m
	控除：開口2　横筋　- 0.00 * 0 本 =	0.00 m
	小計	107.15 m
	D10　単位重量　0.560 * 107.15 m =	60.00 kg
	縦筋　4.88 * 44 本 =	214.72 m
	控除：開口1　縦筋　- 3.00 * 10 本 =	▲ 30.00 m
	控除：開口2　縦筋　- 0.00 * 0 本 =	0.00 m
	小計	184.72 m
	D10　単位重量　0.560 * 184.72 m =	103.44 kg
	開口補強筋	
	↓該当なしの場合、x 表記	
	開口1　横筋　(1.60 + 0.013 * 40 d * 2)* 1 =	2.64 m
	開口1　縦筋　(3.00 + 0.013 * 40 d * 2)* 1 =	4.04 m
	開口1　斜筋　(0.013 * 40 d * 2)* 1 =	1.04 m
	x 開口2　横筋　(0.00 + 0.013 * 40 d * 2)* 0 *0=	0.00 m
	x 開口2　縦筋　(0.00 + 0.013 * 40 d * 2)* 0 *0=	0.00 m
	x 開口2　斜筋　(0.013 * 40 d * 2)* 0 *0=	0.00 m
	小計	7.72 m
	D13　単位重量　0.995 * 7.72 m =	7.68 kg
	スパイラル筋	
	設置長さ　(6.65 + 4.88) * 2 - 1.60 - 3.00 =	18.46 m
	差し筋アンカー	
	上向き（開口部等控除含む）　44.00 * 1 - 0 =	44.00 本
	横向き（開口部等控除含む）　19.00 * 2 - 12 =	26.00 本
	下向き（開口部等控除含む）　44.00 * 1 - 10 =	34.00 本
	小計	104.00 本
	シアコネクタアンカー	
	横向き　16 * 4 + 12 * 6 =	136.00 本
	横向き　-5 * 2 =	▲ 10.00 本
	小計	126.00 本
	型枠	
	壁面（開口部等控除含む）　27.65 =	27.65 m2
	開口部1（小口）　(1.60 * 1 + 3.00 * 1)* 0.15 =	0.69 m2
	開口部2（小口）　(0.00 * 0 + 0.00 * 0)* 0.15 =	0.00 m2
	小計	28.34 m2
	グラウトコンクリート用型枠　6.65 * 1 =	6.65 m
	コンクリート	
	普通コンクリート　27.65 * 0.15 =	4.15 m3
	グラウト部分（上端200mm）　- 6.65 * 0.15 * 0.20 m =	▲ 0.20 m3
	小計	3.95 m3
	グラウトコンクリート　-0.20 * -1 =	0.20 m3
	【撤去等数量】	
	カッター入れ_床　6.65 =	6.65 m

No.

・　・

種　　別	略　図　計　算　式	数　　量
	カッター入れ_壁　4.88 * 2 =	9.76 m
	カッター入れ_天井　6.65 =	6.65 m
	床（既存壁から500mm）　6.65 *(0.50 - 0.00) =	3.33 m2
	床Pタイル撤去 =	0.00 m
	ビニル巾木撤去 =	0.00 m2
	壁面（床上～梁下）　6.65 * 4.88 =	32.45 m2
	壁面（袖壁区切り当該室側）　(6.65 - 0.00 + 0.000)* 4.88 =	32.45 m2
	壁面（天井裏除く）　32.45	32.45 m2
	柱型（梁幅分）2面　4.88 *(0.45 - 0.15 - 0.00)* 2 =	2.93 m2
	梁下（梁下端）　6.65 *(0.45 - 0.15 - 0.00) =	2.00 m2
	【仕上等数量】	
	↓該当なしの場合、ｘ表記	
	床（500mm－増厚壁）　6.65 *(0.50 - 0.15) =	2.33 m2
	ｘ床（シンダー厚300）　0.00 * 0.30 *0=	0.00 m3
	壁面（袖壁区切り当該室側）　(6.65 - 0.00 + 0.000)* 4.88 =	32.45 m2
	壁面（天井裏除く）　32.45	32.45 m2
	柱型（梁幅分-増厚壁）2面　4.88 *(0.45 - 0.15 - 0.15)* 2 =	1.46 m2
	梁下（梁下端）　6.65 *(0.45 - 0.15 - 0.15) =	1.00 m2
	ｘ巾木（塩ビ製）　0.00 - 1.60 *0=	0.00 m
	ｘ天井（仕上材共）1m巾　6.65 * 1.00 m *0=	0.00 m2
	ｘ天井廻り縁（塩ビ製）　(6.65 +(0.45 - 0.15)* 2) *0=	0.00 m
	躯体断面欠損補修(□200深100)　3 =	3.00 箇所
	【直接仮設】	
	↓該当なしの場合、ｘ表記	
	躯体墨だし（作業範囲1m巾）　6.65 * 1.00 m =	6.65 m2
	清掃跡片付け（作業範囲2m巾）　6.65 * 2.00 m =	13.30 m2
	周囲養生（床面：作業範囲2m巾）　6.65 * 2.00 m =	13.30 m2
	枠組本足場手摺先行（W600）　6.65 * 4.88 =	32.45 架m2

種　　別	略　図　計　算　式		数　　量
耐震壁工事			
図面番号：S-17			
補強番号：08	構築場所：X6、Y0～Y1		
1階	補強対象既存壁仕様		
モーター室	33 壁記号	TW15	
	34 横筋（径）	D10 @ 250	
	35 縦筋（径）	D10 @ 150	
	1 既存壁厚	0.15	0.15 m
	2 増設壁厚	0.30	0.30 m
	3 階高	6.00	6.00 m
	4 スパン	7.50	7.50 m
	5 梁成（上階）	0.85	0.85 m
	6 梁下がり（上階）	0.03	0.03 m
	7 梁下がり（下階）	0.30	0.30 m
	8 柱巾	0.85	0.85 m
	9 かぶり厚（壁厚方向）	0.30 - 0.03 * 2.00 =	0.24 m
	10 高さ（床SL～梁下端）	6.00 + 0.30 - 0.03 - 0.85 =	5.42 m
	11 巾（柱内面～内面）	7.50 - 0.85 =	6.65 m
	12 壁面（控除前）	5.42 * 6.65 =	36.04 m2
	13 壁面（開口控除後）	36.04 - 1.38 - 1.38 =	33.28 m2
	14 開口1w	0.60	0.60 m
	15 開口1h	2.30	2.30 m
	16 開口1周長	(0.60 + 2.30)* 2 =	5.80 m
	17 開口1面積	0.60 * 2.30 =	1.38 m2
	18 開口2w	0.60	0.60 m
	19 開口2h	2.30	2.30 m
	20 開口2周長	(0.60 + 2.30)* 2 =	5.80 m
	21 開口2面積	0.60 * 2.30 =	1.38 m2
	既存梁幅	0.45	0.45 m
	32 床（シンダー厚）	0.00	0.00 m
	38 ピッチ（柱）	250.00 / 1000	0.25 m
	39 ピッチ（梁）	150.00 / 1000	0.15 m
	40 ピッチ（壁）シアコネクタ	500.00 / 1000	0.50 m
	配筋ピッチ		
	横筋	5.42 / 0.25 = 21.68 → 22.00 - 0 =	22 本
	縦筋	6.65 / 0.15 = 44.33 → 45.00 - 1 =	44 本

No.

・　・

種　　別	略　図　計　算　式	数　　量
	【躯体等数量】	
	補強筋	
	横筋　6.65 * 22 本 =	146.30 m
	控除：開口1　横筋　- 0.60 * 9 本 =	▲ 5.40 m
	控除：開口2　横筋　- 0.60 * 9 本 =	▲ 5.40 m
	小計	135.50 m
	D10　単位重量　0.560 * 135.50 m =	75.88 kg
	縦筋　5.42 * 44 本 =	238.48 m
	控除：開口1　縦筋　- 2.30 * 5 本 =	▲ 11.50 m
	控除：開口2　縦筋　- 2.30 * 5 本 =	▲ 11.50 m
	小計	215.48 m
	D10　単位重量　0.560 * 215.48 m =	120.67 kg
	開口補強筋	
	↓該当なしの場合、x 表記	
	開口1　横筋　(0.60 + 0.013 * 40 d * 2)* 2 =	3.28 m
	開口1　縦筋　(2.30 + 0.013 * 40 d * 2)* 2 =	6.68 m
	開口1　斜筋　(0.013 * 40 d * 2)* 4 =	4.16 m
	開口2　横筋　(0.60 + 0.013 * 40 d * 2)* 2 =	3.28 m
	開口2　縦筋　(2.30 + 0.013 * 40 d * 2)* 2 =	6.68 m
	開口2　斜筋　(0.013 * 40 d * 2)* 4 =	4.16 m
	小計	28.24 m
	D13　単位重量　0.995 * 28.24 m =	28.10 kg
	スパイラル筋	
	設置長さ　(6.65 + 5.42) * 2 =	24.14 m
	差し筋アンカー	
	上向き（開口部等控除含む）　44.00 * 1 - 0 =	44.00 本
	横向き（開口部等控除含む）　22.00 * 2 - 0 =	44.00 本
	下向き（開口部等控除含む）　44.00 * 1 - 0 =	44.00 本
	小計	132.00 本
	シアコネクタアンカー	
	横向き　15 * 4 + 13 * 5 =	125.00 本
	横向き　15 * 2 =	30.00 本
	小計	155.00 本
	型枠	
	壁面（開口部等控除含む）　33.28 =	33.28 m2
	開口部1（小口）　(0.60 * 2 + 2.30 * 2)* 0.30 =	1.74 m2
	開口部2（小口）　(0.60 * 2 + 2.30 * 2)* 0.30 =	1.74 m2
	小計	36.76 m2
	グラウトコンクリート用型枠　6.65 * 1 =	6.65 m
	コンクリート	
	普通コンクリート　33.28 * 0.30 =	9.98 m3
	グラウト部分（上端200mm）　- 6.65 * 0.30 * 0.20 m =	▲ 0.40 m3
	小計	9.58 m3
	グラウトコンクリート　-0.40 * -1 =	0.40 m3
	【撤去等数量】	
	カッター入れ_床　6.65 =	6.65 m

No.

・　・

種　　別	略　図　計　算　式	数　　量
	カッター入れ_壁　5.42 * 2 =	10.84 m
	カッター入れ_天井　6.65 =	6.65 m
	床（既存壁から500mm）　6.65 *(0.50 - 0.00) =	3.33 m2
	床Pタイル撤去 =	0.00 m
	ビニル巾木撤去 =	0.00 m2
	壁面（床上～梁下）　6.65 * 5.42 =	36.04 m2
	壁面（袖壁区切り当該室側）　(6.65 - 0.00 + 0.000)* 5.42 =	36.04 m2
	壁面（天井裏除く）　36.04	36.04 m2
	柱型（梁幅分）2面　5.42 *(0.45 - 0.15 - 0.00)* 2 =	3.25 m2
	梁下（梁下端）　6.65 *(0.45 - 0.15 - 0.00) =	2.00 m2
	コンクリート解体（無筋）　0.00 * 0.30 =	0.00 m3
	【仕上等数量】	
	↓該当なしの場合、ｘ表記	
	床（500mm－増厚壁）　6.65 *(0.50 - 0.30) =	1.33 m2
	床（シンダー厚300）　0.00 * 0.30 =	0.00 m3
	壁面（袖壁区切り当該室側）　(6.65 - 0.00 + 0.000)* 5.42 =	36.04 m2
	壁面（天井裏除く）　36.04	36.04 m2
	柱型（梁幅分-増厚壁）2面　5.42 *(0.45 - 0.15 - 0.30)* 2 =	0.00 m2
	梁下（梁下端）　6.65 *(0.45 - 0.15 - 0.30) =	0.00 m2
	ｘ巾木（塩ビ製）　0.00 - 0.60 *0=	0.00 m
	ｘ天井（仕上材共）1m巾　6.65 * 1.00 m *0=	0.00 m2
	ｘ天井廻り縁（塩ビ製）　(6.65 +(0.45 - 0.30)* 2) *0=	0.00 m
	躯体断面欠損補修(□200深100)　3 =	3.00 箇所
	【直接仮設】	
	↓該当なしの場合、ｘ表記	
	躯体墨だし（作業範囲1m巾）　6.65 * 1.00 m =	6.65 m2
	清掃跡片付け（作業範囲2m巾）　6.65 * 2.00 m =	13.30 m2
	周囲養生（床面：作業範囲2m巾）　6.65 * 2.00 m =	13.30 m2
	枠組本足場手摺先行（W600）　6.65 * 5.42 =	36.04 架m2
	仮設間仕切壁(木軸片面ボード)　(0.80 + 5.50 + 0.80)* 5.42 =	38.48 m2
	作業員通路（w600、養生ｼｰﾄ敷）　1.50 + 0.80 + 3.00 =	5.30 m

種　　別	略　図　計　算　式		数　　量
耐震壁工事			
図面番号：S-18			
補強番号：09	構築場所：Y1、X2～X3		
2階	補強対象既存壁仕様		
テレメータ室	33 壁記号	TW15	
	34 横筋（径）	D10 @ 250	
	35 縦筋（径）	D10 @ 150	
	1 既存壁厚	0.15	0.15 m
	2 増設壁厚	0.15	0.15 m
	3 階高	4.50	4.50 m
	4 スパン	6.00	6.00 m
	5 梁成（上階）	0.70	0.70 m
	6 梁下がり（上階）	0	0.00 m
	7 梁下がり（下階）	0.30	0.30 m
	8 柱巾	0.75	0.75 m
	9 かぶり厚（壁厚方向）	0.15 - 0.03 * 2.00 =	0.09 m
	10 高さ（床SL～梁下端）	4.50 + 0.30 - 0.00 - 0.70 =	4.10 m
	11 巾（柱内面～内面）	6.00 - 0.75 =	5.25 m
	12 壁面（控除前）	4.10 * 5.25 =	21.53 m2
	13 壁面（開口控除後）	21.53 - 2.16 - 0.00 =	19.37 m2
	14 開口1w	0.90	0.90 m
	15 開口1h	2.40	2.40 m
	16 開口1周長	(0.90 + 2.40)* 1 =	3.30 m
	17 開口1面積	0.90 * 2.40 =	2.16 m2
	18 開口2w	0.00	0.00 m
	19 開口2h	0.00	0.00 m
	20 開口2周長	(0.00 + 0.00)* 1 =	0.00 m
	21 開口2面積	0.00 * 0.00 =	0.00 m2
	既存梁幅	0.45	0.45 m
	32 床（シンダー厚）	0.30	0.30 m
	38 ピッチ（柱）	250.00 / 1000	0.25 m
	39 ピッチ（梁）	150.00 / 1000	0.15 m
	40 ピッチ（壁）シアコネクタ	500.00 / 1000	0.50 m
	配筋ピッチ		
	横筋	4.10 / 0.25 = 16.40 → 17.00 - 0 =	17 本
	縦筋	5.25 / 0.15 = 35.00 → 35.00 - 0 =	35 本

No.

・　・

種　　別	略　図　計　算　式	数　　量
	【躯体等数量】	
	補強筋	
	横筋　5.25 * 17 本 =	89.25 m
	控除：開口1　横筋　- 0.90 * 10 本 =	▲ 9.00 m
	控除：開口2　横筋　- 0.00 * 0 本 =	0.00 m
	小計	80.25 m
	D10　単位重量　0.560 * 80.25 m =	44.94 kg
	縦筋　4.10 * 35 本 =	143.50 m
	控除：開口1　縦筋　- 2.40 * 6 本 =	▲ 14.40 m
	控除：開口2　縦筋　- 0.00 * 0 本 =	0.00 m
	小計	129.10 m
	D10　単位重量　0.560 * 129.10 m =	72.30 kg
	開口補強筋	
	↓該当なしの場合、x 表記	
	開口1　横筋　(0.90 + 0.013 * 40 d * 1)* 1 =	1.42 m
	開口1　縦筋　(2.40 + 0.013 * 40 d * 1)* 1 =	2.92 m
	開口1　斜筋　(0.013 * 40 d * 2)* 1 =	1.04 m
	x 開口2　横筋　(0.00 + 0.013 * 40 d * 2)* 0 *0=	0.00 m
	x 開口2　縦筋　(0.00 + 0.013 * 40 d * 2)* 0 *0=	0.00 m
	x 開口2　斜筋　(0.013 * 40 d * 2)* 0 *0=	0.00 m
	小計	5.38 m
	D13　単位重量　0.995 * 5.38 m =	5.35 kg
	スパイラル筋	
	設置長さ　(5.25 + 4.10) * 2 - 0.90 - 2.40 =	15.40 m
	差し筋アンカー	
	上向き（開口部等控除含む）　35.00 * 1 - 0 =	35.00 本
	横向き（開口部等控除含む）　17.00 * 2 - 10 =	24.00 本
	下向き（開口部等控除含む）　35.00 * 1 - 6 =	29.00 本
	小計	88.00 本
	シアコネクタアンカー	
	横向き　12 * 4 + 10 * 5 =	98.00 本
	横向き　0 * 0 =	0.00 本
	小計	98.00 本
	型枠	
	壁面（開口部等控除含む）　19.37 =	19.37 m2
	開口部1（小口）　(0.90 * 1 + 2.40 * 1)* 0.15 =	0.50 m2
	開口部2（小口）　(0.00 * 0 + 0.00 * 0)* 0.15 =	0.00 m2
	小計	19.87 m2
	グラウトコンクリート用型枠　5.25 * 1 =	5.25 m
	コンクリート	
	普通コンクリート　19.37 * 0.15 =	2.91 m3
	グラウト部分（上端200mm）　- 5.25 * 0.15 * 0.20 m =	▲ 0.16 m3
	小計	2.75 m3
	グラウトコンクリート　-0.16 * -1 =	0.16 m3
	【撤去等数量】	
	カッター入れ_床　5.25 =	5.25 m

No.

・　・

種　別	略　図　計　算　式	数　量
	カッター入れ_壁　4.10 * 2 =	8.20 m
	カッター入れ_天井　5.25 =	5.25 m
	床（既存壁から500mm）　5.25 *(0.50 - 0.00) =	2.63 m2
	床Pタイル撤去　2.63 =	2.63 m
	ビニル巾木撤去　(5.25 +(0.50 - 0.00)* 2)- 0.90 =	5.35 m2
	壁面（床上～梁下）　5.25 * 4.10 =	21.53 m2
	壁面（袖壁区切り当該室側）　(5.25 - 0.00 + 0.000)* 4.10 =	21.53 m2
	壁面（天井裏除く）　21.53 - 5.25 *(4.10 - 3.00) =	15.76 m2
	柱型（梁幅分）2面　4.10 *(0.45 - 0.15 - 0.00)* 2 =	2.46 m2
	梁下（梁下端）　5.25 *(0.45 - 0.15 - 0.00) =	1.58 m2
	コンクリート解体（無筋）　5.35 * 0.30 =	1.61 m3
	【仕上等数量】	
	↓該当なしの場合、ｘ表記	
	床（500mm－増厚壁）　5.25 *(0.50 - 0.15) =	1.84 m2
	床（シンダー厚300）　5.35 * 0.30 =	1.61 m3
	壁面（袖壁区切り当該室側）　(5.25 - 0.00 + 0.000)* 4.10 =	21.53 m2
	壁面（天井裏除く）　15.76 - 5.25 *(4.10 - 3.00) =	9.99 m2
	柱型（梁幅分-増厚壁）2面　4.10 *(0.45 - 0.15 - 0.15)* 2 =	1.23 m2
	梁下（梁下端）　5.25 *(0.45 - 0.15 - 0.15) =	0.79 m2
	巾木（塩ビ製）　(5.25 +(0.50 - 0.15)* 2)- 0.90 =	5.05 m
	天井（仕上材共）1m巾　5.25 * 1.00 m =	5.25 m2
	天井廻り縁（塩ビ製）　(5.25 +(0.45 - 0.15)* 2) =	5.85 m
	躯体断面欠損補修(□200深100)　3 =	3.00 箇所
	【直接仮設】	
	↓該当なしの場合、ｘ表記	
	躯体墨だし（作業範囲1m巾）　5.25 * 1.00 m =	5.25 m2
	清掃跡片付け（作業範囲2m巾）　5.25 * 2.00 m =	10.50 m2
	周囲養生（床面：作業範囲2m巾）　5.25 * 2.00 m =	10.50 m2
	枠組本足場手摺先行（W600）　5.25 * 4.10 =	21.53 架m2
	仮設間仕切壁(木軸片面ボード)　5.50 * 4.10 =	22.55 m2
	仮設外部足場（w900）GL～2FL+1.8　1.80 * 2 *(0.30 + 6.00 + 1.80)=	29.16 m

No.

・　・

種　　別	略　図　計　算　式		数　　量
耐震壁工事			
図面番号：S-19			
補強番号：10	構築場所：Y1、X3～X4		
2階	補強対象既存壁仕様		
操作室	33 壁記号	TW15	
	34 横筋（径）	D10 @ 250	
	35 縦筋（径）	D10 @ 150	
	1 既存壁厚	0.15	0.15 m
	2 増設壁厚	0.15	0.15 m
	3 階高	4.50	4.50 m
	4 スパン	6.00	6.00 m
	5 梁成（上階）	0.70	0.70 m
	6 梁下がり（上階）	0	0.00 m
	7 梁下がり（下階）	0.30	0.30 m
	8 柱巾	0.75	0.75 m
	9 かぶり厚（壁厚方向）	0.15 - 0.03 * 2.00 =	0.09 m
	10 高さ（床SL～梁下端）	4.50 + 0.30 - 0.00 - 0.70 =	4.10 m
	11 巾（柱内面～内面）	6.00 - 0.75 =	5.25 m
	12 壁面（控除前）	4.10 * 5.25 =	21.53 m2
	13 壁面（開口控除後）	21.53 - 2.16 - 0.18 =	19.19 m2
	14 開口1w	0.90	0.90 m
	15 開口1h	2.40	2.40 m
	16 開口1周長	(0.90 + 2.40)* 1 =	3.30 m
	17 開口1面積	0.90 * 2.40 =	2.16 m2
	18 開口2w	0.60	0.60 m
	19 開口2h	0.30	0.30 m
	20 開口2周長	(0.60 + 0.30)* 1 =	0.90 m
	21 開口2面積	0.60 * 0.30 =	0.18 m2
	既存梁幅	0.45	0.45 m
	32 床（シンダー厚）	0.30	0.30 m
	38 ピッチ（柱）	250.00 / 1000	0.25 m
	39 ピッチ（梁）	150.00 / 1000	0.15 m
	40 ピッチ（壁）シアコネクタ	500.00 / 1000	0.50 m
	配筋ピッチ		
	横筋	4.10 / 0.25 = 16.40 → 17.00 - 0 =	17 本
	縦筋	5.25 / 0.15 = 35.00 → 35.00 - 0 =	35 本

種　　別	略　図　計　算　式	数　　量
	【躯体等数量】	
	補強筋	
	横筋　5.25 * 17 本 =	89.25 m
	控除：開口1　横筋　- 0.90 * 10 本 =	▲ 9.00 m
	控除：開口2　横筋　- 0.60 * 1 本 =	▲ 0.60 m
	小計	79.65 m
	D10　単位重量　0.560 * 79.65 m =	44.60 kg
	縦筋　4.10 * 35 本 =	143.50 m
	控除：開口1　縦筋　- 2.40 * 6 本 =	▲ 14.40 m
	控除：開口2　縦筋　- 0.30 * 4 本 =	▲ 1.20 m
	小計	127.90 m
	D10　単位重量　0.560 * 127.90 m =	71.62 kg
	開口補強筋	
	↓該当なしの場合、x 表記	
	開口1　横筋　(0.90 + 0.013 * 40 d * 1)* 1 =	1.42 m
	開口1　縦筋　(2.40 + 0.013 * 40 d * 1)* 1 =	2.92 m
	開口1　斜筋　(0.013 * 40 d * 2)* 1 =	1.04 m
	開口2　横筋　(0.60 + 0.013 * 40 d * 2)* 1 =	1.64 m
	開口2　縦筋　(0.30 + 0.013 * 40 d * 2)* 2 =	2.68 m
	開口2　斜筋　(0.013 * 40 d * 2)* 2 =	2.08 m
	小計	11.78 m
	D13　単位重量　0.995 * 11.78 m =	11.72 kg
	スパイラル筋　開口1　開口2	
	設置長さ　(5.25 + 4.10) * 2 - 3.30 - 0.60 =	14.80 m
	差し筋アンカー	
	上向き（開口部等控除含む）　35.00 * 1 - 0 =	35.00 本
	横向き（開口部等控除含む）　17.00 * 2 - 10 =	24.00 本
	下向き（開口部等控除含む）　35.00 * 1 - 6 - 4 =	25.00 本
	小計	84.00 本
	シアコネクタアンカー	
	横向き　12 * 4 + 10 * 5 =	98.00 本
	横向き　0 * 0 =	0.00 本
	小計	98.00 本
	型枠	
	壁面（開口部等控除含む）　19.19 =	19.19 m2
	開口部1（小口）　(0.90 * 1 + 2.40 * 1)* 0.15 =	0.50 m2
	開口部2（小口）　(0.60 * 1 + 0.30 * 2)* 0.15 =	0.18 m2
	小計	19.87 m2
	グラウトコンクリート用型枠　5.25 * 1 =	5.25 m
	コンクリート	
	普通コンクリート　19.19 * 0.15 =	2.88 m3
	グラウト部分（上端200mm）　- 5.25 * 0.15 * 0.20 m =	▲ 0.16 m3
	小計	2.72 m3
	グラウトコンクリート　-0.16 * -1 =	0.16 m3
	【撤去等数量】	
	カッター入れ_床　5.25 =	5.25 m

No.

・　・

種　別	略　図　計　算　式	数　量
	カッター入れ_壁　4.10 * 2 =	8.20 m
	カッター入れ_天井　5.25 =	5.25 m
	床（既存壁から500mm）　5.25 *(0.50 - 0.00) =	2.63 m2
	床Pタイル撤去　2.63 =	2.63 m
	ビニル巾木撤去　(5.25 +(0.50 - 0.00)* 2)- 0.90 =	5.35 m2
	壁面（床上～梁下）　5.25 * 4.10 =	21.53 m2
	壁面（袖壁区切り当該室側）　(5.25 - 0.00 + 0.000)* 4.10 =	21.53 m2
	壁面（天井裏除く）　21.53 - 5.25 *(4.10 - 3.00) =	15.76 m2
	柱型（梁幅分）2面　4.10 *(0.45 - 0.15 - 0.00)* 2 =	2.46 m2
	梁下（梁下端）　5.25 *(0.45 - 0.15 - 0.00) =	1.58 m2
	コンクリート解体（無筋）　5.35 * 0.30 =	1.61 m3
	【仕上等数量】	
	↓該当なしの場合、ｘ表記	
	床（500mm－増厚壁）　5.25 *(0.50 - 0.15) =	1.84 m2
	床（シンダー厚300）　5.35 * 0.30 =	1.61 m3
	壁面（袖壁区切り当該室側）　(5.25 - 0.00 + 0.000)* 4.10 =	21.53 m2
	壁面（天井裏除く）　15.76 - 5.25 *(4.10 - 3.00) =	9.99 m2
	柱型（梁幅分-増厚壁）2面　4.10 *(0.45 - 0.15 - 0.15)* 2 =	1.23 m2
	梁下（梁下端）　5.25 *(0.45 - 0.15 - 0.15) =	0.79 m2
	巾木（塩ビ製）　(5.25 +(0.50 - 0.15)* 2)- 0.90 =	5.05 m
	天井（仕上材共）1m巾　5.25 * 1.00 m =	5.25 m2
	天井廻り縁（塩ビ製）　(5.25 +(0.45 - 0.15)* 2) =	5.85 m
	躯体断面欠損補修(□200深100)　3 =	3.00 箇所
	【直接仮設】	
	↓該当なしの場合、ｘ表記	
	躯体墨だし（作業範囲1m巾）　5.25 * 1.00 m =	5.25 m2
	清掃跡片付け（作業範囲2m巾）　5.25 * 2.00 m =	10.50 m2
	周囲養生（床面：作業範囲2m巾）　5.25 * 2.00 m =	10.50 m2
	枠組本足場手摺先行（W600）　5.25 * 4.10 =	21.53 架m2
	仮設間仕切壁(木軸片面ボード)　5.50 * 4.10 =	22.55 m2
	配線ケーブル養生（w600xL2000）　0.60 * 2.00 m =	1.20 m2

種　　別	略　図　計　算　式							数　　量
附帯工事1	耐震スリット工事							
図面番号：A-18								
耐震スリット	構築場所：Y2、X5～X6							
2階								
便所								
	1 既存壁厚	0.15						0.15 m
	3 階高	4.50						4.50 m
	4 スパン	6.00						6.00 m
	5 梁成（上階）	0.70						0.70 m
	6 梁下がり（上階）	0						0.00 m
	7 梁下がり（下階）	0.10						0.10 m
	8 天井高	3.00						3.00 m
	9 ライニング高さ（腰壁）	1.30						1.30 m
	10 高さ（床SL～梁下端）	4.50	-	0.00	-	0.70	=	3.80 m
	11 作業範囲（正面）	1.00						1.00 m
	仕上撤去幅	0.10						0.10 m
	【躯体等数量】							
	型枠							
	耐震スリット	3.80					=	3.80 m
	【撤去等数量】							
	カッター入れ（壁：床～天井）	3.80	*	2.00			=	7.60 m
	壁ﾀｲﾙﾓﾙﾀﾙ共（床～天井まで）w100	3.00	*	0.10			=	0.30 m2
	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ撤去（腰壁）	1.30	*	0.10	*	0.12	=	0.02 m2
	甲板撤去（テラゾ）	0.10					=	0.10 m
	天井（下地材共）	1.00	*	1.00	m		=	1.00 m2
	天井ﾎﾞｰﾄﾞ撤去（ﾌﾚｷ VP）	1.00					=	1.00 m2
	【仕上等数量】							
	モルタル金ゴテ（カッター面）	3.00	*	0.10			=	0.30 m2
	モルタル金ゴテ（CB側面	1.30	*	0.10	*	2.00	=	0.26 m2
							小計	0.56 m2
	EP塗装（細物）	0.56					=	0.56 m2
	ロックウール充填（巾20mm）	3.80					=	3.80 m
	シーリング	3.80					=	3.80 m
	LGS天井下地（19型：直貼り）	1.00					=	1.00 m2
	天井ボード張り（GB-S）	1.00					=	1.00 m2
	天井廻り縁（塩ビ製）	1.00	+	1.00			=	2.00 m

No.

・　・

種　　別	略　図　計　算　式									数　　量
	【直接仮設】									
	↓該当なしの場合、ｘ表記									
	躯体墨だし（奥行1.6ｍ巾）	1.00	*	1.60	m				=	1.60 m2
	清掃跡片付け（奥行1.6ｍ巾）	1.00	*	1.60	m				=	1.60 m2
	周囲養生（床面：奥行1.6ｍ巾）	1.00	*	1.60	m				=	1.60 m2
	枠組本足場手摺先行（W600）	1.00	*	3.80					=	3.80 架m2
	仮設間仕切壁（木軸片面ボード）	1.60					*	3.80	=	6.08 m2
	作業員通路（ｗ600、養生ｼｰﾄ敷）	1.00	+	10.00	+	5.00			=	16.00 m

種　　別	略　図　計　算　式							数　　量
附帯工事2	脱衣・浴室改修工事							
図面番号：A-17								
浴室改修	構築場所：Y0、X3～X4							
1階								
脱衣・浴室								
	1 浴室脱衣（X方向）	2.85						2.85 m
	1 浴室脱衣（Y方向）	2.95						2.95 m
	1 浴室（X方向）	1.45						1.45 m
	1 浴室（Y方向）	1.70						1.70 m
	3 階高	6.00						6.00 m
	5 梁成（上階）	0.75						0.75 m
	6 梁下がり（上階）	0.3						0.30 m
	7 梁下がり（下階）	0.20						0.20 m
	8 天井高（脱衣浴室）	3.00						3.00 m
	9 既存ライニング巾	0.95						0.95 m
	9 既存ライニング高さ	1.00						1.00 m
	10 高さ（床SL～梁下端）	6.00	-	0.30	-	0.75	=	4.95 m
	11 作業範囲（正面）	1.00						1.00 m
	既存床面積（浴室脱衣）	2.85	*	2.95			=	8.41 m2
	既存床面積（浴室）	1.45	*	1.70			=	2.47 m2
	耐震増壁厚	0.15						0.15 m
	14 開口1ｗ窓	0.60						0.60 m
	15 開口1ｈ窓	2.08						2.08 m
	16 開口1周長	(0.60	+	2.08	)*	2	=	5.36 m
	17 開口1面積	0.60	*	2.08			=	1.25 m2
	18 開口2ｗ既存	0.80						0.80 m
	19 開口2ｈ既存	2.000						2.00 m
	20 開口2周長	(0.80	+	2.00	)*	2	=	5.60 m
	21 開口2面積	0.80	*	2.00			=	1.60 m2
	22 開口3ｗ撤去	0.66						0.66 m
	23 開口3ｈ撤去	1.865						1.87 m
	24 開口3周長	(0.66	+	1.87	)*	2	=	5.06 m
	25 開口3面積	0.66	*	1.87			=	1.23 m2
	26 開口4ｗ新規	0.73						0.73 m
	27 開口4ｈ新規	1.87						1.87 m
	28 開口4周長	(0.73	+	1.87	)*	2	=	5.20 m
	29 開口4面積	0.73	*	1.87			=	1.37 m2
	【躯体等数量】							

No.

・　・

種　別	略　図　計　算　式									数　量
	【撤去等数量】									
	木床組（ころばし）踏込控除	8.41	-	0.36					=	8.05 m2
	床板（合板）	8.05							=	8.05 m2
	浴室防水撤去	2.47							=	2.47 m2
	LGS天井下地	8.05							=	8.05 m2
	天井仕上（ﾌﾚｷ VP）	8.05	-	2.47					=	5.58 m2
	天井仕上（断熱パネル）	2.47							=	2.47 m2
	踏込仕上撤去（Pタイル）	0.90	*	0.40					=	0.36 m2
	カッター入れ（壁）	3.00	-	1.00					=	2.00 m
	CB撤去（浴室壁）	(1.45	+	1.70	)*	3.00	*	0.12	=	1.13 m2
	撤去ドア控除	- 1.23	*	0.12					=	▲ 0.15 m3
	CB撤去（PS壁）	0.66	*	3.00	*	0.12			=	0.24 m2
	CB撤去（ライニング）	0.95	*	1.00	*	0.12			=	0.11 m2
									小計	1.33 m2
	甲板撤去（テラゾ）	0.95							=	0.95 m
	額縁撤去（窓）	5.36							=	5.36 m
	額縁撤去（撤去扉）	5.06							=	5.06 m
									小計	10.42 m
	既存扉撤去（0.7x1.9程度）	1.00							=	1.00 箇所
	PS既存扉撤去（0.3x0.3程度）	1.00							=	1.00 箇所
	化粧鏡撤去（800 x 500）	1.00							=	1.00 箇所

No.

・　・

種　別	略　図　計　算　式												数　量
	【仕上等数量】												
	モルタル金ゴテ（ライニング面）	0.11										=	0.11 m2
	モルタル金ゴテ（浴室脇面）	(1.70	-	0.15	)*	3.00						=	4.65 m2
												小計	4.76 m2
	AEP塗装（B面）ボード面	(0.40	+	0.45	+	2.55	-	0.15	)*	3.00		=	9.75 m2
	新規ドア控除	- 1.37										=	▲ 1.37 m3
												小計	8.38 m2
	新設壁下地（LGS W65）	8.38										=	8.38 m2
	壁面ボード張り（GB-S）	8.38										=	8.38 m2
	新設ドア開口補強（0.8x1.8程度）	1.00										=	1.00 箇所
	AEP塗装（A面）モルタル面	(1.40	+	0.45	-	0.10	)*	3.00				=	5.25 m2
	既存ドア控除	- 1.60										=	▲ 1.60 m3
	AEP塗装（C面）モルタル面	(1.40	-	0.15	)*	3.00						=	3.75 m2
	既存窓控除	- 1.25										=	▲ 1.25 m3
	AEP塗装（D面）モルタル面	(2.95	-	0.15	)*	3.00						=	8.40 m2
												小計	14.55 m2
	乾式二重床（置床H100）	(2.95	-	0.15	-	0.80	)*	1.25				=	2.50 m2
	床板張り（合板）	2.50										=	2.50 m2
	床板張り（ｸｯｼｮﾝﾌﾛｱ）	2.50										=	2.50 m2
	上り框（木製）	1.25										=	1.25 m
	天井下地（LGS）	(2.95	-	0.15	)*	1.40	+	0.40	*	0.45		=	4.10 m2
	天井ボード張り（GB-D）	4.10										=	4.10 m2
	天井廻り縁（塩ビ製）	(2.95	-	0.15	+	1.25	)*	2	+	0.45		=	8.55 m
	乾式二重床壁端部受（際根太）	(2.95	-	0.15	-	0.80	)*	2	+	1.25		=	5.25 m2
	巾木（ビニル製）	8.55										=	8.55 m
	踏込仕上張り（長尺シート）	0.80	*	1.25	+	0.40	*	0.45				=	1.18 m2
	額縁新設（窓）木製EP	5.36										=	5.36 m
	額縁新設（新規扉）木製EP	5.20										=	5.20 m
												小計	10.56 m
	ユニットバス（1216タイプ）	1.00										=	1.00 箇所
	点検枠新設（塩ビ製）300角	1.00										=	1.00 箇所
	【直接仮設】												
	↓該当なしの場合、ｘ表記												
	躯体墨だし（作業範囲1m巾）	8.41										=	8.41 m2
	清掃跡片付け（作業範囲2m巾）	8.41										=	8.41 m2
	脚立足場（H2.0）	8.41										=	8.41 m2

種　　別	略　図　計　算　式						数　　量
附帯工事3	手洗所改修工事						
図面番号：A-16							
手洗所改修	構築場所：Y1、X3～X4						
1階							
手洗所							
	1 手洗所（X方向）	2.50					2.50 m
	1 手洗所（Y方向）	1.75					1.75 m
	3 階高	6.00					6.00 m
	5 梁成（上階）	0.75					0.75 m
	6 梁下がり（上階）	0.3					0.30 m
	7 梁下がり（下階）	0.10					0.10 m
	8 天井高（洗面室）	3.00					3.00 m
	9 既存ライニング巾	1.65					1.65 m
	9 既存ライニング高さ	1.00					1.00 m
	10 高さ（床SL～梁下端）	6.00	-	0.30	-	0.75 =	4.95 m
	11 作業範囲（正面）	2.00					2.00 m
	11 作業範囲（奥行）	1.00					1.00 m
	既存床面積（手洗所）	2.50	*	1.75		=	4.38 m2
	耐震増壁厚	0.15					0.15 m
	作業対象面積（手洗所）	2.00	*	1.00		=	2.00 m2
	袖壁撤去範囲	0.50					0.50 m
	【躯体等数量】						

No.

・　・

種　別	略　図　計　算　式											数　量
	【撤去等数量】											
	床Pタイル撤去	2.00									=	2.00 m2
	天井下地	2.00									=	2.00 m2
	天井仕上（ﾌﾚｷ VP）	2.00									=	2.00 m2
	カッター入れ_天井ボード	2.00									=	2.00 m
	カッター入れ（壁）PS＆D面	3.00	*	2							=	6.00 m
	壁面ﾓﾙﾀﾙ撤去（PS脇）	3.00	*	0.10							=	0.30 m2
	壁面ﾓﾙﾀﾙ撤去（D面）	3.00	*	0.50							=	1.50 m2
											小計	1.80 m2
	CB撤去（PS壁）	(0.75	+	0.39	)*	3.00	*	0.12			=	0.41 m2
	CB撤去（ライニング）	1.65	*	1.00	*	0.12					=	0.20 m2
											小計	0.61 m2
	ビニル巾木撤去	0.75	+	0.39							=	1.14 m
	甲板撤去（テラゾ）	1.65									=	1.65 m
	PS既存扉撤去（0.3x0.3程度）	1.00									=	1.00 箇所
	化粧鏡撤去（1500 x 700）	1.00									=	1.00 箇所
	【仕上等数量】											
	モルタル金ゴテ（ライニング面）	0.10	*	3.00							=	0.30 m2
	AEP塗装（B面）ボード面	(0.39	+	0.75	-	0.15	)*	3.00			=	2.97 m2
	新設壁下地（LGS W65）	2.97									=	2.97 m2
	壁面ボード張り（GB-S）	2.97									=	2.97 m2
	AEP塗装（A面）モルタル面	(1.65	+	0.10	)*	3.00					=	5.25 m2
	AEP塗装（D面）モルタル面	(1.00	-	0.15	)*	3.00					=	2.55 m2
											小計	7.80 m2
	床長尺シート張り	2.00									=	2.00 m2
	天井下地（LGS）	2.00									=	2.00 m2
	天井ボード張り（GB-D）	2.00									=	2.00 m2
	天井廻り縁（塩ビ製）	1.65	+	0.75	+	1.00	-	0.15	*	2	=	3.10 m
	巾木（ビニル製）	3.10									=	3.10 m
	点検枠新設（塩ビ製）300角	1.00									=	1.00 箇所

No.

・　・

種　　別	略　図　計　算　式			数　　量
	【直接仮設】			
	↓該当なしの場合、ｘ表記			
	躯体墨だし（作業範囲1ｍ巾）	2.00	＝	2.00　m2
	清掃跡片付け（作業範囲2ｍ巾）	2.00	＝	2.00　m2
	脚立足場（H2.0）	2.00	＝	2.00　m2

種　　別	略　図　計　算　式	数　　量
附帯工事4	袖壁打替改修工事	
図面番号：A-16, 17		
袖壁打替	構築場所：Y0、X3～X4　⇒　集計表では附帯4-1（図面番号A17）	
1階	構築場所：Y1、X3～X4　⇒　集計表では附帯4-2（図面番号A16）	
工作室・倉庫	※原則として、同一数量とする（算出数量は1箇所分）	
～脱衣室浴室		
～手洗所	1 既存壁厚　0.15	0.15 m
	3 階高　6.00	6.00 m
	4 スパン　6.00	6.00 m
	5 梁成（上階）　0.75	0.75 m
	6 梁下がり（上階）　0.3	0.30 m
	7 梁下がり（下階）　0.03	0.03 m
	8 天井高　3.00	3.00 m
	10 高さ（床SL～梁下端）　6.00 - 0.30 - 0.75 =	4.95 m
	11 作業範囲（側面）　0.50	0.50 m
	11 作業範囲（奥行：片側）　1.00	1.00 m
	耐震増壁厚　0.15	0.15 m
	作業対象面積（両側）　0.50 * 1.00 * 2 =	1.00 m2
	仕上撤去幅　0.10	0.10 m
	配筋ピッチ	
	横筋：D10　4.95 / 0.20 = 24.75 → 25.00 - 1 =	24 本
	定着長さ　(0.01 * 40 d)* 2 =	0.80 m
	【躯体等数量】	
	配筋	
	横筋　0.80 * 24 本 =	19.20 m
	小計	19.20 m
	D10　単位重量　0.560 * 19.20 m =	10.75 kg
	型枠	
	袖壁分（両面）　0.50 * 4.95 * 2 =	4.95 m2
	コンクリート	
	普通コンクリート　(0.50 - 0.15)* 4.95 * 0.15 =	0.26 m3
	グラウト部分（上端200mm）　(0.50 - 0.15)* 0.20 * -1 =	▲ 0.07 m3
	小計	0.19 m3
	グラウトコンクリート　-0.07 * -1 =	0.07 m3
	グラウトコンクリート用型枠　(0.50 - 0.15)* 2.00 =	0.70 m

No.

・　・

種　　別	略　図　計　算　式							数　　量
	【撤去等数量】							
	普通コンクリート（壁面）	0.26					=	0.26 m3
	壁面コンクリート撤去（m）	4.95					=	4.95 m
	カッター入れ（壁：工作室側）	4.95	*	1			=	4.95 m
	壁面ﾓﾙﾀﾙ撤去（工作室側）	4.95	*	0.50			=	2.48 m2
	壁面ﾓﾙﾀﾙ撤去（D面）	3.00	*	0.50			=	1.50 m2
							小計	3.98 m2
	【仕上等数量】							
	モルタル金ゴテ（カッター面）	(0.50	-	0.15	)*	4.95	=	1.73 m2
							小計	1.73 m2
	DP塗装（細物）	1.73					=	1.73 m2
	【直接仮設】							
	↓該当なしの場合、 x 表記							
	清掃跡片付け	0.50	*	1.00	*	2	=	1.00 m2
	周囲養生（床面：奥行1.6m巾）	1.00					=	1.00 m2
	枠組本足場手摺先行（W600）	0.50	*	4.95	*	2	=	4.95 架m2

種　　別	略　図　計　算　式	数　　量
附帯工事5	防油堤打替改修工事	
図面番号：S-14		
防油堤打替	構築場所：Y2、X2～X3	
1階		
発電機室		
	1 既存壁厚　0.20	0.20 m
	3 防油堤高さ　0.40	0.40 m
	4 スパン　6.00	6.00 m
	5 梁成（上階）　0.00	0.00 m
	6 梁下がり（上階）　0	0.00 m
	7 梁下がり（下階）　0.00	0.00 m
	8 天井高　3.00	3.00 m
	10 高さ（床SL～梁下端）　0.40 - 0.00 - 0.00 =	0.40 m
	11 作業範囲（側面）　0.50	0.50 m
	11 作業範囲（奥行：片側）　1.00	1.00 m
	耐震増壁厚　0.15	0.15 m
	作業対象面積（両側）　0.50 * 1.00 * 2 =	1.00 m2
	仕上撤去幅　0.10	0.10 m
	配筋ピッチ	
	横筋：D10　0.40 / 0.20 = 2.00 → 2.00 =	2 本
	定着長さ　(0.01 * 40 d * 2)* 2 =	1.60 m
	【躯体等数量】	
	配筋	
	横筋　1.60 * 2 本 =	3.20 m
	小計	3.20 m
	D10　単位重量　0.560 * 3.20 m =	1.79 kg
	型枠	
	袖壁分（両面）　(0.50 - 0.15)* 0.40 * 2 =	0.28 m2
	コンクリート	
	普通コンクリート　(0.50 - 0.15)* 0.40 * 0.15 =	0.02 m3

No.

・　・

種　別	略　図　計　算　式										数　量
	【撤去等数量】										
	普通コンクリート（壁面）	0.02								=	0.02 m3
	壁面コンクリート撤去（m）	0.40								=	0.40 m
	カッター入れ（両面・天端）	0.40	*	2	+	0.20				=	1.00 m
	ﾓﾙﾀﾙ撤去（防油堤：両面）	(0.40	*	2	+	0.20	)*	0.50		=	0.50 m2
										小計	0.50 m2
	【仕上等数量】										
	モルタル金ゴテ（天端）	(0.50	-	0.15	)*	0.20				=	0.07 m2
	モルタル金ゴテ（側面）	(0.50	-	0.15	)*	0.40	*	2		=	0.28 m2
										小計	0.35 m
	塗防水塗装	0.35								=	0.35 m2
	【直接仮設】										
	↓該当なしの場合、 x 表記										
	清掃跡片付け	0.50	*	1.00	*	2				=	1.00 m2
	周囲養生（床面：奥行1.6m巾）	1.00								=	1.00 m2

種　　別	略　図　計　算　式	数　　量
附帯工事6	開口部閉塞工事	
図面番号：S-16		
開口部閉塞	構築場所：X3、Y0～Y1	
1階		
工作室・倉庫	33 壁記号　W15	
	34 横筋（径）　D10 @ 200	
	35 縦筋（径）　D10 @ 200	
	9 既存壁厚　0.15	0.15 m
	9 ハツリ等対象幅　0.30	0.30 m
	11 作業範囲（奥行）　1.00	1.00 m
	耐震増壁厚　0.15	0.15 m
	14 開口1ｗ窓　0.60	0.60 m
	15 開口1ｈ窓　2.30	2.30 m
	16 開口1周長　(0.60 + 2.30)* 2 =	5.80 m
	17 開口1面積　0.60 * 2.30 =	1.38 m2
	開口周長（作業幅含む）外周　(0.60 + 2.30 + 0.30 * 8)* 2 =	10.60 m
	開口周長（作業幅含む）面積　(0.60 + 0.60)*(2.30 + 0.60) =	3.48 m2
	39 ピッチ（横筋）　200.00 / 1000	0.20 m
	40 ピッチ（縦筋）　200.00 / 1000	0.20 m
	配筋本数	
	横筋　2.30 / 0.20 = 11.50 → 12.00 =	12 本
	縦筋　0.60 / 0.20 = 3.00 → 3.00 =	3 本
	定着長さ	
	開口1　横筋　0.60 + 0.010 * 40ｄ * 2 =	1.40 m
	開口1　縦筋　2.30 + 0.010 * 40ｄ * 2 =	3.10 m
	【躯体等数量】	
	配筋	
	横筋　1.40 * 12 本 =	16.80 m
	縦筋　3.10 * 3 本 =	9.30 m
	横筋D10　単位重量　0.560 * 16.80 m =	9.41 kg
	縦筋D10　単位重量　0.560 * 9.30 m =	5.21 kg
	小計	14.62 kg
	型枠	
	外壁側（両面）　3.48 * 2 =	6.96 m2
	目地（20x20）　10.60 =	10.60 m
	コンクリート	
	普通コンクリート　3.48 * 0.15 =	0.52 m3
	グラウト部分（上端200mm）　(0.60 + 0.60)* 0.15 * 0.20 * -1 =	▲ 0.04 m3
	小計	0.48 m3
	グラウトコンクリート　-0.04 * -1 =	0.04 m3
	グラウトコンクリート用型枠　(0.60 + 0.60)* 2 =	2.40 m

No.

・　・

種　別	略　図　計　算　式									数　量
	【撤去等数量】									
	カッター入れ（壁）	10.60							=	10.60 m
	外壁塗膜撤去（建具周囲）	3.48	-	1.38					=	2.10 m2
	建具周囲ｺﾝｸﾘ撤去（m3）	0.52	-	1.38	*	0.15			=	0.31 m3
	建具周囲ｺﾝｸﾘ撤去（m）	5.80							=	5.80 m2
	既存窓撤去（0.6x2.3）	1.00							=	1.00 箇所
	【仕上等数量】									
	複層仕上塗材（RE）ローラー塗	3.48							=	3.48 m2
									小計	3.48 m2
	【直接仮設】									
	↓該当なしの場合、 x 表記									
	躯体墨だし（作業範囲巾）	(0.60	+	0.30	*	2	)*	1.00	=	1.20 m2
	清掃跡片付け（作業範囲巾）	1.20							=	1.20 m2
	脚立足場（H2.0）	1.20							=	1.20 m2
	仮設間仕切壁（木軸）屋外	(0.60	+	1.00	)*(	2.30	+	0.50)	=	4.48 m2
	仮設間仕切壁（GB-S張り）屋外	4.48							=	4.48 m2
	仮設間仕切壁（GB-S張り）天板	(0.60	+	1.00	)*	0.50			=	0.80 m2

種　　別	略　図　計　算　式							数　　量
附帯工事7	配線作業用点検口設置工事							
図面番号：A-18								
点検口設置								
2階								
会議室								
	1 既存壁厚	0.15						0.15 m
	2 階高	4.50						4.50 m
	3 スパン	6.00						6.00 m
	4 梁成（上階）	0.70						0.70 m
	5 梁下がり（上階）	0						0.00 m
	6 梁下がり（下階）	0.03						0.03 m
	7 柱巾	0.75						0.75 m
	8 天井高	3.00						3.00 m
	9 箇所数	2						2.00 箇所
	10 点検口サイズ（縦横同寸法）	0.60						0.60 m
	撤去復旧範囲の巾							
	点検口を中心に1m	1.00						1.00 m
	撤去復旧範囲の奥行							
	点検口を中心に1m	1.00						1.00 m
	撤去復旧範囲面積	1.00	*	1.00			=	1.00 m2
	撤去復旧範囲周長	(1.00	+	1.00	)*	2.00	=	4.00 m
	【撤去等数量】							
	カッター入れ_天井ボード	4.00	*	2.00	箇所		=	8.00 m
	ボード撤去（岩綿吸音板）	1.00	*	1.00	*	2.00 箇所	=	2.00 m2
	LGS天井下地撤去	2.00					=	2.00 m2
	【仕上等数量】							
	LGS天井下地（19型　捨貼り）	2.00					=	2.00 m2
	LGS天井開口下地（600角）	2.00					=	2.00 箇所
	天井点検口（600角・額縁）	2.00					=	2.00 箇所
	天井ボード張り（岩綿吸音板下地共）	2.00					=	2.00 m2

No.

・　・

種　　別	略　図　計　算　式									数　　量
	【直接仮設】									
	↓該当なしの場合、 x 表記									
	躯体墨だし（作業範囲1.5m巾）	1.50	*	1.50	*	2.00	箇所		=	4.50 延m2
	清掃跡片付け（作業範囲1.5m巾）	4.50							=	4.50 延m2
	周囲養生（床面：作業範囲1.5m巾）	4.50							=	4.50 延m2
	脚立足場（H2.0）	4.50							=	4.50 延m2
	仮設間仕切壁(木軸片面ボード)	(1.50	+	1.50	)*	2.00	*	2.00	箇所 =	12.00 m2
	作業員通路（w600、養生ｼｰﾄ敷）	5.40	+	4.60					=	10.00 m

種　　別	略　図　計　算　式							数　　量
耐水化工事	堤防新設工事							
図面番号：A-9, 10								
堤防構築	構築場所：X0、Y0～Y1付近							
1階								
ファン室								
	1 壁厚	0.12						0.12 m
	3 高さ	0.10						0.10 m
	4 長さ	1.44						1.44 m
	10 面積（構築部分）	0.12	*	1.44			=	0.17 m
	11 作業範囲（側面）	1.44						1.44 m
	11 作業範囲（奥行：片側）	1.00						1.00 m
	作業対象面積（両側）	1.44	*	1.00			=	1.44 m2
	【躯体等数量】							
	配筋							
	横筋	1.44	*	2	本		=	2.88 m
	縦筋	0.10	*	3	本		=	0.30 m
							小計	3.18 m
	D13　単位重量	0.995	*	3.18	m		=	3.16 kg
	型枠							
	立上り分（両面）	1.44	*	0.10	*	2	=	0.29 m2
	コンクリート							
	普通コンクリート	0.12	*	0.10	*	1.44	=	0.02 m3
	差し筋アンカー横向き	2	本				=	2.00 本
	差し筋アンカー下向き	3	本				=	3.00 本
	【撤去等数量】							
	目荒らし（床）	0.17					=	0.17 m3
	【直接仮設】							
	↓該当なしの場合、x 表記							
	躯体墨だし	1.44					=	1.44 m2
	清掃跡片付け	1.44					=	1.44 m2
	周囲養生（床面）	1.44					=	1.44 m2

非建築構造部材（ガラス面積）施工明細一覧

階	室名	建具記号	建具数	ガラス種別	ガラス形状	板数	網入有無	当初板厚	巾	高さ	面積	対象箇所数	小計	面積区分		周長	対象箇所数	周長計
1	モーター室	AW8	2	GA-2	ブロンズ透明	単板	線入	6.8	0.6	2.3	1.38	2	2.8	2㎡		5.80	2	11.60
1	階段室1	AW8	1	GA-2	ブロンズ透明	単板	線入	6.8	0.6	2.3	1.38	1	1.4	2㎡		5.80	1	5.80
1	発電機室	AW10	3	GA-1	ブロンズ透明	複層	線入	6.8-5A6	0.6	2.3	1.38	3	4.1	2㎡		5.80	3	17.40
2	操作盤室	AW1	1	GA-2	ブロンズ透明	単板	線入	6.8	1.8	2.3	4.14	1	4.1	6㎡		8.20	1	8.20
2	操作盤室	AW1		GA-2	ブロンズ透明	単板	線入	6.8	1.75	2.3	4.03	1	4.0	6㎡		8.10	1	8.10
2	宿直室	AW1		GA-4	ブロンズ透明	単板	なし	8	1.65	2.3	3.8	1	3.8	4㎡		7.90	1	7.90
2	宿直室	AW1		GA-3	ブロンズ透明	単板	なし	10	1.75	2.3	4.03	1	4.0	6㎡		8.10	1	8.10
2	会議室	AW1		GA-4	ブロンズ透明	単板	なし	8	1.67	2.3	3.85	1	3.9	4㎡		7.94	1	7.94
2	会議室	AW1		GA-3	ブロンズ透明	単板	なし	10	1.75	2.3	4.03	1	4.0	6㎡		8.10	1	8.10
2	会議室	AW1		GA-4	ブロンズ透明	単板	なし	8	1.51	2.3	3.48	1	3.5	4㎡		7.62	1	7.62
2	会議室	AW2	1	GA-4	ブロンズ透明	単板	なし	8	1.46	2.3	3.36	1	3.4	4㎡		7.52	1	7.52
2	会議室	AW2	1	GA-4	ブロンズ透明	単板	なし	8	1.75	2.3	4.03	1	4.0	6㎡		8.10	1	8.10
2	会議室	AW2	1	GA-4	ブロンズ透明	単板	なし	8	1.065	1.9	2.03	1	2.0	4㎡		5.93	1	5.93
2	会議室	AW2		GA-5	ブロンズ透明	単板	なし	5	1.065	0.9	0.96	2	1.9	2㎡		3.93	2	7.86
2	会議室	AW3	1	GA-4	ブロンズ透明	単板	なし	8	1.22	2.3	2.81	1	2.8	4㎡		7.04	1	7.04
2	会議室	AW4	1	GA-4	ブロンズ透明	単板	なし	8	1.395	2.3	3.21	3	9.6	4㎡		7.39	3	22.17
2	便所	AW5	1	GA-4	ブロンズ透明	単板	なし	8	1.523	2.3	3.51	1	3.5	4㎡		7.65	1	7.65
2	ホール	AW5		GA-4	ブロンズ透明	単板	なし	8	1.563	2.3	3.6	4	14.4	4㎡		7.73	4	30.92
2	ホール	AW6	1	GA-4	ブロンズ透明	単板	なし	8	1.43	2.3	3.29	4	13.2	4㎡		7.46	4	29.84
2	階段室2	AW12	1	GA-5	ブロンズ透明	単板	なし	5	0.6	3	1.8	1	1.8	2㎡		7.20	1	7.20
													92.2					224.99

ガラス種別集計表

非建築構造部材_撤去工事						
ガラス種別	ガラス形状	工事内容	摘要	箇所数	面積	単位
GA-1	複層	GA-1_複層	2～10mm	1	4.10	m2
GA-2	網入り	GA-2_網入り	2～10mm	4	12.30	m2
GA-3	単板10	GA-3_単板10	2～10mm	2	8.00	m2
GA-4	単板8	GA-4_単板8	2～10mm	11	64.10	m2
GA-5	単板5	GA-5_単板5	2～10mm	2	3.70	m2
			小計		92.20	m2
		シーリング撤去	周長計		224.99	m

非建築構造部材_新設工事						
ガラス種別	ガラス形状	工事内容	摘要	区分	面積	単位
GA-1	複層合わせ	GA-1_複層合わせ	PW6.8+A6+FL3&FL3	4㎡以下	4.10	m2
GA-2	網入り合わせ	GA-2_網入り合わせ	PW6.8&FL6	4㎡以下	12.30	m2
GA-3	合わせ厚10	GA-3_合わせ厚10	FL5&FL5	4㎡以下	8.00	m2
GA-4	合わせ厚10	GA-4_合わせ厚10	FL5&FL5	4㎡以下	64.10	m2
GA-5	合わせ厚6	GA-5_合わせ厚6	FL3&FL3	2㎡以下	3.70	m2
			小計		92.20	m2
		ガラス留めシーリング	5mm x 5mm　シリコン1成分系		224.99	m

	名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
	芝川ポンプ場耐震補強工事（電気設備）						
	直接工事費						
	Ⅰ.電気設備工事		1.0	式			
	Ⅱ.建築副産物処理費		1.0	式			
	計						
	共通費						
	Ⅰ.共通仮設費		1.0	式			改修電気設備工事
	Ⅱ.現場管理費		1.0	式			完全週休2日（土日）補正係数1.01 改修電気設備工事
	Ⅲ.一般管理費		1.0	式			電気設備工事
	計						
	合計（工事価格）						
	消費税相当額		1.0	式			10%
	総合計（工事費）						

	名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
	Ⅰ．電気設備工事						
	Ⅰ-1. 電灯設備工事		1.0	式			
	Ⅰ-2. 動力設備工事		1.0	式			
	Ⅰ-3. 放送設備工事		1.0	式			
	Ⅰ-4. インターホン設備工事		1.0	式			
	Ⅰ-5. 直接仮設工事		1.0	式			
	Ⅰ.の計						
	Ⅱ．建築副産物処理費		1.0	式			別紙「建築副産物処理費計算書」参照

	名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
Ⅰ.	電気設備工事						
	1.　電灯設備工事						
	(1)　電灯幹線						
	主開閉器盤	M	1.0	面			
	電線	EM-IE3.5sq　　管内	25.0	m			
	ケーブル	EM-CE3.5sq-2C　管内	41.0	m			
	ケーブル	EM-CE3.5sq-2C　ｺﾛｶﾞｼ	9.0	m			
	ケーブル	EM-CE3.5sq-3C　管内	23.0	m			
	ケーブル	EM-CE3.5sq-3C　ｺﾛｶﾞｼ	9.0	m			
	ケーブル	EM-CE8sq-3C　　管内	13.0	m			
	ケーブル	EM-CE8sq-3C　　ｺﾛｶﾞｼ	9.0	m			
	ケーブル	EM-CE14sq-3C　管内	51.0	m			
	ケーブル	EM-CE14sq-3C　ｺﾛｶﾞｼ	9.0	m			
	ケーブル	EM-CET22sq　　ｺﾛｶﾞｼ	11.0	m			
	ケーブル	EM-CET60sq　　ｺﾛｶﾞｼ	11.0	m			
	ねじ無し電線管	(E25)　　露出	44.0	m			
	ねじ無し電線管	(E31)　　露出	44.0	m			

	名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
	ねじ無し電線管	(E51)　　露出	9.0	m			
	ねじ無し電線管	(E63)　　露出	12.0	m			
	プルボックス	150×150×150　鋼製	2.0	個			
	プルボックス	200×200×150　鋼製	4.0	個			
	プルボックス	300×300×200　鋼製	4.0	個			
	はつり補修費		1.0	式			別紙明細書 -1
	塗装費		1.0	式			別紙明細書 -2
	撤去費		1.0	式			別紙明細書 -3
	1-(1)計						
	(2)　電灯分岐						
	手元開閉器	S-UB	1.0	面			
	埋込スイッチ	1P15A×1　　金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	1.0	個			
	埋込スイッチ	1P15A×1+PL×1 金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	1.0	個			
	埋込スイッチ	1P15A×2+PL×1 金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	1.0	個			
	埋込スイッチ	1P15A×1+換気SW 金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	1.0	個			
	埋込コンセント	2P15A×2　　金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	1.0	個			

	名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
	埋込コンセント	2P15AE×2　　金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	6.0	個			
	埋込コンセント	ﾌﾟﾗｸﾞ共 2P15AE×1　250V 金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	1.0	個			
	ケースブレーカー	ELCB2P1E15A ｺﾝｾﾝﾄ付　　防水型	1.0	個			
	照明器具	ダウンライト LRS1-08LN	3.0	台			
	照明器具　　撤去・再取付	投光器　　HF200W×1	12.0	台			
	照明器具　　撤去・再取付	蛍光灯　直付　　FL40W×1	1.0	台			
	換気扇　　撤去・再取付	350φ	1.0	台			
	接地工事	ED 接地銅棒　1500L	1.0	ヶ所			
	電線	EM-IE2.0　　管内	225.0	m			
	ケーブル	EM-EEF2.0-2C　コロガシ	8.0	m			
	ケーブル	EM-EEF2.0-3C　コロガシ	47.0	m			
	ねじ無し電線管	(E19)　　露出	45.0	m			
	ねじ無し電線管	(E19)　　埋込	2.0	m			
	ねじ無し電線管	(E25)　　露出	19.0	m			
	厚鋼電線管	(G16)　　露出	5.0	m			
	硬質ﾋﾞﾆﾙ電線管	(VE16)　　埋込	2.0	m			
	メタルモール	A型	22.0	m			

	名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
	同上付属品	A型　ｺｰﾅｰﾎﾞｯｸｽ	8.0	個			
	同上付属品	A型　ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ　1個用	9.0	個			
	プルボックス	150×150×100　鋼製	4.0	個			
	プルボックス（WP）	150×150×100　溶融亜鉛メッキ仕上	3.0	個			
	アウトレットボックス	四角中深	3.0	個			
	スイッチボックス	１個用	1.0	個			
	露出スイッチボックス	1個用1方出　(E19)	3.0	個			
	露出ボックス	丸1方出　(E19)	7.0	個			
	露出ボックス	丸3方出　(E19)	1.0	個			
	はつり補修費		1.0	式			別紙明細書 -4
	塗装費		1.0	式			別紙明細書 -5
	撤去費		1.0	式			別紙明細書 -6
	1-(2)計						
	Ⅰ-1.計						

	名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
	2.　動力設備工事						
	電線	EM-IE3.5sq　　管内	35.0	m			
	電線	EM-IE5.5sq　　管内	60.0	m			
	電線	EM-IE14sq　　管内	30.0	m			
	電線	EM-IE22sq　　管内	11.0	m			
	ケーブル	EM-CE3.5sq-3C　管内	12.0	m			
	ケーブル	EM-CE14sq-3C　管内	33.0	m			
	ケーブル	EM-CE14sq-3C　ｺﾛｶﾞｼ	40.0	m			
	ケーブル	EM-CET22sq　　管内	18.0	m			
	ケーブル	EM-CET22sq　　ｺﾛｶﾞｼ	12.0	m			
	ケーブル	EM-CET38sq　　管内	3.0	m			
	ケーブル	EM-CET38sq　　ｺﾛｶﾞｼ	13.0	m			
	ケーブル	EM-CET38sq　　ﾗｯｸ	14.0	m			
	ケーブル	EM-CET150sq　　ｺﾛｶﾞｼ	11.0	m			
	ねじ無し電線管	（E25）　　露出	12.0	m			
	ねじ無し電線管	（E31）　　露出	25.0	m			

	名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
	ねじ無し電線管	(E31)　　埋込	2.0	m			
	ねじ無し電線管	(E51)　　露出	18.0	m			
	２種可とう電線管	(#50)	3.0	m			
	プルボックス	200×200×150　鋼製	3.0	個			
	はつり補修費		1.0	式			別紙明細書 -7
	塗装費		1.0	式			別紙明細書 -8
	撤去費		1.0	式			別紙明細書 -9
	Ⅰ-2.計						
	3.　放送設備						
	業務・非常放送ｱﾝﾌﾟ	撤去・再取付　10局壁掛型	1.0	台			
	ﾎｰﾝ型ｽﾋﾟｰｶｰ	撤去・再取付　10W	1.0	台			
	天井埋込ｽﾋﾟｰｶｰ	撤去・再取付　3W	1.0	台			
	定温式ｽﾎﾟｯﾄ感知器	撤去・再取付　防水型	1.0	個			
	ＭＤＦ	撤去・再取付　450×600×150	1.0	面			
	電線管	撤去・再取付　(E51)	2.4	m			
	ケーブル	EM-HP1.2-3C　管内	68.0	m			

	名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
	ケーブル	EM-HP1.2-3C　FP内	4.0	m			
	ケーブル	EM-HP1.2-3C　ｺﾛｶﾞｼ	18.0	m			
	ケーブル	EM-AE1.2-4C　ｺﾛｶﾞｼ	2.0	m			
	ねじ無し電線管	(E19)　露出	39.0	m			
	ねじ無し電線管	(E25)　露出	8.0	m			
	ねじ無し電線管	(E31)　露出	20.0	m			
	ねじ無し電線管	(E31)　埋込	1.0	m			
	合成樹脂製可とう電線管	(PF28)　いんぺい	3.0	m			
	メタルモール	A型	5.0	m			
	同上付属品	A型　ｺｰﾅｰﾎﾞｯｸｽ	1.0	個			
	同上付属品	A型　ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ	1.0	個			
	アウトレットボックス	四角中深	1.0	個			
	露出ボックス	丸1方出　(E19)	1.0	個			
	プルボックス	150×150×100　鋼製	6.0	個			
	プルボックス	200×200×150　鋼製	2.0	個			
	はつり補修費		1.0	式			別紙明細書 -10-1
	区画貫通処理		1.0	式			別紙明細書 -10-2

	名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
	塗装費		1.0	式			別紙明細書 -11
	撤去費		1.0	式			別紙明細書 -12
	Ⅰ-3.計						
	4.　インターホン設備						
	インターホン親機	撤去・再取付　　10局　卓上型	1.0	台			
	インターホン子機	撤去・再取付　　壁掛	4.0	台			
	玄関子機アダプタ	撤去・再取付	1.0	個			
	ケーブル	EM-AE0.9-2C　　管内	96.0	m			
	ケーブル	EM-AE0.9-2C　　PF管内	14.0	m			
	ケーブル	EM-AE0.9-2C　　ｺﾛｶﾞｼ	11.0	m			
	ケーブル	EM-AE0.9-10P　管内	4.0	m			
	ケーブル	EM-AE0.9-10P　ｺﾛｶﾞｼ	10.0	m			
	ねじ無し電線管	（E19）　　露出	21.0	m			
	ねじ無し電線管	（G16）　　露出	3.0	m			
	露出ボックス	丸1方出　　（E19）	6.0	個			
	プルボックス（WP）	150×150×100　溶融亜鉛メッキ仕上	2.0	個			

	名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
	はつり補修費		1.0	式			別紙明細書 -13
	塗装費		1.0	式			別紙明細書 -14
	撤去費		1.0	式			別紙明細書 -15
	Ⅰ-4.計						
	5. 直接仮設						
	枠組本足場	W=600　　階高12m以下	128.0	架㎡			
	X線鉄筋探査		1.0	式			別紙明細書 -16
	Ⅰ-5.計						

別紙No	名　称	内　　容	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙明細-1	Ⅰ-1. 電灯設備工事（1）電灯幹線					
	【はつり補修費】						
	はつり補修	100φ　L＝150	7.0	ヶ所			
	はつり補修	200×200×100	2.0	ヶ所			
	小計						
	改め						

別紙No	名　称	内　　容	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙明細-2	Ⅰ-1. 電灯設備工事（1）電灯幹線					
	【塗装費】						
	電線管	(E25)	44.0	m			
	電線管	(E31)	44.0	m			
	電線管	(E51)	9.0	m			
	電線管	(E63)	12.0	m			
	鋼板	平面	2.550	m2			
	小計						
	改め						

別紙No	名　称	内　　容	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙明細-3	Ⅰ-1. 電灯設備工事（1）電灯幹線					
	【撤去費】						
	主開閉器盤	自立型	1.0	面			
	電線	IV2.0	170.0	m			
	電線	IV8sq	156.0	m			
	電線	IV14sq	42.0	m			
	ケーブル	CV5.5sq-2C　管内	2.0	m			
	ケーブル	CV5.5sq-2C　コロガシ	9.0	m			
	ケーブル	CVT38　管内	7.0	m			
	ケーブル	CVT38　コロガシ	7.0	m			
	ケーブル	CVT60　管内	7.0	m			
	ケーブル	CVT60　コロガシ	7.0	m			
	電線管	(C51)　露出	1.0	m			
	電線管	(C75)　露出	4.0	m			
	配線ダクト	200×200	5.0	m			
	プルボックス	300×300×300	2.0	個			
	小計						
	改め						

別紙No	名　称	内　　容	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙明細-4	Ⅰ-1. 電灯設備工事（2）電灯分岐					
	【はつり補修費】						
	はつり補修	50φ　L＝150	5.0	ヶ所			
	小計						
	改め						

別紙No	名　称	内　　容	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙明細-5	Ⅰ-1. 電灯設備工事（2）電灯分岐					
	【塗装費】						
	電線管	(E19)	45.0	m			
	電線管	(E25)	19.0	m			
	電線管	(G16)	5.0	m			
	露出ﾎﾞｯｸｽ		11.0	個			
	鋼板	平面	0.540	m2			
	小計						
	改め						

別紙No	名　称	内　　容	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙明細-6	Ⅰ-1. 電灯設備工事（2）電灯分岐					
	【撤去費】						
	照明器具	蛍光灯　FL20W×1	3.0	台			
	照明器具	白熱灯　IL60W×1	1.0	台			
	埋込コンセント	2P15A×2	4.0	個			
	埋込コンセント	2P15AE×1　250V	1.0	個			
	埋込コンセント	2P15A×3	1.0	個			
	埋込スイッチ	1P15A×1+PL	2.0	個			
	埋込スイッチ	1P15A×2+PL	1.0	個			
	電線	IV2.0	236.0	m			
	ケーブル	VVF1.6-2C　コロガシ	2.0	m			
	ケーブル	VVF2.0-2C　コロガシ	1.0	m			
	メタルモール	A型	3.0	m			
	ビニルモール		1.0	m			
	小計						
	改め						

別紙No	名　称	内　　容	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙明細-7	Ⅰ-2. 動力設備工事					
	【はつり補修費】						
	はつり補修	50φ　L＝150	1.0	ヶ所			
	はつり補修	100φ　L＝150	3.0	ヶ所			
	溝はつり補修	100×100	2.0	m			
	小計						
	改め						

別紙No	名　称	内　　容	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙明細-8	Ⅰ-2. 動力設備工事					
	【塗装費】						
	電線管	(E25)	12.0	m			
	電線管	(E31)	25.0	m			
	電線管	(E51)	18.0	m			
	鋼板	平面	0.450	m2			
	小計						
	改め						

別紙No	名　称	内　　容	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙明細-9	Ⅰ-2. 動力設備工事					
	【撤去費】						
	電線	IV2.0	166.0	m			
	電線	IV8sq	105.0	m			
	電線	IV14sq	67.0	m			
	電線	IV38sq	66.0	m			
	電線	IV50sq	135.0	m			
	ケーブル	CV8sq-3C　管内	7.0	m			
	ケーブル	CV8sq-3C　コロガシ	7.0	m			
	ケーブル	CVT150　管内	14.0	m			
	ケーブル	CVT150　コロガシ	15.0	m			
	小計						
	改め						

別紙No	名　称	内　　容	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙明細-10-1	Ⅰ-3. 放送設備工事					
	【はつり補修費】						
	はつり補修	50φ　L＝150	6.0	ヶ所			
	溝はつり補修	100×100	0.5	m			
	小計						
	改め						

別紙No	名　称	内　　容	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙明細-10-2	Ⅰ-3. 放送設備工事					
	【区画貫通処理】						
	金属管短管用	(31)	1.0	ヶ所			
	小計						
	改め						

別紙No	名　称	内　　容	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙明細-11	Ⅰ-3. 放送設備工事					
	【塗装費】						
	電線管	(E19)	39.0	m			
	電線管	(E25)	8.0	m			
	電線管	(E31)	20.0	m			
	露出ﾎﾞｯｸｽ		1.0	個			
	鋼板	平面	1.030	m2			
	小計						
	改め						

別紙No	名　称	内　　容	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙明細-12	Ⅰ-3. 放送設備工事					
	【撤去費】						
	端子盤	400×200×120　　10P　壁掛	1.0	面			
	電線	HIV1.2	165.0	m			
	メタルモール	A型	1.0	m			
	小計						
	改め						

別紙No	名　称	内　　容	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙明細-13	Ⅰ-4. インターホン設備					
	【はつり補修費】						
	はつり補修	50φ　L＝150	3.0	ヶ所			
	小計						
	改め						

別紙No	名　称	内　　容	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙明細-14	Ⅰ-4. インターホン設備					
	【塗装費】						
	電線管	(E19)	21.0	m			
	電線管	(G16)	3.0	m			
	露出ﾎﾞｯｸｽ		6.0	個			
	小計						
	改め						

別紙No	名　称	内　　容	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙明細-15	Ⅰ-4. インターホン設備					
	【撤去費】						
	電線	IV1.2	230.0	m			
	ケーブル	CPEV1.2-10P　　コロガシ	4.0	m			
	小計						
	改め						

別紙No	名　称	内　　容	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	別紙明細-16	Ⅰ-5. 直接仮設					
	【鉄筋探査費】						
	壁(0.5m×0.5m)	20か所	5.0	㎡			
	床(0.5m×0.5m)	2か所	0.5	㎡			
	小計						
	改め						

件名：　芝川ポンプ場耐震補強工事（電気設備）

建設副産物処理費　計算書

（1）　有価物売却費　　①有価物処分費　　＋　②運搬費　　＝　内訳(1)

（2）　建設廃棄物（混合廃棄物）　①処分費　　＋　②運搬費　　＝　内訳(3)

（3）　リサイクル処理　　①処分費　　＋　②運搬費　　＝　内訳(2)

（4）　特別管理産業廃棄物（管理者保管）

品　　名	数　量	保　管　場　所

有価物売却費　合　計

内訳(1)　＝　　≒

建設副産物処理費用　合　計

内訳（2）　＝　　≒

リサイクル処理　合　計

内訳（3）　＝　　≒

産業廃棄物処理費　　合　計　　（円）

産廃処理費用合計

建設副産物処理費用
（1） ①有価物売却費

品　名	規　格	重量		容積		算　出	金　額(円)	摘　　要
		数　量	単　位	数　量	単　位			
鉄　く　ず	ヘビーH2		t		m3			鋼板･重機解体･丸棒･ﾊﾟｲﾌﾟ類
〃	故銑 B		t		m3			並銑又はﾓｰﾀｰﾌﾞﾛｯｸ完全解体物
電　線　く　ず	1号銅くず	315.53	kg	0.28	m3	別紙		
下　銅			kg					銅ﾊﾞｰ･避雷銅線
合　計		0.32	t	0.28	m3			

2t ダンプ車

最大積載量	処分場直線距離	1回当たり片道運搬委託料金
2t／3.85m3	25.00Km	

4t ダンプ車

最大積載量	処分場直線距離	1回当たり片道運搬委託料金
4t／6.0m3	25.00Km	

重量容量換算値

建設副産物	ﾄﾝ/m3
金属くず	1.13
廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	1.1
ｺﾝｸﾘｰﾄ塊	2.35
石膏ボード	0.7

（環境省資料）

上記により、今回運搬は　4t 車　使用とする。

②運搬費
運搬回数 ＝　1 回　×　　円　＝　　円

（2） ①建設廃棄物 （混合廃棄物処分費）

廃　棄　物　種　別	重量 数　量	重量 単　位	容積 数　量	容積 単　位	中間処分単価（円/m3）	最終処分単価（円/m3）	金　額(円)
ｺﾝｸﾘｰﾄ破片 （安定処分） 鉄筋なし		t		m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ破片 （安定処分） 鉄筋有り		t		m3			
金属くず （安定処分）		t		m3			
廃プラスチック （安定処分）	0	t	0.00	m3			
混合廃棄物 （安定処分）(石膏ﾎﾞｰﾄﾞ除く)	0.48	t	3.31	m3			
石膏ボード(再生)		t		m3			
廃油 （管理処分）		t		ﾘｯﾄﾙ			
合　　計	0.48	t	3.31	m3			

②運搬費 ＝ 1 回 × 円 ＝ 円
（2tﾀﾞﾝﾌﾟ車）

件名：	芝川ポンプ場耐震補強工事（電気設備）			工事種別			建設副産物数量集計				産廃数量集計						NO. 1
材	料								数量	数量	体積	体積計	重量	合計重量		採用重量	備　考
品　名		規　格		電灯幹線	電灯分岐	動力	放送	ｲﾝﾀｰﾎﾝ	小計	合計	m3		kg	kg	t	t	
混合廃棄物													（想定）				
主開閉器盤	M	1.0*1.82*0.32	面	1					1	1	0.5824	0.5824	300.00	300.00	0.3000		
電線管	C51		m	7					7	7	0.0020	0.0140	0.002	0.01	0.0001		
電線管	C75		m	7					7	7	0.0033	0.0231	0.004	0.03	0.0001		
配線ダクト	200×200		m	5					5	5	0.4400	2.2000	30.00	150.00	0.1500		
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	300×300×300		m	1					1	1	0.4400	0.4400	10.00	10.00	0.0100		
照明器具	FL20W×1	直付0.7*0.15*0.1	台		3				3	3	0.0105	0.0315	2.00	6.00	0.0060		
照明器具	IL60W×1	直付0.15*0.15*0.15	台		1				1	1	0.0034	0.0034	0.80	0.80	0.0008		
端子盤		0.4*0.4*0.12	面				1		1	1	0.0192	0.0192	10.00	10.00	0.0100		
合　計												3.31		476.84	0.4770	0.48	

材	料			受電棟	（撤去）				数量	数量	体積	体積計	重量	合計重量		採用重量	備　考
品　名		規　格		電灯設備	動力設備	弱電設備	自火報		小計	合計	m3		kg	kg	t	t	
廃プラスチック																	
合　計																	

件名：	芝川ポンプ場耐震補強工事（電気設備）				工事種別			建設副産物数量集計				産廃数量集計					NO. 2
材　　料										数量	数量	銅質量	電線重量	銅質量計	電線重量計		備　考
品　　名	規　　格				電灯幹線	電灯分岐	動力	放送	ｲﾝﾀｰﾎﾝ	小計	合計	kg/m	kg/m	kg	kg		
＜電線くず＞	銅質量		電線重量										被覆込み		被覆込み		
IV1.2、HIV1.2	3.0 kg	/300m	17 kg/km					165	230	395	395	0.010	0.017	3.950	6.72		
IV1.6	5.4 kg	/300m	27 kg/km									0.018	0.027				
IV2.0	8.4 kg	/300m	38 kg/km		172	236	166			574	574	0.028	0.038	16.070	21.81		
IV3.5	9.5 kg	/300m	45 kg/km									0.032	0.045				
IV5.5	14.8 kg	/300m	70 kg/km									0.049	0.070				
IV8	21.4 kg	/300m	105 kg/km		156		105			261	261	0.071	0.105	18.530	27.41		
IV14	38.0 kg	/200m	175 kg/km		42		67			109	109	0.190	0.175	20.710	19.08		
IV22	39.6 kg	/200m	265 kg/km									0.198	0.265				
IV38	33.4 kg	/100m	430 kg/km				66			66	66	0.334	0.430	22.040	28.38		
IV50	161.0 kg	/300m	650 kg/km				135			135	135	0.537	0.650	72.500	87.75		
CV5.5-2C	29.7 kg	/300m	235 kg/km		11					11	11	0.099	0.235	1.090	2.59		
CV14-2C	76.0 kg	/300m	435 kg/km									0.253	0.435				
CV3.5-3C	28.5 kg	/300m	210 kg/km									0.095	0.210				
CV5.5-3C	44.5 kg	/300m	300 kg/km									0.148	0.300				
CV8-3C	64.1 kg	/300m	385 kg/km				14			14	14	0.214	0.385	3.000	5.39		
CVT22	178.0 kg	/300m	880 kg/km									0.593	0.880				
CVT38	301.0 kg	/300m	1380 kg/km		14					14	14	1.003	1.380	14.040	19.32		
CVT60	483.0 kg	/300m	2100 kg/km		14					14	14	1.610	2.100	22.540	29.40		
CVT150	1251.0 kg	/300m	5180 kg/km				29			29	29	4.170	5.180	120.930	150.22		
VVF1.6-2C	3.6 kg	/100m	145 kg/km			2				2	2	0.036	0.145	0.070	0.29		
VVF2.0-2C	5.6 kg	/100m	190 kg/km			1				1	1	0.056	0.190	0.060	0.19		
HP1.2-5P	30.0 kg	/300m	205 kg/km									0.100	0.205				
電線くず一式					小　　計									315.530	398.55		

銅スクラップ売却する場合＜銅スクラップ売却費＞

銅スクラップ売却単価 ＝ 円／kg　ナゲット処理費 ＝ 円／kg

売却費 ＝ 単価 × 銅質量合計（kg） － ナゲット処理費 × 電線重量 ＝ （円/kg）× 315.53 （kg） － （円/kg）× 398.55 （kg） ＝ 円

売却費採用価格 ＝ 円

件名：	芝川ポンプ場耐震補強工事（電気設備）			工事種別		撤去ﾗﾝﾌﾟ数量						NO. 3						
材		料								器具数量	ﾗﾝﾌﾟ数量	ランプ本数						
品	名	規	格			電灯撤去				計	計	FL20W	FL40W		電球			
照明器具																		
	FL20W×1	直付				1				1	1	1						
	FL20W×2	埋込																
	FL40W×1	直付																
	FL40W×2	直付																
	FL40W×2	埋込																
	IL40W×1	直付																
	IL60W×1	ﾀﾞｳﾝﾗｲﾄ				1				1	1				1			
												1			1			

芝川ポンプ場耐震補強工事（電気設備）

数量計算書

1. 電灯設備（1）電灯幹線（改修）

数量拾い書

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯幹線設備（改修）	区分	盤

品　　名		計上数量		B1F		1F		2F											小　計	備　　考
		数量	単位																	
主開閉器盤	M	1	面					1											1	
	（歩掛）	8	人																	

盤類歩掛表

※配線用遮断器数には予備回路は含まない

公共　　E1-2-15

工事項目	盤　　名	作業種別	配線用遮断器									動力制御回路					歩掛計	修正歩掛
			MCB1P	MCB2P				MCB3P										
			50AF	50AF	100AF	225AF	1E,2E20A	50AF	100AF	225AF	400AF	2.2kW以下	3.7kW以下	5.5kW以下	7.5kW以下	11kW以下		
		歩掛	0.302	0.380	0.526	0.741	0.264	0.558	0.708	1.040	1.260	1.59	1.77	1.89	1.95	2.12		
幹線設備				1				8	2	2	1							
	主開閉器盤　M			0.38				4.464	1.416	2.08	1.26						9.6	8

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯幹線設備（改修）	区分	電灯幹線　配管配線	大集計

品　　名		計上数量 数量	単位	各集計より	集計	小　計	合　計	備　　考
							(端数処理)	
EM-IE3.5sq　×1		25	m		24.70	24.70	25.0	
EM-CE 3.5sq-2C	管内	41	m		40.60	40.60	41.0	
EM-CE 3.5sq-2C	コロガシ	9	m		8.90	8.90	9.0	
EM-CE 3.5sq-3C	管内	23	m		23.40	23.40	23.0	
EM-CE 3.5sq-3C	コロガシ	9	m		8.90	8.90	9.0	
EM-CE 8sq-3C	管内	13	m		13.30	13.30	13.0	
EM-CE 8sq-3C	コロガシ	9	m		8.90	8.90	9.0	
EM-CE14sq-3C	管内	51	m		50.70	50.70	51.0	
EM-CE14sq-3C	コロガシ	9	m		8.90	8.90	9.0	
EM-CET22sq	コロガシ	11	m		11.40	11.40	11.0	
EM-CET60sq	コロガシ	11	m		11.40	11.40	11.0	
電線管　(E25)	露出　塗装	44	m		43.60	43.60	44	
電線管　(E31)	露出　塗装	44	m		43.60	43.60	44	
電線管　(E51)	露出　塗装	9	m		8.80	8.80	9	
電線管　(E63)	露出　塗装	12	m		11.60	11.60	12	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ　鋼製	150×150×150	2	個		2.00		2	0.135m2/個
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ　鋼製	200×200×150	4	個		4.00		4	0.15m2/個
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ　鋼製	300×300×200	4	個		4.00		4	0.42m2/個
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ塗装面積；		2.55	m2					
はつり補修	50φ　L=150							
はつり補修	100φ　L=150	7	ヶ所		7.00		7	
溝はつり補修	100×100　(m)							
はつり補修　200×200×100	溝はつり100×100：0.4m相当	2	ヶ所		2.00		2	

【塗装面積：0.15*0.15*6=0.135m2】
【塗装面積：0.2*0.2*2+0.2*4*0.15=0.2m2】
【塗装面積：0.3*0.3*2+0.3*4*0.2=0.42m2】

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯幹線設備（改修）	区分	配管配線	集計（電灯幹線）

品　　名			計上数量		拾い（配管配線）																小　計	備　　考
			数量	単位	1	2	3	4														
EM-IE3.5sq	×1		24.70	m	12.10	11.30	1.30														24.70	
EM-IE5.5sq	×1			m																		
EM-IE14sq	×1			m																		
EM-IE22sq	×1			m																		
EM-CE 3.5sq-2C		管内	40.60	m	12.10	28.50															40.60	
EM-CE 3.5sq-2C		コロガシ	8.90	m		2.50	6.40														8.90	
EM-CE 3.5sq-3C		管内	23.40	m		13.30	10.10														23.40	
EM-CE 3.5sq-3C		コロガシ	8.90	m		2.50	6.40														8.90	
EM-CE 8sq-3C		管内	13.30	m		13.30															13.30	
EM-CE 8sq-3C		コロガシ	8.90	m		2.50	6.40														8.90	
EM-CE14sq-3C		管内	50.70	m	12.10	28.50	10.10														50.70	
EM-CE14sq-3C		コロガシ	8.90	m		2.50	6.40														8.90	
EM-CET22sq		管内		m																		
EM-CET22sq		コロガシ	11.40	m				11.40													11.40	
EM-CET38sq		管内		m																		
EM-CET38sq		コロガシ		m																		
EM-CET38sq		ラック		m																		
EM-CET60sq		コロガシ	11.40	m				11.40													11.40	
EM-CET150sq		コロガシ		m																		
電線管	(E25)	露出	43.60	m	12.10	30.20	1.30														43.60	
電線管	(E25)	埋込		m																		
電線管	(E31)	露出	43.60	m	12.10	30.20	1.30														43.60	
電線管	(E31)	埋込		m																		
電線管	(E51)	露出	8.80	m			8.80														8.80	
電線管	(E51)	埋込		m																		
電線管	(E63)	露出	11.60	m		11.60															11.60	
電線管	(E63)	埋込		m																		
可とう電線管	F2(50)			m																		
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	150×150×150	2	個		1	1														2	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	200×200×150	4	個	1	3															4	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	300×300×200	4	個		1	3														4	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	400×400×200		個																		
はつり補修		50φ　　L=150		ヶ所																		
はつり補修		100φ　　L=150	7	ヶ所	1	5	1														7	
溝はつり補修		100×100　　(m)		m																		
はつり補修	200×200×100	溝はつり100×100：0.4m相当	2	ヶ所		1.0	1.0														2	

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯幹線設備（改修）	区分	配管配線	電灯幹線拾い　(1)

品　　名		地下1階				L-A1,G1系		→												計	備　考
						1FL～L-B		→													
			平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
EM-IE3.5sq	×1						1.00	4.60	5.00	1.50											12.10	
EM-IE5.5sq	×1																					
EM-IE14sq	×1																					
EM-IE22sq	×1																					
EM-CE 3.5sq-2C		管内					1.00	4.60	5.00	1.50											12.10	
EM-CE 3.5sq-2C		コロガシ																				
EM-CE 3.5sq-3C		管内																				
EM-CE 3.5sq-3C		コロガシ																				
EM-CE 8sq-3C		管内																				
EM-CE 8sq-3C		コロガシ																				
EM-CE14sq-3C		管内					1.00	4.60	5.00	1.50											12.10	
EM-CE14sq-3C		コロガシ																				
EM-CET22sq		管内																				
EM-CET22sq		コロガシ																				
EM-CET38sq		管内																				
EM-CET38sq		コロガシ																				
EM-CET38sq		ラック																				
EM-CET60sq		コロガシ																				
EM-CET150sq		コロガシ																				
電線管	(E25)	露出					1.00	4.60	5.00	1.50											12.10	
電線管	(E25)	埋込																				
電線管	(E31)	露出					1.00	4.60	5.00	1.50											12.10	
電線管	(E31)	埋込																				
電線管	(E51)	露出																				
電線管	(E51)	埋込																				
電線管	(E63)	露出																				
電線管	(E63)	埋込																				
可とう電線管	F2(50)																					
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	150×150×150																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	200×200×150					1														1	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	300×300×200																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	400×400×200																				
はつり補修		50φ　L=150																				
はつり補修		100φ　L=150					1														1	
溝はつり補修		100×100　(m)																				
はつり補修	200×200×100	溝はつり100×100：0.4m相当																				

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)				工 事 種 別		電灯幹線設備（改修）						区分	配管配線				電灯幹線拾い　(2)		
品	名	1階			（B） ﾀﾞｸﾄ内立上げ		（C） ﾀﾞｸﾄ～PB		（E） PB～L-1		（D） PB～PB(ﾎｰﾙ)		→ PB～PB				（F） PB～PS内				計	備　考
			平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
EM-IE3.5sq	×1								5.50	2.00							1.30	2.50			11.30	
EM-IE5.5sq	×1																					
EM-IE14sq	×1																					
EM-IE22sq	×1																					
EM-CE 3.5sq-2C		管内						5.80			16.60	1.00	1.30				1.30	2.50			28.50	
EM-CE 3.5sq-2C		コロガシ				2.50															2.50	
EM-CE 3.5sq-3C		管内						5.80	5.50	2.00											13.30	
EM-CE 3.5sq-3C		コロガシ				2.50															2.50	
EM-CE 8sq-3C		管内						5.80	5.50	2.00											13.30	
EM-CE 8sq-3C		コロガシ				2.50															2.50	
EM-CE14sq-3C		管内						5.80			16.60	1.00	1.30				1.30	2.50			28.50	
EM-CE14sq-3C		コロガシ				2.50															2.50	
EM-CET22sq		管内																				
EM-CET22sq		コロガシ																				
EM-CET38sq		管内																				
EM-CET38sq		コロガシ																				
EM-CET38sq		ラック																				
EM-CET60sq		コロガシ																				
EM-CET150sq		コロガシ																				
電線管	(E25)	露出							5.50	2.00	16.60	1.00	1.30				1.30	2.50			30.20	
電線管	(E25)	埋込																				
電線管	(E31)	露出							5.50	2.00	16.60	1.00	1.30				1.30	2.50			30.20	
電線管	(E31)	埋込																				
電線管	(E51)	露出																				
電線管	(E51)	埋込																				
電線管	(E63)	露出						11.60													11.60	
電線管	(E63)	埋込																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	150×150×150							1												1	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	200×200×150							1		1						1				3	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	300×300×200					1														1	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	400×400×200																				
はつり補修		50φ　　L=150																				
はつり補修		100φ　　L=150					2		1				1				1				5	
溝はつり補修		100×100　(m)																				
はつり補修	200×200×100	溝はつり100×100：0.4m相当							1												1	

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)		工 事 種 別	電灯幹線設備（改修）						区分	配管配線							電灯幹線拾い　(3)				
品	名	2階	（Ｇ） Ｍ～PB				（Ｂ） Ｍ～１Ｆ		（Ｈ） PB～PB(ﾎｰﾙ)		→ PB～PB		（Ｉ） PB～L-2								計	備　　考
			平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
EM-IE3.5sq	×1													1.30							1.30	
EM-IE5.5sq	×1																					
EM-IE14sq	×1																					
EM-IE22sq	×1																					
EM-CE 3.5sq-2C		管内																				
EM-CE 3.5sq-2C		コロガシ					5.40	1.00													6.40	
EM-CE 3.5sq-3C		管内		1.30					3.00		4.50			1.30							10.10	
EM-CE 3.5sq-3C		コロガシ					5.40	1.00													6.40	
EM-CE 8sq-3C		管内																				
EM-CE 8sq-3C		コロガシ					5.40	1.00													6.40	
EM-CE14sq-3C		管内		1.30					3.00		4.50			1.30							10.10	
EM-CE14sq-3C		コロガシ					5.40	1.00													6.40	
EM-CET22sq		管内																				
EM-CET22sq		コロガシ																				
EM-CET38sq		管内																				
EM-CET38sq		コロガシ																				
EM-CET38sq		ラック																				
EM-CET60sq		コロガシ																				
EM-CET150sq		コロガシ																				
電線管	(E25)	露出												1.30							1.30	
電線管	(E25)	埋込																				
電線管	(E31)	露出												1.30							1.30	
電線管	(E31)	埋込																				
電線管	(E51)	露出		1.30					3.00		4.50										8.80	
電線管	(E51)	埋込																				
電線管	(E63)	露出																				
電線管	(E63)	埋込																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	150×150×150												1							1	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	200×200×150																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	300×300×200		1					1		1										3	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	400×400×200																				
はつり補修		50φ　　L=150																				
はつり補修		100φ　　L=150							1												1	
溝はつり補修		100×100　(m)																				
はつり補修	200×200×100	溝はつり100×100：0.4m相当												1							1	

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯幹線設備（改修）	区分	配管配線	電灯幹線拾い　(4)

品　　名		2階	低圧分岐盤 ～M																	計	備　考
			平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
EM-IE3.5sq	×1																					
EM-IE5.5sq	×1																					
EM-IE14sq	×1																					
EM-IE22sq	×1																					
EM-CE 3.5sq-2C		管内																				
EM-CE 3.5sq-2C		コロガシ																				
EM-CE 3.5sq-3C		管内																				
EM-CE 3.5sq-3C		コロガシ																				
EM-CE 8sq-3C		管内																				
EM-CE 8sq-3C		コロガシ																				
EM-CE14sq-3C		管内																				
EM-CE14sq-3C		コロガシ																				
EM-CET22sq		管内																				
EM-CET22sq		コロガシ	9.40	2.00																11.40		
EM-CET38sq		管内																				
EM-CET38sq		コロガシ																				
EM-CET38sq		ラック																				
EM-CET60sq		コロガシ	9.40	2.00																11.40		
EM-CET150sq		コロガシ																				
電線管	(E25)	露出																				
電線管	(E25)	埋込																				
電線管	(E31)	露出																				
電線管	(E31)	埋込																				
電線管	(E51)	露出																				
電線管	(E51)	埋込																				
電線管	(E63)	露出																				
電線管	(E63)	埋込																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	150×150×150																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	200×200×150																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	300×300×200																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	400×400×200																				
はつり補修		50φ　L=150																				
はつり補修		100φ　L=150																				
溝はつり補修		100×100　(m)																				
はつり補修	200×200×100	溝はつり100×100：0.4m相当																				

芝川ポンプ場耐震補強工事（電気設備）

数量計算書

1. 電灯設備（1）電灯幹線（撤去）

数量拾い書

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事（電気設備）	工 事 種 別	電灯幹線設備（撤去）	区分	盤その他

品　　名		計上数量		2階															小　計	備　　考
		数量	単位																	
主開閉器盤	M	1	面	1															1	
	歩掛：	7	人																	
	撤去歩掛：	1.4	人																	

盤類歩掛表

※配線用遮断器数には予備回路は含まない

公共　　E1-2-15

工事項目	盤　　名	作業種別	配線用遮断器								動力制御回路					歩掛計	修正歩掛
			MCB1P	MCB2P				MCB3P									
			50AF	50AF	100AF	225AF	1E,2E20A	50AF	100AF	225AF	2.2kW以下	3.7kW以下	5.5kW以下	7.5kW以下	11kW以下		
		歩掛	0.302	0.380	0.526	0.741	0.264	0.558	0.708	1.040	1.59	1.77	1.89	1.95	2.12		
幹線設備				2				8		3							
	主開閉器盤　M			0.76				4.464		3.12						8.344	7

数量拾い書

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯幹線（撤去）	区分	配管配線（撤去）	大集計

品　　名			計上数量 数量	単位	各集計より 集計	小集計	小　計	合　計	備　　考
【撤去】									
IV2.0	×2	管内	37	m	36.60		36.60	37.0	
IV2.0	×3	管内	32	m	32.30		32.30	32.0	
合計	IV2.0	管内	170	m					
IV8sq	×3	管内	52	m	51.70		51.70	52.0	
合計	IV8sq	管内	156	m					
IV14sq	×3	管内	14	m	14.20		14.20	14.0	
合計	IV14sq	管内	42	m					
CV5.5sq-2C		管内	2	m		2.20	2.20	2.0	
CV5.5sq-2C		コロガシ	9	m		9.20	9.20	9.0	
CVT 38sq		管内	7	m		6.80	6.80	7.0	
CVT 38sq		コロガシ	7	m		7.30	7.30	7.0	
CVT 60sq		管内	7	m		6.80	6.80	7.0	
CVT 60sq		コロガシ	7	m		7.30	7.30	7.0	
電線管		(C51)　露出	1	m		1.20	1.20	1.0	
電線管		(C75)　露出	4	m		3.60	3.60	4.0	
配線ダクト		200×200	5	m		5.45	5.45	5.0	
プルボックス		300×300×300	2	個		2.00	2	2	
（電線別集計）									
IV2.0			170	m					
IV8sq			156	m					
IV14sq			42	m					
CV5.5sq-2C			11	m					
CVT38sq			14	m					
CVT60sq			14	m					

数量拾い書

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯幹線（撤去）	区分	配管配線（撤去）	集計	（電灯幹線）

品	名	配管配線 撤去 小集計		計	IV	2.0×2 管内	2.0×3 管内			8sq×3 管内		14sq×3 管内										
【撤去】																						
IV2.0×2	管内	36.60		36.60		36.60																
IV2.0×3	管内	32.30		32.30			32.30															
IV 8sq×3	管内	51.70		51.70						51.70												
IV 8sq×3　E2.0	管内																					
IV14sq×3	管内	14.20		14.20								14.20										
				計		36.60	32.30			51.70		14.20										

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯幹線（撤去）	区分	配管配線（撤去）	小集計（電灯幹線）

品名			計上数量		配管配線（撤去） 拾い																小 計	備 考
			数量	単位	1	2	3	4														
【撤去】																						
IV2.0×2		管内	36.60	m	12.10	24.50															36.60	
IV2.0×3		管内	32.30	m		18.10	14.20														32.30	
IV2.0×3	E2.0	管内																				
IV 8sq×3		管内	51.70	m	12.10	39.60															51.70	
IV 8sq×3	E2.0	管内		m																		
IV14sq×3		管内	14.20	m			14.20														14.20	
IV38sq×3	E14sq	管内		m																		
IV50sq×3	E14sq	管内																				
CV5.5sq-2C		管内	2.20	m				2.20													2.20	
CV5.5sq-2C		コロガシ	9.20	m				9.20													9.20	
CV 8sq-3C		管内		m																		
CV 8sq-3C		コロガシ		m																		
CVT 38sq		管内	6.80	m				6.80													6.80	
CVT 38sq		コロガシ	7.30	m				7.30													7.30	
CVT 60sq		管内	6.80	m				6.80													6.80	
CVT 60sq		コロガシ	7.30	m				7.30													7.30	
CVT150sq		管内		m																		
CVT150sq		コロガシ		m																		
電線管		(C51)　露出	1.20	m				1.20													1.20	
電線管		(C75)　露出	3.60	m				3.60													3.60	
配線ダクト		200×200	5	m				5.45													5	
プルボックス		300×300×300	2	個所				2.00													2	

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯幹線（撤去）	区分	配管配線（撤去）	拾い	(1)

品　名		地下１階						L-A1,L-G1系 1FL～L-B		→ →										計	備　考
		平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
【撤去】																					
IV2.0×2	管内							1.00	4.60	5.00	1.50									12.10	
IV2.0×3	管内																				
IV2.0×3 E2.0	管内																				
IV 8sq×3	管内							1.00	4.60	5.00	1.50									12.10	
IV 8sq×3 E2.0	管内																				
IV14sq×3	管内																				
IV38sq×3 E14sq	管内																				
IV50sq×3 E14sq	管内																				
CV5.5sq-2C	管内																				
CV5.5sq-2C	コロガシ																				
CV 8sq-3C	管内																				
CV 8sq-3C	コロガシ																				
CVT 38sq	管内																				
CVT 38sq	コロガシ																				
CVT 60sq	管内																				
CVT 60sq	コロガシ																				
CVT150sq	管内																				
CVT150sq	コロガシ																				
電線管	(C51)　露出																				
電線管	(C75)　露出																				
配線ダクト	200×200																				
プルボックス	300×300×300																				

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯幹線（撤去）	区分	配管配線（撤去）	拾い	(2)

品　名		1階		（Ｂ）2SL～Mまで		L-A1,L-G1 (B)～立下げ				L-A2,L-G2系 (B)～L-1										計	備　考
			平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
【撤去】																						
IV2.0×2		管内				1.50	17.00	6.00													24.50	
IV2.0×3		管内				1.50					12.10	4.50									18.10	
IV2.0×3	E2.0	管内																				
IV 8sq×3		管内					17.00	6.00			12.10	4.50									39.60	
IV 8sq×3	E2.0	管内																				
IV14sq×3		管内																				
IV38sq×3	E14sq	管内																				
IV50sq×3	E14sq	管内																				
CV5.5sq-2C		管内																				
CV5.5sq-2C		コロガシ																				
CV 8sq-3C		管内																				
CV 8sq-3C		コロガシ																				
CVT 38sq		管内																				
CVT 38sq		コロガシ																				
CVT 60sq		管内																				
CVT 60sq		コロガシ																				
CVT150sq		管内																				
CVT150sq		コロガシ																				
電線管		(C51)　露出																				
電線管		(C75)　露出																				
配線ダクト		200×200																				
プルボックス		300×300×300																				

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯幹線（撤去）	区分	配管配線（撤去）	拾い	(3)

品　名		２階						L-A3,L-G3 M～L-2												計	備　考
			平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
【撤去】																						
IV2.0×2		管内																				
IV2.0×3		管内							11.20	3.00											14.20	
IV2.0×3	E2.0	管内																				
IV 8sq×3		管内																				
IV 8sq×3	E2.0	管内																				
IV14sq×3		管内							11.20	3.00											14.20	
IV38sq×3	E14sq	管内																				
IV50sq×3	E14sq	管内																				
CV5.5sq-2C		管内																				
CV5.5sq-2C		コロガシ																				
CV 8sq-3C		管内																				
CV 8sq-3C		コロガシ																				
CVT 38sq		管内																				
CVT 38sq		コロガシ																				
CVT 60sq		管内																				
CVT 60sq		コロガシ																				
CVT150sq		管内																				
CVT150sq		コロガシ																				
電線管		(C51)　露出																				
電線管		(C75)　露出																				
配線ダクト		200×200																				
プルボックス		300×300×300																				

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯幹線（撤去）	区分	配管配線（撤去）	拾い	(4)

品　名		２階	低圧分岐盤～M		→→		→→		DC盤～M												計	備　考
			平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
【撤去】																						
IV2.0×2		管内																				
IV2.0×3		管内																				
IV2.0×3	E2.0	管内																				
IV 8sq×3		管内																				
IV 8sq×3	E2.0	管内																				
IV14sq×3		管内																				
IV38sq×3	E14sq	管内																				
IV50sq×3	E14sq	管内																				
CV5.5sq-2C		管内							0.70	1.50											2.20	
CV5.5sq-2C		コロガシ							7.70	1.50											9.20	
CV 8sq-3C		管内																				
CV 8sq-3C		コロガシ																				
CVT 38sq		管内			3.00	2.50	0.30	1.00													6.80	
CVT 38sq		コロガシ	6.30	1.00																	7.30	
CVT 60sq		管内			3.00	2.50	0.30	1.00													6.80	
CVT 60sq		コロガシ	6.30	1.00																	7.30	
CVT150sq		管内																				
CVT150sq		コロガシ																				
電線管		(C51)　露出						1.20													1.20	
電線管		(C75)　露出						3.60													3.60	
配線ダクト		200×200				2.90	2.55														5.45	
プルボックス		300×300×300						2													2	

芝川ポンプ場耐震補強工事（電気設備）

数量計算書

1. 電灯設備（2）電灯分岐（改修）

数量拾い書

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯分岐	区分	盤、照明器具、配線器具その他

品名			計上数量		1F									2階						小　計	備　考
					発電機室	工作室	手洗い	脱衣室	搬入室	ﾓｰﾀｰ室				操作室	ﾃﾚﾒｰﾀ室						
			数量	単位		外壁	廊下	UB													
手元開閉器	ELCB2P50AF×1	S-UB	1	面			1													1	
埋込スイッチ	1P15A×1	金属P付	1	個				1												1	
埋込スイッチ	1P15A×1+PL4A1×1	〃	1	個			1													1	
埋込スイッチ	1P15A×2+PL4A1×1	〃	1	個		1														1	
埋込スイッチ	1P15A×1+換気SW	〃	1	個				1												1	
埋込コンセント	2P15A×2	金属P付	1	個		1														1	
埋込コンセント	2P15AE×2	金属P付	6	個			2	1						2	1					6	
埋込コンセント	2P15AE×1 250V	金属P付 ﾌﾟﾗｸﾞ共	1	個		1														1	
ｹｰｽﾌﾞﾚｰｶｰ	ELCB2P1E15A	防水型　ｺﾝｾﾝﾄ付	1	個		1														1	
照明器具	ダウンライト	LRS1-08LN	3	台			1	2												3	
照明器具　撤去・再取付		投光器　HF200W×1	12	台	3	6				3										12	
照明器具　撤去・再取付		蛍光灯　FL20W×1																			
照明器具　撤去・再取付		蛍光灯　FL40W×1	1	台					1											1	
換気扇　撤去・再取付		350φ	1	台		1														1	
接地極	ED	接地銅棒 L=1500	1	ヶ所		1														1	

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯分岐	区分	電灯分岐　配管配線	大集計

品　　名			計上数量 数量	単位	各集計より 集計	小集計							小　計	合　計	備　　考
														(端数処理)	
EM-IE2.0	×1	管内	2	m	1.50								1.50	2.0	
EM-IE2.0	×2	管内	12	m	12.30								12.30	12.0	
EM-IE2.0	×3	管内	41	m	40.40								40.40	41.0	
EM-IE2.0	×4	管内	19	m	18.50								18.50	19.0	
合計	EM-IE2.0	管内	225	m											
EM-EEF2.0-2C		コロガシ	8	m	8.10								8.10	8.0	
EM-EEF2.0-3C		コロガシ	47	m	47.40								47.40	47.0	
電線管		(E19)　露出	45	m	44.50								44.50	45.0	
電線管		(E19)　埋込	2	m	2.00								2.00	2.0	
電線管		(E25)　露出	19	m	18.50								18.50	19.0	
電線管		(G16)　露出	5	m	4.60								4.60	5.0	
電線管		(VE16)　埋込	2	m	1.50								1.50	2.0	
メタルモール		A型	22	m		22.10							22.10	22	
同上付属品		ｺｰﾅｰﾎﾞｯｸｽA型	8	個		8								8	
同上付属品		ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽA型1個用	9	個		9								9	
プルボックス		150×150×100	4	個		4					【塗装面積：0.15*0.15*6=0.135m2】			4	0.135m2/個
プルボックス　溶融亜鉛仕上		150×150×150(WP)	3	個		3								3	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ塗装面積；			0.540	m2											
アウトレットボックス		中深	3	個		3								3	
スイッチボックス		1個用	1	個		1								1	
露出スイッチボックス		E19　1個用	3	個		3								3	
露出丸ボックス		E19　1方出	7	個		7								7	
露出丸ボックス		E19　3方出	1	個		1								1	
はつり補修		50φ　L=150	5	ヶ所		5							5	5	

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯分岐	区分	配管配線　　集計（電灯分岐）

品　　名		配管配線 小集計		計	EM-IE電線 2.0×1 管内	2.0×2 管内	2.0×3 管内	2.0×4 管内		EM-EEFｹｰﾌﾞﾙ 2.0-2C ｺﾛｶﾞｼ	2.0-3C ｺﾛｶﾞｼ		電線管 (E19) 露出	(E19) 埋込	(E25) 露出	(G16) 露出		(VE16) 埋込				
EM-IE2.0 ×2	(E19) 露出	9.00		9.00		9.00							9.00									
EM-IE2.0 ×2	(E19) 埋込	0.50		0.50		0.50								0.50								
EM-IE2.0 ×2 E2.0	(E19) 露出	35.50		35.50			35.50						35.50									
EM-IE2.0 ×2 E2.0	(E19) 埋込	1.50		1.50			1.50							1.50								
EM-IE2.0 ×3 E2.0	(E25) 露出	18.50		18.50				18.50							18.50							
EM-IE2.0 ×2	(G16) 露出	1.20		1.20		1.20										1.20						
EM-IE2.0 ×2 E2.0	(G16) 露出	3.40		3.40			3.40									3.40						
EM-IE2.0 ×2	既設管内	1.60		1.60		1.60																
EM-IE2.0 ×1	(VE16) 埋込	1.50		1.50	1.50													1.50				
EM-EEF2.0-2C	コロガシ	8.10		8.10						8.10												
EM-EEF2.0-3C	コロガシ	47.40		47.40							47.40											
				計	1.50	12.30	40.40	18.50		8.10	47.40		44.50	2.00	18.50	4.60		1.50				

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯分岐	区分	配管配線	小集計（電灯分岐）

品　　名			計上数量		拾い（電灯分岐）																小　計	備　　考
			数量	単位	1	2	3	4														
EM-IE2.0	×2	(E19)　露出	9.00	m	9.00																9.00	
EM-IE2.0	×2	(E19)　埋込	0.50	m	0.50																0.50	
EM-IE2.0	×2　E2.0	(E19)　露出	35.50	m	10.90		21.40	3.20													35.50	
EM-IE2.0	×2　E2.0	(E19)　埋込	1.50	m	1.00			0.50													1.50	
EM-IE2.0	×3　E2.0	(E25)　露出	18.50	m	18.50																18.50	
EM-IE2.0	×2	(G16)　露出	1.20	m	1.20																1.20	
EM-IE2.0	×2　E2.0	(G16)　露出	3.40	m	3.40																3.40	
EM-IE2.0	×2	既設管内	1.60	m			1.60														1.60	
EM-IE2.0	×1	(VE16)　埋込	1.50	m	1.50																1.50	
EM-EEF2.0-2C		コロガシ	8.10	m		4.00	2.20	1.90													8.10	
EM-EEF2.0-3C		コロガシ	47.40	m		21.80	4.20	21.40													47.40	
メタルモール		A型	22.10	m		7.70	2.20	12.20													22.10	
同上付属品		ｺｰﾅｰﾎﾞｯｸｽ A型	8	個		4.00	1.00	3.00													8	
同上付属品		ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ A型1個用	9	個		4.00	1.00	4.00													9	
プルボックス		150×150×100	4	個	2		2					【塗装面積：0.15*0.15*2+0.15*4*0.1=0.105m2】									4	0.105m2/個
プルボックス　溶融亜鉛仕上		150×150×150(WP)	3	個	3																3	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ塗装面積；			0.420	m2																		
アウトレットボックス		中深	3	個		2		1													3	
スイッチボックス		1個用	1	個		1															1	
露出スイッチボックス		E19　1個用	3	個	3																3	
露出丸ボックス		E19　1方出	7	個	3		3	1													7	
露出丸ボックス		E19　3方出	1	個	1																1	
はつり補修		50φ　L=150	5	ヶ所	3		1	1													5	

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯分岐	区分	配管配線	電灯分岐拾い　(1)

品　名	1階	工作室		→		→		発電機室		工作室		→		工作室		→		→		計	備　考
		回路A		→		→		→		外壁CN追加		→		回路2		→		→			
		平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
EM-IE2.0 ×2 (E19) 露出										0.80	0.70							2.80	4.70	9.00	
EM-IE2.0 ×2 (E19) 埋込										0.50										0.50	
EM-IE2.0 ×2 E2.0 (E19) 露出				0.60				1.00						2.70	3.50	0.60	2.50			10.90	
EM-IE2.0 ×2 E2.0 (E19) 埋込						0.50		0.50												1.00	
EM-IE2.0 ×3 E2.0 (E25) 露出		9.50	9.00																	18.50	
EM-IE2.0 ×2 (G16) 露出												1.20								1.20	
EM-IE2.0 ×2 E2.0 (G16) 露出						3.40														3.40	
EM-IE2.0 ×2 既設管内																					
EM-IE2.0 ×1 (VE16) 埋込													1.50							1.50	
EM-EEF2.0-2C コロガシ																					
EM-EEF2.0-3C コロガシ																					
メタルモール A型																					
同上付属品 ｺｰﾅｰﾎﾞｯｸｽ A型																					
同上付属品 ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ A型1個用																					
プルボックス 150×150×100		2																		2	
プルボックス 溶融亜鉛仕上 150×150×150(WP)						2				1										3	
アウトレットボックス 中深																					
スイッチボックス 1個用																					
露出スイッチボックス E19 1個用										1							1		1	3	
露出丸ボックス E19 1方出				1				1						1						3	
露出丸ボックス E19 3方出														1						1	
はつり補修 50φ L=150						1		1		1										3	

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯分岐	区分	配管配線	電灯分岐拾い　(2)

品　名	1階	手洗所		→		→		→		廊下～UB		→		→		→		→		計	備　考
		換気扇～		→		→		→		L-1～S-UB		S-UB～UB		UB内		→		→			
		平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
EM-IE2.0　×2　(E19)　露出																					
EM-IE2.0　×2　(E19)　埋込																					
EM-IE2.0　×2　E2.0　(E19)　露出																					
EM-IE2.0　×2　E2.0　(E19)　埋込																					
EM-IE2.0　×3　E2.0　(E25)　露出																					
EM-IE2.0　×2　(G16)　露出																					
EM-IE2.0　×2　E2.0　(G16)　露出																					
EM-IE2.0　×2　既設管内																					
EM-IE2.0　×1　(VE16)　埋込																					
EM-EEF2.0-2C　コロガシ				1.20	1.20	1.60														4.00	
EM-EEF2.0-3C　コロガシ		2.20				1.30	2.20	1.30	2.20	0.20		5.70	2.10	0.80		0.90	0.50	1.20	1.20	21.80	
メタルモール　A型					1.20		2.20		2.20				2.10							7.70	
同上付属品　ｺｰﾅｰﾎﾞｯｸｽ　A型					1		1		1				1							4	
同上付属品　ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ　A型1個用					1		1		1				1							4	
プルボックス　150×150×100																					
プルボックス　溶融亜鉛仕上　150×150×150(WP)																					
アウトレットボックス　中深		1										1								2	
スイッチボックス　1個用																			1	1	
露出スイッチボックス　E19　1個用																					
露出丸ボックス　E19　1方出																					
露出丸ボックス　E19　3方出																					
はつり補修　50φ　L=150																					

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯分岐	区分	配管配線	電灯分岐拾い　(3)

品　名	1階	脱衣室		→		→		モーター室		→		→								計	備　考
		PB～照明		→		PB～CN		回路5		→		→									
		平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
EM-IE2.0 ×2 (E19) 露出																					
EM-IE2.0 ×2 (E19) 埋込																					
EM-IE2.0 ×2 E2.0 (E19) 露出								9.60	6.00	4.00		1.80								21.40	
EM-IE2.0 ×2 E2.0 (E19) 埋込																					
EM-IE2.0 ×3 E2.0 (E25) 露出																					
EM-IE2.0 ×2 (G16) 露出																					
EM-IE2.0 ×2 E2.0 (G16) 露出																					
EM-IE2.0 ×2 既設管内		0.40	1.20																	1.60	
EM-IE2.0 ×1 (VE16) 埋込																					
EM-EEF2.0-2C コロガシ		0.50		1.70																2.20	
EM-EEF2.0-3C コロガシ						2.00	2.20													4.20	
メタルモール A型							2.20													2.20	
同上付属品 ｺｰﾅｰﾎﾞｯｸｽ A型							1													1	
同上付属品 ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ A型1個用							1													1	
プルボックス 150×150×100		1						1												2	
プルボックス 溶融亜鉛仕上 150×150×150(WP)																					
アウトレットボックス 中深																					
スイッチボックス 1個用																					
露出スイッチボックス E19 1個用																					
露出丸ボックス E19 1方出								1				2								3	
露出丸ボックス E19 3方出																					
はつり補修 50φ L=150												1								1	

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯分岐	区分	配管配線	電灯分岐拾い　(4)

品　名	2階	操作室		→		→		→				ｱﾝﾌﾟ電源		(回路2)						計	備　考
		0B～CN		→		→		→				L-2～アンプ		→							
		平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
EM-IE2.0 ×2 (E19) 露出																					
EM-IE2.0 ×2 (E19) 埋込																					
EM-IE2.0 ×2 E2.0 (E19) 露出												1.70	1.50							3.20	
EM-IE2.0 ×2 E2.0 (E19) 埋込												0.50								0.50	
EM-IE2.0 ×3 E2.0 (E25) 露出																					
EM-IE2.0 ×2 (G16) 露出																					
EM-IE2.0 ×2 E2.0 (G16) 露出																					
EM-IE2.0 ×2 既設管内																					
EM-IE2.0 ×1 (VE16) 埋込																					
EM-EEF2.0-2C コロガシ								0.70	1.20											1.90	
EM-EEF2.0-3C コロガシ		1.50	2.70	5.90	2.70	3.70	2.70							0.70	1.50					21.40	
メタルモール A型			2.70		2.70		2.70	0.70	1.20					0.70	1.50					12.20	
同上付属品 ｺｰﾅｰﾎﾞｯｸｽ A型			1		1		1													3	
同上付属品 ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ A型1個用			1		1		1							1						4	
プルボックス 150×150×100																					
プルボックス 溶融亜鉛仕上 150×150×150(WP)																					
アウトレットボックス 中深		1																		1	
スイッチボックス 1個用																					
露出スイッチボックス E19 1個用																					
露出丸ボックス E19 1方出												1								1	
露出丸ボックス E19 3方出																					
はつり補修 50φ L=150												1								1	

芝川ポンプ場耐震補強工事（電気設備）

数量計算書

1. 電灯設備（2）電灯分岐（撤去）

数量拾い書

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯分岐（撤去）	区分	照明器具他（撤去）

品　　名			計上数量		1階						2階									小　計	備　　考
			数量	単位	脱衣室	浴室	手洗所	工作室			操作室										
【撤去】																					
照明器具　蛍光灯		FL20W×1　直付	3	台	1		2													3	
照明器具　白熱灯		IL60W×1　直付	1	台		1														1	
埋込コンセント		2P15A×2	4	個				1			3									4	
埋込コンセント		2P15AE×1　250V	1	個				1												1	
露出コンセント		2P15A×3	1	個							1									1	
埋込スイッチ		1P15A×1＋PL	2	個	1	1														2	
埋込スイッチ		1P15A×2＋PL	1	個			1													1	

数量拾い書

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯分岐（撤去）	区分	配管配線（撤去）	大集計

品　　名		計上数量		各集計より																小　計	合　計	備　　考
		数量	単位		集計																	
【撤去】																						
IV2.0×2	管内	58	m		58.10															58.10	58.0	
IV2.0×3	管内	40	m		39.70															39.70	40.0	
合計　　IV2.0	管内	236	m																			
VVF1.6-2C	コロガシ	2	m		2.10															2.10	2.0	
VVF2.0-2C	コロガシ	1	m		0.50															0.50	1.0	
メタルモール	A型	3	m		2.10															2.10	3.0	
ビニルモール		1	m		0.50															0.50	1.0	
（電線別集計）																						
IV2.0		236	m																			

数量拾い書

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯分岐（撤去）	区分	配管配線（撤去）	集計	（電灯分岐）

品	名	配管配線 撤去 小集計		計	IV 2.0×2 管内	IV 2.0×3 管内		VVFｹｰﾌﾞﾙ 1.6-2C ｺﾛｶﾞｼ	VVFｹｰﾌﾞﾙ 2.0-2C ｺﾛｶﾞｼ			ﾓｰﾙ MM-A	ﾓｰﾙ ﾋﾞﾆﾙ								
【撤去】																					
IV2.0×2	管内	58.10		58.10		58.10															
IV2.0×3	管内	39.70		39.70			39.70														
VVF1.6-2C	MM-A	2.10		2.10					2.10			2.10									
VVF2.0-2C	ﾋﾞﾆﾙﾓｰﾙ	0.50		0.50						0.50			0.50								
				計		58.10	39.70		2.10	0.50			2.10	0.50							

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯分岐（撤去）	区分	配管配線（撤去）	小集計（電灯分岐）

品	名	計上数量		配管配線（撤去） 拾い			小　計	備　考
		数量	単位	1	2	3		
【撤去】								
IV2.0×2	管内	58.10	m	30.10	16.60	11.40	58.10	
IV2.0×3	管内	39.70	m	22.70	17.00		39.70	
VVF1.6-2C	MM-A	2.10	m			2.10	2.10	
VVF2.0-2C	ﾋﾞﾆﾙﾓｰﾙ	0.50	m			0.50	0.50	

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯分岐（撤去）	区分	配管配線（撤去）	拾い	(1)

品　名	1階	工作室		→		→		→		手洗所		→								計	備　考
		回路A		→		回路2		→		→		→									
		平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
【撤去】																					
IV2.0×2	管内			5.00	5.00	3.30	5.00	3.70	7.20	0.90										30.10	
IV2.0×3	管内	10.30	5.00							3.20	0.50	2.00	1.70							22.70	
VVF2.0-2C	ﾋﾞﾆﾙﾓｰﾙ																				

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯分岐（撤去）	区分	配管配線（撤去）	拾い	(2)

品　名		1階 脱衣室・浴室 回路2		→ →		→ →		モーター室 回路B												計	備　考
		平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
【撤去】																					
IV2.0×2	管内	1.90		1.40	0.50	0.60		7.20	5.00											16.60	
IV2.0×3	管内	1.70	1.20	0.70	1.20			7.20	5.00											17.00	
VVF2.0-2C	ﾋﾞﾆﾙﾓｰﾙ																				

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	電灯分岐（撤去）	区分	配管配線（撤去）	拾い	(3)

品　名		2階 操作室 回路1 平面	立面	→ → 平面	立面	→ → 平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	計	備　考
【撤去】																					
IV2.0×2	管内	5.70	0.60	4.50	0.60															11.40	
IV2.0×3	管内																				
VVF1.6-2C	MM-A					0.90	1.20													2.10	
VVF2.0-2C	ﾋﾞﾆﾙﾓｰﾙ					0.50														0.50	

芝川ポンプ場耐震補強工事（電気設備）

数量計算書

2. 動力設備　動力幹線設備（改修）

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	動力幹線設備（改修）	区分	動力幹線　配管配線	大集計

品　　名		計上数量 数量	単位	各集計より	集計	小　計	合　計	備　　考
							(端数処理)	
EM-IE3.5sq　×1		35	m		34.10	34.10	35.0	
EM-IE5.5sq　×1		60	m		59.10	59.10	60.0	
EM-IE14sq　×1		30	m		29.30	29.30	30.0	
EM-IE22sq　×1		11	m		11.40	11.40	11.0	
EM-CE 3.5sq-3C	管内	12	m		11.70	11.70	12.0	
EM-CE14sq-3C	管内	33	m		32.50	32.50	33.0	
EM-CE14sq-3C	コロガシ	40	m		40.20	40.20	40.0	
EM-CET22sq	管内	18	m		18.10	18.10	18.0	
EM-CET22sq	コロガシ	12	m		12.30	12.30	12.0	
EM-CET38sq	管内	3	m		2.10	2.10	3.0	
EM-CET38sq	コロガシ	13	m		13.40	13.40	13.0	
EM-CET38sq	ラック	14	m		13.80	13.80	14.0	
EM-CET150sq	コロガシ	11	m		11.40	11.40	11.0	
電線管　(E25)	露出　塗装	12	m		11.70	11.70	12	
電線管　(E31)	露出　塗装	25	m		25.20	25.20	25	
電線管　(E31)	埋込	2	m		1.50	1.50	2	
電線管　(E51)	露出　塗装	18	m		17.90	17.90	18	
可とう電線管　F2(50)		3	m		2.10	2.10	3.0	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ　鋼製	200×200×150	3	個		3.00		3	0.15m2/個
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ塗装面積；		0.45	m2					
はつり補修	50φ　L=150	1	ヶ所		1.00		1	
はつり補修	100φ　L=150	3	ヶ所		3.00		3	
溝はつり補修	100×100　(m)	2	m		1.50	1.5	2	

【塗装面積：0.2*0.2*2+0.2*4*0.15=0.2m2】

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	動力幹線設備（改修）	区分	配管配線	集計（動力幹線）

品　　名			計上数量		拾い（配管配線）																小　計	備　　考
			数量	単位	1	2	3	4	5													
EM-IE3.5sq	×1		34.10	m		23.70	10.40														34.10	
EM-IE5.5sq	×1		59.10	m		5.80	30.40	22.90													59.10	
EM-IE14sq	×1		29.30	m	16.90	6.00	6.40														29.30	
EM-IE22sq	×1		11.40	m					11.40												11.40	
EM-CE 3.5sq-2C		管内		m																		
EM-CE 3.5sq-2C		コロガシ		m																		
EM-CE 3.5sq-3C		管内	11.70	m			11.70														11.70	
EM-CE 3.5sq-3C		コロガシ		m																		
EM-CE 8sq-3C		管内		m																		
EM-CE 8sq-3C		コロガシ		m																		
EM-CE14sq-3C		管内	32.50	m		29.50		3.00													32.50	
EM-CE14sq-3C		コロガシ	40.20	m		2.50	6.40	19.90	11.40												40.20	
EM-CET22sq		管内	18.10	m			18.10														18.10	
EM-CET22sq		コロガシ	12.30	m			12.30														12.30	
EM-CET38sq		管内	2.10	m	2.10																2	
EM-CET38sq		コロガシ	13.40	m	1.00	6.00	6.40														13.40	
EM-CET38sq		ラック	13.80	m	13.80																13.80	
EM-CET60sq		コロガシ		m																		
EM-CET150sq		コロガシ	11.40	m					11.40												11.40	
電線管	(E25)	露出	11.70	m			11.70														11.70	
電線管	(E25)	埋込		m																		
電線管	(E31)	露出	25.20	m		23.70		1.50													25.20	
電線管	(E31)	埋込	1.50	m				1.50													1.50	
電線管	(E51)	露出	17.90	m			17.90														17.90	
電線管	(E51)	埋込		m																		
電線管	(E63)	露出		m																		
電線管	(E63)	埋込		m																		
可とう電線管	F2(50)		2.10	m	2.10																2.10	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	150×150×150		個																		
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	200×200×150	3	個			3														3	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	300×300×200		個																		
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	400×400×200		個																		
はつり補修		50φ　　L=150	1	ヶ所		1															1	
はつり補修		100φ　　L=150	3	ヶ所			3														3	
溝はつり補修		100×100　　(m)	1.5	m				1.50													1.50	
はつり補修	200×200×100	溝はつり100×100：0.4m相当		ヶ所																		

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	動力幹線設備（改修）	区分	配管配線	動力幹線拾い　(1)

品　名			地下1階 P-A4系 配線ﾀﾞｸﾄ～PB 平面	立面	→ ～1F 平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	計	備　考
EM-IE3.5sq	×1																					
EM-IE5.5sq	×1																					
EM-IE14sq	×1		2.10		13.80	1.00															16.90	
EM-IE22sq	×1																					
EM-CE 3.5sq-2C		管内																				
EM-CE 3.5sq-2C		コロガシ																				
EM-CE 3.5sq-3C		管内																				
EM-CE 3.5sq-3C		コロガシ																				
EM-CE 8sq-3C		管内																				
EM-CE 8sq-3C		コロガシ																				
EM-CE14sq-3C		管内																				
EM-CE14sq-3C		コロガシ																				
EM-CET22sq		管内																				
EM-CET22sq		コロガシ																				
EM-CET38sq		管内	2.10																		2.10	
EM-CET38sq		コロガシ				1.00															1.00	
EM-CET38sq		ラック			13.80																13.80	
EM-CET60sq		コロガシ																				
EM-CET150sq		コロガシ																				
電線管	(E25)	露出																				
電線管	(E25)	埋込																				
電線管	(E31)	露出																				
電線管	(E31)	埋込																				
電線管	(E51)	露出																				
電線管	(E51)	埋込																				
電線管	(E63)	露出																				
電線管	(E63)	埋込																				
可とう電線管	F2(50)		2.10																		2.10	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	150×150×150																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	200×200×150																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	300×300×200																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	400×400×200																				
はつり補修		50φ　L=150																				
はつり補修		100φ　L=150																				
溝はつり補修		100×100　(m)																				
はつり補修	200×200×100	溝はつり100×100：0.4m相当																				

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	動力幹線設備（改修）	区分	配管配線	動力幹線拾い　(2)

品　名		1階	P-A4系 ﾀﾞｸﾄ内		（B） ﾀﾞｸﾄ内立上げ		（C） ﾀﾞｸﾄ～PB				（D） PB～PB(ﾎｰﾙ)		→ PB～ﾓｰﾀ室		P-G1系 PB～P1-2						計	備　考
			平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
EM-IE3.5sq	×1										16.60	1.00	1.30		3.80	1.00					23.70	
EM-IE5.5sq	×1							5.80													5.80	
EM-IE14sq	×1			3.50		2.50															6.00	
EM-IE22sq	×1																					
EM-CE 3.5sq-2C		管内																				
EM-CE 3.5sq-2C		コロガシ																				
EM-CE 3.5sq-3C		管内																				
EM-CE 3.5sq-3C		コロガシ																				
EM-CE 8sq-3C		管内																				
EM-CE 8sq-3C		コロガシ																				
EM-CE14sq-3C		管内						5.80			16.60	1.00	1.30		3.80	1.00					29.50	
EM-CE14sq-3C		コロガシ				2.50															2.50	
EM-CET22sq		管内																				
EM-CET22sq		コロガシ																				
EM-CET38sq		管内																				
EM-CET38sq		コロガシ		3.50		2.50															6.00	
EM-CET38sq		ラック																				
EM-CET60sq		コロガシ																				
EM-CET150sq		コロガシ																				
電線管	(E25)	露出																				
電線管	(E25)	埋込																				
電線管	(E31)	露出									16.60	1.00	1.30		3.80	1.00					23.70	
電線管	(E31)	埋込																				
電線管	(E51)	露出																				
電線管	(E51)	埋込																				
電線管	(E63)	露出																				
電線管	(E63)	埋込																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	150×150×150																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	200×200×150																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	300×300×200																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	400×400×200																				
はつり補修		50φ　L=150											1								1	
はつり補修		100φ　L=150																				
溝はつり補修		100×100　(m)																				
はつり補修	200×200×100	溝はつり100×100：0.4m相当																				

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	動力幹線設備（改修）	区分	配管配線	動力幹線拾い　(3)

品　名		2階	（G） M～PB		P-A1系 PB～P2-1		（B） M～1F		（H） PB～PB(ﾎｰﾙ)		→ PB～PB				（J） PB～会議室		→ 会議室		→ PB～P2-3		計	備　考
			平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
EM-IE3.5sq	×1				7.80	2.60															10.40	
EM-IE5.5sq	×1			1.30					3.00		4.50				3.80	0.20	12.30	0.20	3.80	1.30	30.40	
EM-IE14sq	×1						5.40	1.00													6.40	
EM-IE22sq	×1																					
EM-CE 3.5sq-2C		管内																				
EM-CE 3.5sq-2C		コロガシ																				
EM-CE 3.5sq-3C		管内		1.30	7.80	2.60															11.70	
EM-CE 3.5sq-3C		コロガシ																				
EM-CE 8sq-3C		管内																				
EM-CE 8sq-3C		コロガシ																				
EM-CE14sq-3C		管内																				
EM-CE14sq-3C		コロガシ					5.40	1.00													6.40	
EM-CET22sq		管内		1.30					3.00		4.50				3.80	0.20		0.20	3.80	1.30	18.10	
EM-CET22sq		コロガシ															12.30				12.30	
EM-CET38sq		管内																				
EM-CET38sq		コロガシ					5.40	1.00													6.40	
EM-CET38sq		ラック																				
EM-CET60sq		コロガシ																				
EM-CET150sq		コロガシ																				
電線管	(E25)	露出		1.30	7.80	2.60															11.70	
電線管	(E25)	埋込																				
電線管	(E31)	露出																				
電線管	(E31)	埋込																				
電線管	(E51)	露出		1.30					3.00		4.50				3.80	0.20			3.80	1.30	17.90	
電線管	(E51)	埋込																				
電線管	(E63)	露出																				
電線管	(E63)	埋込																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	150×150×150																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	200×200×150													1			1	1		3	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	300×300×200																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	400×400×200																				
はつり補修		50φ　L=150																				
はつり補修		100φ　L=150							1						1				1		3	
溝はつり補修		100×100　(m)																				
はつり補修	200×200×100	溝はつり100×100：0.4m相当																				

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	動力幹線設備（改修）	区分	配管配線	動力幹線拾い　(4)

品　名		2階	P-A2系 M～P2-2		→ →																計	備　考
			平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
EM-IE3.5sq	×1																					
EM-IE5.5sq	×1		18.90	1.00	1.50	1.50															22.90	
EM-IE14sq	×1																					
EM-IE22sq	×1																					
EM-CE 3.5sq-2C		管内																				
EM-CE 3.5sq-2C		コロガシ																				
EM-CE 3.5sq-3C		管内																				
EM-CE 3.5sq-3C		コロガシ																				
EM-CE 8sq-3C		管内																				
EM-CE 8sq-3C		コロガシ																				
EM-CE14sq-3C		管内			1.50	1.50															3.00	
EM-CE14sq-3C		コロガシ	18.90	1.00																	19.90	
EM-CET22sq		管内																				
EM-CET22sq		コロガシ																				
EM-CET38sq		管内																				
EM-CET38sq		コロガシ																				
EM-CET38sq		ラック																				
EM-CET60sq		コロガシ																				
EM-CET150sq		コロガシ																				
電線管	(E25)	露出																				
電線管	(E25)	埋込																				
電線管	(E31)	露出				1.50															1.50	
電線管	(E31)	埋込			1.50																1.50	
電線管	(E51)	露出																				
電線管	(E51)	埋込																				
電線管	(E63)	露出																				
電線管	(E63)	埋込																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	150×150×150																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	200×200×150																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	300×300×200																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	400×400×200																				
はつり補修		50φ　L=150																				
はつり補修		100φ　L=150																				
溝はつり補修		100×100　(m)			1.5																1.5	
はつり補修	200×200×100	溝はつり100×100：0.4m相当																				

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	動力幹線設備（改修）	区分	配管配線	動力幹線拾い　(5)

品　名		2階	低圧分岐盤 ～M																	計	備　考
			平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
EM-IE3.5sq	×1																					
EM-IE5.5sq	×1																					
EM-IE14sq	×1																					
EM-IE22sq	×1		9.40	2.00																11.40	
EM-CE 3.5sq-2C		管内																			
EM-CE 3.5sq-2C		コロガシ																			
EM-CE 3.5sq-3C		管内																			
EM-CE 3.5sq-3C		コロガシ																			
EM-CE 8sq-3C		管内																			
EM-CE 8sq-3C		コロガシ																			
EM-CE14sq-3C		管内																			
EM-CE14sq-3C		コロガシ	9.40	2.00																11.40	
EM-CET22sq		管内																			
EM-CET22sq		コロガシ																			
EM-CET38sq		管内																			
EM-CET38sq		コロガシ																			
EM-CET38sq		ラック																			
EM-CET60sq		コロガシ																			
EM-CET150sq		コロガシ	9.40	2.00																11.40	
電線管	(E25)	露出																			
電線管	(E25)	埋込																			
電線管	(E31)	露出																			
電線管	(E31)	埋込																			
電線管	(E51)	露出																			
電線管	(E51)	埋込																			
電線管	(E63)	露出																			
電線管	(E63)	埋込																			
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	150×150×150																			
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	200×200×150																			
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	300×300×200																			
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	400×400×200																			
はつり補修		50φ　L=150																			
はつり補修		100φ　L=150																			
溝はつり補修		100×100　(m)																			
はつり補修	200×200×100	溝はつり100×100：0.4m相当																			

芝川ポンプ場耐震補強工事（電気設備）

数量計算書

2. 動力設備　動力幹線（撤去）

数量拾い書

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	動力設備（撤去）	区分	配管配線（撤去）	大集計

品　　名			計上数量 数量	単位	各集計より 集計	小集計	小　計	合　計	備　　考
【撤去】									
IV2.0	×1	管内	34	m	34.30		34.30	34.0	
IV2.0	×4	管内	33	m	33.30		33.30	33.0	
合計	IV2.0	管内	166	m					
IV8sq	×3	管内	35	m	34.30		34.30	35.0	
合計	IV8sq	管内	105	m					
IV14sq	×1	管内	67	m	66.90		66.90	67.0	
IV38sq	×3	管内	22	m	21.90		21.90	22.0	
合計	IV38sq	管内	66	m					
IV50sq	×3	管内	45	m	45.00			45.0	
合計	IV50sq	管内	135	m					
CV 8sq-3C		管内	7	m		6.80	6.80	7.0	
CV 8sq-3C		コロガシ	7	m		7.30	7.30	7.0	
CVT150sq		管内	14	m		13.60	13.60	14.0	
CVT150sq		コロガシ	15	m		14.60	14.6	15.0	
（電線別集計）									
IV2.0			166	m					
IV8sq			105	m					
IV14sq			67	m					
IV38sq			66	m					
IV50sq			135	m					
CV8sq-3C			14	m					
CVT150sq			29	m					

数量拾い書

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	動力設備（撤去）	区分	配管配線（撤去）	集計　（動力幹線）

品　名			配管配線撤去 小集計		計	IV 2.0×1 管内			2.0×4 管内		8sq×3 管内	14sq×1 管内		38sq×3 管内	50sq×3 管内								
【撤去】																							
IV2.0×3	E2.0	管内	33.30		33.30				33.30														
IV 8sq×3	E2.0	管内	34.30		34.30	34.30					34.30												
IV38sq×3	E14sq	管内	21.90		21.90							21.90		21.90									
IV50sq×3	E14sq	管内	45.00		45.00							45.00			45.00								
					計	34.30			33.30		34.30	66.90		21.90	45.00								

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	動力幹線（撤去）	区分	配管配線（撤去）	小集計（動力）

品　　名			計上数量		配管配線（撤去） 拾い																小　計	備　　考
			数量	単位	1	2	3	4														
【撤去】																						
IV2.0×2		管内		m																		
IV2.0×3		管内		m																		
IV2.0×3	E2.0	管内	33.30	m		26.40	6.90														33.30	
IV 8sq×3		管内		m																		
IV 8sq×3	E2.0	管内	34.30	m	9.80	24.50															34.30	
IV14sq×3		管内		m																		
IV38sq×3	E14sq	管内	21.90	m	14.40	7.50															21.90	
IV50sq×3	E14sq	管内	45.00	m			45.00														45.00	
CV5.5sq-2C		管内		m																		
CV5.5sq-2C		コロガシ		m																		
CV 8sq-3C		管内	6.80	m				6.80													6.80	
CV 8sq-3C		コロガシ	7.30	m				7.30													7.30	
CVT 38sq		管内		m																		
CVT 38sq		コロガシ		m																		
CVT 60sq		管内		m																		
CVT 60sq		コロガシ		m																		
CVT150sq		管内	13.60	m				13.60													13.60	
CVT150sq		コロガシ	14.60	m				14.60													14.60	
電線管		(C51)　　露出		m																		
電線管		(C75)　　露出		m																		
配線ダクト		200×200		m																		
プルボックス		300×300×300		個所																		

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	動力幹線（撤去）	区分	配管配線（撤去）	拾い	(1)

品　名			地下１階		P-A4系 1FL～PB		P-A5系 1FL～PB-1		→ →												計	備　考
			平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
【撤去】																						
IV2.0×2		管内																				
IV2.0×3		管内																				
IV2.0×3	E2.0	管内																				
IV 8sq×3		管内																				
IV 8sq×3	E2.0	管内			1.00	4.60	2.70	1.50													9.80	
IV14sq×3		管内																				
IV38sq×3	E14sq	管内	13.40	1.00																	14.40	
IV50sq×3	E14sq	管内																				
CV5.5sq-2C		管内																				
CV5.5sq-2C		コロガシ																				
CV 8sq-3C		管内																				
CV 8sq-3C		コロガシ																				
CVT 38sq		管内																				
CVT 38sq		コロガシ																				
CVT 60sq		管内																				
CVT 60sq		コロガシ																				
CVT150sq		管内																				
CVT150sq		コロガシ																				
電線管		(C51)　露出																				
電線管		(C75)　露出																				
配線ダクト		200×200																				
プルボックス		300×300×300																				

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	動力幹線（撤去）	区分	配管配線（撤去）	拾い	(2)

品　名		1階	P-A4系 1FL～2SL		（B） 2SL～Mまで		P-A5 (B)～立下げ		P-G1系 (B)～P1-2												計	備　考
			平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
【撤去】																						
IV2.0×2		管内																				
IV2.0×3		管内																				
IV2.0×3	E2.0	管内				1.50			20.40	4.50											26.40	
IV 8sq×3		管内																				
IV 8sq×3	E2.0	管内				1.50	17.00	6.00													24.50	
IV14sq×3		管内																				
IV38sq×3	E14sq	管内		6.00		1.50															7.50	
IV50sq×3	E14sq	管内																				
CV5.5sq-2C		管内																				
CV5.5sq-2C		コロガシ																				
CV 8sq-3C		管内																				
CV 8sq-3C		コロガシ																				
CVT 38sq		管内																				
CVT 38sq		コロガシ																				
CVT 60sq		管内																				
CVT 60sq		コロガシ																				
CVT150sq		管内																				
CVT150sq		コロガシ																				
電線管		(C51)　露出																				
電線管		(C75)　露出																				
配線ダクト		200×200																				
プルボックス		300×300×300																				

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	動力幹線（撤去）	区分	配管配線（撤去）	拾い	(3)

品　名		２階	P－A3系 M～P2-3		P-A1系 M～P2-1		P-A2系 M～P2-2														計	備　考
			平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
【撤去】																						
IV2.0×2		管内																				
IV2.0×3		管内																				
IV2.0×3	E2.0	管内			3.90	3.00															6.90	
IV 8sq×3		管内																				
IV 8sq×3	E2.0	管内																				
IV14sq×3		管内																				
IV38sq×3	E14sq	管内																				
IV50sq×3	E14sq	管内	27.00	3.00			12.00	3.00													45.00	
CV5.5sq-2C		管内																				
CV5.5sq-2C		コロガシ																				
CV 8sq-3C		管内																				
CV 8sq-3C		コロガシ																				
CVT 38sq		管内																				
CVT 38sq		コロガシ																				
CVT 60sq		管内																				
CVT 60sq		コロガシ																				
CVT150sq		管内																				
CVT150sq		コロガシ																				
電線管		(C51)　露出																				
電線管		(C75)　露出																				
配線ダクト		200×200																				
プルボックス		300×300×300																				

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	動力幹線（撤去）	区分	配管配線（撤去）	拾い	(4)

品　名		２階	低圧分岐盤 ～M		→ →		→ →														計	備　考
			平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
【撤去】																						
IV2.0×2		管内																				
IV2.0×3		管内																				
IV2.0×3	E2.0	管内																				
IV 8sq×3		管内																				
IV 8sq×3	E2.0	管内																				
IV14sq×3		管内																				
IV38sq×3	E14sq	管内																				
IV50sq×3	E14sq	管内																				
CV5.5sq-2C		管内																				
CV5.5sq-2C		コロガシ																				
CV 8sq-3C		管内			3.00	2.50	0.30	1.00													6.80	
CV 8sq-3C		コロガシ	6.30	1.00																	7.30	
CVT 38sq		管内																				
CVT 38sq		コロガシ																				
CVT 60sq		管内																				
CVT 60sq		コロガシ																				
CVT150sq		管内			6.00	5.00	0.60	2.00													13.60	
CVT150sq		コロガシ	12.60	2.00																	14.60	
電線管		(C51)　露出																				
電線管		(C75)　露出																				
配線ダクト		200×200																				
プルボックス		300×300×300																				

芝川ポンプ場耐震補強工事（電気設備）

数量計算書

3. 放送設備（改修）

数量拾い書

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	放送設備（改修）	区分	器具

品　　名		計上数量		1階						2階									小　計	備　　考
		数量	単位	工作室		脱衣室				操作室										
業務・非常放送アンプ（壁掛）	10局　撤去・再取付	1	台							1									1	
ホーン型スピーカー	10W　撤去・再取付	1	台	1															1	
天井埋込スピーカー	3W　撤去・再取付	1	台							1									1	
定温式ｽﾎﾟｯﾄ型感知器	防水型　撤去・再取付	1	個			1													1	
ＭＤＦ　450×600×150	壁掛　撤去・再取付	1	面							1									1	
電線管　(E51)	露出　撤去・再取付	2.4	m							2.4									2.4	

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	放送設備（改修）	区分	放送設備　配管配線	大集計

品　　名		計上数量 数量	単位	各集計より		集計		小集計												小　計	合　計	備　　考
																					(端数処理)	
EM-HP1.2-3C	管内	68	m			67.50														67.50	68.0	
EM-HP1.2-3C	PF内	4	m			3.30														3.30	4.0	
EM-HP1.2-3C	コロガシ	18	m			17.10														17.10	18.0	
EM-AE1.2-4C	コロガシ	2	m			2.00															2.0	
電線管　(E19)	露出　　塗装	39	m			38.60														38.60	39.0	
電線管　(E25)	露出　　塗装	8	m			7.50														7.50	8.0	
電線管　(E31)	露出　　塗装	20	m			20.40														20.40	20.0	
電線管　(E31)	埋込	1	m			1.00															1.0	
合成樹脂可とう電線管　(PF28)	いんぺい	3	m			3.30														3.30	3.0	
メタルモール	A型	5	m					4.90												4.90	5.0	
同上付属品	A型　ｺｰﾅｰﾎﾞｯｸｽ	1	個					1.00												1.00	1.0	
同上付属品	A型　ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ	1	個					1.00													1.0	
アウトレットボックス	中深	1	個					1.00												1.00	1.0	
露出丸ボックス	E19　　1方出	1	個					1.00												1.00	1.0	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ　鋼製	150×150×100	6	個					6.00		【塗装面積：0.15*0.15*2+0.15*4*0.1=0.105m2】											6	0.105m2/個
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ　鋼製	200×200×150	2	個					2.00		【塗装面積：0.2*0.2*2+0.2*4*0.15=0.2m2】											2	0.200m2/個
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ塗装面積；		1.03	m2																			
はつり補修	50φ　　L=150	6	ヶ所					6.00													6	
溝はつり補修	100×100　(m)	0.5	m					0.50													0.5	
区画貫通処理	電線管(E31)	1.0	ヶ所					1.00												1	1	

数量拾い書

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	放送設備（改修）	区分	配管配線	集計　（放送設備）

品　名		配管配線撤去 小集計		計	EM-HP 1.2-3C 管内	1.2-3C PF内	1.2-3C コロガシ	EM-AE 1.2-4C コロガシ	電線管 E19 露出	E25 露出	E31 露出	E31 埋込		PF28 ｲﾝﾍﾟｲ								
EM-HP1.2-3C　×1	(E19)　露出	38.60		38.60	38.60				38.60													
EM-HP1.2-3C　×1	(E25)　露出	7.50		7.50	7.50					7.50												
EM-HP1.2-3C　×1	(E31)　露出	20.40		20.40	20.40						20.40											
EM-HP1.2-3C　×1	(E31)　埋込	1.00		1.00	1.00							1.00										
EM-HP1.2-3C　×1	(PF28)　いんぺい	3.30		3.30		3.30								3.30								
EM-HP1.2-3C　×1	コロガシ	17.10		17.10			17.10															
EM-AE1.2-4C　×1	コロガシ	2.00		2.00				2.00														
				計	67.50	3.30	17.10	2.00	38.60	7.50	20.40	1.00		3.30								

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	放送設備（改修）	区分	配管配線	小集計（放送）

品　　名			計上数量		拾い（配管配線）																小　計	備　　考
			数量	単位	1	2	3															
EM-HP1.2-3C	×1	(E19)　露出	38.60	m	38.60																38.60	
EM-HP1.2-3C	×1	(E25)　露出	7.50	m		7.50															7.50	
EM-HP1.2-3C	×1	(E31)　露出	20.40	m	20.40																20.40	
EM-HP1.2-3C	×1	(E31)　埋込	1.00	m			1.00														1.00	
EM-HP1.2-3C	×1	(PF28)　いんぺい	3.30	m	3.30																3.30	
EM-HP1.2-3C	×1	コロガシ	17.10	m	1.00		16.10														17.10	
EM-AE1.2-4C	×1	コロガシ	2.00	m		2.00															2.00	
メタルモール		A型	4.90	m			4.90														4.90	
同上付属品		A型　ｺｰﾅｰﾎﾞｯｸｽ	1.00	個			1.00														1.00	
同上付属品		A型　ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ	1.00	個			1.00														1.00	
アウトレットボックス		中深	1.00	個		1.00															1.00	
露出丸ボックス		E19　1方出	1.00	個	1.00																1.00	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	150×150×100	6.00	個	3.00	2.00	1.00														6.00	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	200×200×150	2.00	個	2.00																2.00	
はつり補修		50φ　L=150	6.00	ヶ所	4.00	2.00															6.00	
溝はつり補修		100×100　(m)	0.5	m			0.50														0.5	
区画貫通処理		電線管(E31)	1	ヶ所	1.00																1	

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	放送設備（改修）	区分	配管配線	拾い	(1)

品　名	地下1階、1階	地下1F 既設PB～PB		→ ～1F				1F工作室 B1F～PB		→ PB～SP		(A) PB～2FL		(B) PB～PB		(C) PB～PB		(D) PB～PB		計	備　考
		平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
EM-HP1.2-3C ×1	(E19) 露出	17.20			1.00				3.20	17.00	0.20									38.60	
EM-HP1.2-3C ×1	(E25) 露出																				
EM-HP1.2-3C ×1	(E31) 露出												2.80			4.10		13.50		20.40	
EM-HP1.2-3C ×1	(E31) 埋込																				
EM-HP1.2-3C ×1	(PF28) いんぺい													3.30						3.30	
EM-HP1.2-3C ×1	コロガシ									1.00										1.00	
メタルモール	A型																				
同上付属品	A型 ｺｰﾅｰﾎﾞｯｸｽ																				
同上付属品	A型 ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ																				
露出丸ボックス	E19 1方出										1.00									1.00	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ 鋼製	150×150×100	1												1		1				3	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ 鋼製	200×200×150								1									1		2	
はつり補修	50φ L=150				1.00									2.00		1.00				4.00	
溝はつり補修	100×100 (m)																				
区画貫通処理	電線管(E31)												1							1	

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	放送設備（改修）	区分	配管配線	拾い	(2)

品　名		1階	(E) PB～PB		→ PB～ﾓｰﾀ室				自火報 脱衣室												計	備　考
			平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
EM-HP1.2-3C	×1	(E19)　露出																				
EM-HP1.2-3C	×1	(E25)　露出	4.10	1.00	2.40																7.50	
EM-HP1.2-3C	×1	(E31)　露出																				
EM-HP1.2-3C	×1	(E31)　埋込																				
EM-HP1.2-3C	×1	(PF28)　いんぺい																				
EM-HP1.2-3C	×1	コロガシ																				
EM-AE1.2-4C	×1	コロガシ							2.00												2.00	
メタルモール		A型																				
同上付属品		A型　ｺｰﾅｰﾎﾞｯｸｽ																				
同上付属品		A型　ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ																				
アウトレットボックス		中深							1.00												1.00	
露出丸ボックス		E19　1方出																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	150×150×100	1		1																2	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	200×200×150																				
はつり補修		50φ　L=150			2																2	
溝はつり補修		100×100　(m)																				
区画貫通処理		電線管(E31)																				

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	放送設備（改修）	区分	配管配線	拾い	(3)

品　　名	2階 操作室 ﾋﾟｯﾄ～PB		→ →		→ PB～AMP		→ PB～天井		→ →		→ 天井内								計	備　考
	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
EM-HP1.2-3C ×1 (E19) 露出																				
EM-HP1.2-3C ×1 (E25) 露出																				
EM-HP1.2-3C ×1 (E31) 露出																				
EM-HP1.2-3C ×1 (E31) 埋込			0.50	0.50															1.00	
EM-HP1.2-3C ×1 (PF28) いんぺい																				
EM-HP1.2-3C ×1 コロガシ	4.50					1.80	1.30	2.20		0.50	5.80								16.10	
メタルモール A型						0.90	1.30	2.20		0.50									4.90	
同上付属品 A型 ｺｰﾅｰﾎﾞｯｸｽ										1.00									1.00	
同上付属品 A型 ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ								1.00											1.00	
露出丸ボックス E19 1方出																				
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ 鋼製 150×150×100				1.00															1.00	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ 鋼製 200×200×150																				
はつり補修 50φ L=150																				
溝はつり補修 100×100 (m)			0.5																0.5	

芝川ポンプ場耐震補強工事（電気設備）

数量計算書

3. 放送設備（撤去）

数量拾い書

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	放送設備（撤去）	区分	器具（撤去）

品　　名			計上数量								2階									小　計	備　　考
			数量	単位							操作室										
【撤去】																					
端子盤	400×200×120	10P　　壁掛	1	面							1									1	

器具（撤去）

数量拾い書

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	放送設備（撤去）	区分	放送設備　配管配線（撤去）	集計

品　　名		計上数量		拾い																小　計	合　計	備　　考
		数量	単位		1		2															
【撤去】																					(端数処理)	
HIV1.2×3	管内	55	m		48.40		6.10													54.50	55.0	
合計　　HIV1.2	管内	165	m																			
メタルモール	A型	1	m				0.80													0.80	1.0	
（電線別集計）																						
HIV1.2		165	m																			

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	放送設備（撤去）	区分	配管配線（撤去）	拾い	(1)

品　　名		地下1F 既設PB～1F_JB				1F JB～SP		→ JB～2F		→ JB～PS										計	備　考
		平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
【撤去】																					
HIV1.2×3	管内	18.30	6.00			3.40	2.00		1.30	14.40	3.00									48.40	

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	放送設備（撤去）	区分	配管配線（撤去）	拾い	(2)

品　　名		2F AMP～SP		→ box～AMP																計	備　考
		平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
【撤去】																					
HIV1.2×3	管内	3.90	2.20																	6.10	
メタルモール	A型				0.80															0.80	

芝川ポンプ場耐震補強工事（電気設備）

数量計算書

4. インターホン設備（改修）

数量拾い書

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	インターホン設備（改修）	区分	インターホン機器

品　名			計上数量		1階						2階									小　計	備　考
			数量	単位	工作室	発電機室	玄関				操作室	電気室	会議室								
インターホン親機	10局	撤去・再使用	1	台							1									1	
インターホン子機	壁掛	撤去・再使用	4	台	1	1						1	1							4	
玄関子機アダプタ		撤去・再使用	1	個			1													1	

数量拾い書

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	インターホン設備（改修）	区分	インターホン設備　配管配線　大集計

品　名		計上数量 数量	単位	各集計より 集計	小集計	小　計	合　計	備　考
							(端数処理)	
EM-AE0.9-2C	管内	96	m		95.90	95.90	96.0	
EM-AE0.9-2C	PF管内	14	m		13.20	13.20	14.0	
EM-AE0.9-2C	コロガシ	11	m		11.00		11.0	
EM-AE0.9-10P	管内	4	m		3.80	3.80	4.0	
EM-AE0.9-10P	コロガシ	10	m		9.50	9.50	10.0	
電線管	(E19)　露出	21	m		21.10	21.10	21.0	
電線管	(G16)　露出	3	m		2.50	2.50	3.0	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ　溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上	150×150×100(WP)	2	個	2			2	
露出丸ボックス	E19　1方出	6	個	6			6	
はつり補修	50φ　L=150	3	ヶ所	3			3	

数量拾い書

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	インターホン設備（改修）	区分	配管配線	小集計　（インターホン）

品　　名		配管配線 小集計		計	EM-AE 0.9-2C 管内	0.9-2C PF管内	0.9-2C ｺﾛｶﾞｼ		0.9-10P 管内	0.9-10P ｺﾛｶﾞｼ			電線管 E19 露出	G16 露出								
EM-AE0.9-2C　×1	(E19)　露出	21.10		21.10	21.10								21.10									
EM-AE0.9-2C　×1	(G16)　露出	2.50		2.50	2.50									2.50								
EM-AE0.9-2C　×2	管内	7.70		7.70	15.40																	
EM-AE0.9-2C　×3	管内	13.50		13.50	40.50																	
EM-AE0.9-2C　×4	管内	4.10		4.10	16.40																	
EM-AE0.9-2C　×4	PF管内	3.30		3.30		13.20																
EM-AE0.9-2C　×1	コロガシ	4.00		4.00			4.00															
EM-AE0.9-2C　×2	コロガシ	3.50		3.50			7.00															
EM-AE0.9-10P	管内	3.80		3.80					3.80													
EM-AE0.9-10P	コロガシ	9.50		9.50						9.50												
				計	95.90	13.20	11.00		3.80	9.50			21.10	2.50								

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	インターホン設備（改修）	区分	配管配線	集計（インターホン）

品　　名			計上数量		拾い（配管配線）																小　計	備　　考
			数量	単位	1	2																
EM-AE0.9-2C	×1	(E19)　露出	21.10	m	5.00	16.10															21.10	
EM-AE0.9-2C	×1	(G16)　露出	2.50	m	2.50																2.50	
EM-AE0.9-2C	×2	管内	7.70	m	7.50	0.20															7.70	
EM-AE0.9-2C	×3	管内	13.50	m	13.50																13.50	
EM-AE0.9-2C	×4	管内	4.10	m	4.10																4.10	
EM-AE0.9-2C	×4	PF管内	3.30	m	3.30																3.30	
EM-AE0.9-2C	×1	コロガシ	4.00	m	2.00	2.00															4.00	
EM-AE0.9-2C	×2	コロガシ	3.50	m		3.50															3.50	
EM-AE0.9-10P		管内	3.80	m	2.80	1.00															3.80	
EM-AE0.9-10P		コロガシ	9.50	m		9.50															9.50	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	150×150×100		個																		
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上	150×150×100(WP)	2.00	個	2.00																2.00	
露出丸ボックス		E19　1方出	6	個	2.00	4.00															6.00	
はつり補修		50φ　L=150	3	ヶ所	2.00	1.00															3.00	

数量拾い書

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)			工 事 種 別	インターホン設備（改修）						区分	配管配線					拾い		(1)	
品	名		1階	（A） 2FL～PB		工作室 PB～子機		（B） PB～PB		（C） PB～PB		発電機室 PB～子機		（D） PB～PB		玄関 PB～PB		（E） PB～PB		→ →		計	備　考
				平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
EM-AE0.9-2C	×1	(E19)	露出			0.80	1.70					0.80	1.70									5.00	
EM-AE0.9-2C	×1	(G16)	露出													0.80	1.70					2.50	
EM-AE0.9-2C	×2	管内																4.10	1.00	2.40		7.50	
EM-AE0.9-2C	×3	管内												13.50								13.50	
EM-AE0.9-2C	×4	管内								4.1												4.1	
EM-AE0.9-2C	×4	PF管内						3.30														3.30	
EM-AE0.9-2C	×1	コロガシ				1.00						1.00										2.00	
EM-AE0.9-2C	×2	コロガシ																					
EM-AE0.9-10P		管内			2.80																	2.80	
EM-AE0.9-10P		コロガシ																					
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	150×150×100																					
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上	150×150×100(WP)														2						2	
露出丸ボックス		E19	1方出				1.00					1.00										2.00	
はつり補修		50φ	L=150									1.00				1.00						2.00	

数量拾い書

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	インターホン設備（改修）	区分	配管配線	拾い	(2)

品　名			2階	操作室 ﾋﾟｯﾄ内		→ ﾋﾟｯﾄ～親機		→ ﾋﾟｯﾄ～廊下		廊下 BOX～電気室		電気室 BOX～子機		廊下 BOX～会議室		会議室 BOX～子機						計	備　考
				平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
EM-AE0.9-2C	×1	(E19)	露出							4.50		0.80	1.70	6.90		1.20	1.00					16.10	
EM-AE0.9-2C	×1	(G16)	露出																				
EM-AE0.9-2C	×2	管内						0.20														0.20	
EM-AE0.9-2C	×3	管内																					
EM-AE0.9-2C	×4	管内																					
EM-AE0.9-2C	×4	PF管内																					
EM-AE0.9-2C	×1	コロガシ										1.00				1.00						2.00	
EM-AE0.9-2C	×2	コロガシ						1.30	2.20													3.50	
EM-AE0.9-10P		管内				0.50	0.50															1.00	
EM-AE0.9-10P		コロガシ		4.50		5.00																9.50	
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	鋼製	150×150×100																					
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上	150×150×100(WP)																					
露出丸ボックス		E19	1方出							1.00			1.00	1.00			1.00					4.00	
はつり補修		50φ	L=150											1.00								1.00	

芝川ポンプ場耐震補強工事（電気設備）

数量計算書

４．インターホン設備（撤去）

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	インターホン設備（撤去）	区分	インターホン設備　配管配線（撤去）　集計

品　　名		計上数量		拾いより																小　計	合　計	備　　考
		数量	単位			1		2														
【撤去】																					(端数処理)	
IV1.2×2	管内	69	m			42.40		25.80												68.20	69.0	
IV1.2×4	管内	17	m			16.80														16.80	17.0	
IV1.2×6	管内	4	m			3.70														3.70	4.0	
合計　　IV1.2	管内	230	m																			
CPEV1.2-10P	コロガシ	4	m					3.50												3.50	4.0	
（電線別集計）																						
IV1.2		230	m																			
CPEV1.2-10P		4	m																			

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	インターホン設備（撤去）	区分	配管配線（撤去）	拾い	(1)

品　名	1階	工作室 JB～2F		→ JB～子機		ﾓｰﾀ室 JB～PS		玄関 JB～玄関OB		発電機室 JB～子機										計	備　考
		平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
【撤去】																					
IV1.2×2	管内	1.70	2.00	2.20	4.50			16.70	5.50	5.30	4.50									42.40	
IV1.2×4	管内					13.80	3.00													16.80	
IV1.2×6	管内	1.70	2.00																	3.70	
CPEV1.2-10P	コロガシ																				

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	インターホン設備（撤去）	区分	配管配線（撤去）	拾い	(2)

品　　名		２階 JB～電気室		JB～会議室		操作室														計	備　考
		平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面	平面	立面		
【撤去】																					
IV1.2×2	管内	4.20	6.50	8.60	6.50															25.80	
IV1.2×4	管内																				
IV1.2×6	管内																				
CPEV1.2-10P	コロガシ					1.50	2.00													3.50	

芝川ポンプ場耐震補強工事（電気設備）

数量計算書

2. 直接仮設

数量拾い書

件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別	仮設足場	区分	仮設足場	大集計

品　　名		計上数量		各集計より																小　計	合　計	備　　考
		数量	単位			B1F		1F														
																					(端数処理)	
枠組本足場　W=600	階高12m未満	128.0	架㎡			120.00		8													128.0	
																						0.15m2/個

数量拾い書

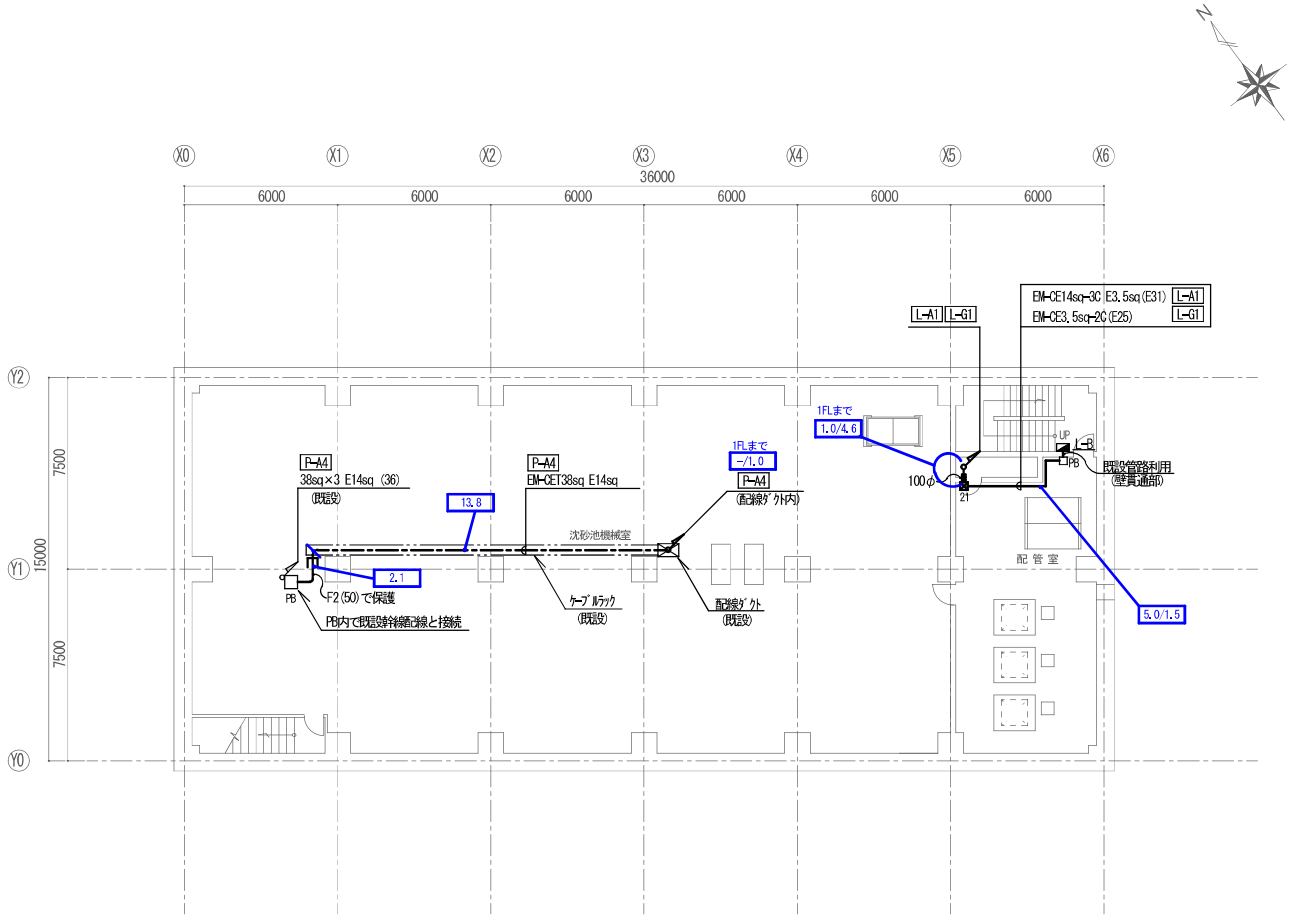
件　名	芝川ポンプ場耐震補強工事(電気設備)	工 事 種 別		区分	X線鉄筋探査	大集計

品　　名		計上数量		各集計より																小　計	合　計	備　　考
						B1F		1F		２F												
		数量	単位			床	壁	床	壁	床	壁											
																					(端数処理)	
X線鉄筋探査　(床)	0.5m×0.5m/ヶ所	2.0	ヶ所					1		1											2.0	
(壁)	0.5×0.5×ヶ所	20.0	ヶ所				1		13		6										20.0	
																						0.15m2/個

凡 例（改修）

記 号	名 称		備 考
M	主開閉器盤	新設	盤単線結線図参照
	動力制御盤	既設	
	電灯分電盤	〃	
――――	配管配線（露出配管）	新設	
― ― ―	ケーブル配線（ピット内）	〃	
⊠	プルボックス（鋼製）	〃	
▨	はつり補修（壁・床貫通）	〃	
- - - - - -	配管配線	既設	
□PB	プルボックス	〃	
No	幹線番号		

（注記）
1. 特記なき配線は系統図（改修）参照
2. 特記なきプルボックスは下記による。
   - ⊠21 ：200×200×150
   - ⊠32 ：300×300×200
   - ⊠42 ：400×400×200



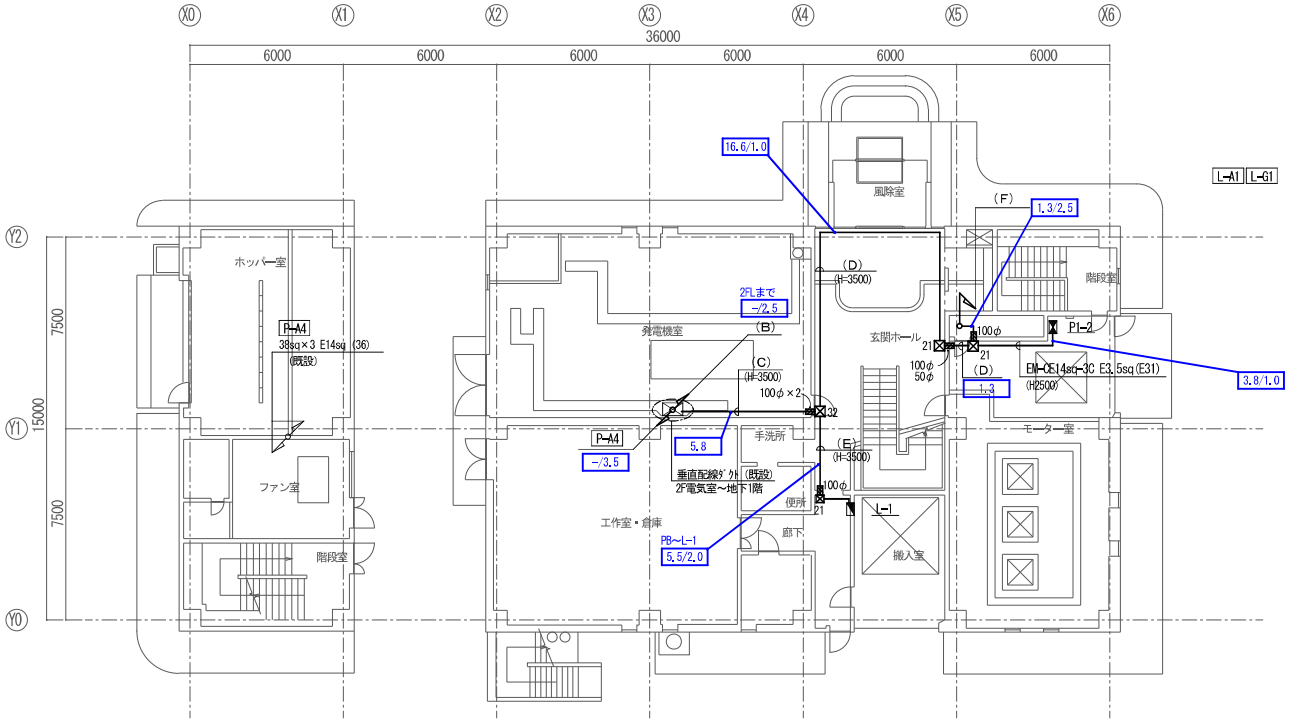
地下1階 平面図［改修後］

数量図

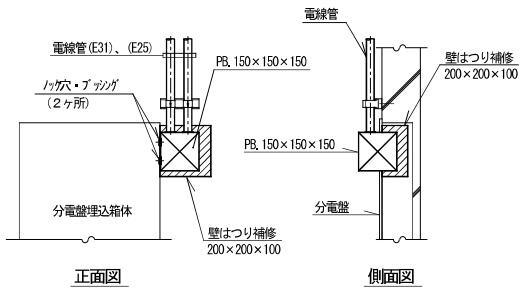
委託名	芝川ポンプ場耐震補強実施設計業務		
図面名	幹線設備地下１階平面図（改修）		
作成年月日	令和8年3月		
縮尺	A1:1/100 A3:1/200	図面番号	E-00
会社名	株式会社　日建技術コンサルタント		
事業者名	埼玉県　上尾市		

配線表

記号	盤名	配管配線			
(B)	P2-4	EM-CET38sq	E14sq		P-A4
	P1-2	EM-CE14sq-3C			P-G1
	L-B	EM-CE14sq-3C		(配線ﾀﾞｸﾄ)	L-A1
	L-B	EM-CE3.5sq-2C			L-G1
	L-1	EM-CE8sq-3C			L-A2
	L-1	EM-CE3.5sq-3C			L-G2
(C)	P1-2	EM-CE14sq-3C	E5.5sq		P-G1
	L-B	EM-CE14sq-3C			L-A1
	L-B	EM-CE3.5sq-2C		(E63)×2	L-G1
	L-1	EM-CE8sq-3C			L-A2
	L-1	EM-CE3.5sq-3C			L-G2
(D)	P1-2	EM-CE14sq-3C	E3.5sq	(E31)	P-G1
	L-B	EM-CE14sq-3C		(E31)	L-A1
	L-B	EM-CE3.5sq-2C		(E25)	L-G1
(E)	L-1	EM-CE8sq-3C	E3.5sq	(E31)	L-A2
	L-1	EM-CE3.5sq-3C		(E25)	L-G2
(F)	L-B	EM-CE14sq-3C	E3.5sq	(E31)	L-A1
	L-B	EM-CE3.5sq-2C		(E25)	L-G1



1階 平面図 [改修後]



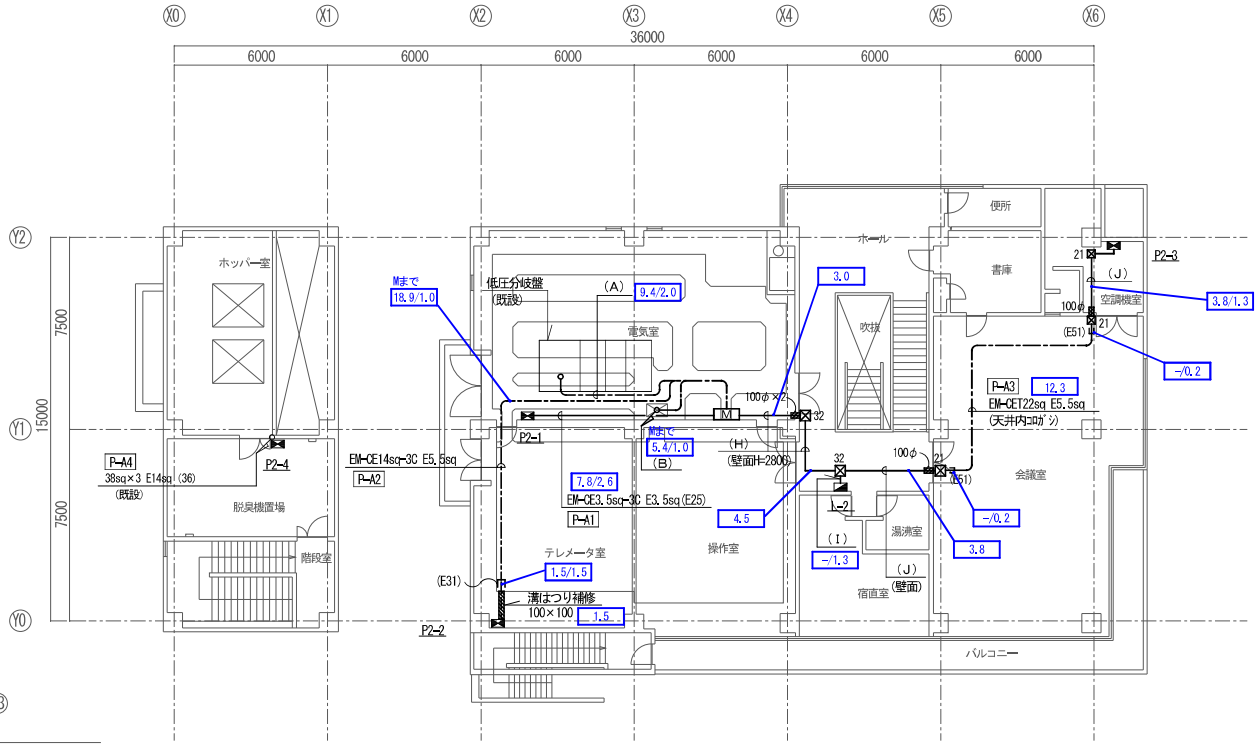
電灯分電盤　電線管接続図（参考）

数量図

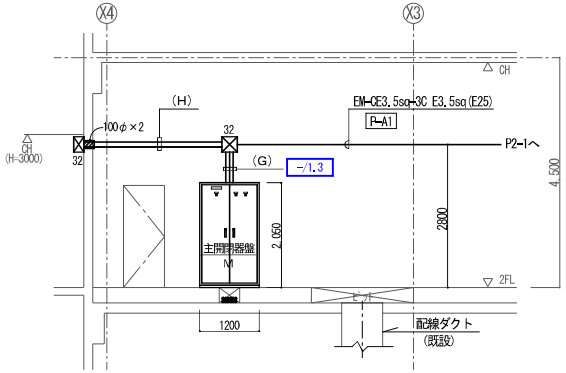
委託名	芝川ポンプ場耐震補強実施設計業務		
図面名	幹線設備1階平面図（改修）		
作成年月日	令和8年3月		
縮尺	A1:1/100 A3:1/200	図面番号	E-00
会社名	株式会社　日建技術コンサルタント		
事業者名	埼玉県　上尾市		

配線表

記号	盤名	配管配線				
(A)		EM-CET150sq	E22sq			AC3φ3W200V
		EM-CE14sq-3C				AC/GC3φ3W200V
		EM-CET60sq		(ピット)		AC1φ3W200-105V
		EM-CET22sq				AC/GC1φ3W200-105V
(B)	P2-4	EM-CET38sq	E14sq			P-A4
	P1-2	EM-CE14sq-3C				P-G1
	L-B	EM-CE14sq-3C		(配線ダクト)		L-A1
	L-B	EM-CE3.5sq-2C				L-G1
	L-1	EM-CE8sq-3C				L-A2
	L-1	EM-CE3.5sq-3C				L-G2
(G)	P2-3	EM-CET22sq	E5.5sq	(E51)		P-A3
	L-2	EM-CE14sq-3C		(E51)		L-A3
	L-2	EM-CE3.5sq-3C				L-G3
	P2-1	EM-CE3.5sq-3C		(E25)		P-A1
(H)	P2-3	EM-CET22sq	E5.5sq	(E51)		P-A3
	L-2	EM-CE14sq-3C		(E51)		L-A3
	L-2	EM-CE3.5sq-3C				L-G3
(I)	L-2	EM-CE14sq-3C	E3.5sq	(E31)		L-A3
	L-2	EM-CE3.5sq-3C		(E25)		L-G3
(J)	P2-3	EM-CET22sq	E5.5sq	(E51)		P-A3



2階 平面図 [改修後]



主開閉器盤 正面図 S=1/50 (A1) S=1/100 (A3)

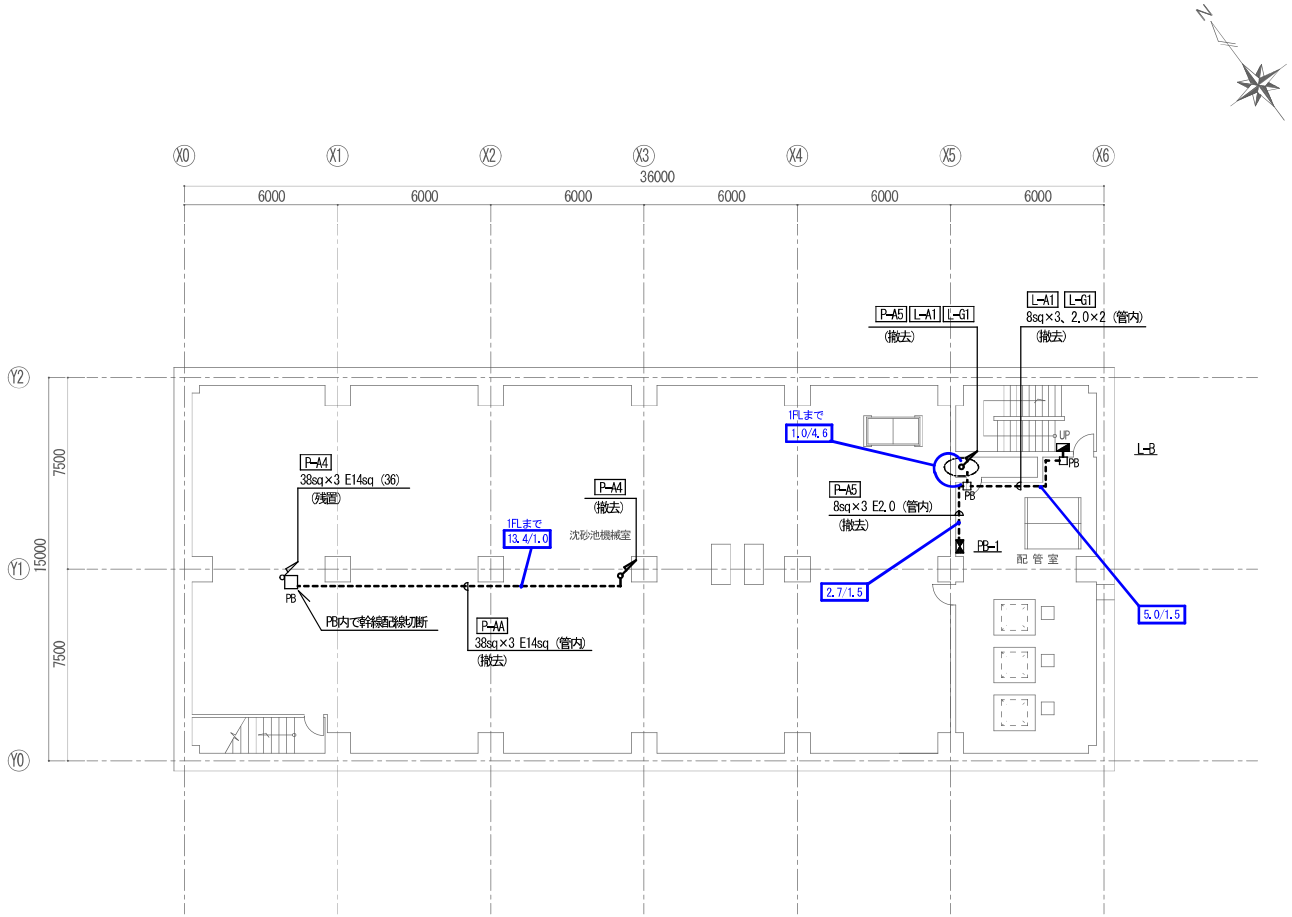
数量図

委託名	芝川ポンプ場耐震補強実施設計業務		
図面名	幹線設備2階平面図（改修）		
作成年月日	令和8年3月		
縮尺	A1:1/100 A3:1/200	図面番号	E-00
会社名	株式会社　日建技術コンサルタント		
事業者名	埼玉県　上尾市		

凡 例（撤去）

記 号	名 称		備 考
M	主開閉器盤	撤去	
	動力制御盤	残置	
	電灯分電盤	〃	
———	配管配線（埋込配管）	撤去	
- - - - - -	配管配線（露出配管）		
—·—·—	ケーブル配線	〃	
⊠	プルボックス	〃	
- - - - - -	配管配線	残置	
□PB	プルボックス	〃	
No	幹線番号		

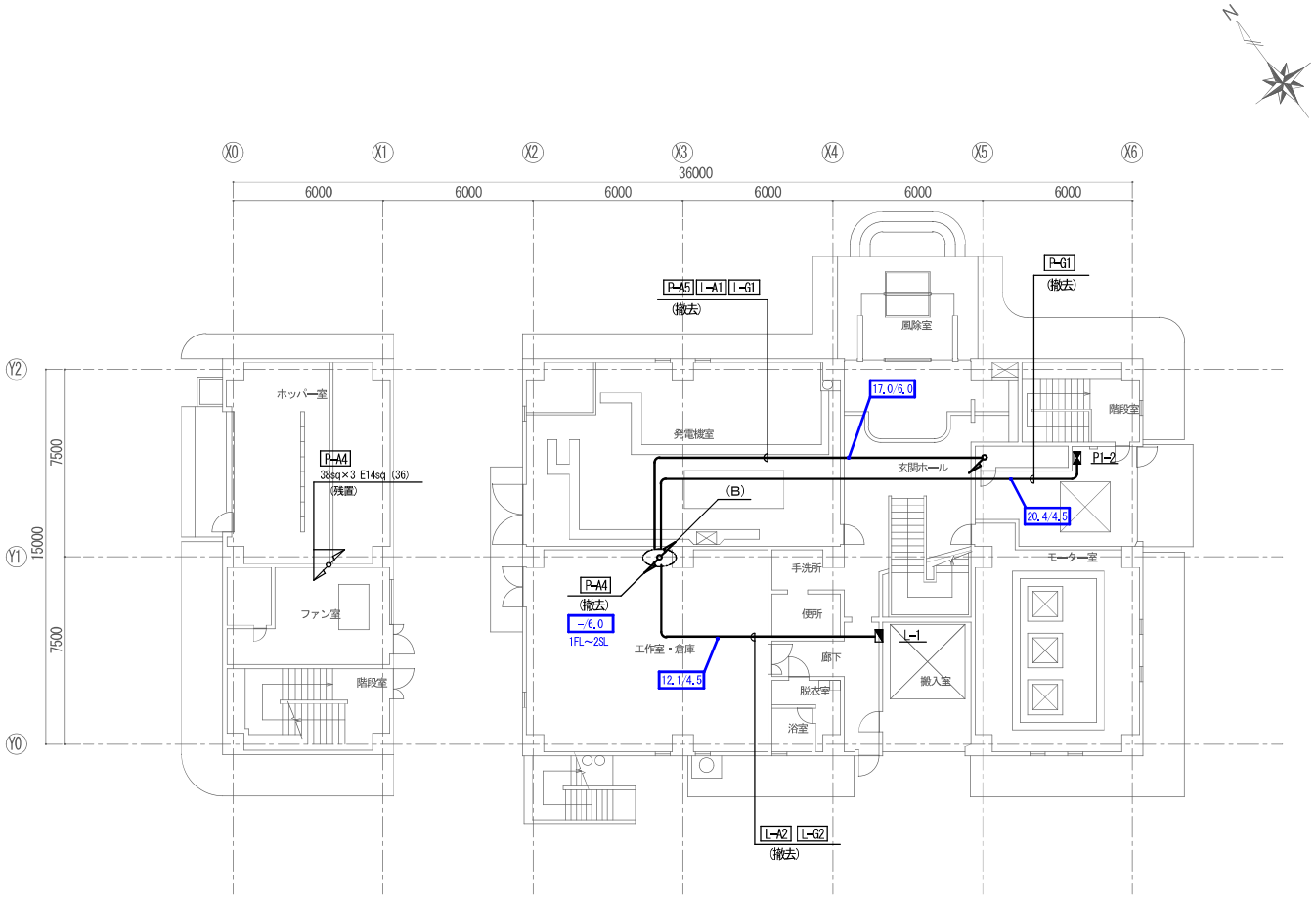
（注記）
1. 特記なき撤去配線は系統図（撤去）参照
2. 撤去記載のない電線管はすべて残置とする。



地下1階 平面図［改修前］

数量図

委託名	芝川ポンプ場耐震補強実施設計業務		
図面名	幹線設備地下１階平面図（撤去）		
作成年月日	令和8年3月		
縮尺	A1:1/100 A3:1/200	図面番号	E-00
会社名	株式会社　日建技術コンサルタント		
事業者名	埼玉県　上尾市		



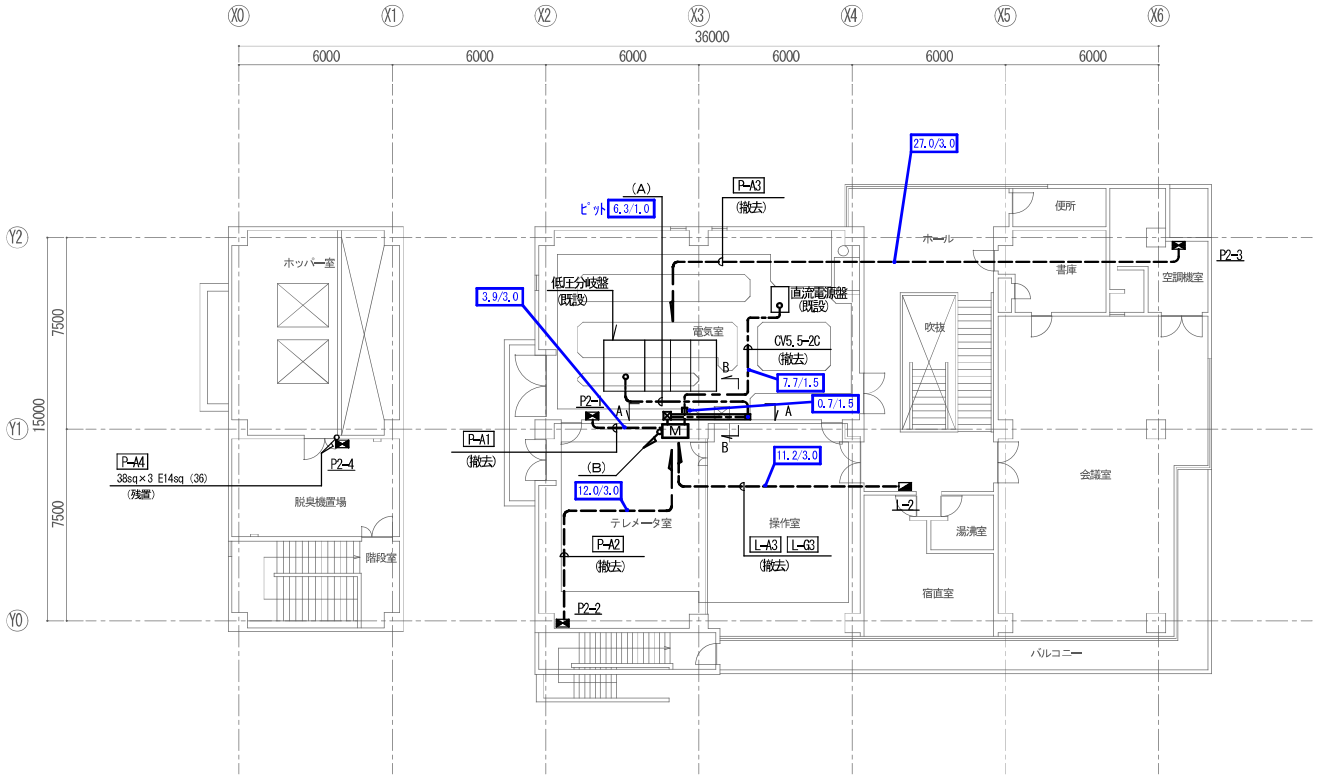
1階 平面図 [改修前]

撤去配線表

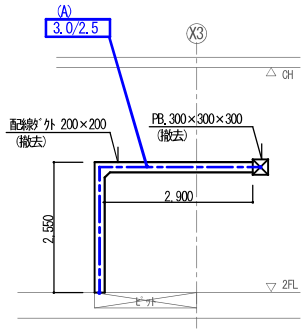
記号	盤名	配　線			
(B)	P2-4	38sq×3 E14sq	(管内)	P-A4	
	PB-1	8sq×3 E2.0	(管内)	P-A5	
	P1-2	2.0×3 E2.0	(管内)	P-G1	
	L-B	8sq×3、2.0×2	(管内)	L-A1	L-G1
	L-1	8sq×3、2.0×3	(管内)	L-A2	L-G2

数量図

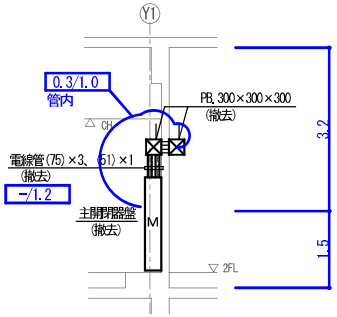
委託名	芝川ポンプ場耐震補強実施設計業務		
図面名	幹線設備1階平面図（撤去）		
作成年月日	令和8年3月		
縮尺	A1:1/100 A3:1/200	図面番号	E-00
会社名	株式会社　日建技術コンサルタント		
事業者名	埼玉県　上尾市		



2階 平面図 [改修前]



A－A矢視図



B－B矢視図

撤去配線表

記号	電源種別	配　線	
(A)	AC3φ3W200V	CVT150sq×2	(ピット、配線ダクト、管内)
	AC/GC3φ3W200V	CV 8sq-3C	(〃)
	AC1φ3W200-105V	CVT 60sq	(〃)
	AC/GC1φ3W200-105V	CVT 38sq	(〃)

撤去詳細図　S=1/50 (A1)　S=1/100 (A3)

数量図

委託名	芝川ポンプ場耐震補強実施設計業務		
図面名	幹線設備２階平面図（撤去）		
作成年月日	令和8年3月		
縮尺	A1:1/100 A3:1/200	図面番号	E-00
会社名	株式会社　日建技術コンサルタント		
事業者名	埼玉県　上尾市		

凡 例（改修）

記号	名称	摘要	
★	水銀灯 HF200W 安定器共	再使用	
★	蛍光灯 FL40W×1 壁付	〃	
S	手元開閉器	新設	
	LEDダウンライト	〃	LRS1-08 LN
●	埋込ｽｲｯﾁ 1P15A	〃	新金ﾌﾟﾚｰﾄ
●L	埋込PLｽｲｯﾁ 1P4A	〃	〃
●F	埋込浴室換気用ｽｲｯﾁ 5～50W	〃	〃 30分・15分
2	埋込ｺﾝｾﾝﾄ 2P15A×2	〃	〃
2E	埋込ｺﾝｾﾝﾄ 2P15AE×2	〃	〃
E	埋込ｺﾝｾﾝﾄ 2P15AE×1 250V	〃	〃 プラグ共
ELB	ELB付ｺﾝｾﾝﾄ ELB2P1E15A	〃	ｶﾞｰｽﾞﾌﾟﾚｰﾄ（防雨型 抜止ｺﾝｾﾝﾄ付）
★	有圧扇 350φ 1φ200V 80W	再使用	
	配管配線（露出配管）	新設	
	ケーブル配線（いんぺい）	〃	
M	ケーブル配線（ﾒﾀﾙﾓｰﾙ）	〃	M：A型、MB：B型
	プルボックス	〃	
	露出丸ボックス	〃	
	アウトレットボックス	〃	天井内いんぺい
ED	接地極 ED	〃	接地銅棒 L=1500×1本
	躯体貫通はつり補修	〃	▲：耐震壁新設部
	電灯分電盤	既設	
	水銀灯 HF200W	〃	
	蛍光灯 FL40W×1	〃	
	蛍光灯 FL20W×2	〃	
	天井換気扇	〃	
	配管配線（埋込配管）	〃	
	位置ﾎﾞｯｸｽ	〃	ｱｳﾄﾚｯﾄﾎﾞｯｸｽ
NO	回路番号 （1φ200V）	AC回路：1～ GC回路：A～	
NO	回路番号 （1φ100V）	〃 〃	

（注記）

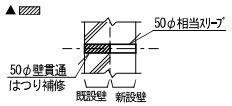
1．特記なき配管配線は下記による。

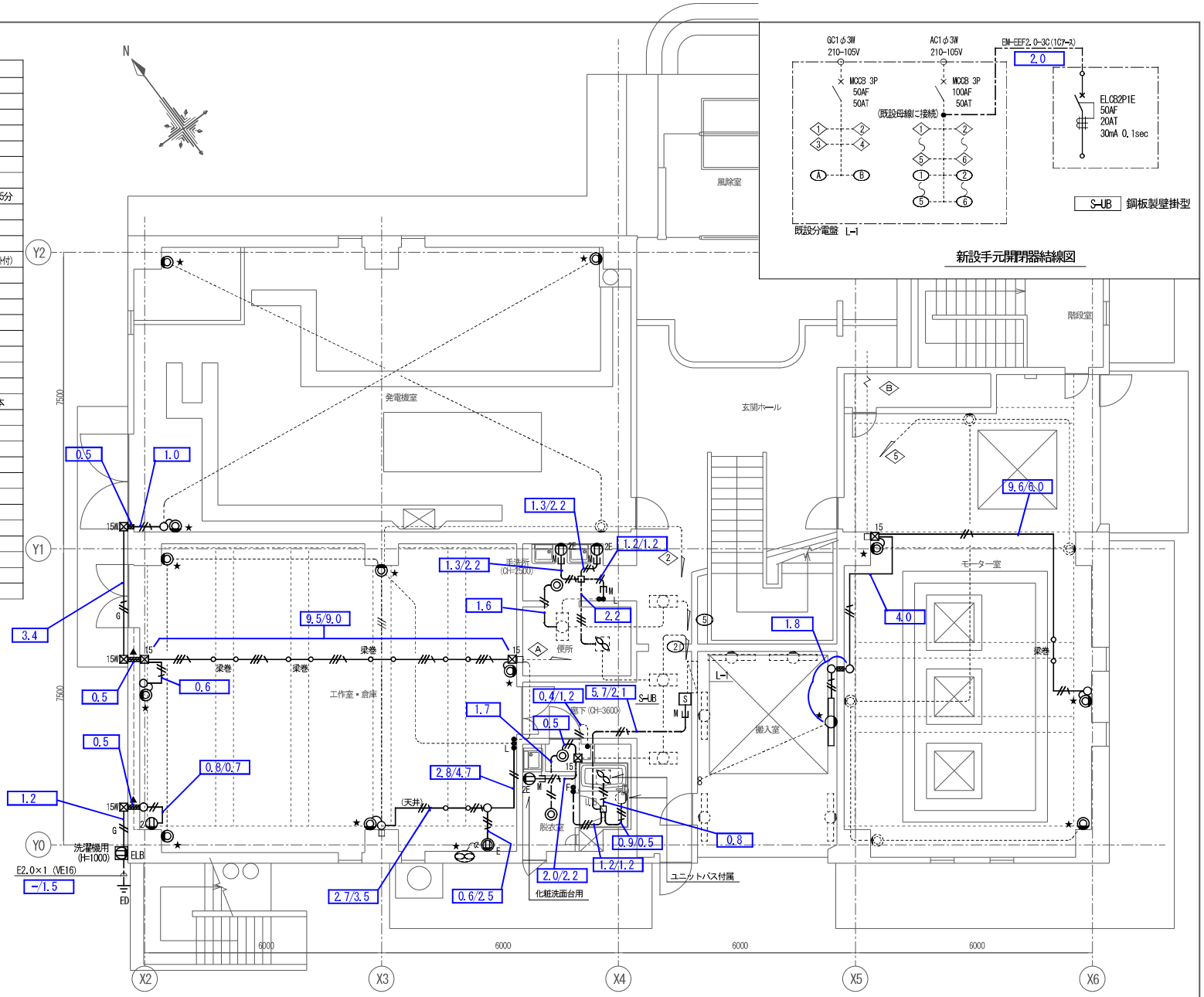
- EM-IE2.0×2 (E19)
- EM-IE2.0×2 E2.0 (E19)
- EM-IE2.0×3 E2.0 (E25)
- G EM-IE2.0×2 (G16)
- G EM-IE2.0×2 E2.0 (G16)
- EM-IE2.0×2 (既設管路)
- EM-EEF2.0-2C
- EM-EEF2.0-3C
- EM-EEF2.0-3C（1C7ｰｽ）
- EM-EEF2.0-3C（1C7ｰｽ） 保護部（E25）
- M EM-EEF2.0-2C 立下げ部（MM-A）
- M EM-EEF2.0-3C 立下げ部（MM-A）
- M EM-EEF2.0-3C（1C7ｰｽ）立下げ部（MM-A）
- M EM-EEF2.0-2C (MM-A型)
- M EM-EEF2.0-3C（1C7ｰｽ） (MM-A型)

2．特記なきプルボックスのサイズは下記による。

- ☒15 ：150×150×100
- ☒15W ：150×150×100（防水型：溶融亜鉛メッキ仕上）

3．耐震壁新設部分の壁貫通は下記を参考とする。



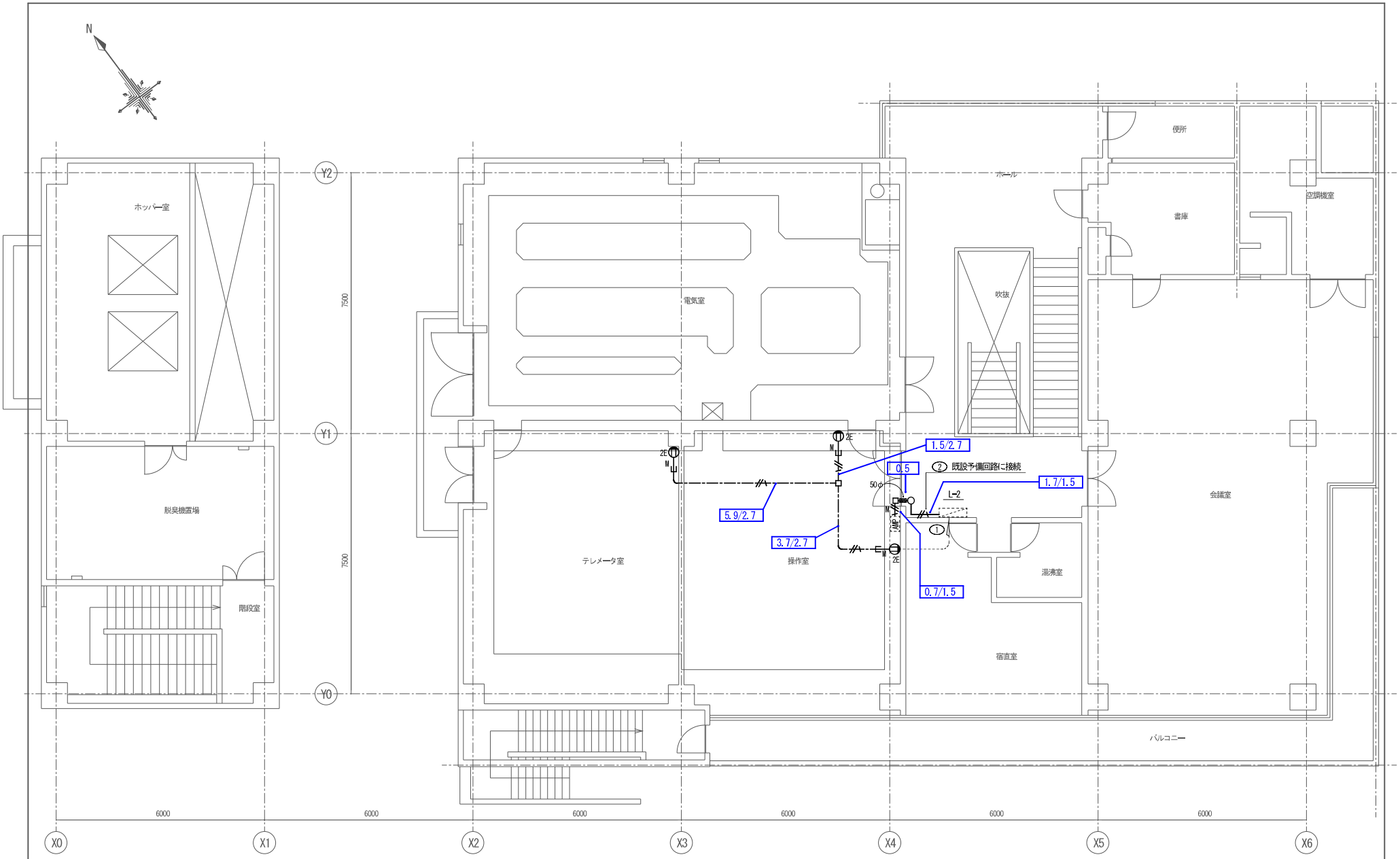


新設手元開閉器結線図

1階平面図 ［改修後］

数量図

委託名	芝川ポンプ場耐震補強実施設計業務		
図面名	電灯コンセント設備1階平面図（改修）		
作成年月日	令和8年3月		
縮尺	A1：1/50 A3：1/100	図面番号	E-00
会社名	株式会社 日建技術コンサルタント		
事業者名	埼玉県 上尾市		



２階平面図　［改修後］

数量図

委託名	芝川ポンプ場耐震補強実施設計業務		
図面名	電灯コンセント設備２階平面図（改修）		
作成年月日	令和8年3月		
縮尺	A1：1/50 A3：1/100	図面番号	E-00
会社名	株式会社　日建技術コンサルタント		
事業者名	埼玉県　上尾市		

凡　例（撤去）

記号	名　　称	摘　　要	
★	水銀灯　HF200W　安定器共	撤去	再使用
★	蛍光灯　FL20W×1　壁付	〃	〃
★	蛍光灯　FL40W×1　壁付	〃	〃
	蛍光灯　FL20W×1　壁付	〃	
	白熱灯　IL60W×1　直付	〃	
	埋込ｽｲｯﾁ　1P15A	〃	
L	埋込PLｽｲｯﾁ　1P4A	〃	
2	埋込ｺﾝｾﾝﾄ　2P15A×2	〃	
	埋込ｺﾝｾﾝﾄ　2P15AE×1 250V	〃	
3	露出ｺﾝｾﾝﾄ　2P15A×3	〃	
★	有圧扇　350φ　1φ200V 80W	〃	再使用
	配管配線（埋込配管）	撤去	配線撤去
	配管配線（床埋込配管）	〃	〃
	電灯分電盤	既設	
	水銀灯　HF200W	〃	
	蛍光灯　FL40W×1	〃	
	蛍光灯　FL20W×2	〃	
	天井換気扇	〃	
	配管配線（埋込配管）	〃	
NO	回路番号　（1φ200V）		AC回路：1～　GC回路：A～
NO	回路番号　（1φ100V）		〃　〃

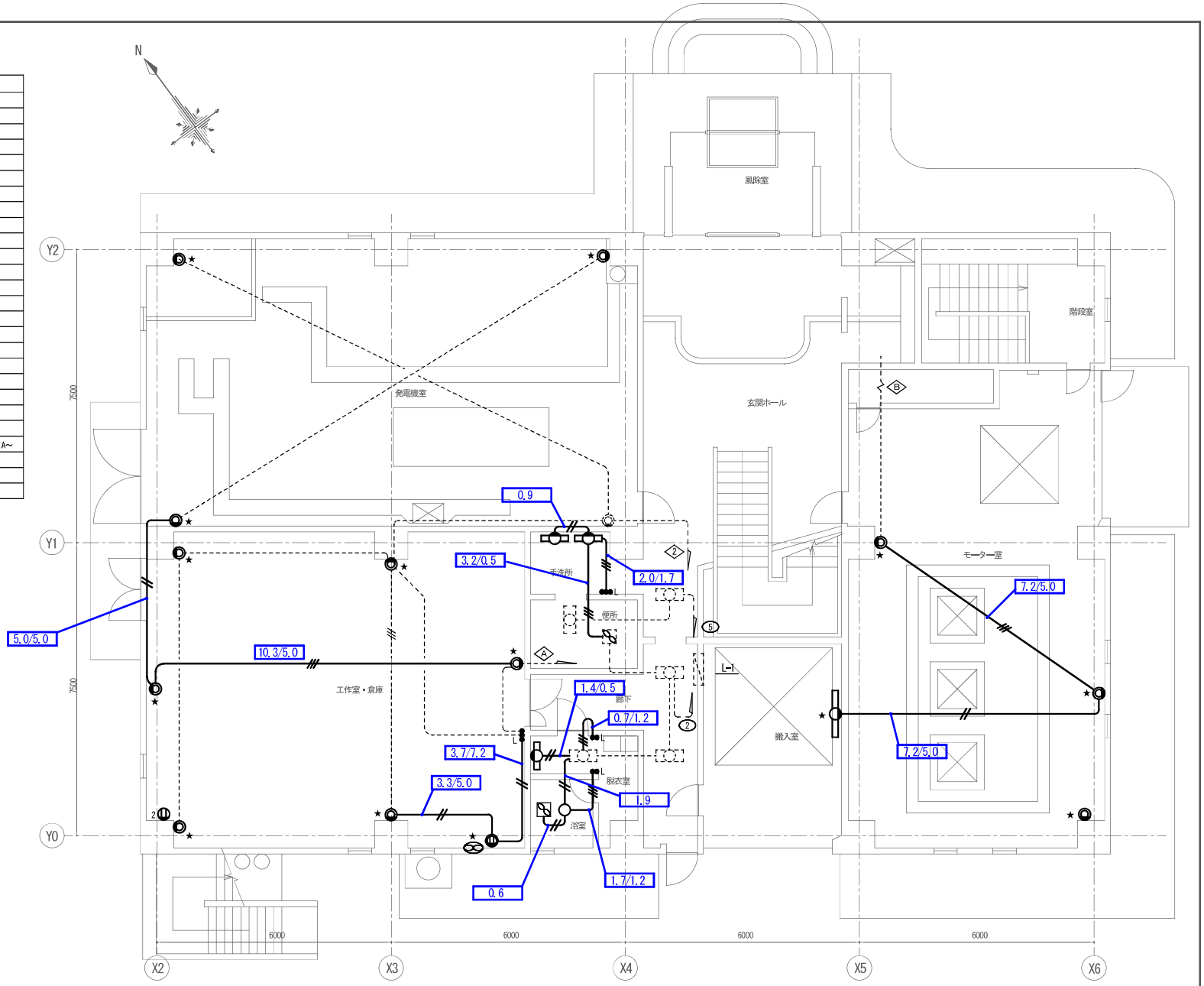
（注記）

1．特記なき撤去配線は下記による。

IV2.0×2　（管内）

IV2.0×3　（管内）

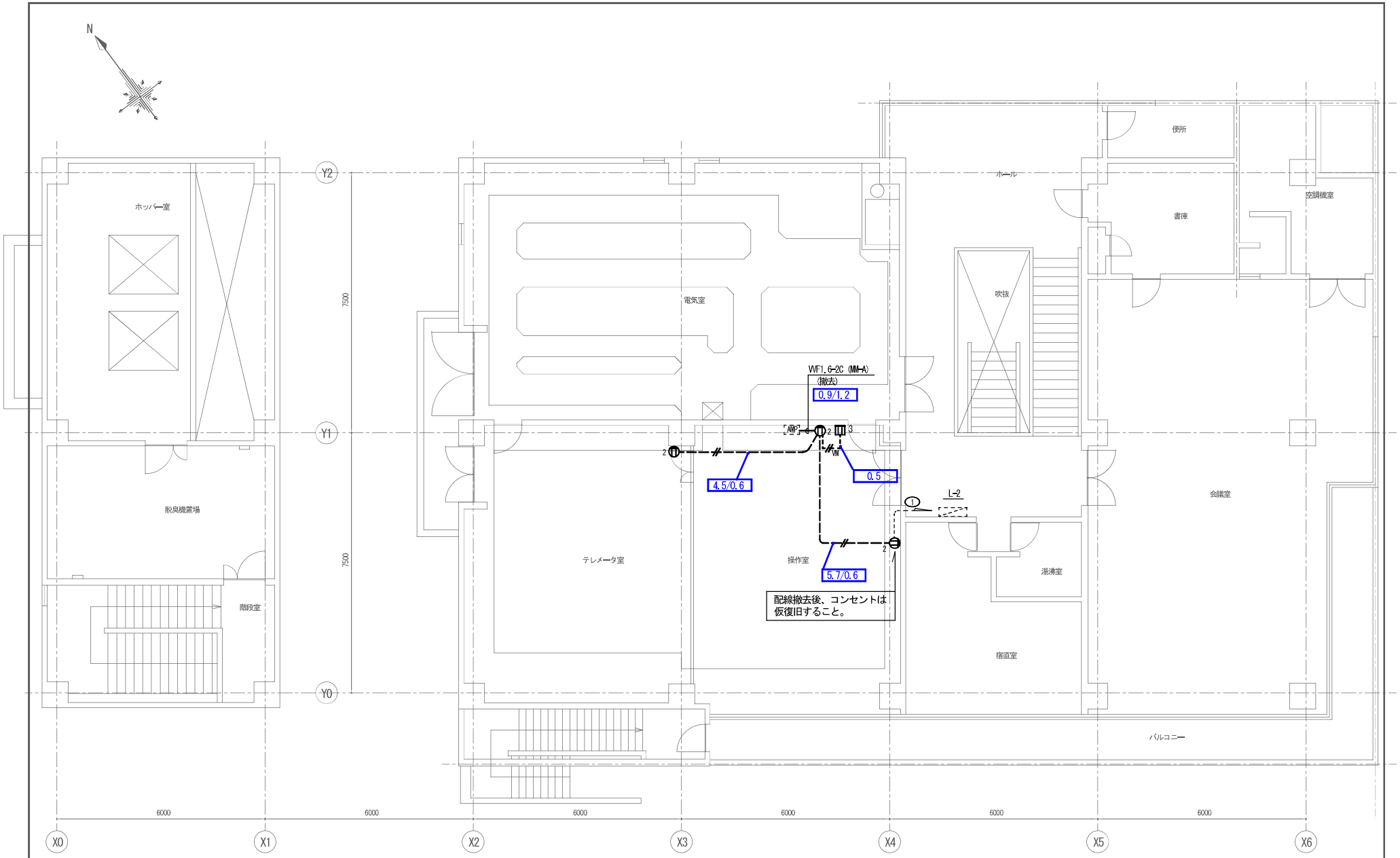
VM　VVF2.0-2C　（ﾋﾞﾆﾙﾓｰﾙ）



1階平面図　［改修前］

数量図

委託名	芝川ポンプ場耐震補強実施設計業務		
図面名	電灯コンセント設備1階平面図（撤去）		
作成年月日	令和8年3月		
縮尺	A1:1/50 A3:1/100	図面番号	E-00
会社名	株式会社　日建技術コンサルタント		
事業者名	埼玉県　上尾市		



２階平面図　[改修前]

数量図

委託名	芝川ポンプ場耐震補強実施設計業務		
図面名	電灯コンセント設備２階平面図（撤去）		
作成年月日	令和8年3月		
縮尺	A1:1/50 A3:1/100	図面番号	E-00
会社名	株式会社　日建技術コンサルタント		
事業者名	埼玉県　上尾市		

凡　例（改修）

記号	名　　称		摘　　要
AMP ★	業務・非常放送ｱﾝﾌﾟ　10局	再使用	
★	ﾎｰﾝ型ｽﾋﾟｰｶｰ　10W	〃	
★	天井埋込ｽﾋﾟｰｶｰ　3W	〃	
★	インターホン親機　10局	再使用	卓上型
★	インターホン子機	〃	
AD ★	玄関子機アダプタ	〃	
MDF ★	ＭＤＦ　壁掛露出型	〃	
――――	配管配線（露出配管）	新設	
―・―・―	配管配線（いんぺい配管）	〃	
――――	配管配線（床埋込配管）	〃	
― ― ―	ケーブル配線（ピット内）	〃	
MM-A	メタルモール　A型	〃	
☒	プルボックス（鋼製）	〃	W：防水型
▨	はつり補修（壁・床貫通）	〃	
○	露出ボックス	〃	
	ﾄﾗﾝｼﾞｽﾀｽﾋﾟｰｶｰ　10W	既設	
	天井埋込ｽﾋﾟｰｶｰ　3W	〃	
	アッテネータ	〃	
	インターホン子機	〃	
	インターホン玄関子機	〃	
-------	配管配線	既設	
□PB	プルボックス	〃	

（注記）

1．特記なき配管配線は下記による。

EM-AE 0.9-2C　(E19)

G EM-AE 0.9-2C　(G16)

H EM-HP 1.2-3C　(E19)

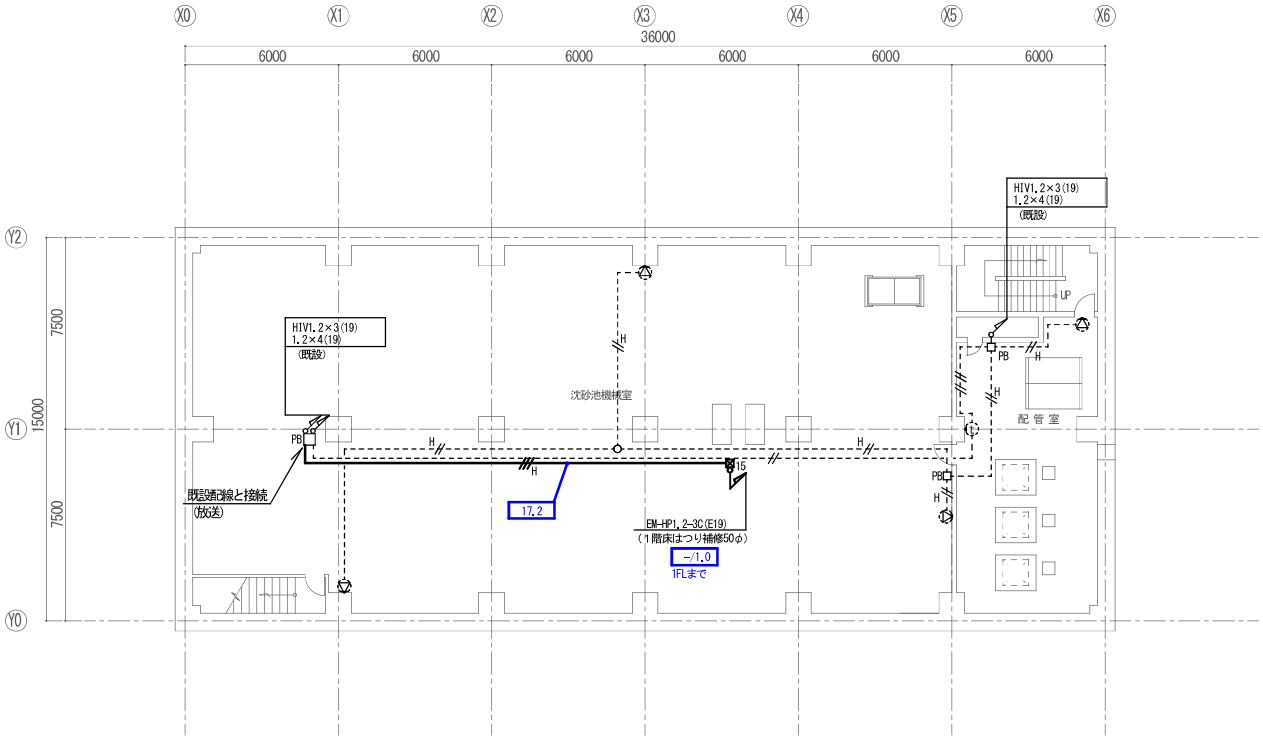
H EM-HP 1.2-3C　(コロガシ)

2．特記なきプルボックスは下記による。

☒15　：150×150×100

☒15W　：150×150×100（溶融亜鉛メッキ仕上）

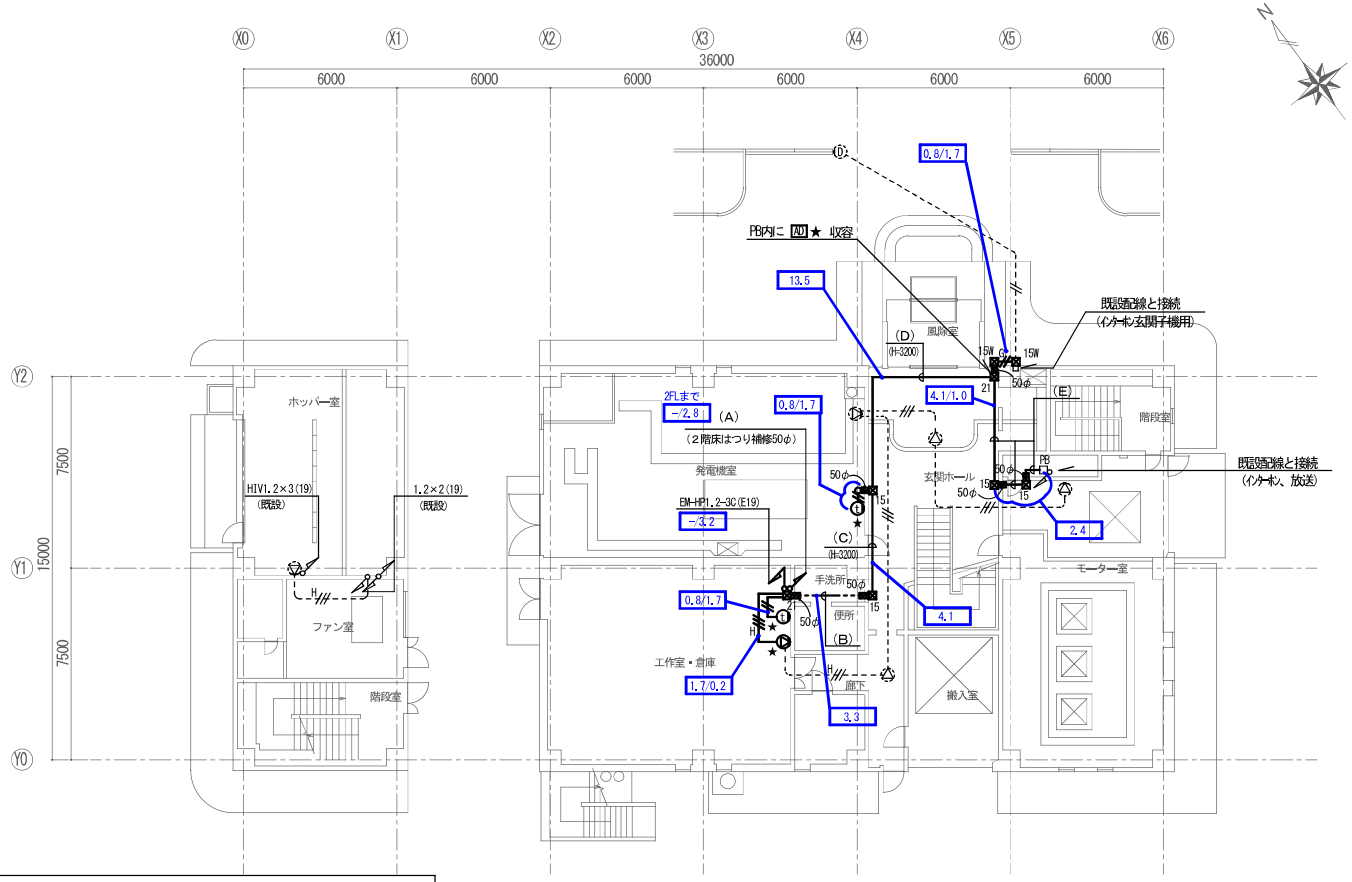
☒21　：200×200×150

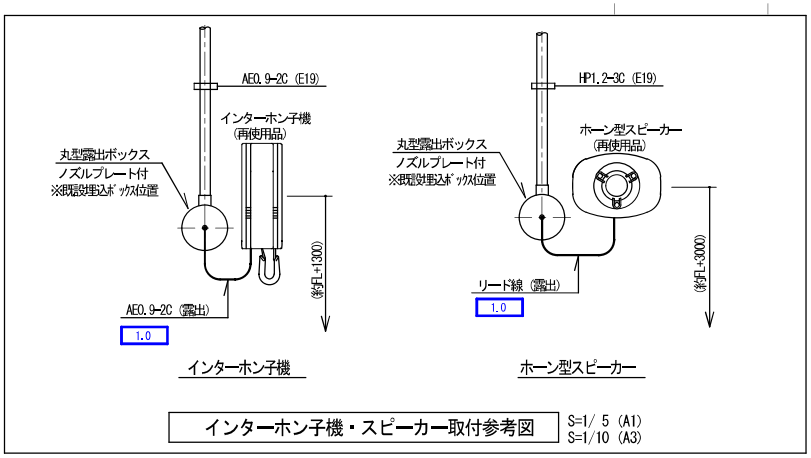


地下1階 平面図［改修後］

数量図

委託名	芝川ポンプ場耐震補強実施設計業務		
図面名	弱電設備地下１階平面図（改修）		
作成年月日	令和8年3月		
縮尺	A1:1/100 A3:1/200	図面番号	E-00
会社名	株式会社　日建技術コンサルタント		
事業者名	埼玉県　上尾市		





インターホン子機・スピーカー取付参考図 S=1/5 (A1) S=1/10 (A3)

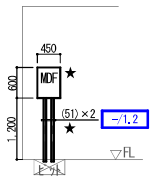
1階 平面図 [改修後]

配線表

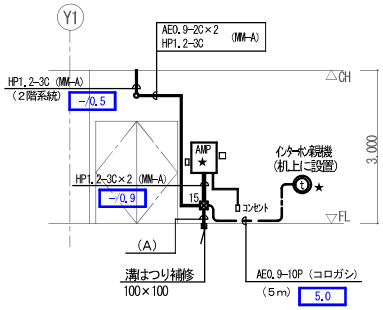
記号	配管	配線		
(A)	EM-AE0.9-10P EM-HP1.2-3C	(E31)	インターホン 放送	
(B)	EM-AE0.9-2C ×4 EM-HP1.2-3C	(PF28)	インターホン 放送	
(C)	EM-AE0.9-2C ×4 EM-HP1.2-3C	(E31)	インターホン 放送	
(D)	EM-AE0.9-2C ×3 EM-HP1.2-3C	(E31)	インターホン 放送	
(E)	EM-AE0.9-2C ×2 EM-HP1.2-3C	(E25)	インターホン 放送	

数量図

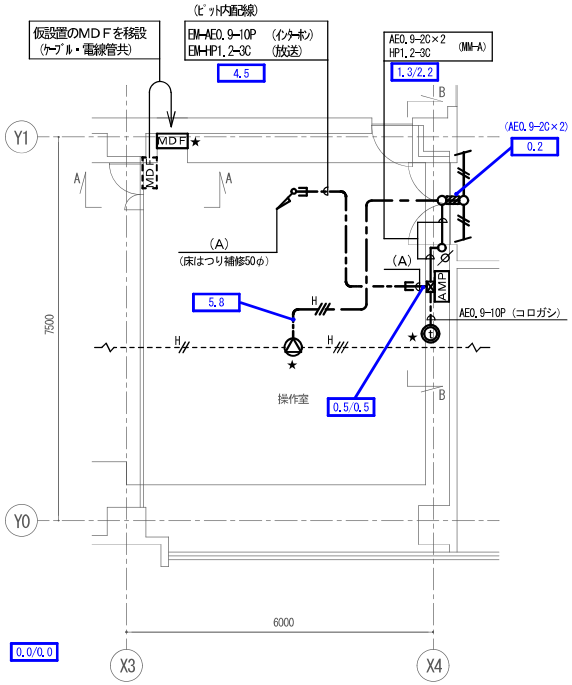
委託名	芝川ポンプ場耐震補強実施設計業務		
図面名	弱電設備1階平面図 (改修)		
作成年月日	令和8年3月		
縮尺	A1:1/100 A3:1/200	図面番号	E-00
会社名	株式会社 日建技術コンサルタント		
事業者名	埼玉県 上尾市		



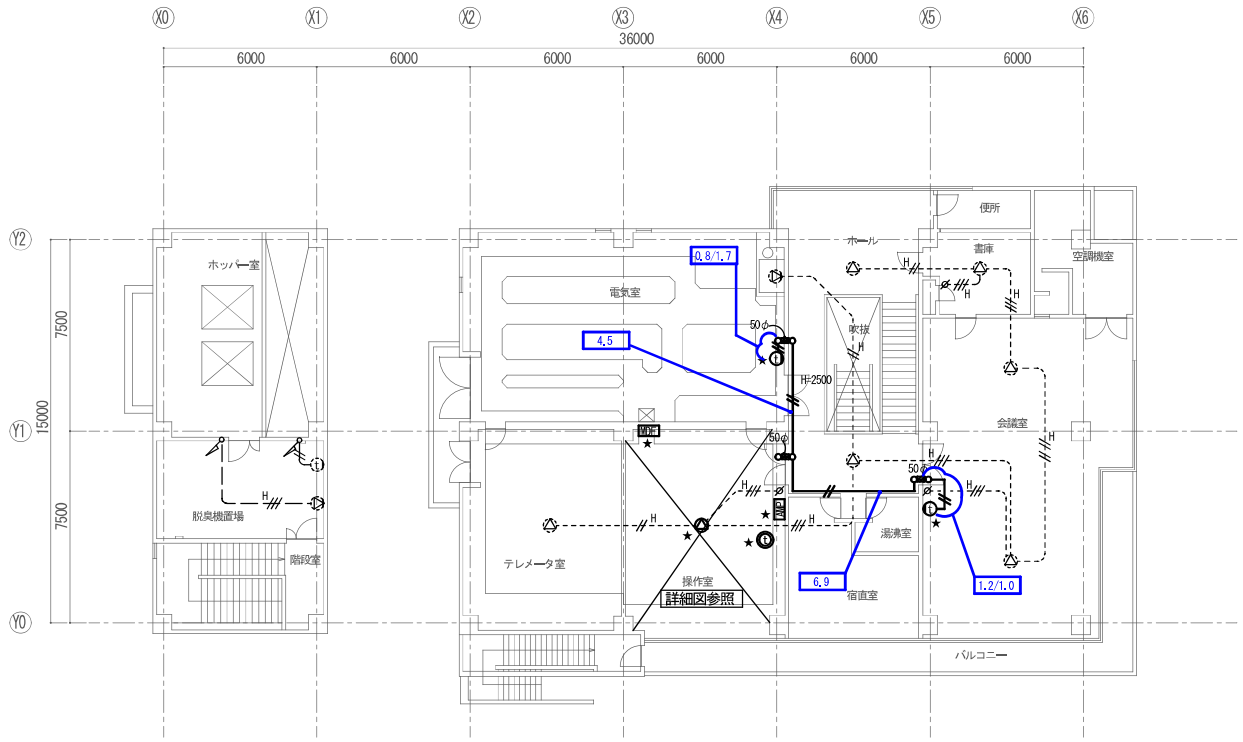
A-A矢視図



B-B矢視図



操作室詳細図 S=1/50 (A1) S=1/100 (A3)



配線表

記号	配管配線		
(A)	EM-AE0.9-10P EM-HP1.2-3C	(E31)	インターホン 放送

2階 平面図 [改修後]

数量図

委託名	芝川ポンプ場耐震補強実施設計業務		
図面名	弱電設備2階平面図（改修）		
作成年月日	令和8年3月		
縮尺	A1:1/100 A3:1/200	図面番号	E-00
会社名	株式会社　日建技術コンサルタント		
事業者名	埼玉県　上尾市		

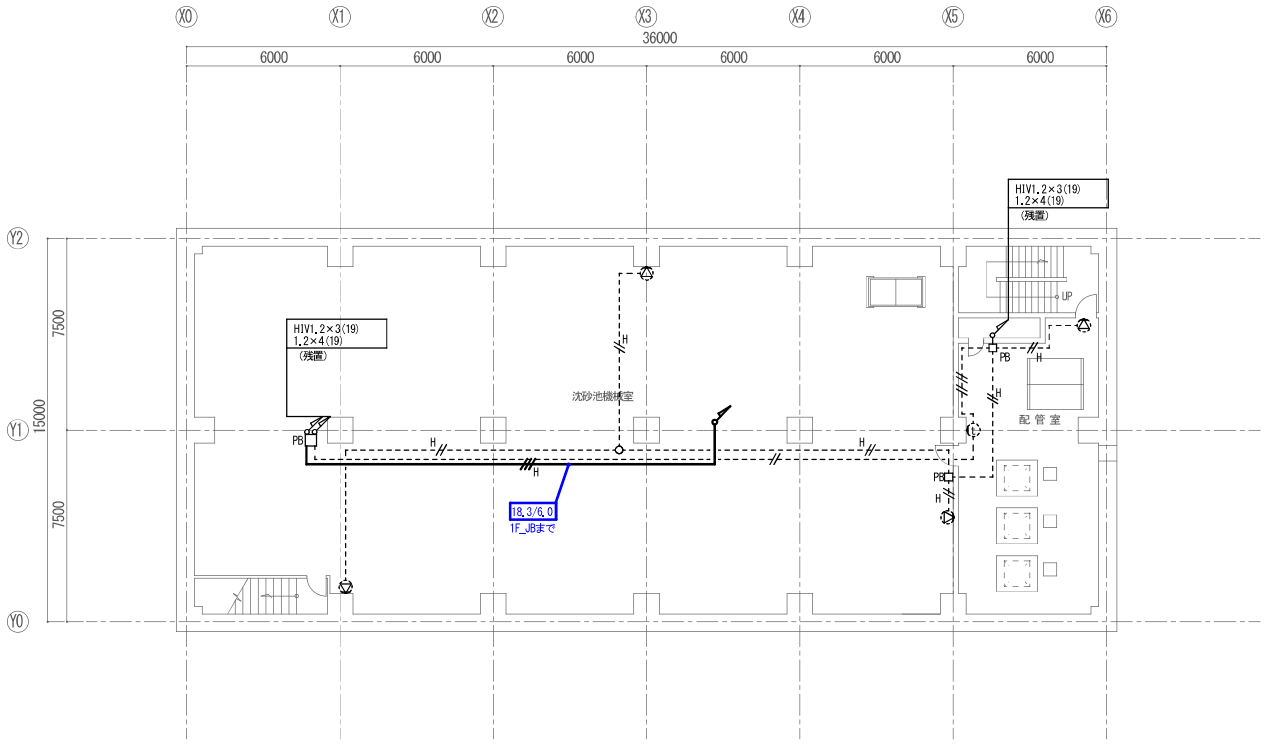
凡 例（撤去）

記号	名称			摘要
AMP ★	業務・非常放送ｱﾝﾌﾟ	10局	撤去	再使用
★	ﾎｰﾝ型ｽﾋﾟｰｶｰ	10W	〃	〃
★	天井埋込ｽﾋﾟｰｶｰ	3W	〃	〃
★	インターホン親機	10局	撤去	再使用　卓上型
★	インターホン子機		〃	〃
AD ★	玄関子機アダプタ		〃	〃
MDF ★	ＭＤＦ　壁掛露出型		〃	〃
	端子盤　壁掛露出型10P		〃	〃
	配管配線		撤去	配線撤去
	ﾄﾗﾝｼﾞｯﾄｽﾋﾟｰｶｰ	10W	残置	
	天井埋込ｽﾋﾟｰｶｰ	3W	〃	
	アッテネータ		〃	
	インターホン子機		〃	
	インターホン玄関子機		〃	
	配管配線		残置	
□PB	プルボックス		〃	

（注記）

1．特記なき撤去配線は下記による。

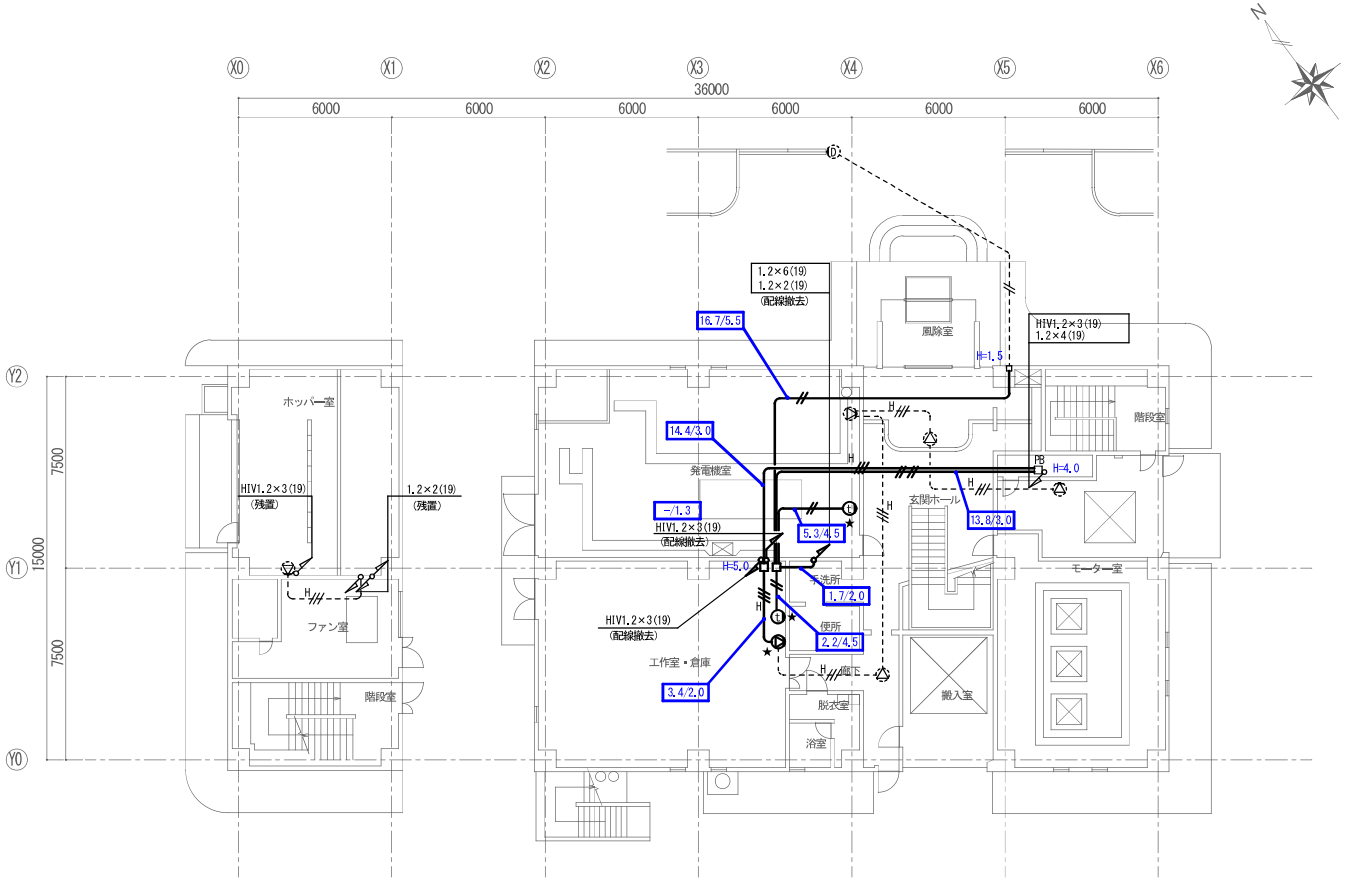
- IV1.2×2　（管内）
- IV1.2×4　（管内）
- H　HIV1.2×2　（管内）
- H　HIV1.2×3　（管内）
- H　HIV1.2×4　（管内）



地下1階 平面図［改修前］

数量図

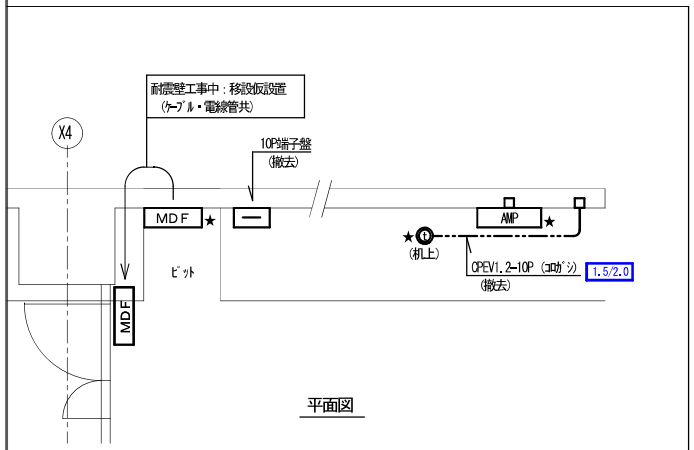
委託名	芝川ポンプ場耐震補強実施設計業務		
図面名	弱電設備地下１階平面図（撤去）		
作成年月日	令和8年3月		
縮尺	A1：1/100 A3：1/200	図面番号	E-00
会社名	株式会社　日建技術コンサルタント		
事業者名	埼玉県　上尾市		



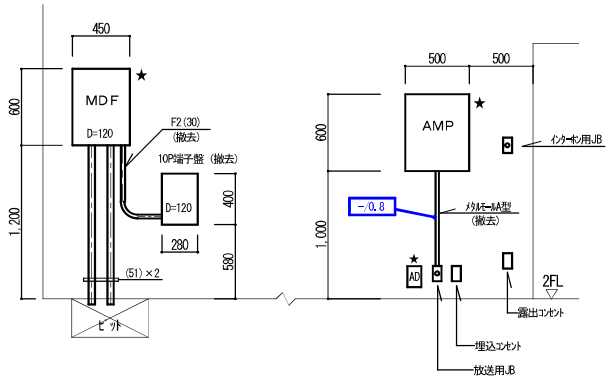
1階 平面図 [改修前]

数量図

委託名	芝川ポンプ場耐震補強実施設計業務		
図面名	弱電設備１階平面図（撤去）		
作成年月日	令和8年3月		
縮尺	A1:1/100 A3:1/200	図面番号	E-00
会社名	株式会社　日建技術コンサルタント		
事業者名	埼玉県　上尾市		

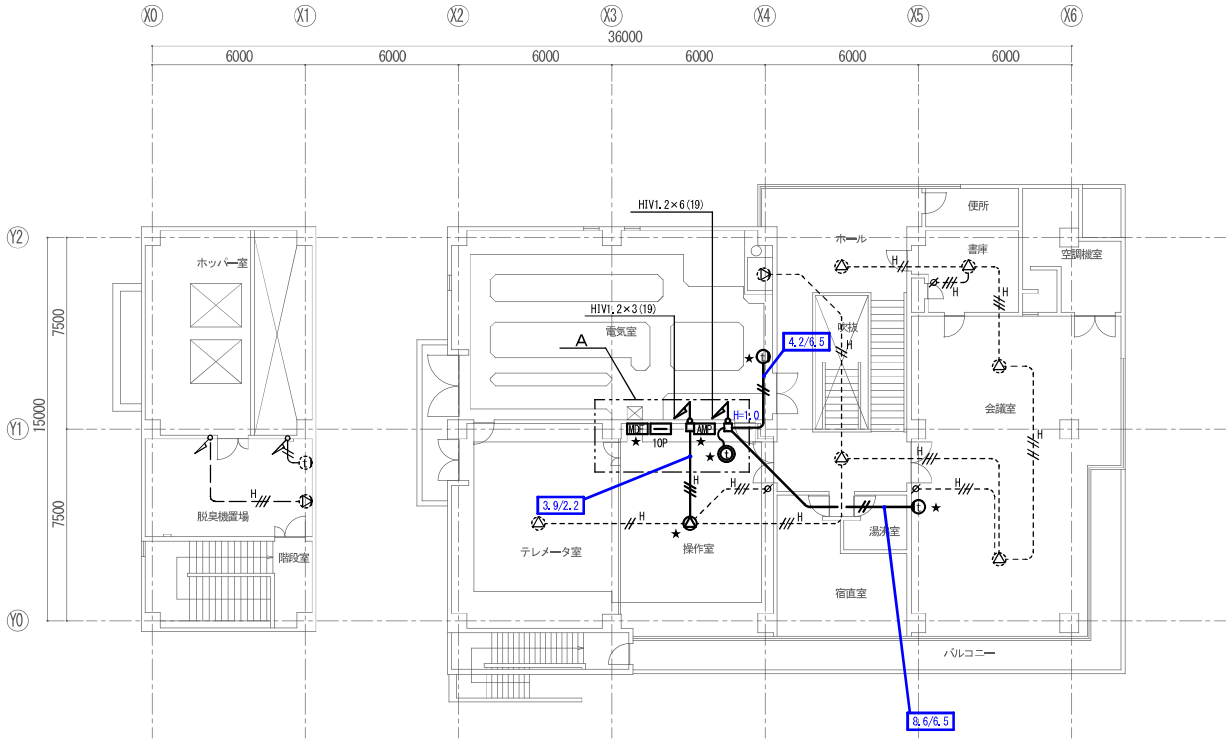


平面図



正面図

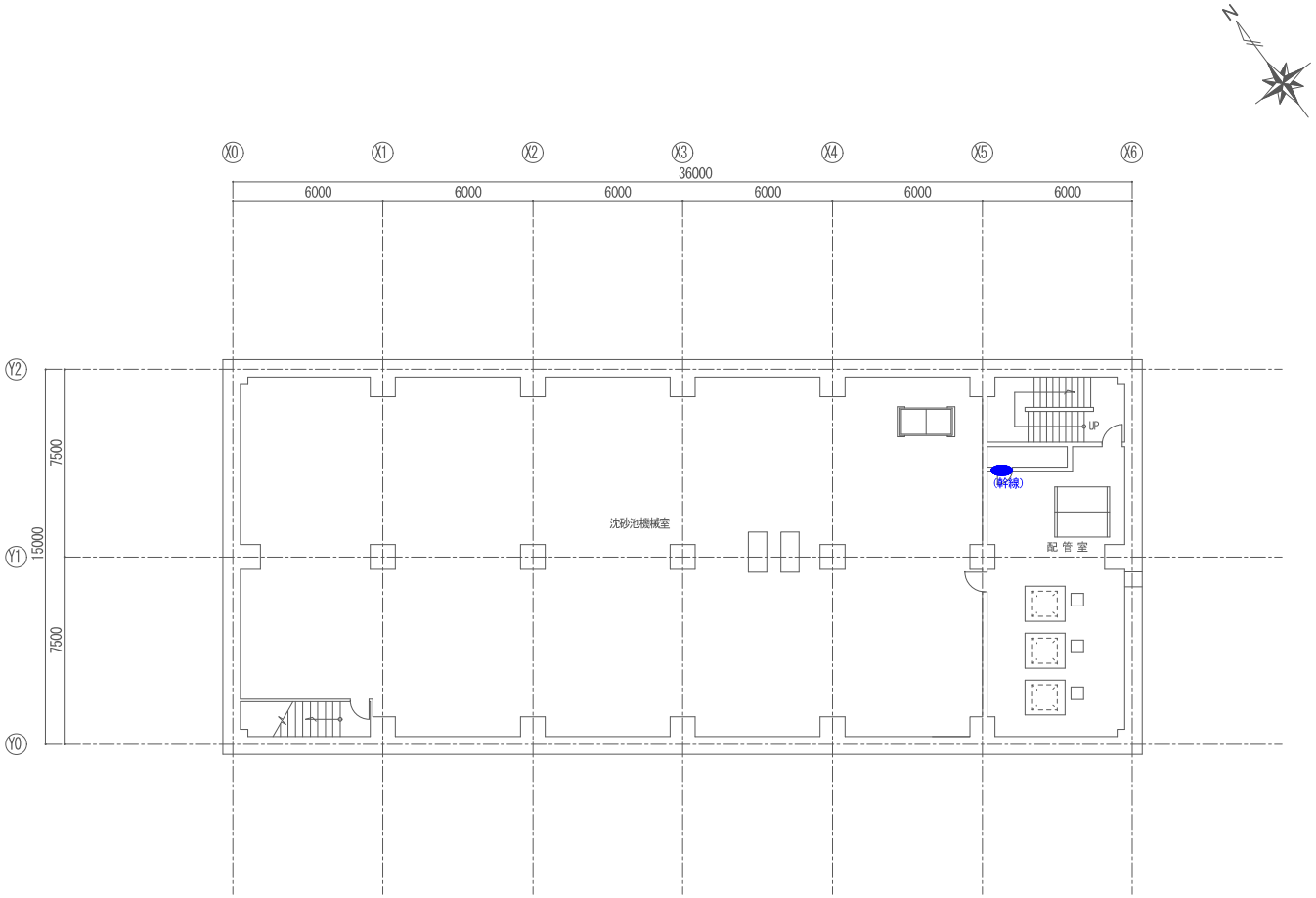
A部分詳細図 S=1/20 (A1) S=1/40 (A3)



2階 平面図 [改修前]

数量図

委託名	芝川ポンプ場耐震補強実施設計業務		
図面名	弱電設備2階平面図 (撤去)		
作成年月日	令和8年3月		
縮尺	A1:1/100 A3:1/200	図面番号	E-00
会社名	株式会社 日建技術コンサルタント		
事業者名	埼玉県 上尾市		



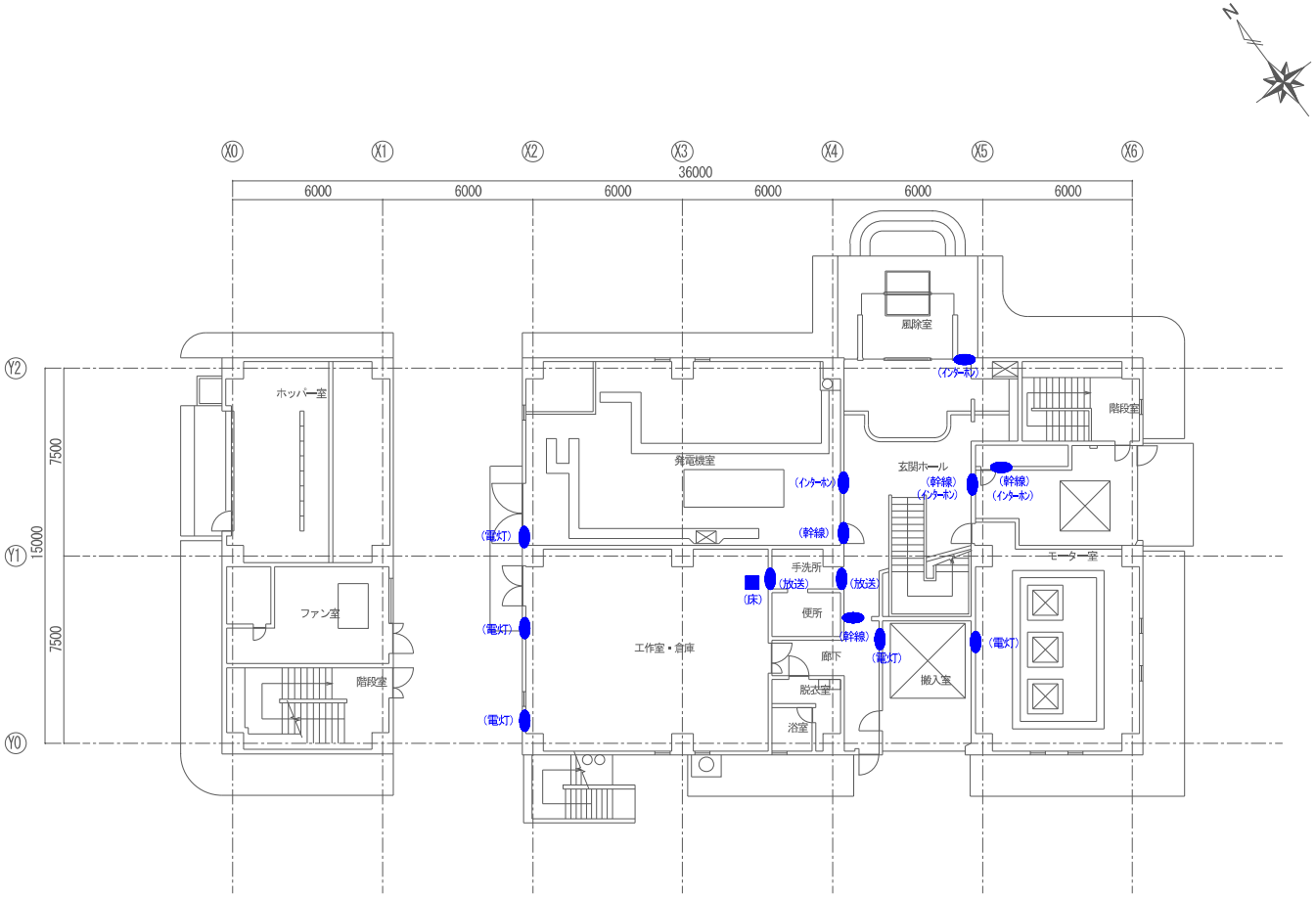
凡例

X線鉄筋探査ヶ所（0.5m×0.5m）：（壁）（床）

1階 平面図［改修前］

数量図

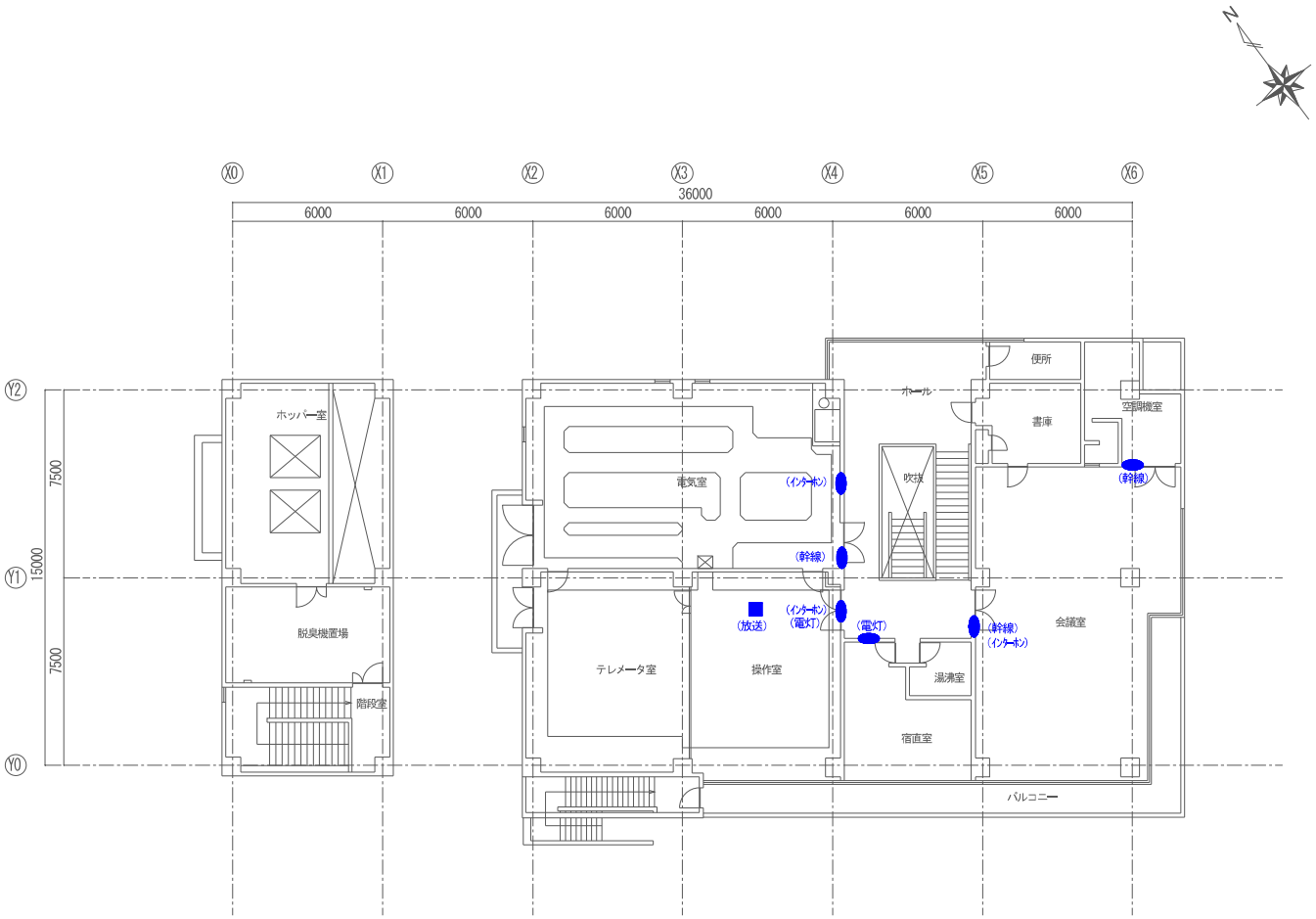
委託名	芝川ポンプ場耐震補強実施設計業務		
図面名	地下１階平面図［改修前］		
作成年月日	令和8年3月		
縮尺	A1:1/100 A3:1/200	図面番号	A-01
会社名	株式会社　日建技術コンサルタント		
事業者名	埼玉県　上尾市		



1階 平面図［改修前］

数量図

委託名	芝川ポンプ場耐震補強実施設計業務		
図面名	1階平面図［改修前］		
作成年月日	令和8年3月		
縮尺	A1：1/100 A3：1/200	図面番号	A-01
会社名	株式会社　日建技術コンサルタント		
事業者名	埼玉県　上尾市		



2階 平面図［改修前］

数量図

委託名	芝川ポンプ場耐震補強実施設計業務		
図面名	2階平面図［改修前］		
作成年月日	令和3年3月		
縮尺	A1：1/100 A3：1/200	図面番号	A-01
会社名	株式会社　日建技術コンサルタント		
事業者名	埼玉県　上尾市		

本工事費内訳書（総括）

費目	工種	種別	金額	摘要
本工事費（補助）				
	電気設備工			
		機器費		
		直接工事費		
		間接工事費		
		設計技術費		
		一般管理費等		
工事価格				
消費税相当額				
本工事費計				

費目	工種	種別	金額	摘要

本工事費内訳書

費　目	工　種	種　別	細　別	単位	数　量	単　価	金　額	摘　要
本工事費（補助）								
	電気設備工							
		機器費						
			ラジエータ排風消音器	式	1			排風ダクト再製作
			監視用補助継電器	〃	1			扉改造
			計					機器費
		直接工事費						
			輸　送　費	式	1			第１号明細書
			小　計					［輸送費］
			一　般　労　務　費	式	1			第２号明細書
			技　術　労　務　費	〃	1			第３号明細書

費　目	工　種	種　別	細　別	単位	数　量	単　価	金　額	摘　要
			計					［労務費］
			複　合　工　費	式	1			第４号明細書
			小　計					［複合工費］
			仮　設　費（率）	式	1			電気設備工事
			仮設費（積上げ）	〃	1			第５号明細書
			小　計					［仮設費］
			計					直接工事費

費　目	工　種	種　別	細　別	単位	数　量	単　価	金　額	摘　要
		間接工事費						
			共通仮設費（率）	式	1			電気設備工事 完全週休２日(土日)補正係数1.02
			小　計					[共通仮設費]
			現場管理費	式	1			電気設備工事 完全週休２日(土日)補正係数1.03
			小　計					[現場管理費]
			据付(技術者)間接費	式	1			電気設備工事
			据付（機器）間接費	式	1			電気設備工事
			小　計					[据付間接費]
			計					間接工事費

費　目	工　種	種　別	細　別	単位	数　量	単　価	金　額	摘　要
		据付工事原価						
		設計技術費						
			設計技術費	式	1			電気設備工事
			計					設計技術費
		計 (工事原価)						
		一般管理費等						
			一般管理費等	式	1			電気設備工事
			計					一般管理費等
工事価格								
消費税 相当額				式	1			10%
本工事費 計								

第１号明細書　輸送費

名　称	形　状	単位	数　量	単　価	金　額	摘　要
輸送費	ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ 12t吊(ｵﾍﾟﾚｰﾀ付)	日				
計						

第２号明細書　一般労務費

名　称	形　状	単位	数　量	単　価	金　額	摘　要
電　工	(据付)	人				完全週休２日（土日） 補正係数1.02
計						

第３号明細書　技術労務費

名　称	形　状	単位	数　量	単　価	金　額	摘　要
技術者	（据付）	人				完全週休２日（土日） 補正係数1.02
〃	（単体調整）	〃				完全週休２日（土日） 補正係数1.02
計						

第４号明細書　複合工費

名　称	形　状	単位	数　量	単　価	金　額	摘　要
防火区画処理	壁 600*300	箇所	1			
計						

第５号明細書　仮設費(積上)

名　称	形　状	単位	数　量	単　価	金　額	摘　要
600V CVT	200 sq	m	45			
小計						
600V CV	5.5 sq- 3 c	m	22			
小計						
同上付属材料		式	1			
小計						
計						

第５号明細書　仮設費(積上)

名　称	形　状	単位	数　量	単　価	金　額	摘　要
CVV	3.5 sq- 2 c	m	84			
〃	2 sq- 20 c	〃	22			
〃	2 sq- 4 c	〃	43			
〃	2 sq- 2 c	〃	22			
小計						
同上付属材料		式	1			
小計						
計						

第５号明細書　仮設費(積上)

名　称	形　状	単位	数　量	単　価	金　額	摘　要
600V CVT	200 sq	組	4			
計						

第５号明細書　仮設費(積上)

名　称	形　状	単位	数　量	単　価	金　額	摘　要
電　工	(据付)	人				完全週休２日（土日） 補正係数1.02
計						

第５号明細書　仮設費(積上)

名　称	形　状	単位	数　量	単　価	金　額	摘　要
技術者	(据付)	人				完全週休２日（土日） 補正係数1.02
〃	(単体調整)	〃				完全週休２日（土日） 補正係数1.02
計						

第５号明細書　仮設費(積上)

名　称	形　状	単位	数　量	単　価	金　額	摘　要
GP	22mm	m	37			
小計						
同上付属材料		式	1			
小計						
計						

第５号明細書　仮設費(積上)

名　称	形　状	単位	数　量	単　価	金　額	摘　要
消火器	10号(ABC)	本	1			
仮設発電機	200kVA	基	1			3か月
仮設燃料小出槽	950	L	1			3か月
防音パネル	24㎡	式	1			3か月
計						
合計						

目　次

1. 人工集計表---------- 1

[本工事]
2. 据付工集計表---------- 2
3. 材料集計表---------- 3
4. 材料内訳表---------- 4

[仮設工事]
5. 据付工集計表---------- 5
6. 材料集計表---------- 6
7. 材料内訳表---------- 11
8. 拾い出し根拠表---------- 14

[移設工事]
9. 据付工集計表---------- 16
10. 材料集計表---------- 18
11. 材料内訳表---------- 23
12. 拾い出し根拠表---------- 28

[再利用]
13. 据付工集計表---------- 34
14. 材料集計表---------- 36
15. 材料内訳表---------- 37
16. 拾い出し根拠表---------- 38

機 器 数 量　　数量は機器金額入力欄の数量とします　[Aグループ]

(1)	機　器	ラジエータ排風消音器	式	1
(2)	機　器	監視用補助継電器盤	式	1

材 料 数 量　　(*) 印は工量無　　[Aグループ]

(1)	複合工費	防火区画処理 壁 600*300	箇所	1 (*)
(2)	一般労務費	電　工 (据付)	人	85
(3)	技術労務費	技術者 (据付)	人	41
(4)	技術労務費	技術者 (単体調整)	人	1

材 料 数 量(仮設)　　(*) 印は工量無　　[Aグループ]

(1)	低圧ケーブル	600V CVT 200 sq	m	45
(2)	低圧ケーブル	600V CV 5.5 sq- 3 c	m	22
(3)	制御ケーブル	CVV 3.5 sq- 2 c	m	84
(4)	制御ケーブル	CVV 2 sq- 20 c	m	22
(5)	制御ケーブル	CVV 2 sq- 4 c	m	43
(6)	制御ケーブル	CVV 2 sq- 2 c	m	22
(7)	制御ケーブル	CVV-S 2 sq- 2 c	m	12
(8)	制御ケーブル	専用ケーブル	m	12
(9)	端末処理材	600V CVT 200 sq	組	4 (*)
(10)	電線管類	GP 22 mm	m	37
(11)	消火器	10号ABC	本	1 (*)
(12)	防音パネル	防音パネル	㎡	24.0 (*)

機 器 数 量(移設)　　数量・単位は据付入力欄のものとします[Aグループ]

(1)	機　器	床排水ポンプ操作盤	面	1
(2)	機　器	緊急遮断弁操作盤	面	1
(3)	機　器	ポンプ室床排水操作盤	台	1
(4)	機　器	ポンプ井超音波水位計	台	1
(5)	機　器	中継端子盤	面	2
(6)	機　器	汚水送水流量計変換器	台	1
(7)	機　器	燃料小出槽	台	1
(8)	機　器	ポンプ井超音波水位計	台	1

材 料 数 量(移設)　　(*) 印は工量無　　[Aグループ]

(1)	低圧ケーブル	600V CV 3.5 sq- 3 c	m	13
(2)	低圧ケーブル	600V CV 3.5 sq- 2 c	m	60
(3)	低圧ケーブル	600V CV 3.5 sq- 1 c	m	9
(4)	制御ケーブル	CVV 3.5 sq- 4 c	m	13
(5)	制御ケーブル	CVV 2 sq- 20 c	m	13
(6)	制御ケーブル	CVV 2 sq- 15 c	m	26
(7)	制御ケーブル	CVV 2 sq- 12 c	m	9
(8)	制御ケーブル	CVV 2 sq- 10 c	m	12
(9)	制御ケーブル	CVV 2 sq- 6 c	m	6
(10)	制御ケーブル	CVV 2 sq- 2 c	m	9
(11)	制御ケーブル	CVV-S 2 sq- 2 c	m	29
(12)	その他電線	IV 3.5 sq	m	13
(13)	電線管類	GP 70 mm	m	6
(14)	電線管類	GP 54 mm	m	9
(15)	電線管類	GP 36 mm	m	6
(16)	電線管類	GP 22 mm	m	9
(17)	電線管類	プルボックス (SUS-WP) 250*250*200	個	2

機 器 数 量(再利用)　　数量・単位は据付入力欄のものとします[Aグループ]

(1)	機　器	ポンプ井超音波水位計	台	1	(再使用撤去)
(2)	機　器	床排水ポンプ操作盤	面	1	(再使用撤去)
(3)	機　器	緊急遮断弁操作盤	面	1	(再使用撤去)
(4)	機　器	ポンプ室床排水操作盤	台	1	(再使用撤去)
(5)	機　器	ポンプ井超音波水位計	台	1	(再使用撤去)
(6)	機　器	中継端子盤	面	2	(再使用撤去)
(7)	機　器	汚水送水流量計変換器	台	1	(再使用撤去)
(8)	機　器	ラジエータ排風消音器	式	1	(再使用撤去)
(9)	機　器	燃料小出槽	台	1	(再使用撤去)

材 料 数 量(再利用)　　(*) 印は工量無　　[Aグループ]

(1)	電線管類	プルボックス (SUS-WP) 250*250*200	個	2
(2)	複合工費	防火区画処理 壁 600*300	箇所	1 (*)

人　工　集　計　表　　[Aグループ]

集計表名称	据付・配線工							単体調整	重量(撤去重量)	試験工				
	技術者	電　工						技術者	(ｔ)	技術者	電　工			
据付工集計表(S-301)	5.2	7.8							3					
(仮　設)据付工集計表(S-501)	11.0	17.2							0.6					
(仮　設)材料集計表－1		10.525												
(仮　設)材料集計表－2		0.721												
(仮　設)材料集計表－4		3.579												
(移　設)据付工集計表(S-301)	13.66	16.0						0.56	0.5					
(移　設)据付工集計表(S-501)	0.60	1.1												
(移　設)材料集計表－1		2.708												
(移　設)材料集計表－2		2.911												
(移　設)材料集計表－3		0.651												
(移　設)材料集計表－4		6.251												
(移　設)材料集計表－5		0.70												
(再利用)据付工集計表(S-501)	0.36	0.66												
(再利用)据付工集計表(S-601)	11.10	14.08							3.5					
(再利用)材料集計表－1		0.42												
合計	41.92	85.306						0.56	7.6					
設計数量	41	85						1	7.6					

芝川ポンプ場（改修）（ 1/ 1）　　据 付 工 集 計 表　　[Aグループ]

機 器 名 称	形　　状	単位	数量	技術者		電　工		技術者単体調整				歩　掛	機器重量(t)		備　　考
				単位工量	工量	単位工量	工量	単位工量	工量	単位工量	工量	ページ	単位重量	重量	
ラジエータ排風消音器		式	1	(3.09*3^0.480) =5.2	5.2	(4.59*3^0.487) =7.8	7.8							3	
監視用補助継電器盤		式	1												
計（S-301）				5.2		7.8							3		

材　料　集　計　表 － 1　　[Aグループ]

内訳書番号	複合工費							
	防火区画処理							
	壁 600*300							
	箇所							
ZHK (3- 1)	1							
合計値　(A)	1							
設計数量 (D)=(A)	1							

Z- 1 / 1

材　料　内　訳　表

NO	区分	複合工費 防火区画処理 壁 600*300 箇所							
1	電気室	1							
	(1/1)　　　ZHK (3- 1)	1							

芝川ポンプ場（仮設）（ 1/ 1）　　（仮　設)据　付　工　集　計　表　　[Aグループ]

機器名称	形状	単位	数量	技術者		電工		技術者単体調整				歩掛	機器重量(t)		備考
				単位工量	工量	単位工量	工量	単位工量	工量	単位工量	工量	ページ	単位重量	重量	
仮設ディーゼル発電機		式	1		8.6		14								金属閉鎖形ｽｲｯﾁｷﾞｱ1 VCT等収納
屋外用仮設燃料小出槽		台	1	(3.09*0.6 ^0.480)=2.4	2.4	(4.59*0.6 ^0.487)=3.2	3.2							0.6	
計（S-501）				11.0		17.2							0.6		

（仮　設）材　料　集　計　表 － 1　　［Aグループ］

内訳区分	600V CVT				600V CV				CVV				CVV				CVV			
	200 sq				5.5 sq				3.5 sq				2 sq				2 sq			
					3 c				2 c				20 c				4 c			
	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP
CTK (5- 1)	11.6			29.4	5.8			14.7	21.0		11.3	44.1	6.2			14.7	9.8			29.4
合計値　(A)	11.6			29.4	5.8			14.7	21.0		11.3	44.1	6.2			14.7	9.8			29.4
補完率　(B)	1.1				1.1				1.1				1.1				1.1			
(C)=(A)×(B)	12.76			32.34	6.38			16.17	23.10		12.43	48.51	6.82			16.17	10.78			32.34
設計数量 (D)=Σ(C)	45.10 ----> 45				22.55 ----> 22				84.04 ----> 84				22.99 ----> 22				43.12 ----> 43			
電工単位工量(E)=(E0)×K	0.13	0.20	0.17	0.15	0.020	0.031	0.026	0.023	0.014	0.021	0.018	0.016	0.056	0.084	0.070	0.063	0.017	0.026	0.022	0.019
電工量　(C)×(E)	1.658			4.851	0.127			0.371	0.323		0.223	0.776	0.381			1.018	0.183			0.614

C- 1 / 4 (K= 1.0)　　電工量小計＝ 10.525

（仮　設）材　料　集　計　表 － 2　　［Aグループ］

内訳区分	CVV				CVV-S				専用ケーブル											
	2 sq				2 sq															
	2 c				2 c															
	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP								
CTK (5- 2)	5.8			14.7			11.3				11.3									
合計値　(A)	5.8			14.7			11.3				11.3									
補完率　(B)	1.1				1.1				1.1				n				n			
(C)=(A)×(B)	6.38			16.17			12.43				12.43									
設計数量 (D)=Σ(C)	22.55 ----> 22				12.43 ----> 12				12.43 ----> 12											
電工単位工量(E)=(E0)×K	0.013	0.020	0.017	0.015	0.013	0.020	0.017	0.015	0.012	0.018	0.015	0.013								
電工量　(C)×(E)	0.082			0.242			0.211				0.186									

C- 2 / 4 (K= 1.0)　　電工量小計＝ 0.721

（仮　設）材　料　集　計　表 － 3　　[Aグループ]

内訳区分	600V CVT端末処理材																			
	200 sq																			
	屋外	屋内																		
CTK (5- 2)	2	2																		
合計値　(A)	2	2																		
設計数量 (D)	4																			
電工単位工量(E)=(E0)×K																				
電工量　(A)×(E)																				

C- 3 / 4 (K= 1.0)

（仮　設）材　料　集　計　表 － 4　　[Aグループ]

内訳区分	GP																			
	22 mm																			
	露出	埋込																		
CTK (5- 2)	33.9																			
合計値　(A)	33.9																			
補完率　(B)	1.1				n				n				n				n			
(C)=(A)×(B)	37.29																			
設計数量 (D)=Σ(C)	37.29 ----> 37																			
電工単位工量(E)=(E0)×K	0.096	0.080																		
電工量　(C)×(E)	3.579																			

C- 4 / 4 (K= 1.0)　　電工量小計＝ 3.579

（仮　設）材　　料　　集　　計　　表 － 5　　［Aグループ］

内訳書番号	消火器	防音パネル						
		防音パネル						
	10号 ABC							
	本	m²						
ZTK (5- 1)	1	24						
合計値　(A)	1	24						
設計数量 (D)=(A)	1	24.0						

Z- 1 / 1

芝川ポンプ場（仮設）　　（仮　設）材　料　内　訳　表

			600V CVT				600V CV				CVV				CVV				CVV			
			200 sq				5.5 sq				3.5 sq				2 sq				2 sq			
	配線区間						3 c				2 c				20 c				4 c			
NO	自	至	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP
T　1	仮設ディーゼ	LP-2	5.8x2			14.7x2																
T　2	仮設ディーゼ	LP-2					5.8			14.7												
T　4	仮設ディーゼ	HP-2																	3.6			14.7
T　5	仮設ディーゼ	RC-1																	6.2			14.7
T　6	仮設ディーゼ	RC-1													6.2			14.7				
T　7	仮設ディーゼ	1H									7.0x3			14.7x3								
T	ポンプ井超音	ポンプ井超音											11.3									
(1/2)	CTK (5- 1)		11.6			29.4	5.8			14.7	21.0		11.3	44.1	6.2			14.7	9.8			29.4

芝川ポンプ場（仮設）　　（仮　設）材　料　内　訳　表

			CVV				CVV-S				専用ケーブル				600V CVT端末処理材				GP			
			2 sq				2 sq								200 sq				22 mm			
	配線区間		2 c				2 c															
NO	自	至	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	屋外	屋内			露出	埋込		
T　1	仮設ディーゼ	LP-2													2	2						
T　3	仮設ディーゼ	LP-2	5.8			14.7																
T　8	ポンプ井超音	ポンプ井超音											11.3						11.3			
T	ポンプ井超音	ポンプ井超音																	11.3			
T	ポンプ井超音	ポンプ井超音							11.3										11.3			
(2/2)	CTK (5- 2)		5.8			14.7			11.3				11.3		2	2			33.9			

NO	区分	消火器	防音パネル						
			防音パネル						
		10号 ABC							
		本	m^2						
T	屋外	1	24						
	(1/1)　　ZTK (5- 1)	1	24						

Ｎｏ	自	至	種別・サイズ・本数	経路	合計	計　　算
T 1	仮設ディーゼル発電機	LP-2 低圧分岐盤	600V CVT 200 sq x 2	P&D	5.8	0.6 + 2.2 + 2.2 + 0.8
			端末屋外 x 2 端末屋内 x 2	RACK		
				CP		
				FEP	14.7	1.0 + 1.9 + 0.4 + (7.0)+ (1.0)+ 1.2 + 2.2
			EM-IE 60 sq	CP		
				露出		
				埋込		
T 2	仮設ディーゼル発電機	LP-2 低圧分岐盤	600V CV 5.5 sq - 3 c	P&D	5.8	0.6 + 2.2 + 2.2 + 0.8
				RACK		
				CP		
				FEP	14.7	1.0 + 1.9 + 0.4 + (7.0)+ (1.0)+ 1.2 + 2.2
				CP		
				露出		
				埋込		
T 3	仮設ディーゼル発電機	LP-2 低圧分岐盤	CVV 2 sq - 2 c	P&D	5.8	0.6 + 2.2 + 2.2 + 0.8
				RACK		
				CP		
				FEP	14.7	1.0 + 1.9 + 0.4 + (7.0)+ (1.0)+ 1.2 + 2.2
				CP		
				露出		
				埋込		
T 4	仮設ディーゼル発電機	HP-2 受電盤	CVV 2 sq - 4 c	P&D	3.6	0.6 + 2.2 + 0.8
				RACK		
				CP		
				FEP	14.7	1.0 + 1.9 + 0.4 + (7.0)+ (1.0)+ 1.2 + 2.2
				CP		
				露出		
				埋込		
T 5	仮設ディーゼル発電機	RC-1 監視用補助継電器盤	CVV 2 sq - 4 c	P&D	6.2	0.6 + 3.5 + 1.3 + 0.8
				RACK		
				CP		
				FEP	14.7	1.0 + 1.9 + 0.4 + (7.0)+ (1.0)+ 1.2 + 2.2
				CP		
				露出		
				埋込		

Ｎｏ	自	至	種別・サイズ・本数	経路	合計	計　　算
T　6	仮設ディーゼル発電機	RC-1 監視用補助継電器盤	CVV　2 sq　－　20 c	P&D	6.2	0.6 + 3.5 + 1.3 + 0.8
				RACK		
				CP		
				FEP	14.7	1.0 + 1.9 + 0.4 + (7.0)+ (1.0)+ 1.2 + 2.2
				CP		
				露出		
				埋込		
T　7	仮設ディーゼル発電機	1H 変換器盤	CVV　3.5 sq　－　2 c　x 3	P&D	7.0	0.6 + 3.5 + 1.3 + 0.8 + 0.8
				RACK		
				CP		
				FEP	14.7	1.0 + 1.9 + 0.4 + (7.0)+ (1.0)+ 1.2 + 2.2
				CP		
				露出		
				埋込		
T　8	ポンプ井超音波式水位計変換器	ポンプ井超音波式水位計	専用ケーブル	P&D		
				RACK		
				CP	11.3	3.8 + 0.9 + 0.6 + 4.2 + 1.1 + 0.7
				FEP		
				CP		
			GP　22 mm	露出	11.3	3.8 + 0.9 + 0.6 + 4.2 + 1.1 + 0.7
				埋込		
T	ポンプ井超音波式水位計変換器	ポンプ井超音波式水位計	CVV　3.5 sq　－　2 c	P&D		
				RACK		
				CP	11.3	3.8 + 0.9 + 0.6 + 4.2 + 1.1 + 0.7
				FEP		
				CP		
			GP　22 mm	露出	11.3	3.8 + 0.9 + 0.6 + 4.2 + 1.1 + 0.7
				埋込		
T	ポンプ井超音波式水位計変換器	ポンプ井超音波式水位計	CVV-S　2 sq　－　2 c	P&D		
				RACK		
				CP	11.3	3.8 + 0.9 + 0.6 + 4.2 + 1.1 + 0.7
				FEP		
				CP		
			GP　22 mm	露出	11.3	3.8 + 0.9 + 0.6 + 4.2 + 1.1 + 0.7
				埋込		

芝川ポンプ場（改修）（ 1/ 1）　　(移　設)据　付　工　集　計　表　　[Aグループ]

機 器 名 称	形　　状	単位	数量	技術者		電　工		技術者単体調整				歩　掛	機器重量(t)		備　　考
				単位工量	工量	単位工量	工量	単位工量	工量	単位工量	工量	ページ	単位重量	重量	
床排水ポンプ操作盤		面	1		1.0		2.0								
緊急遮断弁操作盤		面	1		0.88		1.9								
ポンプ室床排水操作盤		台	1		1.0		2.0								
ポンプ井超音波水位計		台	1		0.60		1.1								
中継端子盤		面	2	3.8	7.6	2.3	4.6								
汚水送水流量計変換器		台	1		0.38		1.2		0.56						
燃料小出槽		台	1	(3.09*0.5 ^0.480)=2.2	2.2	(4.59*0.5 ^0.487)=3.2	3.2							0.5	
計（S-301）				13.66		16.0		0.56					0.5		

芝川ポンプ場（仮設）（ 1/ 1）　　(移　設)据　付　工　集　計　表　　[Aグループ]

機器名称	形状	単位	数量	技術者		電工		技術者単体調整				歩掛	機器重量(t)		備考
				単位工量	工量	単位工量	工量	単位工量	工量	単位工量	工量	ページ	単位重量	重量	
ポンプ井超音波水位計		台	1		0.60		1.1								
計（S-501）				0.60		1.1									

(移　設) 材　料　集　計　表 - 1　　[Aグループ]

内訳区分	600V CV				600V CV				600V CV				CVV				CVV			
	3.5 sq				3.5 sq				3.5 sq				3.5 sq				2 sq			
	3 c				2 c				1 c				4 c				20 c			
	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP
CMK (3- 1)			12.6				54.6				8.2				12.6				12.6	
合計値　(A)			12.6				54.6				8.2				12.6				12.6	
補完率　(B)	1.1				1.1				1.1				1.1				1.1			
(C)=(A)×(B)			13.86				60.06				9.02				13.86				13.86	
移設数量 (D)=Σ(C)	13.86 ----> 13				60.06 ----> 60				9.02 ----> 9				13.86 ----> 13				13.86 ----> 13			
電工単位工量(E)=(E0)×K	0.016	0.025	0.021	0.018	0.013	0.020	0.017	0.015	0.009	0.014	0.012	0.010	0.018	0.027	0.023	0.020	0.056	0.084	0.070	0.063
電工量　(C)×(E)			0.291				1.021				0.108				0.318				0.970	

C- 1 / 4 (K= 1.0)　　電工量小計＝ 2.708

（移　設）材　料　集　計　表 － 2　　［Aグループ］

内訳区分	CVV				CVV				CVV				CVV				CVV			
	2 sq				2 sq				2 sq				2 sq				2 sq			
	15 c				12 c				10 c				6 c				2 c			
	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP
CMK (3- 2)			24.2				8.2				11.6				6.3				8.2	
合計値　(A)			24.2				8.2				11.6				6.3				8.2	
補完率　(B)	1.1				1.1				1.1				1.1				1.1			
(C)=(A)×(B)			26.62				9.02				12.76				6.93				9.02	
移設数量 (D)=Σ(C)	26.62 ----> 26				9.02 ----> 9				12.76 ----> 12				6.93 ----> 6				9.02 ----> 9			
電工単位工量(E)=(E0)×K	0.048	0.072	0.060	0.054	0.038	0.057	0.048	0.043	0.033	0.050	0.042	0.037	0.022	0.033	0.028	0.025	0.013	0.020	0.017	0.015
電工量　(C)×(E)			1.597				0.432				0.535				0.194				0.153	

C- 2 / 4 (K= 1.0)　　電工量小計＝ 2.911

(移　設) 材　料　集　計　表 － 3　　[Aグループ]

内訳区分	CVV-S				IV															
	2 sq				3.5 sq															
	2 c																			
	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP												
CMK (3- 3)			26.7				12.6													
合計値　(A)			26.7				12.6													
補完率　(B)	1.1				1.1				n				n				n			
(C)=(A)×(B)			29.37				13.86													
移設数量 (D)=Σ(C)	29.37 ----> 29				13.86 ----> 13															
電工単位工量(E)=(E0)×K	0.013	0.020	0.017	0.015	0.008	0.013	0.011	0.009												
電工量　(C)×(E)			0.499				0.152													

C- 3 / 4 (K= 1.0)　　電工量小計＝ 0.651

(移　設) 材　料　集　計　表 － 4　　[Aグループ]

内訳区分	GP				GP				GP				GP							
	70 mm				54 mm				36 mm				22 mm							
	露出	埋込			露出	埋込			露出	埋込			露出	埋込						
CMK (3- 3)	6.3				8.2				5.8											
CMK (3- 4)													8.2							
合計値　(A)	6.3				8.2				5.8				8.2							
補完率　(B)	1.1				1.1				1.1				1.1				n			
(C)=(A)×(B)	6.93				9.02				6.38				9.02							
移設数量 (D)=Σ(C)	6.93 ----> 6				9.02 ----> 9				6.38 ----> 6				9.02 ----> 9							
電工単位工量(E)=(E0)×K	0.31	0.26			0.26	0.22			0.14	0.12			0.096	0.080						
電工量　(C)×(E)	2.148				2.345				0.893				0.865							

C- 4 / 4 (K= 1.0)　　電工量小計＝ 6.251

（移　設）材　　料　　集　　計　　表 － 5　　[Aグループ]

内訳書番号	電線管類							
	プルボックス (SUS-WP)							
	250*250*200							
	個							
ZMK (3- 1)	2							
合計値　(A)	2							
移設数量 (D)=(A)	2							
電工　使用工量 (E)=(E0)×I	0.35							
工　　量 (A)×(E)	0.70							

Z- 1 / 1　(K= 1.0)　　電工量小計=0.70

芝川ポンプ場（改修）　　（移　設）材　料　内　訳　表

			600V CV				600V CV				600V CV				CVV				CVV			
			3.5 sq				3.5 sq				3.5 sq				3.5 sq				2 sq			
	配線区間		3 c				2 c				1 c				4 c				20 c			
NO	自	至	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP
M 5	LCB-9	引き戻し点A							5.8													
M 6	LCB-9	LCB-8							12.1													
M 7	緊急遮断弁	引き戻し点A											8.2									
M 11	LCB-9	引き戻し点A							5.8													
M 12	緊急遮断弁開	引き戻し点A							8.2													
M 14	M-17	引き戻し点A							8.2													
M 17	LCB-9	LCB-8							14.5													
M 18	LCB-8	引き戻し点A															6.3					
M 19	LCB-8	引き戻し点A																			6.3	
M 21	LCB-8	引き戻し点A																			6.3	
M 23	LCB-8	引き戻し点A															6.3					
M 24	M-13A	引き戻し点A			6.3																	
M 26	M-13B	引き戻し点A			6.3																	
(1/4)	CMK (3- 1)				12.6				54.6				8.2				12.6				12.6	

芝川ポンプ場（改修）　　（移　設）材　料　内　訳　表

			CVV				CVV				CVV				CVV				CVV			
			2 sq				2 sq				2 sq				2 sq				2 sq			
	配線区間		15 c				12 c				10 c				6 c				2 c			
NO	自	至	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP
M　2	LCB-9	引き戻し点A			5.8																	
M　3	LCB-9	引き戻し点A											5.8									
M　8	LCB-9	引き戻し点A			5.8																	
M　9	LCB-9	引き戻し点A											5.8									
M　10	緊急遮断弁(LS	引き戻し点A																			8.2	
M　16	M-17	引き戻し点A							8.2													
M　20	LCB-8	引き戻し点A			6.3																	
M　22	LCB-8	引き戻し点A			6.3																	
M　28	M-13	引き戻し点A															6.3					
(2/4)	CMK (3- 2)				24.2				8.2				11.6				6.3				8.2	

芝川ポンプ場（改修）　　（移　設）材　料　内　訳　表

			CVV-S				IV				GP				GP				GP			
			2 sq				3.5 sq				70 mm				54 mm				36 mm			
	配線区間		2 c																			
NO	自	至	P&D	RACK	CP	FEP	P&D	RACK	CP	FEP	露出	埋込			露出	埋込			露出	埋込		
M　1	LCB-9	引き戻し点A			5.8														5.8			
M　4	LCB-9	緊急遮断弁			6.8																	
M　13	LCB-9	引き戻し点A			5.9																	
M　15	M-17	LCB-9			8.2																	
M　16	M-17	引き戻し点A													8.2							
M　18	LCB-8	引き戻し点A									6.3											
M　25	M-13A	引き戻し点A							6.3													
M　27	M-13B	引き戻し点A							6.3													
(3/4)	CMK (3- 3)				26.7				12.6		6.3				8.2				5.8			

芝川ポンプ場（改修）　　（移　設）材　料　内　訳　表

			GP																			
			22 mm																			
	配線区間																					
NO	自	至	露出	埋込																		
M　14	M-17	引き戻し点A	8.2																			
(4/4)		CMK (3- 4)	8.2																			

芝川ポンプ場（改修）　　（移　設）材　料　内　訳　表

NO	区分	電線管類							
		プルボックス (SUS-WP)							
		250*250*200							
		個							
M	B1F	2							
	(1/1)　　ZMK (3- 1)	2							

Ｎｏ	自	至	種別・サイズ・本数	経路	合計	計　　算
M 1	LCB-9		CVV-S 2 sq － 2 c	P&D		
	緊急しゃ断弁操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP	5.8	(2.2)+ 1.5 + 0.9 + 1.2
				FEP		
				CP		
			GP 36 mm	露出	5.8	(2.2)+ 1.5 + 0.9 + 1.2
				埋込		
M 2	LCB-9		CVV 2 sq － 15 c	P&D		
	緊急しゃ断弁操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP	5.8	(2.2)+ 1.5 + 0.9 + 1.2
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
M 3	LCB-9		CVV 2 sq － 10 c	P&D		
	緊急しゃ断弁操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP	5.8	(2.2)+ 1.5 + 0.9 + 1.2
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
M 4	LCB-9		CVV-S 2 sq － 2 c	P&D		
	緊急しゃ断弁操作盤	緊急遮断弁		RACK		
				CP	6.8	0.8 + (2.2)+ 1.6 + (2.2)
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
M 5	LCB-9		600V CV 3.5 sq － 2 c	P&D		
	緊急しゃ断弁操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP	5.8	(2.2)+ 1.5 + 0.9 + 1.2
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		

Ｎｏ	自	至	種別・サイズ・本数	経路	合計	計　　算
M 6	LCB-9	LCB-8	600V CV 3.5 sq － 2 c	P&D		
	緊急しゃ断弁操作盤	床排水ﾎﾟﾝﾌﾟ操作盤		RACK		
				CP	12.1	(2.2)+ 1.5 + 0.9 + 1.2 + 0.9 + 3.2 + (2.2)
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
M 7			600V CV 3.5 sq － 1 c	P&D		
	緊急遮断弁	引き戻し点A		RACK		
				CP	8.2	0.8 + (2.2)+ 1.6 + 1.5 + 0.9 + 1.2
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
M 8	LCB-9		CVV 2 sq － 15 c	P&D		
	緊急しゃ断弁操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP	5.8	(2.2)+ 1.5 + 0.9 + 1.2
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
M 9	LCB-9		CVV 2 sq － 10 c	P&D		
	緊急しゃ断弁操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP	5.8	(2.2)+ 1.5 + 0.9 + 1.2
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
M 10			CVV 2 sq － 2 c	P&D		
	緊急遮断弁(LS)	引き戻し点A		RACK		
				CP	8.2	0.8 + (2.2)+ 1.6 + 1.5 + 0.9 + 1.2
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		

Ｎｏ	自	至	種別・サイズ・本数	経路	合計	計　　算
M 11	LCB-9		600V CV 3.5 sq － 2 c	P&D		
	緊急しゃ断弁操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP	5.8	(2.2)+ 1.5 + 0.9 + 1.2
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
M 12			600V CV 3.5 sq － 2 c	P&D		
	緊急遮断弁開度計	引き戻し点A		RACK		
				CP	8.2	0.8 + (2.2)+ 1.6 + 1.5 + 0.9 + 1.2
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
M 13	LCB-9		CVV-S 2 sq － 2 c	P&D		
	緊急しゃ断弁操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP	5.9	(2.2)+ 1.6 + 0.9 + 1.2
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
M 14	M-17		600V CV 3.5 sq － 2 c	P&D		
		引き戻し点A		RACK		
				CP	8.2	0.8 + (2.2)+ 1.6 + 1.5 + 0.9 + 1.2
				FEP		
				CP		
			GP 22 mm	露出	8.2	0.8 + (2.2)+ 1.6 + 1.5 + 0.9 + 1.2
				埋込		
M 15	M-17	LCB-9	CVV-S 2 sq － 2 c	P&D		
		緊急しゃ断弁操作盤		RACK		
				CP	8.2	0.8 + (2.2)+ 1.6 + 1.5 + 0.9 + 1.2
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		

Ｎｏ	自	至	種別・サイズ・本数	経路	合計	計　　算
M 16	M-17		CVV 2 sq － 12 c	P&D		
		引き戻し点A		RACK		
				CP	8.2	0.8 + (2.2)+ 1.6 + 1.5 + 0.9 + 1.2
				FEP		
				CP		
			GP 54 mm	露出	8.2	0.8 + (2.2)+ 1.6 + 1.5 + 0.9 + 1.2
				埋込		
M 17	LCB-9	LCB-8	600V CV 3.5 sq － 2 c	P&D		
	緊急しゃ断弁操作盤	床排水ﾎﾟﾝﾌﾟ操作盤		RACK		
				CP	14.5	0.8 + (2.2)+ 1.6 + 1.5 + 0.9 + 1.2 + 0.9 + 3.2 + (2.2)
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
M 18	LCB-8		CVV 3.5 sq － 4 c	P&D		
	床排水ﾎﾟﾝﾌﾟ操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP	6.3	0.9 + 3.2 + (2.2)
				FEP		
				CP		
			GP 70 mm	露出	6.3	0.9 + 3.2 + (2.2)
				埋込		
M 19	LCB-8		CVV 2 sq － 20 c	P&D		
	床排水ﾎﾟﾝﾌﾟ操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP	6.3	0.9 + 3.2 + (2.2)
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
M 20	LCB-8		CVV 2 sq － 15 c	P&D		
	床排水ﾎﾟﾝﾌﾟ操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP	6.3	0.9 + 3.2 + (2.2)
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		

Ｎｏ	自	至	種別・サイズ・本数	経路	合計	計　　算
M 21	LCB-8		CVV 2 sq － 20 c	P&D		
	床排水ﾎﾟﾝﾌﾟ操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP	6.3	0.9 + 3.2 + (2.2)
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
M 22	LCB-8		CVV 2 sq － 15 c	P&D		
	床排水ﾎﾟﾝﾌﾟ操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP	6.3	0.9 + 3.2 + (2.2)
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
M 23	LCB-8		CVV 3.5 sq － 4 c	P&D		
	床排水ﾎﾟﾝﾌﾟ操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP	6.3	0.9 + 3.2 + (2.2)
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
M 24	M-13A		600V CV 3.5 sq － 3 c	P&D		
		引き戻し点A		RACK		
				CP	6.3	0.9 + 3.2 + (2.2)
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
M 25	M-13A		IV 3.5 sq	P&D		
		引き戻し点A		RACK		
				CP	6.3	0.9 + 3.2 + (2.2)
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		

Ｎｏ	自	至	種別・サイズ・本数	経路	合計	計　　算
M 26	M-13B		600V CV 3.5 sq － 3 c	P&D		
		引き戻し点A		RACK		
				CP	6.3	0.9 + 3.2 + (2.2)
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
M 27	M-13B		IV 3.5 sq	P&D		
		引き戻し点A		RACK		
				CP	6.3	0.9 + 3.2 + (2.2)
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
M 28	M-13		CVV 2 sq － 6 c	P&D		
		引き戻し点A		RACK		
				CP	6.3	0.9 + 3.2 + (2.2)
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		

芝川ポンプ場（仮設）（ 1/ 1）　　(再利用)据　付　工　集　計　表　　[Aグループ]

機器名称	形状	単位	数量	技術者 単位工量	技術者 工量	電工 単位工量	電工 工量	技術者単体調整 単位工量	技術者単体調整 工量	単位工量	工量	歩掛ページ	機器重量(t) 単位重量	機器重量(t) 重量	備考
ポンプ井超音波水位計		台	1	0.60*0.6 =0.36	0.36	1.1*0.6 =0.66	0.66								
計（S-501）				0.36		0.66									

芝川ポンプ場（撤去）（ 1/ 1）　　(再利用)据　付　工　集　計　表　　[Aグループ]

機器名称	形状	単位	数量	技術者 単位工量	技術者 工量	電工 単位工量	電工 工量	技術者単体調整 単位工量	技術者単体調整 工量	単位工量	工量	歩掛ページ	機器重量(t) 単位重量	機器重量(t) 重量	備考
床排水ポンプ操作盤		面	1	1.0*0.6 =0.60	0.60	2.0*0.6 =1.2	1.2								
緊急遮断弁操作盤		面	1	0.88*0.6 =0.52	0.52	1.9*0.6 =1.1	1.1								
ポンプ室床排水操作盤		台	1	1.0*0.6 =0.60	0.60	2.0*0.6 =1.2	1.2								
ポンプ井超音波水位計		台	1	0.60*0.6 =0.36	0.36	1.1*0.6 =0.66	0.66								
中継端子盤		面	2	3.8*0.6 =2.2	4.4	2.3*0.6 =1.3	2.6								
汚水送水流量計変換器		台	1	0.38*0.6 =0.22	0.22	1.2*0.6 =0.72	0.72								
ラジエータ排風消音器		式	1	(3.09*3^0.480) *0.6=3.1	3.1	(4.59*3^0.487) *0.6=4.7	4.7							3	
燃料小出槽		台	1	(3.09*0.5^0.48 0)*0.6=1.3	1.3	(4.59*0.5^0.48 7)*0.6=1.9	1.9							0.5	
計（S-601）				11.10		14.08							3.5		

（再利用）材　料　集　計　表 － 1　　[Aグループ]

内訳書番号	電線管類	複合工費						
	プルボックス (SUS-WP)	防火区画処理						
	250*250*200	壁 600*300						
	個	箇所						
ZSK (6- 1)	2	1						
合計値　(A)	2	1						
撤去数量 (D)=(A)	2	1						
電工　使用工量 (E)=(E0)×I	0.21							
工　量 (A)×(E)	0.42							

Z- 1 / 1　(K= 0.6)　　電工量小計=0.42

芝川ポンプ場（撤去）　　（再利用）材　料　内　訳　表

NO	区分	電線管類	複合工費						
		プルボックス (SUS-WP)	防火区画処理						
		250*250*200	壁 600*300						
		個	箇所						
S1	電気室		1						
S	B1F	2							
	(1/1)　　ZSK (6- 1)	2	1						

Ｎｏ	自	至	種別・サイズ・本数	経路	合計	計　　算
S 1	LCB-9		CVV-S 2 sq － 2 c	P&D		
	緊急しゃ断弁操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
			GP 36 mm	露出		
				埋込		
S 2	LCB-9		CVV 2 sq － 15 c	P&D		
	緊急しゃ断弁操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
S 3	LCB-9		CVV 2 sq － 10 c	P&D		
	緊急しゃ断弁操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
S 4	LCB-9		CVV-S 2 sq － 2 c	P&D		
	緊急しゃ断弁操作盤	緊急遮断弁		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
S 5	LCB-9		600V CV 3.5 sq － 2 c	P&D		
	緊急しゃ断弁操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		

Ｎｏ	自	至	種別・サイズ・本数	経路	合計	計　　算
S 6	LCB-9	LCB-8	600V CV 3.5 sq － 2 c	P&D		
	緊急しゃ断弁操作盤	床排水ﾎﾟﾝﾌﾟ操作盤		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
S 7			600V CV 3.5 sq － 1 c	P&D		
	緊急遮断弁	引き戻し点A		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
S 8	LCB-9		CVV 2 sq － 15 c	P&D		
	緊急しゃ断弁操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
S 9	LCB-9		CVV 2 sq － 10 c	P&D		
	緊急しゃ断弁操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
S 10			CVV 2 sq － 2 c	P&D		
	緊急遮断弁(LS)	引き戻し点A		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		

Ｎｏ	自	至	種別・サイズ・本数	経路	合計	計　　算
S 11	LCB-9		600V CV 3.5 sq － 2 c	P&D		
	緊急しゃ断弁操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
S 12			600V CV 3.5 sq － 2 c	P&D		
	緊急遮断弁開度計	引き戻し点A		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
S 13	LCB-9		CVV-S 2 sq － 2 c	P&D		
	緊急しゃ断弁操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
S 14	M-17		600V CV 3.5 sq － 2 c	P&D		
		引き戻し点A		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
			GP 22 mm	露出		
				埋込		
S 15	M-17	LCB-9	CVV-S 2 sq － 2 c	P&D		
		緊急しゃ断弁操作盤		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		

Ｎｏ	自	至	種別・サイズ・本数	経路	合計	計　　算
S 16	M-17		CVV 2 sq － 12 c	P&D		
		引き戻し点A		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
			GP 54 mm	露出		
				埋込		
S 17	LCB-9	LCB-8	600V CV 3.5 sq － 2 c	P&D		
	緊急しゃ断弁操作盤	床排水ﾎﾟﾝﾌﾟ操作盤		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
S 18	LCB-8		CVV 3.5 sq － 4 c	P&D		
	床排水ﾎﾟﾝﾌﾟ操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
			GP 70 mm	露出		
				埋込		
S 19	LCB-8		CVV 2 sq － 20 c	P&D		
	床排水ﾎﾟﾝﾌﾟ操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
S 20	LCB-8		CVV 2 sq － 15 c	P&D		
	床排水ﾎﾟﾝﾌﾟ操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		

Ｎｏ	自	至	種別・サイズ・本数	経路	合計	計　　算
S 21	LCB-8		CVV 2 sq － 20 c	P&D		
	床排水ﾎﾟﾝﾌﾟ操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
S 22	LCB-8		CVV 2 sq － 15 c	P&D		
	床排水ﾎﾟﾝﾌﾟ操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
S 23	LCB-8		CVV 3.5 sq － 4 c	P&D		
	床排水ﾎﾟﾝﾌﾟ操作盤	引き戻し点A		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
S 24	M-13A		600V CV 3.5 sq － 3 c	P&D		
		引き戻し点A		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
S 25	M-13A		IV 3.5 sq	P&D		
		引き戻し点A		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		

Ｎｏ	自	至	種別・サイズ・本数	経路	合計	計　　算
S 26	M-13B		600V CV 3.5 sq － 3 c	P&D		
		引き戻し点A		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
S 27	M-13B		IV 3.5 sq	P&D		
		引き戻し点A		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		
S 28	M-13		CVV 2 sq － 6 c	P&D		
		引き戻し点A		RACK		
				CP		
				FEP		
				CP		
				露出		
				埋込		

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
建築機械設備	衛生器具設備	（据付）						
		衛生器具設備工事	洗面化粧台幅600㎜ 壁掛洗面器L410	1	式			
		（撤去）						
		衛生器具設備工事	壁掛洗面器L410	1	式			
	給水設備	（据付）						
		通気管 給排水管	50Aｶﾞｽ用塩化ﾋﾞﾆﾙ被覆鋼管 32Aｶﾞｽ用塩化ﾋﾞﾆﾙ被覆鋼管 20A、40A	1	式			
		（撤去）						
		通気管 給排水管	50Aｶﾞｽ用塩化ﾋﾞﾆﾙ被覆鋼管 32Aｶﾞｽ用塩化ﾋﾞﾆﾙ被覆鋼管 20A、40A	1	式			
	換気設備	（据付）						
		ダクト工事	消音ボックス500×400×1500 ユニットバス換気	1	式			
		（撤去）						
		ダクト工事	消音ボックス500×400×1500	1	式			
直接工事費	**（建築機械設備：改修）**			1	式			

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
	共通仮設費率							改修機械設備工事
	共通仮設費			1	式			
純工事費	（直接工事費＋共通仮設費）			1	式			
	現場管理費率							改修機械設備工事 完全週休2日（土日）補正係数1.01
	現場管理費			1	式			
工事原価	（純工事費＋現場管理費）			1	式			
	一般管理費等率							機械設備工事
	一般管理費等			1	式			
工事価格	（工事原価＋一般管理費等）			1	式			1万円未満切り捨て
	消費税相当額			10	%			
工事費			建築機械設備（消費税含む）					

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
衛生器具設備	（据付）							
	衛生器具設備工事	材	洗面化粧台幅600mm	3	組			
		手間	洗面器ユニット	3	組			
		材	壁掛洗面器L410	1	組			再利用
		手間	大自動水栓　L410	1	組			
	合計							
	（撤去）							
	衛生器具設備工事	手間	壁掛洗面器L410	3	組			第1代価表
		手間（再）	壁掛洗面器L410 (2F トイレ)	1	組			第2代価表
	合計							
給水設備	（据付）							
	（配管設備）							
	配管工事	材	通気管　50A	5.7	m			
		手間	屋内一般配管	5.7	m			
		材	通気管　32A	5.7	m			
		手間	屋内一般配管	5.7	m			
		材	給水管　20A水道配水用 ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管(PE)	12.7	m			
		手間	屋内一般配管	12.7	m			
		材	排水管　40A水道配水用 ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管(PE)	3.0	m			
		手間	屋内一般配管	3.0	m			
	合計							
	（撤去）							

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
	（配管設備）							
	配管工事	手間	通気管　50A	5.7	m			
		手間	通気管　32A	5.7	m			
		手間	給水管　20A水道配水用 ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管(PE)	4.8	m			
		手間	排水管　40A水道配水用 ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管(PE)	2.1	m			
	合計							
換気設備	（据付）							
	ダクト工	手間	消音ボックス500×400×1500	2.7	m^2			第3代価表
	ユニットバス換気	材工共	φ100　スパイラルダクト	3.2	m			
	ユニットバス換気	材工共	１００A保温RW屋内隠蔽	3.2	m			
	ユニットバス換気	材料	100AベンドキャップSUS	1.0	個			
	ユニットバス換気	手間	100Aベンドキャップ	1.0	個			
	合計							
	（撤去）							
	ダクト工	手間（再）	消音ボックス500×400×1500	2.7	m^2			
※労務費（手間）は完全週休二日制×1.02、（保温×1.15、ダクト×1.15、ダクト付属品×1.22、衛生器具×1.22）								

費目	工種	種別	細別・規格	数量	単位	単価	金額	摘要
衛生器具設備工事	（撤去）	壁掛洗面器L410	配管工		人			
			その他	1	式			
		鏡	配管工		人			
			その他	1	式			
				1	組			第1代価表
衛生器具設備工事	（撤去）	壁掛洗面器L410 （2F トイレ）	配管工		人			
			その他	1	式			
			再利用	1	式			
				1	組			第2代価表
ダクト工事	アングルフランジ	消音ボックス 500×400×1500	ダクト工		人			
			その他	1	式			
				1	m2			第3代価表

衛生設備更新工事

数　量　計　算　書

工事名　【上尾芝川ポンプ場　衛生・換気設備】

工事種目	衛生器具設備、配管、換気設備　集計表

項目・品名	仕様・摘要	単位	AM-04			AM-05			AM-06			AM-07										小計	内訳数量
（据付）																							
1　1F　トイレ/浴室																							
洗面化粧台	幅600mm　ﾒﾃﾞｨｼﾝｸﾞｷｬﾋﾞﾈｯﾄ共	組	3																			3	3
給水管	20A 水道配水用ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管(PE)	m	4.0	1.5																		5.5	5.5
給湯管	20A 水道配水用ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管(PE)	m	5.7	1.5																		7.2	7.2
排水管	40A 水道配水用ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管(PE)	m	1.5	1.5																		3.0	3.0
換気ダクト	100A　スパイラルダクト	m	2.2	1.0																		3.2	3.2
ダクト保温	100A　RW　屋内隠蔽	m	2.2	1.0																		3.2	3.2
ベンドキャップ	100A	個	1																			1	1
																						0	0
2　2F　トイレ																							
壁掛洗面器	L410　自動混合水栓	組							1													1	1
3　1F　自家発室	屋内																						
通気管	50A　ｶﾞｽ用塩化ﾋﾞﾆﾙ被覆鋼管	m				5.0	0.2	0.5														5.7	5.7
通気管	32A　ｶﾞｽ用塩化ﾋﾞﾆﾙ被覆鋼管	m				5.0	0.2	0.5														5.7	5.7
消音ボックス	消音ボックス500×400×1500	個										1										1	1
（撤去）																							
1　1F　トイレ/浴室																							
壁掛洗面器	L410　自動混合水栓	組	3																			3	3
化粧鏡	450×600	組	3																			3	3
給水管	20A	m	4.0	0.8																		4.8	4.8
排水管	40A	m	1.5	0.6																		2.1	2.1
2　2F　トイレ																							
壁掛洗面器	L410　自動混合水栓	組							1													1	1
3　1F　自家発室	屋内																						
通気管	50A　SGP	m				5.0	0.7															5.7	5.7
通気管	32A　SGP	m				5.0	0.7															5.7	5.7
消音ボックス	消音ボックス500×400×1500	m^2										2.70			（（0.5+0.4）×2×1.5）							2.70	2.70
	アングルフランジ工法																						

（別紙１）

上尾市土木工事特記仕様書

（趣旨）

第１条　この特記仕様書は、埼玉県土木工事共通仕様書に定めるもののほか、工事に関し必要な事項を定めるものとする。

（適用）

第２条　この特記仕様書は、上尾市土木工事に適用する。

（共通事項）

第３条　受注者は、「資源の有効な利用の促進に関する法律（平成３年法律第４８号。以下「資源有効利用促進法」という。）等の規定により、「再生資源利用計画」、「再生資源利用促進計画」の作成を要する工事については、原則、COBRIS での入力を行い、以下の書類を提出するとともにこれらの記録を保存する。

(1) 施工計画作成時

「再生資源利用計画書」、「再生資源利用促進計画書」及び「工事登録証明書」（COBRIS で入力したことの証明）

(2) 工事完了時

「再生資源利用実施書」、「再生資源利用促進実施書」及び「工事登録証明書」（COBRIS で入力したことの証明）

２　受注者は、工事の施工前に前項第１号に掲げる「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」の内容について、発注者へ説明しなければならない。

３　受注者は前項の説明を実施した後、当該計画を公衆の見えやすい場所へ掲示するものとする。

４　受注者は、施工計画書に建設廃棄物の処理計画を添付するものとする。なお、建設廃棄物の処分にあたり、排出事業者は処分業者と建設廃棄物処理委託契約を締結し、同契約書の写しを処理計画に添付するものとする。また、収集運搬業務を収集運搬業者に委託する場合は、別に収集運搬業者と建設廃棄物処理委託契約を締結するものとする。

５　排出事業者が建設廃棄物の処理を委託する場合には、産業廃棄物管理票（紙マニフェスト）または電子マニフェストにより管理しなければならない。

ア　紙マニフェストの場合は、建設系廃棄物マニフェストＡ票、Ｂ２票、Ｄ票、Ｅ票を監督員に提示し、確認を受けるとともに、Ｄ票、Ｅ票の写しを提出する。また、工事検査時には原本を提示しなければならない。

イ　電子マニフェストの場合は、マニフェスト情報登録証明、受渡確認票を監督員に提示し、確認を受ける。また、工事検査時には受渡確認票及び一覧表を提示しなければならない。

6　受注者は、工事の完成後に発注者から請求があったときは、第１項第２号に掲げる「再生資源利用実施書」及び「再生資源利用促進実施書」に基づき、当該実施状況を報告しなければならない。

（受領書の交付）

第４条　受注者は、土砂を再生資源利用計画に記載した搬入元から搬入したときは、法令等に基づき、速やかに受領書を搬入元に交付しなければならない。

（再生資源利用促進計画を作成する上での確認事項）

第５条　受注者は、再生資源利用促進計画の作成に当たり、建設発生土を工事現場から搬出する場合は、工事現場内の土地の掘削その他の形質の変更に関して発注者等が行った土壌汚染対策法等の手続き状況や、搬出先が宅地造成及び特定盛土等規制法の許可地等であるなど適正であることについて、法令等に基づき確認しなければならない。

また、確認結果は再生資源利用促進計画に添付するとともに、工事現場において公衆の見やすい場所に掲げなければならない。

（建設発生土の運搬を行う者に対する通知）

第６条　受注者は、建設現場等から土砂搬出を他の者に委託しようとするときは、「再生資源利用促進計画」に記載した事項（搬出先の名称及び所在地、搬出量、その他法令に基づく事項）と「第５条再生資源利用促進計画を作成する上での確認事項」等で行った確認結果を、委託した搬出者に対して、法令等に基づいて通知しなければならない。

（建設発生土の搬出先に対する受領書の交付請求等）

第７条　受注者は、建設発生土を再生資源利用促進計画に記載した搬出先へ搬出したときは、法令等に基づき、速やかに搬出先の管理者に受領書の交付を求め、受領書に記載された事項が再生資源利用促進計画に記載した内容と一致することを確認するとともに、監督職員から請求があった場合は、受領書の写しを提出しなければならない。

（建設発生土の搬出）

第８条　建設発生土は、（別添１）に記載した土質改良プラントのいずれかにおいて処分するものとする。

2　受注者は、規定様式により搬出前に搬出先市町村の建設発生土担当窓口

あてに建設発生土の搬出情報を郵送・ＦＡＸ等で提供し、その写しを監督員に提出するものとする。

３　第１項の規定にかかわらず、事前に発注者の承諾を得た場合にあっては、（別添１）に記載した土質改良プラント以外の施設において、建設発生土を処分することができる。

４　いずれの処分地を選定した場合にあっても、設計変更は行わない。ただし、現場条件や搬出先の事情等、不可効力により、受注者が遠方の処分地を選定したと発注者が認めたときは、設計変更を行うものとする。

（建設廃棄物の再資源化等）

第９条　受注者は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成１２年法律第１０４号。以下「建設リサイクル法」という。）に基づいて、特定建設資材廃棄物を再資源化のための施設に搬入する場合は、適切な施設に搬入しなければならない。なお、特定建設資材廃棄物とは、特定建設資材（コンクリート、コンクリート及び鉄から成る建設資材、木材、アスファルト・コンクリート）が廃棄物となったものである。

２　受注者は、契約前に作成した「分別解体等の計画等」を施工計画書に添付して提出するものとする。

３　受注者は、特定建設資材廃棄物の再資源化等が完了したときは、建設リサイクル法第１８条第１項に基づき、以下の事項等を別紙「再資源化等報告書」に記載し、発注者に報告しなければならない。

・特定建設資材廃棄物の再資源化等が完了した年月日
・特定建設資材廃棄物の再資源化等をした施設の名称及び所在地
・特定建設資材廃棄物の再資源化等に要した費用

また、同条第１項に基づき、特定建設資材廃棄物の再資源化等の実施状況に関する記録を作成し、保存しなければならない。

なお、資源有効利用促進法等に基づく再生資源利用[促進] 実施書を作成している場合は、その写しを参考資料として報告に添付するものとする。

４　受注者は、工事の施工に当たっては、「彩の国建設リサイクル実施指針」を遵守し、建設資材廃棄物の再資源化等に努め、廃棄物の減量を図らなければならない。

（再資源の利用）

第１０条　下記の再生資材を、備考欄の部分に利用すること。

資　材　名	規　　格	備　　考
再生アスコン	(13)-50, (20)-50	表層及び基層等
再生粒調砕石	40mm 以下	車道路盤等
再生切込砕石	40mm 以下	車道及び歩道路盤等
再　生　砂	細粒分　含有率 50%未満	歩　道　等
再生骨材生ｺﾝｸﾘｰﾄ	L 18-10-20BB	均しコンクリート等

なお、現場から４０㎞の範囲の再資源化のための施設から供給が困難な

場合は、新材への設計変更の対象とする。

（ゼロ・エミッション工事の推進）

第１１条　工事の施工にあたっては、ゼロエミッション工事の推進に努めることとする。

（CORINS 登録）

第１２条　工事請負額 500 万円以上の工事については、CORINS 登録すること。

（法定外の労災保険の付保）

第１３条　受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。

（管路埋戻土の運搬距離）

第１４条　受注者は、工事箇所から管路埋戻に使用する発生土の仮置き場までの運搬経路及び距離を示した書類を提出すること。また、仮置き場を変更した場合は、速やかに変更後の書類を提出すること。

２　選定した仮置き場までの距離が設計距離を超える場合にあっては、設計変更は行わない。ただし、設計距離を下回る場合は、設計変更の対象とする。

（公道上の施工）

第１５条　受注者は、第１条の規定によらず、公道上で工事を施工するにあたり、国道にあっては道路占用工事共通指示書（平成 21 年 10 月 1 日付け国関整道政第 254 号関東地方整備局長通達）、県道にあっては道路占用工事標準条件書、市道にあっては道路占用工事施行に関する標準条件書を準拠して施工すること。

（週休２日制適用工事）

第１６条　本工事は、上尾市「週休２日制適用工事（現場閉所型）」の試行対象工事である。

試行の実施は、上尾市「週休２日制適用工事」試行要領によるものとする。試行要領は、上尾市役所ホームページで確認のこと。

上尾市役所ホームページ

（https://www.city.ageo.lg.jp/page/355165.html）

（別紙２）

工事の施工管理に関する特記仕様書

本工事の施工管理については、上尾市工事請負契約約款、その他関係法規を遵守すること。

また、埼玉県土木工事実務要覧の仕様書編、施工編についても、埼玉県を上尾市に読み替えて工事の施工管理にあたること。

（占用物件切回し工事等の施工管理）

受注者は、本工事に伴い道路内の既存占用物件切回し工事等を施工する必要が生じた場合、発注者と協議を行うこと。

電子納品に関する特記仕様書

（適用）

第１条　本工事は、電子納品対象工事とする。電子納品とは、測量、調査、設計、工事などの各業務段階の最終成果を電子データで納品することをいう。

（電子成果品の作成）

第２条　成果品は、国土交通省の各電子納品要領・基準及び、「上尾市電子納品運用ガイドライン」に示された内容に基づいて作成する。

（電子成果品の提出）

第３条　成果品は、「上尾市電子納品運用ガイドライン」に基づいて作成した電子データを電子媒体（ＣＤ－Ｒ）で２部提出する。なお、電子納品対象外の書類は紙媒体により１部提出する。

（電子成果品の確認）

第４条　成果品の提出の際には、国土交通省作成の「電子納品チェックシステム」によるチェックを行い、エラーがないことを確認する。また、最新の定義データに更新したウイルス対策ソフトを用いてウイルスチェックを実施したうえで提出する。

（別紙３）

舗装版切断時に発生する濁水の処理にかかる特記仕様書

（趣旨）

第１条　この特記仕様書は、埼玉県土木工事共通仕様書に定めるもののほか、舗装版切断時に発生する濁水の処理に関し必要な事項を定めるものとする。ただし、濁水を生じないなど環境に配慮した工法があり、発注者が認めた場合は、この特記仕様書によらなくてよい。

（適用）

第２条　この特記仕様書は、上尾市土木工事に適用する。

（処理方法）

第３条　受注者は、舗装版切断作業を行いながら濁水を吸引のうえタンクに貯留し、作業後速やかに、排水を処理施設へ運搬し処分する。

（条件）

第４条　受注者は、濁水を搬入する業者は、産業廃棄物の汚泥の中間処分業の許可を受けている事業者で、搬入業者が産業廃棄物管理票（マニフェスト）にて管理できるものから選定する。

２　濁水の運搬は、受注者が行うこととする。ただし、やむを得ない理由があると監督員が認めた場合は、濁水の運搬を、産業廃棄物の汚泥の運搬許可のある業者に委託することができる。

（提出書類）

第５条　受注者は、施工計画書に舗装版切断時に発生する濁水の収集・運搬・処理に関する計画書、受注者と処分業者との契約書の写し及び処分業者の許可証の写しを添付すること。

また、受注者は、濁水の運搬を、産業廃棄物の汚泥の運搬許可のある業者に委託した場合は、受注者と運搬業者との契約書の写し及び運搬業者の許可証の写しを添付すること。

２　受注者は、工事完了後速やかに産業廃棄物管理票（マニフェスト）の D 票及び E 票の写しを監督員に提出すること。

また、受注者は、濁水の運搬を、産業廃棄物の汚泥の運搬許可のある業者に委託した場合は、B2 票の写しも監督員に提出すること。

（別添１）

指定処分先一覧

※積算条件に用いる運搬距離は、当該現場から最短距離に位置する処分地を選定し算出しており、受注者が下記一覧より選定した処分地に応じて設計変更するものではない。

プラント会社名	処分地
(株)サンエコセンター	さいたま市見沼区片柳１－３６８－４
(株)オザワ 天沼プラント	さいたま市大宮区天沼町２－１２５８
(株)関根商店 三橋改良土センター	さいたま市西区三橋５－１７６８
五葉建材(株) エコプラザさいたま	戸田市笹目５－１－７
土リサイクルセンター(株) 川口プラント	川口市西新井宿１３７４
関口工業(株)・三立建設(株)共同企業体 朝霞リサイクルステーション	朝霞市上内間木５０３－６
(株)祥和コーポレーション 埼京改良土センター	新座市野火止３－２－３３
(株)ｳｨﾝﾃｯｸ・関口工業(株)共同企業体 和光リサイクルステーション	和光市新倉８－２２－１６
柳沢コンクリート工業(株) 埼玉中央改良土プラント	桶川市川田谷７９３
野崎興業(株) エコリサイクルプラント	北足立郡伊奈町小室４８３０－１
木村建材工業(株) リサイクルセンター	川越市中福９１８－１
(株)ホートー 川越リサイクルプラント	川越市下赤坂１８００－３
リコ・スタイル(株) 三芳改良土プラント	入間郡三芳町上富１９６－２
(株)加藤建設工業 武蔵プラント	日高市上鹿山７９５－３
(株)春日部資材 彩の国改良土プラント	春日部市下大増新田２８１－１

(有)彩光 草加市プラント	草加市柿木町１０９６－１
須合建設(株) ミサト改良土センター	三郷市インター南１－２－２０
(株)埼玉車輛 改良土プラント	草加市長栄１－６３０－１
(有)苅宿興業 蓮田土質改良プラント	蓮田市閏戸５７６－１

芝川ポンプ場耐震補強工事

工事特記仕様書
（土木）

令和８年

埼　玉　県　　上　尾　市

施工編

第 1 条　工事概要

対象：芝川ポンプ場

目的：所定の耐震性能を有さない、上記構造物を耐震化する補強工事を行う。

工事の主要な内容は次のとおりである。

工 事 箇 所	芝川ポンプ場
工 事 概 要	耐震補強工事 あと施工せん断補強筋工法　CCb 工法（両端先端型） D13　72 本 D16　22 本 D22　524 本 D25　198 本 D29　72 本

第 2 条　事前調査

1. 受注者は工事着手前、本工事の工事対象施設について十分な調査確認を行い、その結果について監督職員へ報告すると共に、設計図書との錯誤等が認められる場合は、必要に応じて協議すること。
2. 受注者は、工事着手前に本工事による影響を想定し、影響下にある構造物、配管等の調査を行うことで、現場条件の把握に努めること。
3. 事前調査の結果は要約した上、監督職員へ報告し、内容を共有すること。

第 3 条　準備工

1. 工事後の下水処理に支障をきたさぬよう、関係機関と密な調整を図ること。
2. 施工中に配管を傷つけないよう、必要に応じて配管に養生を行うこと。
3. 工事に先立ち、施工箇所が水槽部である場合は排水（揚水）作業を行うこと。作業は揚水ポンプにより、沈砂池に排水すること。

第 4 条　あと施工せん断補強筋工法

（1）共通

1. あと施工アンカー工における既設躯体の削孔に先立ち、鉄筋探査及び竣工図により躯体内の配筋状況を確認し、設計図書との差異について確認を行うこと。また、鉄筋の挿入位置について墨出しを行うこと。結果を監督職員に書面報告した後現地立会にて承諾を得ること。
2. 確認の結果、設計図書に示す補強筋設置位置での施工に不都合が生じた場合、各部での必要本数から配置位置の変更を検討し、補強筋の配置計画図を作成し、監督職員の承諾を得ること。位置の変更を含めた結果については、施工後の竣工書類にて明らかにするものとする。
3. 設計図書に示された削孔径で構造体に損傷を与えないように留意して削孔すること。
4. あと施工せん断補強鉄筋は、建設技術審査証明書第 811 号「セラミックキャップバー（CCb)」工法における両端先端型で実施する。

5. 既設配筋等との接触により所定深度までの削孔が不能となった場合、削孔長を計測した後速やかに監督職員へ報告すると共に、削孔位置の変更について検討を行い、検討結果をもって協議を行うこと。
6. 削孔不能箇所において、削孔位置が配置計画図と整合していること、且つ鉄筋探査機器の探査可能深度より深い位置で鉄筋等に干渉したことが確認できる場合について、削孔不能となった孔の削孔及び充填費用の設計変更の協議をすることができる。

（２）敷地内道路

1. 建物間の敷地内道路に際しては、道路下の梁の補強のため、一時的に車両が通行止めとなる。本工事については、事前に協議等の場を設けて維持管理や別途建築・設備工事との調整を行うこと。

（３）1F 発電機室、工作室・倉庫

1. 本工事の時期については、事前に協議等の場を設けて別途建築・設備工事の支障とならないよう調整を行うこと。

（４）M1F 配管室

1. 本工事期間中は当該部分の通行に支障が出るため、時期については維持管理上問題ないよう調整を行うこと。

（５）B1F 沈砂池機械室

1. 本工事期間中は当該部分の通行に支障が出るため、時期については維持管理上問題ないよう調整を行うこと。
2. 補強工事を行うにあたり、進入困難箇所内の補強のため、階段室との中壁の一部を撤去して仮設の進入口とする。撤去はコア削孔＋ワイヤーソーによる切断撤去とする。
3. 補強工事を行うにあたり、支障となる設備の取外し及び再設置を行うこと。
   なお、取外し及び再設置はプラント電気が担当する。
   ①床排水ポンプ操作盤、緊急しゃ断弁操作盤、プルボックス（中継端子盤）
   各操作盤及びプルボックスが壁部の耐震補強工事を行う際の支障物となるため、耐震補強前に取外し、耐震補強完了後に再設置を行う。
4. B2F の進入困難箇所の補強のため、沈砂池機械室のスラブの一部を撤去して仮設の進入口とする。撤去は移動式門型クレーン（1.0ｔ吊）等で固定したうえで、ワイヤーソーで切断して吊上げ撤去とする。（下層階へのコンクリート落下を防止する）

（６）B2F 沈砂池

1. 本工事期間中は沈砂池内で作業を行うため、期間中の沈砂池は片槽運転となる。（2 号沈砂池）
   あらかじめポンプ場の運転管理に支障が出ないよう、維持管理者と実施時期、工事期間について調整を行うこと。
2. 沈砂池内の残水は揚水ポンプにより、2 号沈砂池に排水すること。

（７）B2F 湧水槽

1. 湧水槽内へ既設の進入口はないため、上部のスラブを一部撤去して仮設の進入口とする。撤去は移動式門型クレーン（1.0ｔ吊）等で固定し、ワイヤーソーで切断して吊上げ撤去とする。（下層階へのコンクリート落下を防止する）
2. 本工事期間中は仮設進入口箇所の通行に支障が出るため、時期については維持管理上問題ないよう調整を行うこと。
3. 本工事期間中は湧水槽へ送水する設備を停止とし、残水は揚水ポンプにより、沈砂池もしくは場内雨水側溝に排水すること。

（８）B2F 水槽

1. 本工事期間中は水槽へ送水する設備を停止とし、残水は揚水ポンプにより、沈砂池もしくは場内雨水側溝に排水すること。

（９）B2F ポンプ井

1. 仮壁を設け、補強箇所である壁部をドライ化すること。
2. 仮壁設置のため、上部のスラブの一部を撤去して資機材搬入口とする。撤去は 1F 搬入室の搬入用吊上機等で固定し、ワイヤーソーで切断して吊上げ撤去とする。
3. 仮壁の設置・撤去作業は、送水停止実績のある 0：00～6：00 の 6 時間を利用し、安全管理を徹底しながら段階的に行うこと。
4. 送水停止後のポンプ井内の残水（汚水）は揚水ポンプにより、沈砂池に排水すること。
5. 1F 搬入室の搬入用吊上機の揚程が不足しているため、B1F から B2F への資機材搬入には門型クレーンを用いること。
6. 仮壁設置期間中は仮壁が支障となるため、期間中の沈砂池は片系運転となる。（1 号沈砂池）
   あらかじめポンプ場の運転管理に支障が出ないよう、維持管理者と実施時期、工事期間について調整を行うこと。
7. 仮壁設置後はポンプ井が縮小して運用されるため、縮小側の設備の移設及び復旧を行うこと。
   なお、移設及び復旧はプラント電気が担当する。
   ①ポンプ井超音波式水位計
   ポンプ井超音波式水位計を仮壁設置期間も使用するため、仮壁設置前に移設し、仮壁撤去後に復旧を行う。

（１０）B2F 階段室、ポンプ室

1. 本工事期間中は当該部分の通行に支障が出るため、時期については維持管理上問題ないよう調整を行うこと。
2. 補強工事を行うにあたり、支障となる設備の取外し及び再設置を行うこと。
   なお、取外し及び再設置はプラント電気が担当する。
   ①ポンプ室床排水ポンプ操作盤
   ポンプ室床排水ポンプ操作盤が壁部の耐震補強工事を行う際の支障物となるため、耐震補強前に取外し、耐震補強完了後に再設置を行う。

第 5 条 段階確認

1. あと施工せん断補強筋工法

受注者は、下記の種別の施工段階においては、段階確認を受けなければならない。この際、受注者は、工種、細別、確認の予定時期を、所定の書式により監督職員に提出しなければならない。

ただし、段階確認の実施時期及び実施箇所は監督職員が定めるものとする。

種別	細別	確認時期
耐震補強工	あと施工せん断補強筋工法	各施工区間の完了時

2. 段階確認の協議

受注者の判断で施工後不可視になると思われる箇所が想定される場合、監督職員に内容を報告し、必要に応じて段階確認を受けること。

第 6 条 安全対策

1. 工事中の安全確保

(1) 本工事の施工にあたっては、「土木工事安全施工技術指針」に基づき、常に工事の安全に留意し現場管理を行い災害の防止を図らなければならない。ただし、これらの指針は当該工事の契約事項を超えて請負者を拘束するものではない。

(2) 工事中看板、工事情報看板及び工事説明看板の記載内容及び設置箇所については、監督職員の承諾を得るものとする。

(3) 工事箇所は作業エリアを明確にし、工事関係者以外の者が立ち入ることのないよう留意すること。

(4) 工事箇所周辺は供用中の施設に面しているため十分注意して施工すること。

(5) 工事現場における事故防止

(ア) 工事は、各工種に適した工法に従って施工し、設備の不備又は不完全な施工等によって事故を起こすことがないよう十分注意すること。

(イ) 工事現場においては、常に危険に対する認識を十分にして、作業の手違い、従事者の不注意等のないよう厳に戒めること。

(ウ) 工事用建設機材の取扱いには、熟練者を配置し、常に機械の点検、設備を完全に行い、運転にあたっては使用条件を守り、操作を誤らないようにすること。

(エ) 落差のある箇所での作業が含まれるため、作業員の転落防止の対策を講ずること。

2. 受注者は、工事中事故があったときには、直ちに所要の措置を講ずるとともに、事故発生の原因、経過及び事故による被害の内容について、直ちに監督職員に報告書を提出すること。

報告書の様式については「土木工事書類作成マニュアル」記載の様式を使用する。

3. 工事の施工にあたり、「建設工事公衆災害防止対策要綱」に従い行わなければならない。なお、発注者が指示する時は、請負者は即座に指示された安全対策を講じること。

4.　安全・訓練等の実施

本工事の施工に際し、現場に即した安全・訓練等について工事着手後に、原則として作業員全員の参加により１ヶ月あたり半日以上の時間を割当て、下記の項目から実施内容を選択し、安全・訓練等を実施すること。

(1) 安全活動のビデオ等視覚資料による安全教育。
(2) 本工事内容等の周知徹底。
(3) 土木工事安全施工技術指針等の周知徹底。
(4) 本工事における災害対策訓練。
(5) 本工事現場での予想される事故対策。
(6) その他、安全・訓練等として必要な事項。

5.　安全・訓練等に関する施工計画書の作成

訓練に先立ち、施工計画書に本工事の内容に応じたあらゆる段階における安全・訓練等の具体的な計画を作成し、監督職員に提出しなければならない。

6.　安全・訓練等の実施状況報告

施工計画書の安全対策・訓練等の実施状況をビデオ等または報告書に写真を添付して実施後、遅滞無く監督職員に提出しなければならない。

7.　熱中症対策チェックリストの作成と報告

夏季の屋外工事において、WEGT 値や気温（30℃以上）を指標とし、休憩所設置、飲料・塩飴の準備、冷風機導入等の具体的な熱中症予防策を講じ、あらかじめチェックリストを作成して適切に運用すること。監督員から要求があった際は直ちにリストの提出を行うとともに、工事完成時にも提出すること。

第７条　現場確認

現場代理人は、設計図書の照査を行い、設計図書を十分理解した後、現地調査をすること。現場調査後、現場代理人は監督職員と打合せを行い、施工位置、施工方法等について了解を得ること。本設計と現場が異なる場合は、工事前に必ず監督職員に報告し、工事打合せ簿をもって協議すること。

第８条　交通安全管理

1.　請負者は工事の施工にあたり、次項を遵守するものとする。

(1) 積載重量制限を超えて資機材を積込まず、また積込ませないこと。それを証明できるような書類(現場写真等)準備しておくこと。
(2) 不法・違法無線局（不法パーソナル無線）を設置したトラック等を工事現場内に立入らせないこと。
(3) 車両ガラスに違法フィルム等を添付した車両は、工事現場内に立入らせないこと。
(4) 以上のことにつき下請業者にも十分指導すること。

第 9 条　環境保全対策

1.　一般

(1) 工事を行う地域に対しては環境の保全に十分配慮し、適切に対処するよう、努めなければならない。

(2) 公害防止のため環境阻害要因を十分に把握し、適切な対策を講じなければならない。

2.　工事施工上の留意点

(1) 工事施工にあたっては、関係者に対し十分な事前説明を行い、協力を得られるよう対処しなければならない。

(2) 工事に伴う騒音については、法律及び関係法令、同指導等を尊重し、その防止に努めなければならない。

(3) 振動の少ない施工法を採用する等、公害防止の概念を尊重し、その対策には十分注意しなければならない。

3.　公害防止に関連する各種調査及び試験

受注者は、県が公害防止に関連する各種調査及び試験を必要と認めた場合は、関連法規に従い調査し結果を報告しなければならない。なお、そのために要する費用については、発注者と協議すること。

4.　産業廃棄物

工事により発生した産業廃棄物は、県条例等に従って措置しなければならない。

第 10 条 創意工夫・社会性等に関する実施報告

受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や技術力に関する項目、または地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに所定の様式により提出することができる。

芝川ポンプ場耐震補強工事

特 記 仕 様 書
（電気設備）

令和８年

埼　玉　県　　上　尾　市

目　　次

第１章　総則
　第１節　一般事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1～3

第２章　耐震補強工事に伴う電気設備改修工事
　第１節　概　　要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
　第２節　対象機器・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
　第３節　工事範囲・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

第３章　仮設工事
　第１節　概　　要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
　第２節　設備機器・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
　第３節　工事範囲・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
　第４節　特記仕様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

第1章 総　　則

第1節 一般事項

(1) 概　要

本仕様書は、芝川ポンプ場耐震補強工事に伴う、電気設備改修工事に適用するものであって、法令その他特別に定めるものの他はすべて本仕様書に準拠し監督員の指示により工事の施工にあたらなければならない。

また、本仕様書に特に定めの無い事項については、設計図および下水道機械・電気設備工事一般仕様書(以下一般仕様書)に準拠する。

(2) 規則および契約等

受注者は、本市における規則、契約等およびその他本市の定める規定に準拠して施工する他、電気設備に関する技術基準およびその他関連規定に従って施工する。

(3) 製作の着手

受注者は、契約後速やかに仕様書および設計図に基づき製作・仕様の打合せを行い、承諾図を作成し、監督員の承諾を得ること。この承諾を得た後でなければ製作に着手してはならない。

また、本仕様書の機器が製作者固有の設計による製品で、仕様書および設計図と異なるときは事前に理由を申し出て監督員の承諾を得なければならない。

(4) 官公庁への手続き

本工事で監督官庁その他への手続きを必要とするものは、受注者がこれに要する申請書、届出書等を作成し、手続きの一切の代行をすること。

なお、これらに要する費用はすべて受注者の負担とする。

(5) 高圧回路の開閉操作

本工事で高圧回路の開閉操作を必要とするものは、操作を必要とする事業場で選任された電気主任技術者の指導のもと、開閉操作を行うこと。

なお、これらに要する費用はすべて受注者の負担とする。

(6) 施　工

仕様書および設計図に明記されていないものでも本設備の目的並びに工事施工上必要なものは監督員の指示に従い、受注者の負担で整備または施工しなければならない。

(7) 現場代理人

受注者は、現場代理人および工事現場における工事施工上の監理技術者を定め、書面にて本市の承諾を得なければならない。

(8)　試 験

本工事の施工にあたっては、監督員の指示のもとで設備の絶縁抵抗並びに絶縁耐圧試験を行い、これに合格後作動試験を行うものとする。

(9)　提出書類

本工事において受注者は、一般仕様書に記載した書類について市と協議を行い、必要なものを提出すること。

(10) 工事立会検査

受注者は工場で機器が完成した際に性能試験及び立会検査を実施する。また、発注者の担当監督員又は主任監督員による工場立会検査実施の有無については、発注者との協議とする。

(11) 設備の養生

搬入された機器および既存施設部分等については、汚損しないよう適切な養生を行う。

(12) 誤接続等の防止

配線・配管等電路工事は施工計画書に基づき、施工（工事）承諾図面に照らし合わせて確認する。

(13) 切替方法

設備の更新にあたっては、接続不良等によって現場操作員の作業を発生させないよう細心の注意を払うとともに、データの欠落をはかり、施設の運用に支障がないようにすること。

(14) 緊急時の対応

受注者は、切替工事中の休日・夜間の緊急時についても遅滞なく対応すること。「遅滞なく」とは、緊急事態の発生から2時間以内に当該事業場に到達可能であることを示す。

(15) 完成図書

受注者は、完成検査までに完成図書を金文字黒表紙製本及び電子データ化し提出すること。

設計計算書及び竣工図（発注図を施工に合致した修正図）の電子データは、汎用ソフトを用い、編集可能なデータとし、その他のデータを含む全ての完成図書をＰＤＦ等イメージデータ化すること。

また、本工事施工にあたり、製作した製作図面、詳細仕様書等、機器の修理、維持管理に必要な一切の図書は、当該機器を撤去するまでの間、適切に保管すること。

（16）契約不適合

本工事において、種類又は品質に関して契約に適合しないものの補修又は損害賠償の請求ができる期間は、引渡し完了実稼働から２年以内とし、期間満了前に性能・機能の維持が確認できる検査を実施すること。ただし、その内容が受注者の故意または重大な過失により生じた場合には、その期間は10年とする。

（17）建設副産物の分別解体・再資源化等

本工事は、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（通称「建設リサイクル法」）に基づき、特定建設資材の分別解体等及び再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。

第2章　耐震補強工事に伴う電気設備改修工事

第１節　概　　要

本工事は、芝川ポンプ場の耐震補強に際し、電気設備の干渉を避けるための改修を行う。

第２節 対象機器

移設、機能増設および取外し再取付を行う機器は以下のとおりである。

１．発電機室

１）燃料小出槽(950L)	1基
２）ラジエータ排風消音器	1式

２．モータ室

１）汚水送水流量計変換器	1台

３．操作室

１）監視用補助継電器盤	1面

４．沈砂池機械室

１）床排水ポンプ操作盤	1面
２）緊急遮断弁操作盤	1面
３）ポンプ井超音波式水位計	1台
４）ポンプ井投込式水位計	1台
５）プルボックス	5箇所

５．ポンプ室

１）床排水ポンプ操作盤	1面

第３節 工事範囲

本工事の工事範囲は下記のとおりとし、工事の進捗に支障がないようにすること。

１．第２節記載機器の移設、機能増設および取外し再取付工事
２．第２節記載機器に関する配線・配管工事
３．その他、上記に伴う諸工事

第3章　仮設工事

第１節　概　　要

本工事は、仮設自家発電機装置を屋外に設置し機能維持を行う。

第２節 設備機器

１．自家発電設備［仮設］　１式

２．小出槽用タンクボックス［仮設］　１式

第３節 工事範囲

本工事の工事範囲は下記のとおりとし、工事の進捗に支障がないようにすること。

１．第２節記載機器の製作（調達）および据付工事

２．第２節記載機器に関する配線・配管工事

３．その他、上記に伴う諸工事

第４節 特記仕様

１．自家発電設備［仮設］

１）数　　量　　１基

２）形　　式　　共通台床搭載形ディーゼル発電装置
自動起動装置を有すること。

３）寸　　法　　寸法及び形状は、承諾図により決定する。

４）ディーゼル機関

(1) 出　　力　　160kW以上

(2) 回 転 数　　1500rpm

(3) 始動方式　　セルモータ始動

(4) 始動時間　　40秒以下

(5) 使用燃料　　軽油

５）発電機

(1) 形　　式　　３相同期発電機

(2) 回 転 子　　回転磁界形

(3) 界磁の形状　　突極形又は円筒形

(4) 冷　　却　　自冷式

(5) 定格出力　　200kVA

(6) 定格電圧　　210V

(7) 周 波 数　　50Hz

(8) 相数及び線数　　3相3線式

(9) 力　　率　　0.8（遅れ）

(10) 定　　格　　連　　続

(11) 回 転 数　　1500rpm

(12) 極　　数　　４　極

(13) 絶　　縁　　Ｆ　種

３．小出槽用タンクボックス［仮設］

１）数　　量　　１式

２）形　　式　　950L燃料小出槽

３）寸　　法　　寸法及び形状は、承諾図により決定する。

４）燃料小出槽

(1) 容　　量　　950L（軽油用）

(2) 付 属 品　　ウイングポンプ・配管・弁類

５）タンクボックス

(1) 形　　式　　屋外自立形自然換気式

(2) 付 属 品　　オイルパン・換気口・換気配管類・フィルタ等

芝川ポンプ場耐震補強工事

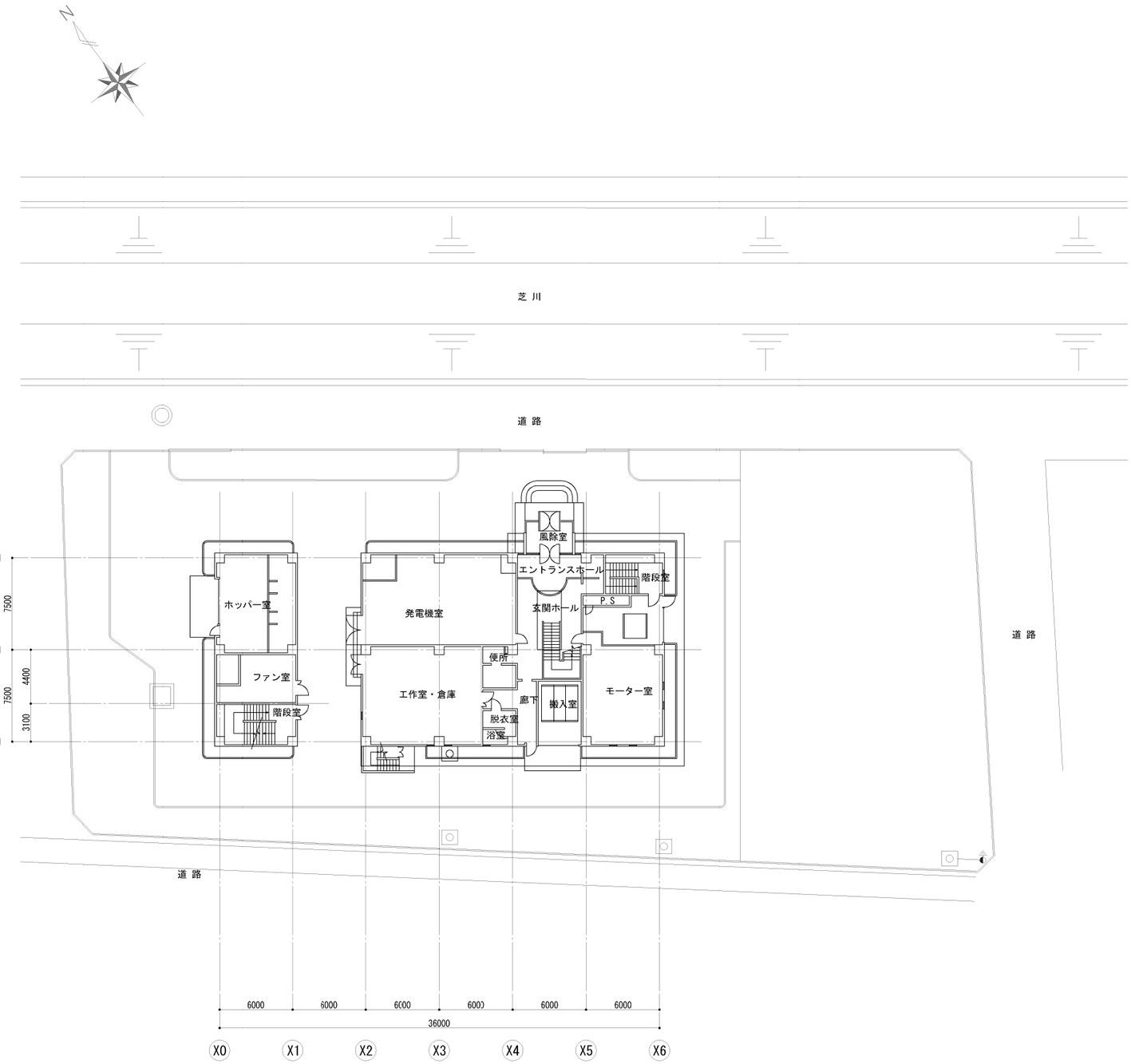
実 施 設 計 図

令和８年

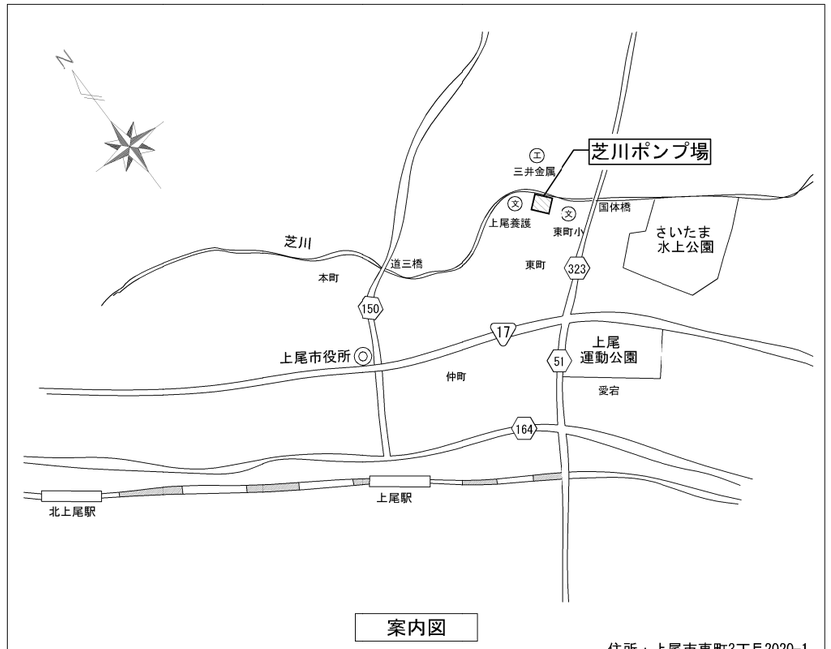
上 尾 市 上 下 水 道 部 下 水 道 施 設 課

図　面　目　録

図　番	図　面　名　称	縮　尺	図　番	図　面　名　称	縮　尺	図　番	図　面　名　称	縮　尺	図　番	図　面　名　称	縮　尺
A-01	一般平面図・案内図	1/200	S-11	耐震改修詳細図(2)	1/30	AE-15	電灯コンセント設備1階平面図（撤去）	1/50	C-10	芝川ポンプ場補強配筋図 梁(5)	1/50
A-02	建築改修工事特記仕様書(1)	―	S-12	耐震改修詳細図(3)	1/30	AE-16	電灯コンセント設備2階平面図（撤去）	1/50	C-11	芝川ポンプ場補強配筋図 梁(6)	1/50
A-03	建築改修工事特記仕様書(2)	―	S-13	耐震改修詳細図(4)	1/30	AE-17	弱電設備系統図（改修）	―	C-12	芝川ポンプ場補強配筋図 梁(7)	1/50
A-04	建築改修工事特記仕様書(3)	―	S-14	耐震改修詳細図(5)	1/30	AE-18	弱電設備地下1階平面図（改修）	1/100	C-13	芝川ポンプ場補強配筋図 梁(8)	1/50
A-05	建築改修工事特記仕様書(4)	―	S-15	耐震改修詳細図(6)	1/30	AE-19	弱電設備1階平面図（改修）	図示	C-14	芝川ポンプ場補強配筋図 梁(9)	1/50
A-06	建築改修工事特記仕様書(5)	―	S-16	耐震改修詳細図(7)	1/30	AE-20	弱電設備2階平面図（改修）	図示	C-15	芝川ポンプ場補強配筋図 柱(1)	1/50
A-07	建築改修工事特記仕様書(6)	―	S-17	耐震改修詳細図(8)	1/30	AE-21	弱電設備系統図（撤去）	―	C-16	芝川ポンプ場補強配筋図 柱(2)	1/50
A-08	仕上表［改修前・後］	―	S-18	耐震改修詳細図(9)	1/30	AE-22	弱電設備地下1階平面図（撤去）	1/100	C-17	芝川ポンプ場補強配筋図 壁(1)	1/50
A-09	1階 平面図［改修前］	図示	S-19	耐震改修詳細図(10)	1/30	AE-23	弱電設備1階平面図（撤去）	1/100	C-18	芝川ポンプ場補強配筋図 壁(2)	1/50
A-10	1階 平面図［改修後］	図示	AM-01	建築機械設備改修工事特記仕様書(1)	―	AE-24	弱電設備2階平面図（撤去）	図示	C-19	芝川ポンプ場補強配筋図 壁(3)	1/50
A-11	2階 平面図［改修前］	1/100	AM-02	建築機械設備改修工事特記仕様書(2)	―	AE-25	幹線切替手順図（参考）	―	C-20	芝川ポンプ場補強配筋図 壁(4)	1/50
A-12	2階 平面図［改修後］	1/100	AM-03	建築機械設備改修工事特記仕様書(3)	―	PE-01	1階・2階平面図(改修前)	1/100	C-21	仮設開口配置図	1/100
A-13	立面図(1)［改修前・後］	1/100	AM-04	1階トイレ・浴室展開図［改修前・後］	1/25	PE-02	1階・2階平面図(改修後)	1/100	C-22	仮設開口設置詳細図	1/30
A-14	立面図(2)［改修前・後］	1/100	AM-05	2階トイレ展開図［改修前・後］	1/25	PE-03	1階発電機室平面図(改修前)	1/50	C-23	仮設開口閉塞詳細図	1/30
A-15	建具表・キープラン［改修前・後］	図示	AM-06	1階自家発室［改修前・後］（通気管）	1/50	PE-04	1階発電機室平面図(改修後)	1/50	C-24	仮設支保工設置図	1/30
A-16	1階 展開図(1)［改修前・後］	1/50	AM-07	1階自家発室［改修前・後］（換気）	1/50	PE-05	2階電気室・操作室平面図(改修前)	1/50	C-25	仮壁詳細図(1)	1/50
A-17	1階 展開図(2)［改修前・後］	1/50	AE-01	電気設備工事特記仕様書(1)	―	PE-06	2階電気室・操作室平面図(改修後)	1/50	C-26	仮壁詳細図(2)	1/20
A-18	2階 展開図［改修前・後］	1/50	AE-02	電気設備工事特記仕様書(2)	―	PE-07	地下1階・地下2階平面図(取外し再取付)	1/100			
A-19	1階 仮設計画平面図【参考】	1/100	AE-03	幹線系統図（改修）	―	PE-08	1階・2階平面図(仮設図)	1/100			
A-20	2階 仮設計画平面図【参考】	1/100	AE-04	主開閉器盤単線結線図（改修）	―	PE-09	地下1階平面図(仮設図)	1/100			
S-01	構造関係共通事項(1)	―	AE-05	幹線設備地下1階平面図（改修）	1/100	PE-10	配線表	―			
S-02	構造関係共通事項(2)	―	AE-06	幹線設備1階平面図（改修）	1/100	C-01	一般平面図・案内図	1/200			
S-03	構造関係共通事項(3)	―	AE-07	幹線設備2階平面図（改修）	図示	C-02	現況平面図(1)	1/100			
S-04	構造関係共通事項(4)	―	AE-08	幹線系統図（撤去）	―	C-03	現況平面図(2)	1/100			
S-05	耐震改修工事特記仕様書	―	AE-09	主開閉器盤結線図（撤去）	図示	C-04	現況断面図(1)	1/100			
S-06	1階 伏図［改修前・後］	1/100	AE-10	幹線設備地下1階平面図（撤去）	1/100	C-05	現況断面図(2)	1/100			
S-07	2階 伏図［改修前・後］	1/100	AE-11	幹線設備1階平面図（撤去）	1/100	C-06	芝川ポンプ場補強配筋図 梁(1)	1/50			
S-08	軸組図(1)［改修前・後］	1/200	AE-12	幹線設備2階平面図（撤去）	図示	C-07	芝川ポンプ場補強配筋図 梁(2)	1/50			
S-09	軸組図(2)［改修前・後］	1/200	AE-13	電灯コンセント設備1階平面図（改修）	1/50	C-08	芝川ポンプ場補強配筋図 梁(3)	1/50			
S-10	耐震改修詳細図(1)	1/30	AE-14	電灯コンセント設備2階平面図（改修）	1/50	C-09	芝川ポンプ場補強配筋図 梁(4)	1/50			



一般平面図



案内図

住所：上尾市東町3丁目2020-1

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	一般平面図・案内図		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/200	図面番号	A-01
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

工事名称：　芝川ポンプ場耐震補強工事

Ⅰ. 工事概要

1. 工事場所　埼玉県上尾市東町3丁目2020-1
2. 敷地面積　－㎡
3. 主要用途　下水処理施設
4. 建物概要

建物名称	構造	階数	建築面積(㎡)	延べ面積(㎡)	備考
ポンプ棟	RC	地下2階地上2階	562.53	1802.02	

5. 工作物、外構等

Ⅱ. 建築工事仕様

1. 共通仕様

図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の下記仕様書による。
「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和7年版」（以下、「標仕」という）

2. 特記仕様

1) 項目は、●のついたものを適用する。
2) 特記事項は、●のついたものを適用する。（ ⊠ 及び○は適用しない。）
3) 特記事項に記載の（　　）内表示番号は標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。
4) [G] 印は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(平成12 年法律第100 号)」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和3年2月19日変更閣議決定）」に定める判断の基準を満たすものを示す。
5) 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項についてま、「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準及び同解説（令和3年版）一般社団法人　公共建築協会」による。

章	項目	特記事項

1 一般共通事項

● 1. 適用基準等

● 建築工事標準詳細図　（令和4年）　<X-XX-XX>左記詳細図番号を示す
● 営繕工事写真撮影要領　（令和5年）
● 建築工事安全施工技術指針　（平成27年）
● 建設工事公衆災害防止対策要綱　（令和元年）
● 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）　（令和7年度版）
○ 建築物解体工事共通仕様書　（令和4年）
○ 公共建築木造工事標準仕様書　（令和4年）
● デジタル工事写真の小黒板情報電子化について（国営整第211号　平成29年3月1日）
○ （　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

● 2. 工事実績情報の登録

本工事の最終請負代金(消費税込)が、500万以上となる場合には、工事実績情報システム（CORINS）に、基づき工事実績データを作成する。また、作成した内容について監督職員の確認を受けた後、以下に示す期間内に（一財）日本建設情報総合センターに所定の手続きにより登録するとともに、登録内容確認書の写しを提出する。　(1.1.4)
1)　工事受注時　　　契約締結後10日以内
2)　登録内容の変更時　　契約事項の確定日から10日以内
3)　工事完成時　　　二事完成後10日以内

● 3. 電気保安技術者

○ 自家用電気工作物、　● 一般電気工作物　(1.3.3)

○ 4. 工事電力設備の保安責任者

工事用電力設備の保安責任者は使用区域を変更しようとする場合は保安監督者に「自家用電気工作物使用区域変更届書」を提出すること。　(1.3.4)

○ 5. 保険

本工事の完成引渡まで工事目的物及び工事材料を火災保険、建設工事保険その他の保険に附すること。
1)　被保険者　　発注者、受注者及びその全下請負人
2)　保険金額　　請負代金全額
3)　保険期間　　工事着手のときから工事引渡しまでの期間
なお、保険契約を締結したときは、その証券又はこれに代わるものを直ちに監督職員に提示すること。

○ 6. 設計GL

○ 図示、　○ 設計GL = －

● 7. 施工条件

● 埼玉県建築工事実務要覧　（令和5年）による。　(1.3.5)

● 8. 環境への配慮　(1.4.1)

(1) 建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の 1) から 4) を満たすものとする。
1)　合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗装、仕上塗材は、アセドアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。
2)　接着剤及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。
3)　接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。
4)　1)の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。
(2) 設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の 1) 又は 2)に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の3) 又は4) に該当する材料を指す。
1)　建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料
2)　建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
3)　建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料
4)　建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
(3) 「埼玉県環境基本条例」（H6年）その他関係法令等に基づき工事の施工の各段階において、騒音、振動、粉じん、臭気、大気汚染、水質汚濁等の影響が生じないよう、工事現場及び周辺環境の保全に努める。

● 9. 材料の品質等　(1.4.2)

(1) 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。
(2) 備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。
(3) 標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。
(4) 本工事に使用する材料のうち、(5) に指定する材料の製造業者等は、次の①から⑥の事項を満たすものとし、その証明となる資料（外部機関が発行する証明書の写し等）を監督職員に提出して承諾を受ける。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りでない。
①品質及び性能に関する試験データが整備されていること
②生産施設及び品質の管理が適切に行われていること
③安定的な供給が可能であること
④法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること
⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること
⑥販売、保守等の営業体制が整えられていること
(5) 製造業者等に関する資料の提出を求める材料
無収縮グラウト材、乾式保護材、既調合モルタル、既調合目地材、防水剤、錠前類、クローザ類、自動扉機構、自閉式上吊り引戸機構、現場発泡断熱材、フリーアクセスフロア、移動間仕切、トイレブース、煙突用成形ライニング材、天井点検口、床点検口、鋳鉄製ふた、グレーチング、屋上緑化システム、ポリマーセメントモルタル、床型枠用鋼製デッキプレート、鉄骨柱下無収縮モルタル、ルーフドレン、吸水調整材、重量シャッター、軽量シャッター、オーバーヘッドドア、可動間仕切、トップライト

● 10. 技能士

現場常駐報告書を提出すること。　(1.5.2)

適用工事種別	技能検定作業
○ 仮設工事	○ とび作業
● 鉄筋工事	● 鉄筋組立作業
● コンクリート工事	● 型枠施工　　○ コンクリート圧送工事作業
○ 鉄骨工事	○ 構造物鉄工事作業　　○ とび作業
○ コンクリートブロック、ALCパネル、押出成形セメント板工事	○ コンクリートブロック工事作業 ○ ALCパネル工事作業
○ 防水工事	○ アスファルト防水工事作業 ○ ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ○ アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ○ 塩化ビンル系シート防水工事作業 ○ セメント系防水工事作業 ○ 改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業 ○ FRP防水工事作業　　○ シーリング防水工事作業
○ 石工事	○ 石張り作業
○ タイル工事	○ タイル張り作業
○ 木工事	○ 大工工事作業
○ 屋根及びとい工事	○ 内外装板金作業
○ 金属工事	○ 鋼製下地工事作業　　○ 内外装板金作業
○ 左官工事	○ 左官作業
● 建具工事	○ ビル用サッシ施工作業　　● ガラス工事作業 ○ 自動ドア施工作業
○ カーテンウォール工事	○ 金属製カーテンウォール工事作業 ○ ビル用サッシ施工作業　　○ ガラス工事作業
○ 塗装工事	○ 建築塗装作業
○ 内装工事	○ カーペット系床仕上作業 ○ プラスチック系床仕上げ工事作業 ○ ボード仕上げ工事作業　　○ 壁装作業
○ 排水工事	○ 建築配管作業
○ 舗装工事	○ 溶融ペイントハンドマーカー工事作業 ○ 加熱ペイントハンドマーカー工事作業
○ 植栽工事	○ 造園工事作業

○ 11. 化学物質の濃度測定

・施工完了時に室内空気中の揮発性有機化合物の濃度を測定し、報告すること。　(1.5.9)
○ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン
○パラジクロロベンゼン(用途が学校の場合、上記項目に追加する。)
測定はパッシブ型採集機器により行う。
着工前の測定　○ 行わない、　○ 行う
測定対象室　　○ 図示、○ （ 全ての室　　　　　　　　）
測定箇所数　　○ 図示、○ （ 下表による　　　　　　　）

室の床面積 A(㎡)	A≦50	50<A≦200	200<A≦500	500<A
測定箇所数	1	2	3	4

測定数値が厚生労働省指針値を超えた場合は、換気後再測定し報告書を提出すること。

● 12. 材料試験

コンクリート圧縮試験及び鉄筋の引張等試験については、一般財団法人建材試験センター等の登録分野Ⅰ-A、Ⅰ-Bにおいて実施すること。
なお、選定した試験機関等は監督員の確認を受けること。

● 13. 設備工事との取合い

設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。

○ 14. 安全対策

・受注者相互の緊密な連絡調整を図り、協力して工事を安全円滑に実施することを目的とする「工事関係者連絡会議」を設置すること。
・発注者で組織する安全対策委員会が行う安全審査、施工条件検討、安全点検等に協力すること。

● 15. 過積載による違法運行の防止

工事の施工にあたっては、次の事項を遵守すること。
1) 積載重量制限を超過して土砂を積み込まず、また積み込ませないこと。
2) さし枠装着車、不表示車等に土砂を積み込まず、また積み込ませないこと。
3) 過積載車両、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受けるなど、過積載を助長することのないようにすること。
4) 取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行い、又はさし枠装着車、不表示車等を土砂運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。
5) 建設発生土の処理及び骨材等の購入にあたって、下請事業者及び骨材等納入者の利益を不当に害することのないようにすること。
6) 以上のことにつき、下請業者にも十分指導すること。

● 16. 環境対策

・受注者は、環境保全対策関係法令に従い工事現場地域の保全と、円滑な工事施工を図ること。
・建設機械は、排ガス対策車及び、低騒音型を使用すること。
・特定粉じん排出等作業（法定外建築物・作業を含む）は、「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル」に基づき施行する。
・本工事で使用する軽油については、ＪＩＳ規格軽油を使用すること。
・受注者は、発注者が行う建設機械及び本工事に係る車両等を対象とする燃料の抜取調査に対しては、監督員の指示により協力しなければならない。
・国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成１２年法律第１００号）に基づく環境物品等の調達の推進に関する基本方針における公共工事の配慮事項（「資材の梱包及び容器は可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄物の負荷低減に配慮されていること。」）に留意すること。

● 17. 工事現場管理

受注者は、工事の施工にあたっては、不法・違法無線局（不法パーソナル無線）を設置したトラック、ダンプカー等を工事現場に立ち入らせないこと。

○ 18. 施工図等の取扱

施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。

○ 19. 中間検査

・回数　：（　　）回
・実施時期：（　　　　　　　　　完了時）

○ 20. 中間検査の指定対象工事

本工事は、低入札価格調査制度調査対象工事(以下「調査対象工事」という)に該当した場合は、必要に応じて中間検査を実施する。
1) 調査対象工事の中間検査の実施は、監督職員が指定・通知する。
2) 中間検査は、通知日までに完了した出来形部分の出来形確認及び技術的確認等を行うが、給付の対象としない。

● 21. 設計図CADデータ

・設計図CADデータ　：● 貸与する、○ 貸与しない
貸与する設計図CADデータを当該工事の施工図または完成図の作成以外の目的に使用してはならない。

● 22. 完成時の提出図書等

工事完成時の提出図書等は以下のものとする。　(1.8.1～3)

提出図書等	仕様		部数
● 完成図面	○ 図面（A1版）折りたたみ製本 ● A3版第二原図及び電子媒体(CD-R)	サイズ　○ A4 版 ● A2 版	○ 1 部 ● 2 部
● 工事関係図書	本工事中に作成した工事関係書類等をまとめたもの		● 1 部 ○ 部
● 完成写真	● カラーキャビネ判　100×125以上 ○	撮影箇所　○ 2 箇所 外観正面　● 1 箇所	● 5 部 ○ 部
● 保全に関する資料	－		● 2 部 ○ 部
● 電子成果品	電子納品による		● 3 部 ○ 部

● その他：施工計画書　1部
　　　　　施工図　　　1部

2 仮設工事

○ 1. 監督職員事務所　(2.3.1)

・監督職員用のスペース　：
規模(㎡)　：○ 10程度、○20程度、○ 35程度、○65程度、○ 100程度、　○（　　）程度
・備品等の種類及び数量
○ 書棚、○ 図面架、○ 見本棚、○ 机及びいす、○ 更衣ロッカー（　　　　）、
○ ゴム長靴（　）、○ 雨合羽（　）、○ヘルメット（　）、○ 墜落制止用器具（　）

● 2. 工事用水

構内既存の施設　● 利用できない、○ 利用できる（○ 有償、　○ 無償）

● 3. 工事用電力

構内既存の施設　● 利用できない、○ 利用できる（○ 有償、　○ 無償）

○ 4. 仮囲い等

仮囲い　○ 成型鋼板（H=　2.0　m、L=　図示による　）
　　　　○（　　　　　　　　　　　　　　　　　）
出入口　○ シートゲート　　（W=　図示による　、H=　図示による　）
　　　　○ キャスターゲート（W=　　　m、H=　　　m）
　　　　○（　　　　　　　　　　　　　　　　　）

● 5. 仮設通路

○ 鋼板敷き（長さ6.0m、幅1.5m、厚さ22mm、　○ 図示による　○　　枚程度）
●（ 図示による ）

○ 6. 交通誘導員

配置人数　：別途特記仕様書による
配置期間　：別途特記仕様書による
配置場所　：別途特記仕様書による

● 7. 仮設足場　(2.2.4)

枠組足場の設置に当たっては、「手すり先行工法に関するガイドライン」（厚生労働省　平成21年 4月）により、手すり先行工法の種類は、別紙1「手すり先行工法による足場の組み立て等に関する基準」の2(2)手すり据置き方式、又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。手すり先送り方式は不可とする。
また、別紙2「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とすること。
なお、別契約の関係業者がある場合は、当該業者に無償で使用させること。

3 土工事

○ 1. 埋め戻し及び盛り土　(3.2.3)(表3.2.1)

○ 別途
種別　　○ A 種、　○ B 種、　○ C 種、　○ D 種
　　　　○ 建設汚泥から再生した処理土 [G]

○ 2. 建設発生土の処理　(3.2.5)

○ 別途
○ 構外搬出適切処理
○ 構内指示の場所に敷き均し、○ 構内指示の場所に堆積、○（　　　　　　）

○ 3. 山留めの撤去　(3.3.3)

○ 別途
鋼矢板等の抜き後の処理（ ⊠ 直ちに砂で充填する、○　　　　　　）
山留めの存置（ ⊠ 図示、○　　　　　　）

4 ～ 7

「4　地業工事」、「5　鉄筋工事」、「6　コンクリート工事」、「7　鉄骨工事」は、構造関係特記仕様書による。

8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

○ 1. 補強コンクリートブロック造　(8.2.2～5)

・ブロックの種類　：

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	モデュール呼び寸法(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
○				○ 無、○有		
○				○ 無、○有		

・モルタルの調合（容積比）　：○（セメント（　　　）：砂（　　　））
・各部の配筋　：⊠　図示、○（　　　　　　　）
・モルタル又はコンクリートで充填するブロックの範囲　：⊠ 図示、○（　　　　）

○ 2. コンクリートブロック帳壁及び塀　(8.3.2～4)

・ブロックの種類　：

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	モデュール呼び寸法(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	表8.3.1以外の適用箇所	備考
○ 空洞ブロックC(16)				○ 無、○有		
○ 型枠状ブロック 20				○ 無、○有		
○				○ 無、○有		

・塀の厚さ(mm)　：
壁の高さが2m以下　⊠120、○（　　　　　　）
壁の高さが2m超え　⊠150、○（　　　　　　）
・壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状　：⊠ 図示、○（　　　　）
・各部の配筋　：⊠　図示、○（　　　　）

○ 3. ALCパネル　(8.4.2～5)

・パネルの種類　：

パネルの区分	単位荷重(N/㎡)	厚さ(mm)	長さ(mm)	耐火性能	表面加工	構法の種別
○ 外壁パネル		○ 100 ○		有 (1)時間	○ 平 ○ 意匠	○ A種、○ B種
○ 間仕切壁パネル		○ 100 ○		○ 有 (1)時間 ○ 無	○ 平 ○ 意匠	○ C種、○ D種 ○ E種
○ 屋根パネル		○ 100 ○		有 (0.5)時間	平	F種
○ 床パネル		○ 100 ○		○ 有（　）時間 ○ 無		

・パネルの相互の接合部に充填する耐火目地材　：○（　　　　　　　　）
・外壁、屋根パネルの工法　：
建築基準法に基づき定まる風圧力の（○ 1、○ 1.15、○ 1.3）倍の風圧力に対応した工法
・パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合：⊠ 図示、○（　　　　　）
・パネル短辺小口相互の接合部、外壁、間仕切壁パネルの出隅及び入隅のパネル接合部、並びにパネルと他部材との取り合い部の目地幅(mm)　：⊠ 10～20、○（　　　）
・外壁、間仕切壁パネルの伸縮目地への耐火目地材の充填　：○ 適用する、○ 適用しない
・外壁パネル、間仕切りパネルの耐震性　：
地震力に対する安全性

設計用震度	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能
設計用水平震度 (K_H) ⊠ 1.0 ○ 設計用鉛直震度 (K_V) ⊠ 0.5 ○	設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。 ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。 なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む）が定める値とする。

構造体の層間変形に対する追従性

層間変形角	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能
○ 1/100 ○ 1/200	左記の層間変形角に対して、脱落しないこと

○ 4. 押出成形セメント板（ECP）　(8.5.2～5)

・パネルの種類　：JIS A 5441による

施工箇所	表面形状	厚さ(mm)	幅(mm)	工法の種別	備考
○ 外壁	○ F（ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ）	○ 50、○ 60、○		○ A種 ○ B種	
	○ D（ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ）	○ 50、○ 60	600		
	○ T（ﾀｲﾙﾍﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ）	60			
○ 間仕切壁	○ F（ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ）	○ 50、○ 60、○		○ B種 ○ C種	
	○ D（ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ）	○ 50、○ 60	600		
	○ T（ﾀｲﾙﾍﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ）	60			

・パネルの種類　：薄物（厚40mm未満）　無石綿タイプ

施工箇所	表面形状	厚さ(mm)	幅(mm)	工法の種別	備考
○ 屋上防水立上り保護用	○ F（ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ）	○ メーカー仕様			
	○				
	○				
○ 地下二重壁	○ F（ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ）	○ メーカー仕様		○ ﾀﾃ張り	

・外壁パネルの工法　：
建築基準法に基づき定まる風圧力の（○ 1、○ 1.15、○ 1.3）倍の風圧力に対応した工法
・パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合：⊠ 図示、○（　　　　　）
・パネル相互の目地幅（mm）　：○ 長辺　、○短辺
・出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅(mm)：⊠ 15mm程度、○（　　　　）
・耐火構造以外の目地及び隙間の処理　：⊠ パネル製造所の仕様、○（　　　　）
やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とし、欠損部分を考慮した強度を確認した資料を提出する。

		孔あけ及び欠き込みの大きさ	切断後のﾊﾟﾈﾙの残り部分の幅
パネルに開口を設ける場合	短辺	○ パネル幅の1/2以下かつ300mm以下	○ 150mm以上
	長辺	○ 500mm以下	○ 300mm以上
パネルを切り欠く場合	短辺	○ パネル幅の1/2以下かつ300mm以下	○ 300mm以上
	長辺	○ 500mm以下	○ 300mm以上

・外壁パネル、間仕切りパネルの耐震性　：
地震力に対する安全性

設計用震度	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能
設計用水平震度 (K_H) ⊠ 1.0 ○ 設計用鉛直震度 (K_V) ⊠ 0.5 ○	設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。 ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。 なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む）が定める値とする。

構造体の層間変形に対する追従性

層間変形角	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能
○ 1/100 ○ 1/200	左記の層間変形角に対して、脱落しないこと

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	建築改修工事特記仕様書(1)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	－	図面番号	A-02
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

章	項目	特記事項
9 防水工事	○ 1. アスファルト防水	

(9.2.2～5)(表 9.2.3～9)

屋根保護防水
・防水層の工法による種別 :
屋根保護防水密着工法

種 別	施工箇所	絶縁用シート	立上り部の保護
○ A-1		⊠ ポリスチレンフィルム 厚さ0.15mm以上 ○	○ 乾式保護材 ○ コンクリート押え ○ れんが
○ A-2			
○ A-3			

屋根保護防水絶縁工法

種 別	施工箇所	絶縁用シート	立上り部の保護
○ B-1		⊠ ポリスチレンフィルム 厚さ0.15mm以上 ○	○ 乾式保護材 ○ コンクリート押え ○ れんが
○ B-2			
○ B-3			

屋根保護防水密着断熱工法

種 別	施工箇所	絶縁用シート	立上り部の保護
○ AI-1		⊠ フラットヤーンクロス 70g/㎡程度 ○	○ 乾式保護材 ○ コンクリート押え ○ れんが
○ AI-2			
○ AI-3			

屋根保護防水絶縁断熱工法

種 別	施工箇所	絶縁用シート	立上り部の保護
○ BI-1		⊠ フラットヤーンクロス 70g/㎡程度 ○	○ 乾式保護材 ○ コンクリート押え ○ れんが
○ BI-2			
○ BI-3			

・AI及びBIに用いる断熱材[1] :
種類 JIS A 9521に基づく押出法ポリエチレンフォーム断熱材3種bA（スキン層付き）
厚さ ○ 25mm、○ 50mm
・改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ :
⊠ 標準仕様書表9.2.3から表9.2.6による
○ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ○（ ）
材料構成による区分 ⊠R種
厚さ ○（ ）mm以上
・部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ :
⊠ 標準仕様書表9.2.5から表9.2.6による
○ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ○（ ）
材料構成による区分 ⊠R種
厚さ ○（ ）mm以上
・平場の保護コンクリートの厚さ :
こて仕上げ ⊠ 水下 80mm以上、○（ ）
床タイル張り ⊠ 水下 60mm以上、○（ ）
・立上り部の保護方法 :
○ 乾式保護材
窯業系パネル 無石綿の亜鉛質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレーブ養生したもの。
金属複合板 金属板と樹脂を積層一体化したもの。
（品質・性能及び試験方法） 建築材料等品質性能表による
○ （ ）

屋根露出防水
・防水層の種別 :
屋上露出防水絶縁工法

種 別	施工箇所	仕上塗料
○ D-1		種類 : ○ アスファルトルーフィング類の製造所の仕様 ○
○ D-2		
○ D-3		使用量 : ⊠ アスファルトルーフィング類の製造所の仕様 ○
○ D-4		

屋上露出防水絶縁断熱工法

種 別	施工箇所	仕上塗料
○ DI-1		種類 : ○ アスファルトルーフィング類の製造所の仕様 ○
		使用量 : ⊠ アスファルトルーフィング類の製造所の仕様 ○
○ DI-2		

・DI-1、DI-2における断熱材[1] :
材質 ⊠ 標準仕様書9.2.2(9)による
種類 ○（ ）
厚さ ○ 25mm、○ 50mm、○（ ）
・高日射反射率防水の適用[1] ⊠ 適用する、 ○ 適用しない
・改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ :
⊠ 標準仕様書表9.2.7から表9.2.8による
○ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ○（ ）
材料構成による区分 ⊠R種
厚さ ○（ ）mm以上
・部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ :
⊠ 標準仕様書表9.2.7から表9.2.8による
○ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ○（ ）
材料構成による区分 ⊠R種
厚さ ○（ ）mm以上
・絶縁断熱工法のルーフドレイン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 :
⊠ 図示、○（ ）
・絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量 :
種類 ⊠ アスファルトルーフィング類の製造所の指定、○（ ）
設置数量 ⊠ アスファルトルーフィング類の製造所の指定、○（ 個）

屋内防水
・防水層の種別 :

種別	施工箇所
○ E-1	
○ E-2	

・保護層 : ○ 設ける（ ⊠ 図示、○ ）、 ○ 設けない
・防水層の下地の立上り :
⊠ コンクリート打放し仕上げ 標準仕様書表6.2.4[打放し仕上げ種別]のB種
○（ ）
・立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法 :
⊠ アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度、○（ メーカー仕様による ）
・防水層の下地のモルタル塗り :
○ 適用する（施工範囲：⊠ 図示、○ ）、○ 適用しない
・屋根排水溝 : ⊠ 図示、○（ ）

章	項目	特記事項
9 防水工事	○ 2. 改質アスファルトシート防水	

(9.3.2、3)(表 9.3.1～3)

・防水層の種別 :
屋根露出防水密着工法

種 別	施工箇所	仕上塗料
○ AS-T1		種類 : ○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様 ○
		使用量 : ⊠ 改質アスファルトシートの製造所の仕様 ○
○ AS-T2		

屋根露出防水絶縁工法

種 別	施工箇所	仕上塗料
○ AS-T3		種類 : ○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様 ○
		使用量 : ⊠ 改質アスファルトシートの製造所の仕様 ○
○ AS-T4		
○ AS-J1		

屋根露出防水絶縁断熱工法

種 別	施工箇所	仕上塗料
○ ASI-T1		種類 : ○ 改質アスファルトシートの製造所の仕様 ○
		使用量 : ⊠ 改質アスファルトシートの製造所の仕様 ○
○ ASI-J1		

・ASIにおける防湿用シート :
⊠ 改質アスファルトシートの製造所の仕様、○（ ）
・ASIにおける断熱材[1] :
材質 ⊠ 標準仕様書9.3.2(3)(ｲ)による
種類 ○（ ）
厚さ ○ 25mm、○ 50mm、○（ ）
・高日射反射率防水の適用[1] ⊠ 適用する、 ○ 適用しない
・改質アスファルトシートの種類及び厚さ :
⊠ 標準仕様書表9.3.2から表9.3.3による
○ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ○（ ）
材料構成による区分 ⊠R種
厚さ ○（ ）mm以上
・粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ :
⊠ 標準仕様書表9.3.2から表9.3.3による
○ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ○（ ）
材料構成による区分 ⊠R種
厚さ ○（ ）mm以上
・部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ :
⊠ 標準仕様書表9.3.2から表9.3.3による
○ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ○（ ）
材料構成による区分 ⊠R種
・防水層の下地のモルタル塗り :
○ 適用する（施工範囲：⊠ 図示、○ ）、○ 適用しない
・絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量 :
種類 ⊠ 改質アスファルトシートの製造所の指定、○（ ）
設置数量 ⊠ 改質アスファルトシートの製造所の指定、○（ 個）

○ 3. 合成高分子系ルーフィングシート防水

(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)

屋外防水
・防水層の種別 :
合成高分子系ルーフィングシート防水

種別	施工箇所	絶縁用シートの材質	仕上塗料
○ S-F1	○ プレキャストコンクリート下地 ○	⊠ 発泡ポリエチレンシート ○	種類 : ○ ルーフィング類の製造所の仕様 ○
			使用量 : ⊠ ルーフィング類の製造所の仕様 ○
○ S-F2			
○ S-M1			種類 : ○ ルーフィング類の製造所の仕様 ○
			使用量 : ⊠ ルーフィング類の製造所の仕様 ○
○ S-M2			
○ S-M3			

合成高分子系ルーフィングシート防水（断熱工法）

種別	施工箇所	絶縁用シートの材質	仕上塗料
○ SI-F1	○ プレキャストコンクリート下地 ○	⊠ 発泡ポリエチレンシート ○	種類 : ○ ルーフィング類の製造所の仕様 ○
			使用量 : ⊠ ルーフィング類の製造所の仕様 ○
○ SI-F2			
○ SI-M1			種類 : ○ ルーフィング類の製造所の仕様 ○
			使用量 : ⊠ ルーフィング類の製造所の仕様 ○
○ SI-M2		⊠ 発泡ポリエチレンシート ○	

・高日射反射率防水の適用[1] : ⊠ 適用する、 ○ 適用しない
・SIにおける断熱材[1]
⊠ SI-F1、SI-F2の場合、標準仕様書9.4.2(3)(ｴ)(b)による
⊠ SI-M1、SI-M2の場合、標準仕様書9.4.2(3)(ｴ)(a)による
種類 ○（ ）
厚さ ○ 25mm、○ 50mm、○（ ）
・SI-F1、SI-F2、SI-M1及びSI-M2における防湿用フィルムの設置 :
○ 設置する、 ○ 設置しない
・S-M2又はSI-M2の場合立上り部の工法 :
○ 接着工法：立上り部のシート厚さ ⊠ 1.5mm、○（ ）
○ 機械式固定方法
・固定金具の材質及び寸法形状 :
⊠ 厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板及びそれらの片面差しくは両面に樹脂を積層加工したもの
○（ ）
・接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量 :
⊠ ルーフィングシートの製造所の仕様
○ 種類（ ）、設置装置（ 個）
・接着工法の場合のPCコンクリート部材下地の目地処理 :
○ 行う（ ○ 図示、○ ）、 ○ 行わない
・PCコンクリート下地のA隅部の増張り（種別 S-F1、SI-F1の場合） :
○ 行う（ ○ 図示、○ ）、 ○ 行わない
・機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け
建築基準法に基づき定まる風圧力の ○ 1、○ 1.15、○ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法

屋内防水
・防水層の種類 :

種別	施工箇所	保護層 平場のモルタル塗り厚	保護層 立上り部の保護モルタル塗り厚さ
○ S-C1		mm	⊠ 7mm以上、○

・平場のモルタル床塗りにおける目地の目地割及び種類 :
目地割 ⊠ 目地割2m程度、最大目地間隔3m程度、 ○ 図示
目地の種類 ⊠ 押し目地、○（ ）
・合成高分子系ルーフィングシートの種類及び厚さ :
⊠ 標準仕様書表9.4.2、及び表9.4.3による
JIS A 6008に基づく種類及び厚さ

章	項目	特記事項
9 防水工事	○ 4. 塗膜防水	

・防水層の種別 :

(9.5.3)(表 9.5.1、2)

種別	施工箇所	仕上塗料	保護層
○ X-1		種類 : ○ 主材料の製造所の仕様 ○	
		使用量 : ⊠ 主材料の製造所の仕様 ○	
○ X-2		種類 : ○ 主材料の製造所の仕様 ○	
		使用量 : ⊠ 主材料の製造所の仕様 ○	
○ Y-1	⊠ 地下外壁防水 ○		
○ Y-2	⊠ 屋内防水 ○		⊠ 適用する ○ 適用しない

・X-1、X-2 高日射反射率防水の適用[1] : ⊠適用する、○ 適用しない
・ウレタンゴム系塗膜防水X-1の脱気装置の種類及び設置数量 :
種類 ⊠ 主材料の製造所の指定、○（ ）
設置数量 ⊠ 主材料の製造所の指定、○（ 個）
・ゴムアスファルト系塗膜防水Y-1、Y-2の工程数及び各工程の使用量 :
⊠ 主材料の製造所の仕様
○（ ）

○ 5. ケイ酸質系塗布防水

・防水層の種別 :

(9.6.1、3、4)(表9.6.1、2)

種別	施工箇所	備考
⊠ C-UI		
○ C-UP		

・防水層の下地 :
壁 : ⊠ コンクリート打放し仕上げ（表6.2.4 B種）、○（ ）
天井部 : ⊠ コンクリート打放し仕上げ（表6.2.4 B種）、○（ ）
・下地処理 :
コンクリートの打継ぎ部所の処理 :
⊠ 打継ぎ部分に対し、幅30mm及び深さ30mmにV形にはつり、水洗い清掃した後、防水材の製造所の指定する材料を充填
○ 図示、○（ ）
型枠締付け材にコーンが使用されている部位及び防水材の塗布面以外の下地処理 :
○ 図示、○（

● 6. シーリング

・シーリングの種類

(9.7.2～5)(表 9.7.1)

下表以外は、標準仕様書表 9.7.1による。
ただし、外壁タイル接着剤張りの場合のシーリングは11章に、カーテンウォールの場合のシーリングは12章による。

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
建具廻り	MS-2

・シーリング材の目地寸法 :
● 標準仕様書9.7.3(1)(ｱ)～(ｳ)による、 ○ 図示、○（ ）
・接着試験 : ● 簡易接着性試験、○ 引張接着性試験

章	項目	特記事項
10 石工事	○ 1. 施工	

(10.1.3、5)

・石材の割付け : ⊠図示、○（ ）
・粗面仕上げの場合のみ込み部分の仕上げ : ⊠図示、○（ ）
・扉内の床を本扉きとする場合のワックスがけ :
○ 行う（適用場所 ○ すべて、○ ）、 ○ 行わない

○ 2. 石材等

(10.2.1、3)(表10.2.1、2)

・天然石 :

施工箇所	岩石の種類	等級	形状及び寸法(mm)	厚さ(mm)	表面仕上げの種類	備考
○ 床石		⊠ 2等品 ○	⊠ 正方形に近い矩形（石材1毎の面積が0.8㎡以下） ○			

・テラゾブロック :

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状による区分	仕上げ面による区分	寸法(mm)	表面仕上げの種類	備考
	⊠ 大理石 ○ 花こう岩	⊠ 1.5～12 ○	○ 平もの ○ 役もの	○ 片面 ○ 両面			

・テラゾタイル :

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上げの種類	備考
	⊠ 大理石 ○ 花こう岩	⊠ 1.5～12 ○	○ 300型 ○ 400型		

・取付け用モルタル、既調合の目地モルタル、石裏面処理材、裏打ち処理材、金物の固定に使用する充填材料等 :
⊠ 専門工事業者の指定する製品、○（ ）

○ 3. 外壁湿式工法

(10.2.2、3)(10.3.2、3)

・受金物 材質 : ⊠ SUS304、○（ ）
形状及び寸法 : ○ L-75×75×6(mm)の加工 L=100mm
○ L-75×75×6(mm)の加工 L=150mm
・アンカーの材質及び径 : ⊠ SS400 M12、○（ ）
・あと施工アンカーの材質、寸法等 : ○（ ）
・ドレインパイプの材質 : ○ 樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25～35φ ○（ ）
・石裏面処理 : ○ 適用する、○ 適用しない
・裏打ち処理 : ○ 適用する、○ 適用しない
・下地ごしらえ : ⊠ 流し筋工法
○ あと施工アンカー工法
○ あと施工アンカー 横筋横流し工法
・目地 :
一般目地 目地幅(mm) ⊠ 6mm以上、 ○（ ）
シーリング材 ○ 適用する、 ○ 適用しない
伸縮調整目地 位置 ⊠ 標準仕様書表11.1.1による、○ 図示
シーリング材の目地寸法 ⊠ 標準仕様書9.7.3(1)による、○ 図示

○ 4. 内壁空積工法

(10.2.2)(10.4.2、3)

・受金物 材質 ⊠ SUS304、 ○（ ）
形状及び寸法 ○ L-75×75×6(mm)の加工 L=100mm
○ L-75×75×6(mm)の加工 L=150mm
・アンカーの材質及び径 : ⊠ SS400 M12、○（ ）
・あと施工アンカーの材質、寸法等 : ○（ ）
・石裏面処理 : ○ 適用する、○ 適用しない
・裏打ち処理 : ○ 適用する、○ 適用しない
・下地ごしらえ : ⊠ あと施工アンカー 横筋横流し工法
○ あと施工アンカー工法
・目地 :
一般目地 目地幅(mm) ⊠ 6mm以上、 ○（ ）
シーリング材 ○ 適用する、 ○ 適用しない
伸縮調整目地 位置 ⊠ 6m程度ごと、 ○ 図示
シーリング材の目地寸法 ○ 幅、深さとも10mm以上、○ 図示

章	項目	特記事項
10 石工事	○ 5. 乾式工法	

(10.2.2)(10.5.2、3)(表10.2.4)

・乾式工法の方式による金物の種類、形状、寸法等 :
⊠ 標準仕様書 表10.2.4による（方式 ○スライド方式、 ○ ロッキング方式）
○ 図示
・アンカーの材質及び形状 : ⊠ ステンレス (SUS304) M10、 ○（ ）
・あと施工アンカーの材質及び寸法等 : （ ）
・だぼ用の穴の位置 ⊠ 標準仕様書10.5.2(7)による、○（ ）
・石裏面処理 : ○ 適用する、○ 適用しない
・裏打ち処理 : ○ 適用する、○ 適用しない
・外壁の工法 :
建築基準法に基づき定まる風圧力の ○ 1、○ 1.15、○ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法
・目地 : 目地幅(mm) ⊠ 8以上、○（ ）
シーリング材 ⊠ 標準仕様書9.7による、 ○ 図示

○ 6. 床及び階段の石張り

(10.6.2、3)

・床石張りの裏面処理 : ○ 適用する、○ 適用しない
・階段張りの裏面処理 : ○ 適用する、○ 適用しない
・一般目地 目地幅(mm) 屋外 ○ 4以上、 ○（ ）
○ 3～6 、 屋内 ○ 3～6 、 ○（ ）
シーリング材 ○ 適用する、○ 適用しない
・伸縮調整目地 位置 ○ 図示、 ○ 標準仕様書10.6.2(5)(ｲ)
シーリング材の目地寸法 ⊠ 幅・深さとも10mm、 ○ 図示

○ 7. アーチ、上げ裏等の石張り

(10.2.2)(10.7.1、2)

・取付け工法 : ○ 内壁空積工法、 ○ 乾式工法
・特殊部位用金物 :
材質 ⊠ ステンレス(SUS304) 、○（ ）
寸法等 引金物 ⊠ 標準仕様書10.2.2(3)による 、○（ ）
だぼ ⊠ 標準仕様書10.2.2(3)による 、○（ ）
かすがい ⊠ 標準仕様書10.2.2(3)による 、○（ ）
受け金物 ⊠ 標準仕様書10.2.2(1)(ｲ)による、○（ ）
・乾式工法の方式による金物の種類、形状、寸法等 :
⊠ 標準仕様書表10.2.4に準ずる（方式 ○ スライド方式、 ○ ロッキング方式）、○ 図示
・吊金物及び化粧吊りボルト :
○ 取りる 吊金物 ⊠ ステンレス(SUS304)径6mm長さ80mm（加工物）
○（ ）
吊りボルト ⊠ ステンレス(SUS304)M10化粧ナット付き
○（ ）
○ 設けない
・あと施工アンカーの材質、寸法等 : ○（ ）
・アンカーの材質及び径 : ○ SS400（ ○ M12、○ ）
○ ステンレス(SUS304) (○ M10、○ ）
・石裏面処理 : ○ 適用する、○ 適用しない
・裏打ち処理 : ○ 適用する、○ 適用しない
・目地 : 一般目地 目地幅(mm) ⊠ 6以上、 ○（ ）
伸縮調整目地 位置 ⊠ 他の部位との取り合い部、 ○ 図示
シーリング材の目地寸法 ⊠ 幅・深さとも10mm、○ 図示

○ 8. 笠木、甲板等の石張り

(10.2.2)(10.7.1、3)

・取付け工法 : ○ 外壁湿式工法、○ 乾式工法
・特殊部位用金物 :
材質 ⊠ ステンレス(SUS304) 、○（ ）
寸法等 引金物 ⊠ 標準仕様書10.2.2(3)による 、○（ ）
だぼ ⊠ 標準仕様書10.2.2(3)による 、○（ ）
かすがい ⊠ 標準仕様書10.2.2(3)による 、○（ ）
受け金物 ⊠ 標準仕様書10.2.2(1)(ｲ)による、○（ ）
・乾式工法の方式による金物の種類、形状、寸法等 :
⊠ 標準仕様書表10.2.4に準ずる（方式 ○ スライド方式、 ○ ロッキング方式）、○ 図示
・あと施工アンカーの材質、寸法等 : ○（ ）
・石裏面処理 : ○ 適用する、○ 適用しない
・アンカーの材質及び径 : ○ SS400（ ○ M12、○ ）
○ ステンレス(SUS304) (○ M10、○ ）
・乾式工法の場合の取付け代 : ○ 70mm程度、○（ ）
・石裏の裏込モルタル : ○ 適用する、○ 適用しない
・目地
外壁湿式工法の場合
一般目地 目地幅 ⊠ 6mm以上 、○（ ）
シーリング材 ○ 適用する、 ○ 適用しない
伸縮調整目地 位置 ⊠ 標準仕様書表11.1.1による、 ○ 図示
シーリング材の目地寸法 ⊠ 幅、深さとも10mm以上 、 ○ 図示
乾式工法の場合
目地材 ⊠ 8mm以上、 ○（ ）
シーリング材 ⊠ 標準仕様書9.7による、○（ ）

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	建築改修工事特記仕様書(2)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	―	図面番号	A-03
設計者	株式会社 日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県 上尾市		

章	項目	特記事項

11 タイル工事

○ 1.伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

(11.1.3)(表11.1.1)

・位置 : ⊠ 標準仕様書表11.1.1による、○ 図示
・目地寸法 : ⊠ 標準仕様書表9.7.3による、○（ ）

○ 2.セメントモルタルによるタイル張り

(11.2.2、7)

・タイルの形状、寸法等 : 標準的な曲がりの役物は一体成形とする

施工箇所				
種類				
形状寸法(mm)				
再生材料Ⓖ	○適用する	○適用する	○適用する	○適用する
吸水率による区分	○Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ	○Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ	○Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ	○Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ
うわぐすり	○有 ○無	○有 ○無	○有 ○無	○有 ○無
役物	○有 ○無	○有 ○無	○有 ○無	○有 ○無
色	○標準 ○特注	○標準 ○特注	○標準 ○特注	○標準 ○特注
耐凍害性	○有 ○無	○有 ○無	○有 ○無	○有 ○無
耐滑り性	○	○	○	○
備考				

・試験張り : ○ 行う、○ 行わない
・見本焼き : ○ 行う、○ 行わない
・下地モルタル塗りのコンクリート素地面の処理 :
⊠ 目荒し工法（高圧水洗処理）、○ MCR工法、○（ ）
・壁タイル張りの工法 :
内装タイル ⊠ 改良積上げ張り、○（ ）
外装タイル ○ 密着張り、○ 改良積上げ張り、 ○ 改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル ○ マスク張り、 ○ モザイクタイル張り
・既調合モルタル :
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
（品質・性能及び試験方法） 建築材料等品質性能表による
・既調合目地材 :
（品質・性能及び試験方法） 建築材料等品質性能表による

○ 3.有機系接着剤によるタイル張り

(11.3.2～4、7)

・タイルの形状、寸法等 : 標準的な曲がりの役物は一体成形とする

施工箇所				
種類				
形状寸法(mm)				
再生材料Ⓖ	○適用する	○適用する	○適用する	○適用する
吸水率による区分	○Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ	○Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ	○Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ	○Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ
うわぐすり	○有 ○無	○有 ○無	○有 ○無	○有 ○無
役物	○有 ○無	○有 ○無	○有 ○無	○有 ○無
色	○標準 ○特注	○標準 ○特注	○標準 ○特注	○標準 ○特注
耐凍害性	○有 ○無	○有 ○無	○有 ○無	○有 ○無
耐滑り性	○	○	○	○
備考				

・試験張り : ○ 行う、○ 行わない
・見本焼き : ○ 行う、○ 行わない
・接着剤のホルムアルデヒド放散量 : ⊠ 規制対象外、○（ ）
・下地調整塗りを行うコンクリート素地面の処理 :
○ MCR工法、○目荒し工法（高圧水洗処理）、○（ ）
・目地のシーリング材 :
打継ぎ目地 ⊠ポリウレタン系シーリング材 、○（ ）
ひび割れ誘発目地 ⊠ポリウレタン系シーリング材 、○（ ）
伸縮調整目地 ⊠変成シリコーン系シーリング材、○（ ）
その他の目地 ⊠変成シリコーン系シーリング材、○（ ）

12 木工事

○ 1.表面仕上げ

(12.1.4)(表12.1.1)

表面仕上げの種別		適用箇所
機械加工	○ A種	
	○ B種	
	○ C種	
手加工	○ H-A種	
	○ H-B種	
	○ H-C種	

○ 2.製材Ⓖ

(12.2.1)(12.4.1)(12.5.1)(12.6.1)(12.7.1)

・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材 :

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理	材面の品質	間伐材等の適用
			⊠ 2級 ○		⊠ A種 ○ B種 ○			○ する ○ しない
			⊠ 2級 ○		⊠ A種 ○ B種 ○			○ する ○ しない

・「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材 :

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理	材面の品質	間伐材等の適用
見え掛り面			⊠ 上小節 ○		⊠ A種 ○ B種 ○			○ する ○ しない
見え掛り面以外			⊠ 小節以上 ○		⊠ A種 ○ B種 ○			○ する ○ しない
					⊠ A種 ○ B種 ○			

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材 :

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理	間伐材等の適用
			⊠ 1等 ○		⊠ 10%以下 ○ A種 ○ B種		○ する ○ しない
			⊠ 1等 ○		⊠ 10%以下 ○ A種 ○ B種		○ する ○ しない

・「製材の日本農林規格」以外の製材 :

施工箇所	樹種	寸法(mm)	材面の品質	防虫処理の適用	含水率	間伐材等の適用
			○ ○ 造作材（⊠ A種、○ B種）	○ する ○ しない	⊠ A種 ○ B種 ○	○ する ○ しない
			○ ○ 造作材（⊠ A種、○ B種）	○ する ○ しない	⊠ A種 ○ B種 ○	○ する ○ しない

○ 3.造作用集成材Ⓖ

(12.2.1)

・接着剤のホルムアルデヒド放散量 : ⊠ 規制対象外
・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 :

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面数	見付け材面の品質	間伐材等の適用
				⊠ 1等 ○ 2等	○ する ○ しない
				⊠ 1等 ○ 2等	○ する ○ しない

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材 :

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面数	見付け材面の品質	間伐材等の適用
						⊠ 1等 ○ 2等	○ する ○ しない
						⊠ 1等 ○ 2等	○ する ○ しない

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱 :

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	間伐材等の適用
					⊠ 1等 ○ 2等	○ する ○ しない
					⊠ 1等 ○ 2等	○ する ○ しない

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材 :

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
					⊠ 1等 ○ 2等	⊠ 15%以下 ○	○ する ○ しない
					⊠ 1等 ○ 2等	⊠ 15%以下 ○	○ する ○ しない

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材 :

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
					⊠ 1等 ○ 2等	⊠ 15%以下 ○	○ する ○ しない
					⊠ 1等 ○ 2等	⊠ 15%以下 ○	○ する ○ しない

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成柱 :

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
					⊠ 1等 ○ 2等	⊠ 15%以下 ○	○ する ○ しない
					⊠ 1等 ○ 2等	⊠ 15%以下 ○	○ する ○ しない

○ 4.造作用単板積層材Ⓖ

(12.2.1)

・接着剤のホルムアルデヒド放散量 : ⊠ 規制対象外
・「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材 :

施工箇所	厚さ(mm)	表面の化粧加工	防虫処理の適用	間伐材等の適用
		○ 有り（加工 ○ 天然木加工、○ 塗装加工）○ 無し（等級 ○ 1等、○ 2等、○ 3等）	○ する ○ しない	○ する ○ しない
		○ 有り（加工 ○ 天然木加工、○ 塗装加工）○ 無し（等級 ○ 1等、○ 2等、○ 3等）	○ する ○ しない	○ する ○ しない

・「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材 :

施工箇所	厚さ(mm)	表面の化粧加工	含水率	防虫処理の適用	間伐材等の適用
		○ 有り（加工 ○ 天然木加工、○ 塗装加工 ）○ 無し（ ）	⊠ 14%以下 ○	○ する ○ しない	○ する ○ しない
		○ 有り（加工 ○ 天然木加工、○ 塗装加工 ）○ 無し（ ）	⊠ 14%以下 ○	○ する ○ しない	○ する ○ しない

・CLT（直交集成材） Ⓖ :

施工箇所	品名	曲げ性能（強度等級）	種別	接着性能（使用環境）	樹種	寸法(mm)	間伐材等の適用
							○ する ○ しない
							○ する ○ しない

● 5.合板等

(12.2.1)

・接着剤のホルムアルデヒド放散量 : ⊠ 規制対象外
・「合板の日本農林規格」による普通合板Ⓖ :

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理の適用	間伐材等の適用
	● 5.5 ○		⊠ 1類 ○ 2類	● 耐水	○ する ○ しない	○ する ○ しない
					○ する ○ しない	○ する ○ しない

・「合板の日本農林規格」による構造用合板Ⓖ :

施工箇所	厚さ(mm)	等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	強度等級	防虫処理の適用	間伐材等の適用
	⊠ 12 ○	⊠ 2級以上 ○ 1級		⊠ 1類 ○ 特類	⊠ C-D以上 ○		○ する ○ しない	○ する ○ しない
							○ する ○ しない	○ する ○ しない

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板Ⓖ :

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理の適用	間伐材等の適用
			⊠ 1類 ○ 特類	○ する ○ しない	○ する ○ しない
				○ する ○ しない	○ する ○ しない

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧用合板Ⓖ :

施工箇所	厚さ(mm)	化粧板に使用する単板の樹種名	接着の程度	防虫処理の適用	間伐材等の適用
			⊠ 1類 ○ 2類	○ する ○ しない	○ する ○ しない
				○ する ○ しない	○ する ○ しない

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板Ⓖ :

施工箇所	厚さ(mm)	表面性能	化粧加工の方法	接着の程度	防虫処理の適用	間伐材等の適用
				⊠ 1類 ○ 2類	○ する ○ しない	○ する ○ しない
					○ する ○ しない	○ する ○ しない

・パーティクルボードⒼ :

施工箇所	厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	間伐材等の適用
	⊠ 15 ○		⊠ 13タイプ ○	⊠ P又はM ○		○ する ○ しない
						○ する ○ しない

・構造用パネル :

施工箇所	厚さ(mm)	等級	間伐材等の適用
		○ 1級、○ 2級、○ 3級、○ 4級	○ する ○ しない
		○ 1級、○ 2級、○ 3級、○ 4級	○ する ○ しない

・MDFⒼ :

施工箇所	厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分	間伐材等の適用
						○ する ○ しない
						○ する ○ しない

○ 6.接着剤

(12.2.2、3)

・接着剤のホルムアルデヒド放散量 : ⊠ 規制対象外
接着剤は可塑剤（難揮発性の可塑剤を除く）が添付されていないものとする。

○ 7.防腐・防蟻処理

(12.3.1、2)

・防腐、防蟻処理が不要な樹種による製材 :
適用部位 ○（ ）
・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理 :

適用部位	保存処理性能区分
	○ K2、○ K3、○ K4
	○ K2、○ K3、○ K4

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理 :

適用部位	処理の方法	処理の方法
	⊠ 標準仕様書12.3.1(4)(b)①～④による ○	⊠ JIS K 1571に適合又は同等品 ○

・薬剤の接着剤への混入による防腐、防蟻処理
適用部位 ○（ ）

13 屋根及びとい工事

○ 1.長尺金属板葺

(13.2.2、3)

施工箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
	⊠ JIS G 3322の屋根用コイル ○			○ 心木なし瓦棒葺 ○ 立平葺 ○ 蟻掛葺 ○ 横葺	

・下葺材料 : ○ アスファルトルーフィング 940
○ 改質アスファルトルーフィング下葺材
（ ○ 一般タイプ、○ 複層材タイプ、○ 粘着層付タイプ）
・工法 :
建築基準法に基づき定まる風圧力の（○ 1、○ 1.15、○ 1.3）倍の風圧力に対応した工法
・雪止め : ○ 設置する（設置箇所：⊠ 図示、○ ）

○ 2.折板葺

(13.2.2)(13.3.2、3)(表 13.2.1)

施工箇所	形式	山高、山ピッチによる区分 山高	山ピッチ	耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	耐火性能
屋根 ｽﾁｰﾙ庇	○ 重ね形 ○ はぜ締め形 ○ かん合形	160mm	500mm	（ ）種	○ 鋼板製 ○ アルミニウム合金板製	0.8	○ 有り ○ 無し	○ 30分 ○ 無し

・材料 : 板及びコイルの種類 ○（ ガルバリウム鋼板 ）
塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号 ○（ ）
・直接外気の影響を受けない屋内でタイトフレームにJIS G 3302以外の鋼材を使用する場合の表面処理 :
標準仕様書 表14.2.2による種別 ○ E種、○ F種
断熱材張り ○ 行う（種別. 、厚さ(mm). 、防火 性能. 時間）
○ 行わない
・工法 :
建築基準法に基づき定まる風圧力の（○ 1、○ 1.15、○ 1.3）倍の風圧力に対応した工法
折板のけらば納め ○けらば包みによる方法、 ○（ ）

○ 3.粘土瓦葺

(13.4.2、3)

施工箇所	種類 製法による区分	形状による区分	寸法による区分	大きさ	産地	役物瓦の種類	雪止め瓦の採用
							○ する ○ しない
							○ する ○ しない

・JIS A 5208に基づく凍害試験等 : ⊠ 行わない、○行う
・瓦桟木 : 材質 ⊠ 杉、○ ひのき、○（ ）
寸法 ⊠ 幅21×高さ15(mm)、○（ ）
・棟補強用心材 : 材質 ⊠ 杉、○ ひのき、○（ ）
寸法 ⊠ 幅40×高さ30(mm)、○（ ）
・棟補強等に使用する金物等 :
材質 ○ステンレス製、○ 亜鉛めっき処理を行った鋼製
形状、寸法、止め付け等 ⊠ 図示、○（ ）
・工法 :
建築基準法に基づき定まる風圧力の（○ 1、○ 1.15、○ 1.3）倍の風圧力に対応した工法
瓦桟木の留付け工法 ⊠ 図示、○（ ）
棟の工法 ⊠ 標準仕様書13.4.3(4)(ｱ)(ｲ)による、○（ ）

○ 4.とい

(13.5.2、3)(表 13.5.1～4)

・といその他の材種 :
○ 配管用鋼管、○ 硬質ポリ塩化ビニル管、○ ルーフドレン、 ○（ ）
・とい受金物 :
材種 ○ 表13.5.2による（溶融亜鉛めっきを行ったもの）、○（ ）
形状 ○ 表13.5.2による、○（ ）
取付け間隔 ○ 表13.5.2による、○（ ）
・足金物 :
材種 ○ 表13.5.2による（溶融亜鉛めっきを行ったもの）、○（ ）
形状 ○ 表13.5.2による、○（ ）
取付け間隔 ○ 表13.5.2による、○（ ）
・多雪地域の場合の軒どいの取付間隔 : ⊠ 0.5m以下 、○（ ）
・防露材のホルムアルデヒド放散量 : ⊠ 規制対象外、○（ ）
・鋼管製といの防露巻き :
⊠ 適用する（工法 ⊠ 標準仕様書表13.5.4による、○ ）
○ 適用しない
・ルーフドレン

種別	施工箇所
○ ろく屋根用（○ 縦型、○ 横型）	
○ バルコニー用	
○ バルコニー中継用	

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	建築改修工事特記仕様書(3)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	―	図面番号	A-04
設計者	株式会社 日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県 上尾市		

章	項目	特記事項

14 金属工事

○ 1. ステンレスの表面仕上げ

(14.2.1)

種類	施工箇所（手すり、タラップ、建具以外）
⊠ HL程度	
○ 鏡面仕上程度	
○ No.2B程度	

○ 2. アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

(14.2.2)(表14.2.1)

種別	色合い等	施工箇所（成形板、笠木、建具以外）
○ AB-1種		
○ AB-2種		
○ AC-1種		
○ AC-2種		
○ BA-1種		
○ BA-2種		
○ BB-1種		
○ BB-2種		
○ BC-1種		
○ BC-2種		
○ C種		

色合い等（シルバー、アンバー、ブロンズ、ブラック系、ステンカラー、特注色）
・陽極酸化皮膜の着色方法 ：○ 二次電解着色、○ 三次電解着色

○ 3. 鉄鋼の亜鉛めっき

(14.2.3)（表14.2.2）

表面処理方法	種別	施工箇所（手すり、タラップ以外）
○ 溶融亜鉛めっき	○ A種	
	○ B種	
	○ C種	
○ 電気亜鉛めっき	○ D種	
	○ E種	
	○ F種	

● 4. 軽量鉄骨天井下地

(14.4.2～4)(表14.4.1)

・野縁等の種類 ： 屋外（⊠ 25形、○ 19形）
屋内（⊠ 19形、○ 25形）
・屋外の軒天井、ピロティ天井等の工法 ：
建築基準法に基づき定まる風圧力の（○ 1、○ 1.15、○ 1.3）倍の風圧力に対応した工法
野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔 ○ 図示、○（ ）
周辺部の端からの間隔 ○ 図示、○（ ）
野縁の間隔 ○ 図示、○（ ）
・吊りボルトの間隔が900mmを超える場合 ：
補強方法 ⊠ 図示、 ○（ ）
・天井のふところが1.5m以上3.0m以下の場合 ：
補強方法 ⊠ 標準仕様書14.4.4(8)による、○ 図示
・天井のふところが3.0mを超える場合 ：
補強方法 ⊠ 図示、 ○（ ）
・天井下地材における耐震性を考慮した補強 ：
補強箇所 ⊠ 図示、 ○（ ）
補強方法 ⊠ 図示、 ○（ ）
・特定天井 ：
範囲 ○ 図示、 ○（ ）
特定天井の設計用震度及びクリアランス
特定天井告示（平成25年国土交通省告示第771号）による特定天井の設計用震度
検証ルート（ ）

室名	階	設計用水平震度（K_H）	設計用鉛直震度（K_V）	クリアランス（mm）

・特定天井以外の在来工法による吊り天井のうち天井材の落下により著しい影響がある室のもの（緊結吊天井） ：
範囲 ○ 図示、 ○（ ）
補強方法
標準仕様書14.4.1～14.4.4に加えて、天井下地材における耐震性を考慮した補強は、以下の1)～4)のとおりとする。
1) 野縁受けは、相互にジョイントを差し込んだ上でねじ留め。
2) 野縁や野縁受けの隣り合うジョイントの位置は、互いに 1m 以上離し、千鳥状に配置。
3) 野縁受けと吊ボルトの接合に用いるハンガーは、ねじ留め等の措置（開き止め）を講じる。
4) 野縁と野縁受けの接合に用いるクリップは、特定天井告示第3第3項に適合する天井に用いられるもの、または、耐風圧クリップ相当の緊結度合を「新たな特定天井の技術基準（天井と周囲の壁等との間に隙間を設けない仕様の追加）の解説（平成28年7月版）」（国土交通省国土技術政策総合研究所他）の「付録1 クリップの接合部の衝撃試験」により確認されたものを使用する。
なお、当該クリップは、JIS A 6517によらなくてもよいものとする。
・システム天井 ：
範囲 ○ 図示、 ○（ ）
種別 ⊠ グリッドタイプ
耐震性
以下の設計用震度の地震力及び層間変形角に対して、脱落しないものとする。
なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。
設計用水平震度（K_H） ⊠ 1.0 、○（ ）
設計用鉛直震度（K_V） ⊠ 0.5 、○（ ）
層間変形角 ○ 1/100、○ 1/200、 ○（ ）

● 5. 軽量鉄骨壁下地

(14.5.3,4)(表14.5.1)

・スタッド、ランナーの種類 ：
● 標準仕様書表14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類、 ○ 図示
・スタッドの高さが5.0mを超える場合 ： ○ 図示、○（ ）
・出入口及びこれに準ずる開口部の補強 ：
● 標準仕様書14.5.4(5)による、 ○（ ）

○ 6. 金属成形板張り

(14.6.2,3)

・種別 ： ○図示、○（ ）
・表面処理 ： ○図示、○（ ）
・取付け用下地 ： ○標準仕様書14.4による、 ○ 図示
・伸縮調整継手 ： ○設ける（施工箇所 ○ 図示、○（ ））
○設けない

○ 7. アルミニウム製笠木

(14.7.2、3)(表 14.2.1)(表 14.7.1)

・種類 ： ○ 250形、○ 300形、 ○ 350形、 ○ 図示
・表面処理 ： ○ 種別 （ ）種
色合等 ○ 標準色（○ アンバー、○ ブロンズ、○ ブラック系、○ ステンカラー）
○ 特注色（ ）
・笠木の固定金具の工法等 ：
建築基準法に基づき定まる風圧力の（○ 1、○ 1.15、○ 1.3）倍の風圧力に対応した工法

○ 8. 手すり及びタラップ

(14.8.2、3)

・手すり ： ○ ステンレス製 SUS304（表面処理 ⊠ HL程度、○（ ））
○ 鋼製 （表面処理 ○ 溶融亜鉛めっき種別（ ））
・タラップ ： ○ ステンレス製 SUS304（表面処理 ○ 研磨なし、 ○ HL程度）
○ 鋼製 （表面処理 ⊠ 溶融亜鉛めっきC種、○（ ））

15 左官工事

● 1. モルタル塗り

(15.3.2、5)

・既製目地材 ：○ 設ける（施工箇所（ ）、形状（⊠図示、 ）
○ 設けない
・モルタル ：○ 現場調合材料、○ 既調合材料（ ）
・床目地 ：○ 設ける（目地割り ⊠ 2㎡程度（最大目地間隔3m程度）、○ ）
（種類 ⊠ 押し目地、○ ）
○ 設けない
・外装タイル張り下地等の下地モルタル等塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験 ：
○ 適用する、○ 適用しない
・防水剤 ： 品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による

○ 2. セルフレベリング材塗り

(15.5.2)(表15.5.1)

・種類 ： ○ せっこう系、 ○ セメント系

● 3. 仕上塗材仕上げ

(15.6.2)

・建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ： ⊠ 規制対象外、 ○（ ）
・仕上塗材の種類 ：

薄付け仕上塗材

種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状及び工法等
○ 外装薄塗材 Si	○	仕上げの形状
○ 可とう形外装薄塗材 Si	○	○ 砂壁状
○ 外装薄塗材 E	○	○ ゆず肌状（ ○ 吹付け、○ ローラー塗り）
○ 可とう形外装薄塗材 E	○	○ さざ波状
○ 防水形外装薄塗材 E	○	○ 平たん状
○ 外装薄塗材 S	○	○ 凹凸状（ ○ 吹付け、○ こて塗り）
○ 内装薄塗材 C	○	○ 着色骨材砂壁状（○ 吹付け、○こて塗り）
○ 内装薄塗材 L	○	○ 砂壁状じゅらく
○ 内装薄塗材 Si	○	○ 京壁状じゅらく
○ 内装薄塗材 E	○	工法
○ 内装薄塗材 W	○	吸放湿性 ○ 適用する、○ 適用しない

厚付け仕上塗材

種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状及び工法等
○ 外装厚塗材 C	○	
○ 外装厚塗材 Si	○	仕上げの形状
○ 外装厚塗材 E	○	○ 吹放し、 ○ 凸部処理、 ○ 平たん状
○ 内装厚塗材 C	○	○ 凹凸状、 ○ ひき起こし、○ かき落とし
○ 内装厚塗材 L	○	
○ 内装厚塗材 G	○	工法等
○ 内装厚塗材 Si	○	吸放湿性 ○適用する、○ 適用しない
○ 内装厚塗材 E	○	上塗材 ○適用する、○ 適用しない

複層仕上塗材

種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状及び工法等
○ 複層塗材 CE	○	仕上げの形状
○ 可とう形複層塗材 CE	○	● ゆず肌状（ローラー塗り）、○ 凸部処理、○凹凸状
○ 複層塗材 Si	○	工法等
○ 複層塗材 E	○	耐候性 ⊠ 耐候形３種、 ○
● 複層塗材 RE	○	上塗材
○ 防水形複層塗材 CE	○	溶媒 ⊠ 水系、○ 溶剤系、○ 弱溶剤系
○ 防水形複層塗材 E	○	樹脂 ⊠ アクリル系、 ●アクリルシリコン系
○ 防水形複層塗材 RE	○	外観 ⊠ つやあり、● つやなし、
○ 防水形複層塗材 RS	○	○ メタリック

軽量骨材仕上塗材

種類（呼び名）	防火材料
○ 吹付用軽量塗材	○
○ こて塗用軽量塗材	○

○ 4. ALCパネルの場合の下地処理

(15.6.4)

・内壁目地部の形状 ： ⊠ V形目地付き、 ○（ ）

○ 5. マスチック塗料塗り

(15.7.2)

・種別 ： ○ A種、 ○ B種

○ 6. ロックウール吹付け

(15.12.2、3)

・ロックウールのホルムアルデヒド放散量 ：⊠ 規制対象外、○（ ）
・接着剤のホルムアルデヒド放散量 ：⊠ 規制対象外、○（ ）
・吹付け厚さ(mm) ： ○図示、○ 25、○（ ）

○ 7. ラス系下地

(15.2.4)

・施工箇所 ： ○ 図示、○（ ）
・ラス系下地のホルムアルデヒド放散量 ： ⊠ 規制対象外、 ○（ ）

○ 8. こまい下地

(15.2.6)

・施工箇所 ： ○ 図示、○（ ）
・こまい下地のホルムアルデヒド放散量 ： ⊠ 規制対象外、 ○（ ）

○ 9. 木ずり下地

(15.2.7)

・施工箇所 ： ○ 図示、○（ ）

○ 10. ドロマイトプラスター塗り

(15.9.1～5)

・施工箇所 ： ○ 図示、○（ ）

○ 11. しっくい塗り

(15.10.1～6)

・施工箇所 ： ○ 図示、○（ ）

16 建具工事

○ 1. 防火性能

(16.1.3)

○ 建具表による、 ○ （ ）

○ 2. 見本の製作等

(16.1.4)

・建具見本の製作 ： ○ 行う（建具符号： ）、 ○ 行わない
・建具見本の程度 ： ○ 工事に使用するものとして、あらかじめ製作する
○ 納まり等が分かる程度のもの
・特殊な建具の仮組 ： ○ 行う（建具符号：図示）
○ 行わない

○ 3. 防犯建物部品

(16.1.6)

○ 適用する（ ○ 建具表による、 ○ 図示）、 ○ 適用しない

○ 4. アルミニウム製建具

(16.2.2、4、5)（表14.2.1)

・性能値等 ：
耐風圧性の等級（○ ）、建具符号（ ○ 建具表による、 ○ ）
気密性の等級 （○ ）、建具符号（ ○ 建具表による、 ○ ）
水密性の等級 （○ ）、建具符号（ ○ 建具表による、 ○ ）
外部に面する建具の種別
○ A種（建具符号 ○ 建具表による、○ ）
○ B種（建具符号 ○ 建具表による、○ ）
○ C種（建具符号 ○ 建具表による、○ ）
○ D種（建具符号 ○ 建具表による、○ ）
○ E種（建具符号 ○ 建具表による、○ ）
防音ドア、防音サッシとする場合
○ 遮音性の等級（ ）、建具符号（ ○ 建具表による、 ○ ）
断熱ドア、断熱サッシ Ⓖ とする場合
○ 断熱性の等級（ ）、建具符号（ ○ 建具表による、 ○ ）
・耐震性能（特定室等及び避難経路の扉） ：
RC壁に設置する特定室等及び避難経路の扉
○ 耐震ドア（面内変形追随性の等級（ ）、建具符号（ ○建具表による、○ ））
重量がある扉
以下の設計用震度の地震力及び層間変形角に対して、脱落しないものとする。
なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。
設計用水平震度（K_H） ⊠ 1.0、○（ ）
設計用鉛直震度（K_V） ⊠ 0.5、○（ ）
建具符号（○ 建具表による、○ ）
・材料、形状及び仕上げ、工法 ：
ステンレス鋼板（⊠ SUS304、SUS430JIL又はSUS443JI、○ ）
枠の見込み寸法 ● 建具表による、○（ ）
アルミニウムの表面処理
外部に面する建具 種別 ● BB-1種、 ○ BB-2種（標準仕様書 表14.2.1）
着色 ○ 標準色、 ○ 特注色
屋内の建具 種別 ○ BC-1種、 ○ BC-2種（標準仕様書 表14.2.1）
着色 ○ 標準色、 ○ 特注色
ステンレス製のくつずりの仕上げ ⊠ HL程度、○ No.2B程度、○ （ ）
結露水の処理方法 ⊠ 図示、○ （ ）
水切り板、ぜん板 ⊠ 図示、○ （ ）

○ 5. 網戸等

(16.2.3)

種類	材質	線径	網目
○ 防虫網	⊠ 合成樹脂製 ○ ガラス繊維入り合成樹脂製 ○ ステンレス(SUS316)製	⊠ 0.25mm以上 ○	⊠ 16～18メッシュ ○
○ 防鳥網	ステンレス(SUS304)線材	1.5mm	網目寸法15mm

○ 6. 樹脂製建具

(16.3.2～5)

・性能値等 ：
耐風圧性の等級（○ ）、建具符号（ ○ 建具表による、 ○ ）
気密性の等級 （○ ）、建具符号（ ○ 建具表による、 ○ ）
水密性の等級 （○ ）、建具符号（ ○ 建具表による、 ○ ）
外部に面する建具の種別 ：
○ A種（建具符号 ○ 建具表による、○ ）
○ B種（建具符号 ○ 建具表による、○ ）
○ C種（建具符号 ○ 建具表による、○ ）
○ D種（建具符号 ○ 建具表による、○ ）
○ E種（建具符号 ○ 建具表による、○ ）
防音ドア、防音サッシ
○ 遮音性の等級 ○ T-A種、 ○ T-B種
建具符号（○ 建具表による、○ ）
断熱ドア、断熱サッシ Ⓖ
断熱性の等級 ○ H-A種、 ○ H-B種、 ○ H-C種
建具符号（○ 建具表による、○ ）
・材料、形状及び仕上げ、工法 ：
ガラス ⊠ 複層ガラス、 ○ （ ）
枠の見込み寸法 ○ 建具表による、○ （ ）
表面色 ○ 標準色、 ○ 特注色
ステンレス製のくつずりの仕上げ ⊠ HL程度、○ No.2B程度、○ （ ）
水切り板、ぜん板 ⊠ 図示、 ○ （ ）

○ 7. 鋼製建具

(16.2.2) (16.4.2～4) (表16.4.2)

・性能値等 ：
簡易気密型ドアセット ○ 適用する（建具符号（ ○ 建具表による、 ○ ）
○ 適用しない
外部に面する建具の耐風圧性 ● S-4、建具符号（ ○ 建具表による、 ○ ）
○ S-5、建具符号（ ○ 建具表による、 ○ ）
○ S-6、建具符号（ ○ 建具表による、 ○ ）
・耐震性能（特定室等及び避難経路の扉） ：
RC壁に設置する特定室等及び避難経路の扉
○ 耐震ドア（面内変形追随性の等級（ ）、建具符号（ ○建具表による、○ ））
重量がある扉
以下の設計用震度の地震力及び層間変形角に対して、脱落しないものとする。
なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。
設計用水平震度（K_H） ⊠ 1.0、○（ ）
設計用鉛直震度（K_V） ⊠ 0.5、○（ ）
建具符号（○ 建具表による、○ ）
・大型建具 ： ⊠ 適用しない（表16.4.2による）
○ 適用する（建具符号、枠の見込み寸法：建具表による）
・材料、形状及び仕上げ ：
ステンレス鋼板 ⊠SUS304・SUS430JIL・SUS443JI、○（ ）
鋼板の厚さ ○ 標準仕様書表16.4.2による、
○ （ （使用箇所 ））
ステンレス製のくつずりの仕上げ HL程度、 ○ No.2B程度、 ○（ ）

○ 8. 鋼製軽量建具

(16.2.2) (16.5.2～4)

・性能値等 ：
簡易気密型ドアセット ○ 適用する（建具符号（ ○ 建具表による、 ○ ）
○ 適用しない
防音ドア、防音サッシとする場合
○ 遮音性の等級（ ）、建具符号（ ○ 建具表による、 ○ ）
断熱ドア、断熱サッシ Ⓖ とする場合
○ 断熱性の等級（ ）、建具符号（ ○ 建具表による、 ○ ）
・耐震性能（特定室等及び避難経路の扉） ：
RC壁に設置する特定室等及び避難経路の扉
○ 耐震ドア（面内変形追随性の等級（ ）、建具符号（ ○建具表による、○ ））
重量がある扉
以下の設計用震度の地震力及び層間変形角に対して、脱落しないものとする。
なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。
設計用水平震度（K_H） ⊠ 1.0、○（ ）
設計用鉛直震度（K_V） ⊠ 0.5、○（ ）
建具符号（○ 建具表による、○ ）
・材料、形状及び仕上げ ：
鋼板 ○ 亜鉛めっき鋼板、○ ビニル被膜鋼板、○ カラー鋼板、
○ ステンレス鋼鈑（⊠ SUS304、SUS430JIL又はSUS443JI、○ ）
召合せ、縦小口包み板の材質 ○ 鋼板、 ○ 建具表による
鋼板の厚さ ⊠ 標準仕様書表16.4.2による、
○ （ （使用箇所 ））
ステンレス製のくつずりの仕上げ ⊠ HL程度、 ○ No.2B程度、 ○（ ）

○ 9. ステンレス製建具

(16.2.2)(16.4.2)(16.6.2～5)

・性能値等 ：
簡易気密型ドアセット ○ 適用する（建具符号（ ○ 建具表による、 ○ ）
○ 適用しない
外部に面する建具の耐風圧性 ○ S-4、建具符号（ ○ 建具表による、 ○ ）
○ S-5、建具符号（ ○ 建具表による、 ○ ）
○ S-6、建具符号（ ○ 建具表による、 ○ ）
防音ドア、防音サッシとする場合
○ 遮音性の等級（ ）、建具符号（ ○ 建具表による、 ○ ）
断熱ドア、断熱サッシ Ⓖ とする場合
○ 断熱性の等級（ ）、建具符号（ ○ 建具表による、 ○ ）
・耐震性能（特定室等及び避難経路の扉） ：
RC壁に設置する特定室等及び避難経路の扉
○ 耐震ドア（面内変形追随性の等級（ ）、建具符号（ ○建具表による、○ ））
重量がある扉
以下の設計用震度の地震力及び層間変形角に対して、脱落しないものとする。
なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。
設計用水平震度（K_H） ⊠ 1.0、○（ ）
設計用鉛直震度（K_V） ⊠ 0.5、○（ ）
建具符号（○ 建具表による、○ ）
・材料、形状及び仕上げ、工法 ：
鋼板 ⊠ SUS304・SUS430JIL・SUS443JI、○（ ）
表面仕上げ ⊠ HL仕上げ、○ 鏡面仕上げ、○（ ）
ステンレス製のくつずりの仕上げ ⊠ HL程度、 ○ No.2B程度、 ○（ ）
ステンレス鋼板の曲げ加工 ⊠ 普通曲げ、○ 角出し曲げ

○ 10. 木製建具

(16.7.2～4)

・建具材の加工、組立時の含水率 ： ⊠ B種、 ○（ ）
・建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ：
⊠ 規制対象外、○（ ）
・フラッシュ戸 ：
表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
○ 普通合板 Ⓖ	表面の樹種 生地、透明塗料塗り （ ⊠ラワン合板程度、○ ） 不透明塗料塗り （ ⊠しな合板程度、○ ） 板面の品質（ ） 接着の程度 ○ 1類、 ○ 2類） 防虫処理 ○ 行う	
○ 天然木化粧合板 Ⓖ	樹種名（ ） 接着の程度 ○ 1類、 ○ 2類） 防虫処理 ○ 行う	
○ 特殊加工化粧合板 Ⓖ	化粧加工の方法 （○ オーバーレイ、 ○ プリント、○ 塗装） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度 ○ 1類、 ○ 2類） 防虫処理 ○ 行う	

表面板の厚さ ：⊠ 表16.7.6による、○ （ ）
・かまち戸 ：
かまち樹種 ○（ ）、鏡板樹種 ○（ ）
見込み寸法 ⊠ 36mm、 ○ 建具表による、 ○（ ）
・ふすま ：
張りの種別（ ○ I 型、○ II 型）
上張り（押入等の裏側以外） ○ 鳥の子、 ○ 新鳥の子又はビニル紙程度
上張り（押入等の裏側） 雲花紙程度
縁仕上 ○ 塗り縁、 ○ 生地縁（素地）、 ○ 生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
見込み寸法 ⊠ 19.5mm、 ○ 建具表による、 ○（ ）
・戸ぶすま ：
見込み寸法 ⊠ 30.0mm、 ○ 建具表による、 ○（ ）
・紙張り障子 ：
見込み寸法 ⊠ 30.0mm、 ○ 建具表による、 ○（ ）
・枠、くつずりの材料 ： ○ 建具表による、 ○（ ）

○ 11. 建具用金物

(16.8.2,3) (表16.8.1)

・金物の種類・見え掛り部の材質等 ：
○ 標準仕様書表16.8.1及び適用は建具表による、○ （ ）
・金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ：
○ 標準仕様書表16.8.2及び適用は建具表による、○ （ ）
・樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ：
⊠ 標準仕様書表16.8.3による、○ 建具表による
・木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ：
⊠ 標準仕様書 表16.8.4による、 ○ 建具表による
・木製建具に使用する戸車及びレール ：
⊠ 標準仕様書 表16.8.5による、 ○ 建具表による
・握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付位置 ：
○ 建具表による、○ 図示
・錠前類（シリンダ箱錠及びシリンダ本締り錠） ：
（品質・性能及び試験方法）建築材料等品質性能表による
・クローザ類 ：
（品質・性能及び試験方法）建築材料等品質性能表による

○ 12. 鍵

(16.8.4)

・マスターキー ：○ 製作する（ ）、 ○ 製作しない
・その他の鍵 ：○ 各室 3本 1組（室名名札付き）、○ （ ）
・鍵箱 ：○ 有り、 ○ 無し

○ 13. 自動ドア開閉機構

(16.9.2、3)

・性能 ：
引き戸用駆動装置
性能値 ⊠ 標準仕様書表16.9.1による、○ 以下による

種類・開閉方式		耐電圧	
温度上昇		耐久性（サイクル）	
防錆		電源	

多機能トイレ出入口引き戸用駆動装置 ：
性能値 ⊠ 標準仕様書表16.9.2による、○ 以下による

耐電圧		温度上昇	
耐久性（サイクル）		防錆	
電源			

引き戸検出装置
性能値 ⊠ 標準仕様書表16.9.3による、○ 以下による

放射無線周波数電磁界耐性			
耐電圧		防錆	
防滴		電源	

・機構 ：

戸の開閉方式	○ 図示、○（ ）
引き戸検出装置の種類	○ 光線(反射)センター、○ 熱線センサー、 ○ 音波センサー、 ○ 光電センサー、 ○ 電波センサー、○ タッチスイッチ、 ○ 押しボタンスイッチ、○ 多機能トイレスイッチ
凍結防止装置	○ 適用する（建具表による）、 ○ 適用しない

○ 14. 自閉式上吊り引戸装置

(16.10.3)(表16.10.1)

・引き戸用駆動装置の性能 ：
性能値 ⊠ 表16.10.1による、○ 以下による

手動開き力		手動閉じ力	
閉じ速度の調整		制動区間	
開閉繰返し		耐衝撃性	

・試験方法 ： 建築材料等品質性能表による

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	建築改修工事特記仕様書(4)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	—	図面番号	A-05
設計者	株式会社 日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県 上尾市		

章	項目	特記事項

16 建具工事

○ 15. 重量シャッター

(16.11.2、3)

・シャッターの種類 :
○ 管理用シャッター（耐風圧強度（ 600 ）Pa）
○ 外壁用防火シャッター（耐風圧強度（ ）N/㎡）
○ 屋内用防火シャッター
○ 防煙シャッター
⊠ ○
・二重チェーン、急降下制動装置、急降下停止装置を設けた電動シャッターの設置箇所 :
○ 建具表による、○（ ）
・障害物感知装置を設けた電動式シャッターの設置箇所 :
○ 建具表による、○（ ）
・危害防止機構を設ける扉内用防火シャッターもしくは防煙シャッター :
設置箇所 ○ 建具表による、○（ ）
機構 a) 危害防止装置
b) 「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」（昭和48年12月28日建設省告示第2563号）に定める基準に適合するもの
・管理用シャッターのシャッターケース :○ 設ける、○ 設けない
ただし、外壁用防火シャッター、屋内用防火シャッター及び防炎シャッターには設けること
・スラット及びシャッターケース用鋼板 :
鋼板の種類 ○ JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板)
○ JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板)
めっきの付着量 ○ Z12またはF12、○（ ）
・スライドレール、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板のカバー、雨掛りに用いるスイッチボックス蓋のふたの材質 :
ステンレス鋼板 ○ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1、○（ ）

○ 16. 軽量シャッター

(16.12.2~4)

・開閉形式による種類 : ○ 手動式、 ○ 上部電動式（手動併用）
・耐風圧強度 : ○（ 600 ）N/㎡
・障害物感知装置を設けた電動シャッターの設置個所 :
○ 建具表による、○（ ）
・スラットの材質 : ○ JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板）
めっき付着量（○ Z06ZはF06、○ ）
○ JIS G 3322（塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板）
めっき付着量（⊠ AZ0C 、○ ）
・スラットの形状 : ○ インターロッキング形、○ オーバーラッピング形

○ 17. オーバーヘッドドア

(16.13.2、3)

セクション材料による区分	耐風圧性能の区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材質
⊠ スチールタイプ ○ アルミニウムタイプ ○ ファイバーグラスタイプ	○ 125 ○ 100 ○ 75 ○ 50	⊠ バランス式 ○ チェーン式 ○ 電動式	○ スタンダード形 ○ ローヘッド形 ○ ハイリフト形 ○ パーチャル形	⊠ 溶融亜鉛めっき鋼板 ○ ステンレス鋼板

ステンレス鋼板 ⊠ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1、○（ ）
・障害物感知装置を設けたオーバーヘッドドアの設置場所 :
⊠ 建具表による、○（ ）

● 18. ガラス

(9.7) (16.14.2~4) (表16.14.1)

・適用は以下によるほか、ガラスの種類・長さは建具表及び図面による。
フロート板ガラスの品質、厚さの呼びによる種類 ● 建具表による、○ 図示
型板ガラスの品質、厚さの呼びによる種類 ● 建具表による、○ 図示
網入板ガラス、線入板ガラスの網、線の形状、板の表面の状況、厚さの呼びによる種類
⊠ 建具表による、○ 図示
・合わせガラス :

材料板ガラスの種類、厚さの組合せ、合わせガラスの合計厚さ	● 建具表による、 ○ 図示
形状による種類	● 平面合わせガラス、○ 曲面合わせガラス
落球衝撃は く離特性及びショットバック衝撃特性による種類	○ Ⅰ類、○ Ⅱ-1類、 ○Ⅱ-2類、 ○ Ⅲ類

・強化ガラス :

材料板ガラスの種類、材料板ガラスの種類による名称	⊠ 建具表による、 ○ 図示
破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類	○ Ⅰ類、○ Ⅲ類

・熱線吸収板ガラス

板ガラスの種類、厚さによる種類	⊠ 建具表による、 ○ 図示
性能による種類	○ 1類、 ○ 2類

・複層ガラス :

材料板ガラスによる種類及び厚さの組合せ、並びに複層ガラスの厚さ	● 建具表による、 ○ 図示
断熱性による区分	○ T1、○ T2、○ T3、○ T4、○ T5、○ T6
日射取得性、日射遮蔽性	○ G、 ○ S
乾燥気体の種類	● 空気 、○アルゴン

・熱線反射ガラス :

材料板ガラスの種類及び厚さによる種類	⊠ 建具表による、○ 図示
日射熱遮へい性による区分	○ 1種、 ○2種、○ 3種
耐久性による区分（日射熱遮蔽性が2種の場合）	○ A種、○B種
映像誤認	○ 行わない、 ○ 行う

・倍強度ガラス :

材料板ガラスの種類及び厚さによる種類	⊠ 建具表による、○ 図示

・ガラスの留め材及び溝の大きさ :

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)
● アルミニウム製	● シーリング材 ○ ガスケット ○ グレイジングチャンネル形 ○	○ 建具の製造所の仕様による ● 図示
○ 鋼製及び鋼製軽量	○ シーリング材 ○	○ 建具の製造所の仕様による ○ 図示
○ ステンレス製	○ シーリング材 ○	○ 建具の製造所の仕様による ○ 図示

・構造体の層間変形角に対する追従性 :
以下の構造体の層間変形角に対して、破損、脱落が生じないよう取り付けられているものとする。
○ 1/100、● 1/200、○（ ）

16 建具工事

○ 19. ガラスブロック

(16.14.5)

表面形状	呼び寸法	厚さ	色調	目地幅(mm) 平積み	目地幅(mm) 曲面積み	伸縮調整目地(mm)	防火性能
○ 正方形	○ 125×125	80	○ クリア ○ 乳白	⊠ 8 ～15	外側 ⊠ 標準仕様書表16.4.5(2)(ｳ)(a)② ○	⊠ 6mm以下ごとに幅10～25 ○ 図示 ○	⊠ 無し ○ 有り
	○ 160×160	○ 95 ○ 125	○ クリア ○ 乳白				
	○ 200×200	○ 95 ○ 125	○ クリア ○ 乳白				
	○ 320×320	95	○ クリア ○ 乳白	○ 15 ～25	内側 ⊠ 標準仕様書表16.4.5(2)(ｳ)(a)② ○		
○ 長方形	○ 250×125	80	○ クリア ○ 乳白				
	○ 320×160	95	○ クリア ○ 乳白				

・壁用金属枠及び補強材の材料、形状 : ⊠ 図示、○（ ）
・力骨 : 材質 ⊠ ステンレス鋼(SUS304)、○（ ）
寸法 ⊠ 径5.5mm、○（ ）
形状 ⊠ にしこ形状複筋及び単筋 ○（ ）
・化粧目地モルタルの色 ○（ ）
・金属製化粧カバー : 材質 ○ ステンレス製、 ○ アルミニウム製
寸法 ⊠ 図示、○（ ）
形状 ⊠ 図示、○（ ）
・工法 :
建築基準法に基づき定まる風圧力の (C) 1、○ 1.15、○ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法
・目地部の力骨の補強方法 :
⊠ ガラスブロック製造所の仕様による、 ○ 図示

17 カーテンウォール工事

○ 1. 取付方法、性能等

(17.1.3) (17.2.2) (17.3.2)

適用は以下によるほか カーテンウォール図による
・取付方法 : ○ 層間方式、 ○ 柱・梁方式、○ 方立方式、 ○ スパンドレル方式、
○（ ）
・性能 :

水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性能	耐温度差性(℃)
				○ 30分 ○ 1時間	○ 80 ○ 70 ○ 60

・耐風圧性能 :
建築基準法に基づき定まる風圧力の (C) 1、○ 1.15、○ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法
・主要部材の耐風圧性能（ガラスを除く） :

支点間距離(h)	耐風圧性能
4m以下	○ たわみ量が±(1/150)×h かつ絶対量20mm以下であること ○
4mを超える	○

・地震力に対する安全性 :

設計用震度	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能
設計用水平震度（Kh1） ⊠ 1.0 設計用鉛直震度（Kv） ⊠ 0.5 ○	設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。 ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。 なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む）が定める値とする。

構造体の層間変形に対する追従性

層間変形角	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能
○ 1/100 ○ 1/200	左記の層間変形角に対して、脱落しないこと 層間変形角1/300に対して、ほとんど補修の必要がなく、継続使用に耐えること。

・構造用ガスケット :
○ 適用する（施工箇所 ○ 図示、○ ）
材質 ○ クロロプレン系、○ EPDM系、○ シリコーン系
形状 ○ H型、○ Y型、○ C型
寸法(mm) ガラス板厚（ ）、支持沖の厚さ（ ）、ウェブの寸法（ ）
○ 適用しない
・断熱材 [D]
種類 （ ）
厚さ(mm) （ ）
施工箇所 ○ 図示、○（ ）
・耐火材料

施工部位	種別	規格等
○ ファスナー部		
○ 取付けブラケット		
○ パネル目地部		
○ 層間ふさぎ		
○		

○ 2. メタルカーテンウォール

(17.2.2、3、5)

適用は以下によるほか カーテンウォール図による。
・金属系材料の種類 :
○ アルミニウム材 規格等 標準仕様書16.2.3による
種別 標準仕様書 表14.2.1による
着色 ○ 標準色、 ○特注色
映像誤認 ○ 行う、 ○ 行わない
○ 鋼材
○ ステンレス鋼材
・形状及び仕上げ :
製品の寸法許容差 ⊠ 標準仕様書 表17.2.1.による、○（ ）
見え掛り部の仕上げ ○（ ）
ガラス溝の寸法、形状等 ⊠ カーテンウォールの製造所の仕様、○（ ）
・取付け
躯体付け金物の取付け立面の寸法許容差
鉛直方向 ⊠ ±10mm、 ○（ ）
水平方向 ⊠ ±5mm、 ○（ ）
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
目地の幅 ⊠ ±5mm、 ○（ ）
目地のゴの通り ⊠ 0～+2mm、○（ ）
目地両側の段差 ⊠ 0～+2mm、○（ ）
各階の基準墨から各部材までの距離 ⊠ ±10mm、 ○（ ）
・シーリング材の種類（目地） :○（ ）
・ガラスの取付け材料 :○ シーリング 種類（ ）
○ 構造ガスケット 形状・寸法等 ⊠ 図示、 ○（ ）
・断熱材 [D] の種類 :○（ ）

17 カーテンウォール工事

○ 3. PCカーテンウォール

(17.3.2~5) (表17.3.1.2)

適用は以下によるほか、カーテンウォール図による
・材料 :
コンクリート 種類 ○（ ）
品質 設計基準強度Fc) ⊠ 30N/mm²、○（ ）
スランプ ⊠ 12cm 、○（ ）
気乾単位容積質量
○ 普通コンクリートの場合 2.1t/m³ を超え2.5t/m³ 未満
○（ ）
単位水量の最大値 ⊠ 185kg/m³、○（ ）
鉄筋 種類記号 ⊠ SD295A（ ）、○（ ）
補強鉄線 径(mm) ○ 3.2、○ 4.0、○ 5.0、○ 6.0
綱目寸法 ○（ ）
・シーリング材の種類（目地） :○（ ）
・耐火目地材の種類 :○（ ）
・断熱材 [D] の種類 :○（ ）
・ガラスの取付け材料 :○ シーリング 種類（ ）
○ 構造ガスケット 形状・寸法等 ⊠ 図示、 ○（ ）
・先付けの材料 :
○ 表面仕上げ材 ○ セラミックタイル
○ 石材（ ○ 花こう岩、 ○ 大理石、 ○ ）
○（ ）
○ 建具枠（ ）
○ ゴンドラ用ガイドレール（ ）
・形状及び仕上げ :
製品の見え掛り部の寸法許容値

辺長	⊠ ±3mm 、○	対角線長の差	⊠ 0～+5mm、○
版厚	⊠ ±2mm 、○	開口部内法寸法	⊠ ±2mm 、○
ねじれ、反り	⊠ 0～+5mm、○	曲がり	⊠ 0～+3mm、○
面の凹凸	⊠ 0～+5mm、○	先付け金物の位置	⊠ 0～+5mm、○

PCカーテンウォールの仕上げ（ ）
構造ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差(mm)（ ）
・取付け :
躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差
鉛直方向 ⊠ ±10mm、 ○（ ）
水平方向 ⊠ ±25mm、 ○（ ）
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
目地の幅 ⊠ ±5mm、 ○（ ）
目地のゴの通り ⊠ 0～+3mm、○（ ）
目地両側の段差 ⊠ 0～+4mm、○（ ）
各階の基準墨から各部材までの距離 ⊠ ±5mm、 ○（ ）

18 塗装工事

● 1. 材料

(18.1.3)

・屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 : ● 規制対象外、○（ ）
・防火材料 : ⊠ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする
○ 仕上げ表による

● 2. 素地ごしらえ

(18.2.2~7)

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	○ A種、○ B種
	透明塗りの場合	○ A種、○ B種
鉄鋼面		⊠ A種、○ B種、 ○C種
亜鉛めっき鋼面		○ A種、○ B種
モルタル面及びプラスター面		○ A種、● B種
コンクリート面（DP以外）、ALCパネル面		○ A種、● B種
押出成形セメント板面及びコンクリート面（DP以外）		○ A種、○ B種
せっこうボード面及びその他ボード面	目地：樹目処理工法	○ A種、● B種
	目地：樹目処理工法以外	○ A種、○ B種

○ 3. 錆止め塗料塗り

(18.3.2、3)

下地面等		工程の種別	塗料の種別
鉄鋼面	見え掛り部分	○ A種、○ B種	標仕18.3.2(1)・表18.3.4による
	見え隠れ部分	○ A種、○ B種	標仕18.3.2(1)・表18.3.4による
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具等	○ A種、○ B種	○A種、○B種、○C種
	鋼製建具等以外	○ A種、○ B種	○A種、○B種、○C種

● 4. 塗装

(18.4.1~18.13.2)

塗装		種別	塗料の種類
合成樹脂調合ペイント塗り (SOP)	木部屋外	⊠ A種、○ B種	⊠ 1種、○ 2種
	木部屋内	⊠ B種、○ A種	⊠ 1種、○ 2種
	鉄鋼面	⊠ B種、○ A種	⊠ 1種、○ 2種
	亜鉛めっき鋼面	—	⊠ 1種、○ 2種
クリヤラッカー塗り(CL)		⊠ B種、○ A種	—
アクリル樹脂系非水分散型塗料塗り(NAD)		⊠ B種、○ A種	—
耐候性塗料塗り (DP)	鉄鋼面	—	○ 上塗り等級（2）級
	亜鉛めっき鋼面	—	○ 上塗り等級（2）級
	コンクリート面及び押出成形セメント板面	⊠ B種、○ A種、○ C種	—
つや有合成樹脂エマルションペイント塗り (EP-G)	コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面、その他ボード面等	⊠ B種、○ A種	—
	屋内の鉄鋼面	⊠ B種、○ A種	—
合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)		● B種、○ A種	—
合成樹脂エマルション模様塗料塗り(EP-T)		⊠ B種、○ A種	—
ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)		⊠ B種、○ A種	—
オイルステイン塗り(OS)		○ 水性、○油性	—
木材保護塗料塗り(WP)		⊠ B種、○ A種	—

19 内装工事

● 1. 接着剤

(19.2.2)

・接着剤のホルムアルデヒド放散量 : ● 規制対象外、○（ ）
・接着剤の可塑剤（難揮発性の可塑剤を除く） : 添付されていないものとする。
・施工箇所の下地セメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別 :
○ 図示、○（ ）

● 2. ビニル床シート [E]

(19.2.2、3)

種類の記号	色柄	厚さ(mm)	備考
⊠ FS（複層ビニル床シート） ○	○ 無地 ○ マーブル柄 ○ 柄物	⊠ 2.0 ○	

・目地処理をする場合の工法 :○ 熱溶接工法、○（ ）

○ 3. ビニル床タイル [E]

(19.2.2)

種類の記号	色柄	寸法(mm)	厚さ(mm)	備考
⊠ KT（コンポジションビニル床タイル） ○ TT（単層ビニル床タイル） ○ FT（複層ビニル床タイル） ○ FOA（置敷きビニル床タイル） ○ FOB（薄型置敷きビニル床タイル）	○ 無地 ○ 柄物	○ 300×300 ○ 450×450 ○ 500×500 ○	○ 2.0 ○ 2.5 ○ 3.0 ○	

○ 4. 特殊機能床材

(19.2.2)

シートの種類	厚さ・寸法(mm)、形状	性能	種類
○ 帯電防止床シート			
○ 帯電防止床タイル			
○ 視聴覚障害者用床タイル		ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列はJIS T 9251による	
○ 耐動荷重性床シート			
○ 防滑性床シート			
○ 防滑性床タイル			

● 5. ビニル幅木

(19.2.2)

・材質 : ● 軟質、 ○ 硬質
・高さ(mm) : ⊠ 60、○ 75、○ 100、 ○（ ）
・厚さ(mm) : ⊠ 1.5以上、○（ ）

○ 6. ゴム床タイル

(19.2.2)

・種類 : ○ 単層、 ○ 積層
・色柄 : ○（ ）
・厚さ(mm) : ○ 3.0、○ 4.5、○ 6.0、○ 9.0
・寸法(mm) : ○（ ）

○ 7. カーペット敷き [E]

(19.3.2、3) (表 19.3.1)

・縫じゅうたん :

織り方	パイル形状
○ ウルトンカーペット ○ ダブルフェースカーペット ○ アキスミンスターカーペット	○ カットパイル ○ ループパイル ○ カット、ループ併用

色柄 ⊠ 模様のない無地、○（ ）
パイルの種類 ⊠ 標準仕様書表19.3.1による（○ A種、○ B種、○ C種）
○（ ）
帯電性 ○ 適用する、○ 適用しない
縫じゅうたんの接合方法 ○ ヒートボンド工法、○（ ）
下敷き材 ⊠ 反毛フェルト（JIS L 3204第2種2号、呼び厚さ8mm）、○（ ）
・タフテッドカーペット :

パイル形状	パイル長さ(mm)	工法	帯電性の適用	備考
○ カットパイル ○ ループパイル ○ カット、ループ併用		○ 全面接着工法 ○ グリッパー工法	○ する （ ） ○ しない	

下敷き材（グリッパー工法の場合）
⊠ 反毛フェルト（JIS L 3204第2種2号、呼び厚さ8mm）、○（ ）
・ニードルパンチカーペット :
厚さ(mm) ○（ ）
帯電性 ○ 適用する、 ○ 適用しない
備考 ○（ ）
・タイルカーペット :

パイル形状	種別	施工箇所	寸法(mm)	総厚さ(mm)	備考
⊠ ループパイル	⊠ 第一種 ○ 第二種		⊠ 500×500 ○	⊠ 6.5 ○	
○ カットパイル	○ 第一種 ○ 第二種		⊠ 500×500 ○	⊠ 6.5 ○	
○ カット・ループ併用	○ 第一種 ○ 第二種		⊠ 500×500 ○	⊠ 6.5 ○	

タイルカーペットの敷き方 平場 ⊠ 市松敷き、 ○ 模様流し、 ○（ ）
階段部分 ⊠ 模様流し、 ○ 市松敷き、 ○（ ）
見切り、押え金物 材質（ ）
種類（ ）
形状等 ⊠ 図示、○（ ）

● 8. 合成樹脂塗床

(19.4.2、3) (表 19.4.4、5)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
● 厚膜型塗床材（弾性ウレタン樹脂系塗床）			⊠ 平滑仕上げ ○ 防滑仕上げ ○ つや消し仕上げ
○ 厚膜型塗床材（エポキシ樹脂系塗床）		○ 薄膜流しのべ工法 ○ 厚膜流しのべ工法 ○ 樹脂モルタル工法	○ 平滑仕上げ ○ 防滑仕上げ
○ 薄膜型塗床材（エポキシ樹脂系塗床）	○仕上表による		⊠ 平滑仕上げ
○ アクリル樹脂塗床（JIS K 5970）（防塵塗料塗り）		⊠ 製造所の指定による	工程 塗布量(kg/㎡) ⊠ 0.25kg/㎡以上 表面仕上げ ⊠ 平滑、 ○ 防滑 溶剤 ⊠ 水性、 ○ 溶剤系、 ○ 無溶剤系 仕上げ色 ⊠ 標準色、○

・塗料のホルムアルデヒド放散量 : ⊠ 規制対象外 、○（ ）

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	建築改修工事特記仕様書(5)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	—	図面番号	A-05
設計者	株式会社 日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県 上尾市		

章	項目	特記事項

19 内装工事

○ 9. フローリング張り [6]

(19.5.2～6)(表 19.5.1～5)

・単層フローリング :

○ フローリングボード1等

工法	○ 釘止め工法（ ○ 根太張り、○ 直張り）、○ 接着工法
樹種	⊠ なら
厚さ、大きさ	⊠ 標準仕様書表19.5.1による、○
仕上塗装	○ 塗装品、 ○ 無塗装品
間伐材等の適用	○ 適用する、 ○ 適用しない

○ フローリングブロック 1等

工法	⊠ 接着工法
樹種	⊠ なら
厚さ、大きさ	⊠ 標準仕様書表19.5.1による、○
仕上塗装	○ 塗装品、 ○ 無塗装品
間伐材等の適用	○ 適用する、 ○ 適用しない

・複合フローリング :

○ 天然木化粧複合フローリング

工法	○ 釘留め工法（ ○ 根太張り、○ 直張り）、○ 接着工法
樹種	⊠ なら
種別（表19.5.2）	⊠ A種、 ○ B種、 ○ C種
仕上塗装	○ 塗装品、 ○ 無塗装品
間伐材等の適用	○ 適用する、 ○ 適用しない

・フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 : ⊠ 規制対象外、○（ ）

・接着工法の場合の裏面緩衝材 : ⊠ 合成樹脂発泡シート、○（ ）

・現場塗装仕上げ : 施工箇所（ ）

⊠ ウレタン樹脂ワニス塗り

○ オイルステインの上、ワックス塗り

○ 生地のままワックス塗り

○ 10. 畳敷き

(19.6.2)(表 19.6.1)

・種別 : ○ A種、 ○ B種、 ○ C種、 ○ D種

（畳床： ○ KT-Ⅰ、 ○ KT-Ⅱ、○ KT-Ⅲ、 ○ KT-K、 ○ KT-N）

・下地の種類 : ○ 標準仕様書12.6.1による床組

○ ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン [4]）

○（ ）

・畳表及び畳床 : ホルムアルデヒド、アセドアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

● 11. せっこうボードその他のボード及び合板張り

(19.7.2、3)(表 19.7.1)

・適用 : 以下によるほか、図示による。

・合板類、MDF及びパーティクルボード、接着剤のホルムアルデヒド発散量 :

● 規制対象外、○（ ）

・木質系セメント板 :

種類	厚さ(mm)、規格等
○ 硬質木毛セメント板 [6]	○ 15、○ 20、○ 25、
○ 中質木毛セメント板 [6]	○ 15、○ 20、○ 25、
○ 普通木毛セメント板 [6]	○ 15、○ 20、○ 25、
○ 硬質木片セメント板 [6]	○ 12、○ 15、○ 18、○ 21、○
○ 普通木片セメント板 [6]	○ 30、○

・繊維強化セメント板 :

種類	厚さ(mm)、規格等
○ けい酸カルシウム板	タイプ 2（無石綿）○ 6、 ○ 8

・火山性ガラス質複層板 :

種類	厚さ(mm)、規格等
○ 火山性ガラス質複層板	

・繊維板 :

種類	厚さ(mm)、規格等
○ ハードボード（素地）[6]	○ 未研磨板（ ○ スタンダード、 ○ テンパード） RN
	○ 研磨板 （ ○ スタンダード、 ○ テンパード） RS
○ ハードボード（化粧）[6]	○ 内装用DI、 ○ 外装用DE
	○ 2.5、 ○3.5、○ 5、 ○7
○ ミディアムデンシティファイバーボード [6]	○ 3 、 ○7 、○ 9、 ○12
○ インシュレーションボード [6]	A級（ ○ 天井仕上、 ○ 内装仕上、○ ）
	○ 9 、 ○12、 ○15、 ○18

・パーティクルボード :

種類	厚さ(mm)、規格等
○ 単板張り パーティクルボード [6]	○ 無研磨板 VN、 ○ 研磨板 VS
	○ 10、○ 12、○ 15、○ 18、○
○ 化粧 パーティクルボード [6]	○ 単板オーバーレイ OV
	○ プラスチックオーバーレイ OO
	○ 塗装 OC
	○ 10（難燃）、 ○12（難燃）、○

・吸音材料 :

種類	厚さ(mm)、規格等
○ ロックウール化粧吸音板	○ フラットタイプ（○ 9（不燃）、○ 12(不燃)、○ ）
	○ 凹凸タイプ （ ○ 12(不燃)、○ 15(不燃)、○ ）
○ ロックウール吸音ボード1号	○ 25、○
● グラスウール吸音ボード32K	● 25(ガラスクロス包)、 ○

・せっこうボード製品 :

種類	厚さ(mm)、規格等
● せっこうボード（※）	● 12.5（不燃）、○15（不燃）、○
○ 不燃積層せっこうボード	○ 9.5（不燃）、○
	○ 化粧無（下地張り用）、○ 化粧有（トラバーチン模様）
● シージングせっこうボード	● 12.5 （ ⊠ 不燃 ○ 準不燃 ）
○ 強化せっこうボード	○ 12.5（不燃）、 ○ 15（不燃）
○ せっこうラスボード	○ 9.5
○ 化粧せっこうボード（木目）	○ 12.5（不燃）幅440mm程度
	模様（ ○ 柾目、○ 板目） 専用下地材有り
● 化粧せっこうボード（トラバーチン模様）	○ 9.5（準不燃）
	● 9.5（不燃）

・合板、化粧板 :

種類	厚さ(mm)、規格等
○ 普通合板 [6]	表面の樹種
	生地 透明塗料塗り （ ⊠ ラワン程度、○ ）
	不透明塗料塗り（ ⊠ しな程度 、○ ）
	板面の品質（ ）
	接着の程度（ ○ 1類、 ○ 2類 ）
	厚さ(mm)（ ）
	防虫処理 （ ○ する、○ しない ）
○ 天然木化粧合板 [6]	化粧板の樹種名（ ）
	接着の程度（ ○ 1類、 ○ 2類 ）
	厚さ(mm)（ ）
	防虫処理 （ ○ する、○ しない ）
○ 特殊加工化粧合板	化粧加工の方法（ ○オーバーレイ、 ○ プリント、 ○ 塗装）
	表面性能（ ）タイプ
	接着の程度（ ○ 1類、 ○ 2類 ）
	厚さ(mm)（ ）
	防虫処理 （ ○ する、○ しない ）
○ メラミン樹脂化粧板	JIS K 6903 による厚さ（⊠ 1.2、○ ）
○ ポリエステル樹脂化粧板	

・せっこうボード等の下地 : ○ 図示、 ○（ ）

・遮音シール材 : ○ 適用する

（ ○ シーリング材、 ○ ジョイントコンパウンド）

○ 適用しない

・合板類の張り付け : ○ B種 、 ○ A種

・せっこうボードの目地工法 : ○ 仕上げ表による、○（ 目透し工法 ）

○ ※ 複合板（新SI工法）

19 内装工事

○ 12. 壁紙張り

(19.8.2、3)

・ホルムアルデヒド放散量 : ⊠ 規制対象外、○（ ）

施工箇所	壁紙の種類	防火性能		備考
	○ 紙、○繊維、○ プラスチック、○ 無機質、○その他	⊠ 不燃、	○ 準不燃	
	○ 紙、○繊維、○ 無機質、○その他	○ 難燃、		
	○ 紙、○繊維、○ プラスチック、○ 無機質、○その他	⊠ 不燃、	○ 準不燃	
	○ 紙、○繊維、○ 無機質、○その他	○ 難燃、		

・モルタル、プラスター面の素地ごしらえ : ⊠ B種、 ○ A種

・コンクリート面の素地ごしらえ : ⊠ B種、 ○ A種

・せっこうボード面の素地ごしらえ : ⊠ B種、 ○ A種

○ 13. 断熱材 [6]

(19.9.2、3)

・フェノールフォームを使用した断熱材のホルムアルデヒド放散量 :

⊠ 規制対象外、○（ ）

・断熱材打込み工法 :

種類	厚さ(mm)	
○ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材		
○ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材(※)		
○ 硬質ウレタンフォーム断熱材		
○ フェノールフォーム断熱材		

⊙断熱材現場発泡工法 :

断熱材の種類 ○ A種1 ○ A種1H

厚さ(mm) ○ 25、 ○ 30、○（ ）

施工箇所 ○ 図示 ○（ ）

⊙現場発泡断熱材 :

（品質・性能及び試験方法） 建築材料等品質性能表による

○ ※ 複合板（新SI工法）

20 ユニット及びその他の工事

○ 1. フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工箇所			
構法	○ 置敷式 ○ 支柱調整式 ○	○ 置敷式 ○ 支柱調整式 ○	○ 置敷式 ○ 支柱調整式 ○
寸法(mm)	○ 500×500 ○	○ 500×500 ○	○ 500×500 ○
高さ(mm)			
耐震性能	○ 1.0G、 ○ 0.6G	○ 1.0G、 ○ 0.6G	○ 1.0G、 ○ 0.6G
所定荷重	○ 3.000N、 ○ 5.000N	○ 3.000N、 ○ 5.000N	○ 3.000N、 ○ 5.000N
表面仕上材	○ 帯電防止床タイル ○ タイルカーペット ○	○ 帯電防止床タイル ○ タイルカーペット ○	○ 帯電防止床タイル ○ タイルカーペット ○
備考			

（品質・性能及び試験方法） 建築材料等品質性能表による

・寸法精度 :

⊠ 標準仕様書20.2.2(2)(ｵ)(a)～(c)による

○ 以下による

パネルの長さ （ ）

パネルの平面形状（角度） （ ）

フリーアクセスフロアの高さ （ ）

○ 2. 可動間仕切

(20.2.3)

構造形式	○ スタッド式（内蔵）、 ○ スタッド式(露出)、 ○ パネル式
	○ スタッドパネル式
構成基材の種類	スタッド
	パネル
表面仕上材(パネル表面仕上げ)	○ メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付、 ○ 壁紙張り
遮音性(dB/500Hz)	○ 0、 ○ 12、 ○ 20、 ○ 28、○ 36
防火性能	○ 不燃、○

・パネル内に取付ける建具 : ○ あり（⊠ 図示、 ○ ）、 ○ なし

・ドアクローザー、 丁番 錠前、上げ落と :

⊠ 標準仕様書16章8節の建具用金物に対応する材質

・表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能 :

標準仕様書19章による

・パネル材のホルムアルデヒド放散量 : ⊠ JIS A 6512によりF☆☆☆☆以上、

○ : ）

○ 3. 移動間仕切

(20.2.4)

走行方法		○ 平行方向移動式、 ○ 二方向移動式
操作方法による種別		○ 手動式、 ○ 電動式、 ○ 部分電動式
圧接装置の操作方法		○ プッシュ式、○ ハンドル式、○
総厚さ(mm)		
パネル表面材	材質	○ 鋼板、 ○
	仕上げ	○ 焼付塗装、 ○ 壁紙張り、 ○
遮音性(dB/500Hz)		○ 36未満、 ○ 36以上

（品質・性能及び試験方法） 建築材料等品質性能表による

・パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能 : 標準仕様書19章による

・ハンガーレールの取付下地の補強 :

⊠ 取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、支用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する

○ 図示

・ハンガーレール :

⊠ ランナーを取り付けた状態で、パネル重量の5倍以上の荷重を、パネル1枚に使用するランナー数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないものとする

○（ ）

・ランナー :

⊠ パネル重量の5倍以上の荷重を、パネル1枚に使用するランナー数で除した値に対して、耐力及び変形量が支用上支障のないものとする

○（ ）

○ 4. トイレブース

(20.2.5)

表面材の種類		○ メラミン樹脂系化粧板、 ○ ポリエステル樹脂系化粧板
脚部	形状	⊠ 幅木タイプ、 ○
ドアエッジ	材質	○ アルミニウム製、 ○ ステンレス製、
		○ 表面材と同材 、○ 製造所の仕様
	形状	○ 標準、 ○ R

（品質・性能及び試験方法） 建築材料等品質性能表による

・パネル材のホルムアルデヒド放散量 : ⊠ JIS A 6512によりF☆☆☆☆以上

○ ）

○ 5. 隔て板

(10.7.4)

・材料 : ○ 石（厚さ ⊠ 40、○ 図示）、○ 図示

○ 6. 階段滑り止め

(20.2.6)

材種	○ ステンレス製、 ○ 黄銅製押出型材、 ○ アルミニウム製押出型材、	
	○（ ）	
滑り止め材	形状	○ ひも型、 ○ タイヤ型
	材質	○ ゴム 、 ○ 合成樹脂、 ○（ ）
取付け	工法	⊠ 接着工法、 ○ 埋込み工法
	幅(mm)	
	端部フラットエンド	○ あり、 ● なし

○ 7. 手すり

(20.2.6)

材種	表面仕上げ	サイズ(mm)	取付箇所	備考
○ 集成材	○ クリアラッカー ○	○ 35、○ 45、 ○		
○ ビニル製ハンドレール				
○ アルミ製	BB-1種(表14.2.1)	図示		
○ アルミ製	BB-1種(表14.2.1)			

※ BL認定品、65型BL手摺（300型）とする

○ 8. 黒板及びホワイトボード [6]

(20.2.8)

○ 黒板	区分	⊠ 焼付け 、○（ ）
	種類	⊠ ほうろう黒板、○（ ）
	色	⊠ 緑 、○（ ）
○ ホワイトボード		

○ 9. 鏡

○ 機械設備（衛生）工事 (20.2.9)

取付箇所	
寸法(mm)	○ 図示、○
厚さ(mm)	⊠ 5 、○

20 ユニット及びその他の工事

○ 10. 表示

(20.2.10)

・衝突防止表示 :

形状、寸法 ○ 30φ 、○（ ）

材質 ○ ステンレス製、○（ ）

・案内用図記号 : JIS Z 8210による

・非常用進入口 : ○ 適用する、○ 適用しない

○誘導標識、非常用進入口等の表示 ○ 消防法に適合する市販品、○（ ）

・色、書体、印刷等の種別、取付け形式等 : 図示による

⊙その他の表示 :● 室名札／位置は図示 <8-43-1> W 300 × H 60 縦差式 ｼｰﾙ文字

○ 11. 煙突ライニング

(20.2.11)

・適用安全使用温度（上限温度） :○ 400℃、○ 650℃、 ○（ ）

・適用安全使用温度（下限温度） :○（ ）

・煙突用成形ライニング材 :

（品質・性能及び試験方法） 建築材料等品質性能表による

○ 12. ブラインド

(20.2.14)

形式	操作方法	種類	スラットの材種	スラット幅(mm)	ボックスレールの材種
○ 横型	○ 手動	⊠ ギヤ式 ○ コード式 ○ 操作棒式	⊠ アルミニウム合金製 [6] ○	⊠ 25 ○	⊠ 鋼製 ○
	○ 電動				
○ 縦型	○ 手動	⊠ 2本操作コード式 ○ 1本操作コード式	○ アルミスラット ○ クロススラット ○	○ 80 ○ 100 ○	アルミニウム合金製
	○ 電動	—			

・スラットの材質 :

アルミスラット 焼付け塗装仕上げ

クロススラット 消防法で定める防炎生能の表示がある特殊樹脂加工

・ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は、[6] とする。

⊙取り付け箇所 : ⊠ 図示、○（ ）

⊙寸法 : ⊠ 図示、○（ ）

○ 13. ロールスクリーン [6]

(20.2.15)

操作方式	○ スプリング式、 ○ コード式、 ○ 電動式
幅、高さ	○ 図示、○
材種	○ ガラス繊維製、 ○ 合成・天然繊維製、 ○ 木製
品質等	
その他の材料	⊠ ロールスクリーンの製造所の仕様、○

○ 14. カーテン

(20.2.16)

形式	○ シングル、 ○ ダブル	
	○ 片引き 、 ○ 引分け	
開閉操作	○ 手引き 、 ○ ひも引き	
	○ 電動	
ひだの種類	○ フランスひだ	
	○ 箱ひだ、つまつまひだ	
	○ プレーンひだ、片ひだ	
きれ地の種別、品質、特殊加工等		
取付箇所	○ 図示 、 ○	○ 図示 、 ○
備考		（縫幅）

・ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は、[6] とする

・縫幅カーテンの両端、上部及び召合せの重なり :

⊠ 300mm以上、 ○（ ）

○ 15. カーテンレール

(20.2.16)

材料による区分	⊠ アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材
	○ ステンレス製
強さによる区分	⊠ 10-90 、○
仕上げ	⊠ アルマイト、 ○
形状	⊠ 角形 、 ○

○ 16. ブラインドボックス及びカーテンボックス

溝幅×深さ(mm)	○ 90×150、 ○ 120×80、 ○ 120×150、 ○ 150×80、 ○ 図示
材質	○ 集成材（仕上げ : ）
	○ アルミニウム製 押出し型材（市販品）
	種別（標準仕様書 表14.2.1）○ BC-1種、 ○ BC-2種
	色合い ○ 標準色（ ）、○ 特注色（ ）
	○ 鋼製 （仕上げ : ）

○ 17. 天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
⊠ アルミニウム製 ○	○ 450×450 ○ 600×600 ○	○ 一般形 ○ 気密形	○ 屋内外用 ○ 屋内用	○ 額縁タイプ ○ 目地タイプ	○ 額縁タイプ ○ 目地タイプ

（品質・性能及び試験方法） 建築材料等品質性能表による

● 18. 壁点検口

材種	寸法	形式		備考
○ アルミニウム製 ○ ステンレス製 ● 塩ビ製	● 300×300 ○ 450×300 ○ 600×600	● 一般形 ○ 密閉形	○ 屋内外用 ● 屋内用	○ 鍵付き ○

密閉形とはボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする

（品質・性能及び試験方法） 建築材料等品質性能表による

○ 19. 床点検口

材種	寸法	形式		備考
○ アルミニウム製 ○ ステンレス製 ○ 鋼製	○ 450×450 ○ 600×600 ○	○ 一般形 ○ 密閉形	○ 屋内外用 ○ 屋内用	○ 鍵付き ○

密閉形とはボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする

（品質・性能及び試験方法） 建築材料等品質性能表による

○ 20. 耐震スリット

方向	タイプ	耐火性能	防水性能	備考
○ 垂直方向 ○ 水平方向	○ 完全（全貫通型） ○	○ 耐火型 ○ 有り ○ 非耐火型 ○ 無し		

・目地 :

目地	内壁	外壁
目地材	○ シーリング材(見え掛かりのみ) ○	○ シーリング材(見え掛かりのみ) ○ シーリング材（内外とも）
目地寸法（幅mm×深さmm）	○ 20×10 ○	○ 20×10 ○

目地材の材質は標準仕様書9.7.1による

○ 21. 止水板

形状	○ 差込式、 ● 据置式、 ○ 壁張り式
施工箇所	○ 図示 、 ○

○ 22. エキスパンションジョイント金物

○ 施工箇所	
材質	○ アルミニウム製、 ○ ステンレス製
建築物間のクリアランス(mm)	○ 50、 ○100、 ○ 150、 ○
変位追従量(mm)	避難経路の床等 以ニ、その他 以上
耐火性能	○ 有り、（ ）、○ 無し
断熱性能	○ 有り、（ ）、○ 無し
備考	
○ 施工箇所	
材質	○ アルミニウム製、 ○ ステンレス製
建築物間のクリアランス(mm)	○ 50、 ○100、 ○ 150、 ○
変位追従量(mm)	避難経路の床等 以ニ、その他 以上
耐火性能	○ 有り、（ ）、○ 無し
断熱性能	○ 有り、（ ）、○ 無し
備考	

外部に設置するものは防水型とする

エキスパンションジョイントカバーには脱落防止措置を講ずる

○ 23. くつふきマット

材種	受け枠	備考
○ 塩化ビニルスはゴム製 ○ 硬質アルミニウム合金製 ○ ステンレス鋼（SUS304）製 ○	○ ステンレス鋼（SUS304） ○ 硬質アルミニウム合金 ○	

○ 24. タラップ

(2(.2.12)

・タラップ : ○ ステンレス製 SUS304（表面処理 ○ 研磨なし、 ○ HL程度）

○ 鋼製 （表面処理 ⊠ 溶融亜鉛めっきC種、○（ ））

20 ユニット及びその他の工事

○ 25. 流し台ユニット

ユニット分類	寸法(mm) W	D	H	備考
○ 流し台	○ 1,200 ○ 1,500 ○ 1,800 ○	○ 550 ○ 600 ○ 650 ○	○ 800 ○ 850 ○	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製
○ コンロ台	○ 600 ○	○ 550 ○ 600 ○ 650 ○	○ 620 ○ 670 ○	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製
○ つり戸棚	○ 1,200 ○ 900 ○	○ 450 ○	○ 500 ○ 700 ○	市販品
○ 水切り	○ 1,200 ○ 900 ○ 600 ○	—	—	市販品 ステンレス製 ○ 1段式、○

・品質・性能 : JIS A 4420による

・形状 : ⊠ 図示、○（ ）

○ 26. 旗竿

材種	形式	高さ(mm)	操作方法	固定方法	備考
○ アルミニウム合金製 ○	○ テーパー式 ○ 同一断面式		○ ハンドル式 ○ ロープ式	○ 埋込式 ○ ベース式 ○ バンド式	

○ 27. 旗竿受金物

・材種 :○ ステンレス製（SUS 304）、○（ ）

○ 28. 車止め支柱

形式	材種	柱径、肉厚(mm)	高さ(mm)
○ 上下式鎖内蔵式	○ 標準品 ○ スプリング式	○ ステンレス製 ○	
○			

○ 29. フェンス

フェンスの種類	○ ビニル被覆エキスパンドフェンス、 ○ 樹脂塗装メッシュフェンス
	○ 鋼管フェンス、 ○ アルミフェンス、 ○（ ）
高さ	○ 図示、○

○ 30. プレキャストコンクリート

(20.3.3、4)

・コンクリートの設計基準強度 :

⊠ 水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m³を満足する調合強度

○ 図示

・配筋

⊠ 配筋を定めた計算書を監督職員に提出する、○ 図示

・取付け方法 :

⊠ 図示、 ○（ ）

○ 31. 間知石及びコンクリート間知ブロック積み

(20.4.2、3)

材種		種類	質量区分	備考
○ 間知石	○ 花こう岩 ○ 凝灰岩	—	—	
○ コンクリート間知ブロック	—		○ A ○ B	

・積み方 : ⊠ 谷積み、 ○ 布積み

・目塗り : ○ 図示 、 ○ ）

・伸縮調整目地 : 材種 ○ 図示、○（ ）

厚さ ○ 図示、○（ ）

○ 32. 鋼製書架及び物品棚

種類	規格等	JISによる種類
○ 鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	○ 1種、 ○ 2種、 ○ 3種
○ 鋼製物品棚		○ 4種、 ○ 5種、 ○ 6種、 ○
○		

○ 33. 屋内掲示板

・枠の材質 : ⊠ アルミニウム製 、○（ ）

・表面の材質 : ⊠ 塩ビ発泡シート貼り、○（ ）

○ 34. 洗面カウンター

・材種 : ○ メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材）、○ 人工大理石

・奥行き(mm) : ○ 約 450、 ○ 約 600

○ 35. 防煙垂れ壁

・固定式 :

材質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備考
⊠ 網入り磨板ガラス ○ 線入り磨板ガラス	⊠ 6.8 ○	⊠ 500 ○	アルミ製枠付き

・可動式

種類	材質	高さ(mm)	備考
○ 垂直降下式（巻取り型）	不燃布（不燃認定品）	⊠ 500 ○ 800 ○	ガイドレール ⊠ 固定式（壁埋込型） ○ 可動式（天井収納型）
○ 回転降下式	鋼板製又はアルミ製	○ 500 ○ 800 ○	表面仕上げ ⊠ 天井材張り ○

降下機構 煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）

○ 36. 屋外掲示板

・照明器具 : ⊠ 有り、 ○ 無し

・施錠 : ⊠ 有り、 ○ 無し

○ 37. 収納家具

・材質、形状、寸法 :

⊠ 図示、 ○（ ）

・合板類、MDF 及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量 :

⊠ 規制対象外、○（ ）

・壁等に固定する家具 :

家具名称	設置場所	固定方法	備考
		○ 壁固定（図示）	
		○ 床固定（図示）	
		○ 壁固定（図示）	
		○ 床固定（図示）	
		○ 壁固定（図示）	
		○ 床固定（図示）	
		○ 壁固定（図示）	
		○ 床固定（図示）	

軽量鉄骨壁下地等への補強 ○ 図示、○（ ）

収納物の散乱防止措置（ラッチ機構、ロック機構等） 講ずる

地震力に対する安全性

設計用震度	性能
設計用水平震度（K_H） ⊠ 1.0 ○	設計用震度の地震による引抜き力に対して、固定金具に生じる応力度が所定の応力度内にあり、有害な残留ひずみが生じないものとする。 ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。
設計用鉛直震度（K_V） ⊠ 0.5 ○	所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む）が定める値とする。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	建築改修工事特記仕様書(6)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	—	図面番号	A-07
設計者	株式会社 日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県 上尾市		

外部仕上表

屋根	コンクリート金ゴテ打放し、アスファルト防水A-2、ポリエチレンフィルム厚0.15、豆砂利コンクリート金ゴテ厚90(伸縮目地：軟質塩ビ製 巾＝25)
パラペット	立上り、コンクリート金ゴテ、アスファルト防水A-2、防水モルタル金ゴテ仕上、笠木：アルミ自然発色厚2.0
外壁	コンクリート打放し（増打ち20mm）、吹付タイル
巾木(腰)	防水モルタル刷毛引き
庇	屋根：着色耐酸被膜鋼板厚0.5、庇鼻・庇脇：アルミ厚2.0、アクリル樹脂焼付塗装
玄関ポーチ	床：磁器質床タイル張り　200×100
足洗場	内部防水モルタル金ゴテ
排水溝	内部防水モルタル金ゴテ、グレーチング(亜鉛メッキ)

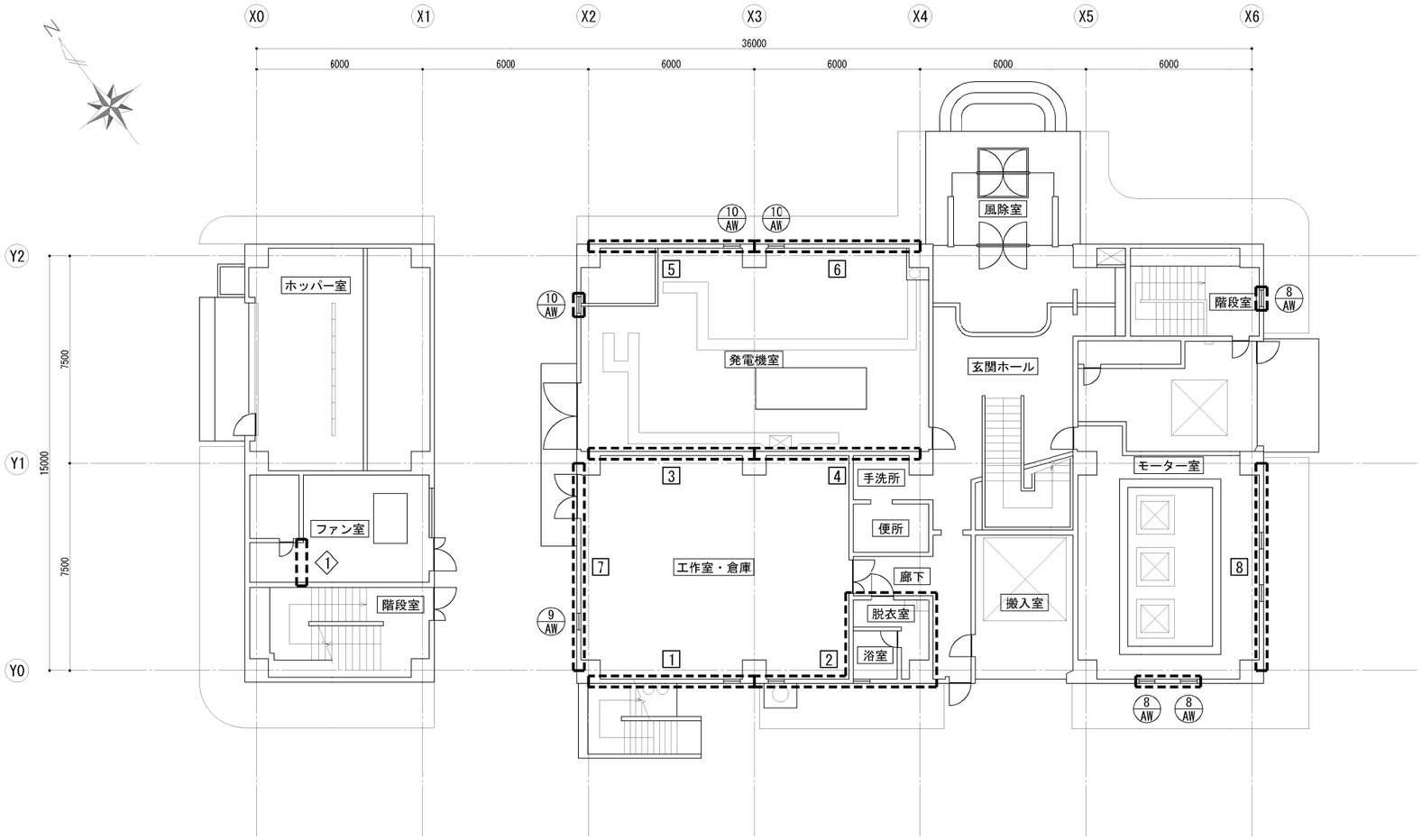
内部仕上表

階	室名	床		巾木		腰			壁			天井				
		下地	仕上	仕上	高さ	下地	仕上	高さ	下地	仕上	柱型	下地	仕上	梁型	廻縁	天井高
B2階	沈砂池湧水槽		コンクリート金ゴテ							コンクリート打放し	コンクリート打放し		コンクリート打放し	コンクリート打放し		
	ポンプ室		軽量コンクリート金ゴテ厚100							コンクリート打放し	コンクリート打放し		コンクリート打放し	コンクリート打放し		
	水槽		無機質浸透性塗布防水							無機質浸透性塗布防水	無機質浸透性塗布防水		コンクリート打放し	コンクリート打放し		
B1階	沈砂池機械室		軽量コンクリート金ゴテ厚100	モルタル金ゴテ	200					コンクリート打放し	コンクリート打放し		コンクリート打放し	コンクリート打放し		
	配管室		モルタル金ゴテ	モルタル金ゴテ	200					コンクリート打放し	コンクリート打放し		コンクリート打放し	コンクリート打放し		
中1階	配管室		モルタル金ゴテ	モルタル金ゴテ	200					コンクリート打放し	コンクリート打放し		コンクリート打放し	コンクリート打放し		
1階	風除室	モルタル	磁器質床タイル張り200×100	ステンレス厚1.5	100					アルミ厚2.0 アクリル樹脂塗装パネル		L.G.S	アルミ厚2.0 アクリル樹脂塗装パネル			2,500
	玄関ホール	モルタル	ビニール系タイル張り 一部磁器質床タイル張り	小口タイル竪張り(役物)	100				コンクリート打放し	吹付タイル		L.G.S	岩綿吸音板張り厚12		アルミ製	5,000
	モーター室		軽量コンクリート金ゴテ厚300	モルタル金ゴテ	200	コンクリート	パーライト金ゴテ厚5	2,000	コンクリート打放し	パーライト吹付厚5	パーライト吹付厚5	コンクリート	パーライト吹付厚5	パーライト吹付厚5		
	搬入室		モルタル金ゴテ	モルタル金ゴテ	200	コンクリート	パーライト金ゴテ厚5	2,000	コンクリート打放し	パーライト吹付厚5	パーライト吹付厚5	コンクリート	パーライト吹付厚5	パーライト吹付厚5		
	発電機室		軽量コンクリート金ゴテ厚300	モルタル金ゴテ	200				コンクリート打放し	グラスウール厚50 ガラスクロス(ピン止)		コンクリート	グラスウール厚50 ガラスクロス(ピン止)			
	工作室・倉庫		コンクリート金ゴテ	モルタル金ゴテ	200				コンクリート打放し	アクリル系リシン吹付	アクリル系リシン吹付	コンクリート打放し	アクリル系リシン吹付	アクリル系リシン吹付		
	1Fファン室		コンクリート金ゴテ	モルタル金ゴテ	200				コンクリート打放し	アクリル系リシン吹付	アクリル系リシン吹付	コンクリート打放し	アクリル系リシン吹付	アクリル系リシン吹付		
	1Fホッパー室	アスファルト防水 E-2モルタル	クリンカータイル (152角)	モルタル金ゴテ	200				コンクリート打放し	アクリル系リシン吹付	アクリル系リシン吹付	コンクリート打放し	アクリル系リシン吹付	アクリル系リシン吹付		
	手洗所	アスファルト防水 E-2モルタル	ビニール系タイル張り						モルタル	一部吹付タイル 半磁器質色タイル張り (100角)		L.G.S	フレキシブルボード厚4目 透し張り V.Pステップル仕上		アルミ製	2,500
	1F便所	アスファルト防水 E-2モルタル	磁器質モザイクタイル張り (25角)						モルタル	半磁器質色タイル張り (100角)		L.G.S	フレキシブルボード 厚4目透し張り V.Pステップル仕上		アルミ製	2,500
	廊下	モルタル金ゴテ	ビニール系タイル張り	塩ビ製ソフト巾木	100				モルタル金ゴテ	E.P		L.G.S	フレキシブルボード厚4目 透し張り V.Pステップル仕上		アルミ製	3,700
	脱衣室	木床組み	木質複合板張り厚13	ツガ O.S	100				モルタル金ゴテ	V.P		L.G.S	フレキシブルボード厚4目 透し張り V.Pステップル仕上		ツガ V.P	2,500
	浴室		フロアーパン(腰付)						モルタル	半磁器質色タイル張り (100角)		L.G.S	フレキシブルボード厚4目 透し張り V.Pステップル仕上		桧 V.P	3,000
中2階	M2Fファン室		コンクリート金ゴテ	モルタル金ゴテ	200				コンクリート打放し	パーライト吹付厚5	パーライト吹付厚5	コンクリート打放し	パーライト吹付厚5	パーライト吹付厚5		
2階	ホール	モルタル金ゴテ	ビニール系タイル張り	小口タイル竪張り(役物)	100				コンクリート打放し	吹付タイル		L.G.S	岩綿吸音板張り厚12		アルミ製	3,000
	電気室		軽量コンクリート金ゴテ厚300	モルタル金ゴテ	200	コンクリート	パーライト金ゴテ厚5	2,000	コンクリート	パーライト吹付厚5	パーライト吹付厚5	木毛セメント板 厚25打込み	パーライト吹付厚5	パーライト吹付厚5		
	操作盤室	モルタル金ゴテ	ビニール系タイル張り (帯電防止)一部ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱｰ (帯電防止タイル張り)	塩ビ製ソフト巾木	100				モルタル金ゴテ	E.P		L.G.S	化粧石こうボード張り厚9		アルミ製	3,000
	会議室	モルタル金ゴテ	ビニール系タイル張り	塩ビ製ソフト巾木	100				モルタル金ゴテ	E.P		L.G.S	岩綿吸音板張り厚12		アルミ製	3,000
	書庫	モルタル金ゴテ	ビニール系タイル張り	塩ビ製ソフト巾木	100				モルタル金ゴテ	E.P		L.G.S	化粧石こうボード張り厚9		塩ビ製	3,000
	空調機室		コンクリート金ゴテ	モルタル金ゴテ	200				コンクリート打放し	グラスウール厚50 ガラスクロス(ピン止)	グラスウール厚50 ガラスクロス(ピン止)	木毛セメント板 厚25打込み	グラスウール厚50 ガラスクロス(ピン止)	グラスウール厚50 ガラスクロス(ピン止)		
	宿直室	木床組み	タタミ敷き	タタミ敷寄せ								木造	難燃杉柱合板目透し張り		桧 素地	2,400
	湯沸室	モルタル金ゴテ	ビニール系タイル張り	塩ビ製ソフト巾木	100				モルタル金ゴテ	V.P 半磁器質色タイル張り (100角)		L.G.S	フレキシブルボード厚4目 透し張り V.Pステップル仕上		桧 V.P	2,500
	2Fホッパー室		コンクリート金ゴテ	モルタル金ゴテ	200				コンクリート打放し	アクリル系リシン吹付	アクリル系リシン吹付	木毛セメント板 厚25打込み	アクリル系リシン吹付	アクリル系リシン吹付		
	2F便所	アスファルト防水 E-2モルタル	磁器質モザイクタイル張り (25角)						モルタル	半磁器質色タイル張り (100角)		L.G.S	フレキシブルボード厚4目 透し張り V.Pステップル仕上		ツガ V.P	3,100
階段	階段A	モルタル金ゴテ	ビニール系タイル張り	モルタル金ゴテE.P	100					吹付タイル		木毛セメント板 厚25打込み	パーライト吹付厚5			
	階段B	コンクリート	モルタル金ゴテ	モルタル金ゴテ	100					コンクリート打放し	コンクリート打放し		コンクリート打放し	コンクリート打放し		
	階段C	コンクリート	モルタル金ゴテ	防水モルタル金ゴテ	100					コンクリート打放し	コンクリート打放し		コンクリート打放し	コンクリート打放し		
	外部階段	モルタル金ゴテ	磁器質ノンスリップタイル						コンクリート打放し	アクリル系リシン吹付		コンクリート打放し	アクリル系リシン吹付			

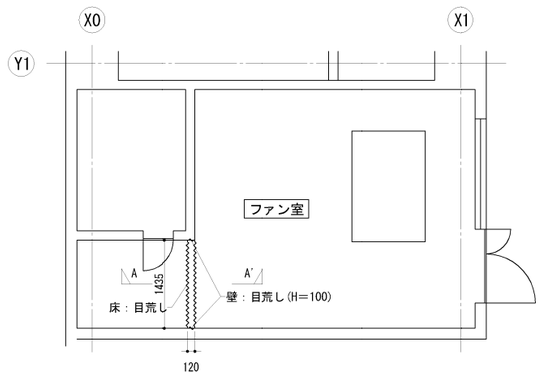
工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	仕上表［改修前・後］		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	―	図面番号	A-03
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

【1F：撤去工事概要表】

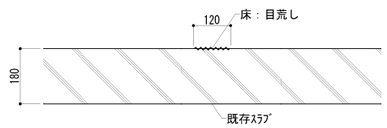
項目	No.	工 事 概 要	詳細図面番号
耐水化	◇1	床　：目荒し	A-09
耐震補強（構造部材）	1	柱・壁：目荒し 床　：一部撤去（ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ） 天井　：一部撤去（ｱｸﾘﾙ系ﾘｼﾝ吹付）	S-10
	2	柱・壁：目荒し・袖壁部分撤去 床　：一部撤去 工作室・倉庫（ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ） 浴室（ﾌﾛｱｰﾊﾟﾝ） 天井　：一部撤去 工作室・倉庫（ｱｸﾘﾙ系ﾘｼﾝ吹付） 浴室（ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ） その他：浴室部分撤去	A-17 S-11
	3	柱・壁：目荒し 床　：一部撤去（ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ） 天井　：一部撤去（ｱｸﾘﾙ系ﾘｼﾝ吹付）	S-12
	4	柱・壁：目荒し・袖壁部分撤去 床　：一部撤去 工作室・倉庫（ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ） 手洗所（ﾋﾞﾆｰﾙ系ﾀｲﾙ張り） 天井　：一部撤去 工作室・倉庫（ｱｸﾘﾙ系ﾘｼﾝ吹付） 手洗所（ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ） その他：手洗所部分撤去	A-16 S-13
	5	柱・壁：目荒し 床　：一部撤去（軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ） 天井　：一部撤去（ｸﾞﾗｽｳｰﾙ） その他：防液堤部分撤去	S-14
	6	柱・壁：目荒し 床　：一部撤去（軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ） 天井　：一部撤去（ｸﾞﾗｽｳｰﾙ）	S-15
	7	柱・壁：目荒し 床　：一部撤去（ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ） 天井　：一部撤去（ｱｸﾘﾙ系ﾘｼﾝ吹付）	S-16
	8	柱・壁：目荒し 床　：一部撤去（軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ） 天井　：一部撤去（ﾊﾞｰﾗｲﾄ吹付）	S-17
耐震補強（非構造部材）	8 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具撤去（FIXｶﾞﾗｽのみ）×3	A-15
	9 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具撤去 壁　：はつり	
	10 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具撤去（FIXｶﾞﾗｽのみ）×3	



1階 平面図［改修前］ (1/100)



平面詳細図［改修前］ (1/50)



A-A'断面詳細図［改修前］ (1/10)

【凡例】

◇* ：耐水化工事箇所を示す

⊡* ：耐震補強工事箇所を示す

：撤去工事箇所を示す

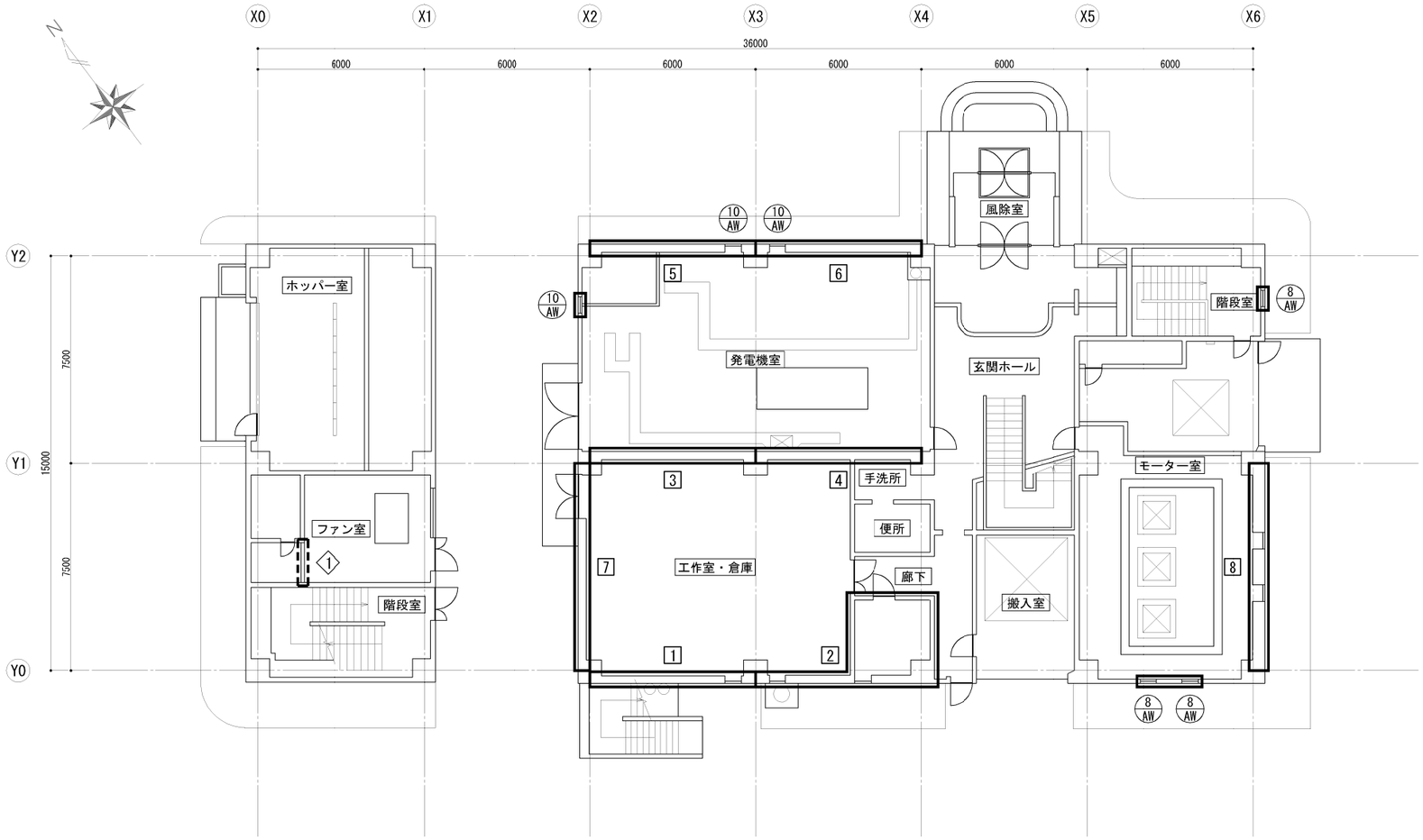
：改修工事箇所を示す

** ：建具工事箇所を示す（非構造部材の耐震化）

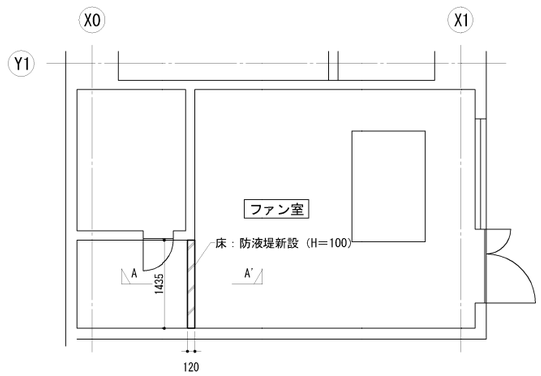
工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	1階 平面図［改修前］		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	図示	図面番号	A-03
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

【1F：改修工事概要表】

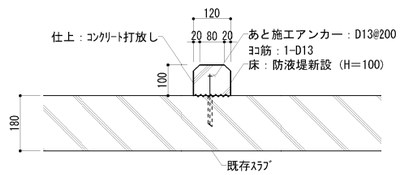
項目	No.	工 事 概 要	詳細図面番号
耐水化	◇1	床　：防液堤新設（H＝100）	A-10
耐震補強（構造部材）	1	壁　：既存EW18＋増壁EW12 床　：復旧（ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ） 天井　：復旧（ｱｸﾘﾙ系ﾘｼﾝ吹付）	S-10
	2	壁　：既存EW15＋増壁EW15・袖壁復旧 床　：復旧 工作室・倉庫（ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ） 浴室（ﾌﾛｱｰﾊﾟﾝ） 天井　：復旧 工作室・倉庫（ｱｸﾘﾙ系ﾘｼﾝ吹付） 浴室（ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ） その他：浴室改修	A-17 S-11
	3	壁　：既存EW15＋増壁EW15 床　：復旧（ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ） 天井　：復旧（ｱｸﾘﾙ系ﾘｼﾝ吹付）	S-12
	4	壁　：既存EW15＋増壁EW15・袖壁復旧 床　：一部撤去 工作室・倉庫（ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ） 手洗所（ﾋﾞﾆｰﾙ系ﾀｲﾙ張り） 天井　：一部撤去 工作室・倉庫（ｱｸﾘﾙ系ﾘｼﾝ吹付） 手洗所（ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ） その他：手洗所改修	A-16 S-13
	5	壁　：既存EW15＋増壁EW15 床　：復旧（軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ） 天井　：復旧（ｸﾞﾗｽｳｰﾙ） その他：防液堤復旧	S-14
	6	壁　：既存EW15＋増壁EW15 床　：復旧（軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ） 天井　：復旧（ｸﾞﾗｽｳｰﾙ）	S-15
	7	壁　：既存EW15＋増壁EW15 床　：復旧（ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ） 天井　：復旧（ｱｸﾘﾙ系ﾘｼﾝ吹付）	S-16
	8	壁　：既存EW15＋増壁EW30 床　：復旧（軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ） 天井　：復旧（ﾊﾞｰﾗｲﾄ吹付）	S-17
耐震補強（非構造部材）	8 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具（合わせｶﾞﾗｽ新設）×3	A-15
	9 AW	壁　：閉塞	
	10 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具（複層合わせｶﾞﾗｽ新設）×3	



1階 平面図［改修後］ (1/100)



平面詳細図［改修後］ (1/50)



A-A'断面詳細図［改修後］ (1/10)

【凡例】

◇* ：耐水化工事箇所を示す

* ：耐震補強工事箇所を示す

：撤去工事箇所を示す

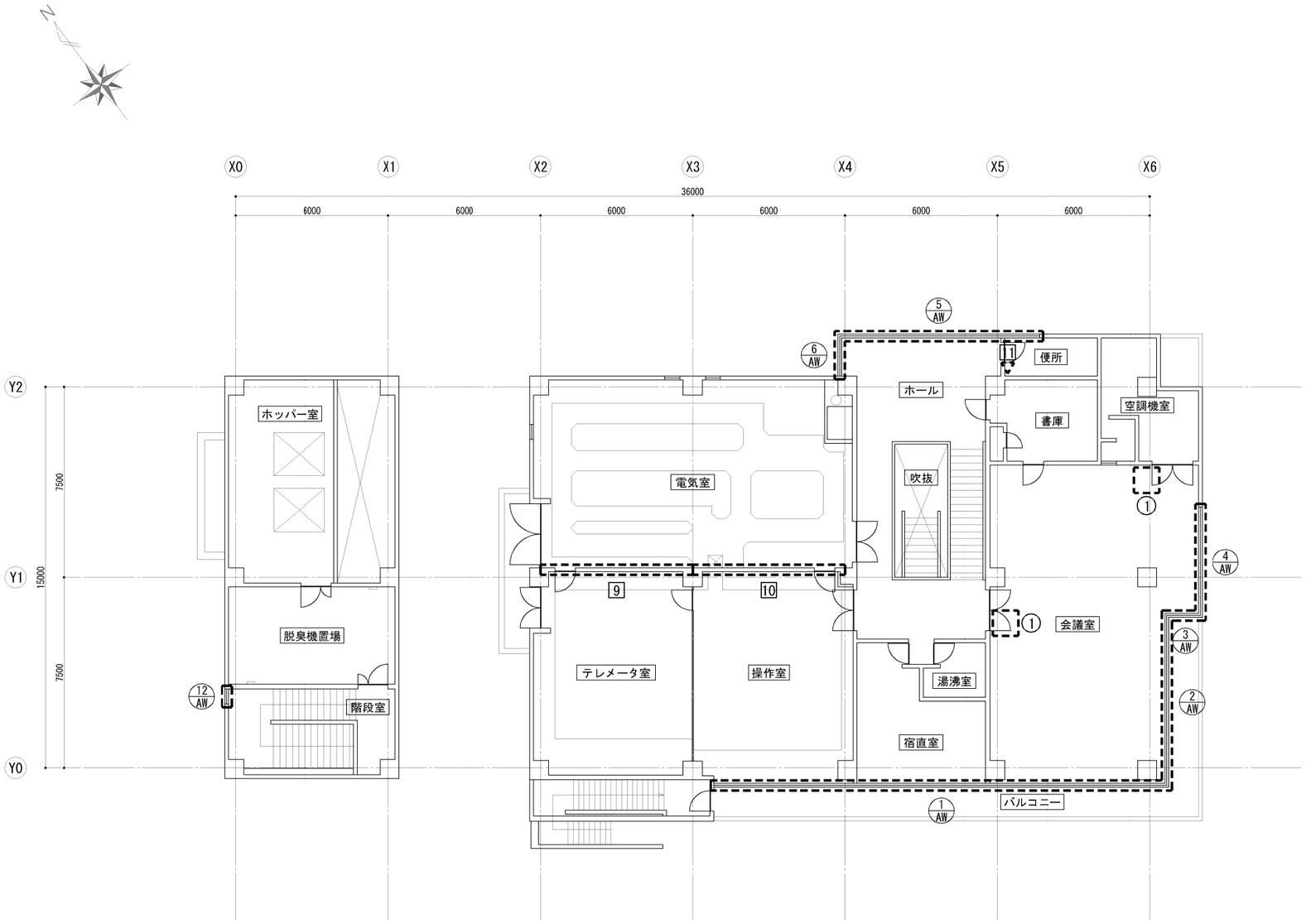
：改修工事箇所を示す

** ：建具工事箇所を示す（非構造部材の耐震化）

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	1階 平面図［改修後］		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	図示	図面番号	A-10
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

【2F：撤去工事概要表】

項目	No.	工 事 概 要	詳細図面番号
耐震補強 (構造部材)	9	柱・壁：目荒し 床　　：一部撤去(ﾋﾞﾆｰﾙ床ﾀｲﾙ・ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ) 天井　：一部撤去(化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞ)	S-18
	10	柱・壁：目荒し 床　　：一部撤去(ﾋﾞﾆｰﾙ床ﾀｲﾙ・ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ) 天井　：一部撤去(化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞ)	S-19
	11	壁　　：耐震スリット新設工事	A-18
耐震補強 (非構造部材)	1 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具撤去（FIXｶﾞﾗｽのみ）	A-15
	2 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具撤去（FIXｶﾞﾗｽのみ）	
	3 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具撤去（FIXｶﾞﾗｽのみ）	
	4 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具撤去（FIXｶﾞﾗｽのみ）	
	5 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具撤去（FIXｶﾞﾗｽのみ）	
	6 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具撤去（FIXｶﾞﾗｽのみ）	
	12 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具撤去（FIXｶﾞﾗｽのみ）	
配線ｹｰﾌﾞﾙ 敷設付帯工	1	天井　：一部撤去(岩綿吸音板張り)	A-11



2階 平面図［改修前］

【凡例】

◇＊：耐水化工事箇所を示す

＊：耐震補強工事箇所を示す

：撤去工事箇所を示す

：改修工事箇所を示す

＊＊：建具工事箇所を示す（非構造部材の耐震化）

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	2階 平面図［改修前］		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	A-11
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

【2F：改修工事概要表】

項目	No.	工 事 概 要	詳細図面番号
耐震補強 (構造部材)	9	壁　：既存EW15＋増壁EW15 床　：復旧（ﾋﾞﾆｰﾙ床ﾀｲﾙ・ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ） 天井　：復旧（化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞ）	S-18
	10	壁　：既存EW15＋増壁EW15 床　：復旧（ﾋﾞﾆｰﾙ床ﾀｲﾙ・ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ） 天井　：復旧（化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞ）	S-19
	11	壁　：スリット材設置	A-18
耐震補強 (非構造部材)	1 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具（合わせｶﾞﾗｽ新設）	A-15
	2 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具（合わせｶﾞﾗｽ新設）	
	3 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具（合わせｶﾞﾗｽ新設）	
	4 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具（合わせｶﾞﾗｽ新設）	
	5 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具（合わせｶﾞﾗｽ新設）	
	6 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具（合わせｶﾞﾗｽ新設）	
	12 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具（合わせｶﾞﾗｽ新設）	
配線ｹｰﾌﾞﾙ敷設付帯工	1	天井　：天井点検口新設（□600）×2	A-12

2階 平面図［改修後］

【凡例】

◇ ：耐水化工事箇所を示す

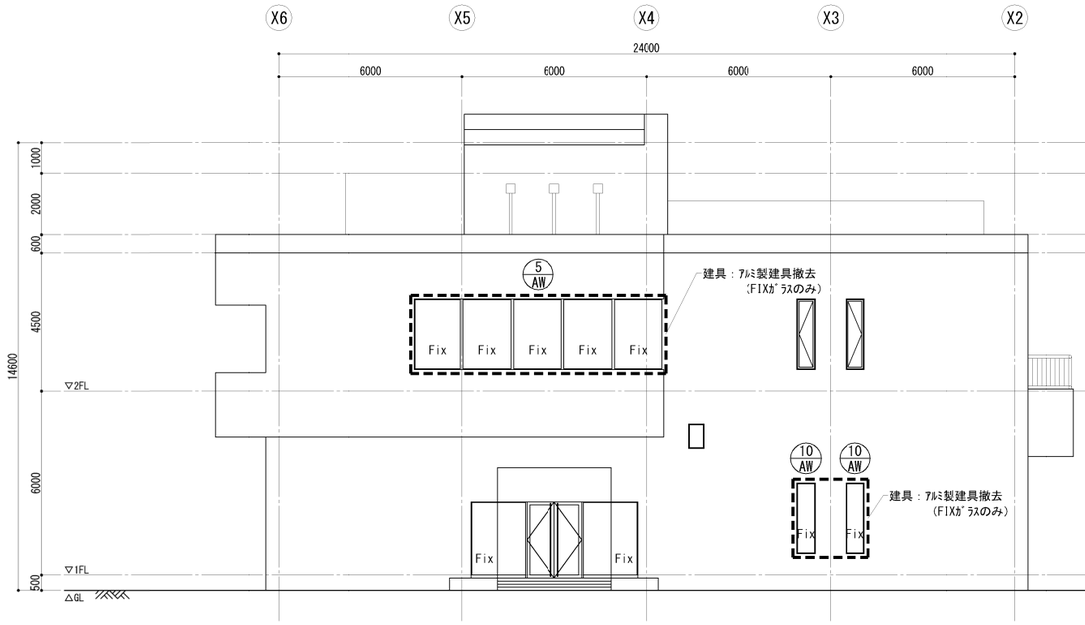
⊡ ：耐震補強工事箇所を示す

：撤去工事箇所を示す

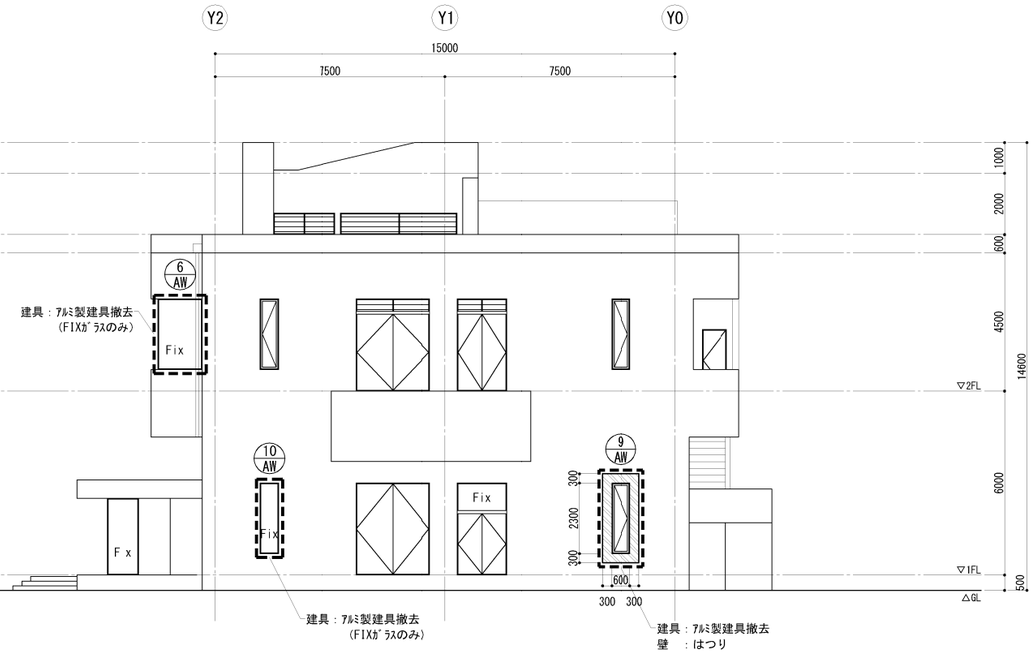
：改修工事箇所を示す

⊗ ：建具工事箇所を示す（非構造部材の耐震化）

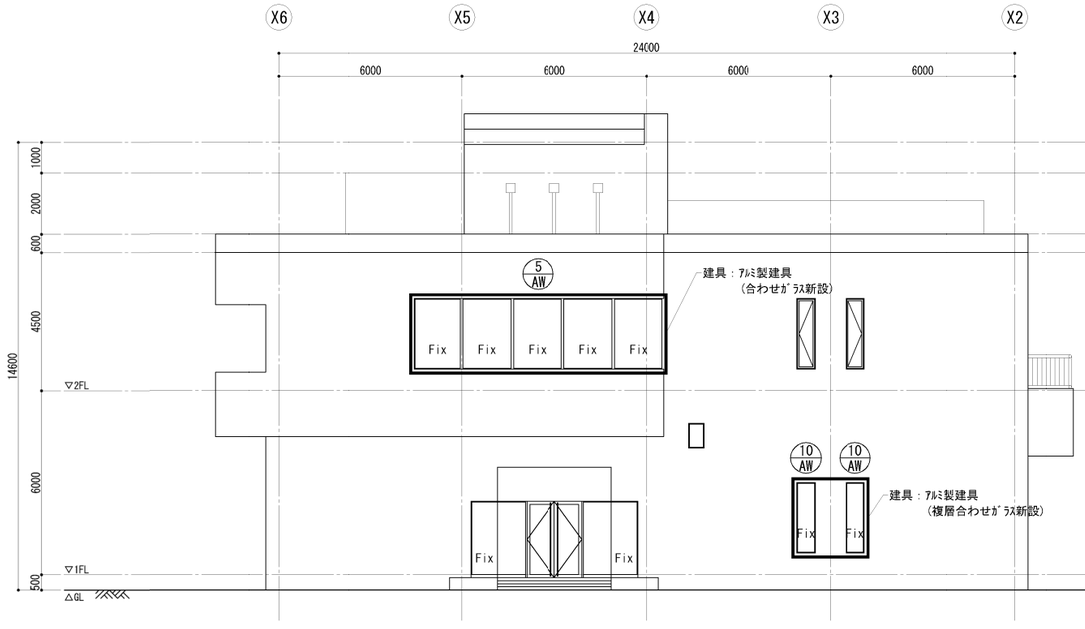
工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	2階 平面図［改修後］		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	A-12
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		



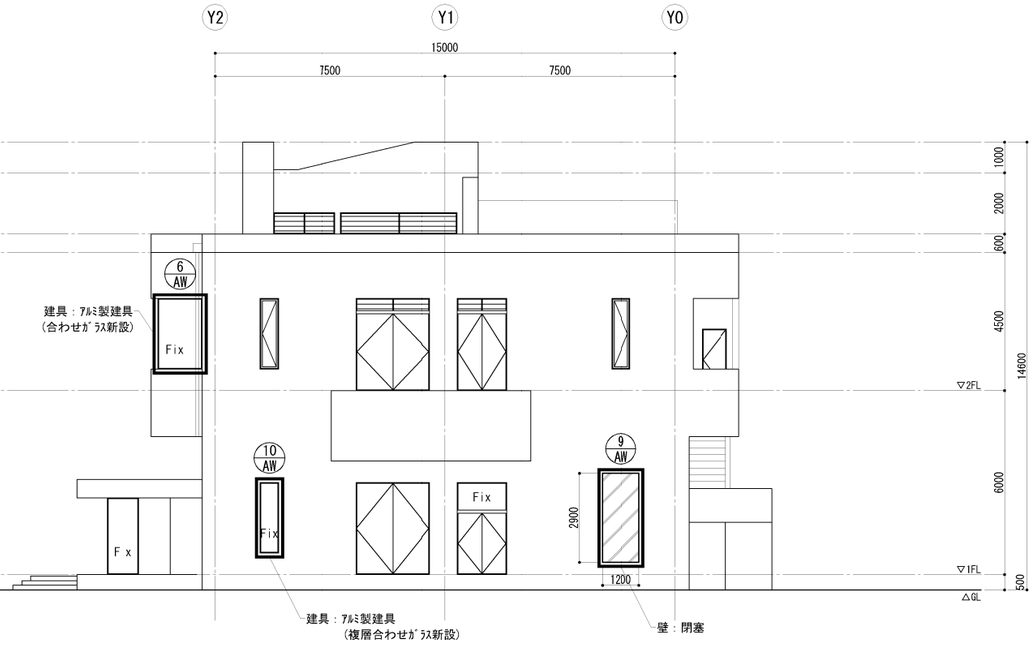
北 立面図［改修前］



西 立面図(1)［改修前］



北 立面図［改修後］

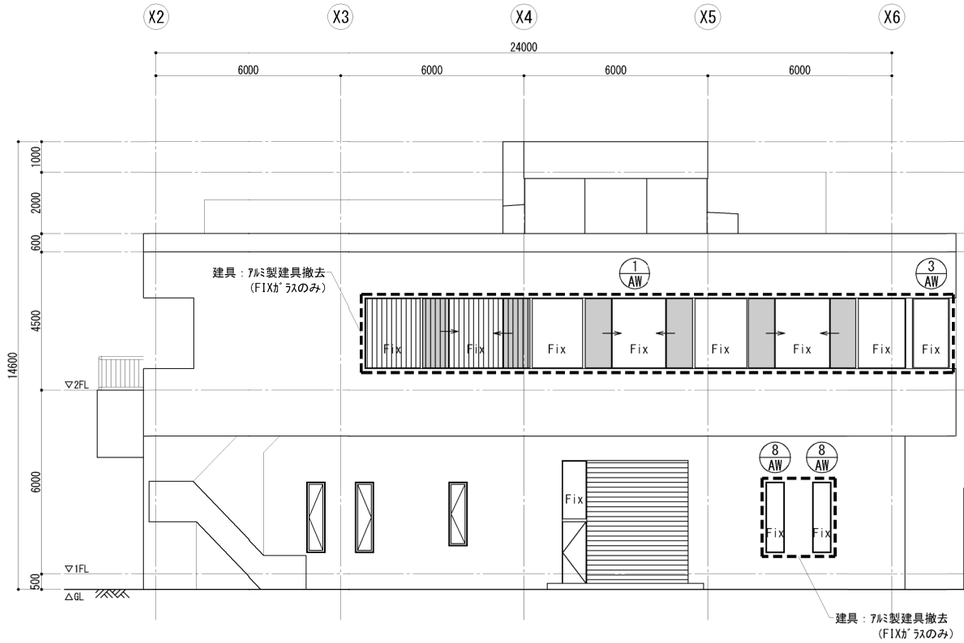


西 立面図(1)［改修後］

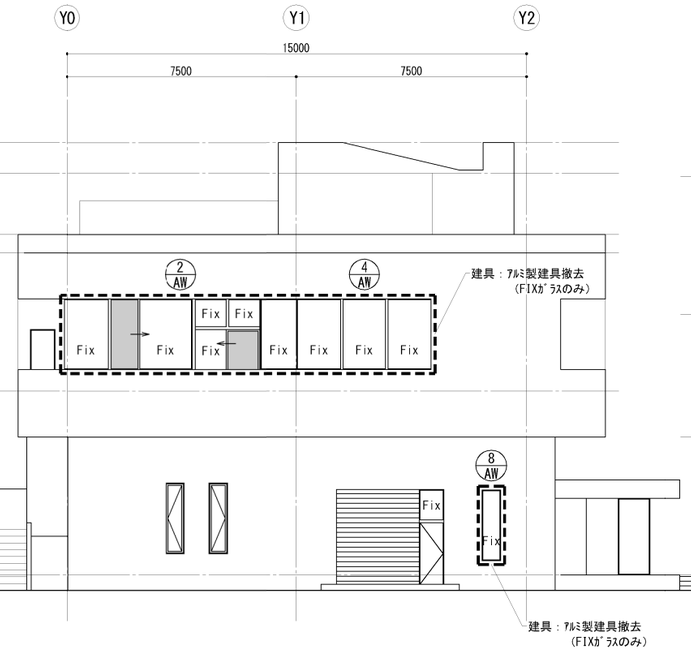
【凡例】

- ：撤去工事箇所を示す
- ：改修工事箇所を示す
- ：工事対象外

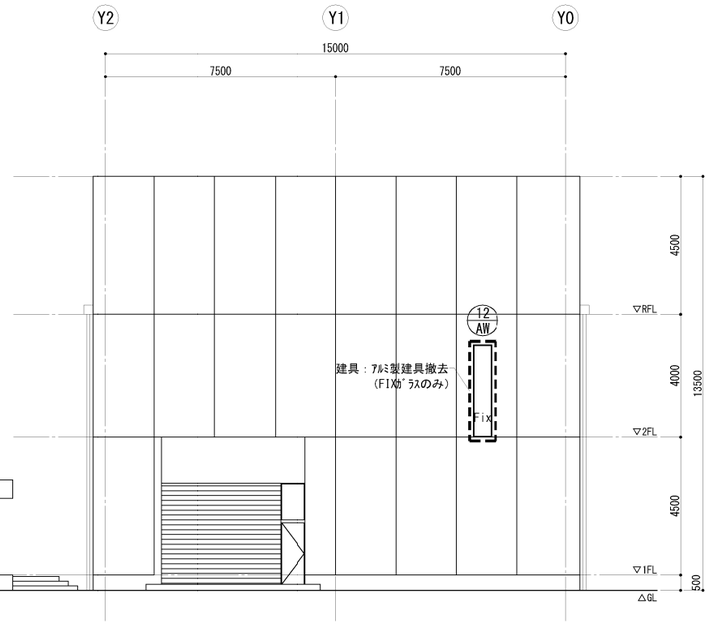
工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	立面図(1)［改修前・後］		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	A-13
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		



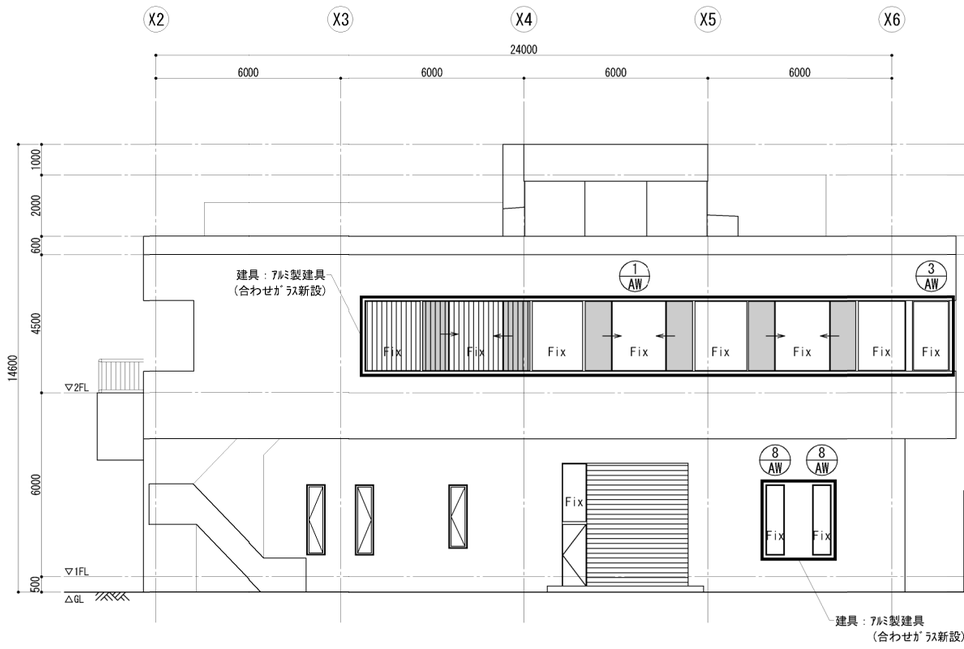
南 立面図［改修前］



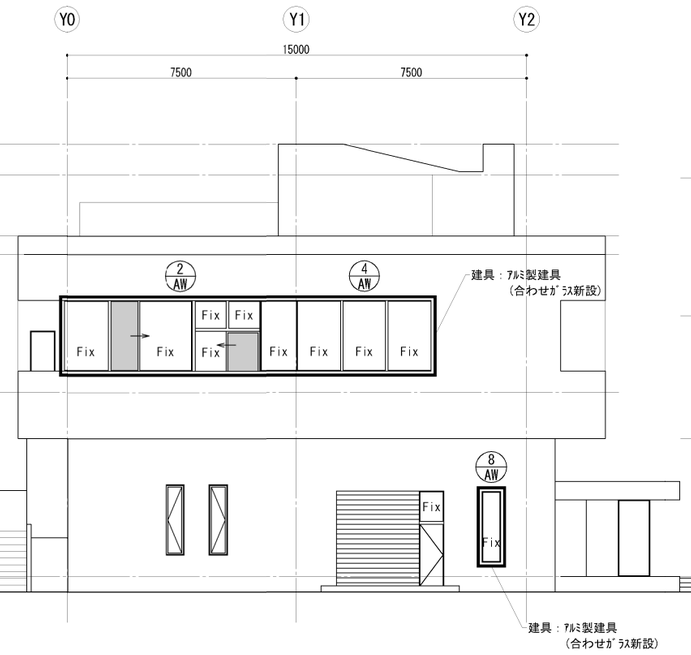
東 立面図［改修前］



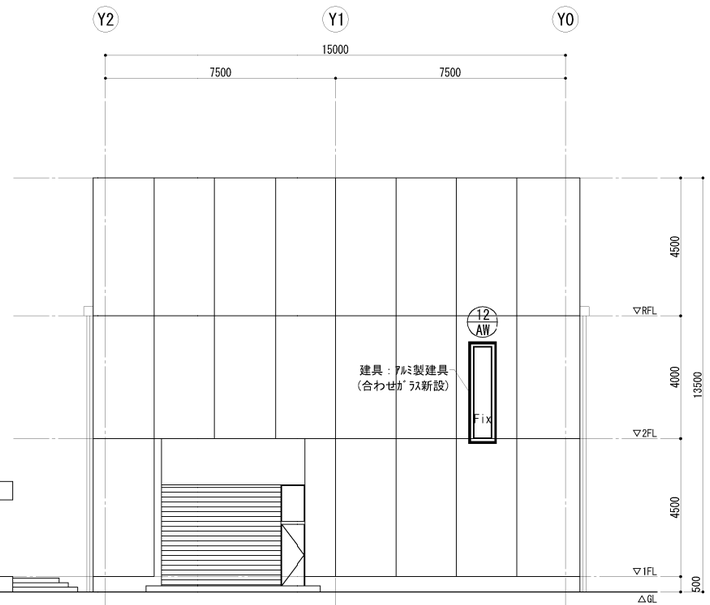
西 立面図(2)［改修前］



南 立面図［改修後］



東 立面図［改修後］



西 立面図(2)［改修後］

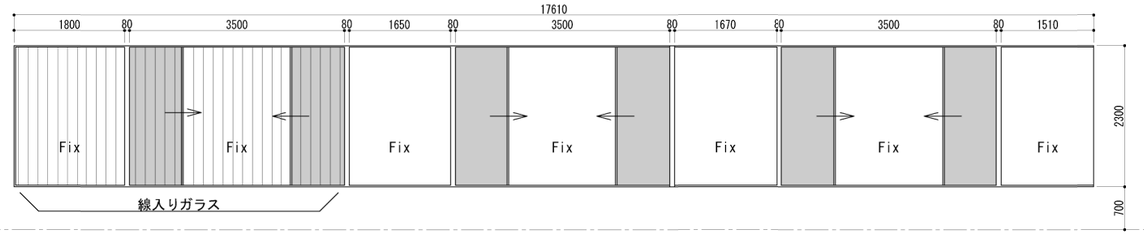
【凡例】

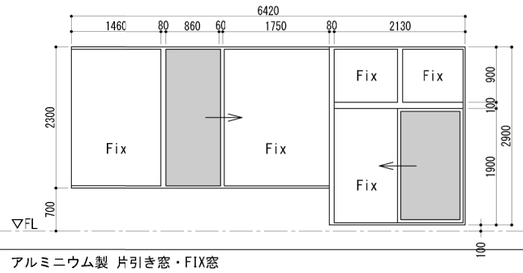
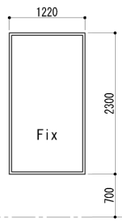
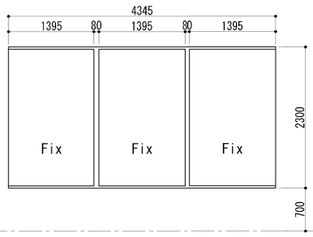
：撤去工事箇所を示す

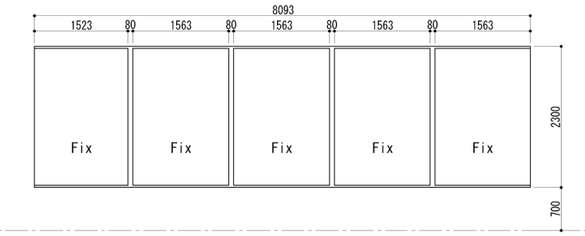
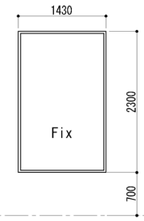
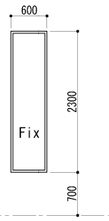
：改修工事箇所を示す

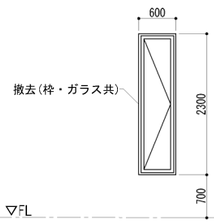
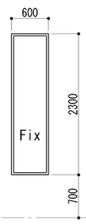
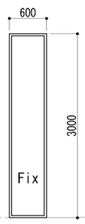
：工事対象外

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	立面図(2)［改修前・後］		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	A-14
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

記号・位置・数量		1 AW 宿直室 会議室（1箇所） (1/50)
姿図		
型式		アルミニウム製 中央片引き窓
見込		100
材質仕上		無着色陽極酸化被膜
ガラス	改修前	透明ブロンズ　t5,t8,t10　透明ブロンズ線入りガラス t6.8
	改修後	合わせガラス　t5

記号・位置・数量		2 AW 会議室（1箇所） (1/50)	3 AW 会議室（1箇所） (1/50)	4 AW 会議室（1箇所） (1/50)
姿図				
型式		アルミニウム製 片引き窓・FIX窓	アルミニウム製 FIX窓	アルミニウム製 FIX窓(3連窓)
見込		100	100	100
材質仕上		無着色陽極酸化被膜	無着色陽極酸化被膜	無着色陽極酸化被膜
ガラス	改修前	透明ブロンズ　t5,t8	透明ブロンズ　t8	透明ブロンズ　t8
	改修後	合わせガラス	合わせガラス	合わせガラス

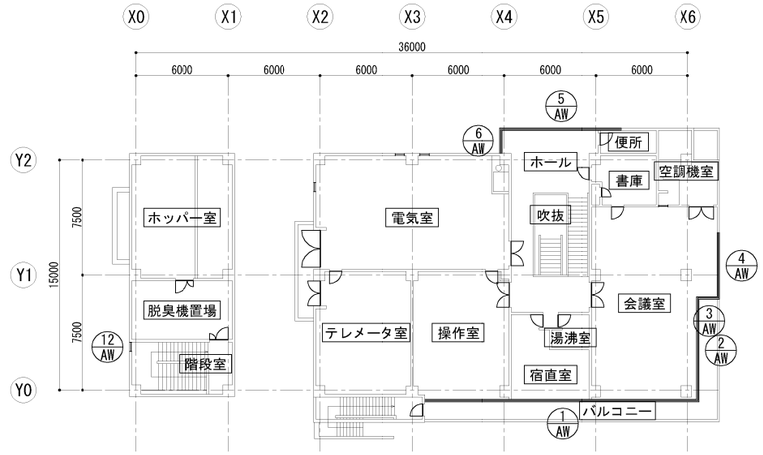
記号・位置・数量		5 AW 2階ホール 便所（1箇所） (1/50)	6 AW 2階ホール（1箇所） (1/50)	8 AW ﾓｰﾀｰ室 1階階段室（3箇所）(1/50)
姿図				
型式		アルミニウム製 FIX窓(5連窓)	アルミニウム製 FIX窓	アルミニウム製 FIX窓
見込		100	100	100
材質仕上		無着色陽極酸化被膜	無着色陽極酸化被膜	無着色陽極酸化被膜
ガラス	改修前	透明ブロンズ　t8	透明ブロンズ　t8	透明ブロンズ線入り　t6.8
	改修後	合わせガラス	合わせガラス	合わせガラス

記号・位置・数量		9 AW 工作室・倉庫（1箇所） (1/50)	10 AW 発電機室（3箇所） (1/50)	12 AW 2階階段室（1箇所） (1/50)
姿図				
型式		アルミニウム製 片開き窓	アルミニウム製 FIX窓	アルミニウム製 FIX窓
見込		100	70	70
材質仕上		無着色陽極酸化被膜	無着色陽極酸化被膜	無着色陽極酸化被膜
ガラス	改修前	透明ブロンズ線入り　t5	複層線入ガラス(t6.8+6+t5)	透明ブロンズ　t5
	改修後	閉塞	複層合わせガラス	合わせガラス

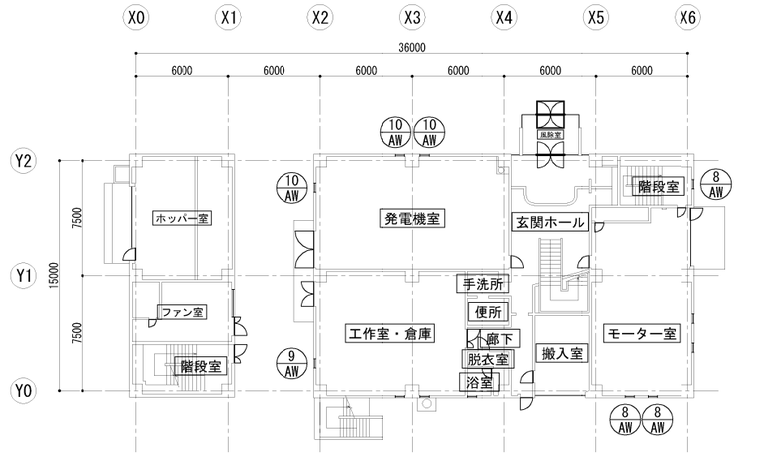
【凡例】

：FIXガラスのみ交換

：工事対象外

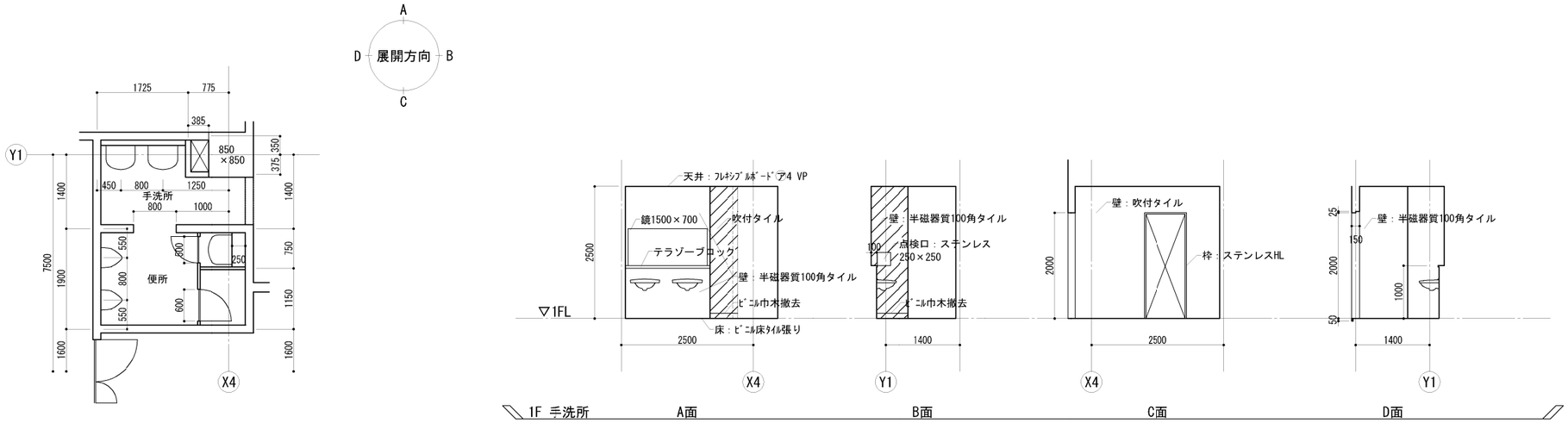


2階 KEY PLAN (1/200)



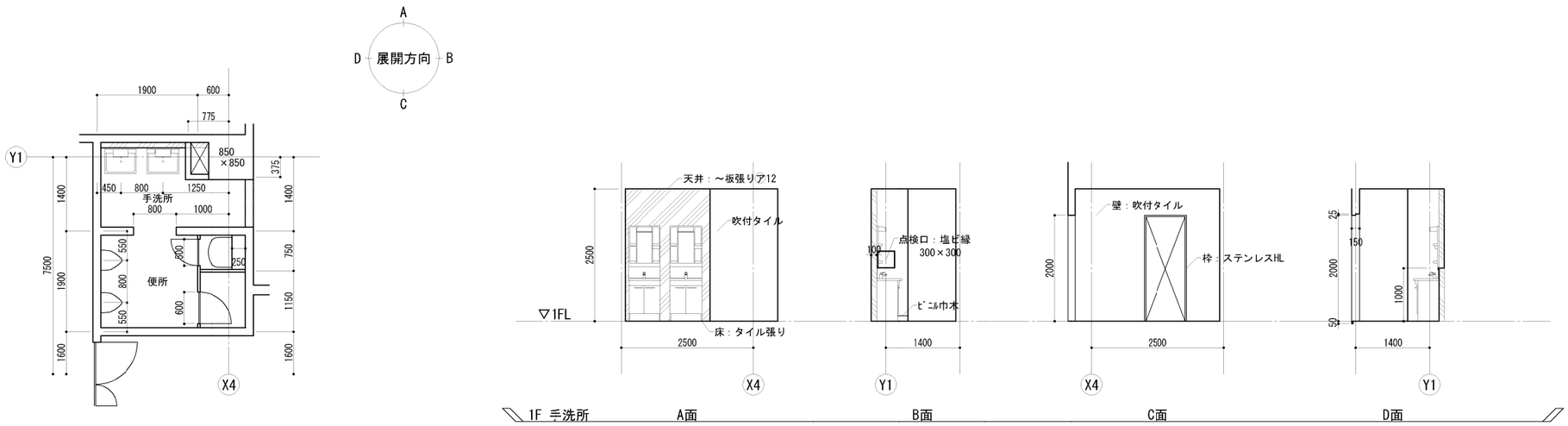
1階 KEY PLAN (1/200)

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	建具表・キープラン［改修前・後］		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	図示	図面番号	A-15
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		



平面詳細図

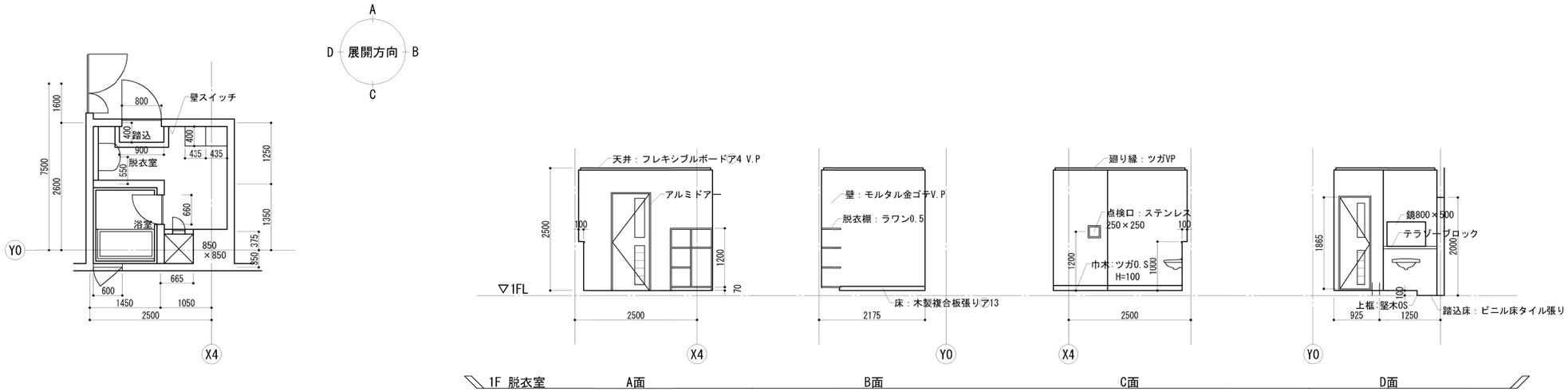
1階 展開図［改修前］



平面詳細図

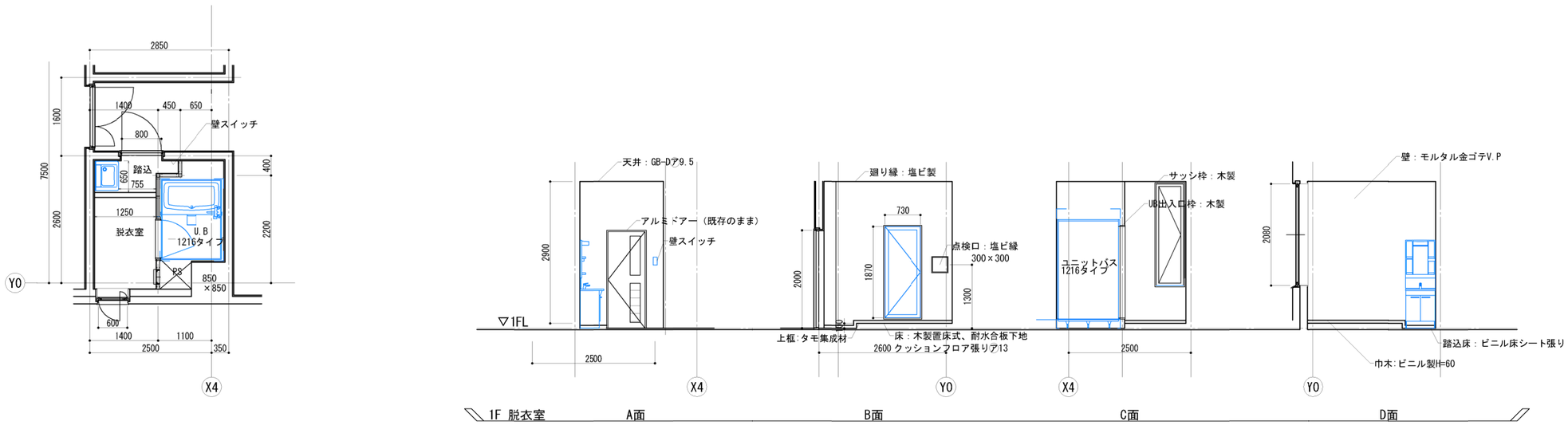
1階 展開図［改修後］

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	1階 展開図(1)［改修前・後］		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	A-15
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		



平面詳細図

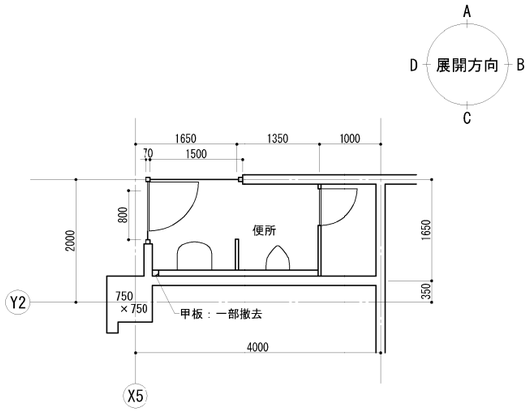
1階 展開図［改修前］



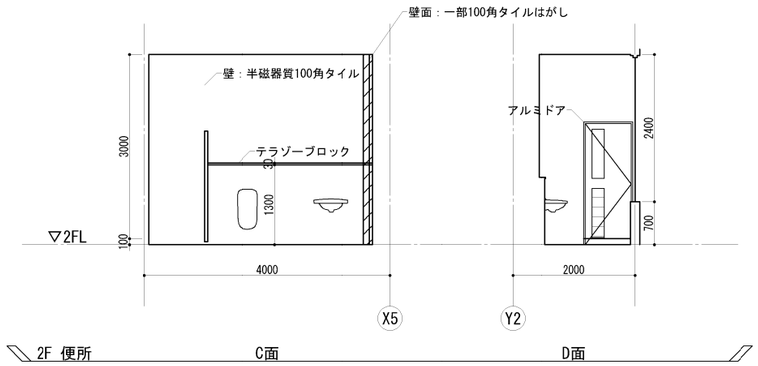
平面詳細図

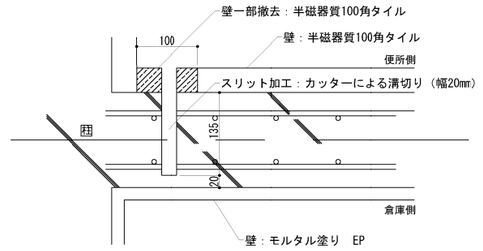
1階 展開図［改修後］

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	1階 展開図(2)［改修前・後］		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	A-17
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		



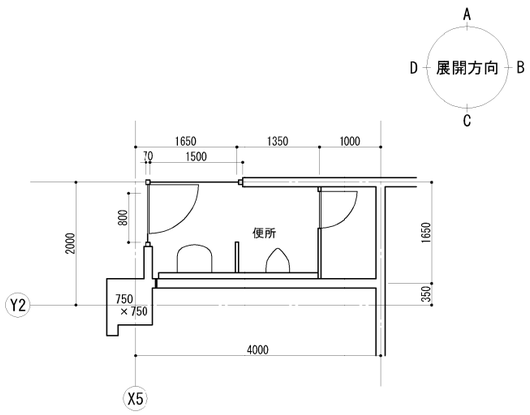
平面詳細図



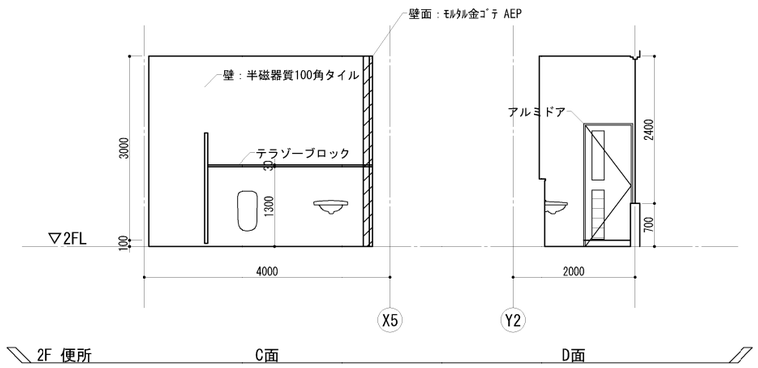


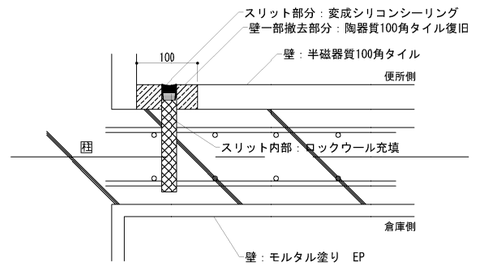
スリット詳細［改修前］

2階 展開図［改修前］



平面詳細図





スリット詳細［改修後］

2階 展開図［改修後］

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	2階 展開図［改修前・後］		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	A-13
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

【1F：改修工事概要表】

項目	No.	工 事 概 要	詳細図面番号
耐水化	◇1	床　：目荒し	A-09
耐震補強（構造部材）	1	柱・壁：目荒し 床　：一部撤去（ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ） 天井　：一部撤去（ｱｸﾘﾙ系ﾘｼﾝ吹付）	S-10
	2	柱・壁：目荒し・袖壁部分撤去 床　：一部撤去 工作室・倉庫（ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ） 浴室（ﾌﾛｱｰﾊﾟﾝ） 天井　：一部撤去 工作室・倉庫（ｱｸﾘﾙ系ﾘｼﾝ吹付） 浴室（ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ） その他：浴室部分撤去	A-17 S-11
	3	柱・壁：目荒し 床　：一部撤去（ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ） 天井　：一部撤去（ｱｸﾘﾙ系ﾘｼﾝ吹付）	S-12
	4	柱・壁：目荒し・袖壁部分撤去 床　：一部撤去 工作室・倉庫（ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ） 手洗所（ﾋﾞﾆｰﾙ系ﾀｲﾙ張り） 天井　：一部撤去 工作室・倉庫（ｱｸﾘﾙ系ﾘｼﾝ吹付） 手洗所（ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ） その他：手洗所部分撤去	A-16 S-13
	5	柱・壁：目荒し 床　：一部撤去（軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ） 天井　：一部撤去（ｸﾞﾗｽｳｰﾙ） その他：防液堤部分撤去	S-14
	6	柱・壁：目荒し 床　：一部撤去（軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ） 天井　：一部撤去（ｸﾞﾗｽｳｰﾙ）	S-15
	7	柱・壁：目荒し 床　：一部撤去（ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ） 天井　：一部撤去（ｱｸﾘﾙ系ﾘｼﾝ吹付）	S-16
	8	柱・壁：目荒し 床　：一部撤去（軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ） 天井　：一部撤去（ﾊﾟｰﾗｲﾄ吹付）	S-17
耐震補強（非構造部材）	8 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具撤去（FIXｶﾞﾗｽのみ）×3	A-15
	9 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具撤去 壁　：はつり	
	10 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具撤去（FIXｶﾞﾗｽのみ）×3	

【凡例】

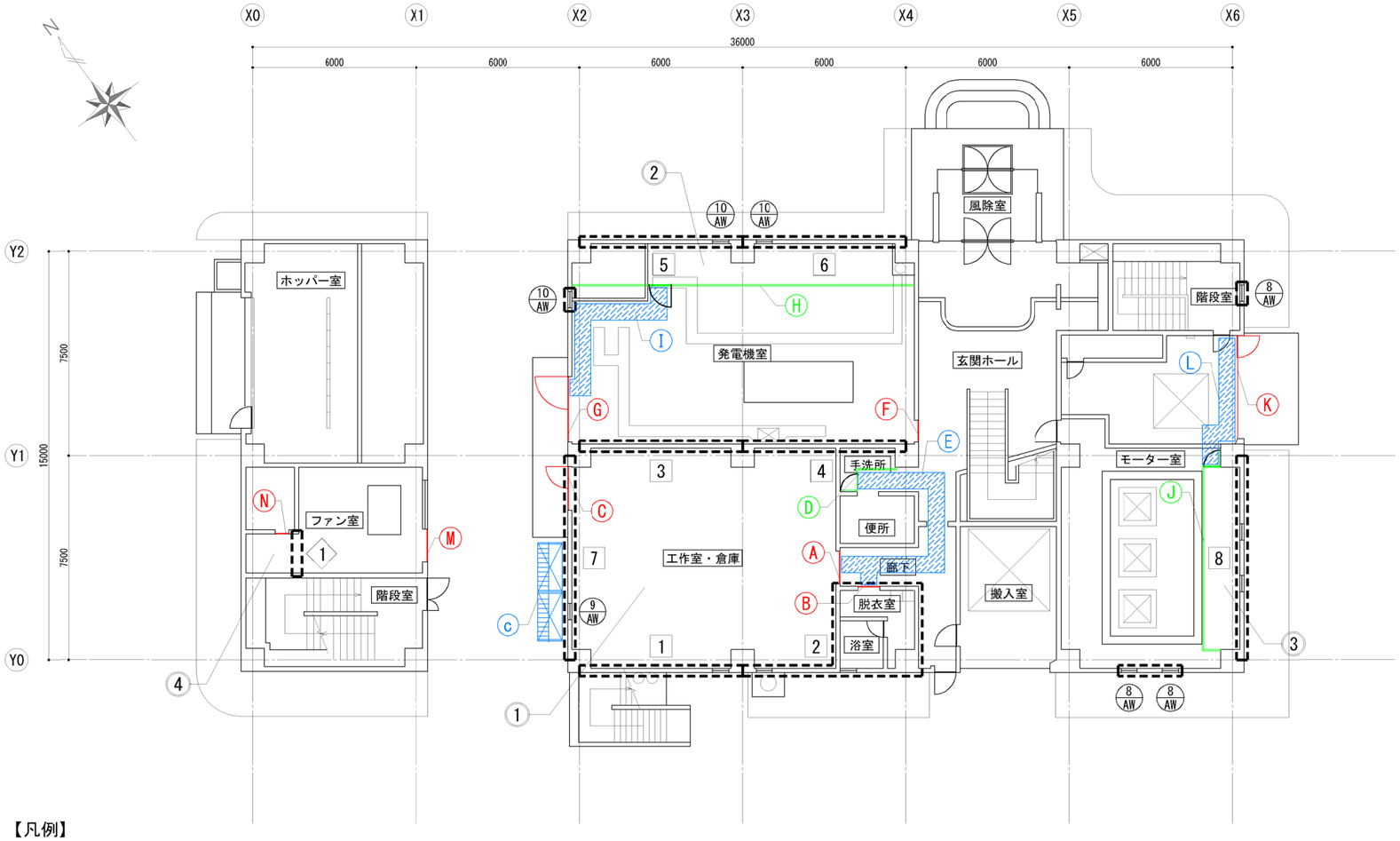
◇＊：耐水化工事箇所を示す

□＊：耐震補強工事箇所を示す

：撤去工事箇所を示す

：改修工事箇所を示す

＊＊：建具工事箇所を示す（非構造部材の耐震化）



【凡例】

：仮設間仕切壁（木製片側ボード張）

：作業員通路（巾600、養生シート床張）

：仮設外部足場（昇降階段含む）

：区画用開口部（現況利用）

1階 平面図［改修前］

【参考】1階仮設計画平面図

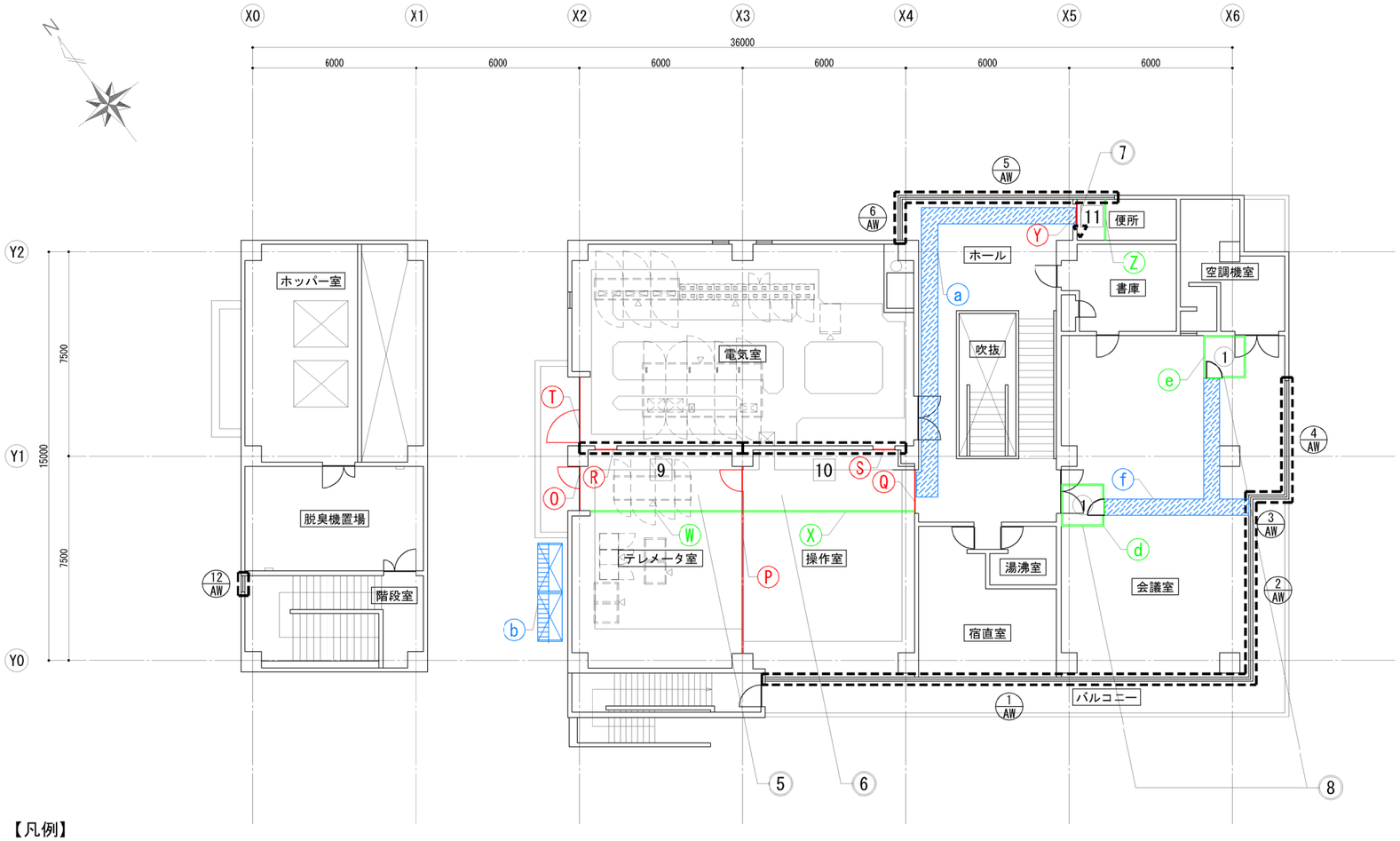
工事場所	工事概要	区画	作業員動線				備考
			出入口	通路	資材搬入	撤去材搬出	
①	1 2 3 4 7	A B C D	C	E	C	C	2 の脱衣室・浴室における工事は A～B の区画を通る。 4 の手洗所における工事は A～D の区画を通る。
②	5 6	F G H	G	I	G	G	I の通路を通り 5 6 へ出入する。
③	8	J K	K	L	K	K	L の通路を通り 8 へ出入する。
④	◇1	M N	M	－	M	M	◇1 のファン室における工事は M N を区画して行う。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	1階 仮設計画平面図【参考】		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	A-13
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

【2F：改修工事概要表】

項目	No.	工 事 概 要	詳細図面番号
耐震補強（構造部材）	9	柱・壁：目荒し 床　：一部撤去(ﾋﾞﾆｰﾙ床ﾀｲﾙ・ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ) 天井　：一部撤去(化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞ)	S-18
	10	柱・壁：目荒し 床　：一部撤去(ﾋﾞﾆｰﾙ床ﾀｲﾙ・ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ) 天井　：一部撤去(化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞ)	S-19
	11	壁　：耐震スリット新設工事	A-18
耐震補強（非構造部材）	1 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具撤去（FIXｶﾞﾗｽのみ）	A-15
	2 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具撤去（FIXｶﾞﾗｽのみ）	
	3 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具撤去（FIXｶﾞﾗｽのみ）	
	4 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具撤去（FIXｶﾞﾗｽのみ）	
	5 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具撤去（FIXｶﾞﾗｽのみ）	
	6 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具撤去（FIXｶﾞﾗｽのみ）	
	12 AW	建具　：ｱﾙﾐ製建具撤去（FIXｶﾞﾗｽのみ）	
配線ｹｰﾌﾞﾙ敷設付帯工	1	天井　：一部撤去(岩綿吸音板張り)	A-11

【凡例】
- ◇* ：耐水化工事箇所を示す
- □* ：耐震補強工事箇所を示す
- ：撤去工事箇所を示す
- ：改修工事箇所を示す
- ** ：建具工事箇所を示す（非構造部材の耐震化）



【凡例】
- ：仮設間仕切壁(木製片側ボード張)
- ：作業員通路(巾600、養生シート床張)
- ：仮設外部足場(昇降階段含む)
- ：区画用開口部(現況利用)

2階 平面図［改修前］

【参考】2階仮設計画平面図

工事場所	工事概要	区画	作業員動線 出入口	作業員動線 通路	作業員動線 資材搬入	作業員動線 撤去材搬出	備考
5 6	9 10	O P Q R S W X	O	b (1F c)	O	O	作業員の出入を含め、原則として1階c～2階bの仮設外部足場から出入する。
7	11	Y Z	Y (経由 O P Q)	a	Y	Y	7までの通路は5 6を通過する。
8	1	d e	3 AW	屋外階段 バルコニー f	3 AW	3 AW	8までの通路は屋外階段・バルコニーfを通過する。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	2階 仮設計画平面図【参考】		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	A-20
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

構造関係共通事項

1．総　則

1.1 適用範囲
（1）構造関係共通事項は、総則、構造関係共通図（配筋標準図）から構成される。
（2）構造関係共通図(配筋標準図)は、鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立等の一般的な標準図とする。
（3）構造関係共通図（配筋標準図）以外について、図面及び監督職員の指示による。

1.2 優先順位
（1）設計図書間で配筋方法等に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。
　1．特記仕様書
　2．設計図
　3．構造関係共通図（配筋標準図、鉄骨標準図）
　4．標準仕様書及び改修標準仕様書

1.3 用語の定義
（1）設計図とは、建築構造図のうち特記仕様書、構造関係共通図以外の図面をいう。
（2）異形鉄筋の径(本文、図、表において「ｄ」で示す)は、呼び名に用いた数値とする。
（3）長さ、厚さ等の単位は、特記なき限りmmとする。

1.4 記号等
図面で使用する記号等は、表1.1～表1.8、図1.1を標準とする。

表1.1　異形鉄筋の断面表示記号

区分＼径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建築	●	×	∅	●	○	⊙	⊗	◎

表1.2　各階伏図における記号

記号	説明	記号	説明
S※	スラブの配筋種別		杭の位置
	スラブ厚さ		試験杭の位置
	階段の配筋種別		打増しの範囲
DO	土間コンクリート		スラブ開口
	コンクリートブロック壁（ＣＢ壁）		ボーリング位置
	梁・スラブの上がり下がりの範囲	（±　）	FLからの上がり下がり
EW○○ EKW○○ ERW○○	耐力壁の種別 片持ちスラブを受け、かつ耐力壁の種別 土圧を受け、かつ耐力壁の種別	W○○ KW○○	一般壁の種別 片持ちスラブ形階段を受け、かつ一般壁の種別

表1.3　梁貫通孔記号

区分＼径	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400
建　築															

表1.4　スリーブ材質の凡例

管　名	鋼　管	溶融亜鉛めっき鋼版	硬質塩化ビニル管（薄肉管）	つば付き鋼管（黒管）
記号（建築用）	SP（白管）	GA	VU	RS

※建築用以外のスリーブ材質は各工事による。

表1.5　高力ボルト径の記号

区分＼径	M12	M16	M20	M22	M24
高力ボルト（F10T、S10T）	●				
溶融亜鉛めっき高力ボルト（F8T相当）	／	｜	＋		

表1.6　普通ボルト径の記号

区分＼径	M12	M16	M20	M22	M24
普通ボルト	○	φ			

表1.7　溶接継手及び溶接面の分類別記号

分	類		記 号
溶 接 継 手	完全溶込み溶接	突合わせ継手	B
		T型継手	T
		かど継手	L
	隅肉溶接		F
	部分溶込み溶接		P
	重ねアーク溶接（フレア溶接）		FL
溶　接　面	片面溶接		1
	両面溶接		2

表1.8　溶接の補助記号

区　分	補助記号
現　場　溶　接	
全　周　溶　接	○
全 周 現 場 溶 接	
断続溶接の長さ及び間隔	L－P

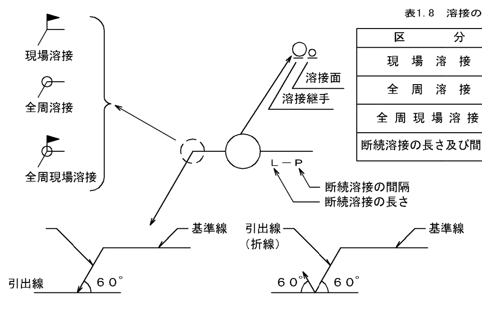


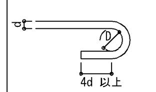
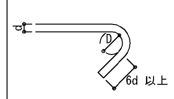
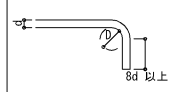
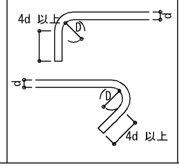
図1.1　溶接記号の記載例
※特記無き限り、完全溶込溶接の溶接方法・溶接面は適切な溶接方法等による。

2．構造関係共通図(配筋標準図)

1 鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径は、表1.1を標準とする。

表1.1　鉄筋の折曲げ内法直径

折曲げ角　度	折曲げ図（余長）	折曲げ内法直径(D) 鉄筋の種類 SD295、SD345 呼び名 D16 以下	SD295、SD345 D19 ～D38	SD390 D19 ～D38
180°	 4d 以上	3d 以上	4d 以上	5d 以上
135°	 6d 以上			
90°	 8d 以上			
135°及び90°（幅止め筋）	 4d 以上 / 4d 以上			

1．片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は 4d 以上とする。
2．90°未満の折曲げの内法直径は構造図による。

2 異形鉄筋の末端部

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。
（1）柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部

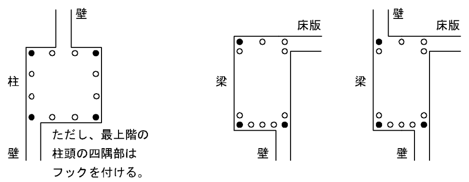


図2.1 末端部にフックを必要とする出隅部の鉄筋（ ● 印）

（2）煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
（3）杭基礎のベース筋
（4）帯筋、あばら筋及び幅止め筋

3 継手及び定着

(1) 鉄筋の重ね継手
(ｱ) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
(ｲ) 柱及び梁主筋並びに耐力壁を除く鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。

表3.1　鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Ｆｃ（N/mm²）	L1（フックなし）	L1h（フックあり）
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24, 27	35d	25d
	30, 33, 36	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24, 27	40d	30d
	30, 33, 36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24, 27	45d	35d
	30, 33, 36	40d	30d

（注）1．L1, L1h: 重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ。
2．フックありの場合のL1 hは、図3.1に示すようにフック部分ℓ を含まない。
3．軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。

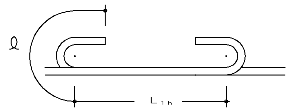
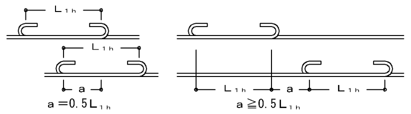
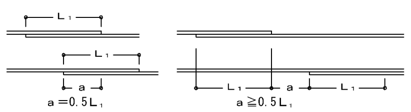
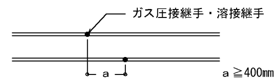
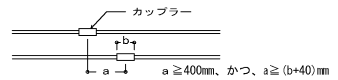


図3.1　フックありの場合の重ね継手の長さ

(ｳ) 耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、フックありなしにかかわらず40d以上（軽量コンクリートの場合は50d ）又は表3.1の重ね継手の長さのうち、いずれか大きい値とする。
(ｴ) 隣り合う継手の位置は、表3.2による。
ただし、スラブ筋で D16 以下の場合及び壁筋の場合は除く。

表3.2　隣り合う継手の位置

重ね継手	フックありの場合	 $a=0.5L_{1h}$ ／ $a\geqq0.5L_{1h}$
	フックなしの場合	 $a=0.5L_1$ ／ $a\geqq0.5L_1$
溶接継手（ガス圧接継手）	－	 ガス圧接継手・溶接継手 $a\geqq400$mm
機械式継手	－	 カップラー $a\geqq400$mm、かつ、$a\geqq(b+40)$mm

(2) 鉄筋の定着
(ｱ) 鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。

表3.3　鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Ｆｃ（N/mm²）	直線定着の長さ L1	L2	L3 小梁	L3 スラブ	フックあり定着の長さ L1h	L2h	L3h 小梁	L3h スラブ
SD295	18	45d	40d	20d（片持小梁の場合は25d）	10d かつ 150mm 以上（片持ｽﾗﾌﾞの場合は25d）	35d	30d	10d	－
	21	40d	35d			30d	25d		
	24, 27	35d	30d			25d	20d		
	30, 33, 36	35d	30d			25d	20d		
SD345	18	50d	40d			35d	30d		
	21	45d	35d			30d	25d		
	24, 27	40d	35d			30d	25d		
	30, 33, 36	35d	30d			25d	20d		
SD390	21	50d	40d			35d	30d		
	24, 27	45d	40d			35d	30d		
	30, 33, 36	40d	35d			30d	25d		

（注）1．L_1, L_{1h}：２から４以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
2．L_2, L_{2h}：割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
3．L_3　：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
4．L_{3h}　：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
5．フックあり定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分 ℓを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
6．軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。

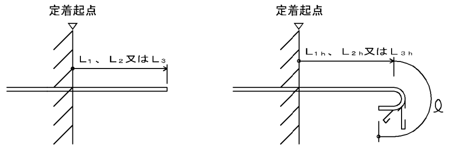


図3.2　直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

(ｲ) 梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は、図3.3により、次の(a)、(b)及び(c)をすべて満足するものとする。
(a)　全長は表3.3に示す直線定着の長さ以上
(b)　余長は 8d 以上
(c)　仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さLa及びLbは表3.4に示す長さとする。
ただし、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

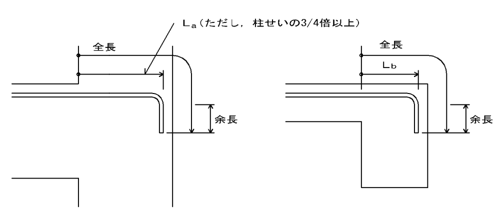


図3.3　折曲げ定着の方法

表3.4　鉄筋の投影定着の長さ

鉄筋の種　類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	La	Lb
SD295	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d
	30, 33, 36	20d	15d

（注）1．Ｌａ：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ。
（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
2．Ｌｂ：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。
（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
3．軽量コンクリートの場合は、表の値に５ｄを加えたものとする。

(ｳ) 溶接金網の継手及び定着は、図3.4による。
なお、L1は表3.1に、Ｌ２及びＬ３ は表3.3による。

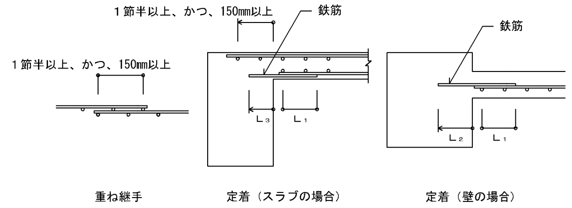


図3.4　溶接金網の継手及び定着

(ｴ) スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による

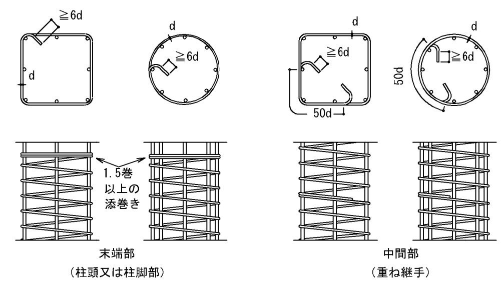


図3.5　スパイラル筋の継手及び定着

4 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

(1) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。
ただし、柱及び梁の主筋に D29 以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1　鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ(単位：mm)

構造部分の種別				最小かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ，耐力壁以外の壁	仕上げあり		20
		仕上げなし		30
	柱，梁，耐力壁	屋内	仕上げあり	30
			仕上げなし	30
		屋外	仕上げあり	30
			仕上げなし	40
	擁壁，耐圧スラブ			40
土に接する部分	柱，梁，スラブ，壁			40
	基礎，擁壁，耐圧スラブ			60
煙突等高熱を受ける部分				60

（注）1．この表は、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートには適用しない。
また、塩害を受けるおそれのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。
2．「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。
3．スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4．杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。

(2) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

(3) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

(4) 鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のもの以上とする。
(ｱ) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
(ｲ) 25mm
(ｳ) 隣り合う鉄筋の径（呼び名の数値）の平均の1.5倍

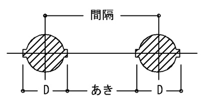


図4.1　鉄筋相互のあき及び間隔

(5) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(4)による。

(6) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

5.1　基礎梁

(1) 一般事項
(ｱ) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。
(ｲ) 梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(2)(ｴ)による。

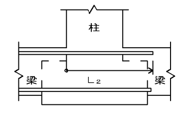
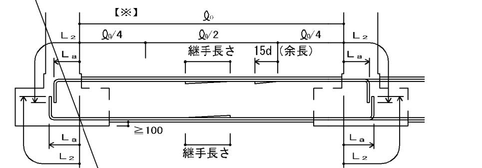


図5.1　梁筋の基礎梁内への定着

(2) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2による。



（注）1．図示のない事項は、7.1による。
2．══ 印は、継手及び余長位置を示す。
3．破線は、柱内定着の場合を示す。
4．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

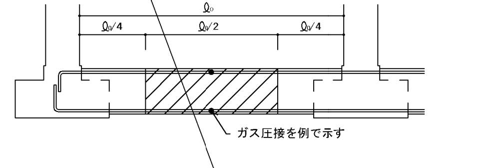
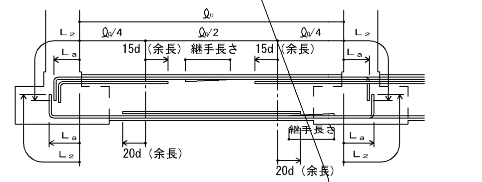


図5.2　主筋の継手、定着及び余長（その１）

(3) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.3による。
ただし、耐圧スラブが付く場合は、(4) による。



（注）1．図示のない事項は、7.1による。
2．══ 印は、継手及び余長位置を示す。
3．破線は、柱内定着の場合を示す。
4．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

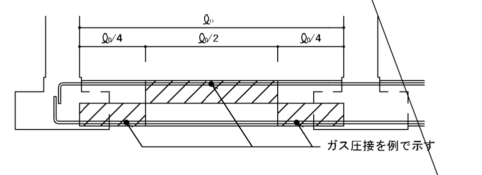
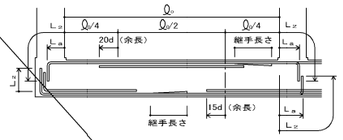


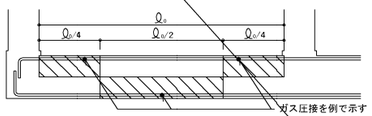
図5.3　主筋の継手、定着及び余長（その２）

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	構造関係共通事項（1）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	－	図面番号	S-01
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

(4) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。



（注）1．図示のない事項は、7.1による。
2．═══ 印は、継手及び余長位置を示す。
3．破線は、柱内定着の場合を示す。
4．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）



▨：継手の好ましい位置

図5.4　主筋の継手、定着及び余長（その３）

5.2　基礎梁のあばら筋等

(1) 一般事項
(ｱ) あばら筋の径および間隔は、設計図による。
(ｲ) あばら筋組立の形及びフックは7.2(2)、副あばら筋組立の形及びフックの位置は7.2(3)による。
ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5によることができる。

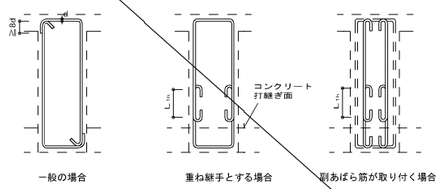


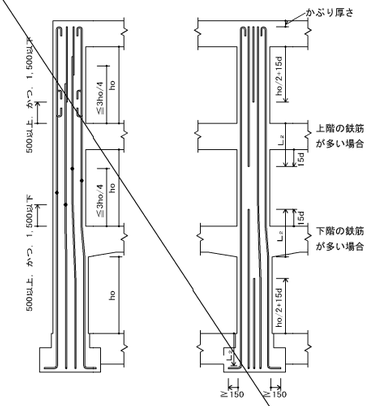
図5.5　あばら筋組立の形及びフックの位置

(2) 腹筋及び幅止め筋は、7.2による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は設計図による。

(3) あばら筋の割付けは、7.2(4)による。

6.1　柱

(1) 一般事項
(ｱ) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、3ho/4（hoは柱の内法高さ）以下とする。
(ｲ) 継手、定着及び余長は、図6.1による。
ただし、柱頭定着長さLₒが確保できない場合は、設計図による。



（注）1．柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。
2．隣り合う継手の位置は、表3.2［隣り合う継手の位置］による。
3．継手及び定着は、すべての階に適用できる。

図6.1　柱主筋の継手、定着及び余長

(2) 柱打増し部
(ｱ) 打増し部分に、壁、梁及びスラブ等がとりつく場合は、壁、梁及びスラブ筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。
(ｲ) 土に接する柱脚周の打増しは図6.2による。

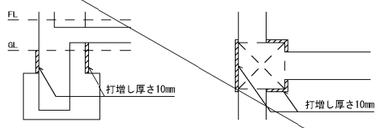


図6.2　柱打増し部

6.2　帯筋

(1) 帯筋の種類及び間隔は、設計図による。

(2) 帯筋組立の形は図6.3により、適用は設計図による。
(ｱ) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W－Ⅰ形とする。

(ｲ) ＳＰ形において、柱頭及び柱脚の端部は1.5巻以上の添巻き行う。

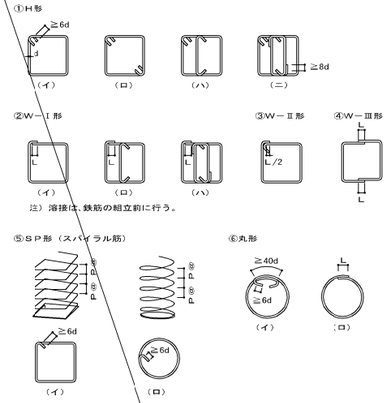
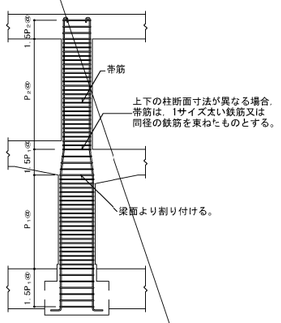


図6.3　帯筋組立の形

(3) フック及び継手の位置は交互とする。

(4) 帯筋の割付けは図6.4とし、それ以外の場合は設計図による。



（注）1．柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P₁@または1.5P₂@とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。
2．図中のP₁@　、P₂@は、特記された帯筋の間隔を示す。

図6.4　帯筋の割付け

7.1　大梁

(1) 一般事項
(ｱ) 梁の上がり下がりは FLを基準とした寸法値とする。
(ｲ) 地中梁下の砂利地業厚及び捨てコンクリート地業厚は設計図による。
(ｳ) 打増し部分に、スラブ、壁、梁筋等が取り付く場合は、スラブ、壁、梁筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。

(2) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項
(ｱ) 継手中心位置は、次による。
上端筋：中央 ℓo/2以内
下端筋：柱面より梁せい（Ｄ）以上離し、ℓo/4を加えた範囲以内
(ｲ) 継手中央部の位置、定着長さ及び余長は図7.3及び図7.4による。
(ｳ) 梁筋は、連続端で柱に接する梁の主筋が、同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図7.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。

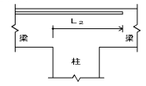


図7.1　梁主筋の梁内定着

(ｴ) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。
なお、定着の方法は3(2)(ｲ)による。
上端筋：曲げ降ろす
下端筋（一般）：原則、曲げ上げる。
下端筋（ハンチ付き）：原則、曲げ上げる。
(ｵ) 梁にハンチがつける場合、その傾斜は設計図による。
(ｶ) 段違い梁は、図7.2による。

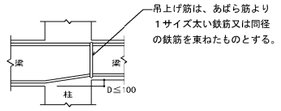
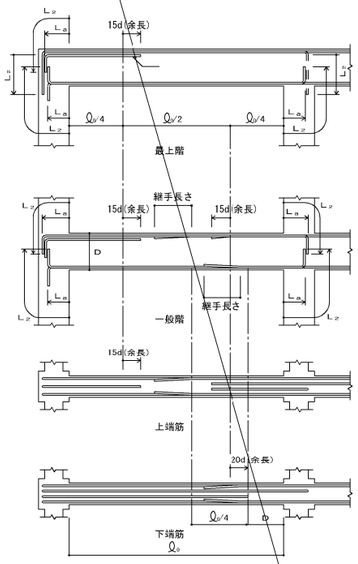


図7.2　段違い梁

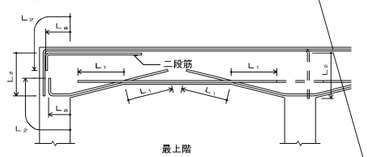
(3) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7.3による。

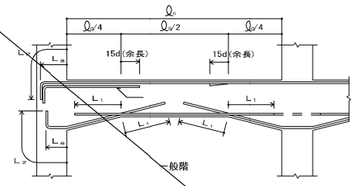


（注）1．梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
2．═══ 印は、継手及び余長を示す。
3．破線は、柱内定着の場合を示す。
4．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

図7.3　大梁の重ね継手、定着及び余長

(4) ハンチのある場合の定着及び余長は、図7.4による。





（注）1．梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
2．═══ 印は、継手及び余長を示す。
3．梁内定着の端部下端筋が接近するときは、＝ ＝ ＝ のように引き通すことができる。
4．破線は、柱内定着を示す。
5．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

図7.4　ハンチのある大梁の定着及び余長

7.2　あばら筋等

(1) あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項
(ｱ) あばら筋の種類、径及び間隔は、設計図による。
(ｲ) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは図7.6による。
ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さ、定着長さは設計図による。
(ｳ) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。

(2) あばら筋組立の形及びフックの位置
(ｱ) 形は、図7.5.1①とする。

(ｲ) フックの位置
(a).①の場合は交互とする。
(b).②の場合　L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。
(c).③の場合は床版の付く側を 90°折曲げとする。

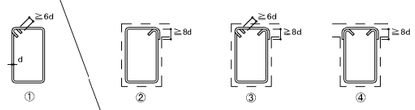


図7.5.1　あばら筋組立の形

(3) 副あばら筋組立の形及びフックの位置
形は、図7.5.2⑤または⑦とする。
ただし、L形梁またはT形梁の場合は⑦とすることができる。

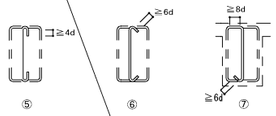
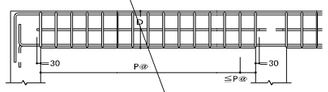


図7.5.2　副あばら筋組立の形

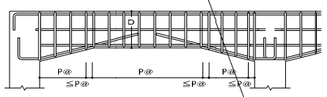
(4) あばら筋の割付け
(ｱ) 間隔が一様でハンチのない場合は、図7.6による。



（注）1．あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2．図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.6　あばら筋の割付け（その１）

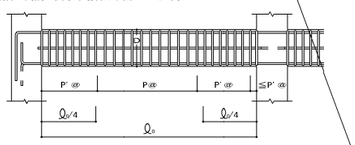
(ｲ) 間隔が一様でハンチのある場合は、図7.7による。



（注）1．あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2．図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.7　あばら筋の割付け（その２）

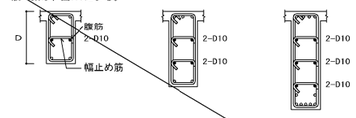
(ｳ) 梁の端部で間隔の異なる場合は、図7.8による。



（注）1．あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2．図中のP@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.8　あばら筋の割付け（その３）

(2) 腹筋及び幅止め筋
一般の梁は、図7.9による。

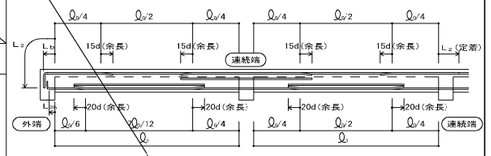


1．腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
2．幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。

図7.9　腹筋および幅止め筋

7.3　小梁

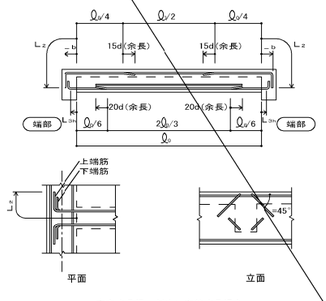
(1) 小梁主筋の継手、定着及び余長
連続小梁の場合は、図7.10による。



（注）1．図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。
2．═══ 印は、余長位置を示す。

図7.10　小梁主筋の継手、定着及び余長（その１）

(2) 単独小梁の場合は、図7.11による。



直交する梁へ斜めに定着する場合

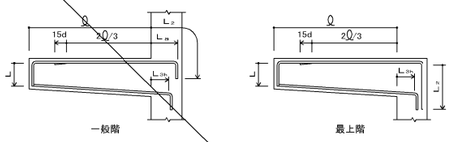
（注）1．図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。
2．═══ 印は、余長位置を示す。

図7.11　小梁主筋の継手、定着及び余長（その２）

(3) あばら筋は、7.2による。

7.4　片持梁

(1) 片持梁主筋の定着及び余長
(ｱ) 先端に小梁のない場合は、図7.12による。

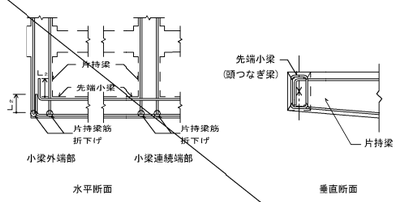


（注）1．図示のない事項は、7.1による。
2．═══ 印は、余長位置を示す。
3．先端の折曲げの長さLₒは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。

図7.12　片持梁主筋の定着及び余長

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	構造関係共通事項（2）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	―	図面番号	S-02
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

（イ）先端に小梁がある場合は、図7.13による。



（注）1．図示のない場合は、（ア）による。
2．先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
3．先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図7.13　片持梁主筋の定着

（2）あばら筋は、7.2による。

8.1　壁

（1）一般事項

（ア）一般壁配筋の重ね継手の長さをL_1とし、耐力壁筋の重ね継手の長さは特記による。
また、定着長さはL_2とし、鉄筋の継手位置は、柱・壁部以外とする。

（イ）幅止め筋は、縦横ともD10-1,000@程度とする。

（ウ）打増し部分に、壁及びスラブ等が取り付く場合は、壁及びスラブ筋等の定着長さには打増し部分は含まない。

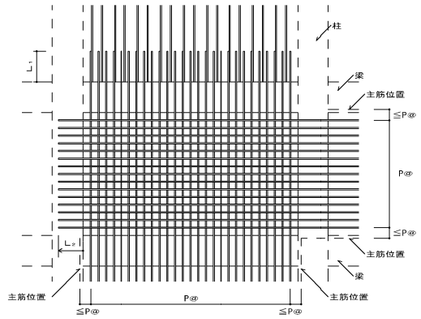


図8.1　壁の配筋

（2）壁の配筋は設計図による。

表8.1　壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図　(mm)
W12	D10-200@シングル	120
W15A	D10-150@シングル	150
W15B	D10-100@シングル	
W18A	D10-200@ダブル	180
W18B	D10-150@ダブル	
W20A	D10-200@ダブル	200
W20B	D10-150@ダブル	

（注）壁筋の配筋順序は、規定しない。

（3）片持スラブ形階段を受ける壁の配筋は表8.2により、種別は設計図による。

表8.2　片持スラブ形階段を受ける壁の配筋

種別	縦筋及び横筋		断面図　(mm)	階段の配筋種別(表10.1)
KW1	縦筋	D13-200@ダブル	180	KA1 KA3
	横筋	D10-200@ダブル		
KW2	縦筋	D13-150@ダブル	200	KA2 KA4
	横筋	D10-200@ダブル		

（注）縦筋は，横筋の外側に配筋する。

（4）土圧を受ける壁の配筋は、構造図による。

（5）壁の交差部及び端部の配筋は、図8.2による。

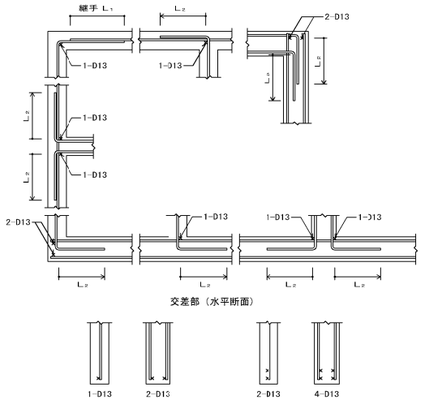


図8.2　壁の交差部及び端部の配筋

8.2　壁の補強

（1）壁開口部の補強

（ア）耐力壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表8.3、B形は表8.4とし、適用は構造図による。
なお、耐力壁の補強筋は、構造図による。

表8.3　壁開口部補強筋（A形）

壁の種別	補強筋	
	縦横	斜め
W12，W15	1-D13	1-D13
W18，W20	2-D13	2-D13

表8.4　壁開口部補強筋（B形）

壁の種別	補強筋	
	縦横	斜め
W12，W15	2-D13	1-D13
W18，W20	4-D13	2-D13

（イ）壁開に部補強の定着長さは、図8.3による。

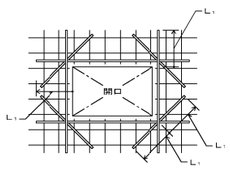


図8.3　壁開口部補強筋の定着長さ

（2）コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、設計図による。

9.1　スラブ

（1）スラブ及び土間コンクリートの上がり下がりは、FLを基準とした寸法値とする。
（2）土間スラブ下の砂利地業厚及び捨てコンクリート厚は設計図による。
（3）土間コンクリート補強筋(DO)の配筋及びコンクリート厚さは設計図による。
（4）スラブの配筋（S形配筋）は表9.1及び図9.1により、配筋種別及びスラブ厚さは、設計図による。

表9.1　S形配筋

配筋種別	短辺方向（主筋）全域	長辺方向（配力筋）全域	配筋種別	短辺方向（主筋）全域	長辺方向（配力筋）全域
S 1	D13-100@	D13-100@	S 8	D10,D13-150@	D10-150@
S 2	同　上	D13-150@	S 9	同　上	D10-200@
S 3	同　上	D10,D13-150@	S10	D10,D13-200@	D10,D13-200@
S 4	D13-150@	D13-150@	S11	同　上	D10-200@
S 5	同　上	D10,D13-150@	S12	同　上	D10-250@
S 6	同　上	D10-150@	S13	D10-200@	D10-200@
S 7	D10,D13-150@	D10,D13-150@	S14	同　上	D10-250@

（注）上端筋，下端筋とも同一配筋とする。

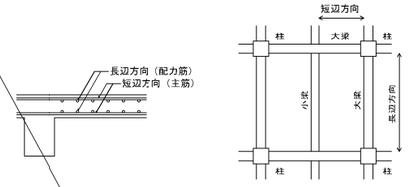


図9.1　スラブの配筋

（5）配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
（6）原則として引き通し、鉄筋の重ね継手長さはL_1とする。
（7）定着長さ及び受け筋は、図9.2による。
ただし、引き通すことができない場合は、図9.3により梁内に定着する。

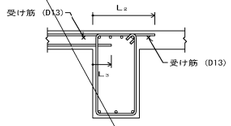


図9.2　スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その１）

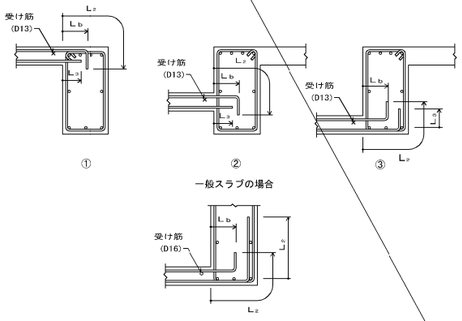


図9.3　スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その２）

9.2　片持スラブ

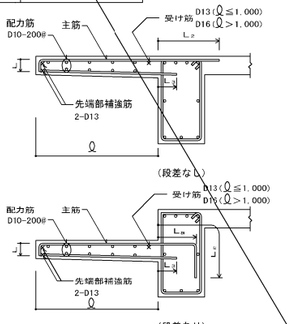
片持スラブは、プレキャストコンクリート部材または現場打コンクリート部材とする。
プレキャストコンクリート部材とする場合の躯体への接続方法は、構造図による。

（1）片持スラブの配筋（CS形配筋）は、表9.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別及びスラブ厚さは、設計図による。

表9.2　CS形配筋

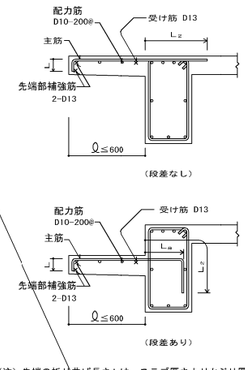
配筋種別		主筋
CS1	上	D13-100@
	下	D13-200@
CS2	上	D13-150@
	下	D13-300@
CS3	上	D10,D13-150@
	下	D10,D13-300@
CS4	上	D10,D13-200@
	下	D10-200@

配筋種別		主筋
CS5	上	D10-200@
	下	D10-400@
CS6	上	D10,D13-200@
	下	——
CS7	上	D10-200@
	下	——



（注）先端の折り曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.4　片持スラブの配筋（ CS1 からCS5 ）



（注）先端の折り曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.5　片持スラブの配筋（CS6及びCS7）

（2）先端に壁が付く場合の配筋は、図9.6による。

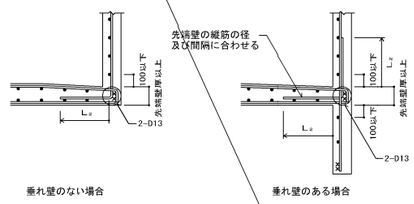


図9.6　先端に壁が付く場合の配筋

（3）出隅部

（ア）補強の配筋に設計図により、配筋方法は、図9.7による。

（イ）出隅受け部分（図9.7の斜線部分）の補強筋は設計図による。

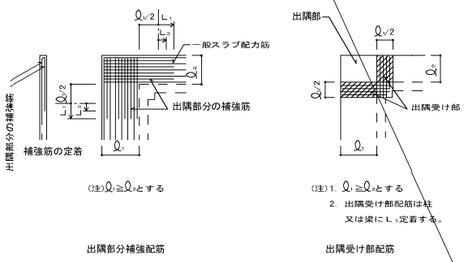


図9.7　片持ちスラブ出隅部の補強配筋

9.3　スラブ等の補強

（1）スラブ開口部の補強

スラブ開口部の補強方法は、構造図による。構造図になければ、（ア）(イ)による。

（ア）スラブ開口の最大径が700mm以下の場合は、図9.8により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13（Q＝2L_1）シングルを上下筋の内側に配筋する。

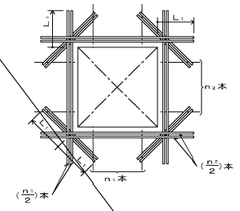


図9.8　スラブ開口部の補強配筋

（イ）スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を曲やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

（2）屋根スラブの補強

屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図9.9により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

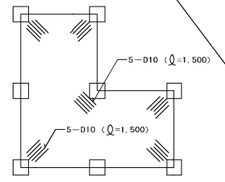
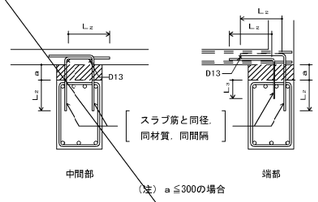


図9.9　出隅及び入隅部の補強配筋

（3）土間スラブの打継ぎ補強

基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は図9.10による。
ただし、土間スラブとは、土に接するスラブで S形の配筋によるものをいう。

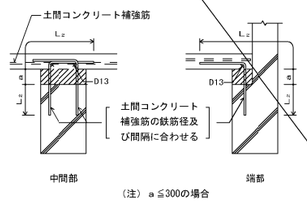


（注）a≦300の場合

図9.10　打継ぎ補強配筋

（4）土間コンクリートの補強

土間コンクリートの補強筋は、設計図による。なお、基礎梁との接合部は、図9.11による。



（注）a≦300の場合

図9.11　土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

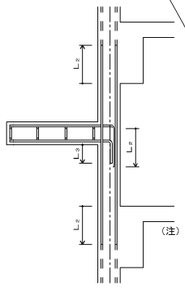
10.1　片持スラブ形階段

片持スラブ形階段の配筋は、表10.1及び図10.1により、寸法及び配筋種別は、設計図による。

表10.1　片持スラブ形階段の配筋

t：スラブ厚さ

配筋種別	KA1	KA2
配筋図	D13 D13 D10-300@ D10-300@ t	2-D13 D13 D10-300@ D10-300@ t
配筋種別	KA3	KA4
配筋図	D10-300@ t t D13 D13	D10-300@ t t D13 2-D13



（注）1．壁配筋は、8.1（3）による。
2．階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
3．スラブ配力筋の継手及び定着の長さは、表3.3［鉄筋の定着の長さ］のL_2とする。

図10.1　片持スラブ形階段配筋の定着

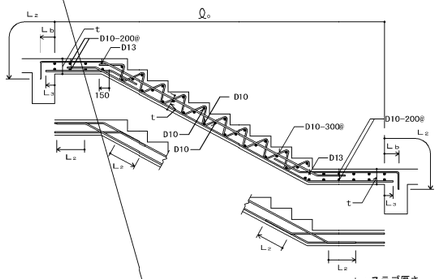
工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	構造関係共通事項（3）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	—	図面番号	S-03
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

10.2　二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段は、プレキャストコンクリート部材または現場打ちコンクリート部材とする。
プレキャストコンクリート部材とする場合の躯体への接続方法は構造図による。
二辺固定スラブ形階段の配筋は表10.2並びに図10.2及び図10.3により、寸法及び配筋種別は、構造図による。

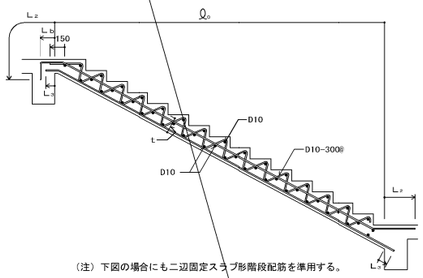
表10.2　二辺固定スラブ形配筋

配筋種別	上端筋、下端筋とも（全域）
KB1	D13-200@
KB2	D13-150@
KB3	D13-100@
KB4	D13, D16-150@
KB5	D16-150@
KB6	D16-125@
KB7	D16-100@

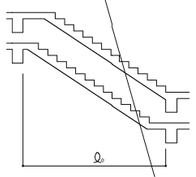


t：スラブ厚さ

図10.2　二辺固定スラブ形階段配筋（その１）



（注）下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。



t：スラブ厚さ

図10.3　二辺固定スラブ形階段配筋（その２）

11.1　梁貫通孔

（1）梁貫通孔は、次による。
　(ｱ)　梁貫通孔補強筋の名称等は、図11.1による。
　(ｲ)　孔の径は、梁せいの1/3以下とする。
　(ｳ)　孔の上下方向の位置は、梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3（Dは梁せい）の範囲には設けてはならない。
　(ｴ)　孔は、柱面から原則として、1.50 以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
　(ｵ)　孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の 3倍以上とする。
　(ｶ)　縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
　(ｷ)　補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11.2による。
　(ｸ)　孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋でき、補強を省略することができる。

　(ｹ)　溶接金網の余長は、1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
　(ｺ)　溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋 1-13φのリング筋を取り付ける。
　　なお、リング筋は、溶接金網に 4箇所以上溶接する。
　(ｻ)　溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。
　(ｼ)　他の開孔を設けない範囲は、図11.3による。

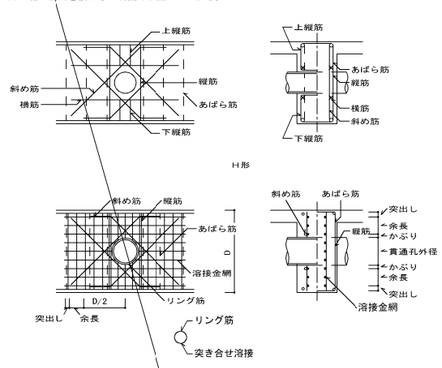


図11.1　梁貫通孔補強筋の名称等

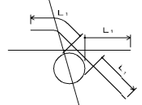


図11.2　補強筋の定着長さ

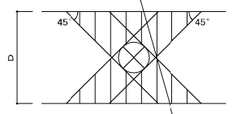


図11.3 他の開孔を設けない範囲

（2）梁貫通孔の補強形式は表11.1～表11.2により、配筋種別は設計図による。

表11.1　H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

（注）－ － － は、一般部分のあばら筋を示す。

表11.2　MH形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	
MH2		2-2-D13		
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100@	
MH4	4-2-D13			
MH5	4-2-D16			
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100@	
MH7	4-2-D19			

（注）－ － － は、一般部分のあばら筋を示す。

11.2　コンクリートブロック帳壁との取合い

（1）控壁は、次による。
　(ｱ) 控壁の配置は、設計図による。
　(ｲ) 配筋は、図11.4による。

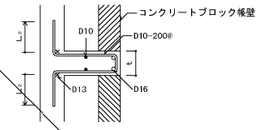


図11.4　控壁の配筋（水平、垂直とも）

（2）帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図11.5による。

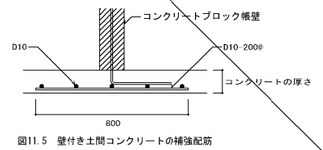


図11.5　壁付き土間コンクリートの補強配筋

11.3　パラペット

パラペットの先端補強筋は図11.6により、コンクリート厚さ及び笠筋は構造図による。

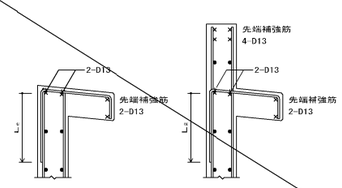
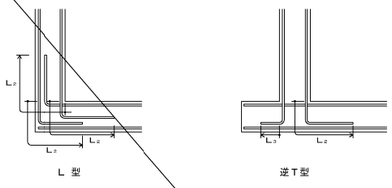


図11.6　パラペットの先端補強筋

12.1　擁壁

宅地造成等規制区域外での高さ2m以下の擁壁の鉄筋の定着長さは図12.1により、コンクリートの厚さ及び配筋は構造図による。



L 型　　逆Ｔ型

図12.1　擁壁の鉄筋の定着長さ

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	構造関係共通事項（4）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	－	図面番号	S-04
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

耐震改修工事特記仕様書

1 適用範囲

◎各工事は、本特記仕様書及び設計図に基づくものとし、これらに記載のない場合は、
公共建築改修工事標準仕様書（最新版）及び、公共建築工事標準仕様書（最新版）による。
◎設計図と本構造特記仕様書の内容に疑義が生じたり、現場の納まり等で設計図によることが困難な場合が生じた時は監督職員と協議を行う。
◎本工事における設計図書等の優先順位は、下記による。
1．現場説明書及び現場説明に対する質問回答書
2．図面
3．本構造特記仕様書
4．公共建築改修工事標準仕様書（最新版）
5．公共建築工事標準仕様書（最新版）

2 構造使用材料（項目は、番号に○印のついたものを使用する。）

1．コンクリート
- ☉コンクリートの種別　ＪＩＳ表示許可工場にて製造された、レディーミクストコンクリート
- ☉設計基準強度　Fc＝24N/mm2
- ☉スランプ　18cm 以下
- ☉粗骨材最大径　20mm 程度
- ☉単位セメント量　270kg/m3　以上
- ☉単位水量　185kg/m3　以下
- ☉水セメント比　65% 以下

2．鉄筋
- ☉全般　SD295　JIS規格品（D13以下）
  - SD345　JIS規格品（D16以上）
- ☉スパイラル筋　SR235　（6φ）設計図による。
- ☉鉄筋継手　重ね継ぎ手を原則とする。

3．接合部アンカー（柱、梁面）
- ☉接着系アンカー　有機系(カプセル型)
- ☉アンカー筋　SD295　JIS規格品（D13以下）
  - SD345　JIS規格品（D16以上）

4．無収縮モルタル
- ☉グラウト材　プレミックスタイプの早強型特殊セメント系無収縮グラウト材
- ☉設計基準強度　Fm=30N/mm52以上
- ☉コンシステンシー　J14ロート試験方法による。

5．鉄骨
- ・鋼材　JIS規格品　・SS400　・SM490A　・SN490B　・STK400　・STKR400
- ・高力ボルト　・S10T 認定品（または、F10T JIS規格品）
  - ・溶融亜鉛メッキボルト(F8T 大臣認定品)
- ・頭付きスタッド　JIS規格品

3 材料試験（項目は、番号に○印のついたものを使用する。）

1．規格品でＪＩＳ表示のあるもの、もしくはメーカーが保証する検査証明書のある材料、
またはあらかじめ監督職員の承認を受けた場合は材料検査を省略することができる。
2．下記の材料は、関連仕様書に基づき試験を行い、報告書を提出すること。
試験回数は施工計画書を提出し監督職員との協議の上、決定する。
- ☉コンクリート　:圧縮強度試験　（ 8.5による）
  - :品質検査　（ 8.5による）
- ☉あと施工ｱﾝｶｰ　:張力確認　（ 7.8による）
- ☉無収縮モルタル　:圧縮強度試験及び流下速度　（ 9.8による）
- ・鉄骨　:超音波探傷試験（完全溶け込み溶接部）　(10.4による)

4 施工計画

・補強工事は、既存の構造体に対して部材を増設する事によって耐震性の向上及び構造の改善を図るもので、既存躯体との接合がきわめて重要である。
また、この工法は、限られた場所で行なわれるもので、一般の建築工事とは施工方法などが相当異なる面がある。よって、設計の主旨が充分に実現される様な工法を選び、工事着手に先だち施工計画書を作成し、監督職員の承諾を得てから実施する。
特に次の点には充分注意する。
（1）既存寸法、階高寸法その他は、実測による。
（2）補強部材と既存躯体との一体化を図る。

5 改修工事の主な施工内容（項目は、番号に○印のついたものを使用する。）

1．鉄骨ブレース新設
1）既存躯体の実測と墨出し
（既存鉄筋を鉄筋探査器により確認）
2）原寸図の作成と加工
3）部材組立て（工場溶接）
4）既存躯体表面の目荒し
5）既存躯体への接合接着系ｱﾝｶｰ設置
6）現場搬入，建て入れ、本接合
7）鉄筋の加工及び組立て
8）清掃
9）型枠組立、コーキング
10）無収縮モルタル等圧入，養生
11）型枠撤去及び清掃

②．鉄筋コンクリート耐震壁増設
1）既存躯体の実測と墨出し
（既存鉄筋を鉄筋探査器により確認）
2）既存躯体表面の目荒し
3）既存躯体への接合接着系ｱﾝｶｰ設置
4）鉄筋の加工及び組立て
5）清掃
6）型枠組立、コーキング及び水湿し
7）コンクリート打設，養生
8）型枠撤去及び清掃
9）無収縮モルタル等圧入，養生
10）型枠撤去及び清掃

③．本工事における各耐震改修工法について、
施工手順及び施工計画書を作成し監督職員の承認を得ること。

6 解体・撤去

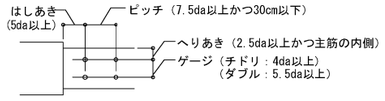
1．仮設足場等は、作業に応じて設けるものとし、施工性の向上と安全性を確保すること。
2．コンクリート及び塗り仕上げを部分的に撤去する場合は、カッター等で切込みを付け既存部分の保護を図ること。既存コンクリートの撤去は、原則として油圧式のハンドクラッシャーを用いること。又、既存躯体面の目荒しは、主に電動ピック等を用いて、平均深さで2～5mm(最大で5～7mm)程度の凹面を、合計が打継ぎ面の15～30%程度の面積となるように全体にわたってつける。（増打ち壁増設の場合の既存壁には、打継ぎ面の10～15%程度を目安として目荒しを行う。）
3．接合部の粉塵及びはつり殻は、入念な清掃及び水洗いを行うこと。躯体コンクリート面が、ジャンカや著しく脆弱な場合には、監督職員に報告し対応について指示を受けること。
4．仕上げ，躯体コンクリート及び設備配管などの撤去に際しては必要最小限の範囲とし、残りの部分をいためない様に充分注意すること。

7 アンカー工事

1．アンカー打設は、社団法人　日本建築あと施工アンカー協会(JCAA)の有資格者とする。
2．接着系アンカーは、使用実績も多く信頼性の高いものを用いること。又、コンクリートドリル径は、アンカー径に適合したものとする。
3．接着系アンカーのピッチ及び配置の最小値は下表による。

単位（mm）

外径　da	ピッチ	はしあき	へりあき	ｹﾞｰｼﾞ(ﾁﾄﾞﾘ)	ｹﾞｰｼﾞ(ﾀﾞﾌﾞﾙ)
10	75	50	25	40	55
13	97.5	65	32.5	52	71.5
16	120	80	40	64	88
19	142.5	95	47.5	76	104.5
22	165	110	55	88	121



4．アンカー筋の有効埋込み長さは一般部:7da,開口補強筋用:12da、また穿孔長さは一般部:8da,開口補強筋用:13daとし、定着長さは図示とする。
5．本工事に用いる接着系アンカーは、有機系カプセル型とし、D13以下 SD295規格品、D16以上　SD345規格品とする。
※埋め込み深さが10da以上の場合は、樹脂容量が適合するカプセルを選定する。
6．穴開けに先立ち、増設部分の既存柱・梁において、主筋，肋筋及び帯筋の位置を鉄筋探査機等を用いて確認すること。鉄筋等に当り埋込み長さが不足したものは、不良孔とし無収縮性のモルタル、もしくはポリマーセメントモルタルにて補修すること。
7．１階部分では、土間スラブと基礎梁が一体化されていないことが予想される。
このため、既存躯体を部分的に斫り補強筋などにより、土間スラブと基礎梁との一体化が図られていることを確認すること。
8．アンカー試験
・接着系アンカー筋　……全数打音確認
・張力確認　……１日に施工されたものの各径ごとを１ロットとし、この中から３本を確認張力まで引張り、強度及び引張剛性を測定する。
・確認張力は、下表の値以上とする。

単位（kN／本）

径	材質	確認張力	備考
D13	SD295	20.4 kN	Le= 7da
D16	SD345	26.4 kN	Le= 7da
D16	SD345	45.8 kN	Le=10da

※ ディスクシアキー用アンカーはディスクシアキー工法特記仕様書に記載する。

8 コンクリート工事

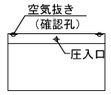
1．コンクリート打設前に粉塵・はつり殻等を清掃し、数日前から充分に水湿しを行なう。
2．コンクリートの打設は、型枠頭部の横に連続性のあるアサガオ型の投入口を設け、コンクリートを打設する。
3．コンクリートの打設時は、バイブレーター等を用いて密実なコンクリートとし、梁下200mm程度で打ち止める。(壁の場合)
4．型枠
- ・コンクリート部：屋内（普通），屋外（打放）厚12を標準とする。
- ・無収縮モルタル部：屋内・屋外とも普通合板 厚12を標準とする。
- ・型枠存置期間：４日～７日（監督職員との協議により決定すること。）
- ・外部の打増し範囲，面木及びスリーブの取付けは、他の業者と打合せを行い施工図に明記すること。

5．コンクリートの強度試験
- ・試験は、県内の生コンクリート協同組合で実施する。
- ・圧縮強度試験は、コンクリートの調合が異なるごとに、１日１回以上、かつ、コンクリート150m3ごと及びその端数につき１回以上とする。
  尚、供試体は材令２８日３本とする。
- ・品質は下記による。

スランプ　cm	空気量　%	塩化物イオン量　kg/m3
18±2.5	4.5±1.5	0.3以下

9 無収縮モルタル圧入工事

1．モルタル圧入工事は、アンカーの打設と同様に本工事の重要な作業工程であるため、打設には充分注意すること。型枠撤去後は、施工箇所の全周について検査を行ない、打設が完全であることを確認し監督職員の承認を受けること。万一、不良箇所が生じた場合は、ただちに監督職員に報告し施工業者の責任において、補修（再圧入）を行なう。
2．コンクリート打設面のレイタンス等は、ワイヤーブラシ又は、圧縮空気により除去し水湿しを行なうこと。
3．圧入用型枠の施工及び各部のコーキングは、圧入業者の施工とする。
4．型枠は、普通合板 厚12 を原則とし、圧入の圧力に対して十分に抵抗できる剛性を持つものとする。セパレーターを用いて両側より締めつけ、モルタルの漏出のないように組立ること。
5．圧入は、適切な圧力で中断しないように行うこと。
6．空気抜き（確認孔）を設け、グラウトモルタルが空気抜き（確認孔）に出てくる事を確認すること。圧入位置及び空気抜き（確認孔）の位置は下図による。



（1）による普通コンクリート施工後、
（2）により無収縮モルタルを圧入する。

7．本工事に用いる無収縮モルタルは、セメント系無収縮モルタルとし、
増設壁等は、Fm=30N/mm2以上とする。
標準使用量及び流下速度については、メーカー仕様に基づき、施工計画書に明記して承認を得ること。
8．モルタル試験
- ・圧縮強度試験については、生コンクリート協同組合にて行う。
- ・試験は１日に施工する毎に１回以上、かつ打設量が３m3越える場合はモルタル２m3当たり１回を追加し、コンシステンシー試験（J14ロートによる)を行い、供試体を採取する。
- ・モルタル用の供試体は、直径50mm、高さ100mmの大きさとし、材令３日、７日、２８日ごとに３本とする。

10 鉄骨工事

1．鉄骨製作工場‥建築基準法第68条の26による大臣認定工場とする。
株式会社　日本鉄骨評価センター又は
社団法人　全国鐵鋼工業協会（全構協）：指定なし
2．施工図　‥鉄骨工作原寸図に先立ち、鉄骨加工図を作成し監督職員の承認を受ける。
3．錆止め塗料　‥ブレース枠材及び一般鉄骨材(ADブレースを除く)
JIS K 5674(無鉛=ｸﾛﾑﾌﾘｰ)2回塗り

4．溶接検査　‥溶接部の検査は、全体の目視検査と超音波探傷試験を行う。
超音波探傷試験において、工場内での自主検査は１００%とし、第三者試験機関による試験は、工場･工事現場溶接共、全数試験とする。なお、試験の規準は、(社)日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査基準」による。第三者試験機関は、監督職員の承諾を受ける。
5．頭付スタッド‥鉄骨枠に溶接する頭付きスタッドは下表による。又、配置（最小値）は下図による。

単位（mm）

呼び名	軸径ｄ	頭径Ｄ	頭高さＴ	溶接後の首下長さＬ	形状

※ ディスクシアキー用頭付スタッドはディスクシアキー工法特記仕様書に記載する。

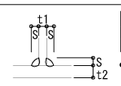
11 溶接基準図（参考:鉄骨設計標準図･最新版・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）

※開先形状の各部寸法、溶接姿勢等の表示についてはJASS6 付則 5に従う。
※鉄骨の製作精度については、JASS6 付則 6に従う。

半自動溶接

スミ肉溶接

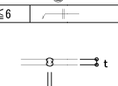
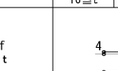
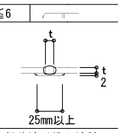
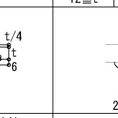
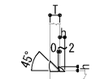
記号	①
板厚	t≦16



t≦16mm															
t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16		
S	3	4	5	6	6	7	7	8	9	10	10	11	12		

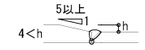
- tはt1、t2の小さい方とする。
  余盛りは（1＋0.1S）以下とする。

突合せ溶接

記号	②	③	④
板厚	t≦6	6<t<16	16≦t
裏はつり		 f≧0.5mm,ただし t≧15mmのときは4mmとする。	
板厚	t≦6	6<t<12	12≦t
裏当て	 25mm以上	 25mm以上	25mm以上
	⑤ 部分溶け込み溶接	⑥ 部分溶け込み溶接	
	 T/4≦h≦10		

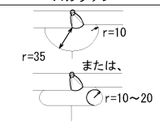
板厚が異なるとき

- 溶接表面が薄い方の材から厚い方の材へ滑らかに移行するように溶接する。



- 厚い方の材をテーパー加工し、開先部分で薄い方の材と同一の高さにする。

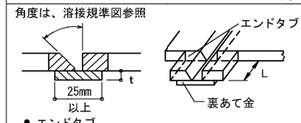
スカラップ



- スカラップの形状は上図のいずれかとし、監督員の承認を受けて決定する。
- ノンスカラップ工法を採用する場合には施工計画書に明記の上、監督職員の承認を得ること。

エンドタブと裏当金

角度は、溶接規準図参照



単位（mm）

溶接方法	t	L
手溶接	6	35～50
半自動溶接	9	40～60
自動溶接	12	70～100

- エンドタブ
  ①突き合せ溶接、部分溶込み溶接の両端部に同開先形状のエンドタブをとりつける。
  ②エンドタブの材質は、母材と同質又はセラミック系、フラックス系とする。
  ③鋼製タブの場合は溶接終了後、母材より５mm程度残し切断してグラインダー仕上げとする。
  ④セラミック系、フラックス系タブの場合はクランプ用針金で充分に固定してから溶接を行う。
- 裏あて金
  ①裏あて金の材質は、母材と同質又はセラミック系、フラックス系とし厚さは手溶接で６mm、半自動溶接で９mm以上とする。
  ※非スチール系のエンドタブを使用して溶接施工をする場合は、溶接技量付加試験などにより技量確認を行うこと。

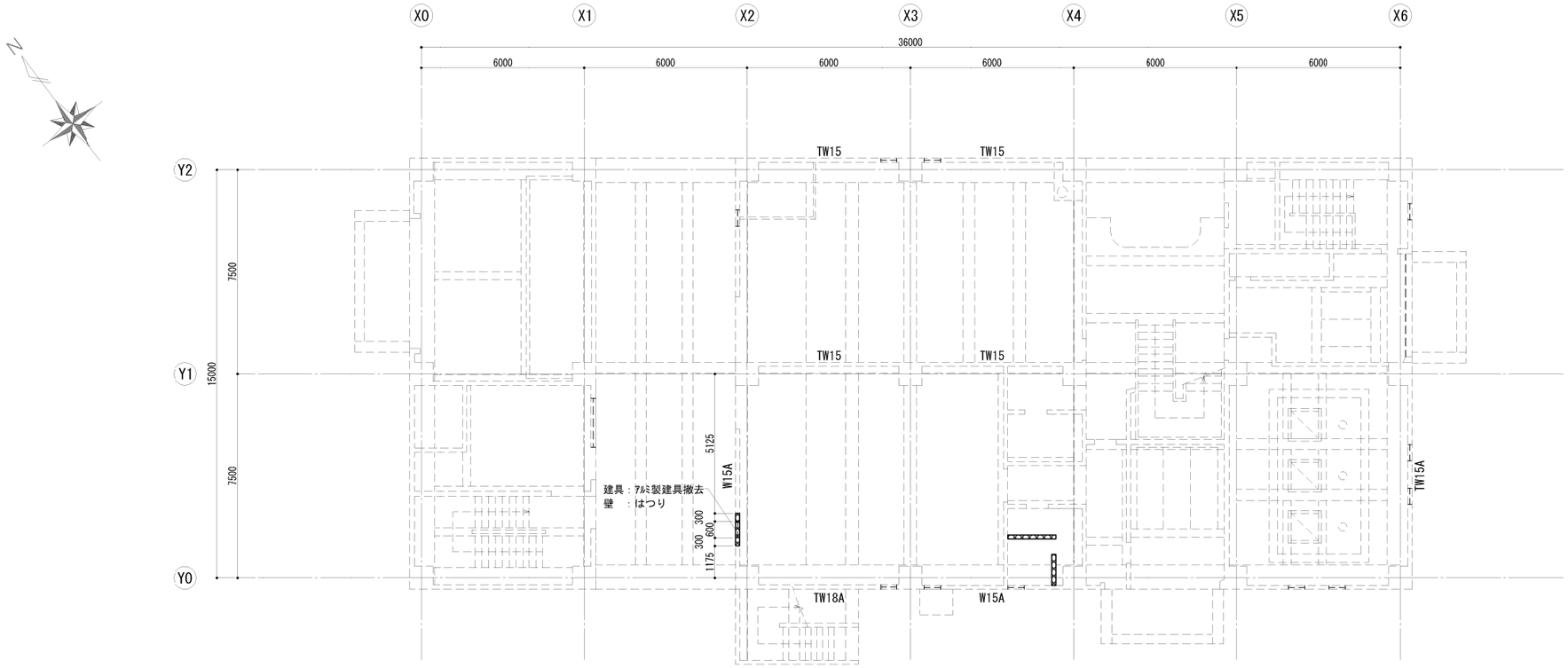
12 取付き既存柱、梁、スラブの補修

1．ひび割れ等のある柱、梁のエポキシ樹脂注入（低圧注入工法）は、製品の品質・規格・使用方法などをまとめた施工計画書を提出して、監督職員の承認を得ること。
2．施工にあたっては、材料の保管場所を限定するとともに消火器を設置し、換気及び火気には充分注意すること。
3．鉄筋コンクリートの壁及び鉄骨ブレースを設置する柱は、これらに先立ち躯体補修等を行うこと。

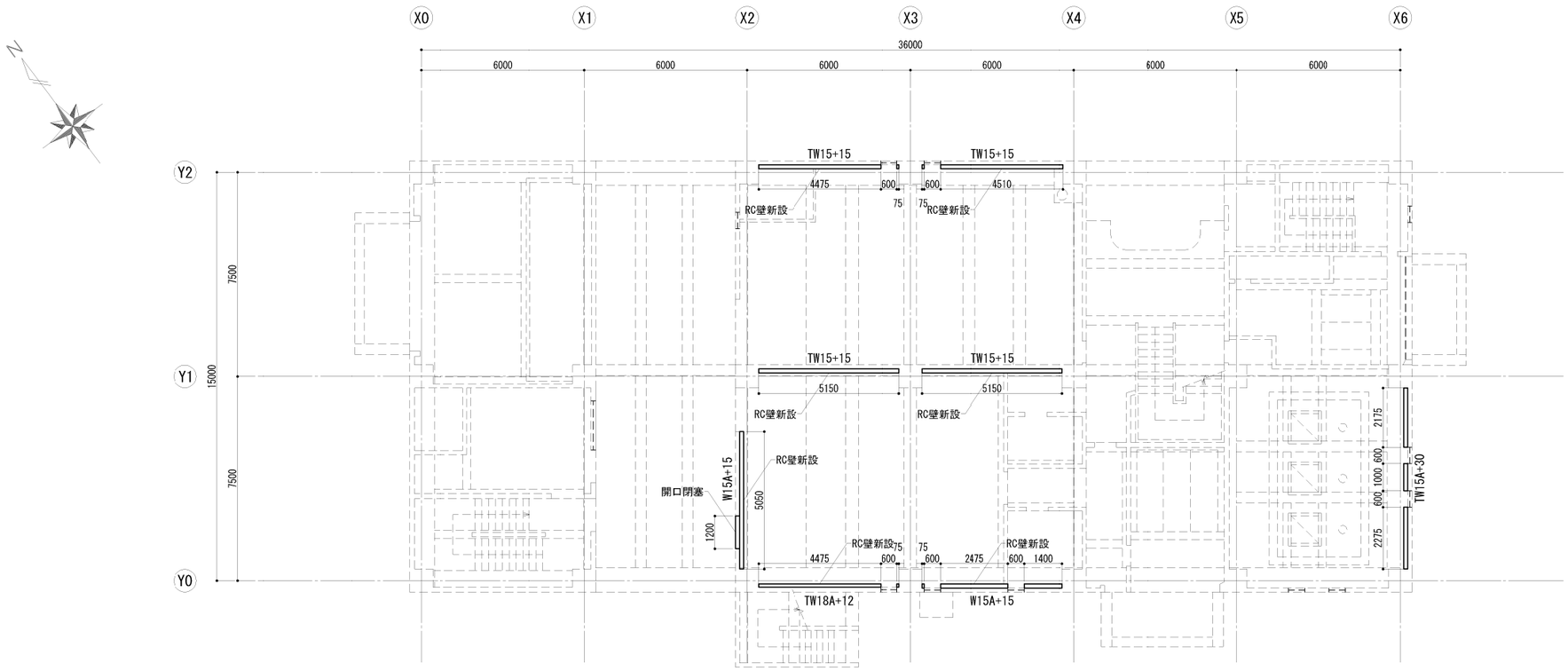
13 その他

1．補強部材の設置によって既存スラブを斫った場合は、既存鉄筋を残して鉄骨材設置後に復旧すること。
2．既設スラブジェベル筋は、鉄骨材の設置によって切断された場合は、スタッド及び横筋によって定着させること。
3．補強部材設置時に仕上げ材が干渉する場合は施工上必要な範囲について撤去し、補強部材取付後に既存同等復旧とすること。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	耐震改修工事特記仕様書		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	―	図面番号	S-05
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		



1階 伏図［改修前］



1階 伏図［改修後］

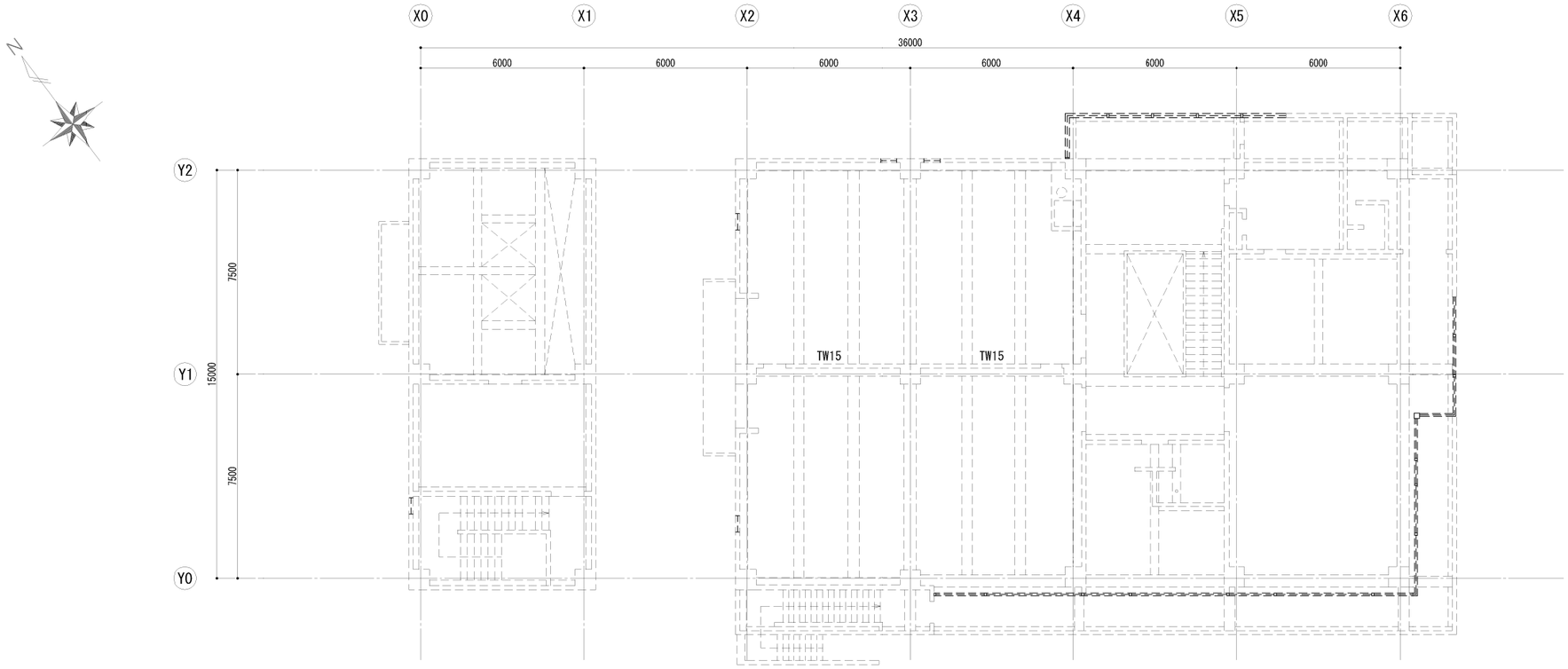
【凡例】

：既存躯体を示す

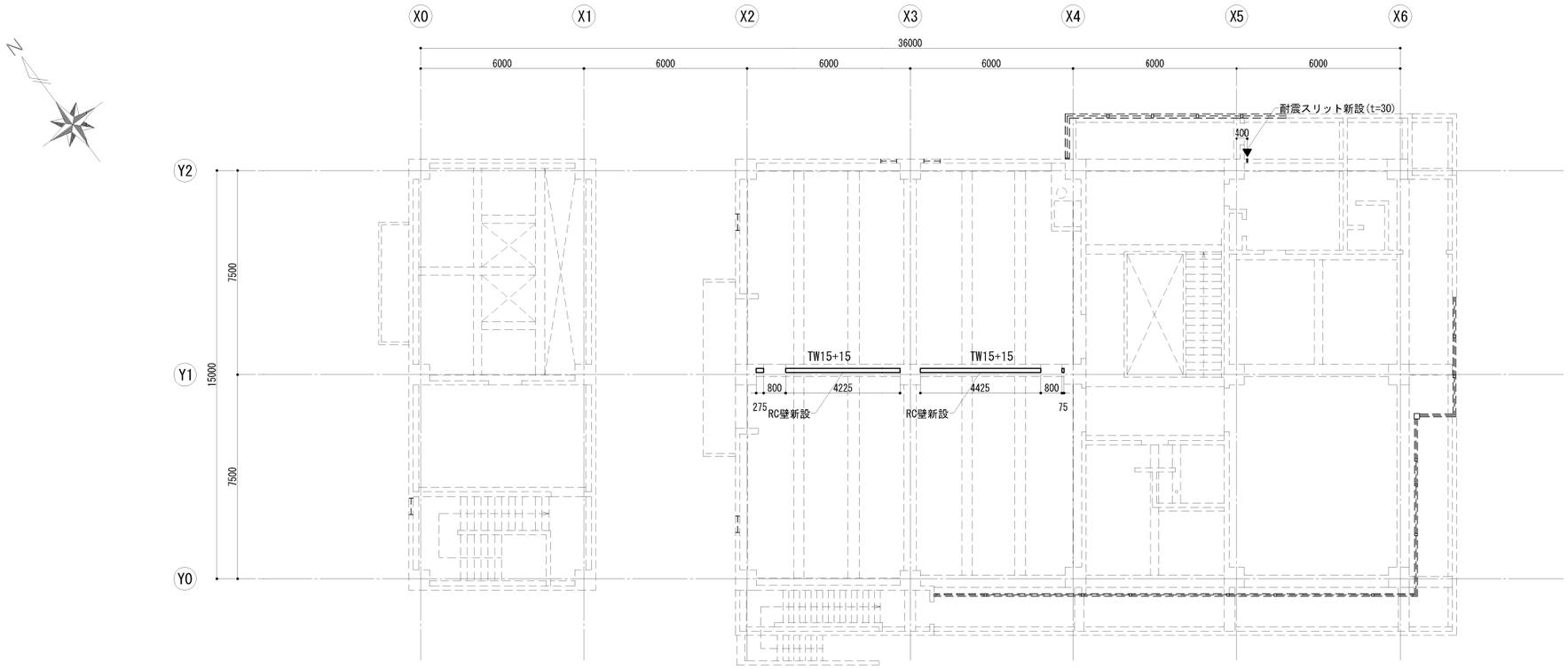
：撤去・はつりを示す

：補強箇所を示す

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	1階 伏図［改修前・後］		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	S-05
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		



2階 伏図［改修前］



2階 伏図［改修後］

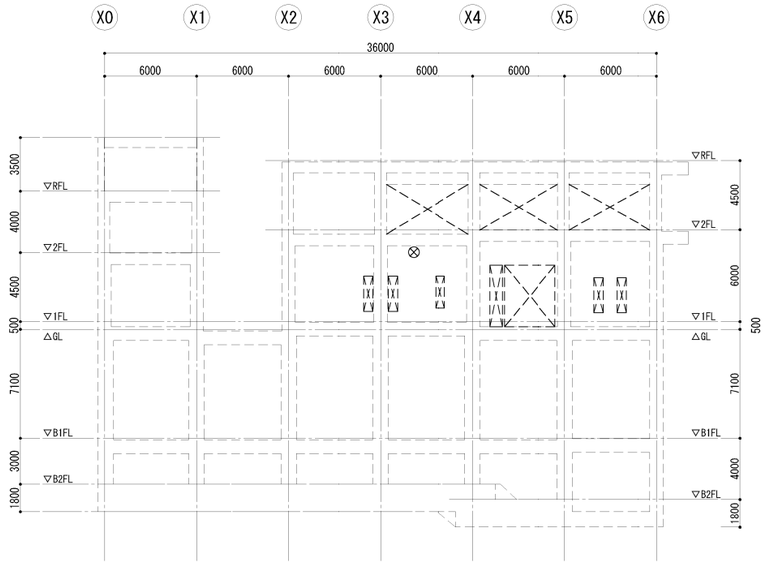
【凡例】

：既存躯体を示す

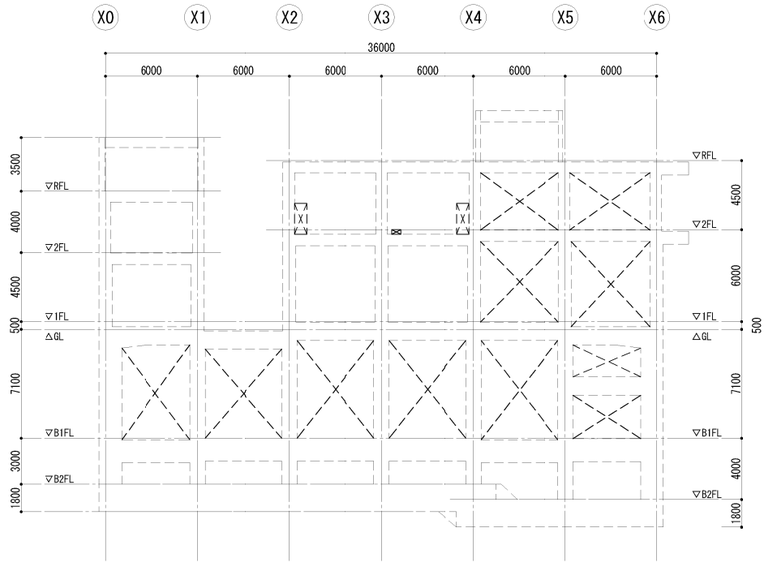
：撤去・はつりを示す

：補強箇所を示す

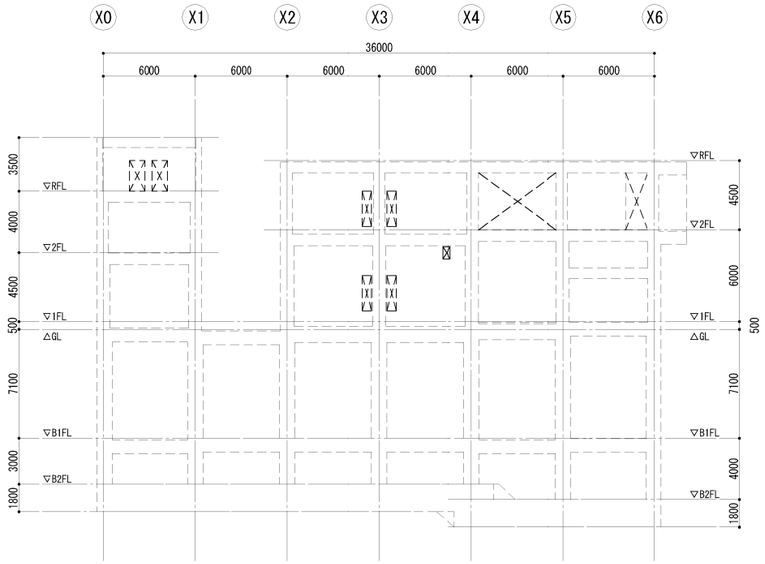
工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	2階 伏図［改修前・後］		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	S-07
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		



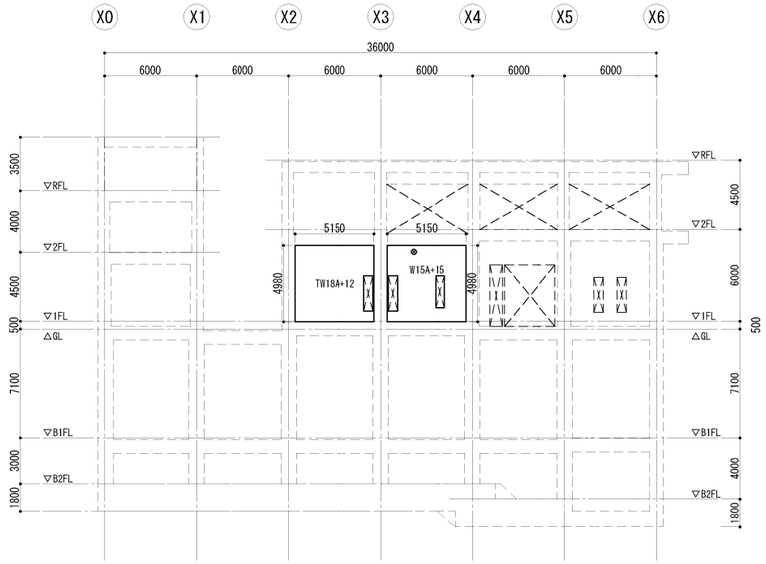
Y0通り 軸組図［改修前］



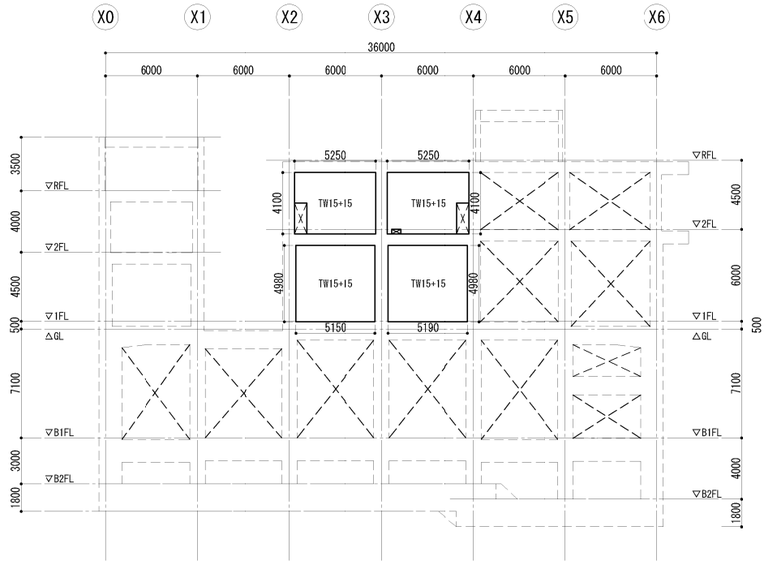
Y1通り 軸組図［改修前］



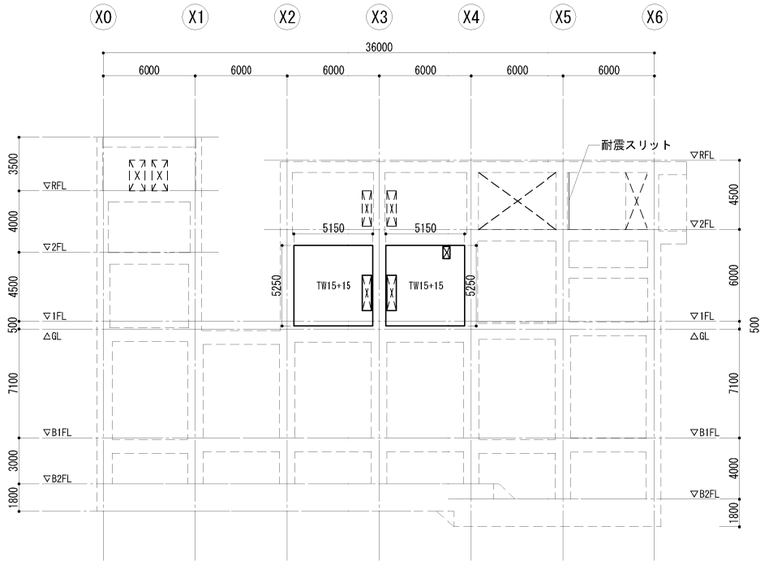
Y2通り 軸組図［改修前］



Y0通り 軸組図［改修後］



Y1通り 軸組図［改修後］



Y2通り 軸組図［改修後］

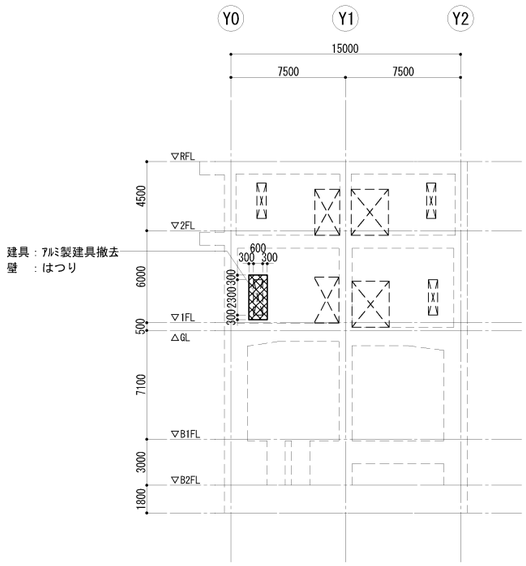
【凡例】

：既存躯体を示す

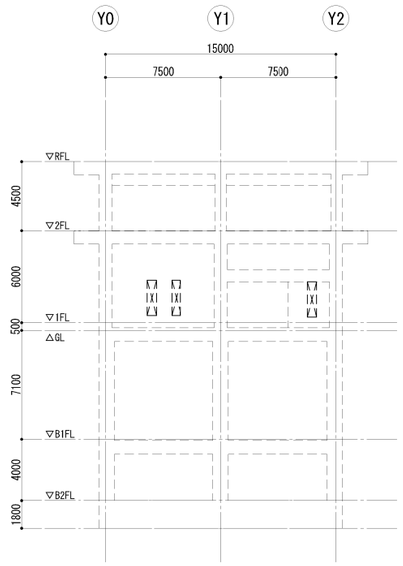
：撤去・はつりを示す

：補強箇所を示す

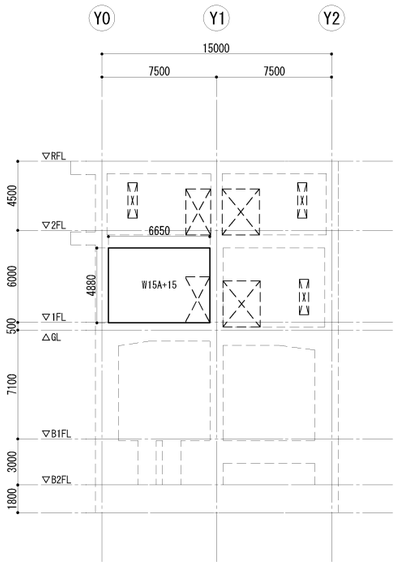
工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	軸組図(1)［改修前・後］		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/200	図面番号	S-08
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		



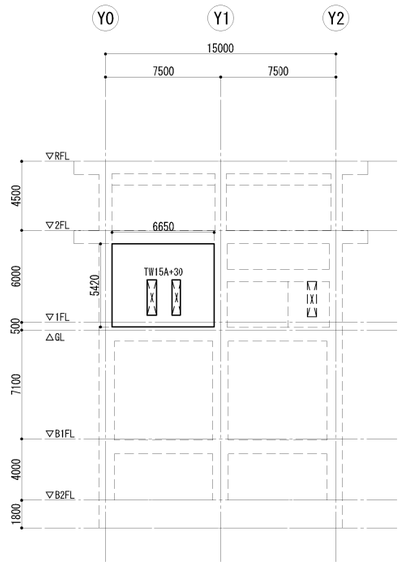
X2通り 軸組図［改修前］



X6通り 軸組図［改修前］



X2通り 軸組図［改修後］



X6通り 軸組図［改修後］

【凡例】

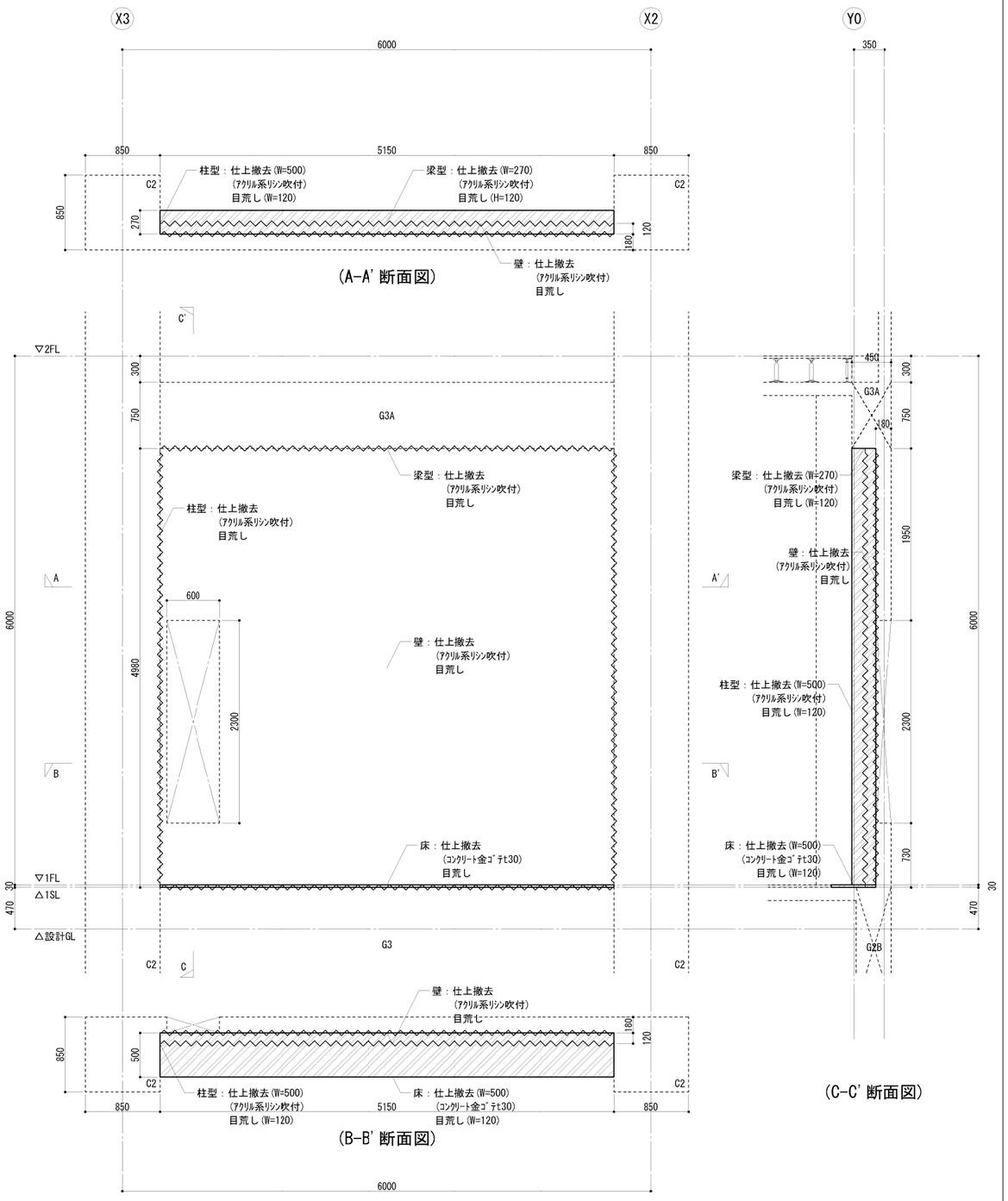
：既存躯体を示す

：撤去・はつりを示す

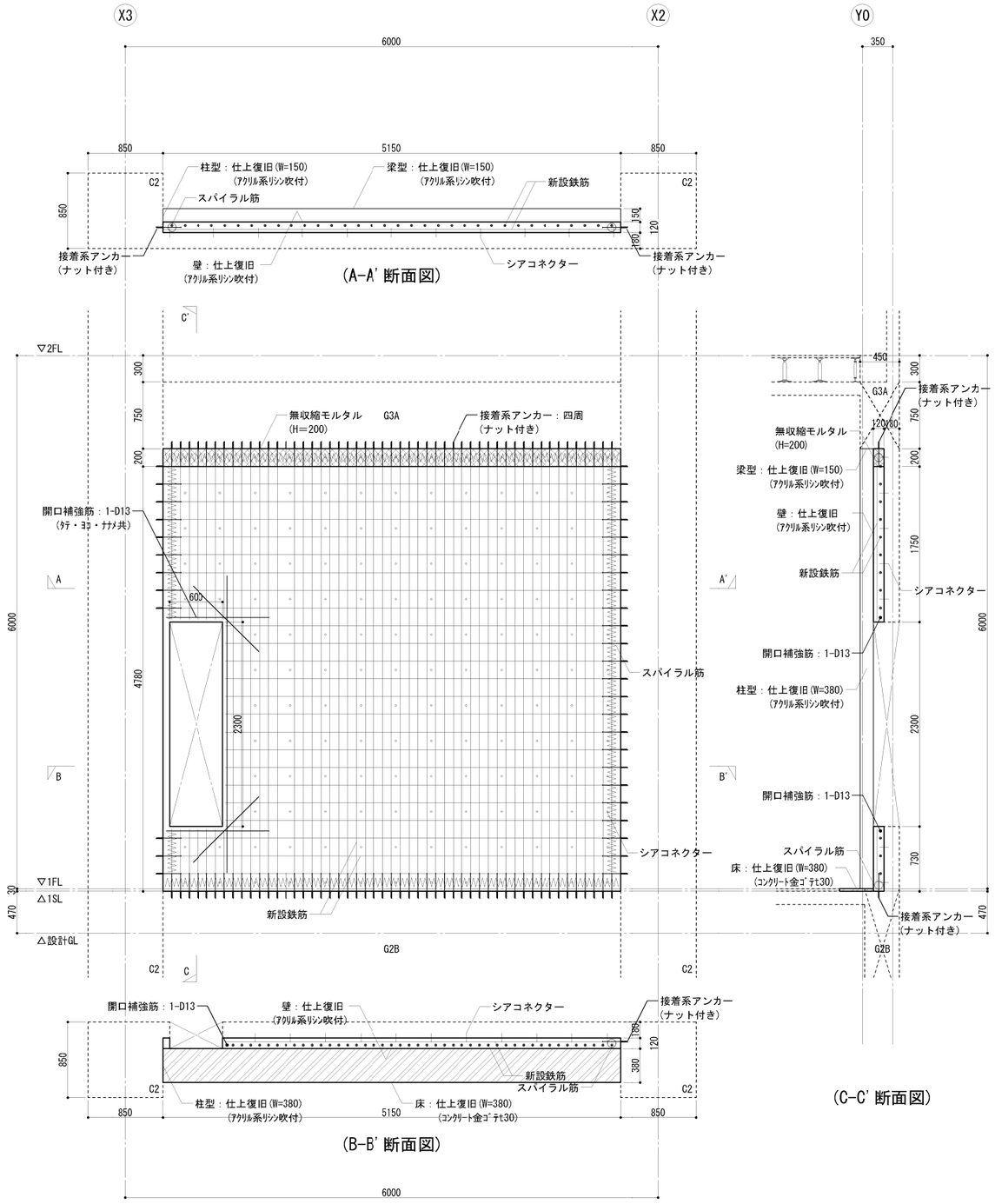
：補強箇所を示す

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	軸組図(2)［改修前・後］		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/200	図面番号	S-09
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

X3 ～ X2 通り (1F 工作室・倉庫)



Y0 通り 耐震改修詳細図［改修前］



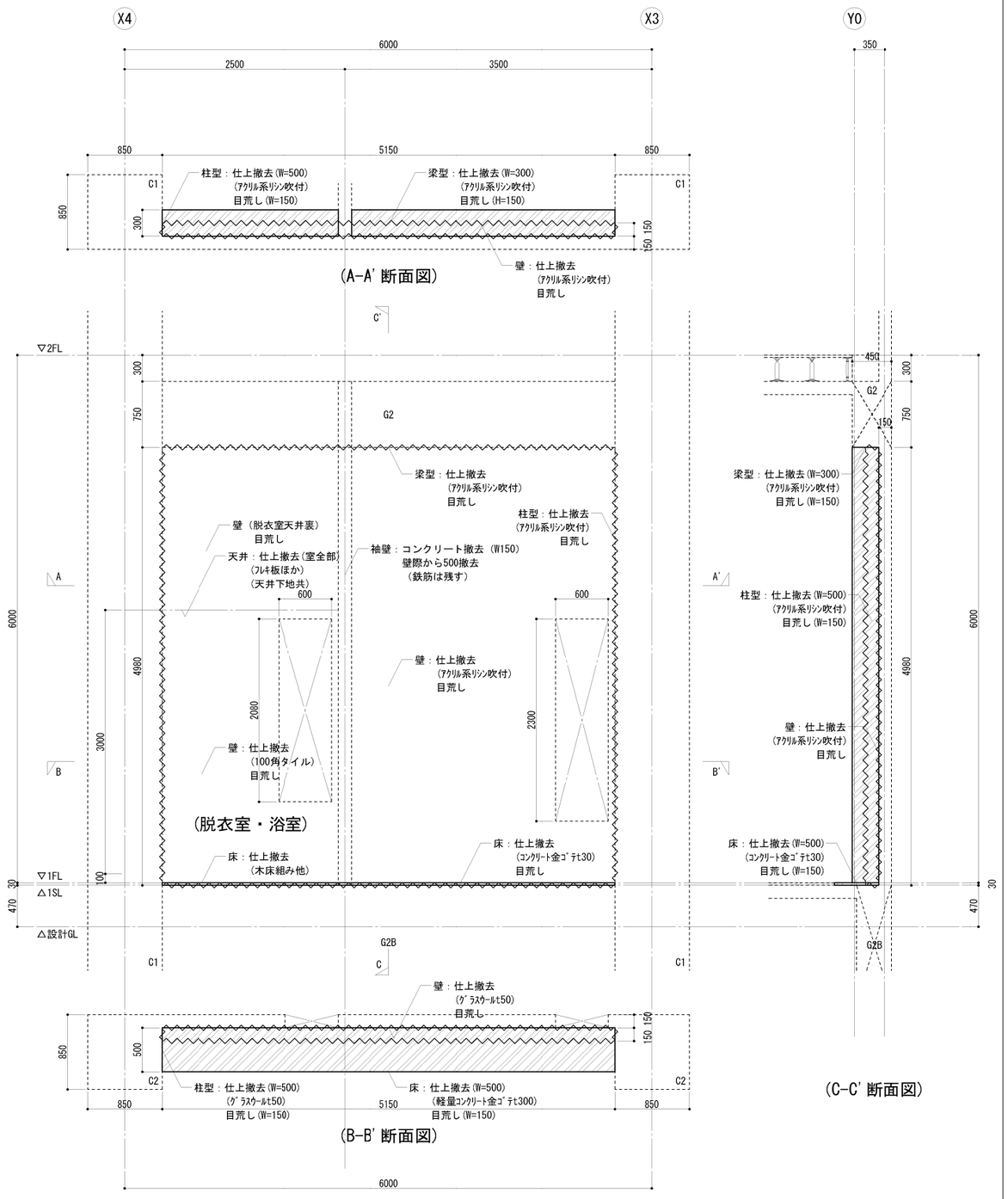
Y0 通り 耐震改修詳細図［改修後］

各種仕様一覧表

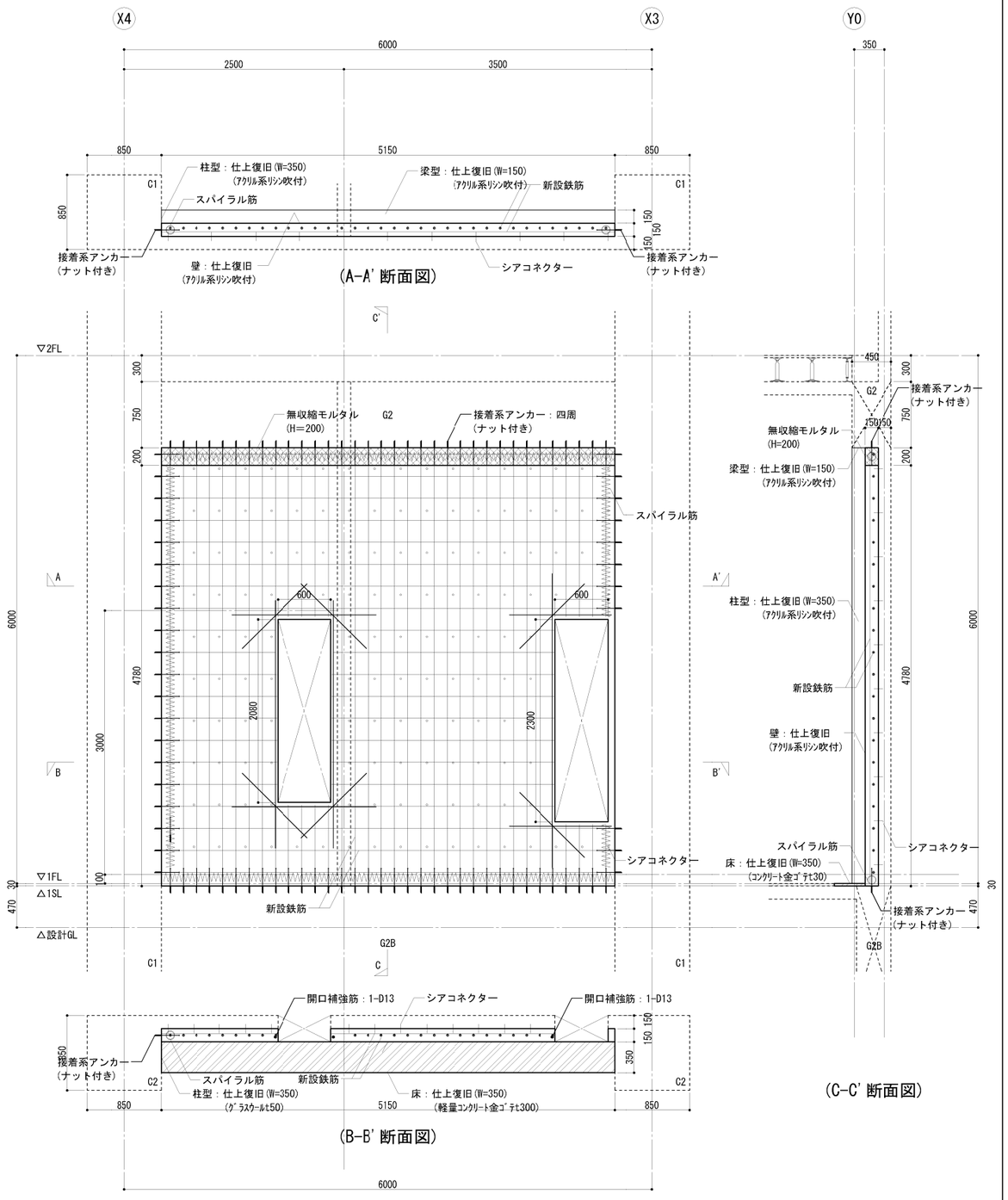
適用/不適用（■/□）	壁配筋	接着系アンカー 径・ﾋﾟｯﾁ	接着系アンカー 有効埋込長	接着系アンカー 有効定着長	スパイラル筋 スパイラル径	スパイラル筋 割裂補強筋	シアコネクター
□	ﾀﾃ筋：D10@150シングル ﾖｺ筋：D10@250シングル	上下：D10@150 横　：D10@250	7da	20da	100φ	6φ@50	D10@500
■	ﾀﾃ筋：D13@100シングル ﾖｺ筋：D10@200シングル	上下：D13@100 横　：D10@200					D10@400

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	耐震改修詳細図(1)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/30	図面番号	S-10
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

X4 ～ X3 通り（1F 工作室・倉庫、浴室、脱衣室）



Y0 通り 耐震改修詳細図［改修前］



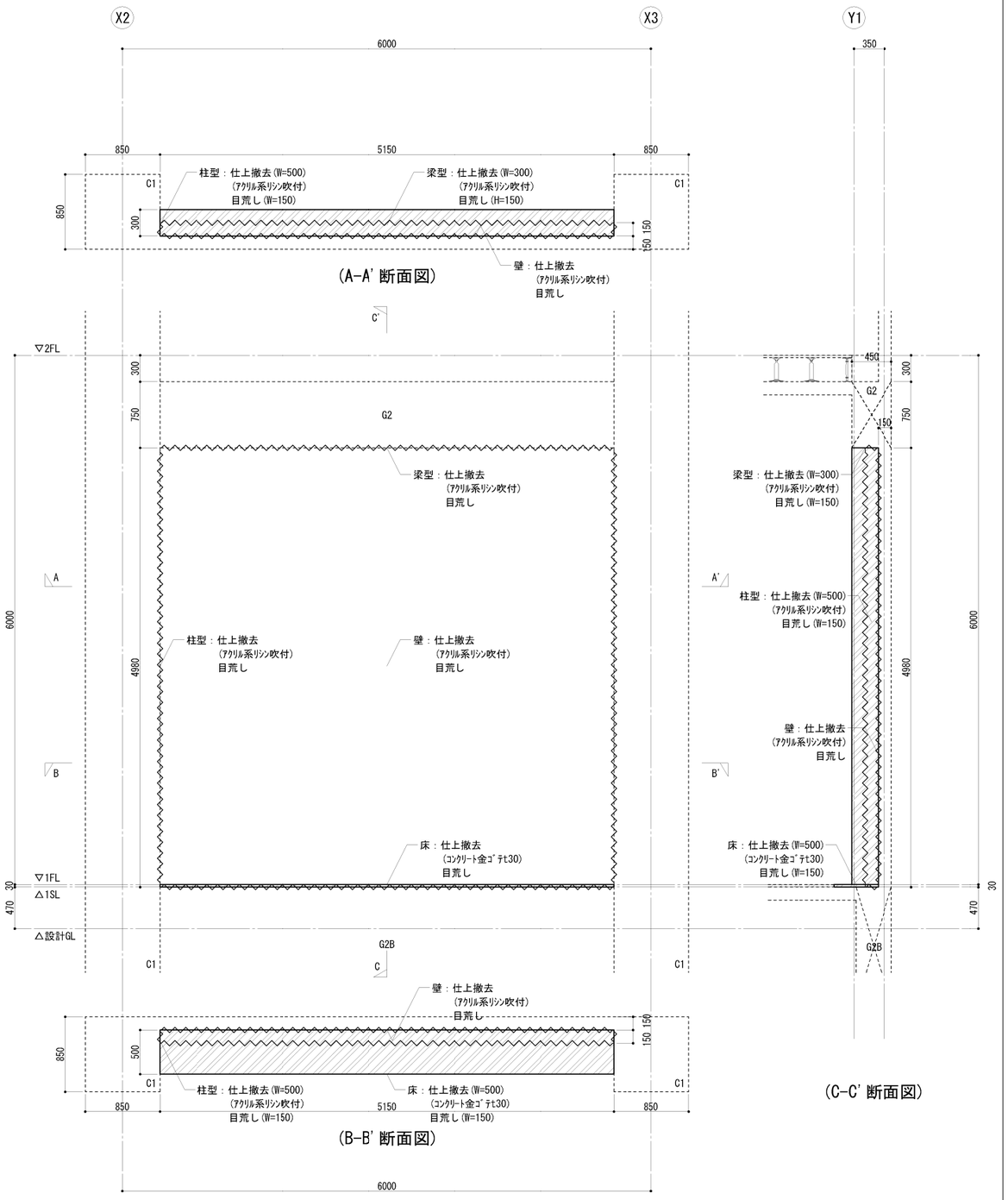
Y0 通り 耐震改修詳細図［改修後］

各種仕様一覧表

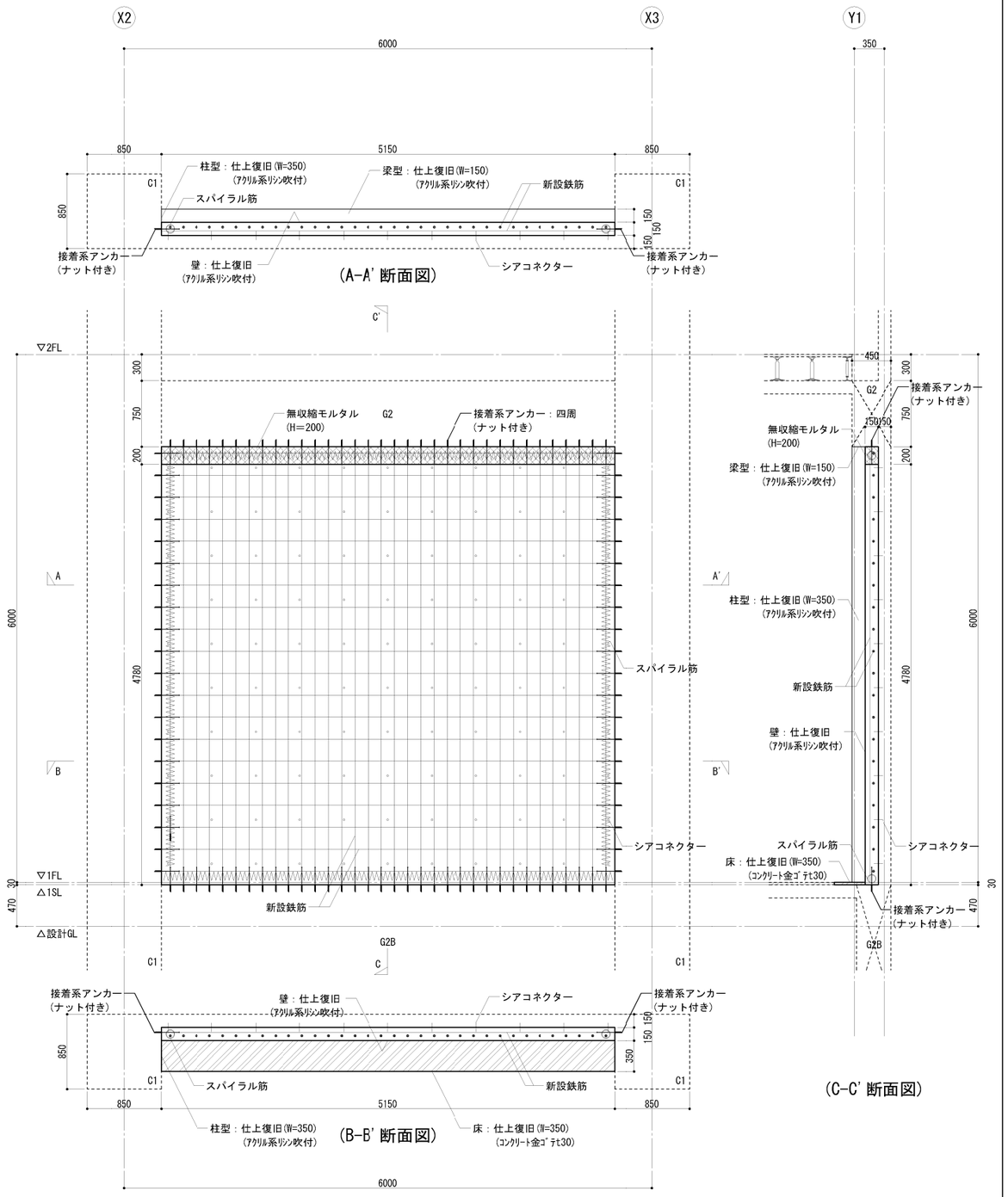
適用/不適用（■/□）	壁配筋	接着系アンカー 径・ﾋﾟｯﾁ	接着系アンカー 有効埋込長	接着系アンカー 有効定着長	スパイラル筋 スパイラル径	スパイラル筋 割裂補強筋	シアコネクター
■	ﾀﾃ筋：D10@150シングル ﾖｺ筋：D10@250シングル	上下：D10@150 横　：D10@250	7da	20da	100φ	6φ@50	D10@500
□	ﾀﾃ筋：D13@100シングル ﾖｺ筋：D10@200シングル	上下：D13@100 横　：D10@200					D10@400

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事
図面名	耐震改修詳細図(2)
作成年月	令和8年3月
縮尺	1/30　図面番号　S-11
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント
発注者	埼玉県　上尾市

X2 ～ X3 通り（1F 工作室・倉庫）



Y1 通り 耐震改修詳細図［改修前］



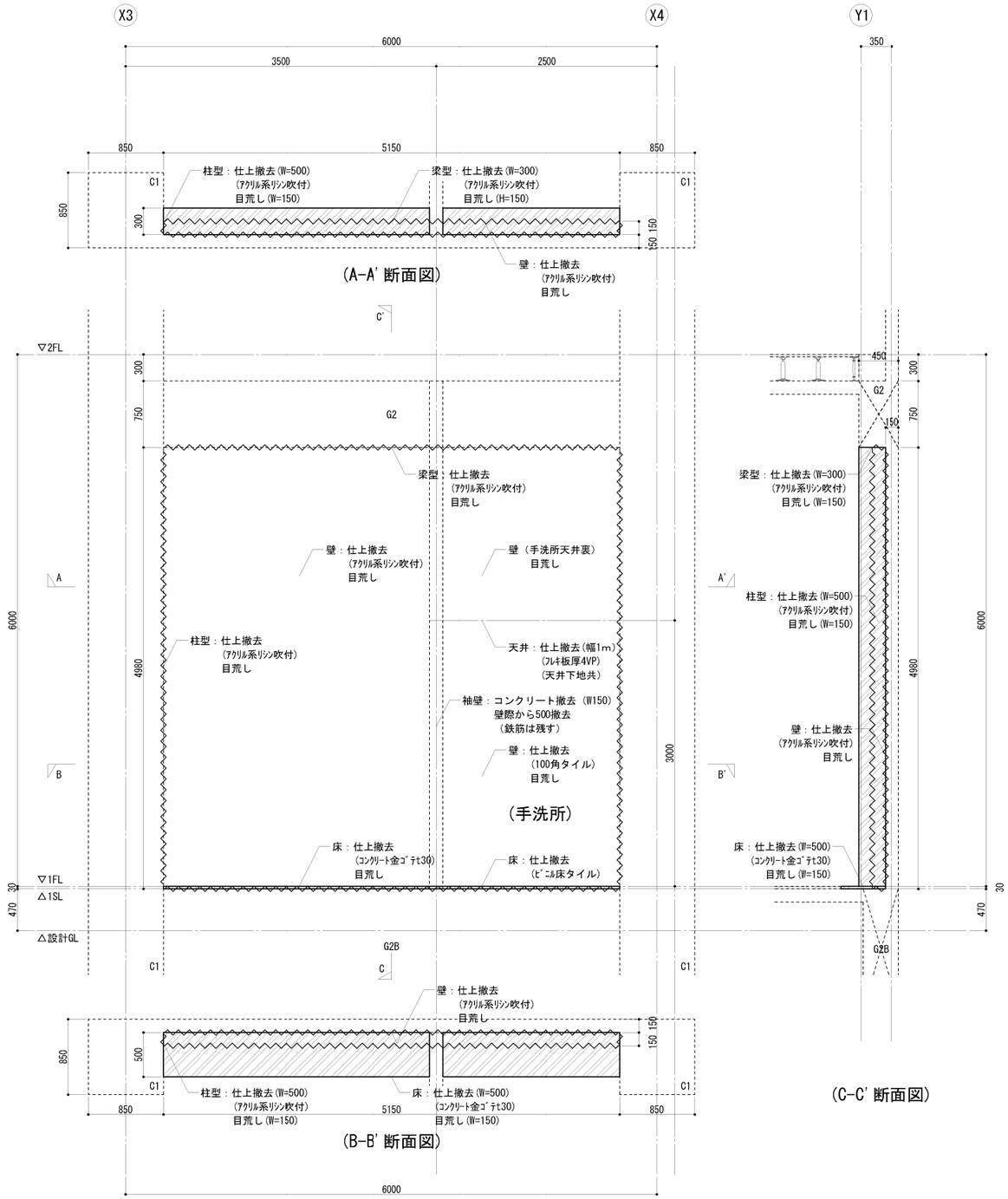
Y1 通り 耐震改修詳細図［改修後］

各種仕様一覧表

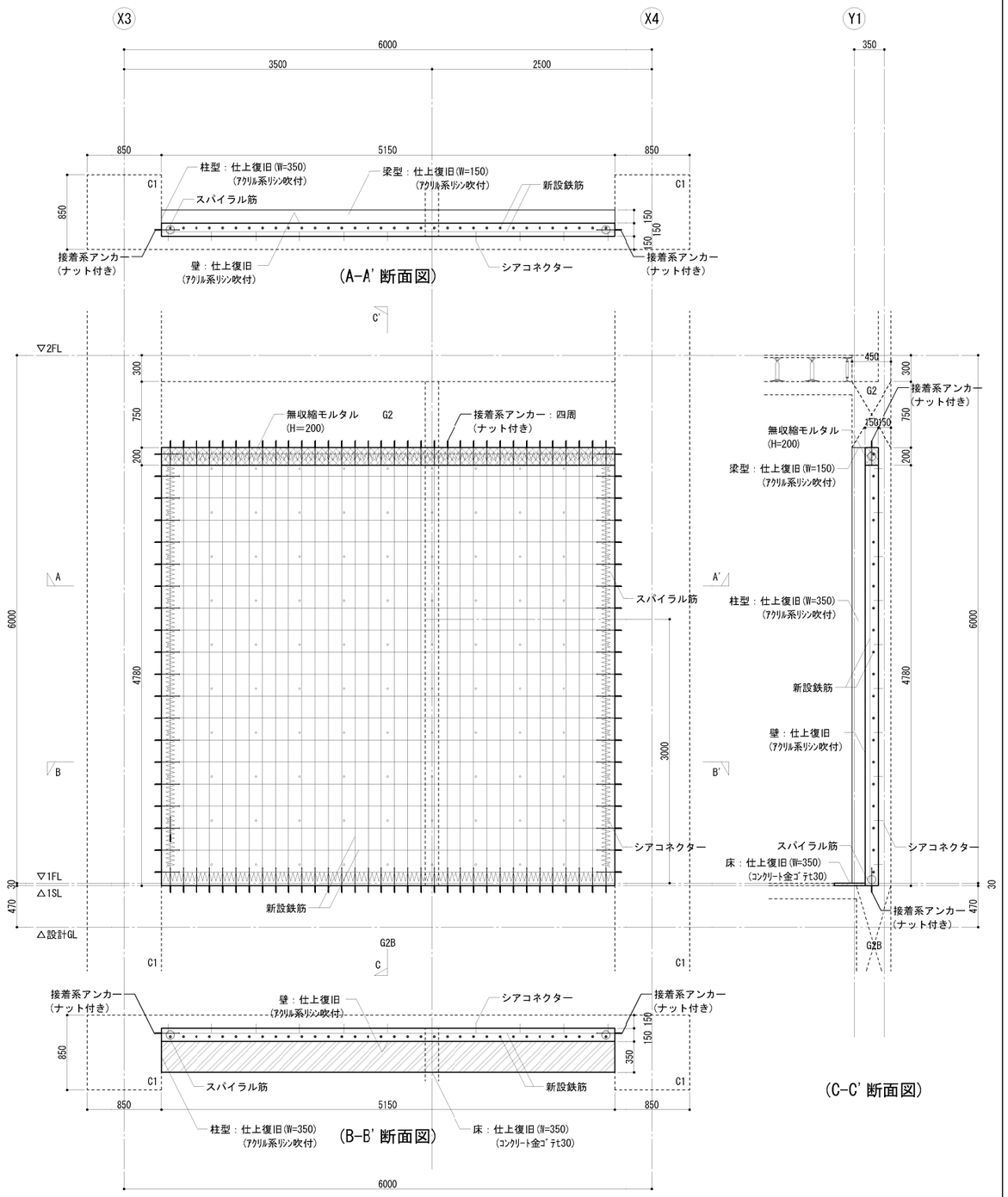
適用/不適用（■/□）	壁配筋	接着系アンカー 径・ﾋﾟｯﾁ	接着系アンカー 有効埋込長	接着系アンカー 有効定着長	スパイラル筋 スパイラル径	スパイラル筋 割裂補強筋	シアコネクター
■	ﾀﾃ筋：D10@150シングル ﾖｺ筋：D10@250シングル	上下：D10@150 横　：D10@250	7da	20da	100φ	6φ@50	D10@500
□	ﾀﾃ筋：D13@100シングル ﾖｺ筋：D10@200シングル	上下：D13@100 横　：D10@200					D10@400

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	耐震改修詳細図(3)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/30	図面番号	S-12
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

X3 ～ X4 通り（1F 工作室・倉庫、手洗所）



Y1 通り 耐震改修詳細図［改修前］



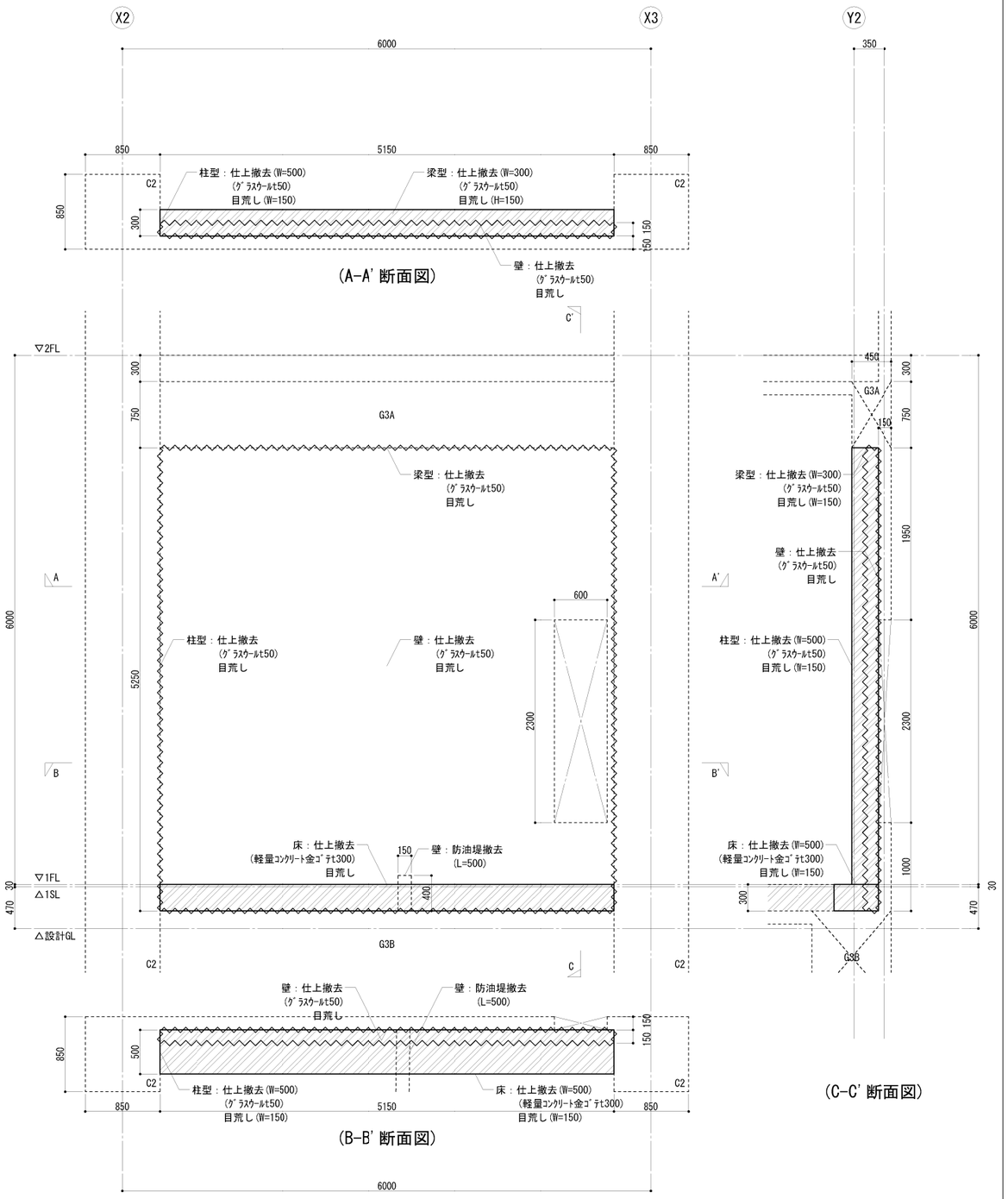
Y1 通り 耐震改修詳細図［改修後］

各種仕様一覧表

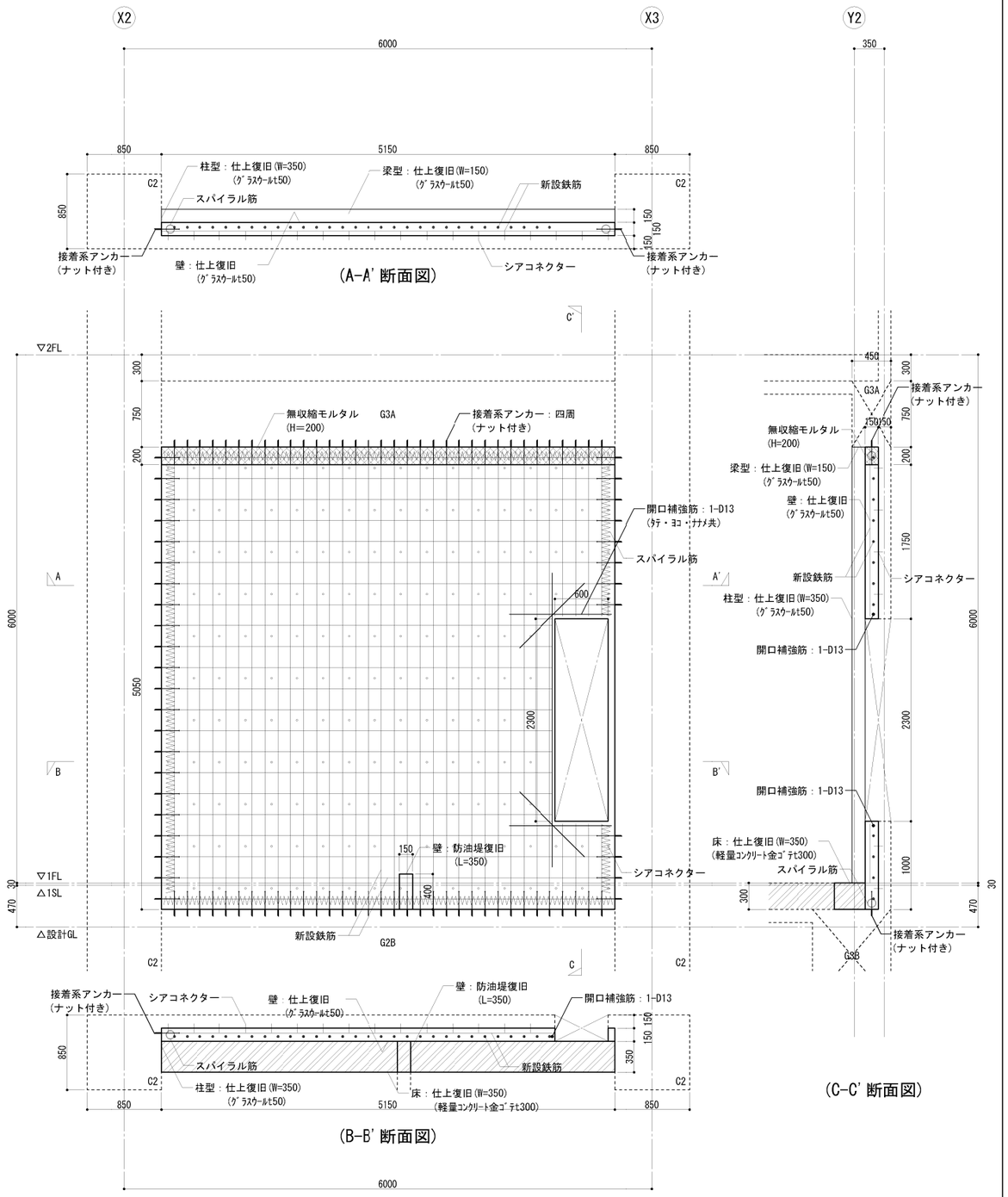
適用/不適用（■/□）	壁配筋	接着系アンカー 径・ピッチ	接着系アンカー 有効埋込長	接着系アンカー 有効定着長	スパイラル筋 スパイラル径	スパイラル筋 割裂補強筋	シアコネクター
■	タテ筋：D10@150シングル ヨコ筋：D10@250シングル	上下：D10@150 横　：D10@250	7da	20da	100φ	6φ@50	D10@500
□	タテ筋：D13@100シングル ヨコ筋：D10@200シングル	上下：D13@100 横　：D10@200					D10@400

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	耐震改修詳細図(4)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/30	図面番号	S-13
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

X2 ～ X3 通り（1F 発電機室）



Y2 通り 耐震改修詳細図［改修前］



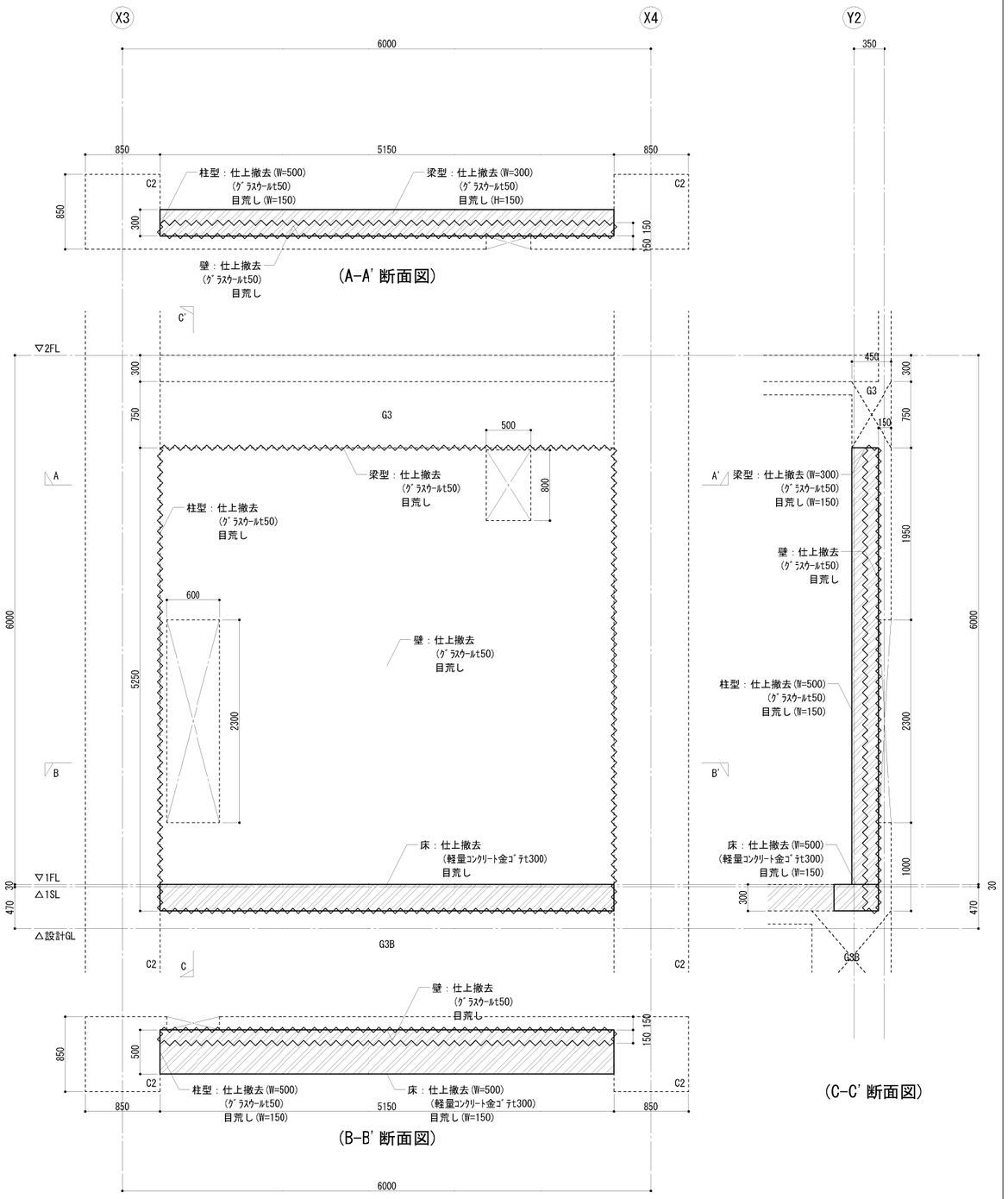
Y2 通り 耐震改修詳細図［改修後］

各種仕様一覧表

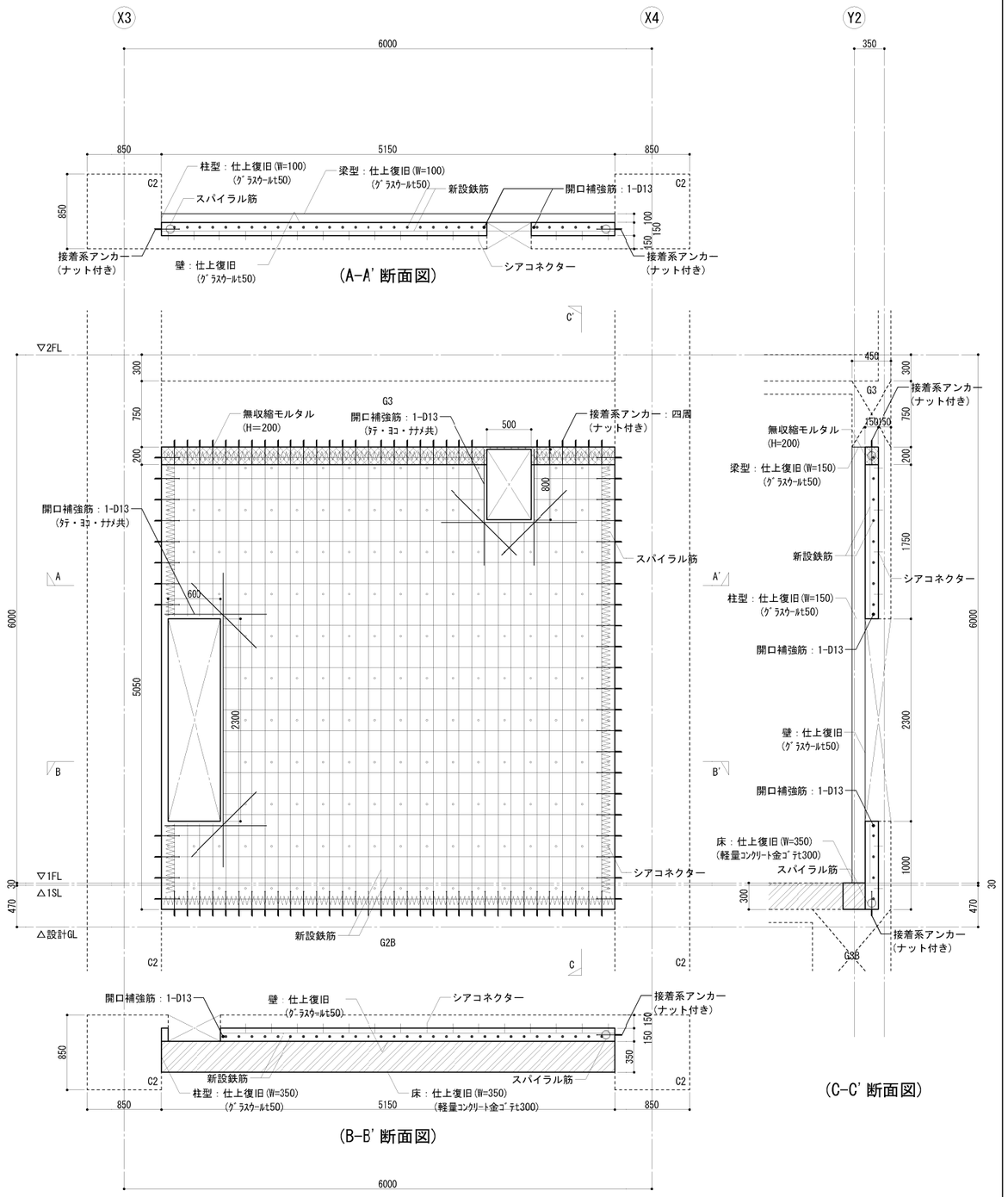
適用/不適用（■/□）	壁配筋	接着系アンカー 径・ﾋﾟｯﾁ	接着系アンカー 有効埋込長	接着系アンカー 有効定着長	スパイラル筋 スパイラル径	スパイラル筋 割裂補強筋	シアコネクター
■	ﾀﾃ筋：D10@150シングル ﾖｺ筋：D10@250シングル	上下：D10@150 横　：D10@250	7da	20da	100φ	6φ@50	D10@500
□	ﾀﾃ筋：D13@100シングル ﾖｺ筋：D10@200シングル	上下：D13@100 横　：D10@200					D10@400

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事
図面名	耐震改修詳細図(5)
作成年月	令和8年3月
縮尺	1/30　図面番号　S-14
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント
発注者	埼玉県　上尾市

X3 ～ X4 通り（1F 発電機室）



Y2 通り 耐震改修詳細図［改修前］



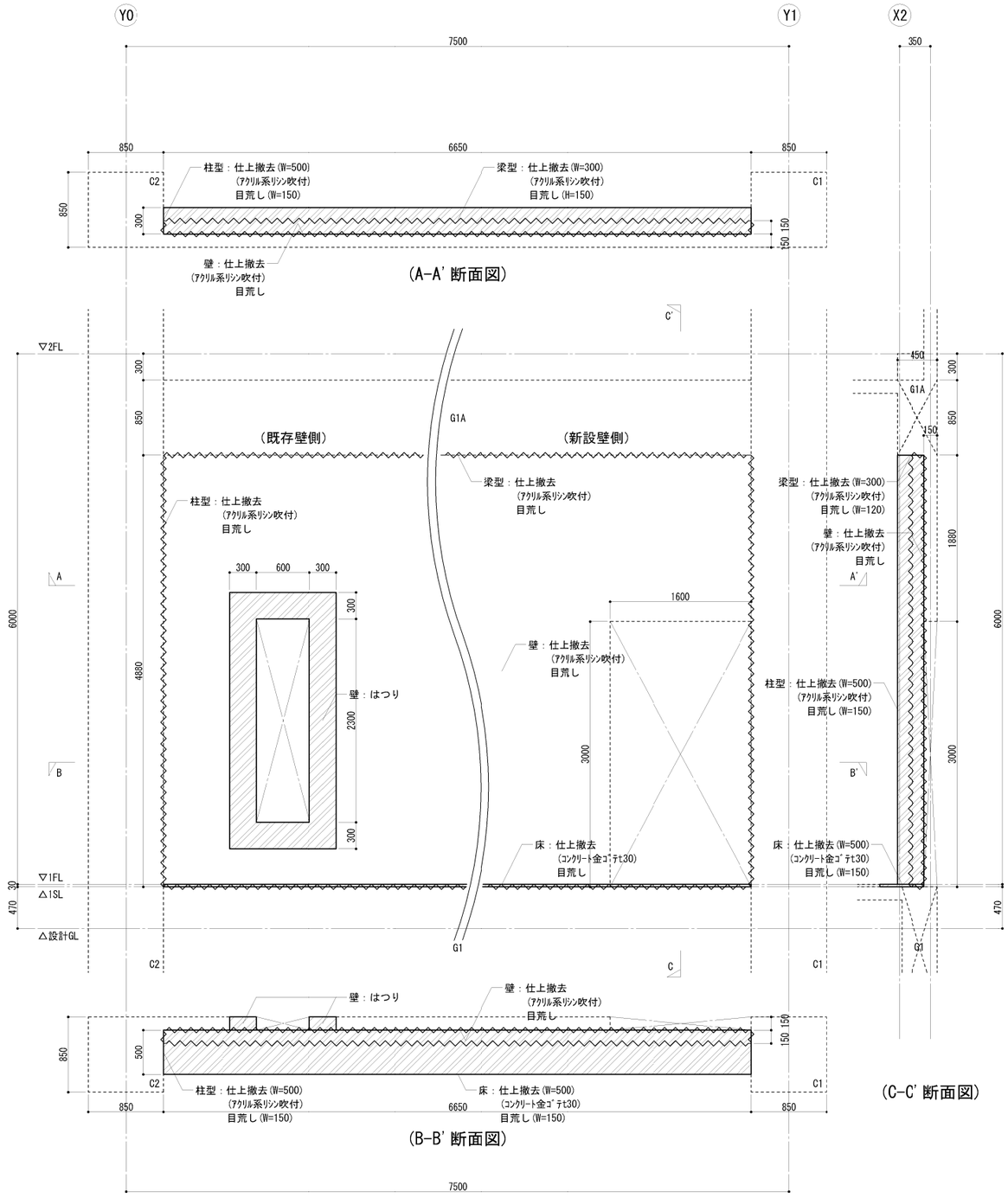
Y2 通り 耐震改修詳細図［改修後］

各種仕様一覧表

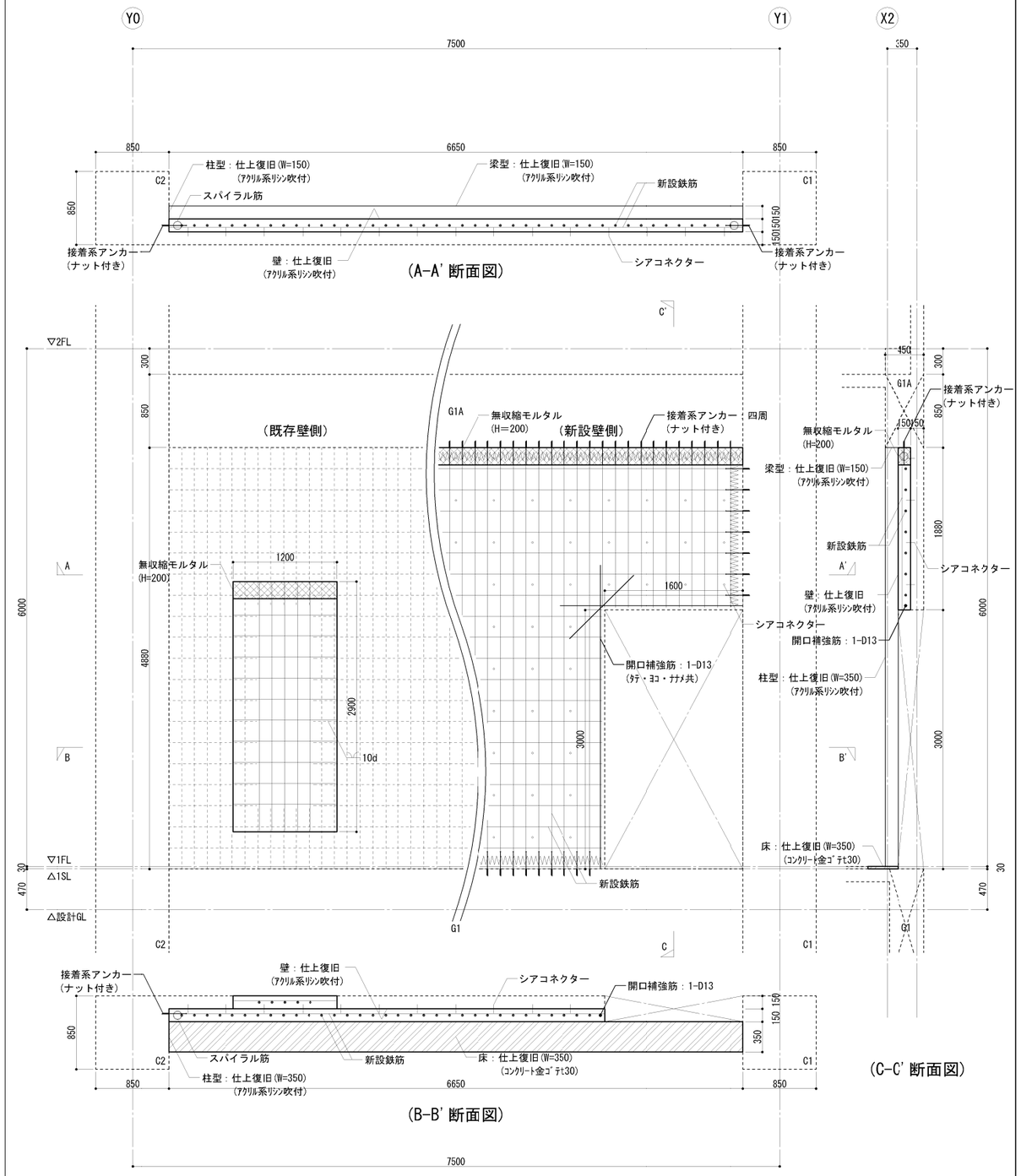
適用/不適用（■/□）	壁配筋	接着系アンカー 径・ﾋﾟｯﾁ	接着系アンカー 有効埋込長	接着系アンカー 有効定着長	スパイラル筋 スパイラル径	スパイラル筋 割裂補強筋	シアコネクター
■	ﾀﾃ筋：D10@150シングル ﾖｺ筋：D10@250シングル	上下：D10@150 横　：D10@250	7da	20da	100φ	6φ@50	D10@500
□	ﾀﾃ筋：D13@100シングル ﾖｺ筋：D10@200シングル	上下：D13@100 横　：D10@200					D10@400

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事
図面名	耐震改修詳細図(6)
作成年月	令和8年3月
縮尺	1/30　図面番号　S-15
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント
発注者	埼玉県　上尾市

Y0 ～ Y1 通り（1F 工作室・倉庫）



X2 通り 耐震改修詳細図［改修前］



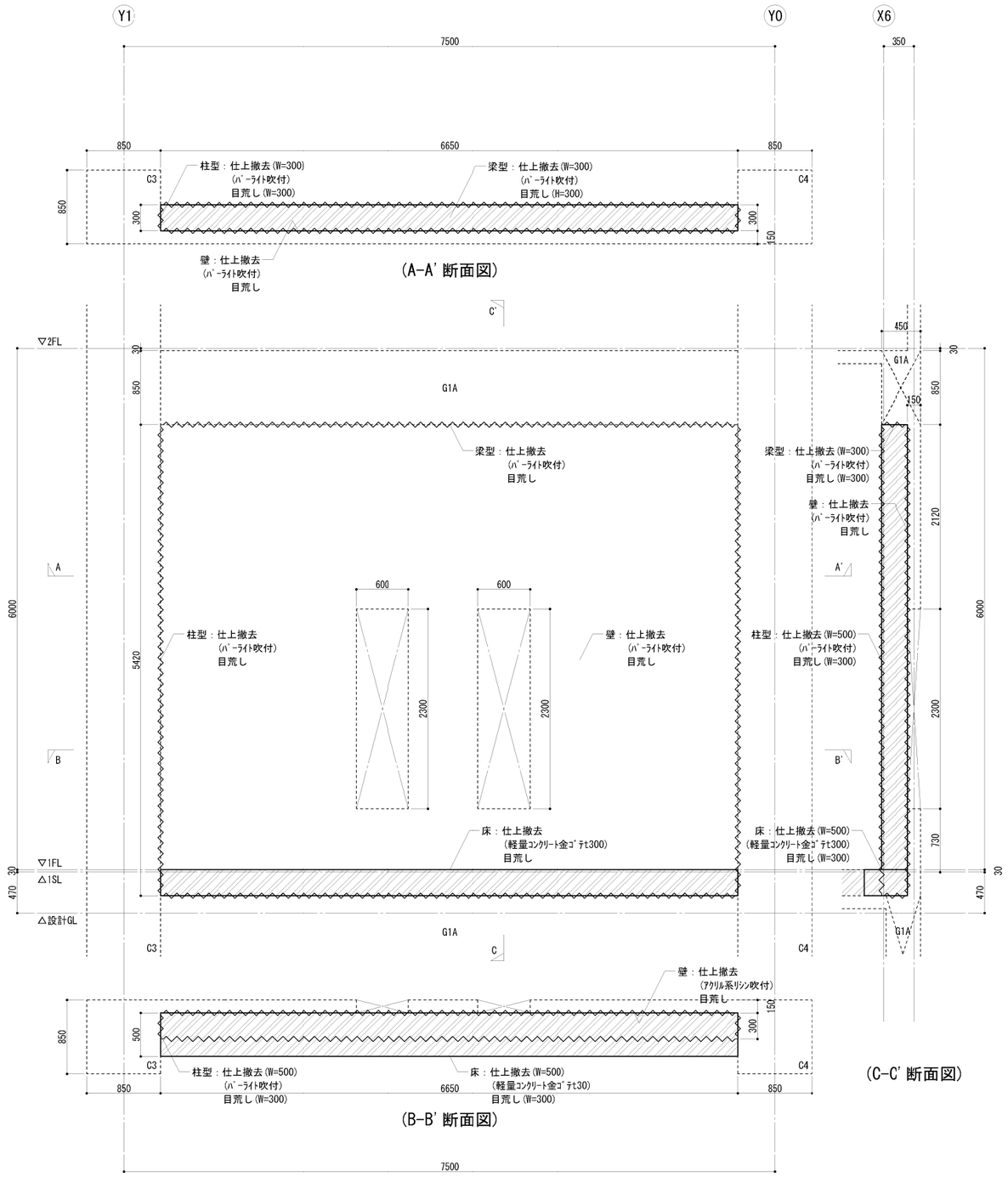
X2 通り 耐震改修詳細図［改修後］

各種仕様一覧表

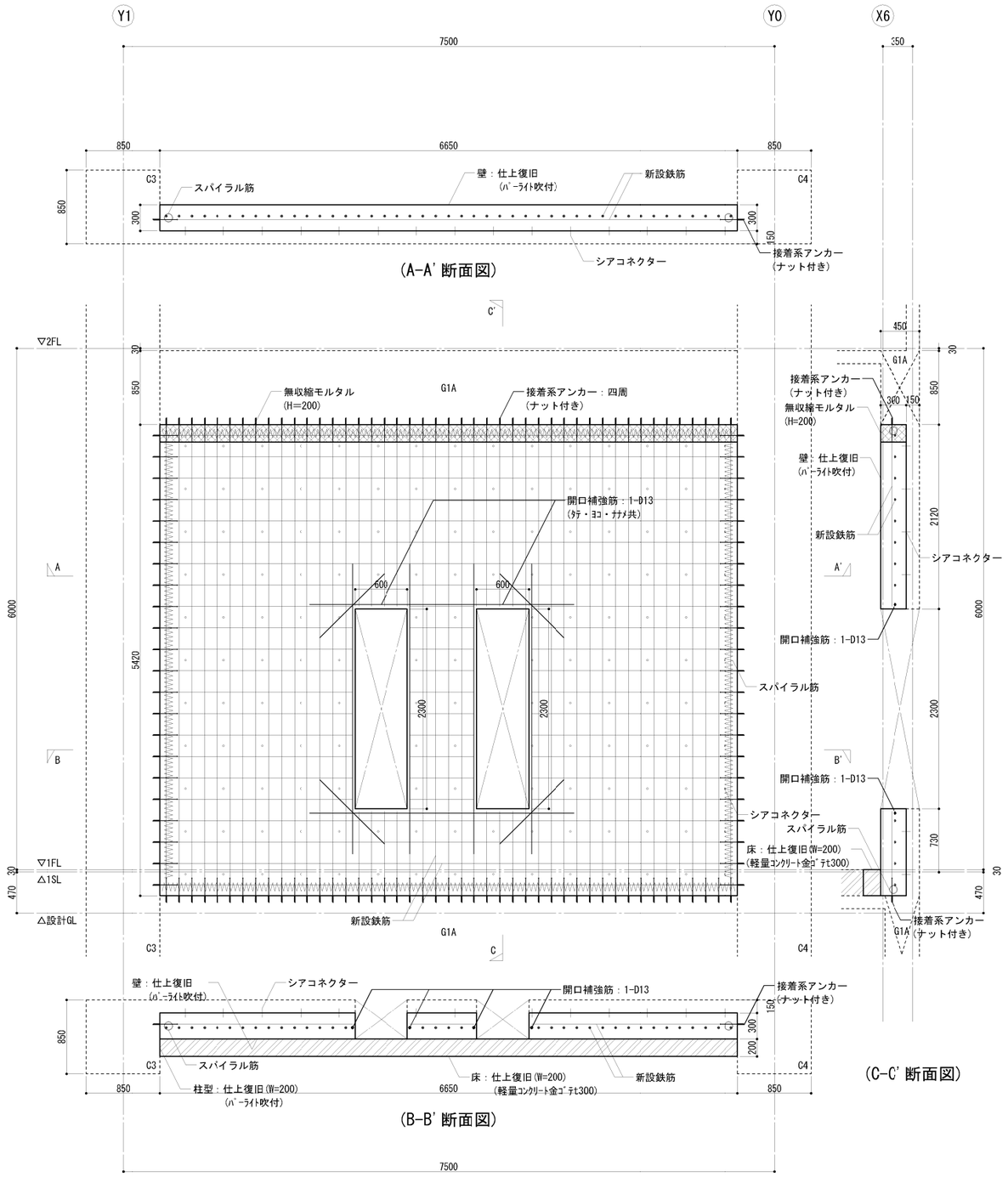
適用/不適用（■/□）	壁配筋	接着系アンカー 径・ﾋﾟｯﾁ	接着系アンカー 有効埋込長	接着系アンカー 有効定着長	スパイラル筋 スパイラル径	スパイラル筋 割裂補強筋	シアコネクター
■	ﾀﾃ筋：D10@150シングル	上下：D10@150	7da	20da	100φ	6φ@50	D10@500
	ﾖｺ筋：D10@250シングル	横 ：D10@250					
□	ﾀﾃ筋：D13@100シングル	上下：D13@100					D10@400
	ﾖｺ筋：D10@200シングル	横 ：D10@200					

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	耐震改修詳細図(7)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/30	図面番号	S-15
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

Y1 ～ Y0 通り（1F モーター室）



X6 通り 耐震改修詳細図［改修前］



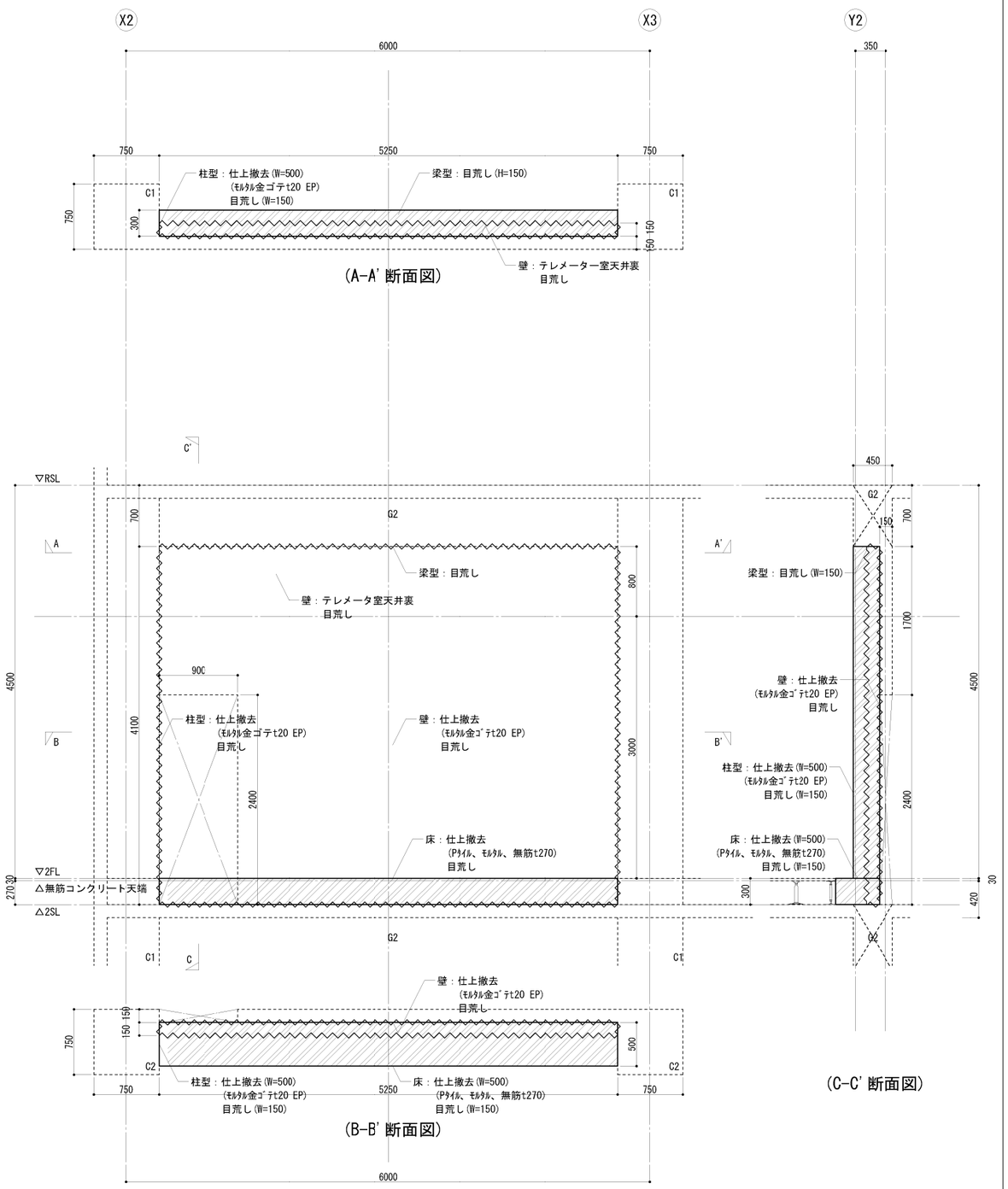
X6 通り 耐震改修詳細図［改修後］

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事
図面名	耐震改修詳細図(8)
作成年月	令和8年3月
縮尺	1/30
図面番号	S-17
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント
発注者	埼玉県　上尾市

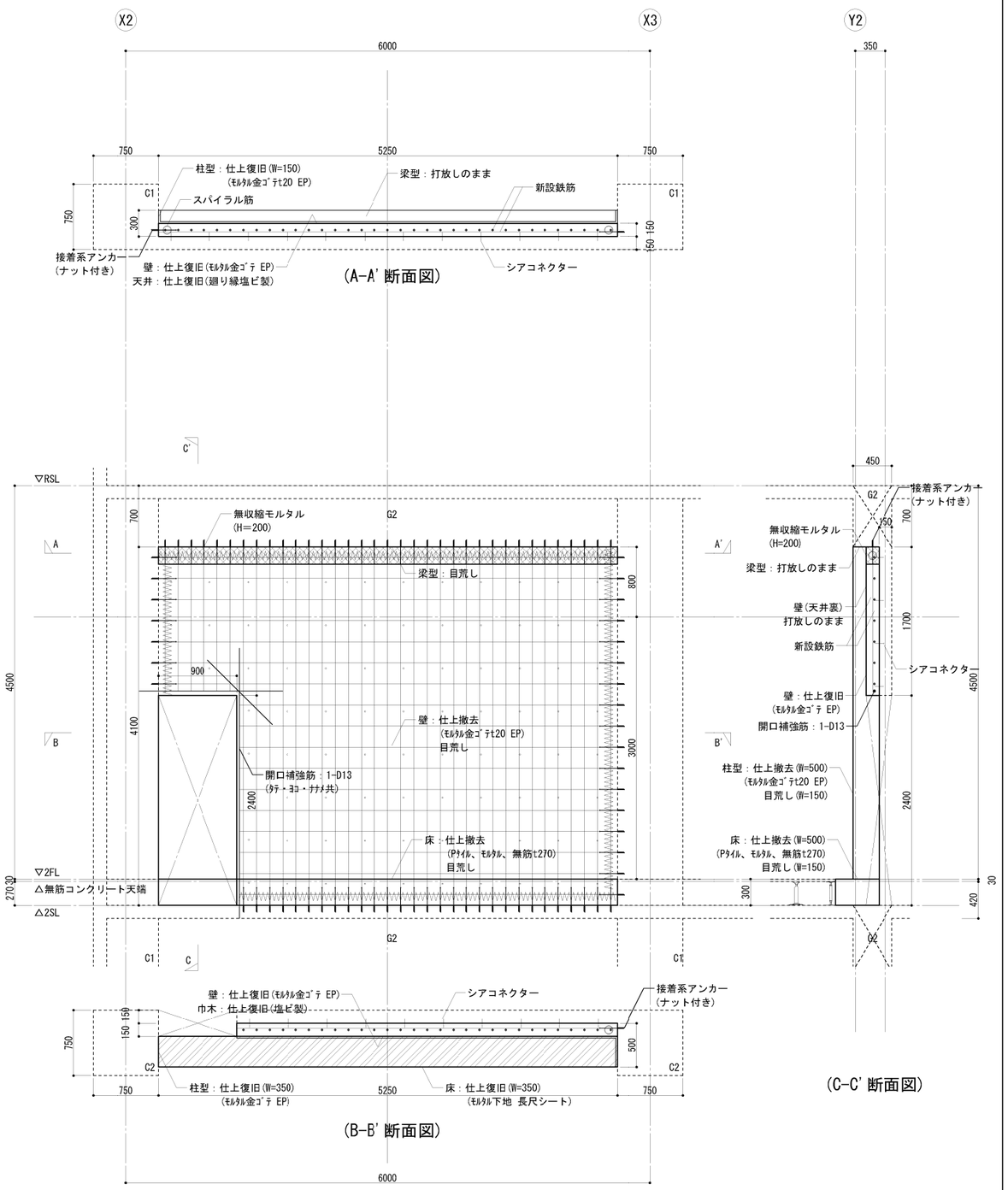
各種仕様一覧表

適用/不適用（■/□）	壁配筋	接着系アンカー 径・ﾋﾟｯﾁ	接着系アンカー 有効埋込長	接着系アンカー 有効定着長	スパイラル筋 スパイラル径	スパイラル筋 割裂補強筋	シアコネクター
■	ﾀﾃ筋：D10@150シングル ﾖｺ筋：D10@250シングル	上下：D10@150 横　：D10@250	7da	20da	200φ	6φ@50	D10@500
□	ﾀﾃ筋：D13@100シングル ﾖｺ筋：D10@200シングル	上下：D13@100 横　：D10@200					D10@400

X2 ～ X3 通り (2F テレメータ室)



Y1 通り 耐震改修詳細図［改修前］



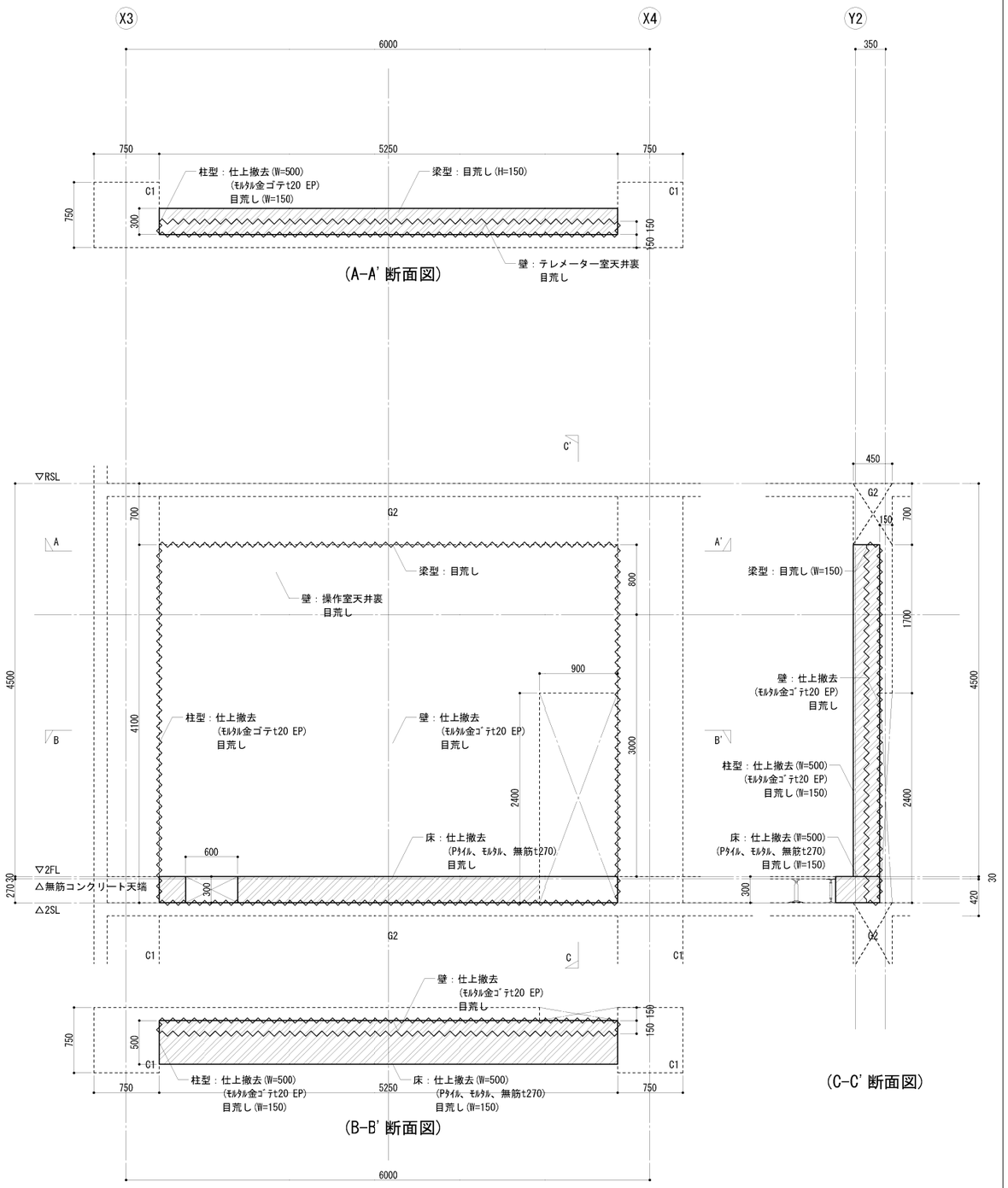
Y1 通り 耐震改修詳細図［改修後］

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事
図面名	耐震改修詳細図(9)
作成年月	令和8年3月
縮尺	1/30
図面番号	S-13
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント
発注者	埼玉県　上尾市

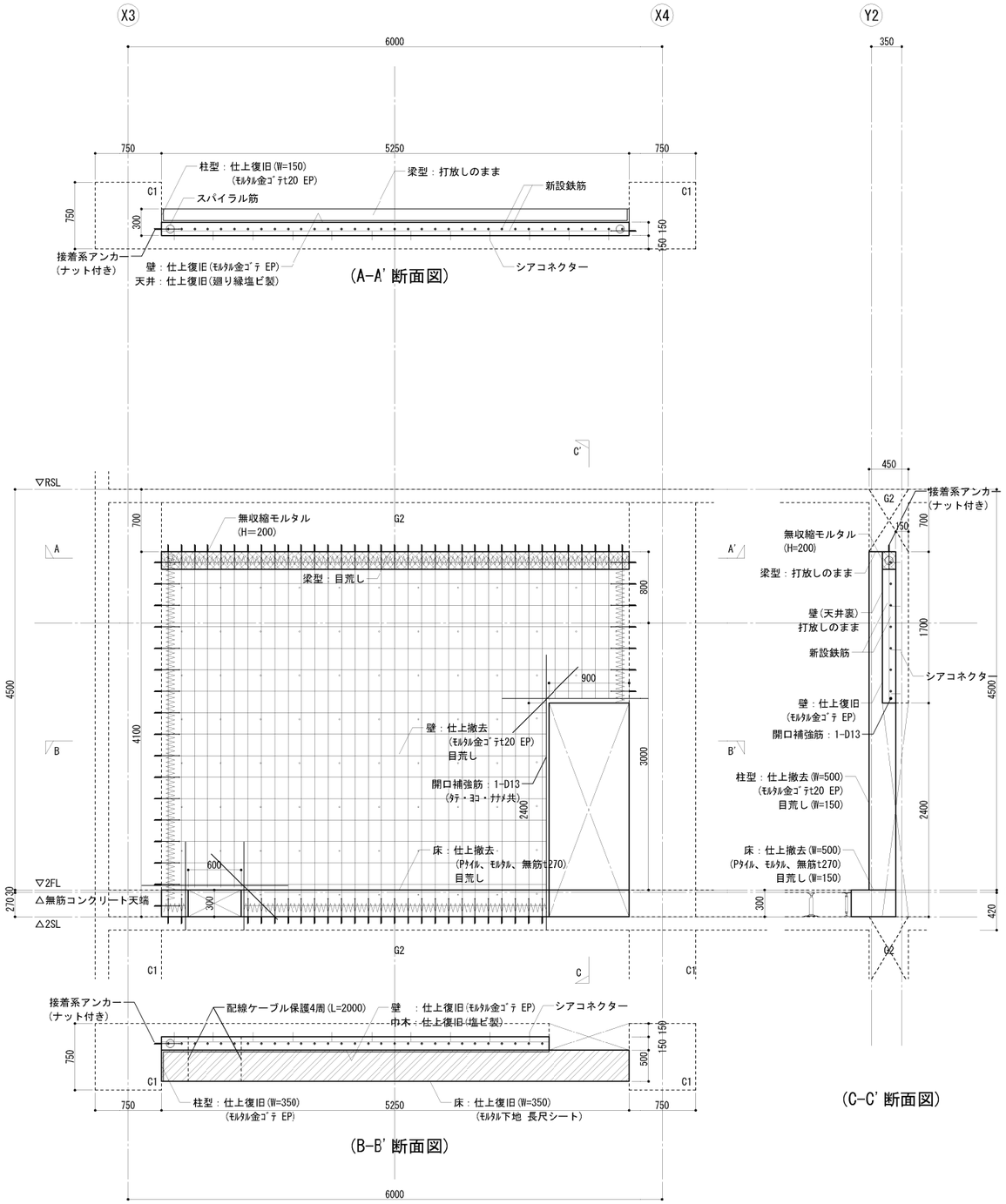
各種仕様一覧表

適用/不適用（■/□）	壁配筋	接着系アンカー 径・ﾋﾟｯﾁ	接着系アンカー 有効埋込長	接着系アンカー 有効定着長	スパイラル筋 スパイラル径	スパイラル筋 割裂補強筋	シアコネクター
■	ﾀﾃ筋：D10@150シングル ﾖｺ筋：D10@250シングル	上下：D10@150 横　：D10@250	7da	20da	100φ	6φ@50	D10@500
□	ﾀﾃ筋：D13@100シングル ﾖｺ筋：D10@200シングル	上下：D13@100 横　：D10@200					D10@400

X3 ～ X4 通り (2F 操作室)



Y1 通り 耐震改修詳細図［改修前］



Y1 通り 耐震改修詳細図［改修後］

各種仕様一覧表

適用/不適用（■/□）	壁配筋	接着系アンカー 径・ﾋﾟｯﾁ	接着系アンカー 有効埋込長	接着系アンカー 有効定着長	スパイラル筋 スパイラル径	スパイラル筋 割裂補強筋	シアコネクター
■	ﾀﾃ筋：D10@150シングル ﾖｺ筋：D10@250シングル	上下：D10@150 横　：D10@250	7da	20da	100φ	6φ@50	D10@500
□	ﾀﾃ筋：D13@100シングル ﾖｺ筋：D10@200シングル	上下：D13@100 横　：D10@200					D10@400

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	耐震改修詳細図(10)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/30	図面番号	S-19
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

工事名称　芝川ポンプ場耐震補強実施設計業務

○ フレックス工期契約制度
○ 適用する　工事の着手期限日　令和○年○月○日　　工事の終期日　令和○年○月○日　　○ 適用しない
留意事項
・受注者は、工事着手日を明らかにするため、契約締結後７日以内に工事着手日通知書（第１号様式）を発注者に届け出なければならない。
・契約締結日から工事着手日の前日までの間は、建設業法（昭和24年5月24日法律第100号）第26条に基づく主任技術者又は監理技術者の設置を要しない。
・契約締結日から工事着手日の前日までの間は、建設工事請負契約書第11条に基づく現場代理人の設置を要しない。
・工事着手までの間は、工事の施工（現場事務所の設置、資機材等の発注及び工場製作を含む）を行ってはならない。
・前金払は、工事着手日の10日前までは請求できない。
・工事実績情報システムへの登録に際しては、主任（監理）技術者及び現場代理人の従事期間は、工事着手日をもって登録するものとする。（工事契約日から工事着手日の前日までを除くこととする。）

○ 猛暑による作業不能日数
○ 本工事は、猛暑による作業不能日数を次のとおり見込んでいる。
ｉ）作業不能日数：◆日間（工期の始期は令和◆年◆月◆日【着手期限】で算定）
ⅱ）上記ｉ）は、環境省が公表する関東地方_埼玉県_◆◆地点におけるWBGT値（気温、湿度、日射・輻射を考慮した暑さ指数）過去５年分（2021年～2025年）について、本工事の工期に対応する期間（行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号）に定める行政機関の休日及び夏休暇（３日）を除く。）において、８時から１７時の間にWBGT値が３１以上となった時間を算定し、日数に換算したもの５年分を平均したもの。
ⅲ）気象状況により工期中に発生した猛暑による作業不能日数（当該現場における定時の現場作業時間において、環境省が公表する関東地方_埼玉県_◆◆地点におけるWBGT値が３１以上となり、かつ受注者が契約工事単位で全作業を中断し、又は現場を閉所した時間を算定し、日数に換算したもの（小数点以下第一位を四捨五入する。））
がｉ）の日数から著しく乖離した場合には、発注者は発注者へ工期の延長変更を協議することができる。

Ⅰ.工事概要

1.工事場所　上尾市東町3丁目2020-1

2.建物概要

建物名称	構造	階数	延べ面積 (m2)	消防法施行令別表第一	施設の分類	備考
ポンプ棟	RC造	地上２階	1802.06	(15)	特定の施設	
		地下２階				

3.工事種目（●印の付いたものを適用する。）

建物別及び屋外 ＼ 工事種目	ポンプ棟							屋外
○ 空気調和設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式
● 換気設備	● 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式
○ 排煙設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式
○ 自動制御設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式
● 衛生器具設備	● 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式
● 給水設備	● 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式
● 排水設備	● 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式
● 給湯設備	● 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式
○ 消火設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式
○ 厨房設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式
○ ガス設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式
○ 排水処理設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式
○ 雨水利用設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式
● 搬去工事	● 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式
○	○							
○	○							

4.指定部分　○ 無　○有 対象部分（　　）
指定部分工期　令和　年　月　日

5.設備概要（●印の付いたものを適用する。）

方式及び種類	設備概要
○ 空調方式	○
○ 主要熱源機器	○
○ 自動制御方式	○ 電気式　○ 電子式　○ デジタル式
● 給水方式	● 高置タンク方式　○ ポンプ直送方式　○ 水道直結方式
● 排水方式	建物内の汚水と雑排水（　○ 合流式　● 分流式　） ポンプ排水　○ 有（　○ 汚物　○ 雑排水　○ 湧水　）○ 無 建物外放流先　(1) 汚水　○ 直放流下水管　○ (2) 雑排水　○ 直放流下水管　○
○ 消火設備の種類	○ 屋内消火栓設備　○ スプリンクラー設備　○ 泡消火設備 ○ 連結散水設備　○ 連結送水管　○ 不活性ガス消火設備（　○　）

Ⅱ.工事仕様

1.共通仕様
(1) 図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通大臣官房官庁営繕部監修の下記仕様書等のうち、●印の付いたものを適用する。
● 公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和 7 年版）（以下「標準仕様書」という。）
● 公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和 7 年版）（以下「改修標準仕様書」という。）
● 公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）（令和 7 年版）（以下「標準図」という。）
(2) 電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの特記仕様書を適用する。
なお、電気設備工事の特記仕様書は（　/　）図、建築工事の特記仕様書は（　/　）図による。

2.提出様式
本工事で用いる提出書類の様式は、県発注・営繕工事関連提出書類一覧(下記URL)によるほか、監督職員の指示による。
https://www.pref.saitama.lg.jp/a1002/itakugyoumujitumuyouran0704.html

3.特記仕様
章、項目及び特記事項共に、●印の付いたものを適用し、○印のものは適用しない。

章	項目	特記事項
一般共通事項	○ 材料・機材の品質等	(1) 本工事に使用する材料・機材等は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 (2) 別表－１に機材等名が記載された製造業者等は、次の①から⑥すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承諾を受ける。ただし、製造業者等名が記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。 ①品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 ②生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 ③安定的な供給が可能であること。 ④法令等で定めがある場合は、その許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥販売、保守等の営業体制が整えられていること。なお、システムとして機能するものにあっては、システムの構築能力があり、現場での施工体制が整えられていること。
	○ 環境への配慮	(1) 国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律に基づく特定調達物品等に関する判断の基準は、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和7年1月28日変更閣議決定）」による。 (2) 環境物品等の調達の推進に関する基本方針における公共工事の配慮事項（「資材(材料および機材を含む)の極包及び容器は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。」）に留意すること。 (3) 建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。 ①合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗料は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ②接着剤及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。 ④①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。 (4) 設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは、次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。 ①建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ②建築基準法施行令第２０条の７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ③建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ④建築基準法施行令第２０条の７第３項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
	○ 室内空気中の化学物質の濃度測定	室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン(用途が学校の場合は、パラジクロロベンゼンを含む)の濃度を測定し、監督職員に報告すること。 測定はパッシブ型採集機器により行う。 測定時期　○ 工事着手前　○ 施工終了時 測定対象室　○ 図示　○（　　） 測定箇所数　○ 図示　○（　　）
	○ 電気保安技術者	本工事現場に置く電気保安技術者は、自家用電気工作物保安規程第三条に定める工事管理者（　　）の任命する監督職員の職務を補佐し、電気工作物の保安業務を行うものとする。
	● 技能士の適用	● 配管施工(配管工事)　○ 建築板金施工(ダクト製作及び取付け) ○ 熱絶縁施工(保温工事)　○ 冷凍空気調和機器施工(冷凍空調機器の据付)
	● 監督職員事務所	● 設けない　○ 設ける
	● 工事用電力・水・その他	● 本工事に必要な工事用電力、水及び諸手続等の費用はすべて受注者の負担とする。 工事用水　構内の施設　● 利用できない　○ 利用できる（　○ 有値　○ 無値　） 工事電力　構内の施設　● 利用できない　○ 利用できる（　○ 有値　○ 無値　）
	● 工事用仮設物	構内につくることが　○ できる　● できない
	● 足場その他	● 別契約の関係発注者が定置したものは、無償で使用できる。 （● 建築工事　○ 電気設備工事　で設置する。） ○ 本工事で設置とする。 「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙１「手すり先行工法による足場の組立て等の作業に関する基準」における２の(1)手すり据置方式又は(2)手すり先行専用足場方式により行う。 ○ 内部足場　（　○　種　○　種　○　種　） ○ 外部足場　（　○　種　○　種　○　種　○　種　）
	● 建設副産物の処理等	1 共通事項 1)「建設リサイクル法関係」に基づき、本工事に係る「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を「建設副産物情報交換システム(コブリス・プラス)」により作成し、施工計画書に含める各１部提出すること。 また、計画の実施状況(実績)については、「再生資源利用実施書」及び「再生資源利用促進実施書」並びに「建設副産物情報交換システム工事登録証明書」を同システムにより作成し、各１部提出するとともに、これらの記録を工事完成後一年間保存しておくこと。 ◎作成対象工事 「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」は請負金額が、「再生資源利用実施書」及び「再生資源利用促進実施書」並びに「建設副産物情報交換システム工事登録証明書」は最終請負金額 100 万円以上の全ての工事について建設資材の利用、建設副産物の発生・搬出の有無にかかわらず作成する。 2)「建設副産物の処理基準及び再生資材の利用基準」に基づき、建設副産物の処理に先立ち、「建設副産物処理承認申請書」を作成し、監督職員の確認を受け、同申請書を１部提出すること。なお、建設廃棄物の処理を委託する場合は、収集運搬又は処分について許可業者と各々建設廃棄物処理契約を締結し、「建設廃棄物処理委託契約書」を監督職員に提示するとともに、同契約書の写しを同申請書に添付すること。 建設副産物の処理完了後速やかに、「建設副産物処理請書」を作成し、１部提出するとともに、実際に要した処理費等を証明する資料(受入伝票、写真等)を監督職員に提示し確認を受けること。 3)建設副産物の処理に当たって、産業廃棄物管理票制度に基づく紙マニフェスト方式による場合は、原則として複写式伝票の D 票及び E 票の写しを提示すること。 また、電子マニフェスト方式による場合は、原則として廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき指定された情報処理センターが発行する当該工事のマニフェスト情報を提示すること。 2 建設発生土 1)指定(A)(工事間利用)の場合 本工事により発生する建設発生土のうち、下記に示す建設発生土については、工事間流用を図るものとし、下記指定地に搬出すること。 ア　搬出先(相手先工事名、場所等)　工事　市　町地先 イ　土質及び処理量　第　種建設発生土　m3 ウ　搬出時期　年　月 ～　年　月 なお、搬出手続き等は監督職員の指示によること。 2)指定(A)(その他)の場合 建設発生土(　m3)は、　地先に搬出するものとする。 なお、詳細については監督職員の指示によるものとすること。 3)指定(B)の場合 建設発生土(　m3)は、片道運搬距離　kmに搬出するものとする。 3 路盤廃材 本工事により発生する 路盤廃材(　t)は　市　町地先、片道運搬距離　kmの に運搬し、処理するものとする。 4 建設廃棄物 本工事により発生する 1)アスコン塊(　t)は　市　町地先、片道運搬距離　kmの （※ 中間処理場 ・ 最終処分場）　に運搬し、処理するものとする。 2)コンクリート塊(　t)は　市　町地先、片道運搬距離　kmの （※ 中間処理場 ・ 最終処分場）　に運搬し、処理するものとする。 3)建設発生木材(　t)は　市　町地先、片道運搬距離　kmの （※ 中間処理場 ・ 最終処分場）　に運搬し、処理するものとする。 4)建設汚泥(　t)は　市　町地先、片道運搬距離　kmの （※ 中間処理場 ・ 最終処分場）　に運搬し、処理するものとする。 5)ガラスくずおよび陶器くず(　m3)は　市　町地先、片道運搬距離　kmの （※ 中間処理場 ・ 最終処分場）　に運搬し、処理するものとする。 6)金属くず(　m3)は　市　町地先、片道運搬距離　kmの （※ 中間処理場 ・ 最終処分場）　に運搬し、処理するものとする。 7)廃プラスチック(　m3)は　市　町地先、片道運搬距離　kmの （※ 中間処理場 ・ 最終処分場）　に運搬し、処理するものとする。 8)混合廃棄物(　m3)は　市　町地先、片道運搬距離　kmの （※ 中間処理場 ・ 最終処分場）　に運搬し、処理するものとする。 なお、運搬に先立ち受け入れ条件等を確認し、監督職員に報告するものとする。 工事発注後、事情により上記の指定処理により難い場合は、監督職員と協議するものとする。 5 再生処理土 1)指定(A)(工事間利用)の場合 本工事により再生処理した処理土のうち、下記に示す処理土については、工事間流用を図るものとし、下記指定地に搬出すること。 ア　搬出先(相手先工事名、場所等)　工事　市　町地先 イ　土質及び処理量　第　種建設発生土　m3 ウ　搬出時期　年　月 ～　年　月 なお、搬出手続き等は監督職員の指示によること。また、建設汚泥の再生利用に当たっては、平成18年6月12日付国土交通事務次官通知「建設汚泥の再生利用に関するガイドライン」等に基づき、適正に処理すること。 留意事項 1 利用先の確保 建設発生土情報交換システム(コブリス・プラス)を活用して、建設発生土と同様、積極的に工事間利用により利用先の確保に努める。 2 中間処理施設の選定 中間処理施設の選定に当たっては、利用先の品質要件による発生処理土を確保するため、他の残土と混ざらないようにいかに再生処理できるかが大きな要素となる。このため、経済性を含めて、総合的に判断する必要がある。 また、リサイクル原則化ルールに基づき、建設副産物情報交換システム(コブリス・プラス)の登録処理業者を活用して、50km範囲で検索する。 3 品質・安全性の確保 処理土の品質・安全性を確認するため、土質試験、土壌分析試験などを行う。 4 一時保管 利用先との工程調整のため一時保管する場合には廃棄物処理法等の手続きが必要となるので注意する。
	○ 建設発生土の処理	○ 埋め戻し後の建設発生土は、監督職員が指示する構内の場所に敷きならしとする。 ○
	○ 埋め戻し土・盛土	○ 根切り土の中の良質土　○ 山砂の類
	○ 引渡しを要するもの	○ 下表による 名称　仕様等　備考
	● 工事写真	国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「営繕工事写真撮影要領（令和 5 年版）」による。
	○ デジタル工事写真の小黒板情報電子化	デジタル工事写真の小黒板情報電子化は、受発注者双方の業務効率化を目的に、被写体画像の撮影と同時に工事写真における小黒板の記載情報の電子的記入および、工事写真の信憑性確認を行うことにより、現場撮影の省力化、写真整理の効率化、工事写真の改ざん防止を図るものである。 本工事でデジタル工事写真の小黒板情報電子化を行う場合は、工事契約後、監督職員の承諾を得たうえでデジタル工事写真の小黒板情報電子化対象工事（以降、「対象工事」と称する）とすることができる。 対象工事では、以下の（1）から（4）の全てを実施することとする。 (1) 対象機器の導入 受注者は、デジタル工事写真の小黒板情報電子化の導入に必要な機器・ソフトウェア等（以降「使用機器」と称する）については、営繕工事写真撮影要領2.(3)に示す項目の電子的記入ができること、かつ信憑性確認（改ざん検知機能）を有するものを使用することとする。なお、信憑性確認（改ざん検知機能）は、「電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト（CRYPTREC暗号リスト）」（URL "https://www.cryptrec.go.jp/list.html.）に記載している技術を使用していること。また、受注者は監督職員に対し、工事着手前に本工事での使用機器について提示するものとする。 なお、使用機器の事例として、URL "http://www.cals.jacic.or.jp/CIM/sharing/index.html" 記載の「デジタル工事写真の小黒板情報電子化対応ソフトウェア」を参照されたい。ただし、この使用機器の事例からの選定に限定するものではない。 (2) デジタル工事写真における小黒板情報の電子的記入 受注者は、（1）の使用機器を用いてデジタル工事写真を撮影する場合は、被写体と小黒板情報を電子画像として同時に記録してもよい。小黒板情報の電子的記入を行う項目は、営繕工事撮影要領２．(3)撮影方法」による。 ただし、対象工事において、高温多湿、粉じん等の現場条件の影響により、対象機器の使用が困難な工種については、使用機器の利用を限定するものではない。 (3) 小黒板情報の電子的記入の取扱い 本工事の工事写真取扱いは、営繕工事写真撮影要領に準ずるが、(2)に示す小黒板情報の電子的記入については、同要領４．で規定されている写真編集には該当しない。 (4) 小黒板情報の電子的記入を行った写真の納品 受注者は、（2）に示す小黒板情報の電子的記入を行った写真（以下、「小黒板情報電子化写真」と称する。）を、工事完成時に監督職員へ納品するものとする。なお納品時に、受注者はURL（http://www.cals.jacic.or.jp/CIM/sharing/index.html）のチェックシステム（信憑性チェックツール）又はチェックシステム（信憑性チェックツール）を搭載した専用管理ソフトウェアや工事写真ビューアソフトを用いて、小黒板情報電子化写真の信憑性確認を行い、その結果を併せて監督職員へ「工事打合せ簿」等により提出するものとする。なお、提出された信憑性確認の結果を、監督職員が確認することがある。
	● 設計図CADデータ	・設計図CADデータ　：　● 貸与する　○ 貸与しない 貸与する設計図CADデータを当該工事の施工図または完成図の作成以外の目的に使用してはならない。
	● 電子納品	1 本工事は、電子納品の対象工事である。 電子納品は、「埼玉県電子納品運用ガイドライン　令和７年４月　県土整備部・都市整備部 」（以下、「ガイドライン」という。）に基づいて行う。 2 工事完成検査時には、（一財）建設技術センター（以下、センターという。）から発行される「電子媒体（副本）納品事前受付書」を、携行すること。 3 工事完成検査後は、速やかに電子媒体の１部と「電子媒体（副本）納品事前受付書」をセンターに送付すること。その後、センターから発行される「電子媒体（副本）受領書」を監督職員に提出すること。なお、電子成果品は工事請負契約書第45条の対象とし、電子データに不備が確認された場合は、受注者は修正作業を行わなければならない。 4「ガイドライン」の解釈に疑義がある場合は、監督職員と協議の上で決定すること。
	● 完成時の提出図書等	工事完成時の提出図書等は以下のものとする。 提出図書等 ／ 仕様 ／ 部数 ● 完成図面：○ 図面（A1版）折りたたみ製本　○ 図面（A1版）見開き製本　サイズ　● A4版　○ 版　● 1部　○ 部 ● 工事関係図書：本工事中に作成した工事関係書類等をまとめたもの　● 1部　○ 部 ● 完成写真：● キャビネ版　○　○　撮影箇所　○ 箇所　○ 箇所　● 1部　○ 部 ○ 保全に関する資料：○ 建築物等の利用に関する説明書　○ 機器取扱い説明書　○ 機器性能試験成績書　○ 官公署届出書類　○ 総合試運転調整報告書　建築物等の利用に関する説明書は「建築物等の利用に関する説明書作成の手引き」に基づき作成すること。　○ 2部　○ 部 ● 電子成果品：電子納品による　● 1部　○ 部
	○ 運転操作説明板	系統図、機器等の取り扱い方及び重要な定期点検項目を記載したアクリル樹脂製の板を機械室に設ける。説明板の大きさは約＿＿m2とする。
	○ 機材の承諾図	機械設備工事機材承諾図様式集(令和 7 年版)によるほか、監督職員との協議による。
	○ 総合試運転調整	○ 本工事　○ 別途 調整項目（測定箇所等は監督職員の指示による。） ○ 風量調整　○ 水量調整　○ 室内外空気の温湿度の測定　○ 騒音の測定 ○ 室内気流及びじんあいの測定　○ 飲料水の水質の測定　○ 雑用水の水質の測定
	○ 電動機	換気扇、圧力扉及び標準仕様書に記載なく特記のないものの電動機の保護規格は、製造者規格による標準品としてよい。
	○ 容量等の表示	1)機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。 2)電動機出力、燃料消費量、圧力損失等は、原則として表示された数値以下とする。
	○ 耐震措置	耐震措置の計算及び施工方法は次によるほか、建築設備耐震設計・施工指針2014年版（独立行政法人建築研究所監修）による。 (1) 機器の据付け及び取付け 設計用水平地震力は、機器の質量（自由表面を有する水槽その他の貯槽にあっては有効質量）に、地域係数1.0及び次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。 設計用標準水平震度 設置場所 ／ 機器種別 ／ ○ 特定の施設（重要機器 2.0、一般機器 1.5）／ ○ 一般の施設（重要機器 1.5、一般機器 1.0） 上層階、屋上及び塔屋：機器 2.0 1.5 1.5 1.0；防振支持の機器 2.0 2.0 2.0 1.5；水槽類 2.0 1.5 1.5 1.0 中間階：機器 1.5 1.0 1.0 0.6；防振支持の機器 1.5 1.5 1.5 1.0；水槽類 1.5 1.0 1.0 0.6 地階・１階：機器 1.0 0.6 0.6 0.4；防振支持の機器 1.0 1.0 1.0 0.6；水槽類 1.5 1.0 1.0 0.6 ・上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階とする。 ・中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの ・水槽類にはオイルタンクを含む。 ・重要機器は次のものを示す。 ○ 給水機器（　　） ○ 排水機器（　　） ○ 換気機器　○ 空調機器　○ 熱源機器　○ 防災設備 ○ 監視制御設備　○ 危険物貯蔵装置　○ 火を使用する設備　○ 避難経路上に設置する機器 (2) 設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の１／２とする。
	○ 適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ○ 風圧力　風速（V0=　m/s） 地表面粗度区分　（ ○Ⅰ　○Ⅱ　○Ⅲ　○Ⅳ ） ○ 積雪荷重　建設省告示第1455号における区域　別表（　）
	○ 配管	(1) ステンレス鋼管の接合は、下記による。 ○ 呼び径６０Ｓｕ以下（　ＳＡＳ３２２を満足した継手。　） ○ 呼び径７５Ｓｕ以上（　　） (2) 建築物導入部の変位吸収方法は、標準図（建築物導入部の変位吸収配管要領）による。 ○（ａ）　○（ｂ）　○（ｃ）　○（ｄ）　○（ｅ） (3) 溶接部の非破壊検査　○ 不要　○ 要 （抜取率 ○ 標準仕様書(機械設備工事編)による。　○　% ）
	○ 絶縁継手	「機器と配管接続部」取り付け箇所は図示による。
	○ 地中埋設標等	(1) 地中埋設標　○ 要（図示による。）　○ 不要 (2) 埋設表示用テープ　○ 要（排水管を除く）　○ 不要
	○ 保温	○ 別表－２　保温工事仕様による。 ○ 屋外露出部（　○ 下記の機器類 ○ 給水管 ○ 消火管 ○ 膨張管 ○ ドレン管（配管類には弁類を含む））は ○ 防凍保温　○ 凍結防止ヒーター）を行う。 （対象機器：　　） 防凍保温は、厚さを配管の呼び径25以下は50mm、呼び径32以上は40mmとし、保温を施す。 凍結防止ヒーターは、自己サーモ式とし、保温を施すものとする。 ○ 共同溝、トレンチの保温は（標準仕様書第２編の施工箇所　　）を適用する。 ○ 多湿箇所は下記の場所とする。（天井内共多湿箇所とする。） （○　浴室（ユニットは除く）　○ 脱衣室　○　　○　　） ○ 屋内露出　（ ○ 実験室　○　　）の保温外装は（ ○ ｱﾙﾐﾆｳﾑ ｽﾗｽｸﾛｽ　○　　）とする。 ○ 合成樹脂製カバーは下記による。 ○ １シートタイプ　○ ２シャケットタイプ　○ ３保温化粧カバータイプ
	○ 塗装、仕上げ	露出機材の塗装仕上げは下記による。 ○ 屋外　○ ドレン管　（○ 指定色塗装　○　　） ○ 金属電線管　（○ 溶融亜鉛メッキ仕上げ［付着量300g/㎡以上］ ○ 指定色塗装　） ○ 屋内　○ 指定色塗装　（○　　）
	○ はつり	既存コンクリート床、壁等の配管貫通部の穴開けは、図面に特記のない場合はダイヤモンドカッターを用いる。
	○ 電線類	電線及びケーブルの規格は標準仕様書第４編 1.5.1 表 4.1.11 による。
	○ 天井仕上区分	（　　）書きの室名は直天井を示し、その他は二重天井を示す。
	○ 吊り及び支持金物	（ ○ 槽内　○コンクリート壁 ）の吊り金物・支持金物類はステンレス鋼製(SUS304)とする。
	○ 施工調査	○ 下記によるほか、改修標準仕様書第１編1.5.1及び1.5.2による。 調査項目　○ 調査範囲　○ 図示　○ 調査方法　○ 図示　○ ○ はつり及び穿孔作業を行う場合、事前に走査式埋設物調査を行い報告すること。 ○ 石綿含有分析調査　○
	○ 試験	既設配管を含む部分の試験　○ 要　（方法及び圧力：　　）　○ 不要
	○ 既存躯体への穿孔	穿孔機械を使用し、既存躯体に穿孔する場合は、金属探知により電源供給が停止できる付属装置等を用いて施工する。
	● 他工事との取り合い	別表－３　工事区分表による。
	○ 環境対策	建設機械は、排出ガス対策型、低騒音型の建設機械を使用すること。
	● 工事現場管理	受注者は、工事の施工にあたっては、次の事項を遵守すること。 (1) 不法・違反無線局(不法パーソナル無線)を設置したトラック、ダンプカー等を工事現場に立ち入らせないこと。
	○ 過積載による違法運行の防止	受注者は、工事の施工にあたっては、次の事項を遵守すること。 (1) 積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。 (2) さし枠装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。 (3) 過積載車輌、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引渡しを受ける等過積載を助長することのないようにすること。 (4) 取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行い、又はさし枠装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。 (5) 建設発生土の処理及び骨材の購入等に当たって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。 (6) 以上のことにつき、下請業者にも十分指導すること。
	● 安全対策	受注者相互の緊密な連絡調整を図り、協力して工事を安全円滑に実施することを目的とする「工事関係者連絡会議」を設置すること。 また、発注者で組織する安全対策委員会が行う安全審査、施工条件検討、安全点検等に協力すること。
	● 保険	本工事については、工事目的物及び工事材料を次に示す内容で火災保険、組立保険その他の保険に附すること。 (1) 被保険者　発注者、受注者及びその全下請負人 (2) 保険金額　請負代金全額 (3) 保険期間　工事着手のときから工事引渡しまでの期間 なお、保険契約を締結したときは、その証券又はこれに代わるものを直ちに監督職員に提示すること。
	● 施設点検	本工事完成（「工事目的物の引渡し」を行った日）後、１年目及び２年目に関係者(営繕課、工事監理事務所、施設管理者、受注者)による施設点検(不具合の有無を確認し、その処理について協議)を行うので、当課からの依頼により、施設点検に立会い協力するものとする。
	○ 工事実績情報の登録	本工事の最終請負代金(消費税込)が、500万円以上となる場合には、工事実績情報システム(コリンズ)に基づき工事実績データを作成する。また、作成した内容について監督職員の確認を受けた後、以下に示す期間内に（一財）日本建設情報総合センターに所定の手続により登録するとともに、登録内容確認書の写しを提出する。 (1) 工事受注時　契約締結後10日以内 (2) 登録内容の変更時　契約事項の確定日から10日以内 (3) 工事完成時　工事完成後10日以内
	○ 創意工夫等の実施	受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫に関する項目、または地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに所定の様式により提出することができる。
	○ 官公署その他への届出手続等	工事の着手、施工、完成にあたり、関係官公署などへの必要な手続等は受注者が代行し、遅滞なく行う。
	● 施工図等の取扱	施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。
	○ 中間検査	1 通常工事時 中間検査を実施する　（　回数　回 、　実施時期　　） 中間検査の範囲　（　　） 2 低入札価格調査制度調査対象工事時 県建設工事検査要綱(検査の区分を規定)および中間検査実施細則(中間検査実施区分を規定)の定めに関わらず中間検査の指定対象工事として、中間検査を実施する。 (1) 調査対象工事の中間検査の実施は、「中間検査実施細則」に関わらず原則として2ケ月に1回、隔月ごと、及び主要工種を考慮し施工上の変化点等で行うが、実施時期は監督職員が指定する。 なお、検査日及び検査監氏名は別途通知する。 (2) 中間検査は、通知日までに完了した出来形部分の出来形確認及び技術的確認等を行うが、給付の対象とはしない。
	○ 条件明示項目	○ 施工可能期間 月　日～　月　日　（期間中も行事等により、短期の施工不能日あり） ○ 改修工事の部分使用 月　日までに下記部分について、部分使用するので協力すること。 部分使用箇所　（　　）

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	建築機械設備改修工事特記仕様書(1)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	－	図面番号	AM-01
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

章	項目	特記事項
○ 空気調和設備	○ 設計用温湿度	○ 下表による。　○（　　）の温度条件による。

	外気		屋内（調整目標）					
			一般系統					
	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)
夏期	℃	%	℃	%	℃	%	℃	%
冬期	℃	%	℃	%	℃	%	℃	%

章	項目	特記事項
	○ 鋼板製煙道	伸縮継手、掃除口及びばいじん量測定口の位置は図示による。 鋼板厚　（　○ 3.2mm　○ 4.5mm　）
	○ ダクト	○ 低圧ダクト　（　○ コーナーボルト工法（長辺の長さが1,500mm以下の部分） ○ アングルフランジ工法　○ スパイラルダクト　　）とする。 ○ 高圧1ダクトの適用範囲は図示による。 ○ ステンレスダクト及び塩化ビニルダクトの仕様及び適用範囲は図示による。
	○ 風量測定口	取り付け箇所は図示による。
	○ チャンバー	(1) 内貼りを施すチャンバーの表示寸法は外法を示す。 (2) 空気調和機に取り付けるサプライチャンバー、レタンチャンバー及びダクト系で消音内貼りしたチャンバーには点検口を設け、点検口の大きさは図示による。 (3) ガラリに直接取り付けるチャンバー及びホッパーは雨水の滞留のないように施工する。
	○ ダンパー	(1) 防煙ダンパー　復帰方式（ ○ 遠隔　○　　）定格入力はDC24V、0.7A以下とする。 (2) ピストンダンパー　復帰方式（ ○ 遠隔　○　　）
	○ 配管材料	(1) 冷温水管　○ (2) 冷却水管　○ (3) 油　管　○ (4) 蒸気管　給気管　○ 還　管　○ (5) 高温水管　○ (6) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラー等への補給水管　○ (7) ドレン管　○ (8) 冷媒管　○
	○ 弁類	JIS 又は JV （ ○ 5K　○ 10K（図示部分） ） ○ 65A以上の冷温水・冷却水用弁装置の仕切弁はバタフライ弁とする。 ○ 鋼管用伸縮継手の種類は図示による。 ○ ステンレス鋼管に取付ける弁類は、ステンレス製とする。 ○ ファンコイルユニットと冷温水管の接続部（往・還）には、ボール弁を取付ける。 ○ ファンコイルユニットには、　○ 流量調整弁　○ 定流量弁　を設置する。
	○ 温度計	取付け箇所は図示による。
	○ 圧力計	取付け箇所は図示による。
	○ 瞬間流量計	取付け箇所は図示による。 なお、瞬間流量計（ ○ 固定型　○ 着脱型）はピトー管方式とし、止水コック付とする。
	○ 油面制御装置	制御盤には、（ ○ 給油ポンプ制御　○ 満油警報　○ 遠隔警報　○ 漏えい検知警報 ○ 返油ポンプ制御　○ 減油警報　○　　）の端子を設ける。 なお、フロートスイッチ部と制御盤間の配管・配線は製造者の標準仕様とする。
	○ 絶縁継手	図示の位置に取付ける。
	○ 保温及び消音内貼り	○ 逃りダクトの保温　範囲は（ ○ 図示による　○　　） ○ 外気ダクトの保温　範囲は（ ○ 図示による　○　　） ○ 膨張タンクよりボイラー等への補給水管の保温は、標準仕様書第２編 3.1.4 の温水管の項による。 ○ 建物内の空気抜き管の保温は、標準仕様書第２編 3.1.4 温水管の項による。(エア抜き弁以降の配管は、除く) ○ 空気調和機及びファンコイルユニットの排水管の保温は、標準仕様書第２編 3.1.5 の排水管の項による。 ○ 冷媒管の保温外装は別表一２による。　○
● 換気設備	● ダクト	● 低圧ダクト　（　○ コーナーボルト工法（長辺の長さが 1500 mm以下の部分） ● アングルフランジ工法　○ スパイラルダクト　　）とする。 ○ 高圧1ダクトの適用範囲は図示による。 ○ ステンレスダクト及び塩化ビニルダクトの仕様及び適用範囲は図示による。 ○ 厨房系統の長方形排気ダクトの板厚は、標準仕様書より1番手厚いものを使用する。
	○ 風量測定口	取付箇所は図示による。
	○ ダンパー	空気調和設備の当該項目による。
	○ 排気ダクトのシール	○ 浴室(シャワー室、脱衣室を含む)系統　○ 厨房系統　○ 高圧2ダクトのシール　長方形ダクト　○ Ｎ＋Ａシール　○ Ｂシール 円形ダクト　○ Ａ，Ｂシール　○ Ｃシール
	○ チャンバー	空気調和設備の当該項目による。
	○ 保温	○ 全熱交換ユニット用の外気取入れダクト （ ○ 保温範囲及び仕様は図示による。　○　　） ○ 全熱交換ユニット用の排気用ダクト （ ○ 保温範囲及び仕様は図示による。　○　　） ○（ ○ 厨房　○ 湯沸室　○　　）の隠ぺいダクト（仕様はh・(イ)・Ⅸ）とし、範囲は図示による。
○ 排煙設備	○ ダクト	○ 亜鉛鉄板　○ 普通鋼板（厚1.6mm）
	○ 排煙口の形式	○ 図示による。
	○ 排煙口手動開放装置（開放及び復帰方式）	○ ワイヤー式　○ 電気式（ 遠隔操作　○ 要　○ 不要 ）
	○ 排煙風量測定	建築設備定期検査業務基準書(2023年版)（（一財）日本建築設備・昇降機センター）の排煙風量の検査方法に準ずる。
○ 自動制御設備	○ 中央監視制御装置	○ 有り（ ○ 新設　○ 既設 ）　○　無し
	○ システム構成・機能	図示による。
	○ 電気計装用配線	使用する電線及びケーブルは、原則としてSM電線又はＥＭケーブルとする。 屋外・屋内露出の電線は、図面に特記がなければ金属管配線とする。 天井内隠ぺいの配線は、図面に特記がなければケーブル配線とする。
● 衛生器具設備	○ 自動洗浄装置及びその組み込み小便器	洗浄水量は２Ｌ/回以下とし、使用状況により洗浄水量が制御できるものとする。 ○ 個別感知ﾌﾗｯｼｭ方式（一体型）　制御盤（　○ 要　○ 不要　）
	● 洗面器	手洗器は止水栓付とする。
	○ 標記板	○ 要　材質（ ○　　）　（ ○ 大便器　○ 小便器 ）　○ 不要
	○ 自動水栓の電源供給方式	○ ＡＣ電源　○ 自己発電　○
	● 衛生器具ユニット	ユニットの配管材料は、図示による。
	○ 洋風便器	タンク式は６．５Ｌ/回以下とする。
	● 浴室ユニット	仕様は別図による。

章	項目	特記事項
● 給水設備	● 配管材料	(1) 一般配管　● (2) 地中埋設配管　○ (3) 水道直結配管　○ 引き込みは水道事業者の指定により、量水器以降の地中配管は、（ ○　　）とし、他の部分は(1)による。
	○ 水栓	○ 台所流し用の水栓は泡沫式とする。 ○ 水抜栓を使用する場合、水栓は固定こま式とする。 （ ○ ただし、屋外に設ける水栓は耐寒水栓とする。）
	○ 量水器	○ 親メーター（ 貸与品 ）　（ ○ 直読式　○ パルス式 ） ○ 子メーター（ 買い取り ）　（ ○ 直読式　○ パルス式 ）
	○ 量水器桝	○ 水道事業者指定品（ ○ 貸与品　○ 買取り ）　○ 標準図 MC 形
	○ 絶縁継手	図示の位置に取付ける。
	○ 弁類	JIS 又は JV　○ 水道直結部分（ ○ 10K　○　　） ○ その他の部分（ ○ 5K　○　　） ○ ステンレス配管を使用する場合の材質はステンレス製とする。
	○ 管の地中埋設深さ	○ 管の上端より原則として、一般敷地は（　　cm ） 構内道路は（　　cm ）以上とする。
	○ 水栓柱	○ 合成樹脂製　○ アルミニウム合金製　○ 人造石とぎ出し製　○ ステンレス製
	○ 建物導入部配管	標準図（建物導入部の変位吸収配管要領）の（ ○ (a)　○ (b)　○ (c)　○ (d)　○ (e) ）による。
	○ 引込納付金等	○ 要　（ ○ 別途工事　○ 本工事 ）　○　不要
● 排水設備	● 配管材料	(1) 屋内　汚水管　●　○ 雑排水管　●　○ 通気管　○ ポンプアップ排水管　○ (2) 屋外　第一桝まで　○ ○ 桝　間　○ ○
	● 洗面器等の排水管	洗面器に直結する排水管は、器具トラップより１サイズアップとする。 台所流し等の床上露出部分の配管は、ビニル管（RF-VP）でもよい。 大便器、小便器、洗面器及び掃除流しとの接続管は、ビニル管（RF-VP）でもよい。
	○ 満水試験継手	○ 標準仕様書第２編 2.4.8(5)による。　○ 図示の箇所に取り付ける。
	○ インバート桝・ため桝	○ プラスチック桝　（　○ 標準図による。　○　　） ○ コンクリート桝　（　○ 標準図による。　○ 本図面の施工要領図による。　○　　） ○
	○ 放流納付金等	○ 要　（ ○ 別途工事　○ 本工事 ）　○ 不要
● 給湯設備	● 配管材料	● 一般配管
	○ 弁類	JIS 又は JV （ ○ 5K　○ 10K（図示部分） ） ○ ステンレス配管に取付ける弁類は、ステンレス製とする。
	○ 保温	湯沸器の給排気筒（二重管）の隠ぺい箇所は保温を行う。なお、保温の種別は標準仕様書第２編 3.1.5表 2.3.5のｈ・(イ)・Ⅸとする。
○ 消火設備	○ 配管材料	(1) 屋内消火栓　一般　○ 地中　○ (2) 連結送水管　一般　○ 地中　○ (3)　○ ○
	○ 屋内消火栓種別	○ 易操作性１号消火栓　○ ２号消火栓　○ 広範囲型２号消火栓　○
	○ 屋内消火栓開閉弁	○ １０ｋ
	○ 保温	屋外露出配管は標準仕様書第２編 3.1.5　e2・(ハ)・Ⅶによる保温を行う。
	○ 建物導入部配管	標準図（建物導入部の変位吸収配管要領）（　○ (a)　○ (b)　○ (c) ）による。
	○ 不活性ｶﾞｽ消火設備	別図による。
	○ 泡消火設備	別図による。
○ 厨房設備	○ システム	○ ドライシステム　○
	○ 厨房用熱源	図示による。
	○ 機器の機能等	図示による。
○ ガス設備	○ ガス種別	○ 都市ガス　（供給者名：　　発熱量　　MJ/m3 (N) ） ○ 液化石油ガス
	○ 配管材料	○ 都市ガス　ガス事業者の供給規定による。 ○ 液化石油ガス　(1) 一般　○ (2) 地中　○
	○ 充てん容器	別途　（ ○ 50kg　○　　○　　）×　　本
	○ 集合装置	○ 標準図（液化石油ガス容器廻り配管要領）による　　本組。
	○ 転倒防止等	○ 標準図（液化石油ガス容器転倒防止施工要領）（ ○ (a)　○ (b) ）による。
	○ メーター	○ 親メーター（貸与品）（　○ 直読式　○ パルス式（パルス発信器は ○ 買い取り）） ○ 子メーター（買い取り）（　○ 直読式　○ パルス式 ）
	○ ガス漏れ警報器	○ 本工事（図示による）　○ 別途工事 外部警報端子（ ○ 無　○ 有 ）
	○ 漏洩検知装置	○ 要　○ 不要
	○ 電気防食	○ 要　○ 不要
	○ 引込負担金等	○ 要（ ○ 別途工事　○ 本工事 ）　○ 不要
	○ バルク貯槽	○ 横型　○ 竪型　（液化石油ガス貯蔵能力　　ｋｇ）
○ 排水処理設備	○ 仕様等	別図による。
	○ 設備方式	○ 排水再利用　○ 浄化槽　○ 厨房除害
○ 雨水利用設備	○ 仕様等	別図による。

章	項目	特記事項
● 撤去工事	● 撤去内容	● 図示による。 ○
	○ 保温材	保温材は、配管・ダクト等より分離する。
	○ 支持金物等	ダクト及び配管等の支持金物及び吊り金物は本工事にて撤去する。
	○ 石綿含有品	撤去方法　○ 図示による　○
	● 発生材の処理	● 金属類　（　● 機器類　○ ダクト　● 配管　○ その他金属類 ）の処理は （ ● 構外搬出適切処理　○　）とする。 ○ 特別管理産業廃棄物　（　○　　）の処理は （ ○ 構外搬出適切処理　○ 別途　）とする。 ○ 石綿含有産業廃棄物　（ ○ 配管用成形保温材　○ フランジ用ガスケット　）の処理は （ ○ 構外搬出適切処理　○ 別途　）とする。 ○ 上記以外のもの　（　○　　）の処理は （ ○ 構外搬出適切処理　○ 別途　）とする。 ○ 建設リサイクル法における再資源化等を行なう特定建設資材の構外搬出処理を本工事とする。
	○ 冷媒（フロン類）の回収	○ 本工事　○ 別途 冷凍機等の撤去に伴う冷媒の回収方法は、改修標準仕様書第３編２．４．３により、次の書類を監督職員に提出する。 ○ フロン回収行程管理表の写し ○ 特定家庭用機器廃棄物管理票（家電リサイクル券）の写し
○ その他	○ 上ガス対策	○ なし ○ あり　（ ○ 自然換気口　○ ガス抜き管　○ 強制換気装置　○ ガス検知器 ○ その他（　　）） ○ 施工にあたって、防災上必要な措置を講じること。

章	項目	特記事項

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	建築機械設備改修工事特記仕様書(2)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	－	図面番号	AM-02
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

別表－２

保温工事仕様

＊　適用する保温区分　（ ● 印の付いたものを適用し、○ 印のものは適用しない。）

区分	項目	施工箇所	保温材 GW	保温材 RW	保温材 PSF	保温仕様	外装材 カラー	外装材 SUS	外装材 AL
給排水衛生設備配管 給水管 排水管 （屋外露出、床下、暗渠内は除く。） （空調機等の排水管含む。） 通気管 （屋外露出、床下、暗渠内は除く。） （排水管の分岐点より100mm以下の部分） 消火管 （屋外露出部分のみ） 給湯管 （膨張管含む）	給水管	屋内露出（一般居室、廊下）	○	○	○	保温筒＋鉄線（PSFの場合粘着テープ）＋合成樹脂製カバー	—	—	—
	排水管・通気管		○	○	○		—	—	—
	給湯管		○	○	—		—	—	—
	給水管	機械室、書庫、倉庫	○	○	○	保温筒＋鉄線（PSFの場合粘着テープ）＋原紙＋アルミガラスクロス	—	—	—
	排水管・通気管		○	○	○		—	—	—
	給湯管		○	○	—		—	—	—
	給水管	天井内、パイプシャフト内、空隙壁中	○	○	○	アルミガラスクロス化粧保温筒＋アルミガラスクロス粘着テープ	—	—	—
	排水管・通気管		○	○	○		—	—	—
	給湯管		○	○	—		—	—	—
	給水管・消火管	屋外露出（バルコニー、開放廊下含む）	○	○	○	保温筒＋鉄線（PSFの場合粘着テープ）＋ポリエチレンフィルム＋外装材	○	○	○
	給湯管	浴室、厨房等の多湿箇所（厨房の天井内は含まない）	○	○	—		○	○	○
	給水管	暗渠内（ピット内含む）	○	○	○	保温筒＋鉄線（PSFの場合粘着テープ）＋ポリエチレンフィルム＋着色アルミガラスクロス	—	—	—
	給湯管		○	○	—		—	—	—
	保温厚	グラスウール保温筒（GW） ロックウール保温筒（RW） ポリスチレンフォーム保温筒（PSF）				80A以下：20mm、100A～150A：25mm、200A以上：40mm 80A以下：20mm、100A 以上：25mm			
給排水衛生設備機器 鋼製タンク 排気筒 貯湯タンク	鋼製タンク	屋内	○	○	○	鋲（PSFの場合鋲又は接着剤）＋保温板（厚さ25mm）＋ポリスチレンフィルム＋鉄線＋外装材	○	—	—
		屋外	○	○	○		—	○	—
	貯湯タンク	屋内	○	○	—	鋲＋保温板（厚さ25mm）＋鉄線＋外装材	○	—	—
		屋外	○	○	—		—	○	—
	排気筒	隠ぺい箇所	—	○	—	保温帯（厚さ50mm）＋鉄線＋アルミガラスクロス＋金網	—	—	—
空気調和設備配管 温水管 （膨張管含む） 蒸気管 （低圧（0.1MPa未満）の蒸気）	温水管	屋内露出（一般居室、廊下）	○	○	—	保温筒＋鉄線＋合成樹脂製カバー	—	—	—
	蒸気管		○	○	—				
	温水管	機械室、書庫、倉庫	○	○	—	保温筒＋鉄線＋原紙＋アルミガラスクロス	—	—	—
	蒸気管		○	○	—				
	温水管	天井内、パイプシャフト内、空隙壁中	○	○	—	アルミガラスクロス化粧保温筒＋アルミガラスクロス粘着テープ	—	—	—
	蒸気管		○	○	—				
	温水管	屋外露出（バルコニー、開放廊下含む）	○	○	—	保温筒＋鉄線＋ポリエチレンフィルム＋外装材	○	○	○
	蒸気管	浴室、厨房等の多湿箇所（厨房の天井内は含まない）	○	○	—		○	○	○
	温水管	暗渠内（ピット内含む）	○	○	—	保温筒＋鉄線＋ポリエチレンフィルム＋着色アルミガラスクロス	—	—	—
	蒸気管		○	○	—				
	保温厚	グラスウール保温筒（GW） ロックウール保温筒（RW）	温水管 蒸気管			80A以下：20mm、100A～150A：25mm、200A以上：40mm 25A以下：20mm、32A～50A：30mm、65A 以上：40mm			
冷水管 冷温水管 （膨張管含む） 冷媒管 ブライン管	冷水管	屋内露出（一般居室、廊下）	○	○	○	保温筒＋鉄線（PSFの場合粘着テープ）＋ポリエチレンフィルム＋合成樹脂製カバー	—	—	—
	冷温水管		○	○	○		—	—	—
	冷媒管		○	○	—		—	—	—
	ブライン管		—	—	○		—	—	—
	冷水管	機械室、書庫、倉庫	○	○	○	保温筒＋鉄線＋ポリエチレンフィルム＋原紙＋アルミガラスクロス	—	—	—
	冷温水管		○	○	○		—	—	—
	冷媒管		○	○	—		—	—	—
	ブライン管		—	—	○	保温筒＋粘着テープ＋ポリエチレンフィルム＋アルミガラスクロス	—	—	—
	冷水管（水温度2～4℃）		—	—	○		—	—	—
	冷水管	天井内、パイプシャフト内、空隙壁中	○	○	○	保温筒＋鉄線（PSFの場合粘着テープ）＋ポリエチレンフィルム＋アルミガラスクロス	—	—	—
	冷温水管		○	○	○		—	—	—
	冷媒管		○	○	—		—	—	—
	ブライン管		—	—	○		—	—	—
	冷水管（水温度2～4℃）	天井内、パイプシャフト内	—	—	○		—	—	—
	冷水管	屋外露出（バルコニー、開放廊下含む）	○	○	○	保温筒＋鉄線（PSFの場合粘着テープ）＋ポリエチレンフィルム＋外装材	○	○	○
	冷温水管		○	○	○		○	○	○
	冷媒管	浴室、厨房等の多湿箇所（厨房の天井内は含まない）	○	○	—		○	○	○
	ブライン管		—	—	○		○	○	○
	冷水管	暗渠内（ピット内含む）	○	○	○	保温筒＋鉄線（PSFの場合粘着テープ）＋ポリエチレンフィルム＋着色アルミガラスクロス	—	—	—
	冷温水管		○	○	○		—	—	—
	冷媒管		○	○	—		—	—	—
	ブライン管		—	—	○		—	—	—
	保温厚	グラスウール保温筒（GW） ロックウール保温筒（RW）				25A以下：30mm、32A～200A：40mm、250A 以上：50mm			
		ポリスチレンフォーム保温筒（PSF）	冷水管・冷温水管			25A以下：30mm、32A～200A：40mm、250A 以上：50mm			
			冷水管（水温度2～4℃）			20A以下：30mm、25A～100A：40mm、125A 以上：50mm			
			ブライン管			25A以下：40mm、25A～ 80A：50mm、100A 以上：65mm			
冷媒管 （断熱材被覆銅管）	ガス管保温厚	20mm以上				液管保温厚　10mm以上			
	外装材	屋内露出（一般居室、廊下）	○ 合成樹脂カバー　○ 保温化粧ケース（ ○　　製 ）						
		機械室、書庫、倉庫	○ 合成樹脂カバー　○ 保温化粧ケース（ ○　　製 ）						
		屋外露出	○ ステンレス鋼板　○ ○ 保温化粧ケース（ ○ 樹脂製　○　　製 ）						
空気調和設備機器 冷温水ヘッダー 冷水ヘッダー 冷水ヘッダー 冷温水タンク 冷水タンク 冷水ヘッダー 温水ヘッダー 蒸気ヘッダー 蒸気ヘッダー 温水タンク 温水タンク 還水タンク 熱交換器 膨張タンク	冷温水ヘッダー 冷水ヘッダー	屋内	○	○	○	鋲（PSFの場合鋲又は接着剤）＋保温板（厚さ50mm）＋ポリスチレンフィルム＋鉄線＋外装材	○	—	—
	冷温水タンク 冷水タンク	屋外	○	○	○		—	○	—
	冷水ヘッダー 蒸気ヘッダー 温水タンク 還水タンク 熱交換器	屋内	○	○	—	鋲＋保温板（厚さ50mm）＋鉄線＋外装材	○	—	—
		屋外	○	○	—		—	○	—
	膨張タンク	屋内	○	○	—	鋲＋保温板（厚さ25mm）＋鉄線＋外装材	○	—	—
		屋外	○	○	—		—	○	—
空気調和設備ダクト	長方形ダクト（全熱交換器用ダクトは、保温厚25mmとする）	屋内露出（一般居室、廊下）	○	○	—	鋲＋保温板（厚さ50mm）＋外装材	○	—	—
		機械室、書庫、倉庫、屋内隠ぺい、ダクトシャフト内	○	○	—	鋲＋アルミガラスクロス化粧保温板（厚さ25mm）＋アルミガラスクロス粘着テープ	—	—	—
		屋外露出（バルコニー、開放廊下含む）浴室、厨房等の多湿箇所（厨房の天井内は含まない）	○	○	—	鋲＋保温板（厚さ50mm）＋ポリスチレンフィルム＋鉄線＋外装材	○	○	○
	スパイラルダクト（全熱交換器用ダクトは、保温厚25mmとする）	屋内露出（一般居室、廊下）	○	○	—	保温板（厚さ50mm）＋外装材	○	—	—
		機械室、書庫、倉庫、屋内隠ぺい、ダクトシャフト内	○	○	—	アルミガラスクロス化粧保温板（厚さ25mm）＋アルミガラスクロス粘着テープ	—	—	—
		屋外露出（バルコニー、開放廊下含む）浴室、厨房等の多湿箇所（厨房の天井内は含まない）	○	○	—	保温板（厚さ50mm）＋ポリスチレンフィルム＋鉄線＋外装材	○	○	○
消音内張り	サプライチャンバー		○	○	—	鋲＋保温板（厚さ50mm）＋ガラスクロス＋銅きっ甲金網	—	—	—
	消音チャンバー・消音エルボ		○	○	—	鋲＋保温板（厚さ25mm）＋ガラスクロス	—	—	—
排煙ダクト	長方形	屋内隠ぺい	○	○	—	鋲＋アルミガラスクロス化粧保温板（厚さ25mm）＋アルミガラスクロス粘着テープ＋きっ甲金網	—	—	—
	円形	屋内隠ぺい	○	○	—	アルミガラスクロス化粧保温帯（厚さ25mm）＋アルミガラスクロス粘着テープ＋きっ甲金網	—	—	—
煙道	長方形		—	○	—	ブランケット（厚さ75mm）＋鉄線＋外装材	○	○	—
	円形		—	○	—		○	○	—

※ 凡例　保温材　GW ：グラスウール保温材　RW ：ロックウール保温材　PSF：ポリスチレンホーム保温材
外装材　カラー：塗装亜鉛系めっき鋼板　SUS：ステンレス鋼板　AL ：溶融アルミニウム－亜鉛鉄板

※ 不燃材以外の配管が建築基準法施行令第112条第20項に規定する準耐火構造等の防火区画を貫通する場合貫通部より 1m 以上はロックウール保温材を使用すること

※ 配管の保温は、継手及び弁類を含む。図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、標準仕様書による。

別表－３

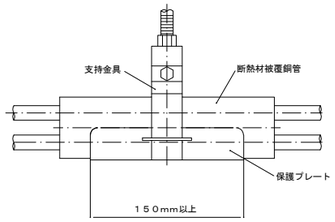
工事区分表

工事内容			施工区分 建築	施工区分 電気	施工区分 機械	
開口部	はり、床、壁貫通部	鉄筋補強	⊙	・	・	・
		スリーブ、型枠	・	⊙	⊙	・
	埋込形（分電盤、端子盤、プルボックス）、風道 埋込形消火栓ボックス、吹出口、吸込口、換気扇、大便器等	鉄筋補強	⊙	・	・	・
		スリーブ、型枠	・	⊙	⊙	・
	軽量鉄骨下地天井、壁ボード類の切込み	補強とも	⊙	・	・	・
		補強のない場合	・	⊙	⊙	・
	スリーブ穴埋め、型枠穴埋め		⊙	⊙	⊙	・
	鉄骨、PC版等への穴開け、補強、スリーブ入れ（工場加工）		⊙	・	・	・
基礎	屋内　配電盤、制御盤、発電機、キュービクル 受水槽、サービスタンク	躯体と一体のもの	⊙	・	・	・
		上記以外	・	⊙	⊙	・
	屋外　配電盤、制御盤、キュービクル 受水槽、消火水槽	鉄筋基礎	・	⊙	⊙	・
		無筋基礎	・	・	・	・
	屋上　テレビアンテナ、避雷針 高架水槽、クーリングタワー、消火栓補給水槽	躯体と一体のもの	⊙	・	・	・
		上記以外	・	⊙	⊙	・
	架台、アンカーボルト		・	⊙	⊙	・
			・	・	・	・
点検口	床、天井、壁		⊙	・	・	・
			・	・	・	・
	配線ピット、トレンチピット		⊙	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
配管	機器付属の制御盤　（接地とも）	一次側	・	⊙	・	・
		二次側	⊙	⊙	⊙	・
	制御盤と動力盤の間　（接地とも）	電源供給	・	⊙	・	・
		操作　配管	・	・	・	・
		回路　配線（　）	・	・	・	・
配線	天井吊り形FCU及び全熱交換形換気扇　（接地とも）	電源供給	・	⊙	・	・
		操作　配管	・	・	・	・
		回路　配線（　）	・	・	・	・
	煙感知器から連動制御盤を経て防火ダンパーに至る配管配線		・	・	・	・
防油堤			⊙	・	・	・
インサート、吊りボルト			⊙	⊙	⊙	・
換気扇枠			・	・	・	・
外部取り付けガラリ（ダクト、チャンバー接続用フランジを含む）			⊙	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・
			・	・	・	・

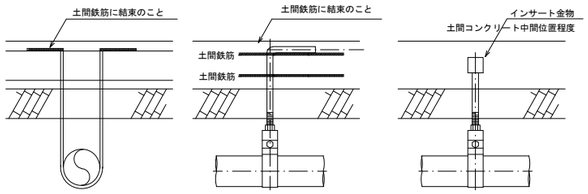
別表－１

機材等	

冷媒配管支持要領



土間下配管詳細図

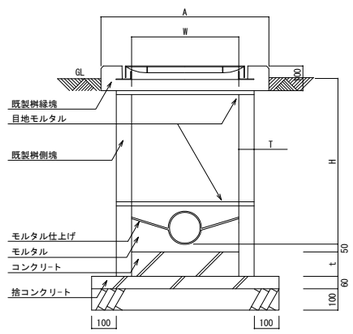


土間下地中配管は、9φ鉄筋（タールエポキシ塗り）にて、U字型支持のこと。
支持間隔は、仕様による。

吊りバンド、棒鋼はステンレス製とする。
棒鋼を土間鉄筋に結束する場合は、直接、接しないよう電触防止策を施すこと。
支持間隔は、仕様による。

吊りバンド、棒鋼はステンレス製とする。
棒鋼を土間鉄筋に仮止めする場合は、直接、接しないよう電触防止策を施すこと。
支持間隔は、仕様による。

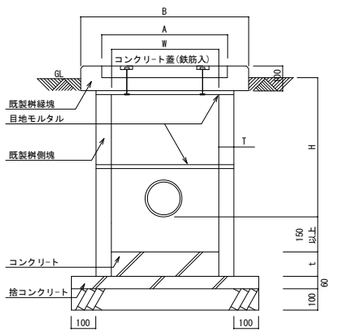
インバート桝 施工要領図　S-1 ・ S-2



深さ / 寸法	H＝600以下 S-1	H＝600超 S-2
W	450×450	600×600
T	45	50
t	100	120
A	700	850

1. 蓋は鋳鉄製防臭蓋とする。（鎖付き、汚水マーク入り）
2. 既製桝側塊、縁塊は、すべて鉄筋入りとする。
3. 既製桝側塊、縁塊は、ズレを防止する構造とする。

ため桝 施工要領図　R-1 ・ R-2



深さ / 寸法	H＝600以下 R-1	H＝600超 R-2
W	450×450	600×600
A	520×520	670×670
B	650×650	800×800
T	45	50
t	100	120

1. コンクリート蓋は、既製桝用とし、鉄筋入とする。
2. 既製桝側塊、縁塊は、すべて鉄筋入りとする。
3. 鋳鉄蓋を使用する場合は汚水桝に準ずる。

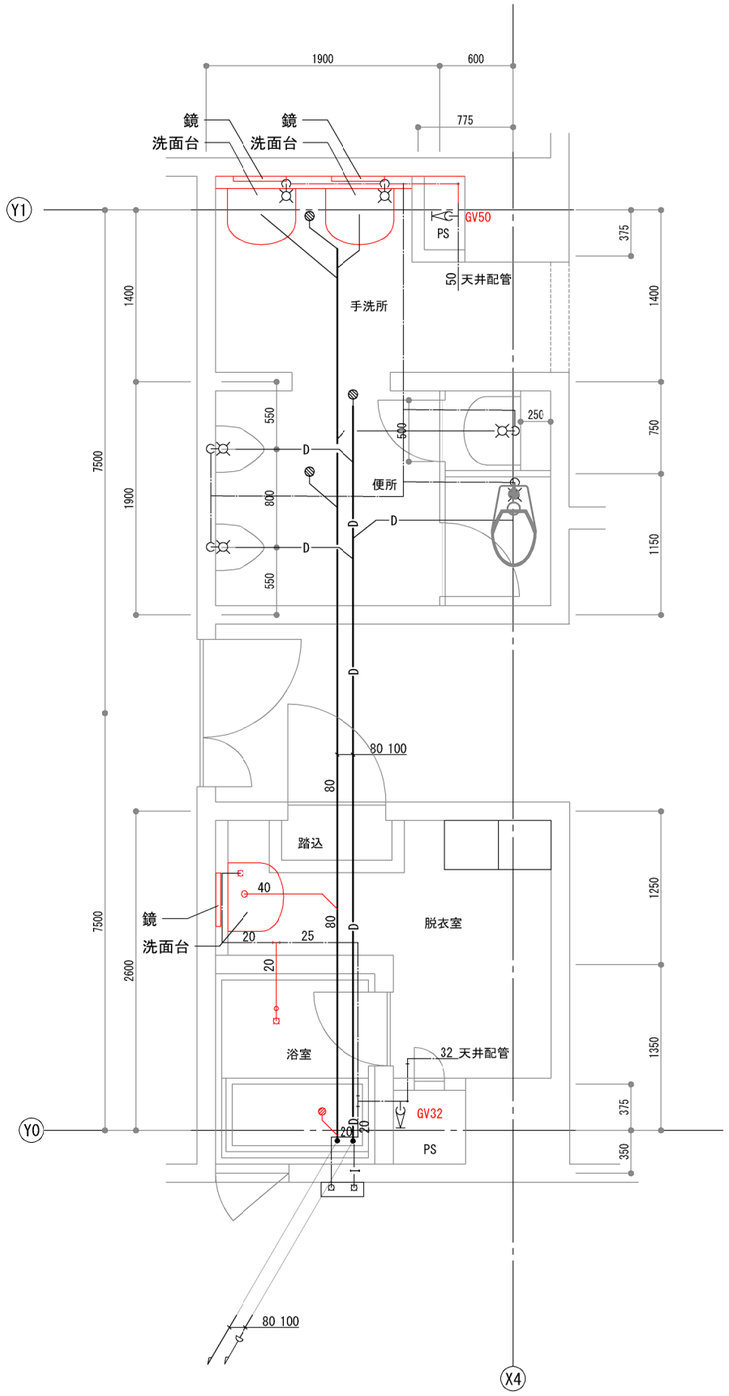
桝蓋仕様

名称	記号	実内径	受枠	安全荷重	備考
防臭中耐蓋	MHA-45	450φ	560	1500kg以上	
防臭中耐蓋	MHA-60	600φ	710	1500kg以上	
防臭重耐蓋	MHD-45	450φ	560	5000kg以上	
防臭重耐蓋	MHD-60	600φ	710	5000kg以上	

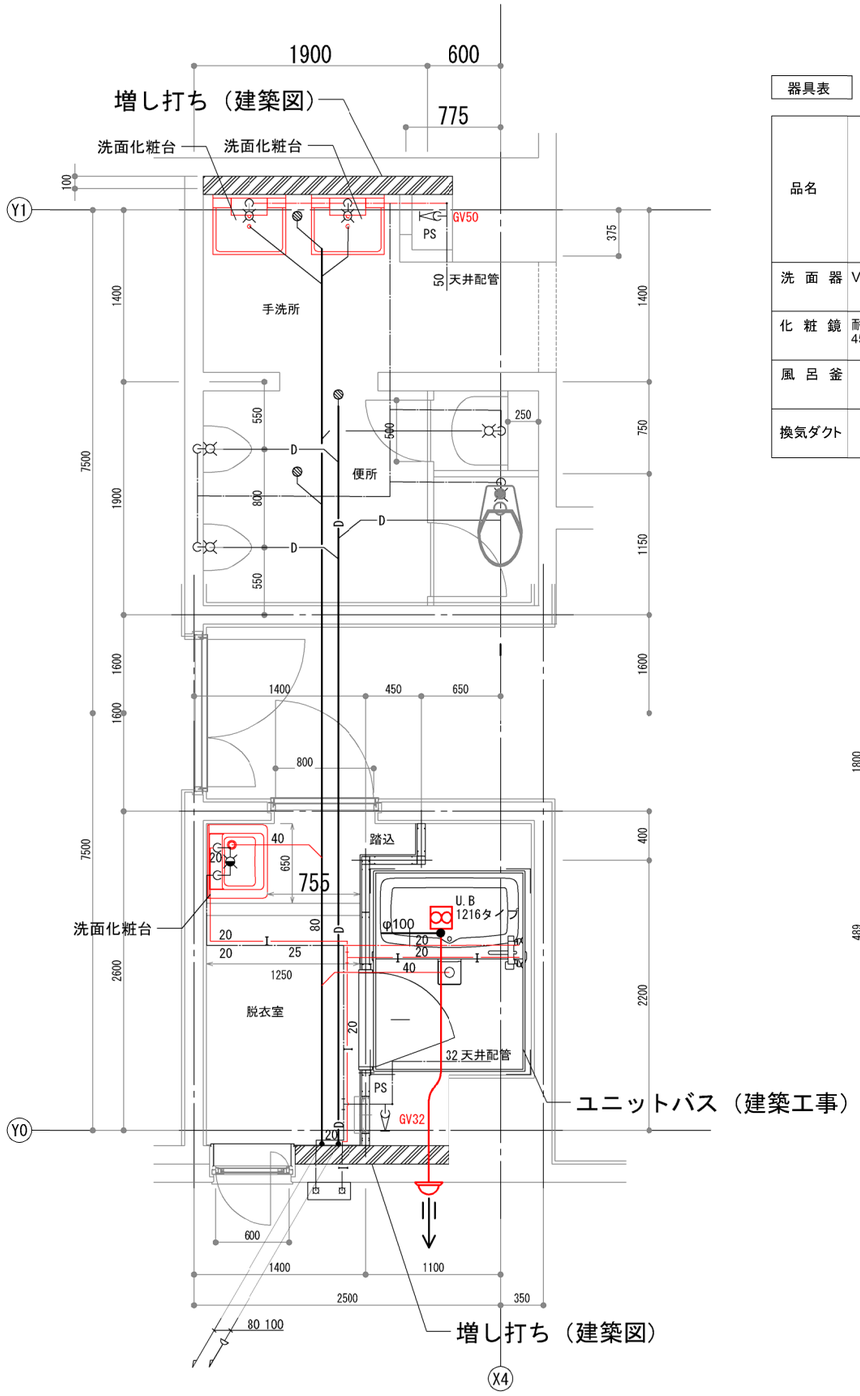
桝標準構成表

W	H	側塊 150H	側塊 300H	側塊 450H	側塊 600H	既製縁塊
450	250 ～ 400				1	1
450	400 ～ 550	1			1	1
450	560 ～ 700		1		1	1
450	710 ～ 850			1	1	1
600	530 ～ 680		1		1	1
600	690 ～ 830	1	1		1	1
600	840 ～ 980				2	1
600	990 ～ 1130	1			2	1
600	1140 ～ 1280		1		2	1
600	1290 ～ 1430	1	1		2	1

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	建築機械設備改修工事特記仕様書(3)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	－	図面番号	AM-03
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		



1階 展開図［改修前］

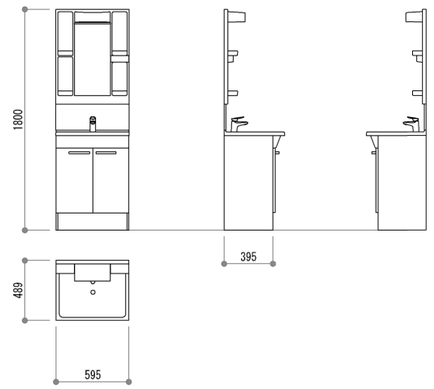


1階 展開図［改修後］

器具表

□衛生器具は,グリーン購入法適合品とする。

品名	JIS記号 注記	品番 (参考品番) 上段ー既設 下段ー更新	管理棟 1階 便所	1階 浴室	2階 便所			計
洗面器	VL520	L220	2	1	1			4
		洗面化粧台 （LDPL060） 一面鏡 （LMSPL060）	2	1				3
化粧鏡	耐食形 450×600	TS119AS1	2	1	1			4
風呂釜		SR Ⅱ	1					1
		U.B 1216タイプ	1					1
換気ダクト								
		φ100 スパイラルダクト ベンドキャップ		1				1

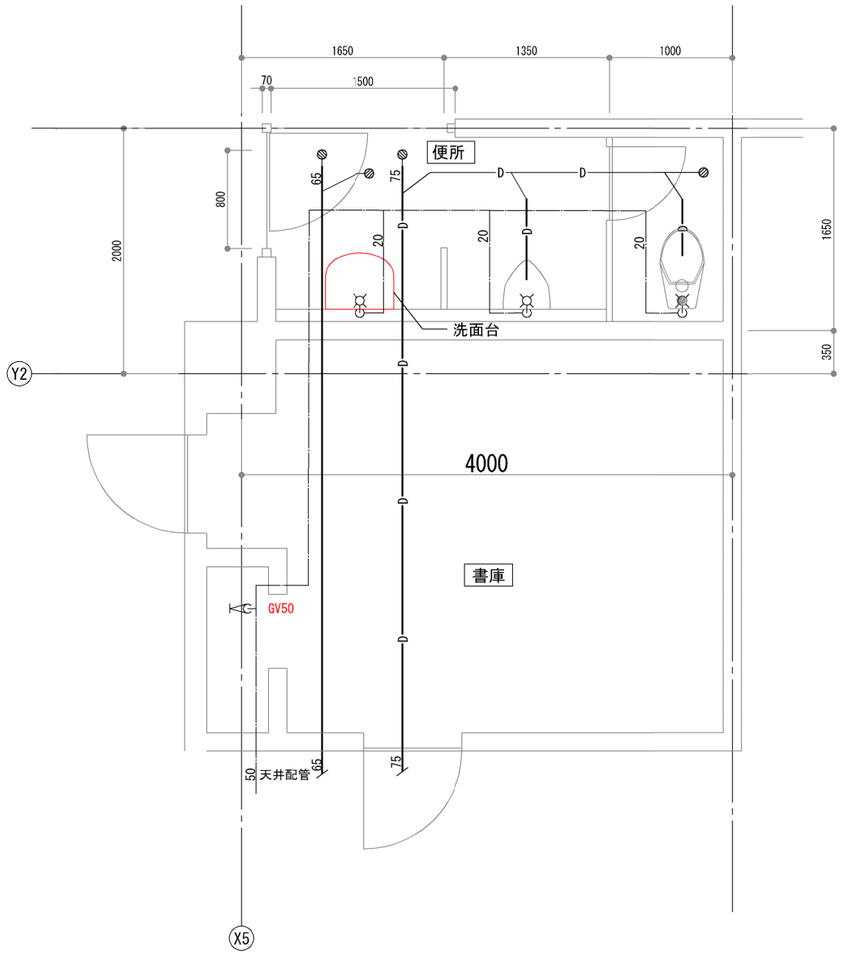


洗面化粧台（参考）

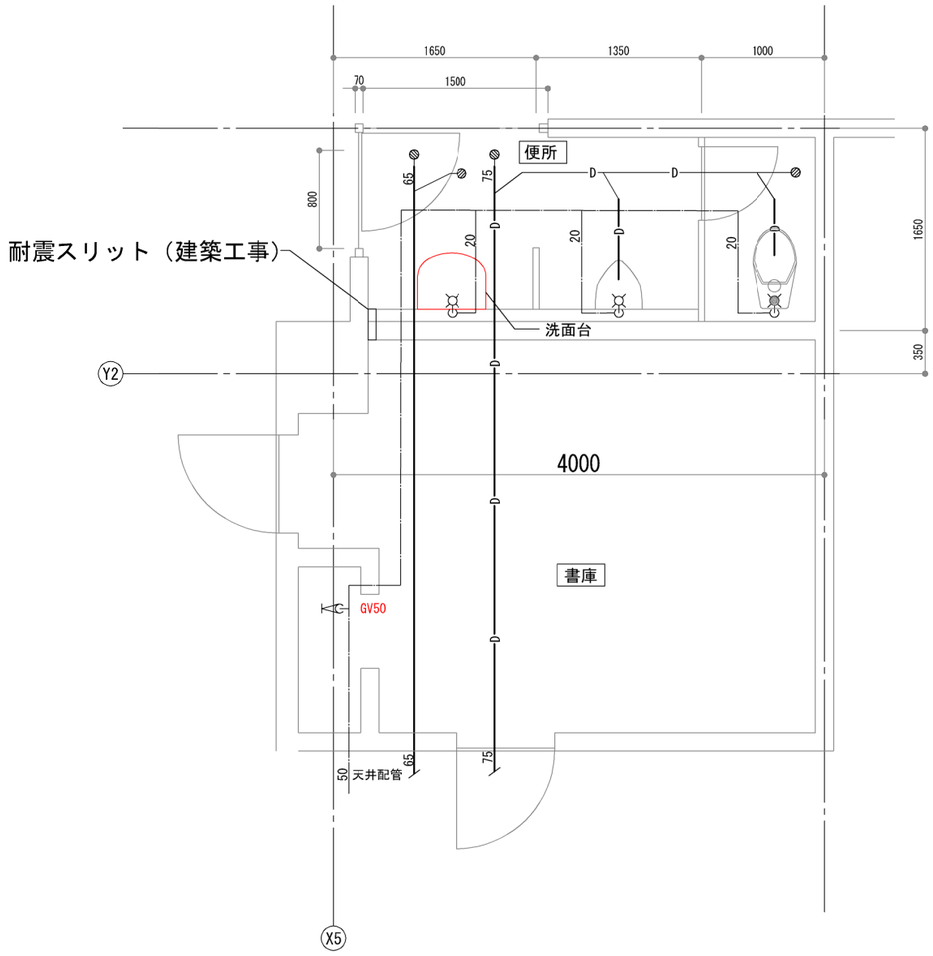
注：工事中はGV50とGV32を閉じる。

今回工事対象である。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	1階トイレ・浴室展開図［改修前・後］		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/25	図面番号	AM-04
設計者	株式会社 日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県 上尾市		



2階 展開図［改修前］

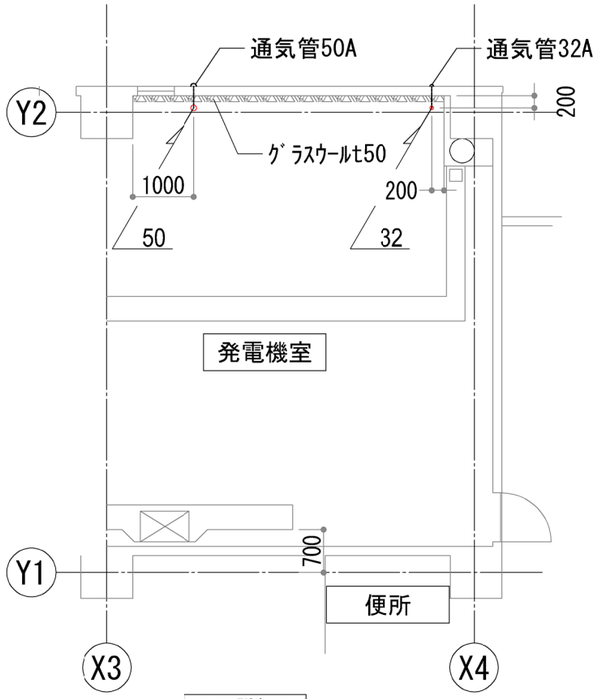


2階 展開図［改修後］

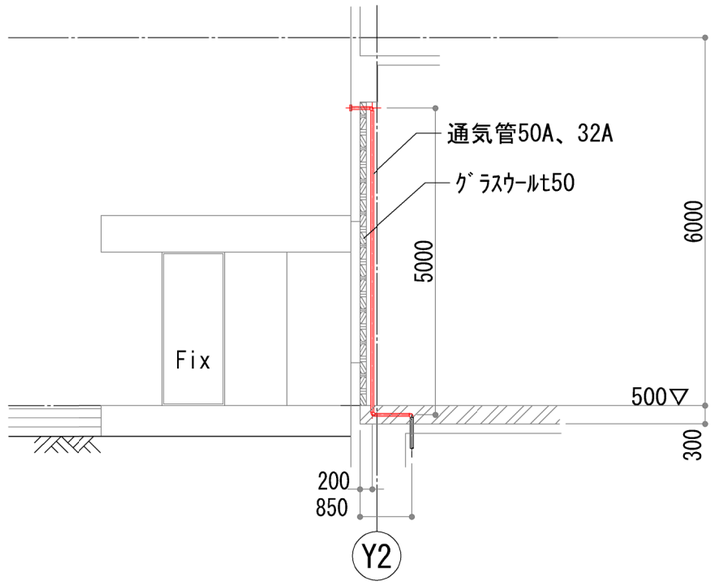
注：工事中はGV50を閉じる。

今回工事対象である。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	2階トイレ展開図［改修前・後］		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/25	図面番号	AM-05
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

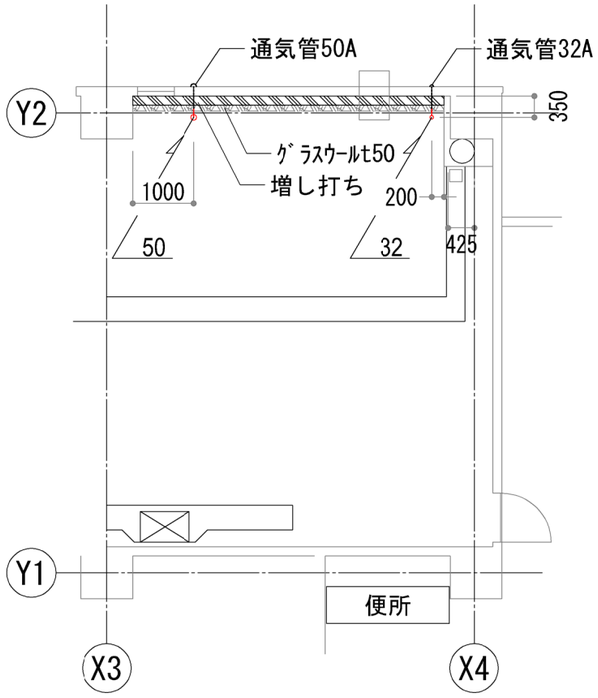


平面詳細図

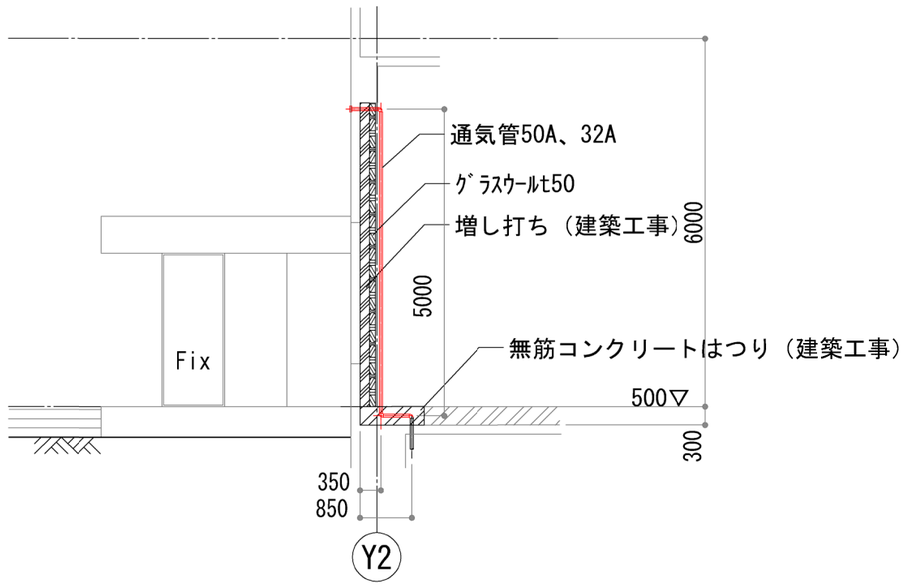


断面詳細図

1階 自家発室［改修前］



平面詳細図



断面詳細図

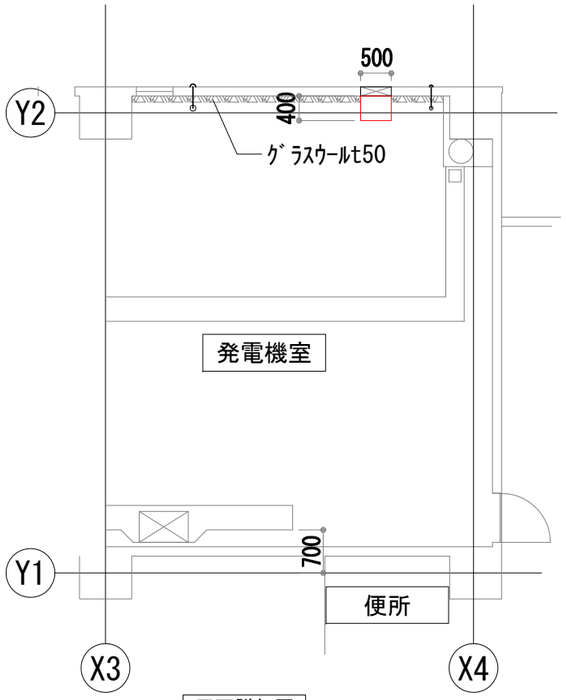
1階 自家発室［改修後］

注：工事手順は以下のとおりとする。

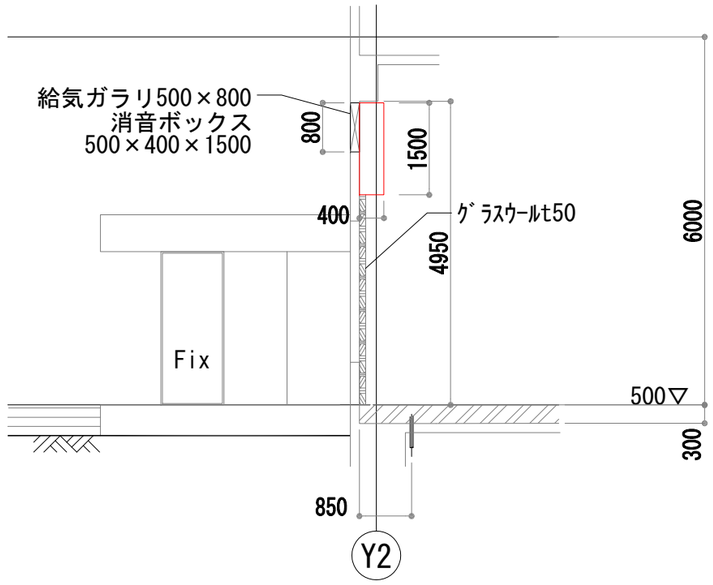
① 床コンクリートはつり（建築工事）
② 通気管撤去、据付
③ 増し打ち（建築工事）
④ 壁ｸﾞﾗｽｳｰﾙt50 張り（建築工事）

今回工事対象である。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	1階自家発室［改修前・後］（通気管）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	AM-06
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

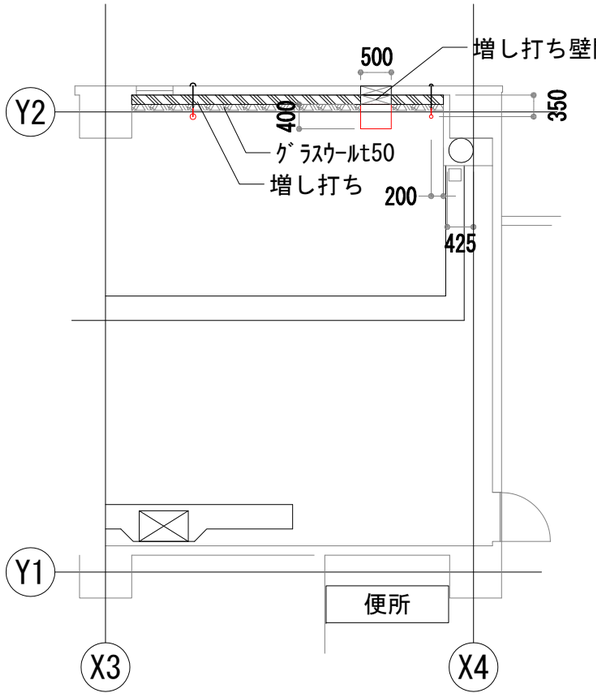


平面詳細図

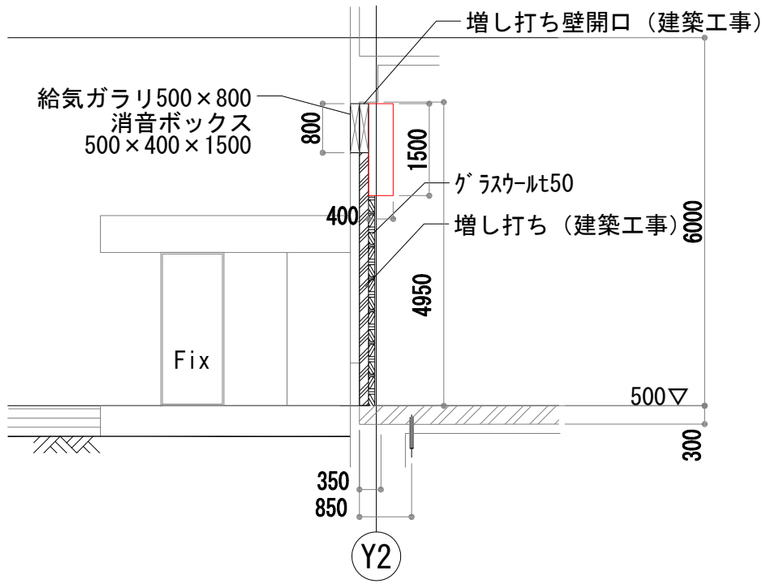


断面詳細図

1階 自家発室［改修前］



平面詳細図



断面詳細図

1階 自家発室［改修後］

注：工事手順は以下のとおりとする。

① 消音ボックスを撤去（再利用）
② 増し打ち（建築工事）
③ 消音ボックス据付
④ 壁グラスウールt50 張り（建築工事）

今回工事対象である。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	1階自家発室［改修前・後］（換気）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	AM-07
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

工事名称　芝川ポンプ場耐震補強実施設計業務

フレックス工期契約制度
○　適用する　工事着手期限日（　　年　　月　　日）　工期の終期日（　　年　　月　　日）　　○　適用しない
留意事項
・受注者は、工事着手日を明らかにするため、契約締結後7日以内に工事着手日通知書(第1号様式)を発注者に届け出なければならない。
・契約締結日から工事着手日の前日までの間は、建設業法(昭和24年5月24日法律第100号)第26条に基づく主任技術者又は監理技術者の設置を要しない。
・契約締結日から工事着手日の前日までの間は、建設工事請負契約書第11条に基づく現場代理人の設置を要しない。
・工事着手日までの間は、工事の施工(現場事務所の設置、資機材等の発注及び工場製作を含む)を行ってはならない。
・前金払は、工事着手日の10日前までは請求できない。
・工事実績情報システムへの登録に際しては、主任（監理）技術者及び現場代理人の従事期間は、工事着手日をもって登録するものとする。（工事契約日から工事着手日の前日までを除くこととする。）

猛暑による作業不能日数
○本工事は、猛暑による作業不能日数を次のとおり見込んでいる。
ｉ）作業不能日数：◆日間（工期の始期は令和◆年◆月◆日【着手期限】で算定）
ⅱ）上記ｉ）は、環境省が公表する関東地方_埼玉県_◆◆地点におけるWBGT値（気温、湿度、日射・輻射を考慮した暑さ指数）過去５年分（2020年～2024年）について、本工事の工期に対応する期間（行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号）に定める行政機関の休日及び夏季休暇（３日）を除く。）において、８時から１７時の間にWBGT値が３１以上となった時間を算定し、日数に換算したもの５年分を平均したもの。
ⅲ）気象状況により工期中に発生した猛暑による作業不能日数（当該現場における定時の現場作業時間において、環境省が公表する関東地方_埼玉県_◆◆地点におけるWBGT値が３１以上となり、かつ受注者が契約工事単位で全作業を中断し、又は現場を閉所した時間を算定し、日数に換算したもの（小数点以下第一位を四捨五入する。））がｉ）の日数から著しく乖離した場合には、受注者は発注者へ工期の延長変更を協議することができる。

Ⅰ．工事概要

1.工事場所　上尾市東町3丁目2020-1

2.建物概要

建物名称	構造	階数	延べ面積(㎡)	消防法施行令別表第一	施設の分類	備考
ポンプ棟	RC造	地上２階	1802.06	（15）	特定の施設	
		地下２階				

3.工事種目（● 印の付いたものを適用し、○ 印の付いたものは適用しない。）

建物別及び屋外 / 工事種目	工事種別 ポンプ棟				屋外
○ 受変電設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式
● 電灯設備	● 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
● 動力設備	● 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○ 雷保護設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○ 電力貯蔵設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○ 発電設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○ 構内情報通信網設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
● 構内交換設備	● 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○ 情報表示設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○ 映像・音響設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
● 拡声設備	● 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○ 誘導支援装置	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○ テレビ共同受信設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○ 監視カメラ設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○ 防犯・入退室管理設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○ 火災報知設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○ 中央制御監視設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式
○	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式
○ 構内配電線路	○	○	○	○	○ 一式
○ 構内通信線路	○	○	○	○	○ 一式
○	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式

4.指定部分　●　無　　○　有　（対象部分　　　　　　　　　　　　）
指定部分工期　　　年　　月　　日

Ⅱ．工事仕様

1.共通仕様
工事発注に関する説明事項書(質疑に対する回答書を含む)、本特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべ**て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和7年版)」(以下、「標準仕**様書」という。)、「公共建築改修工事標準仕様書(電気工事編)（令和7年版）」(以下、「改修工事標準仕様書」という。）及び「公共建築設備工事標準図(電気設備工事編)(令和7年版)」（以下、「標準図」という。）による。

2.特記仕様
章、項目及び特記事項共に、● 印の付いたものを適用し、○ 印のものは適用しない。

章	項目	特記事項
● 一般事項	● 電気工作物の種類	● 事業用電気工作物(自家用電気工作物)　○ 一般用電気工作物
	● 電気保安技術者	本工事現場に置く電気保安技術者は、埼玉県自家用電気工作物保安規程第三条に定める工事管理者(　　　　　　　)の任命する監督職員の職務を補佐し、電気工作物の保安業務を行うものとする。
	● 施工従事者	電気工作物においては法令で定める電気工事士とする。契約電力 500kW以上の電気工作物においても、第一種電気工事士により施工を行うものとする。
	○ 化学物質を放散させる建築材料等	1.本工事の建物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の1)から4)を満たすものとする。 1)合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 2)接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 3)接着剤は、可塑剤(フタル酸ジ－n－ブチル及びフタル酸ジ－2－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く)が添加されていない材料を使用する。 4) 1)の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。 2.設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分においては、「規制対象外」とは、次の1)又は2)に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の3)又は4)に該当する材料を指す。 1)建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 2)建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 3)建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 4)建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
	○ 適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には、次の条件を用いる。 ○ 風圧力 風速 (Vo=　　m/s) 地表面粗度区分 (○Ⅰ　○Ⅱ　○Ⅲ　○Ⅳ) ○ 積雪荷重 建設省告示第1455号における区域　別表 (　　　　)
	○ 材料・機材の品質等	1.本工事に使用する材料・機材等は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 2.下記の表に機材名が記載された製造業者等は、次の 1)から 6)までの全ての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承諾を受ける。ただし、製造業者名等が記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。 1)品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 2)生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 3)安定的な供給が可能であること。 4)法令等で定めがある場合は、その許可、認可、認定又は免許を取得していること。 5)製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 6)販売、保守等の営業体制が整えられていること。

（表）

	機材等
●	LED照明(一般屋内用に限る。)
○	照明制御装置
○	可変速運転用インバータ装置
●	分電盤
○	制御盤
○	キュービクル式配電盤
○	高圧スイッチギア(CW形)
○	高圧スイッチギア(PW形)
○	高圧交流遮断器
○	高圧進相コンデンサ
○	高圧限流ヒューズ
○	高圧負荷開閉器
○	高圧変圧器(特定機器)
○	交流無停電電源装置
○	太陽光発電装置(パワーコンディショナ及び系統連系保護装置)
○	監視カメラ装置
○	中央監視制御(監視制御装置)

（表記以外に品質等の確認が必要な機材がある場合は記載する。）

章	項目	特記事項
● 一般事項	● 工事用水	構内の既存施設　●　利用できない　○ 利用できる(○ 有償　○ 無償)
	● 工事用電力	構内の既存施設　● 利用できない　○ 利用できる(○ 有償　○ 無償)
	● 監督職員事務所	○ 設ける　● 設けない
	● 工事用仮設物	構内につくることが　● できる　○ できない
	● 官公署等への手続	工事に必要な官公署への手続きは受注者が代行し、速やかに行う。
	● 足場その他	● 別契約の関係受注者が定置したものは、無償で使用できる。 (○ 機械設備工事　● 建築工事　で設置する。) ○ 本工事で設置する。 「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙１「手すり先行工法による足場の組立て等の作業に関する基準」における2の(1)手すり据置き方式又は(2)手すり先行専用足場方式により行う。 ○ 内部足場等 (○　　種 ○　　種) ○ 外部足場等 (○　　種 ○　　種)
	● 総合試運転調整	● 本工事 ○ 別途 調整項目（確認方法等は監督職員の指示による。） ○ 受変電設備設備及び発電設備の停復電による連動動作等の確認 ○ 火災報知設備と連動する防火戸、ダンパー等の連動動作等の確認
	● 工事写真	国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「営繕工事写真撮影要領(令和5年版)」による。
	● 設計図CADデータ	設計図CADデータ　：　● 貸与する　○ 貸与しない 貸与する設計図CADデータを当該工事の施工図または完成図の作成以外の目的に使用してはならない。

章	項目	特記事項
● 一般事項	○ 電子納品	1.本工事は、電子納品の対象工事である。 電子納品は、「埼玉県電子納品運用ガイドライン 令和7年4月 県土整備部・都市整備部」（以下、「ガイドライン」という。）に基づいて行う。 2.工事完成検査時には、（一財）建設技術センター（以下、「センター」という。）から発行される「電子媒体(副本)納品事前受付書」を携行すること。 3.工事完成検査後は、速やかに電子媒体1部と「電子媒体(副本)納品事前受付書」をセンターに送付すること。その後、センターから発行される「電子媒体(副本)受領書」を監督職員に提出すること。なお、電子成果品は工事請負契約書第45条の対象とし、電子データに不備が確認された場合は、受注者は修正作業を行わなければならない。 4.「ガイドライン」の解釈に疑義がある場合は、監督職員と協議の上で決定すること。
	● 完成時の提出図書等	工事完成時の提出図書等は以下のものとする。

提出図書等	仕様		部数
● 完成図面	○ 図面(A1版)折りたたみ製本 ● 図面(A3版)見開き製本	サイズ ● A4版 / ○ 版	● 1 部 ○ 部
● 工事関係図書	本工事中に作成した工事関係書類等をまとめたもの		● 1 部 ○ 部
● 完成写真	○ キャビネ版 ○	撮影箇所 ○ 箇所 / ○ 箇所	● 1 部 ○ 部
● 保全に関する資料	○ 建築物等の利用に関する説明書 ● 機器取扱い説明書 ○ 機器性能試験成績書 ○ 官公署届出書類 ● 総合試運転調整報告書 建築物等の利用に関する説明書は「建築物等の利用に関する説明書作成の手引き」に基づき作成すること。		● 1 部 ○ 部
● 電子成果品	電子納品による		● 3 部 ○ 部

章	項目	特記事項
	○ 引渡しを要するもの	○　なし　○　あり(　　　　　　　　　　) 特別管理産業廃棄物　○ なし　○ あり(PCB使用機器:　　　　　) PCB使用機器は関係法令により適切に処理し、建物管理者に引き渡す。
	● 建設副産物の処理等	1.共通事項 1)　「建設リサイクル法関係」に基づき、本工事に係る「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を「建設副産物情報交換システム（コブリス・プラス）」により作成し、施工計画書に含め各1部提出すること。 また、計画の実施状況(実績)については、「再生資源利用実施書」及び「再生資源利用促進実施書」並びに「建設副産物情報交換システム工事登録証明書」を同システムにより作成し、各1部提出するとともに、これらの記録を工事完成後一年間保存しておくこと。 ◎作成対象工事 「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」は請負金額が、「再生資源利用実施書」及び「再生資源利用促進実施書」並びに「建設副産物情報交換システム工事登録証明書」は最終請負金額が100万円以上の全ての工事について建設資材の利用、建設副産物の発生・搬出の有無にかかわらず作成する。 2)　「建設副産物の処理基準及び再生資材の利用基準」に基づき、建設副産物の処理に先立ち、「建設副産物処理承認申請書」を作成し、監督職員の確認を受け、同申請書を1部提出すること。なお、建設廃棄物の処理を委託する場合は、収集運搬又は処分について許可業者と各々建設廃棄物処理契約を締結し、「建設廃棄物処理委託契約書」を監督職員に提示するとともに、同契約書の写しを同申請書に添付すること。 建設副産物の処理完了後速やかに、「建設副産物処理調書」を作成し、1部提出するとともに、実際に要した処理費等を証明する資料（受入伝票、写真等）を監督職員に提示し確認を受けること。 3)　建設副産物の処理に当たって、産業廃棄物管理票制度に基づく紙マニフェスト方式による場合は、原則として複写式伝票のＤ票及びＥ票を提示すること。 また、電子マニフェスト方式による場合は、原則として廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき指定された情報処理センターが発行する当該工事のマニフェスト情報を提示すること。 2.建設発生土 1)指定(A)(工事間利用)の場合 本工事により発生する建設発生土のうち、下記に示す建設発生土については、工事間利用を図るものとし、下記指定地に搬出すること。 ア　搬出先(相手先工事名、場所等)　　　工事　　市　　町地先 イ　土質及び処理量　　　第　種建設発生土　　m³ ウ　搬出時期　　年　　月　～　　年　　月 なお、搬出手続き等は監督職員の指示によること。 2)指定(A)(その他)の場合 建設発生土(　　　m³)は、　　　　地先に搬出するものとする。 なお、詳細については監督職員の指示によるものとすること。 3)指定(B)の場合 建設発生土(　　　m³)は、片道運搬距離　　kmに搬出するものとする。 3.路盤廃材 本工事により発生する 路盤廃材(　　　t)は　　市　　　町地先、片道運搬距離　　kmの　　に運搬し、処理するものとする。 4.建設廃棄物 本工事により発生する 1)アスコン塊（　　t）は　　市　　町地先、片道運搬距離　kmの （※ 中間処理場 ・ 最終処分場）　　に運搬し、処理するものとする。 2)コンクリート塊（　　t）は　　市　　町地先、片道運搬距離　kmの （※ 中間処理場 ・ 最終処分場）　　に運搬し、処理するものとする。 3)建設発生木材（　　t）は　　市　　町地先、片道運搬距離　kmの （※ 中間処理場 ・ 最終処分場）　　に運搬し、処理するものとする。 4)建設汚泥（　　t）は　　市　　町地先、片道運搬距離　kmの （※ 中間処理場 ・ 最終処分場）　　に運搬し、処理するものとする。 5)　　（　　）は　　市　　町地先、片道運搬距離　kmの （※ 中間処理場 ・ 最終処分場）　　に運搬し、処理するものとする。 6)　　（　　）は　　市　　町地先、片道運搬距離　kmの （※ 中間処理場 ・ 最終処分場）　　に運搬し、処理するものとする。 7)　　（　　）は　　市　　町地先、片道運搬距離　kmの （※ 中間処理場 ・ 最終処分場）　　に運搬し、処理するものとする。 なお、運搬に先立ち受け入れ条件等を確認し、監督職員に報告するものとする。 工事発注後、事情により上記の指定処理により難い場合は、監督職員と協議するものとする。

章	項目	特記事項
● 一般事項		5.再生処理土 1)指定(A)(工事間利用)の場合 本工事により再生処理した処理土のうち、下記に示す処理土については、工事間利用を図るものとし、下記指定地に搬出すること。 ア　搬出先(相手先工事名、場所等)　　　工事　　市　　町地先 イ　土質及び処理量　　　第　種建設発生土　　m³ ウ　搬出時期　　年　　月　～　　年　　月 なお、搬出手続き等は監督職員の指示によること。また、建設汚泥の再生利用にあたっては、平成18年6月12日付国土交通事務次官通知「建設汚泥の再生利用に関するガイドライン」等に基づき、適正に処理すること。 留意事項 1.利用先の確保 建設発生土情報交換システム(コブリス・プラス)を活用して、建設発生土と同様、積極的に工事間流用により利用先の確保に努める。 2.中間処理施設の選定 中間処理施設の選定に当たっては、利用先の品質要件にあう発生処理土を確保するため、他の残土と混ざらないようにいかに再生処理できるかが大きな要素となる。このため、経済性を含めて総合的に判断する必要がある。 また、リサイクル原則化ルールに基づき、建設副産物情報交換システム(コブリス・プラス)の登録処理業者を活用して、50km範囲で検索する。 3.品質・安全性の確保 処理土の品質・安全性を確認するため、土質試験、土壌分析試験などを行う。 4.一時保管 利用先との工程調整のため一時保管する場合には、廃棄物処理法等の手続きが必要となるので注意する。
	○ 建設発生土の処理	○　埋め戻し後の建設発生土は、監督職員が指示する構内の場所に敷きならしとする。 ○
	● 環境への配慮	1.埼玉県で定める「環境配慮物品調達方針」に基づき環境に配慮した物品を優先的に使用する。 2.「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」の特定調達品目の判断基準は「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」(令和7年1月28日変更閣議決定)による。 3.環境物品等の調達の推進に関する基本方針における公共工事の配慮事項(「資材(材料及び機材を含む）の梱包及び容器は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。」)に留意すること。
	● 環境対策	建設機械は、排出ガス対策型、低騒音型の建設機械を使用すること。
	● 化学物質の濃度測定	○　施工完了時に室内空気中の揮発性有機化合物の濃度を測定し、報告すること。 ○　ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン ○　パラジクロロベンゼン（用途が学校の場合、上記項目に追加する。） 測定はパッシブ型採集機器により行う。 着工前の測定　○ 行わない　○ 行う 測定対象室　○ 図示　○ (　　　　　　) 測定個所数　○ 図示　○ (　　　　　　) 測定値が厚生労働省指針値を超えた場合は、換気後再測定し報告書を提出すること。
	● 保険	本工事については、工事目的物及び工事材料を次に示す内容で火災保険、組立保険その他の保険に附すること。 1)被保険者　発注者、受注者及びその全下請負人 2)保険金額　請負代金全額 3)保険期間　工事着手のときから工事引渡しまでの期間 なお、保険契約を締結したときは、その証券又はこれに代わるものを直ちに監督職員に提示すること。
	● 工事実績情報の登録	本工事の最終請負代金(消費税込)が500万円以上となる場合には、工事実績情報システム(コリンズ)に基づき、工事実績データを作成する。 また、作成した内容について監督職員の確認を受けた後、以下に示す期間内に(一財)日本建設情報総合センターに所定の手続により登録するとともに、登録内容確認書の写しを提出する。 1)工事受注時　契約締結後10日以内 2)登録内容の変更時　契約事項の確定日から10日以内 3)工事完成時　工事完成後10日以内
	● 工事現場管理	受注者は、工事の施工にあたっては、次の事項を遵守すること。 1)不法・違反無線局(不法パーソナル無線)を設置したトラック、ダンプカー等を工事現場に立ち入らせないこと。
	● 過積載による違法運行の防止	受注者は、工事の施工にあたっては、次の事項を遵守すること。 1)積載重量制限を超過して土砂を積み込まず、また積み込ませないこと。 2)さし枠装着車、不表示車等に土砂を積み込まず、また積み込ませないこと。 3)過積載車両、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受けるなど、過積載を助長することのないようにすること。 4)取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行い、又はさし枠装着車、不表示車等を土砂運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。 5)建設発生土の処理及び骨材等の購入にあたって、下請事業者及び骨材等納入者の利益を不当に害することのないようにすること。 6)以上のことにつき、下請業者にも十分指導すること。
	● 創意工夫等の実施	受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫に関する項目、又は地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに所定の書式により提出することができる。
	● 安全対策	受注者相互の緊密な連絡調整を図り、協力して工事を安全円滑に実施することを目的とする「工事関係者連絡会議」を設置すること。 発注者で組織する安全対策委員会が行う安全審査、施工条件検討、安全点検等に協力すること。
	● 他工事との取合い	別表1による。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	電気設備工事特記仕様書 (1)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	―	図面番号	AE-01
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

章	項目	特記事項
● 一般事項	○ 中間検査	○中間検査を実施する。 (回数　　回、　実施時期　　　　　　　　　　　工事完了時) 中間検査の範囲 (　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)
	○ 中間検査の対象工事	本工事が、低入札価格調査制度調査対象工事(以下「調査対象工事」という。)に該当した場合は、埼玉県建設工事検査要綱(検査の区分を規定)及び中間検査実施細則(中間検査実施区分を規定)の定めに関わらず中間検査の指定対象工事として、中間検査を実施する。 1)調査対象工事の中間検査の実施は、「中間検査実施細則」に関わらず原則として2ケ月に1回、隔月ごと、及び主要工種を考慮し施工上の変化点等で行うが、実施時期は監督職員が指定する。なお、検査日及び検査監氏名は別途通知する。 2)中間検査は、通知日までに完了した出来形部分の出来形確認及び技術的確認等を行うが、給付の対象としない。
	○ 条件明示項目	○　施工可能期間 月　日～　月　日(期間中も行事等により、短期の施工不能日あり) ○　改修工事の部分使用 月　日までに下記部分について、部分使用するので協力すること。 部分使用箇所(　　　　　　　　　　　　　　　　　　)
	○ 施設点検	本工事完成(「工事目的物の引渡し」を行った日)後、1年目及び2年目に関係者(営繕課、工事監理事務所、施設管理者、受注者)による施設点検(不具合の有無を確認し、その処理について協議)を行うので、当課からの依頼により施設点検に立会い協力するものとする。
	○ その他	本工事に含まれる建築工事、機械設備工事は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の標準仕様書(令和7年版)に準拠して行う。 情報システム課が設置した機器(アクセスポイント、サーバラック等)がある場合は、取扱いを監督職員と協議すること。
	○ デジタル工事写真の小黒板情報電子化	デジタル工事写真の小黒板情報電子化は、受発注者双方の業務効率化を目的に、被写体画像の撮影と同時に工事写真における小黒板の記載情報の電子的記入および、工事写真の信憑性確認を行うことにより、現場撮影の省力化、写真整理の効率化、工事写真の改ざん防止を図るものである。 本工事でデジタル工事写真の小黒板情報電子化を行う場合は、工事契約後、監督職員の承諾を得たうえでデジタル工事写真の小黒板情報電子化対象工事(以降、「対象工事」と称する)とすることができる。対象工事では、以下の1)から4)の全てを実施することとする。 1)対象機器の導入 受注者は、デジタル工事写真の小黒板情報電子化の導入に必要な機器・ソフトウェア等(以降「使用機器」と称する)については、営繕工事写真撮影要領２．(３)に示す項目の電子的記入ができること、かつ信憑性確認(改ざん検知機能)を有するものを使用することとする。なお、信憑性確認(改ざん検知機能)は、「電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト(CRYPTREC 暗号リスト)」 URL「https://www.cryptrec.go.jp/list.html」に記載している技術を使用していること。また、受注者は監督職員に対し、工事着手前に本工事での使用機器について提示するものとする。 なお、使用機器の事例として、 URL「http://www.cals.jacic.or.jp/CIM/sharing/index.html」記載の「デジタル工事写真の小黒板情報電子化対応ソフトウェア」を参照されたい。ただし、この使用機器の事例からの選定に限定するものではない。 2)デジタル工事写真における小黒板情報の電子的記入 受注者は、1)の使用機器を用いてデジタル工事写真を撮影する場合は、被写体と小黒板情報を電子画像として同時に記録してもよい。小黒板情報の電子的記入を行う項目は、営繕工事撮影要領２．(３)撮影方法」による。 ただし、対象工事において、高温多湿、粉じん等の現場条件の影響により、対象機器の使用が困難な工種については、使用機器の利用を限定するものではない。 3)小黒板情報の電子的記入の取扱い 本工事の工事写真の取扱いは、営繕工事写真撮影要領に準ずるが、2)に示す小黒板情報の電子的記入については、同要領４．で規定されている写真編集には該当しない。 4)小黒板情報の電子的記入を行った写真の納品 受注者は、2)に示す小黒板情報の電子的記入を行った写真(以下、「小黒板情報電子化写真」と称する。)を、工事完成時に監督職員へ納品するものとする。 なお納品時に、受注者は URL(http://www.cals.jacic.or.jp/CIM/sharing/index.html)のチェックシステム(信憑性チェックツール)又はチェックシステム(信憑性チェックツール)を搭載した写真管理ソフトウェアや工事写真ビューアソフトを用いて、小黒板情報電子化写真の信憑性確認を行い、その結果を併せて監督職員へ「工事打合せ簿」等により提出するものとする。なお、提出された信憑性確認の結果を、監督職員が確認することがある。
● 共通事項	● 金属製露出管路(亜鉛メッキ面)の塗装	●すべて下地処理の後、塗装(調合ペイント2回塗り)を行う。 ○配線室以外の管路は、すべて下地処理の後、塗装(調合ペイント2回塗り)を行う。 ○
	● 厚鋼電線管及び同附属品	電線管外面の仕上げは、　○ 溶融亜鉛メッキ　● 製造者標準　とする。 電線管内面の仕上げは、　○ 溶融亜鉛メッキ　○ 製造者標準　とする。 電線管付属品は、　○ 上記と同等の防食性能を有する防水形　● 標準品　とする。
	○ フロアープレート フロアーカバー	特記あるもの及び特殊なものを除き　○ 砲金製　○ アルミ合金製　○ ステンレス製 〃　　○ 水平高低調整式(空転防止リング付) OA用インナーコンセント　　○ 樹脂製　○ アルミ合金製
	○ フラッシュプレート	特記あるもの及び特殊なものを除き　○ 樹脂製　○ アルミ合金製　○ ステンレス製
	○ 呼び線	長さ1m以上の入線しない管路には、1.2mm以上のビニール被覆鉄線を挿入する。
	○ 保温・結露防止	建築工事にてFP板(スタイロホーム等)打ち込みの箇所に取付ける位置ボックス等は、保温、結露防止処理を行う。
	○ 合成樹脂製可とう電線管	合成樹脂製可とう電線管(PF)は、一重管とする。
	● 屋外プルボックス	●　溶融亜鉛メッキ製　○　ステンレス製　　防水形とする。
	● はつり	既存のコンクリート床、壁などの配管貫通部の穴開けは、原則としてダイヤモンドカッタによる。
	● 既存躯体への穿孔	穿孔機械を使用し既存躯体に穿孔する場合は、金属の探知により電源供給が停止できる付付属装置等を用いて施工する。
	● 再使用機器	取り外し再使用機器は、清掃および絶縁抵抗測定のうえ取り付けを行う。ただし、絶縁劣化等により再使用に耐えない場合は、監督職員に報告する。
	○ 耐震措置	設備機器の固定は、次に示す事項を除き「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」(独立行政法人建築研究所監修)による。 1)設計用水平地震力 機器の重量(kN)に、設計用標準水平震度を乗じたものとする。なお、特記なき場合、設計用標準水平震度は、次による。

● 共通事項

設計用標準水平震度

設置場所	機器種別	特定の施設 重要機器	特定の施設 一般機器	一般の施設 重要機器	一般の施設 一般機器
上層階、屋上及び塔屋	機器	2.0	1.5	1.5	1.0
	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5
	水槽類	2.0	1.5	1.5	1.0
中間階	機器	1.5	1.0	1.0	0.6
	防振支持の機器	1.5	1.5	1.5	1.0
	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6
地階・1階	機器	1.0	0.6	0.6	0.4
	防振支持の機器	1.0	1.0	1.0	0.6
	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6

【備考】・上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階縦の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階とする。
・中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの
・水槽類に燃料小出槽を含む。

重要機器は次のものを示す。
● 配電盤　○ 発電装置(防災用)　○ 直流電源装置
○ 交流無停電電源装置　○ 交換機　○ 自動火災報知受信機
○ 中央監視装置　○

2)設計用鉛直地震力
設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。

項目	特記事項
● 工事前の絶縁抵抗測定	改修する回路の絶縁抵抗は、比較のため工事の前後で測定すること。
● 施工調査	事前調査　● 本工事　○ 別途 調査項目　● 既存資料調査　○ 調査範囲　○ 図示　○ 調査方法　○ 図示　○ ●　はつり工事は、事前に走査式埋設物調査を行い、監督職員に報告を行う。

○ 受変電設備

項目	特記事項
○ 電気方式	高圧　○ 三相3線式　6kV 低圧　○ 三相3線式　200V　○ 三相　線式　V ○ 単相3線式　200V/100V　○ 単相　線式　V
○ 主遮断機	○ CB形(5サイクル以内)　○ PF-S形
○ 設備容量	変圧器総容量　kVA　(うち本工事に係るもの　kVA)
○ 進相コンデンサ	○ 高圧　kVar　○ 低圧　自動力率制御(　○ あり　○ なし)
○ 配電盤	○ 屋内形　○ 屋外形
○ 絶縁ゴムマット	W1000×10t×L
○ その他	1)変圧器は　○ 油入形　○ モールド形　変圧器とする。 2)高圧交流負荷開閉器(LBS)はストライカ式とする。 3)変圧器のB種接地線には、漏電警報器(ELR)を設置する。 4)DS・LBS等の充電部が露出する機器には、十分な強度を有する透明アクリル板保護扉を設ける。

● 電灯設備

項目	特記事項
● 電気方式	幹線　● 単相3線式　200V/100V　○ 直流2線式　100V 分岐　● 単相2線式　100V　○ 直流2線式　100V ● 単相2線式　200V
○ ハイテンションアウトレット	○ 外部固定式　○ 内部固定式　○ 回転形又は上下動形　○ アップ形
○ 非常照明器具	○ 電池内蔵形　○ 電池別置形
● 配線器具	● タンブラスイッチは　○ ワイド形　● 大角形 ● 壁付コンセントは(2口は複式で可)　○ ワイド形　● 大角形
○ 非常用の照明装置の照度測定箇所数	測定数 ： 監督職員の指示による。
● 配電盤	● 自立型　○ 壁掛型

● 動力設備

項目	特記事項
● 電気方式	幹線　○ 三相3線式　200V　○ 相　線式　V 分岐　● 三相3線式　200V　○ 相　線式　V
○ 機器への接続	本工事制御盤より別途電動機等への配線接続は　○ 本工事　○ 別途工事

● 放送・インターホン設備

項目	特記事項
● 配線方式	● 金属管配線　● 合成樹脂管配線　○ 金属線ぴ配線 ● ケーブル配線　〔○ ラック　● コロガシ　〕
● 増幅器	○ 一般放送用　● 一般・業務兼用　(既設増幅器　15回線　60W　再利用　)
● インターホン	● 親子式　○ 相互式　○ 複合式　(既設10回線親子式　再利用　) ○ 電話機内臓
● その他	既設MDFの撤去・再取付を本工事に含む。

○ 構内通信線路

項目	特記事項
○ 配線方式	○ 地中線式　○ 架空線式
○ 地中線路の余長	マンホール、ハンドホール内で各系統2箇所以上(1巻程度)ケーブルの余長を設ける。
○ 地中管の材質	○ 厚鋼電線管(防食テープ1/2重ね2回巻き、4層)　○ 波付硬質ポリエチレン管 ○ 防水鋳鉄管 ※防食テープはJIS Z-1901を使用し、地上立ち上がり部分はGL+300mmまでテープ巻きを行う。
○ その他	地中線には、ケーブル埋設標及び埋設標識シートを設ける。 埋設標　○ 鉄製　○ コンクリート製 標識シート　○ (GL-300　○ 2倍折り)

○ その他

項目	特記事項
○ 上ガス対策	○ なし ○ あり(下記による) ○ 自然換気口　○ ガス抜き管　○ 強制換気装置　○ ガス検知器 ○ その他(　　　　　　) ○ 施工にあたって、防災上必要な措置を講じること。

● 別表1

● 接地極

接地極の材料は原則として下記による。
なお、接地棒ＥＢ(14φ)の長さは1,500mm 以上とする。
接地棒ＥＢ(10φ)はW=30mm、L=900mm (測定用は、L=1,000mm) 、接地棒ＥＢ(14φ)は、W=40mm、L=1,200mm としても差し支えない。

	接地の種類	記号	接地抵抗値	接地極
○	共同接地	$E_{A,D}$	10Ω以下	ＥＢ(14φ)×３連－２組
○	共同接地	$E_{A,C,D}$	10Ω以下	ＥＢ(14φ)×３連－２組
○	Ａ種接地	E_A	10Ω以下	ＥＢ(14φ)×３連－２組
○	Ｂ種接地	E_B	150/IΩ以下※	ＥＢ(14φ)×３連－１組
○	Ｃ種接地	E_C	10Ω以下	ＥＢ(14φ)×３連－２組
●	Ｄ種接地	E_D	100Ω以下	ＥＢ(10φ)×１　(Ｌ＝1,500mm)
○	Ｄ種接地	$E_{D(ELB)}$	100Ω以下	ＥＢ(10φ)×１　(Ｌ＝1,000mm)
○	高圧避雷器用	E_{LA}	10Ω以下	ＥＢ(14φ)×３連－２組
○	交換装置用	E_t	10Ω以下	ＥＢ(14φ)×３連－２組
○	通信用(10Ω)	E_{At}	10Ω以下	ＥＢ(14φ)×３連－２組
○	通信用(100Ω)	E_{Dt}	100Ω以下	ＥＢ(10φ)×１　(Ｌ＝1,000mm)
○	電話引込口の保安器用	E_{Lt}	100Ω以下	ＥＢ(10φ)×１　(Ｌ＝1,000mm)
○	測定用	E_0		ＥＢ(10φ)×１　(Ｌ＝1,000mm) 又は(Ｌ＝900mm、W=30mm)

※　接地抵抗値は、電気事業者と協議のうえ決定すること。

● 機器取付高

図面に記載のなき場合、機器の取付高さは原則として下記による。

名称	測点	取付高(mm)
ブラケット(一般)	床上～中心	2,100
〃 (踊場)	〃	2,500
〃 (鏡上)	鏡上端～中心	150
避難口誘導灯	床上～下端	1,500以上
廊下通路誘導灯	床上～上端	1,000以下
スイッチ(一般)	床上～中心	1,300
〃 (バリアフリートイレ)	〃	1,100
コンセント、電話用アウトレット、テレビ端子(一般)	〃	300
〃 (和室)	〃	150
〃 (台上)	台上～中心	150
コンセント(車庫)	床上～中心	800～1,300
コンセント(車椅子用)	床上～中心	900
取引用計器	地上～窓中心	1,800～2,000
引込開閉器箱(低圧)	地上～中心	1,800～2,200
分電盤、OA盤、制御盤、実験盤	床上～中心	1,500
開閉器箱	〃	1,500 (上端1,900以下)
電磁開閉器用押しボタン	〃	1,300
接地用端子箱	地上、床上～中心	500
雷保護用接地端子箱	床上～下端	800
接地極埋設標	地上～中心	600
給油ボックス(壁掛形)	地上～給油口	1,000
端子盤(EPS・電気室)	床上～中心	1,500
壁付電話機	床上～中心	1,300
親時計	〃	1,500
子時計、スピーカ	〃	(天井高)×0.9
アッテネータ	〃	1,300
出退表示盤	〃	(天井高)×0.9
発信器(出退表示用)	〃	1,300
インターホン	〃	1,300
外部受付用インターホン子機	〃	標準図による
呼出ボタン(バリアフリートイレ)	〃	900、(400)
復帰ボタン(バリアフリートイレ)	〃	1,300
廊下表示灯(バリアフリートイレ)	〃	2,000
テレビ機器収容箱(ＥＰＳ)	〃	1,800
入退室管理装置(カードリーダ、暗証番号入力装置、バイオメトリクス照合装置)	〃	1,300
火報受信機(複合盤)、副受信機	床上～操作部	800～1,500
機器収容箱	〃	800～1,500
発信機	〃	800～1,500
警報ベル	〃	(天井高)×0.9
表示灯	〃	(天井高)×0.8
連動制御器	〃	1,500
自動閉鎖装置(防火戸用)	床上～中心	1,500
ガス漏れ検知器(液化石油ガス)	〃	300
〃 (都市ガス)	天井面～中心	(天井面)－200(壁面取付の場合)

○ 電池別置形

(備考) (天井高)×0.9及び(天井高)×0.8は天井高が2,500～3,000mmの場合に適用する。
注) 天井高3,000mm以上の場合及び上記取付高さでは機器の使用に支障がある場合は、監督職員と協議する。
呼出ボタン(バリアフリートイレ)の取付高さ(400)は床に転倒した時を考慮した高さを示す。

● 別表1(つづき)

● 工事区分表

図面に記載のなき場合、各工事との取り合いは原則として下記による。

	工事内容		建築	電気	機械
開口部	はり、床、壁貫通部	鉄筋補強	●	○	○
		スリーブ、型枠	○	●	●
	埋込形(分電盤、端子盤、プルボックス)	鉄筋補強	●	○	○
	風道、埋込形消火栓ボックス、吹出口、吸込口 換気扇、大便器等	スリーブ、型枠	○	●	●
	軽量鉄骨下地天井、壁ボード類の切り込み	補強とも	●	○	○
		補強のない場合	○	●	●
	スリーブ穴埋め、型枠穴埋め		●	●	●
	鉄骨、PC板等への穴開け、補強、スリーブ入れ(工場加工)		●	○	○
基礎	屋内　配電盤、制御盤、発電機、キュービクル 受水槽、サービスタンク	躯体と一体のもの	●	／	／
		上記以外	○	●	●
	屋外　配電盤、制御盤、キュービクル 受水槽、消化水槽	鉄筋基礎	○	●	●
		無筋基礎	○	○	○
	屋上　テレビアンテナ、避雷針 高架水槽、クーリングタワー、消火栓補給水槽	躯体と一体のもの	●	○	○
		上記以外	○	●	●
	架台、アンカーボルト		○	●	●
点検口	床、天井、壁		●	○	○
	配線ピット、トレンチピット		●	○	○
			／	／	／
配管配線	機器付属の制御盤(接地共)	一次側	○	●	○
		二次側	●	●	●
	制御盤と動力盤の間(接地共)	電源供給	○	●	○
		操作 配管	○	○	○
		回路 配線( )	○	○	○
	天井吊り型FCU及び全熱交換形換気(接地共)	電源供給	○	●	○
		操作 配管	○	○	○
		回路 配線( )	○	○	○
	煙感知器から連動制御盤を経て防火ダンパーに至る配管配線		○	●	○
その他	防油提		●	○	○
	インサート、吊りボルト		●	●	●
	換気扇枠		○	○	○
	外部取り付けギャラリー(ダクト、チャンバー接続フランジを含む)		●	○	○

○ 施工図等の取扱い

施工図等の著作権に係る当該建物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	電気設備工事特記仕様書 (2)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	－	図面番号	AE-02
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

凡　例（改修）

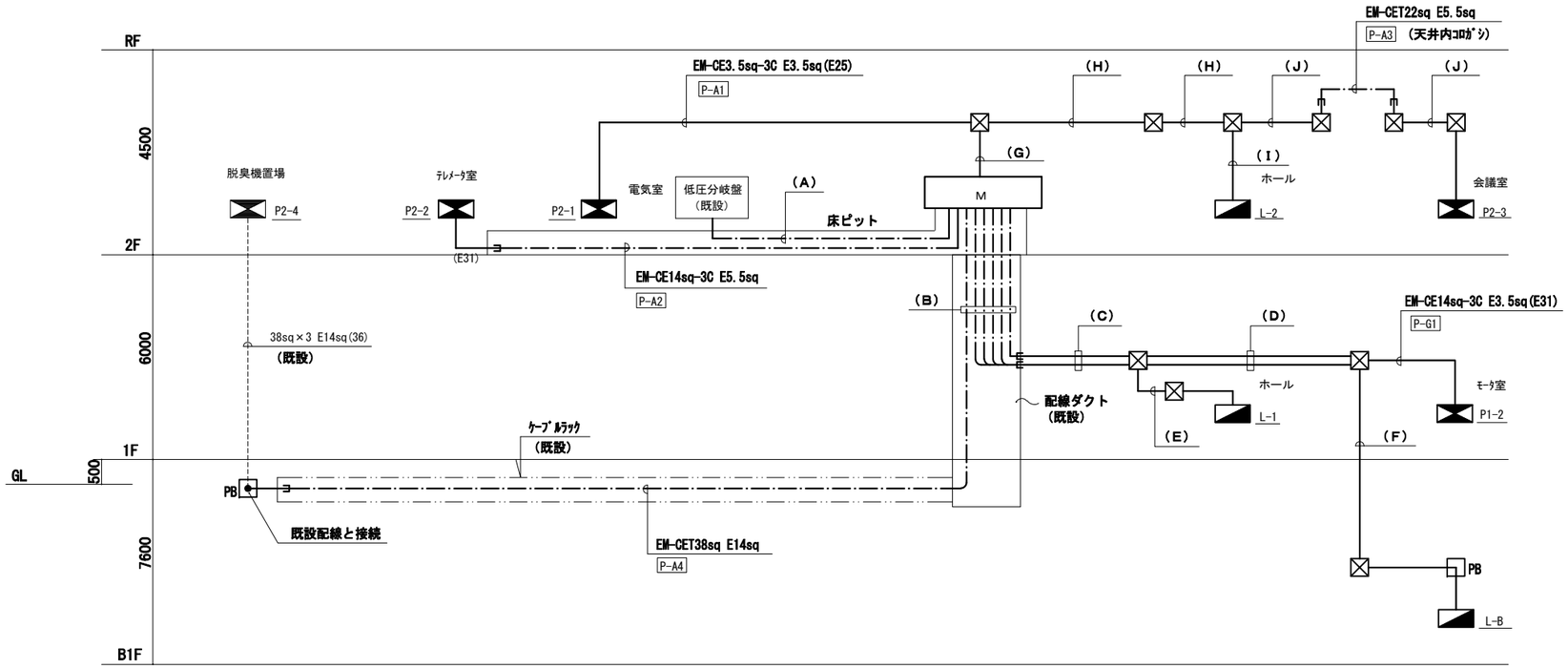
記 号	名　　称		備　　考
M	主開閉器盤	新設	盤単線結線図参照
	動力制御盤	既設	
	電灯分電盤	〃	
———	配管配線（電線管）	新設	
—·—	ケーブル配線	〃	
⊠	プルボックス（鋼製）	〃	
--------	配管配線	既設	
□PB	プルボックス	〃	
No	幹線番号		

幹線表

盤名	幹線No	幹線サイズ	
P2-1	P-A1	EM-CE3.5sq-3C	E3.5sq
P2-2	P-A2	EM-CE14sq-3C	E5.5sq
P2-3	P-A3	EM-CET22sq	E5.5sq
P2-4	P-A4	EM-CET38sq	E14sq
P1-2	P-G1	EM-CE14sq-3C	E3.5sq
L-B	L-A1	EM-CE14sq-3C	E3.5sq
	L-G1	EM-CE3.5sq-2C	
L-1	L-A2	EM-CE8sq-3C	E3.5sq
	L-G2	EM-CE3.5sq-3C	
L-2	L-A3	EM-CE14sq-3C	E3.5sq
	L-G3	EM-CE3.5sq-3C	

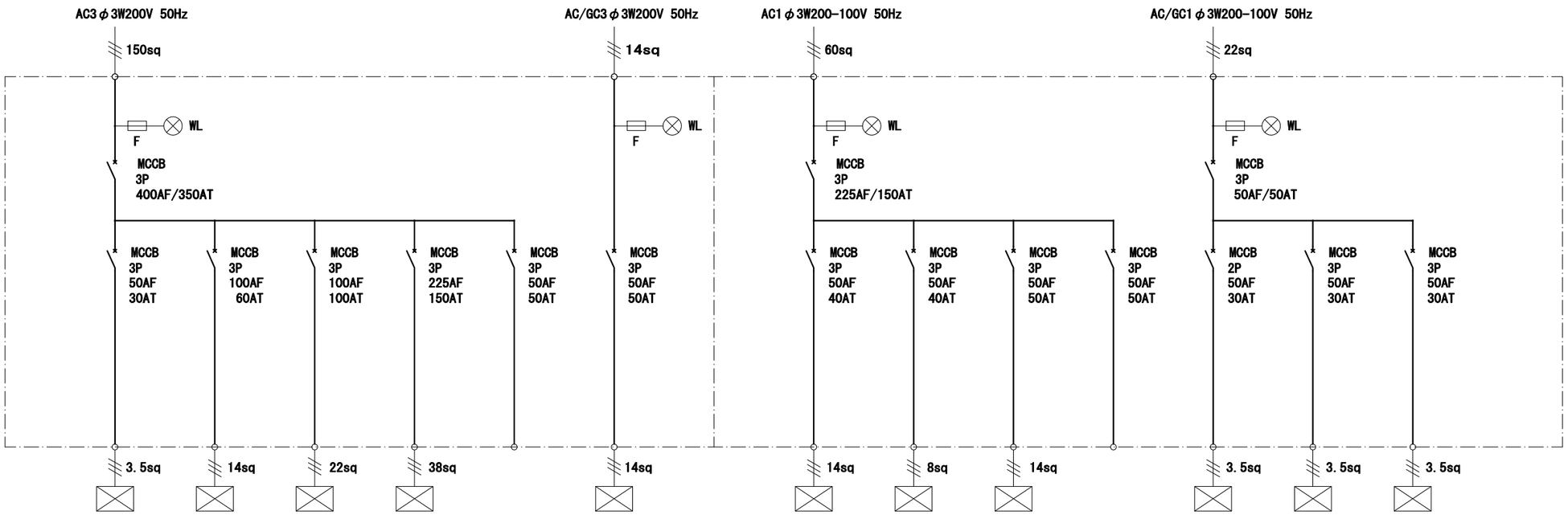
配線表

記号	盤名	配管配線			
(A)		EM-CET150sq	E22sq		AC3φ3W200V
		EM-CE14sq-3C			AC/GC3φ3W200V
		EM-CET60sq		(ﾋﾟｯﾄ)	AC1φ3W200-105V
		EM-CET22sq			AC/GC1φ3W200-105V
	P2-2	EM-CE14sq-3C	E5.5sq		P-A2
(B)	P2-4	EM-CET38sq	E14sq		P-A4
	P1-2	EM-CE14sq-3C			P-G1
	L-B	EM-CE14sq-3C		(配線ﾀﾞｸﾄ)	L-A1
	L-B	EM-CE3.5sq-2C			L-G1
	L-1	EM-CE8sq-3C			L-A2
	L-1	EM-CE3.5sq-3C			L-G2
(C)	P1-2	EM-CE14sq-3C	E5.5sq		P-G1
	L-B	EM-CE14sq-3C			L-A1
	L-B	EM-CE3.5sq-2C		(E63)×2	L-G1
	L-1	EM-CE8sq-3C			L-A2
	L-1	EM-CE3.5sq-3C			L-G2
(D)	P1-2	EM-CE14sq-3C	E3.5sq	(E31)	P-G1
	L-B	EM-CE14sq-3C		(E31)	L-A1
	L-B	EM-CE3.5sq-2C		(E25)	L-G1
(E)	L-1	EM-CE8sq-3C	E3.5sq	(E31)	L-A2
	L-1	EM-CE3.5sq-3C		(E25)	L-G2
(F)	L-B	EM-CE14sq-3C	E3.5sq	(E31)	L-A1
	L-B	EM-CE3.5sq-2C		(E25)	L-G1
(G)	P2-3	EM-CET22sq	E5.5sq	(E51)	P-A3
	L-2	EM-CE14sq-3C		(E51)	L-A3
	L-2	EM-CE3.5sq-3C			L-G3
	P2-1	EM-CE3.5sq-3C		(E25)	P-A1
(H)	P2-3	EM-CET22sq	E5.5sq	(E51)	P-A3
	L-2	EM-CE14sq-3C		(E51)	L-A3
	L-2	EM-CE3.5sq-3C			L-G3
(I)	L-2	EM-CE14sq-3C	E3.5sq	(E31)	L-A3
	L-2	EM-CE3.5sq-3C		(E25)	L-G3
(J)	P2-3	EM-CET22sq	E5.5sq	(E51)	P-A3



幹線系統図（改修）

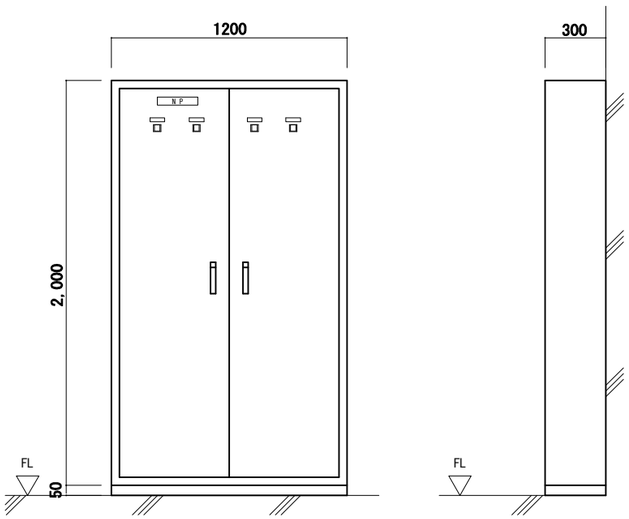
工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	幹線系統図（改修）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	―	図面番号	AE-03
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		



負荷名称	動力制御盤 (電気室給排気ﾌｧﾝ)	動力制御盤 (操作室AC)	動力制御盤 (会議室)	動力制御盤 (ﾎｯﾊﾟｰ室動力)	予　備	動力制御盤 (ﾎﾟﾝﾌﾟ室給排気ﾌｧﾝ他)		電灯分電盤 (地下1階)	電灯分電盤 (1階)	電灯分電盤 (2階)	予　備	電灯分電盤 (地下1階)	電灯分電盤 (1階)	電灯分電盤 (2階)
幹線No	P-A1	P-A2	P-A3	P-A4		P-G1		L-A1	L-A2	L-A3		L-G1	L-G2	L-G3
盤名称	P2-1	P2-2	P2-3	P2-4		P1-2		L-B	L-1	L-2		L-B	L-1	L-2
負荷容量 (kW)	3.0	5.0	—	21.35		4.5		6.73	7.1	9.4		0.18	2.27	3.0

主開閉器盤　M

形式：V(自立型)



正　面　図　　側　面　図

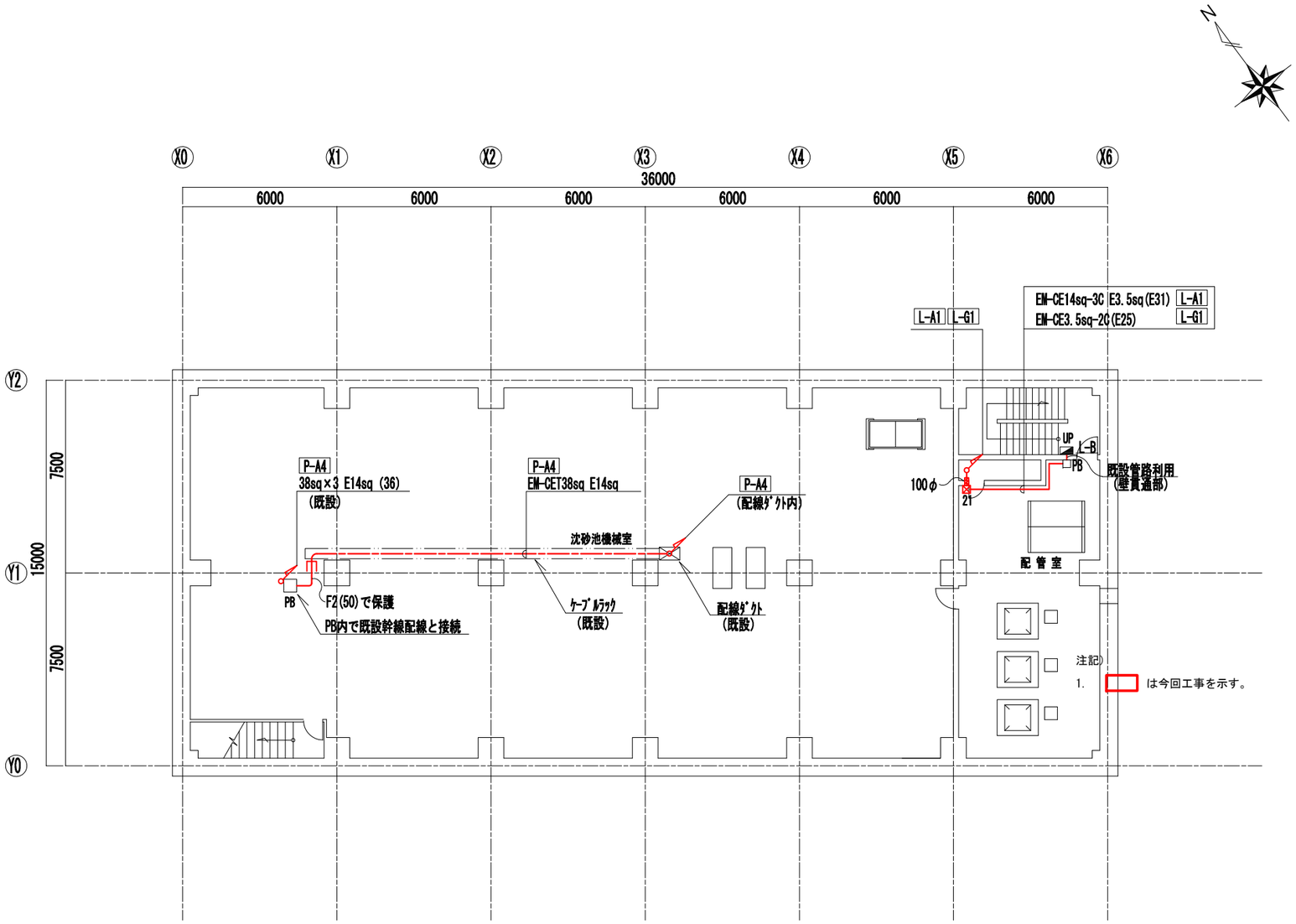
盤姿図（参考）

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	主開閉器盤単線結線図（改修）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	—	図面番号	AE-04
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

凡　例（改修）

記号	名　称		備　考
M	主開閉器盤	新設	盤単線結線図参照
	動力制御盤	既設	
	電灯分電盤	〃	
———	配管配線（露出配管）	新設	
—— —	ケーブル配線（ピット内）	〃	
☒	プルボックス（鋼製）	〃	
▨	はつり補修（壁・床貫通）	〃	レントゲン実施のこと
--------	配管配線	既設	
□PB	プルボックス	〃	
No	幹線番号		

（注記）
1．特記なき配線は系統図（改修）参照
2．特記なきプルボックスは下記による。
☒21　：200×200×150
☒32　：300×300×200



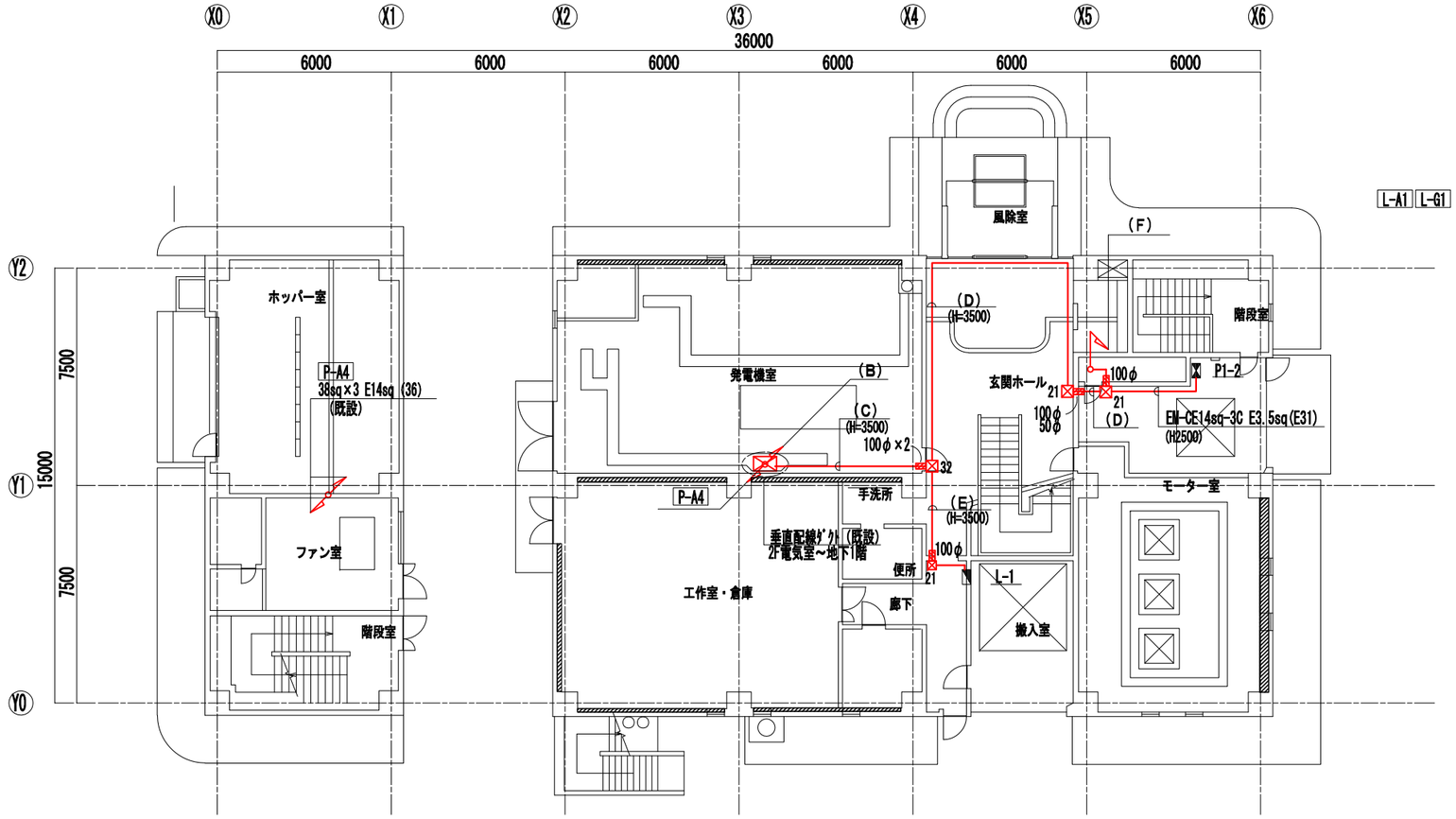
地下1階 平面図［改修後］

注記）
1.　は今回工事を示す。

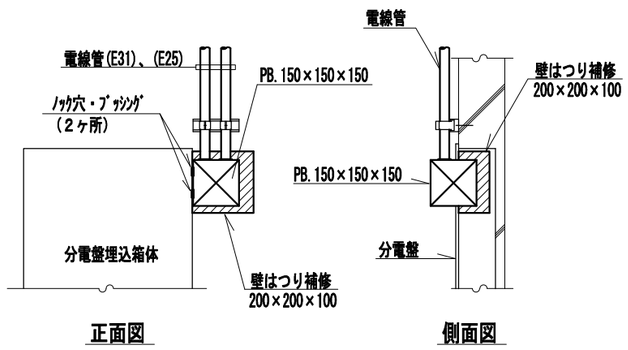
工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	幹線設備地下1階平面図（改修）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	AE-05
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

配線表

記号	盤名	配管配線			
(B)	P2-4	EM-CET38sq	E14sq		P-A4
	P1-2	EM-CE14sq-3C			P-G1
	L-B	EM-CE14sq-3C		(配線ﾀﾞｸﾄ)	L-A1
	L-B	EM-CE3.5sq-2C			L-G1
	L-1	EM-CE8sq-3C			L-A2
	L-1	EM-CE3.5sq-3C			L-G2
(C)	P1-2	EM-CE14sq-3C	E5.5sq		P-G1
	L-B	EM-CE14sq-3C			L-A1
	L-B	EM-CE3.5sq-2C		(E63)×2	L-G1
	L-1	EM-CE8sq-3C			L-A2
	L-1	EM-CE3.5sq-3C			L-G2
(D)	P1-2	EM-CE14sq-3C	E3.5sq	(E31)	P-G1
	L-B	EM-CE14sq-3C		(E31)	L-A1
	L-B	EM-CE3.5sq-2C		(E25)	L-G1
(E)	L-1	EM-CE8sq-3C	E3.5sq	(E31)	L-A2
	L-1	EM-CE3.5sq-3C		(E25)	L-G2
(F)	L-B	EM-CE14sq-3C	E3.5sq	(E31)	L-A1
	L-B	EM-CE3.5sq-2C		(E25)	L-G1



1階 平面図［改修後］



電灯分電盤　電線管接続図（参考）

注記）

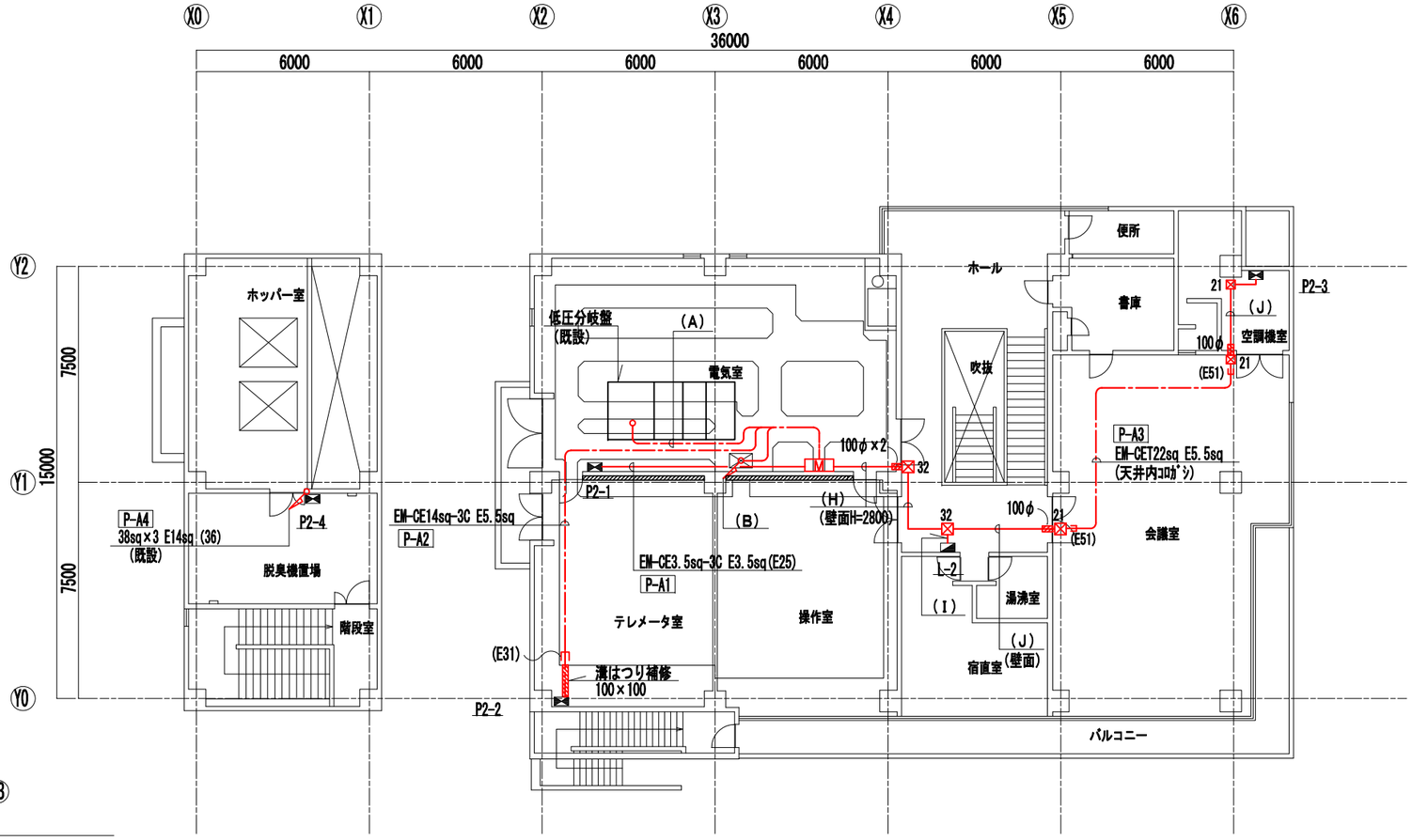
1. ▭ は今回工事を示す。

2. ▨ は耐震補強箇所を示す。

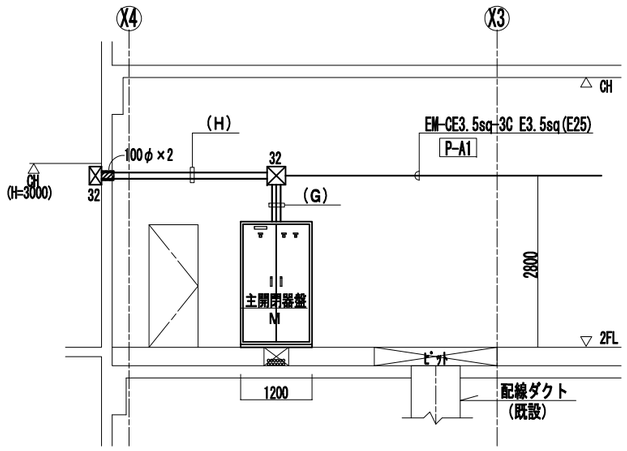
工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	幹線設備1階平面図（改修）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	AE-06
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

配線表

記号	盤名	配管配線				
(A)		EM-CET150sq	E22sq	(ﾋﾟｯﾄ)	AC3φ3W200V	
		EM-CE14sq-3C			AC/GC3φ3W200V	
		EM-CET60sq			AC1φ3W200-105V	
		EM-CET22sq			AC/GC1φ3W200-105V	
(B)	P2-4	EM-CET38sq	E14sq	(配線ﾀﾞｸﾄ)		P-A4
	P1-2	EM-CE14sq-3C				P-G1
	L-B	EM-CE14sq-3C				L-A1
	L-B	EM-CE3.5sq-2C				L-G1
	L-1	EM-CE8sq-3C				L-A2
	L-1	EM-CE3.5sq-3C				L-G2
(G)	P2-3	EM-CET22sq	E5.5sq	(E51)		P-A3
	L-2	EM-CE14sq-3C		(E51)		L-A3
	L-2	EM-CE3.5sq-3C				L-G3
	P2-1	EM-CE3.5sq-3C		(E25)		P-A1
(H)	P2-3	EM-CET22sq	E5.5sq	(E51)		P-A3
	L-2	EM-CE14sq-3C		(E51)		L-A3
	L-2	EM-CE3.5sq-3C				L-G3
(I)	L-2	EM-CE14sq-3C	E3.5sq	(E31)		L-A3
	L-2	EM-CE3.5sq-3C		(E25)		L-G3
(J)	P2-3	EM-CET22sq	E5.5sq	(E51)		P-A3



2階 平面図［改修後］ (1/100)



主開閉器盤 正面図 (1/50)

注記）

1. は今回工事を示す。

2. は耐震補強箇所を示す。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	幹線設備2階平面図（改修）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	図示	図面番号	AE-07
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

凡　例（撤去）

記 号	名　　称		備　　考
	主開閉器盤	撤去	
	動力制御盤	残置	
	電灯分電盤	〃	
――――	配管配線（埋込配管）	撤去	
――――	ケーブル配線	〃	
☒	プルボックス	〃	
--------	配管配線	残置	
□PB	プルボックス	〃	
No	幹線番号		

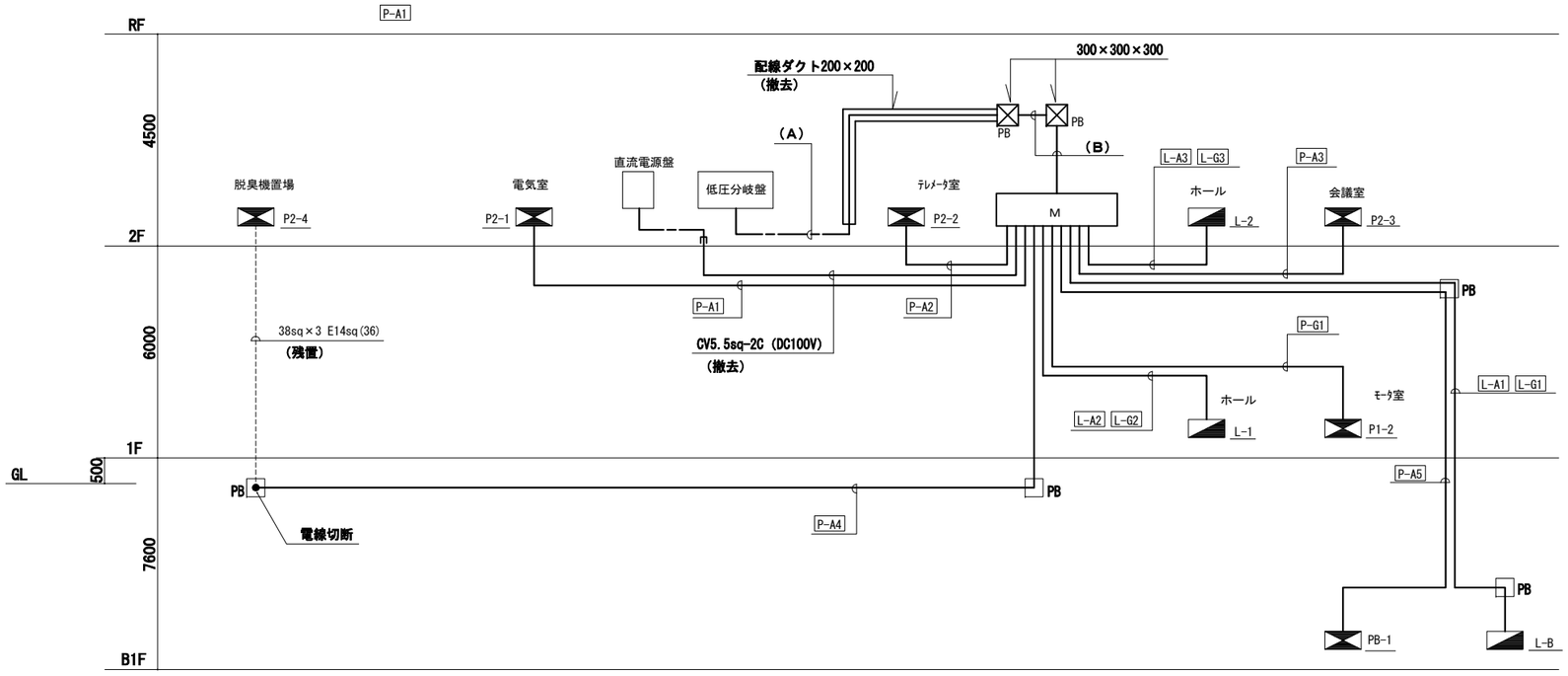
（注記）
1．撤去記載のない電線管はすべて残置とする。

撤去配線表（主開閉器盤一次側電源）

ケーブル		区　間	区間管路	
			（A）	（B）
CVT150sq×2　（撤去）	AC3φ3W200V	低圧分岐盤～主開閉器盤M	ﾋﾟｯﾄ内 ﾀﾞｸﾄ内 （ﾀﾞｸﾄ撤去）	（75）×3 （51）×1 （電線管撤去）
CV 8sq-3C　（〃）	AC/GC3φ3W200V			
CVT 60sq　（〃）	AC1φ3W200-105V			
CVT 38sq　（〃）	AC/GC1φ3W200-105V			

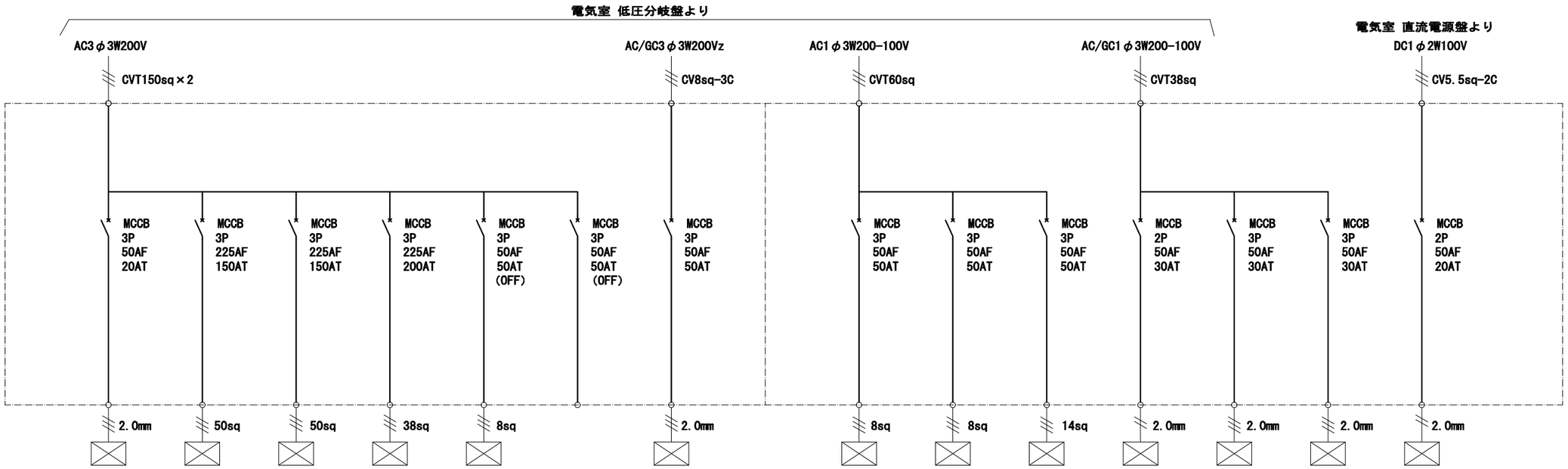
撤去幹線表

幹線No	負　荷　名	配管配線			備　考
P－A1	P２－１	2.0×3 E2.0	（管内）	配線撤去	
P－A2	P２－２	50sq×3 E14sq	（管内）	〃	
P－A3	P２－３	50sq×3 E14sq	（管内）	〃	
P－A4	P２－４	38sq×3 E14sq	（管内）	〃	
P－A5	PB－１	8sq×3 E2.0	（管内）	〃	
P－G1	P１－２	2.0×3 E2.0	（管内）	〃	
L－A1	L－B	8sq×3	（管内）	〃	
L－G1		2.0×2	（管内）	〃	
L－A2	L－1	8sq×3	（管内）	〃	
L－G2		2.0×3	（管内）	〃	
L－A3	L－2	14sq×3	（管内）	〃	
L－G3		2.0×3	（管内）	〃	



幹線系統図（撤去）

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	幹線系統図（撤去）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	－	図面番号	AE-08
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

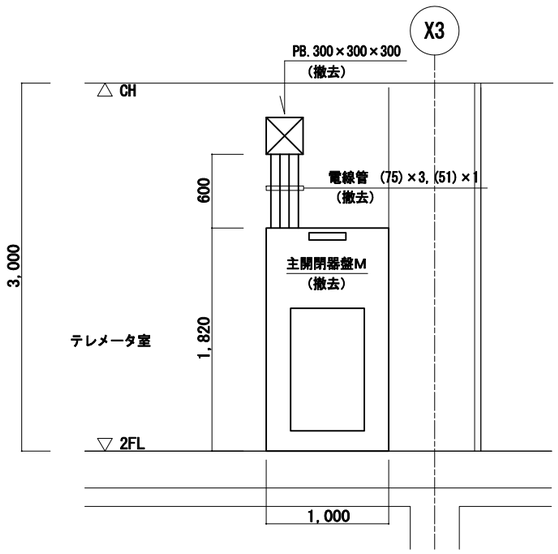


負荷名称	動力制御盤 (電気室給排気ﾌｧﾝ)	動力制御盤 (操作室AC)	動力制御盤 (会議室AC)	動力制御盤 (ﾎｯﾊﾟｰ室動力)	動力制御盤 (揚水ﾎﾟﾝﾌﾟ)	予　備	動力制御盤 (ﾎﾟﾝﾌﾟ室給排気ﾌｧﾝ他)
盤名称	P2-1	P2-2	P2-3	P2-4	PB-1		P1-2
負荷容量 (kW)	3.0	5.0	19.2	21.35	5.2		5.3
			(空調機未使用)		(揚水ﾎﾟﾝﾌﾟ未使用)		

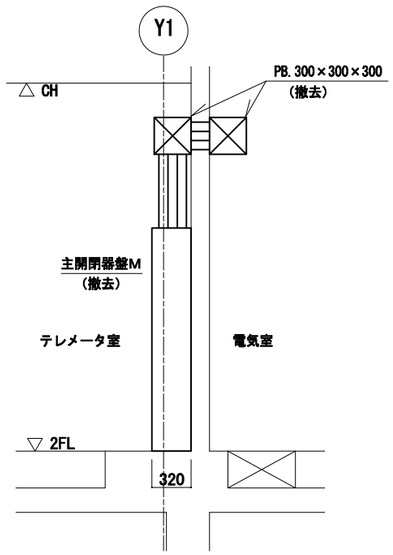
負荷名称	電灯分電盤 (地下１階)	電灯分電盤 (１階)	電灯分電盤 (２階)	電灯分電盤 (地下１階)	電灯分電盤 (１階)	電灯分電盤 (２階)	電灯DC回路
記　号	L-B	L-1	L-2	L-B	L-1	L-2	
負荷容量 (kVA)	6.73	7.1	9.4	0.18	2.27	3.0	

主開閉器盤　M

（撤去）



正面図



側面図

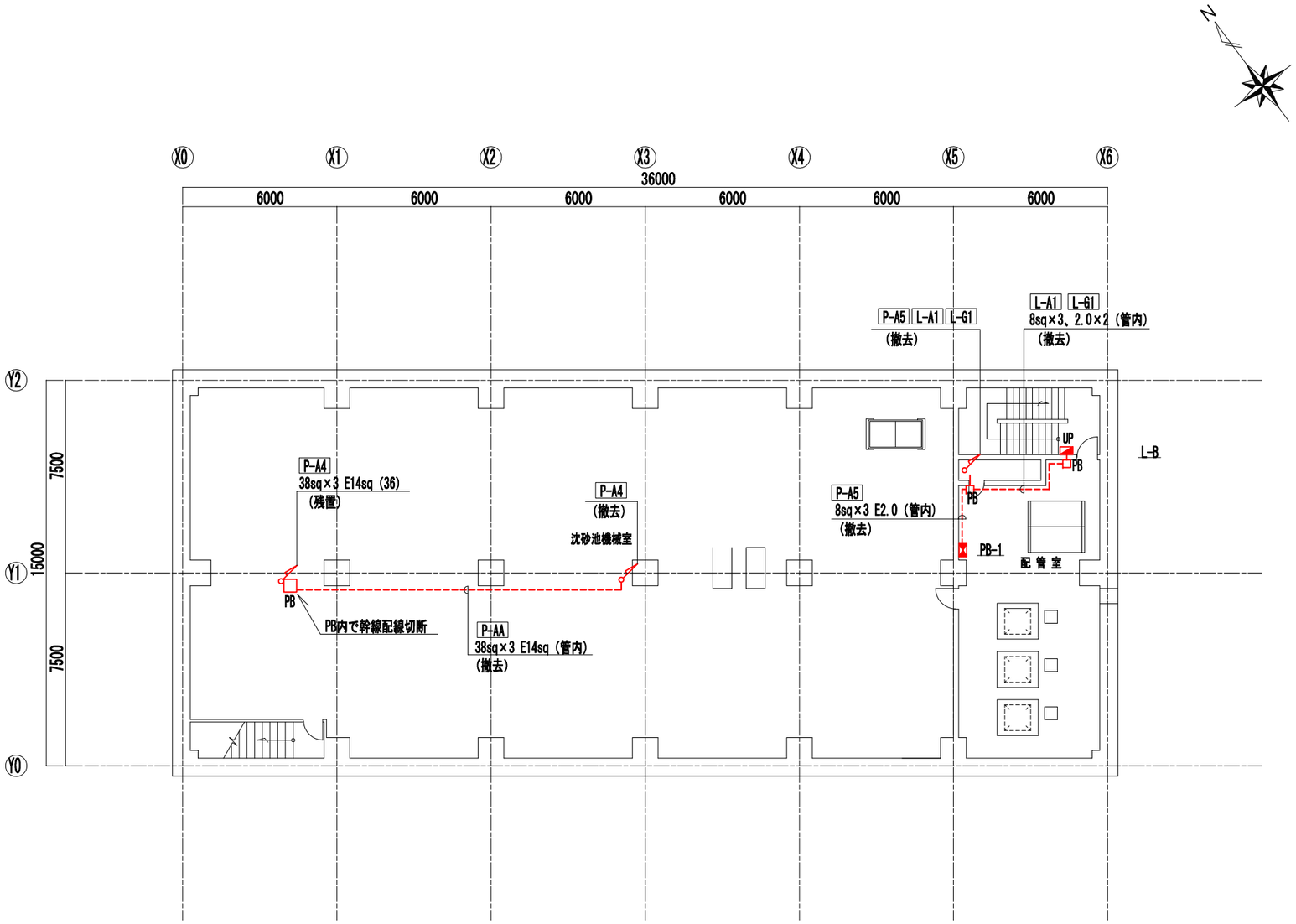
主開閉器盤撤去図 (1/50)

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	主開閉器盤結線図（撤去）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	図示	図面番号	AE-09
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

凡　例（撤去）

記号	名　称		備　考
M	主開閉器盤	撤去	
	動力制御盤	残置	
	電灯分電盤	〃	
———	配管配線（埋込配管）	撤去	
------	配管配線（露出配管）		
—·—·—	ケーブル配線	〃	
⊠	プルボックス	〃	
------	配管配線	残置	
PB	プルボックス	〃	
No	幹線番号		

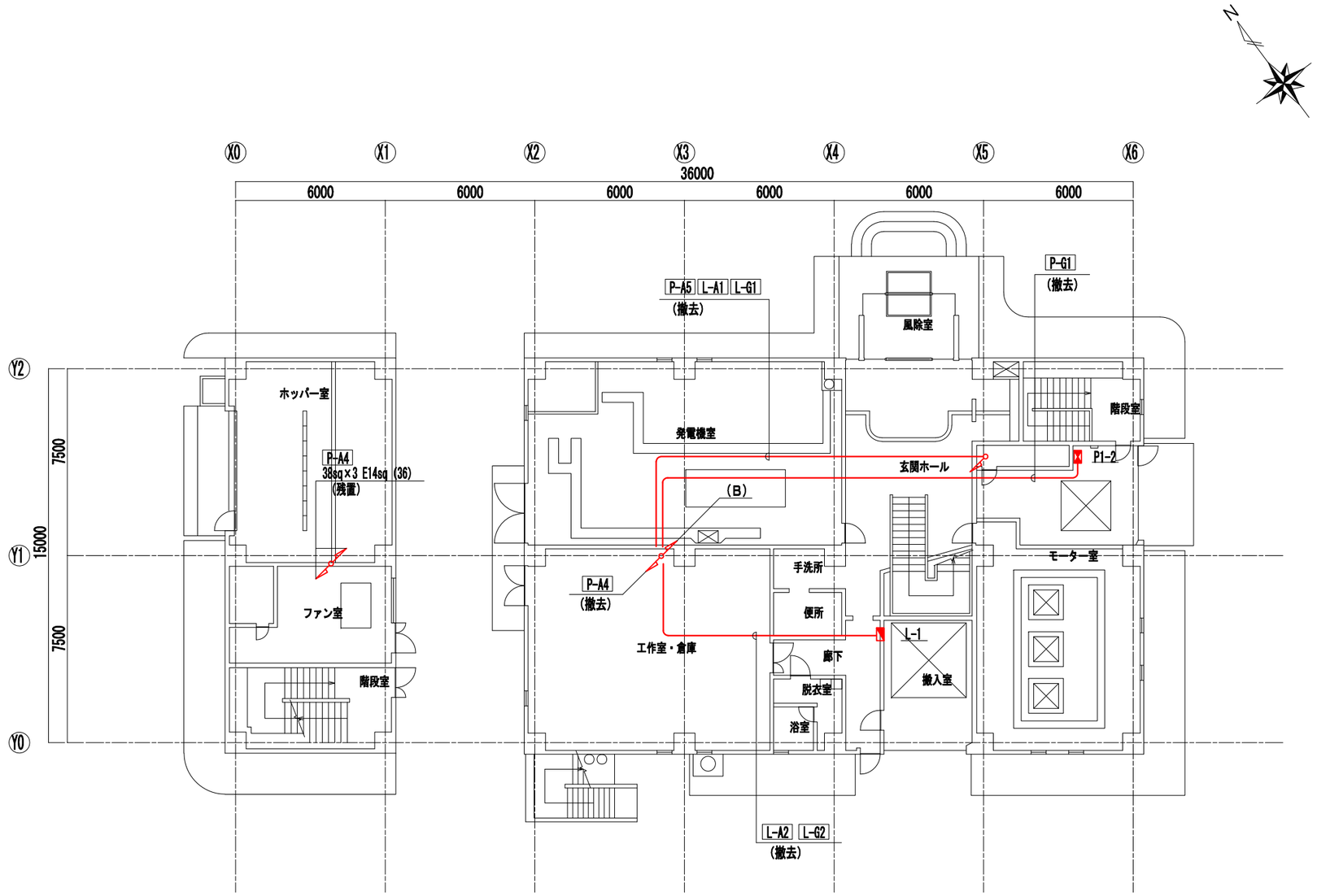
（注記）
1．特記なき撤去配線は系統図（撤去）参照
2．撤去記載のない電線管はすべて残置とする。



地下1階 平面図［改修前］

注記）
1. ▭ は今回工事を示す。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	幹線設備地下1階平面図（撤去）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	AE-10
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		



1階 平面図［改修前］

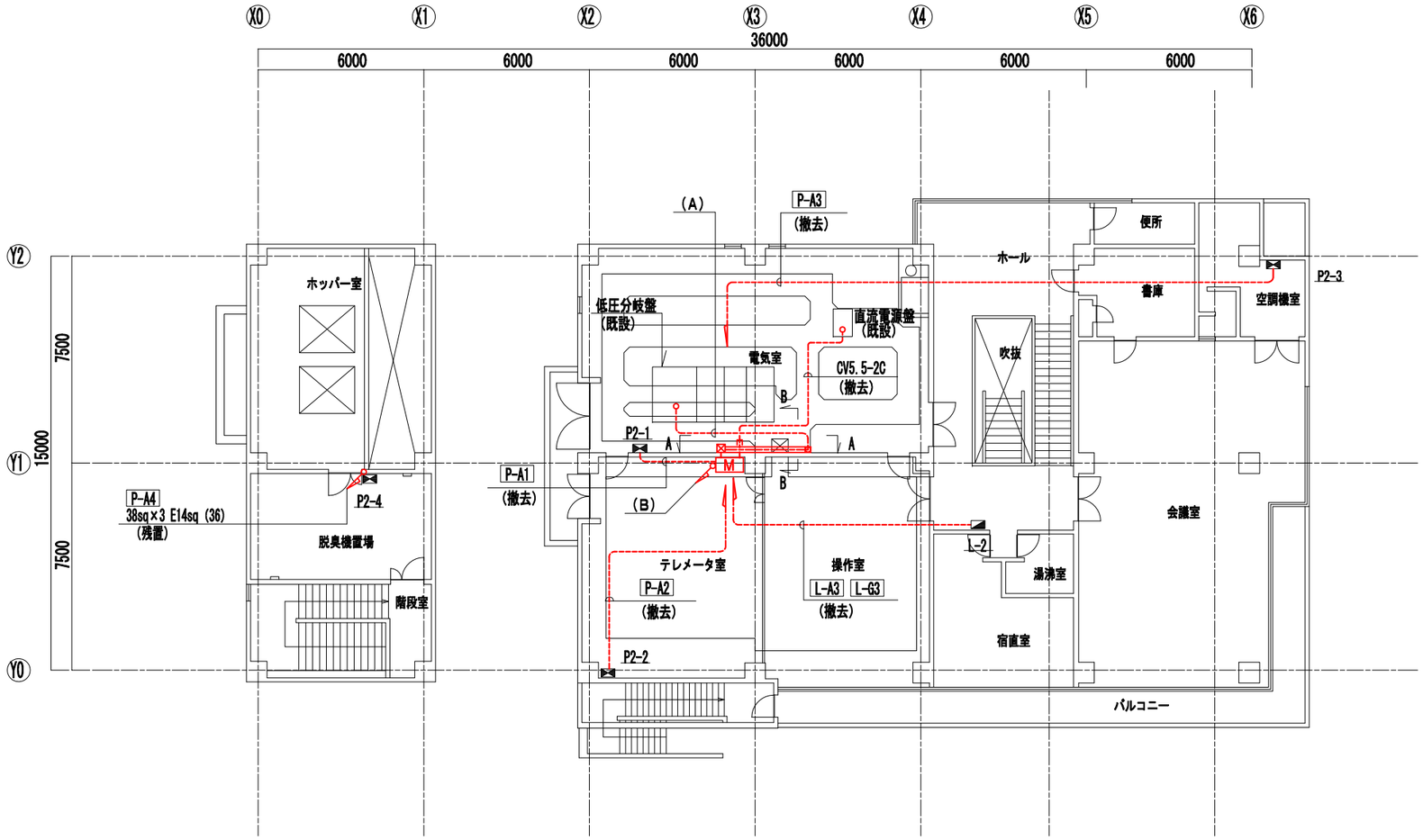
撤去配線表

記号	盤名	配　線
(B)	P2-4	38sq×3 E14sq (管内) P-A4
	PB-1	8sq×3 E2.0 (管内) P-A5
	P1-2	2.0×3 E2.0 (管内) P-G1
	L-B	8sq×3、2.0×2 (管内) L-A1 L-G1
	L-1	8sq×3、2.0×3 (管内) L-A2 L-G2

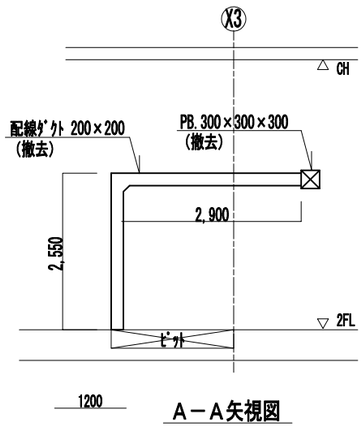
注記）

1. ▭ は今回工事を示す。

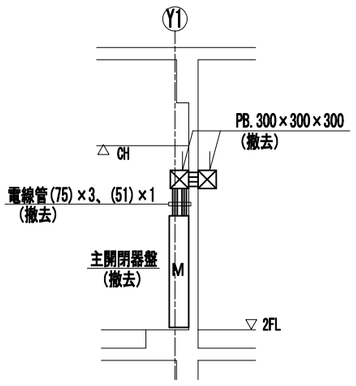
工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	幹線設備1階平面図（撤去）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	AE-11
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		



2階 平面図［改修前］(1/100)



A－A矢視図



B－B矢視図

撤去詳細図 (1/50)

撤去配線表

記号	電源種別	配　線	
(A)	AC3φ3W200V	CVT150sq×2	(ﾋﾟｯﾄ、配線ﾀﾞｸﾄ、管内)
	AC/GC3φ3W200V	CV 8sq-3C	(〃)
	AC1φ3W200-105V	CVT 60sq	(〃)
	AC/GC1φ3W200-105V	CVT 38sq	(〃)

注記）

1. ▭ は今回工事を示す。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	幹線設備2階平面図（撤去）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	図示	図面番号	AE-12
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

凡 例（改修）

記号	名称	摘要	
★	水銀灯 HF200W 安定器共	再使用	
★	蛍光灯 FL40W×1 壁付	〃	
S	手元開閉器	新設	
	LEDダウンライト	〃	LRS1-08 LN
●	埋込ｽｲｯﾁ 1P15A	〃	新金ﾌﾟﾚｰﾄ
●L	埋込PLｽｲｯﾁ 1P4A	〃	〃
●F	埋込浴室換気用ｽｲｯﾁ 5～50W	〃	〃 30分・15分
2	埋込ｺﾝｾﾝﾄ 2P15A×2	〃	〃
2E	埋込ｺﾝｾﾝﾄ 2P15AE×2	〃	〃
E	埋込ｺﾝｾﾝﾄ 2P15AE×1 250V	〃	〃 プラグ共
ELB	ELB付ｺﾝｾﾝﾄ ELB2P1E15A	〃	ｹｰｽﾌﾞﾚｰｶ（防雨型 抜止ｺﾝｾﾝﾄ付）
★	有圧扇 350φ 1φ200V 80W	再使用	
	配管配線（露出配管）	新設	
	ケーブル配線（いんぺい）	〃	
M	ケーブル配線（ﾒﾀﾙﾓｰﾙ）	〃	M：A型、MB：B型
	プルボックス	〃	
	露出丸ボックス	〃	
	アウトレットボックス	〃	天井内いんぺい
ED	接地極 ED	〃	接地銅棒 L=1500×1本
	躯体貫通はつり補修	〃	▲：耐震壁新設部
	電灯分電盤	既設	
	水銀灯 HF200W	〃	
	蛍光灯 FL40W×1	〃	
	蛍光灯 FL20W×2	〃	
	天井換気扇	〃	
	配管配線（埋込配管）	〃	
	位置ﾎﾞｯｸｽ	〃	ｱｳﾄﾚｯﾄﾎﾞｯｸｽ
NO	回路番号 （1φ200V）	AC回路:1～ GC回路:A～	
NO	回路番号 （1φ100V）	〃 〃	

（注記）

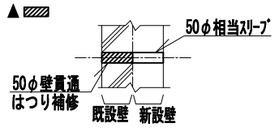
1．特記なき配管配線は下記による。

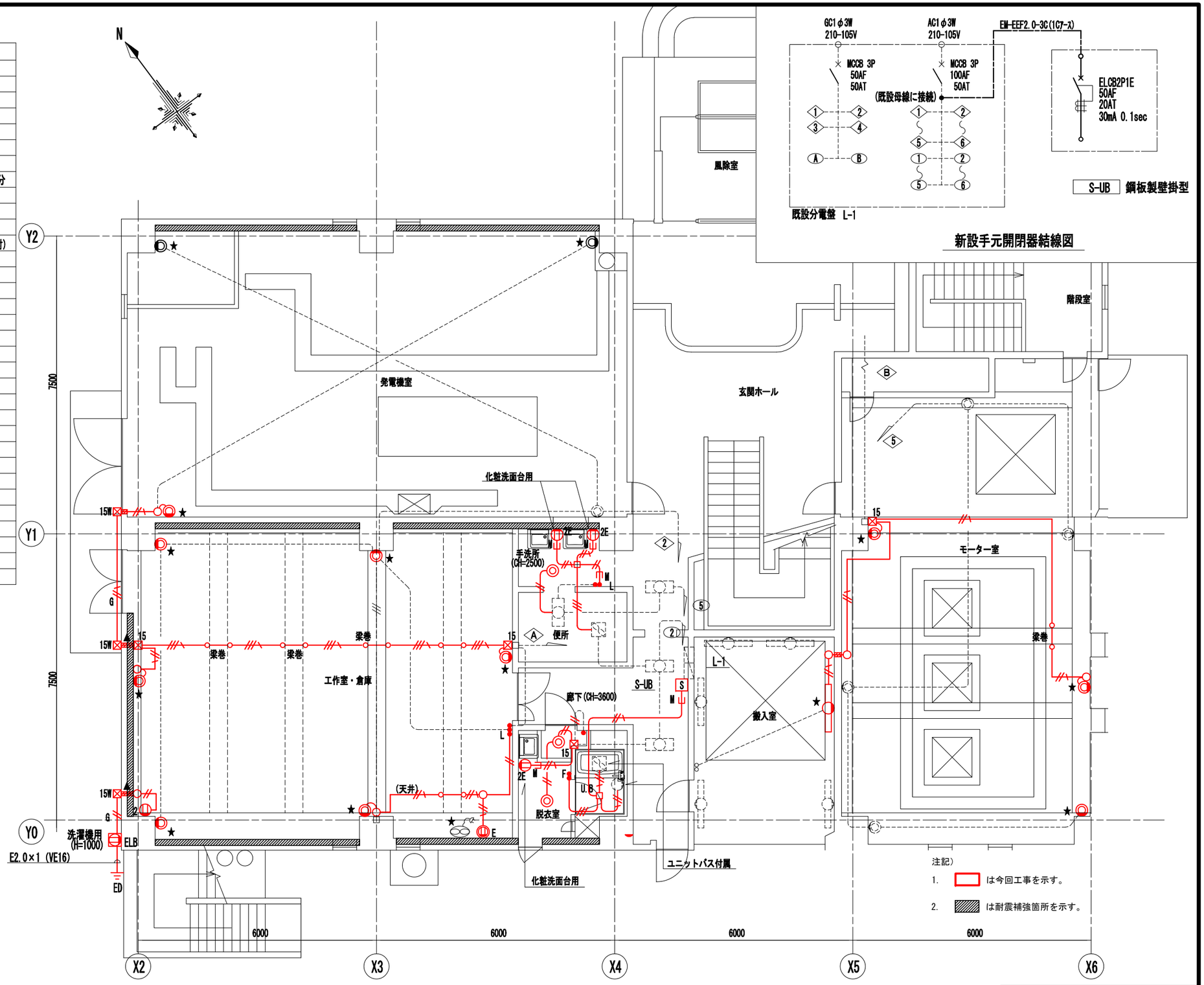
- EM-IE2.0×2 (E19)
- EM-IE2.0×2 E2.0 (E19)
- EM-IE2.0×3 E2.0 (E25)
- G EM-IE2.0×2 (G16)
- G EM-IE2.0×2 E2.0 (G16)
- EM-IE2.0×2 （既設管路）
- EM-EEF2.0-2C
- EM-EEF2.0-3C
- EM-EEF2.0-3C（1C7-ｽ）
- EM-EEF2.0-3C（1C7-ｽ） 保護部（E25）
- M EM-EEF2.0-2C 立下げ部（MM-A）
- M EM-EEF2.0-3C 立下げ部（MM-A）
- M EM-EEF2.0-3C（1C7-ｽ） 立下げ部（MM-A）
- M EM-EEF2.0-2C （MM-A型）
- M EM-EEF2.0-3C（1C7-ｽ） （MM-A型）

2．特記なきプルボックスのサイズは下記による。

- ☒15 ：150×150×100
- ☒15W ：150×150×100（防水型：溶融亜鉛メッキ仕上）

3．耐震壁新設部分の壁貫通は下記を参考とする。

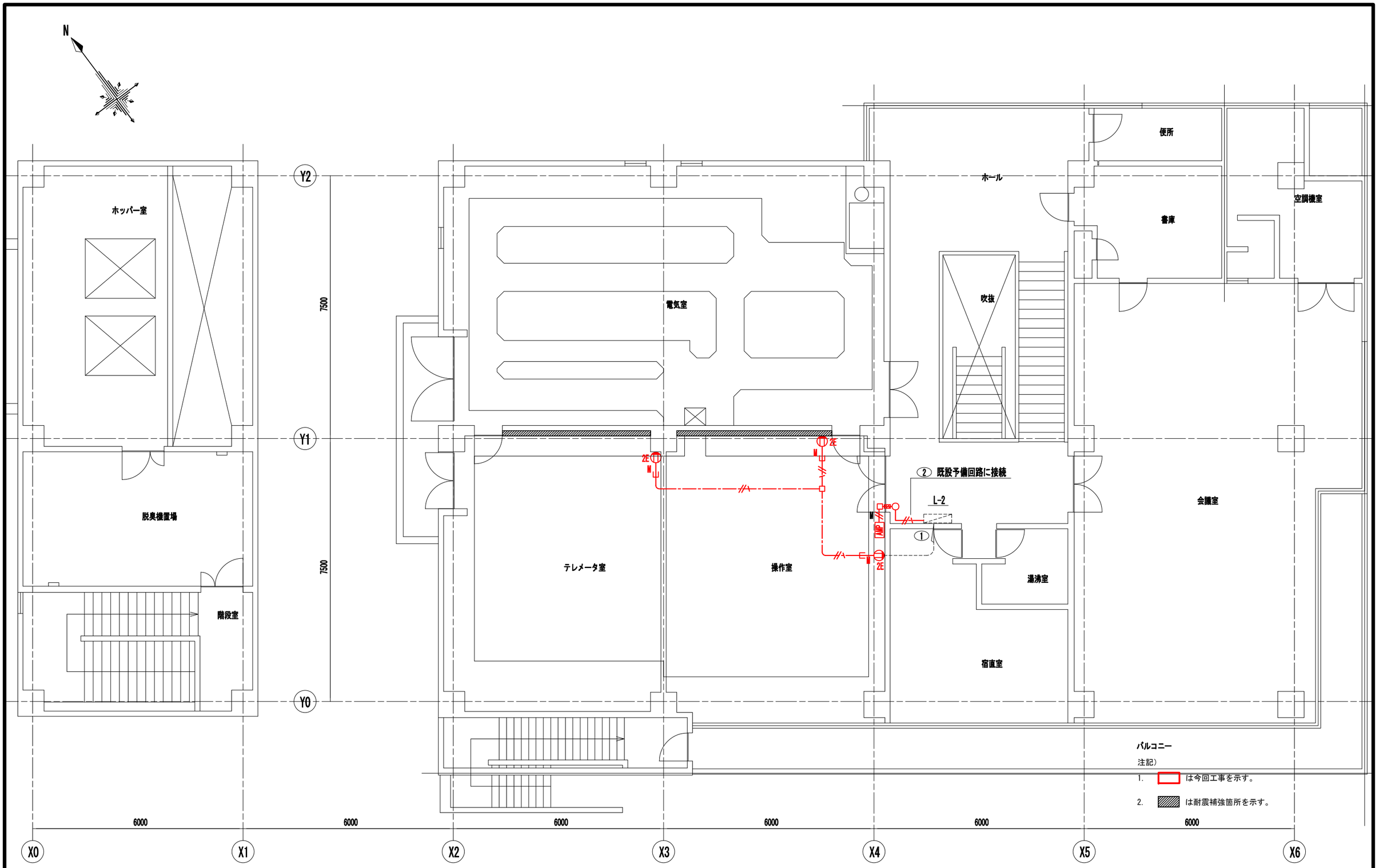




1階 平面図［改修後］

新設手元開閉器結線図

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	電灯コンセント設備1階平面図（改修）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	AE-13
設計者	株式会社 日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県 上尾市		



注記）

1. ▭ は今回工事を示す。

2. ▨ は耐震補強箇所を示す。

2階 平面図［改修後］

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	電灯コンセント設備2階平面図（改修）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	AE-14
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

凡　例（撤去）

記号	名称	摘要	
★	水銀灯　HF200W　安定器共	撤去	再使用
★	蛍光灯　FL20W×1　壁付	〃	〃
★	蛍光灯　FL40W×1　壁付	〃	〃
	蛍光灯　FL20W×1　壁付	〃	
	白熱灯　IL60W×1　直付	〃	
	埋込ｽｲｯﾁ　1P15A	〃	
L	埋込PLｽｲｯﾁ　1P4A	〃	
2	埋込ｺﾝｾﾝﾄ　2P15A×2	〃	
	埋込ｺﾝｾﾝﾄ　2P15AE×1 250V	〃	
3	露出ｺﾝｾﾝﾄ　2P15A×3	〃	
★	有圧扇　350φ　1φ200V 80W	〃	再使用
	配管配線（埋込配管）	撤去	配線撤去
	配管配線（床埋込配管）	〃	〃
	電灯分電盤	既設	
	水銀灯　HF200W	〃	
	蛍光灯　FL40W×1	〃	
	蛍光灯　FL20W×2	〃	
	天井換気扇	〃	
	配管配線（埋込配管）	〃	
NO	回路番号　（1φ200V）		AC回路:1～　GC回路:A～
NO	回路番号　（1φ100V）		〃　〃

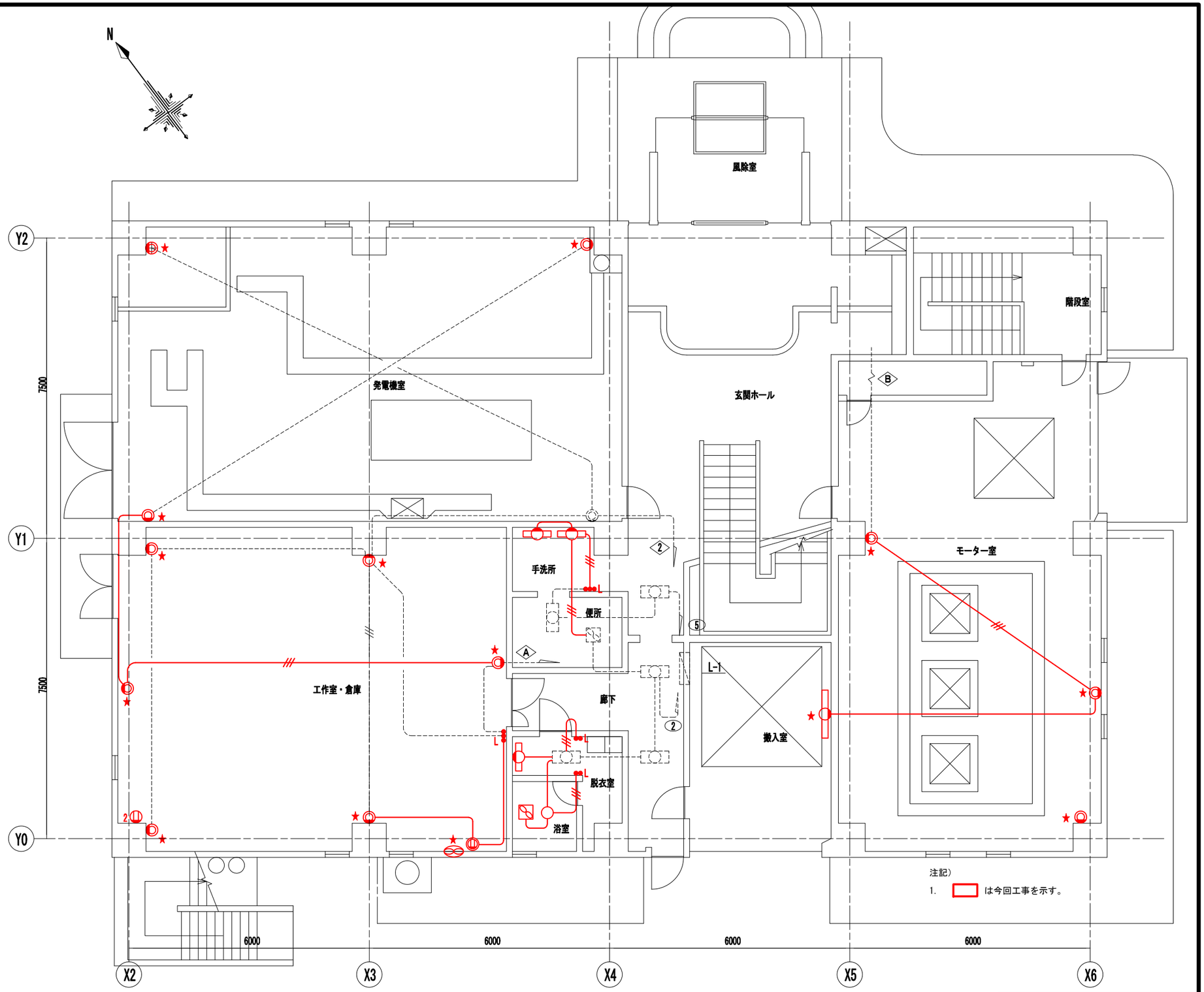
（注記）

1．特記なき撤去配線は下記による。

IV2.0×2　（管内）

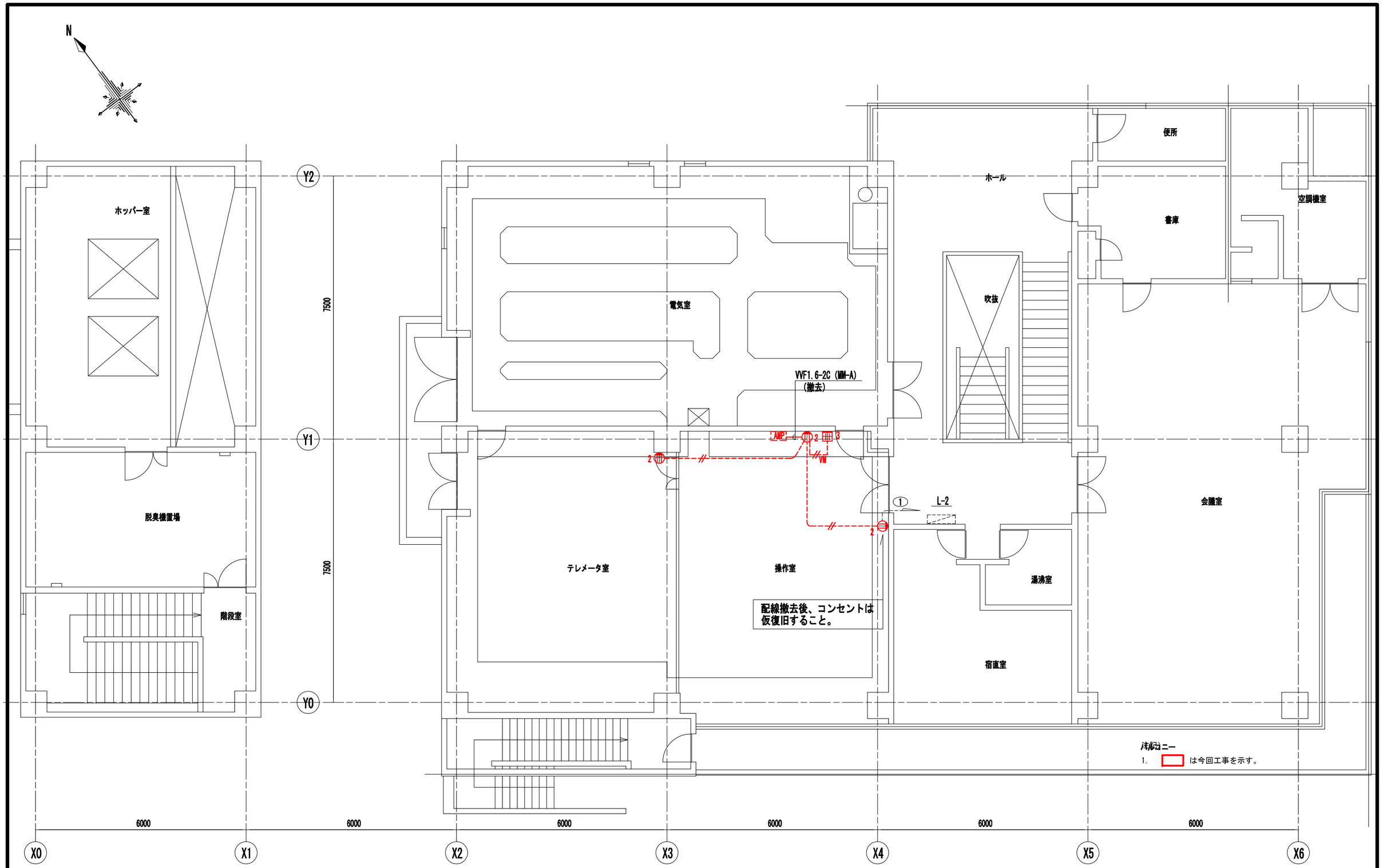
IV2.0×3　（管内）

VM　VVF2.0-2C　（ﾋﾞﾆﾙﾓｰﾙ）



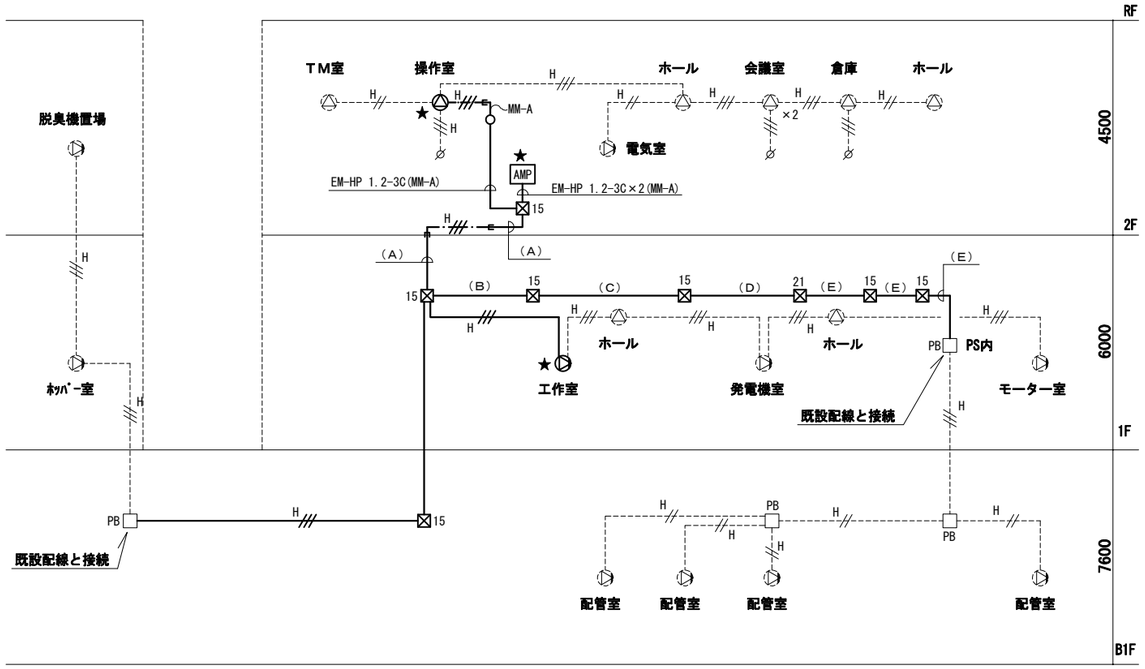
1階　平面図［改修前］

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	電灯コンセント設備1階平面図（撤去）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	AE-15
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

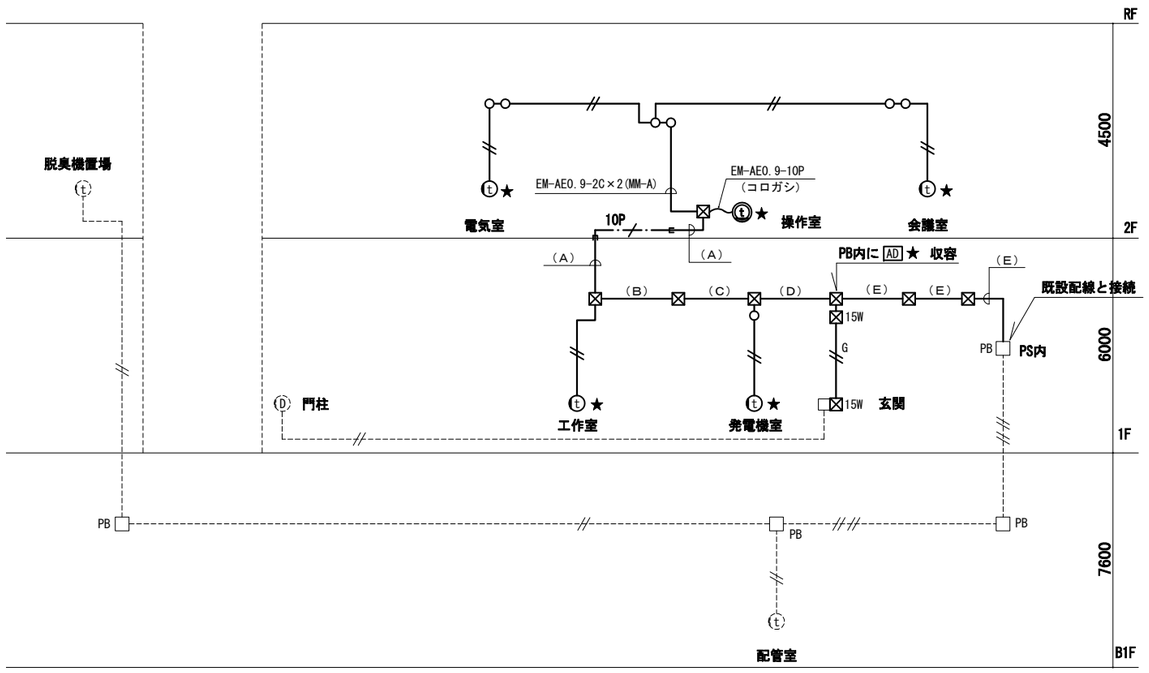


2階 平面図［改修前］

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	電灯コンセント設備2階平面図（撤去）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	AE-16
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		



放送設備設備系統図（改修）



インターホン設備系統図（改修）

凡　例（改修）

記 号	名　　称		摘　　要
AMP ★	業務・非常放送ｱﾝﾌﾟ　10局	再使用	
★	ﾎｰﾝ型ｽﾋﾟｰｶｰ　10W	〃	
★	天井埋込ｽﾋﾟｰｶｰ　3W	〃	
★	インターホン親機　10局	再使用	卓上型（アイホン TC-10M）
★	インターホン子機	〃	
AD ★	玄関子機アダプタ	〃	
MDF ★	ＭＤＦ　壁掛露出型	〃	
――――	配管配線（露出配管）	新設	
―・・―・・―	配管配線（いんぺい配管）	〃	
――――	配管配線（床埋込配管）	〃	
―・―・―	ケーブル配線（ピット内）	〃	
MM-A	メタルモール　A型	〃	
☒	プルボックス（鋼製）	〃	W：防水型
▨	はつり補修（壁・床貫通）	〃	
○	露出ボックス	〃	
	ﾄﾗﾝﾍﾟｯﾄｽﾋﾟｰｶｰ　10W	既設	
	天井埋込ｽﾋﾟｰｶｰ　3W	〃	
⌀	アッテネータ	〃	
ⓣ	インターホン子機	〃	
Ⓓ	インターホン玄関子機	〃	
----------	配管配線		
PB	プルボックス	〃	

（注記）

1．特記なき配管配線は下記による。

EM-AE 0.9-2C　(E19)

G　EM-AE 0.9-2C　(G16)

10P　EM-AE 0.9-10P　(コロガシ)

H　EM-HP 1.2-3C　(E19)

H　EM-HP 1.2-3C　(コロガシ)

2．特記なきプルボックスは下記による。

☒ 15　：150×150×100

☒ 15W　：150×150×100（溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上）

☒ 21　：200×200×150

配線表

記号	配　管　配　線		
(A)	EM-AE0.9-10P	(E31)	インターホン
	EM-HP1.2-3C		放送
(B)	EM-AE0.9-2C　×4	(PF28)	インターホン
	EM-HP1.2-3C		放送
(C)	EM-AE0.9-2C　×4	(E31)	インターホン
	EM-HP1.2-3C		放送
(D)	EM-AE0.9-2C　×3	(E31)	インターホン
	EM-HP1.2-3C		放送
(E)	EM-AE0.9-2C　×2	(E25)	インターホン
	EM-HP1.2-3C		放送

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	弱電設備系統図（改修）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	―	図面番号	AE-17
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

凡　例（改修）

記号	名称		摘要
AMP ★	業務・非常放送ｱﾝﾌﾟ　10局	再使用	
★	ﾎｰﾝ型ｽﾋﾟｰｶｰ　10W	〃	
★	天井埋込ｽﾋﾟｰｶｰ　3W	〃	
★			
★	インターホン親機　10局	再使用	卓上型
★	インターホン子機	〃	
AD ★	玄関子機アダプタ	〃	
MDF ★	ＭＤＦ　壁掛露出型	〃	
★	定温式スポット型検知器	〃	防水型
————	配管配線（露出配管）	新設	
—··—··—	配管配線（いんぺい配管）	〃	
- - - - - -	配管配線（床埋込配管）	〃	
—·—·—	ケーブル配線（ピット内）	〃	
MM-A	メタルモール　A型	〃	
☒	プルボックス（鋼製）	〃	W：防水型
▨	はつり補修（壁・床貫通）	〃	
○	露出ボックス	〃	
	ﾄﾗﾝｼﾞｽﾀｽﾋﾟｰｶｰ　10W	既設	
	天井埋込ｽﾋﾟｰｶｰ　3W	〃	
	アッテネータ	〃	
	インターホン子機	〃	
	インターホン玄関子機	〃	
----------	配管配線	既設	
□PB	プルボックス	〃	

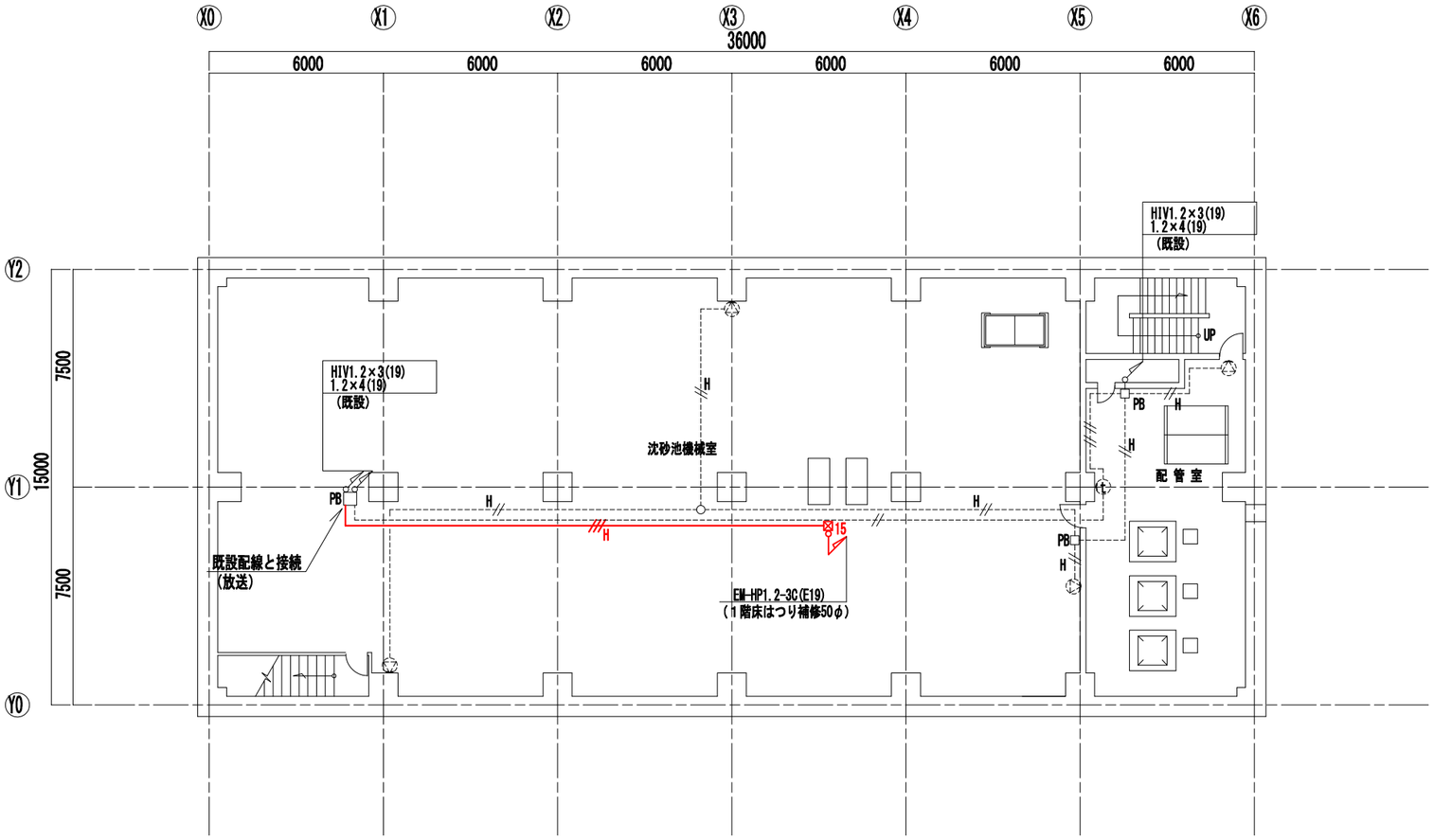
（注記）

1．特記なき配管配線は下記による。

- ——//—— EM-AE 0.9-2C　(E19)
- —G//—— EM-AE 0.9-2C　(G16)
- —H///—— EM-HP 1.2-3C　(E19)
- —·H///—·— EM-HP 1.2-3C　(コロガシ)
- —·AE///—·— EM-AE 1.2-4C　(コロガシ)

2．特記なきプルボックスは下記による。

- ☒15　：150×150×100
- ☒15W　：150×150×100（溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上）
- ☒21　：200×200×150

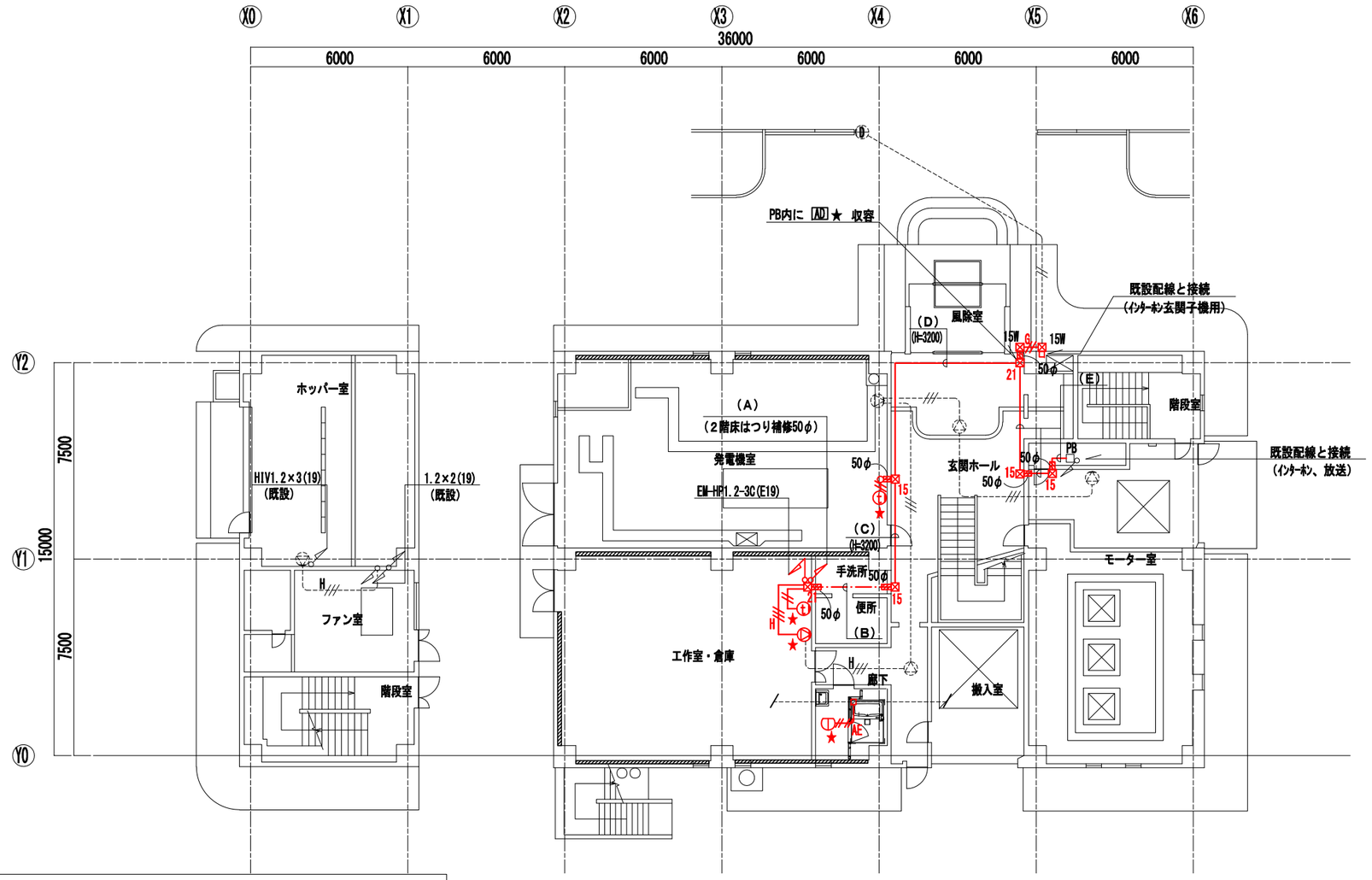


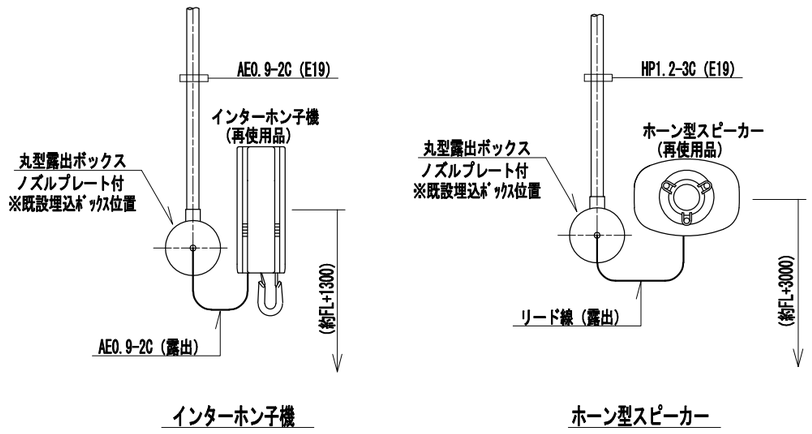
地下1階　平面図［改修後］

注記）

1.　　は今回工事を示す。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	弱電設備地下1階平面図（改修）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	AE-18
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		





インターホン子機　　ホーン型スピーカー

インターホン子機・スピーカー取付参考図 (1/5)

1階 平面図［改修後］ (1/100)

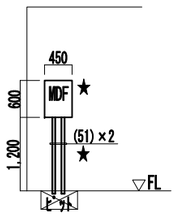
配線表

記号	配管配線			
(A)	EM-AE0.9-10P EM-HP1.2-3C	(E31)	インターホン 放送	
(B)	EM-AE0.9-2C ×4 EM-HP1.2-3C	(PF28)	インターホン 放送	
(C)	EM-AE0.9-2C ×4 EM-HP1.2-3C	(E31)	インターホン 放送	
(D)	EM-AE0.9-2C ×3 EM-HP1.2-3C	(E31)	インターホン 放送	
(E)	EM-AE0.9-2C ×2 EM-HP1.2-3C	(E25)	インターホン 放送	

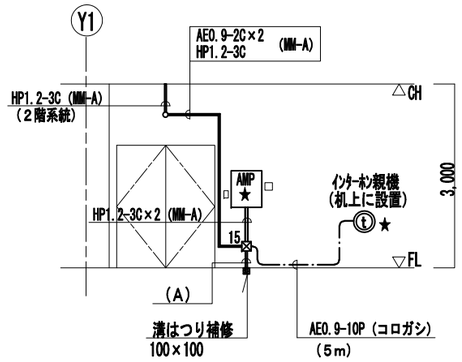
注記)

1. ▭ は今回工事を示す。
2. ▨ は耐震補強箇所を示す。

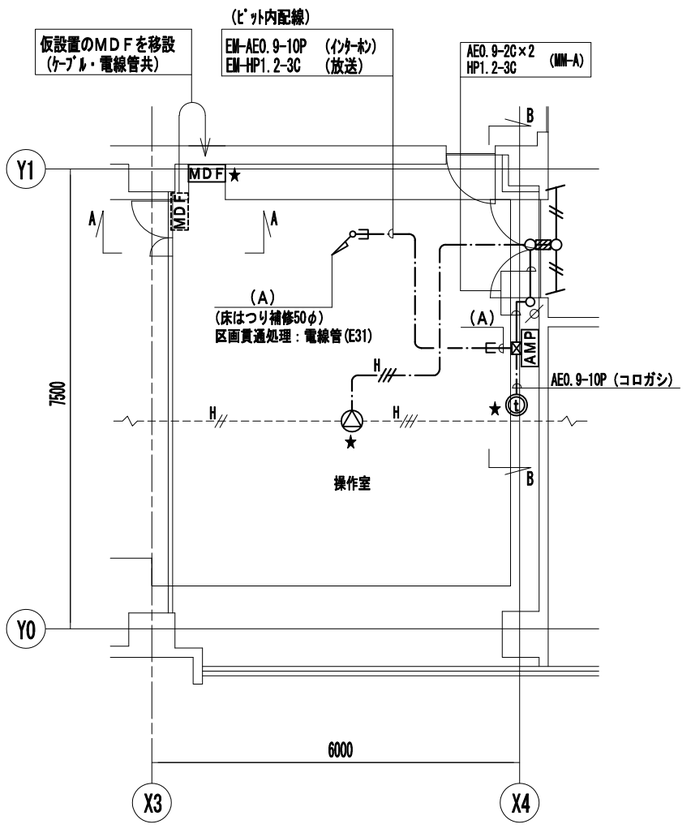
工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	弱電設備1階平面図（改修）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	図示	図面番号	AE-19
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		



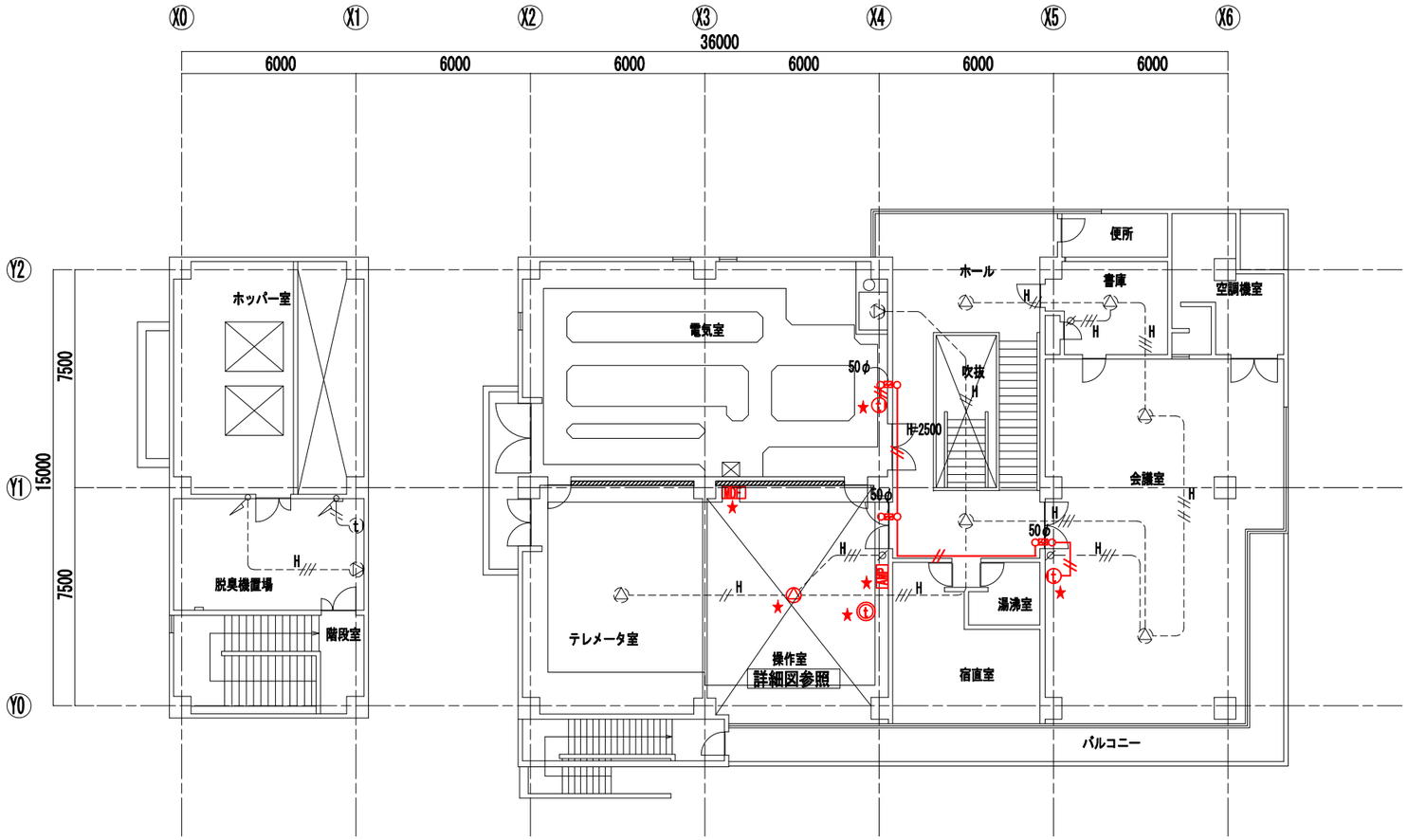
A-A矢視図



B-B矢視図



操作室詳細図 (1/50)



2階 平面図［改修後］ (1/100)

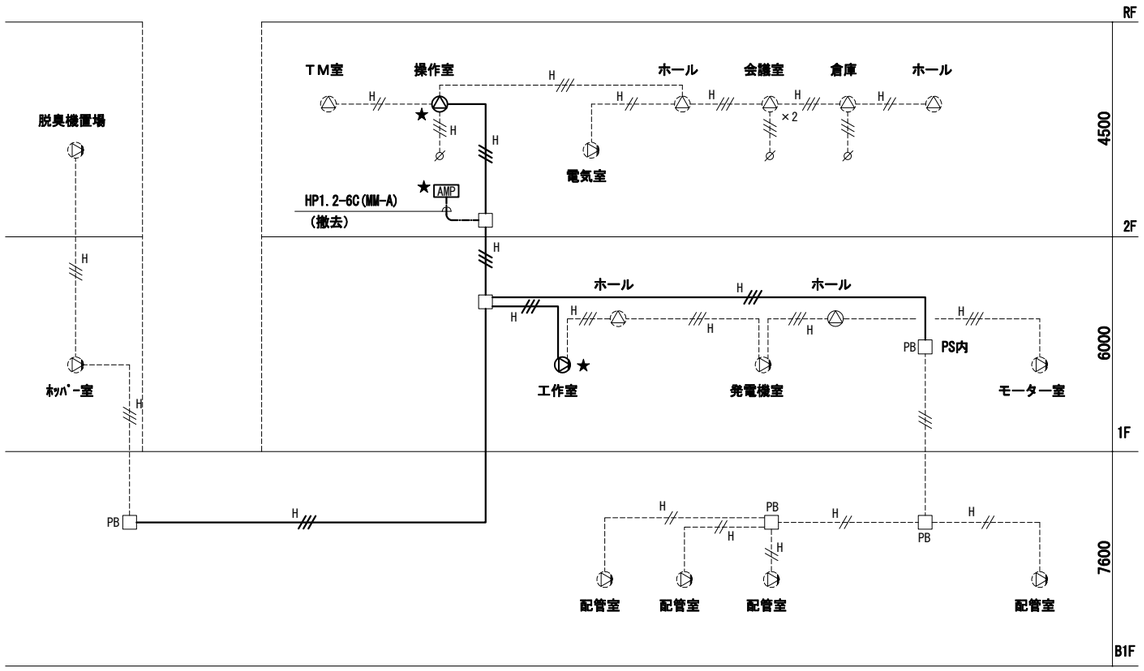
配線表

記号	配管配線		
(A)	EM-AE0.9-10P EM-HP1.2-3C	(E31)	インターホン 放送

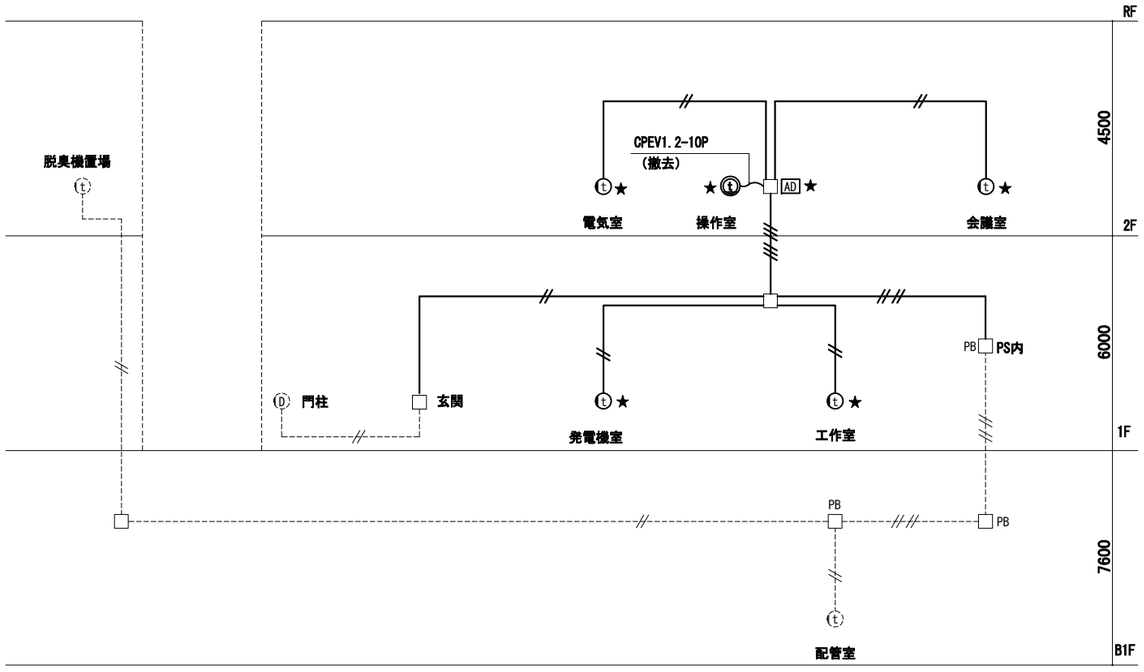
注記）

1. ▭ は今回工事を示す。
2. ▨ は耐震補強箇所を示す。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	弱電設備2階平面図（改修）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	図示	図面番号	AE-20
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		



放送設備設備系統図（撤去）



インターホン設備系統図（撤去）

凡　例（撤去）

記号	名称		摘要
AMP ★	業務・非常放送ｱﾝﾌﾟ　10局	撤去	再使用
★	ﾎｰﾝ型ｽﾋﾟｰｶｰ　10W	〃	〃
★	天井埋込ｽﾋﾟｰｶｰ　3W	〃	〃
★	インターホン親機　10局	撤去	再使用　卓上型
★	インターホン子機	〃	〃
AD ★	玄関子機アダプタ	〃	〃
MDF ★	ＭＤＦ　壁掛露出型	〃	〃
	端子盤　壁掛露出型10P	〃	〃
――――	配管配線	撤去	配線撤去
	ﾄﾗﾝｼﾞｽﾀｽﾋﾟｰｶｰ　10W	残置	
	天井埋込ｽﾋﾟｰｶｰ　3W	〃	
	アッテネータ	〃	
	インターホン子機	〃	
	インターホン玄関子機	〃	
----------	配管配線	残置	
□ PB	プルボックス	〃	
□	埋込位置ボックス	〃	

（注記）

1．特記なき撤去配線は下記による。

- IV1.2×2　（管内）
- IV1.2×4　（管内）
- H HIV1.2×2　（管内）
- H HIV1.2×3　（管内）
- H HIV1.2×4　（管内）

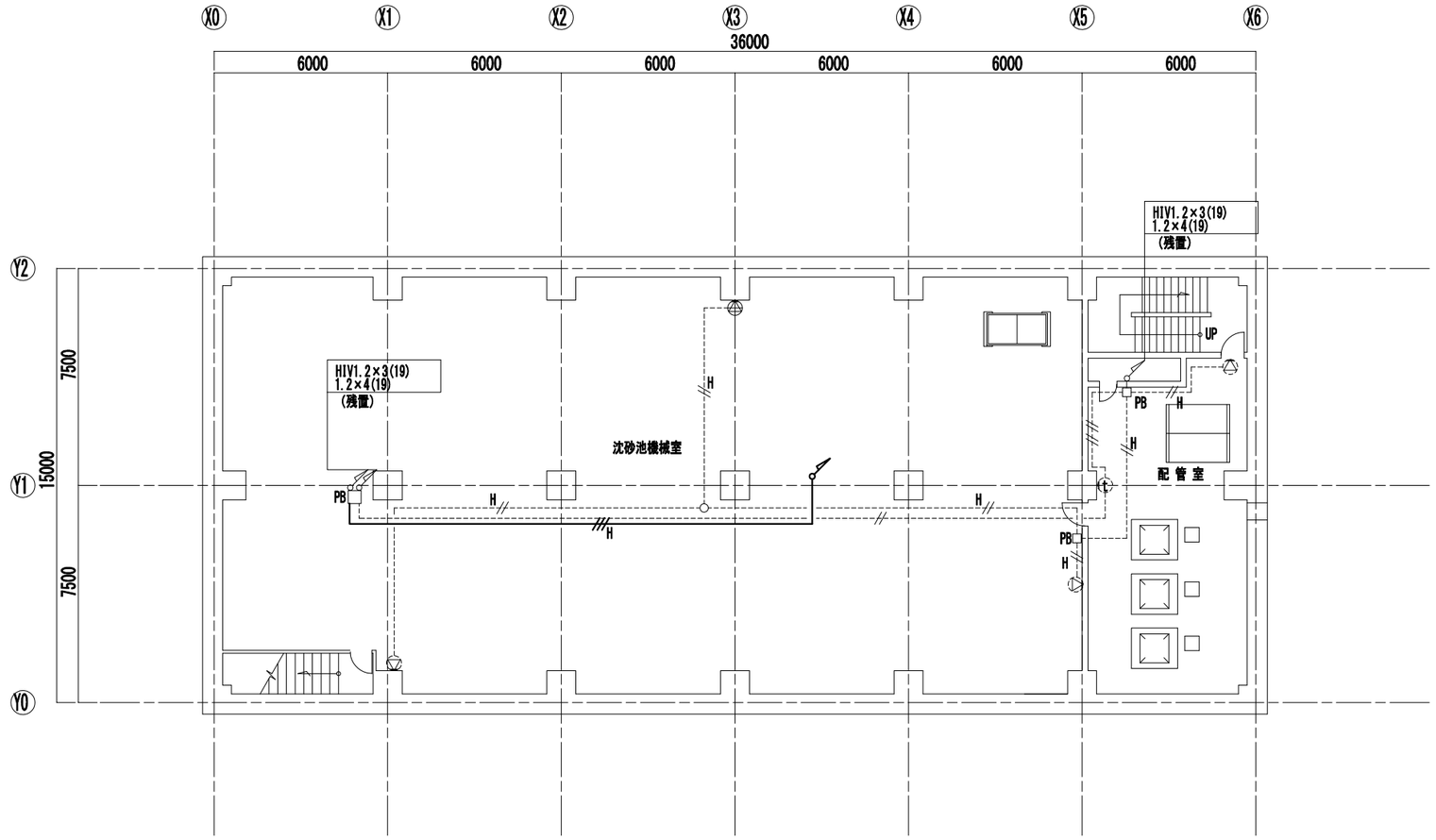
工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	弱電設備系統図（撤去）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	―	図面番号	AE-21
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

凡　例（撤去）

記号	名　　称		摘　　要
AMP ★	業務・非常放送ｱﾝﾌﾟ　10局	撤去	再使用
◁ ★	ﾎｰﾝ型ｽﾋﾟｰｶｰ　10W	〃	〃
▽ ★	天井埋込ｽﾋﾟｰｶｰ　3W	〃	〃
ⓣ ★	インターホン親機　10局	撤去	再使用　卓上型
ⓣ ★	インターホン子機	〃	〃
AD□ ★	玄関子機アダプタ	〃	〃
MDF ★	ＭＤＦ　壁掛露出型	〃	〃
⊟	端子盤　壁掛露出型10P	〃	
Ⓓ ★	定温式スポット型検知器	〃	再使用　防水型
————	配管配線	撤去	配線撤去
◁	ﾄﾗﾝｼﾍﾞｯﾄｽﾋﾟｰｶｰ　10W	残置	
▽	天井埋込ｽﾋﾟｰｶｰ　3W	〃	
⌀	アッテネータ	〃	
ⓣ	インターホン子機	〃	
Ⓓ	インターホン玄関子機	〃	
- - - - - -	配管配線	残置	
□ PB	プルボックス	〃	

（注記）

- IV1.2×2　（管内）
- IV1.2×4　（管内）
- HIV1.2×2　（管内）
- H HIV1.2×3　（管内）
- H HIV1.2×4　（管内）

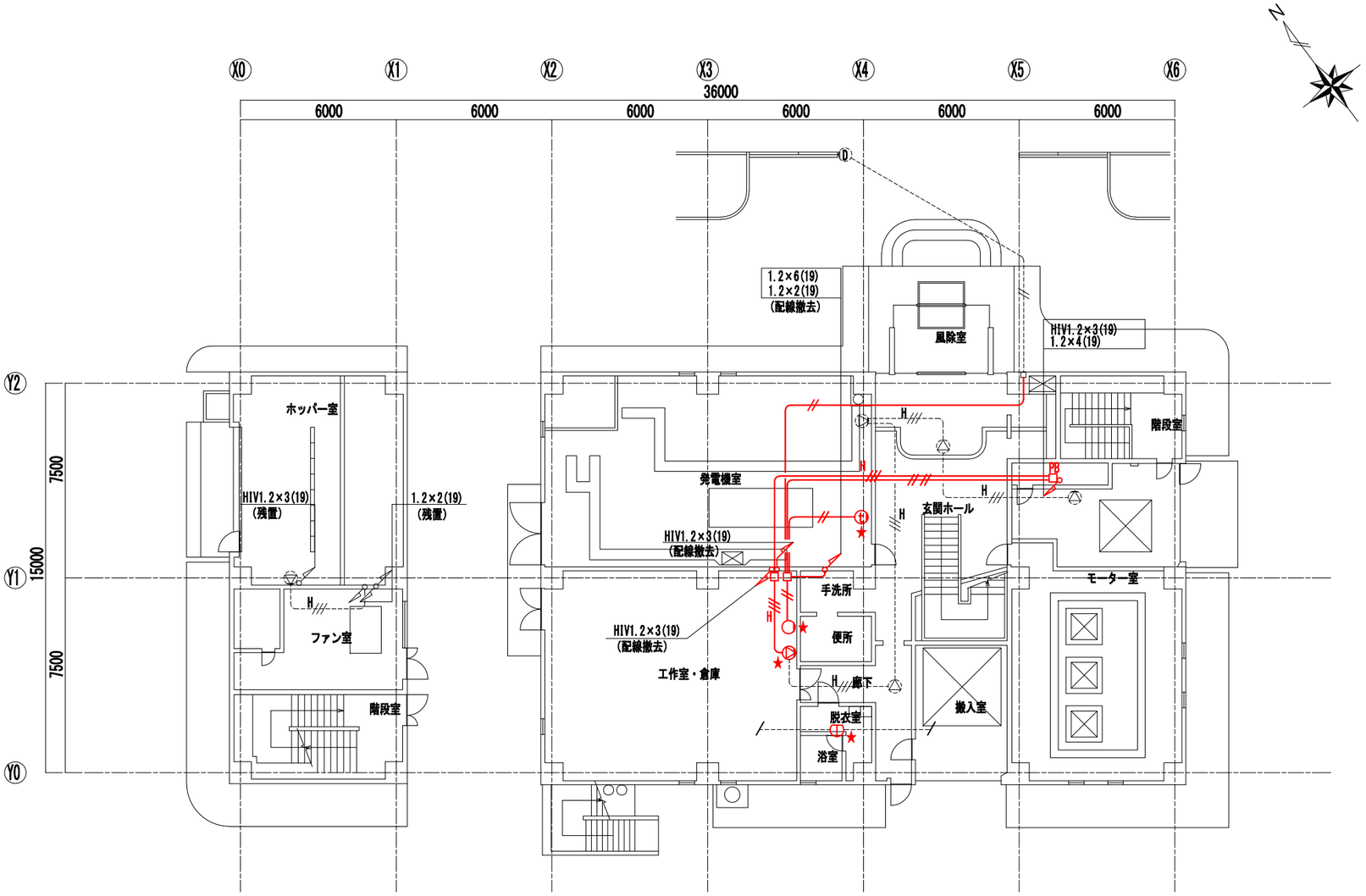


地下1階　平面図［改修前］

注記）

1. ▭ は今回工事を示す。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	弱電設備地下1階平面図（撤去）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	AE-22
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

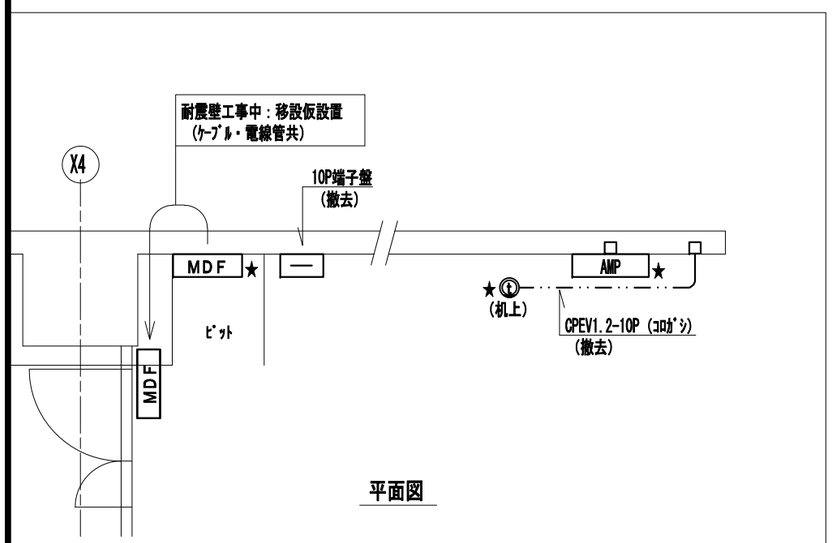


1階 平面図［改修前］

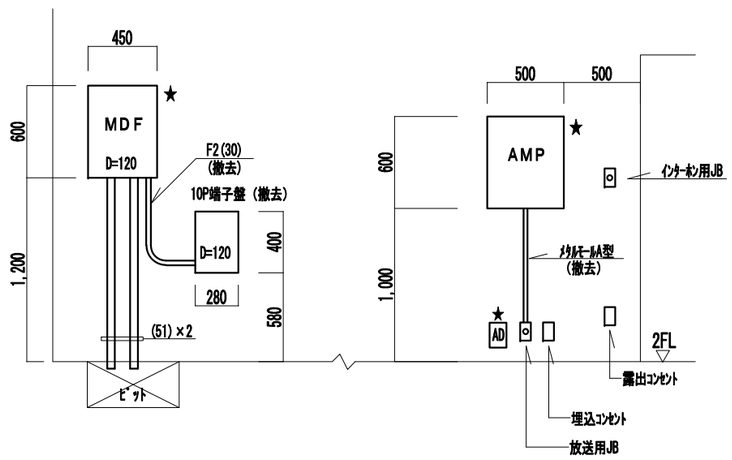
注記）

1. ▭ は今回工事を示す。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	弱電設備1階平面図（撤去）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	AE-23
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

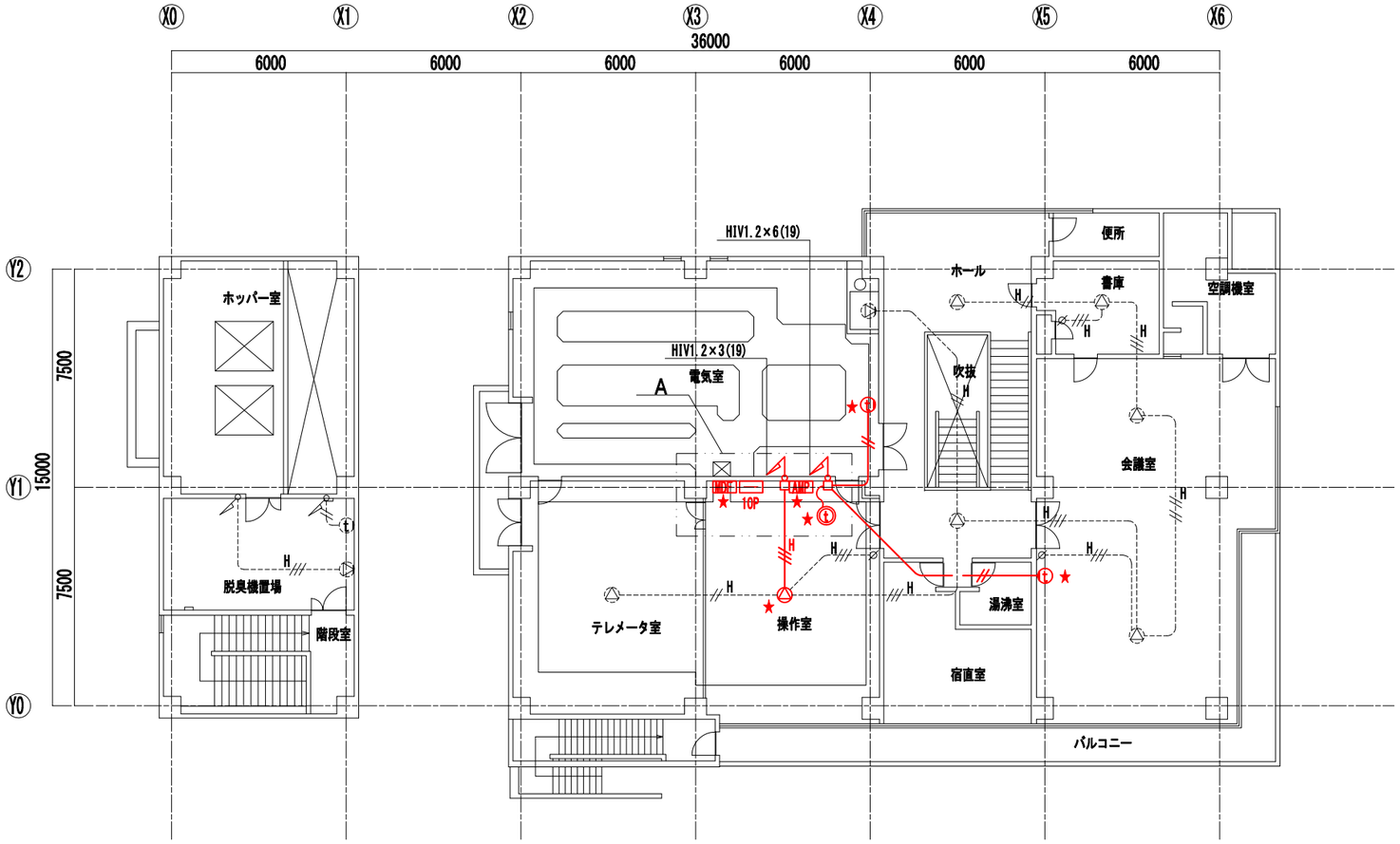


平面図



正面図

Ａ部分詳細図 (1/20)



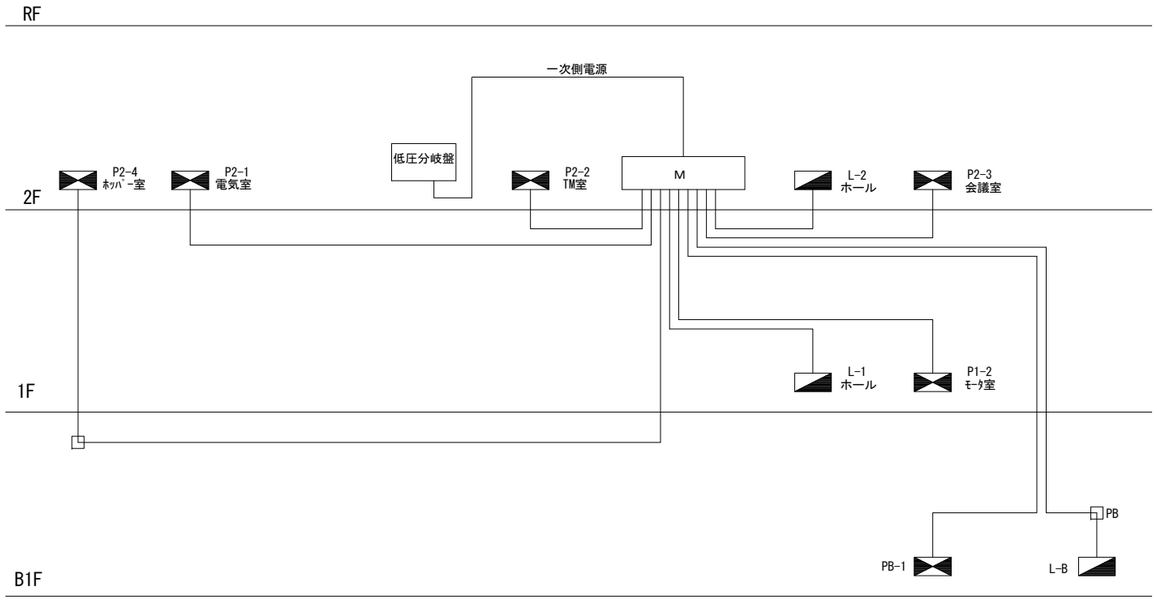
2階 平面図［改修前］ (1/100)

注記)

1. ▭ は今回工事を示す。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	弱電設備2階平面図（撤去）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	図示	図面番号	AE-24
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

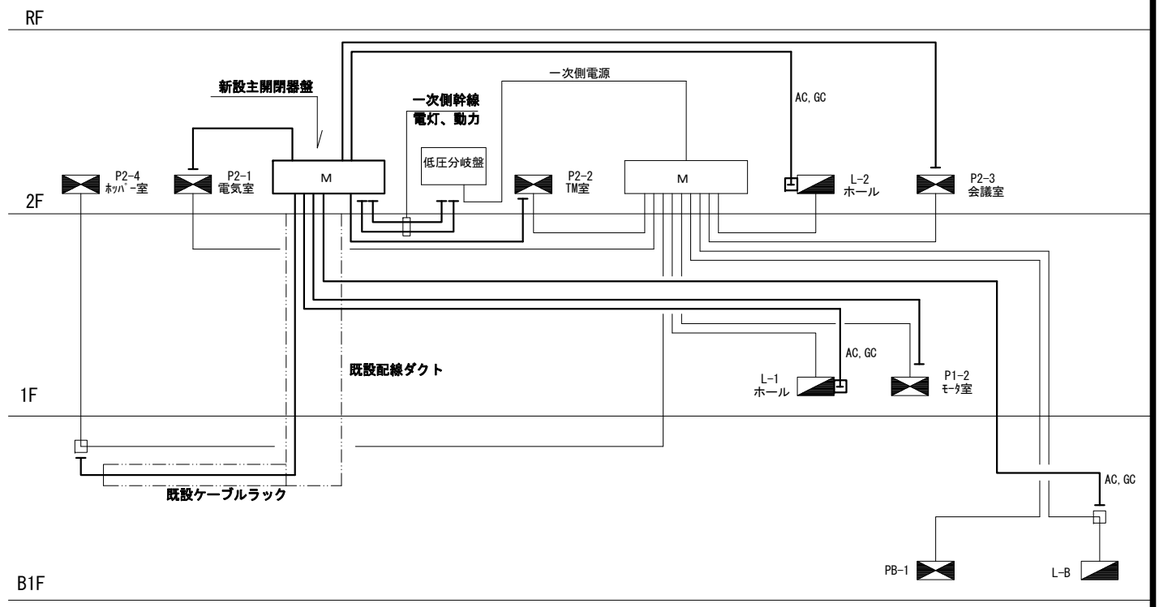
現 況



STEP. 1

：既設配管配線
：新設配管配線

1．新設主開閉器盤”M”の製作
2．新設主開閉器盤から各盤までの配管配線を行なう。
（各盤への接続準備まで施工する）

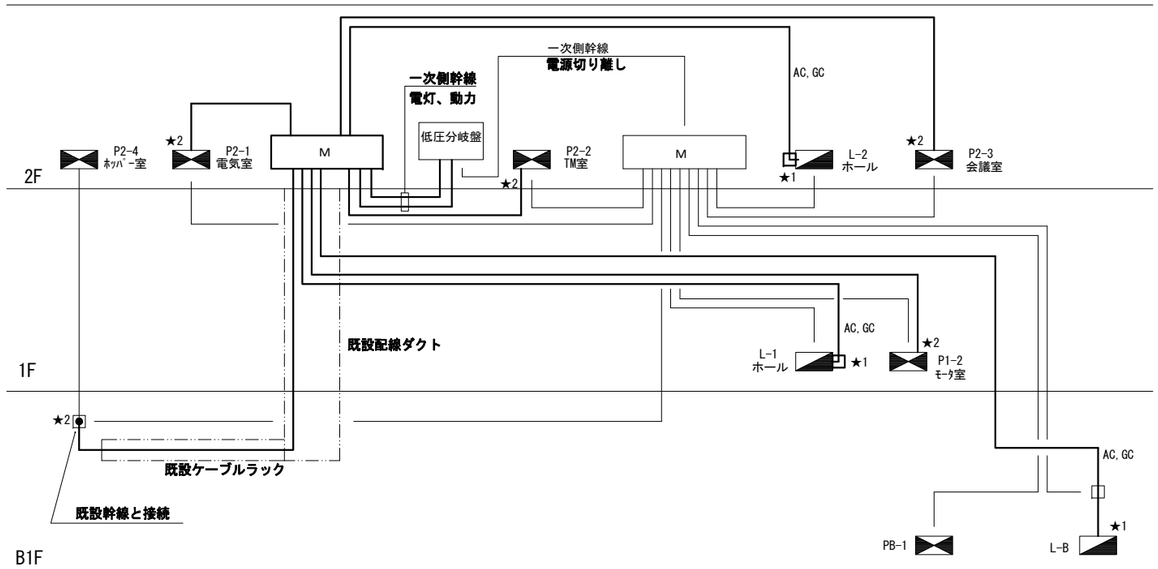


STEP. 2

1．主開閉器盤電灯系の停電作業
　1）M盤の一次側電灯幹線の切替え
　2）電灯分電盤の幹線接続替え（★1）

1．主開閉器盤動力系の停電作業
　1）M盤の一次側動力幹線の切替え
　2）動力制御盤の幹線接続替え（★2）

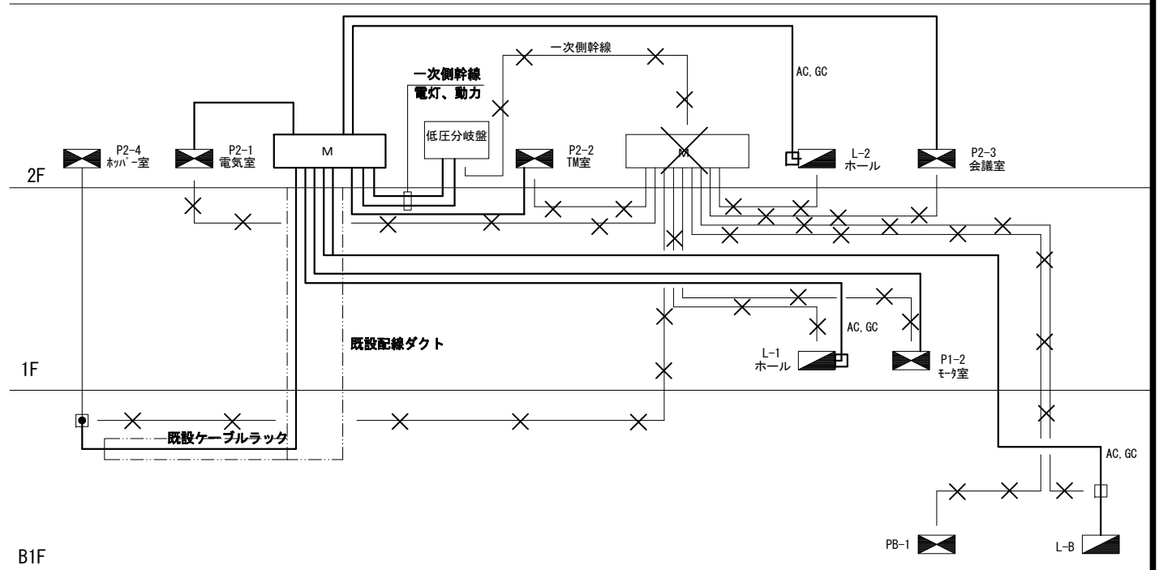
：既設配管配線
：新設配管配線



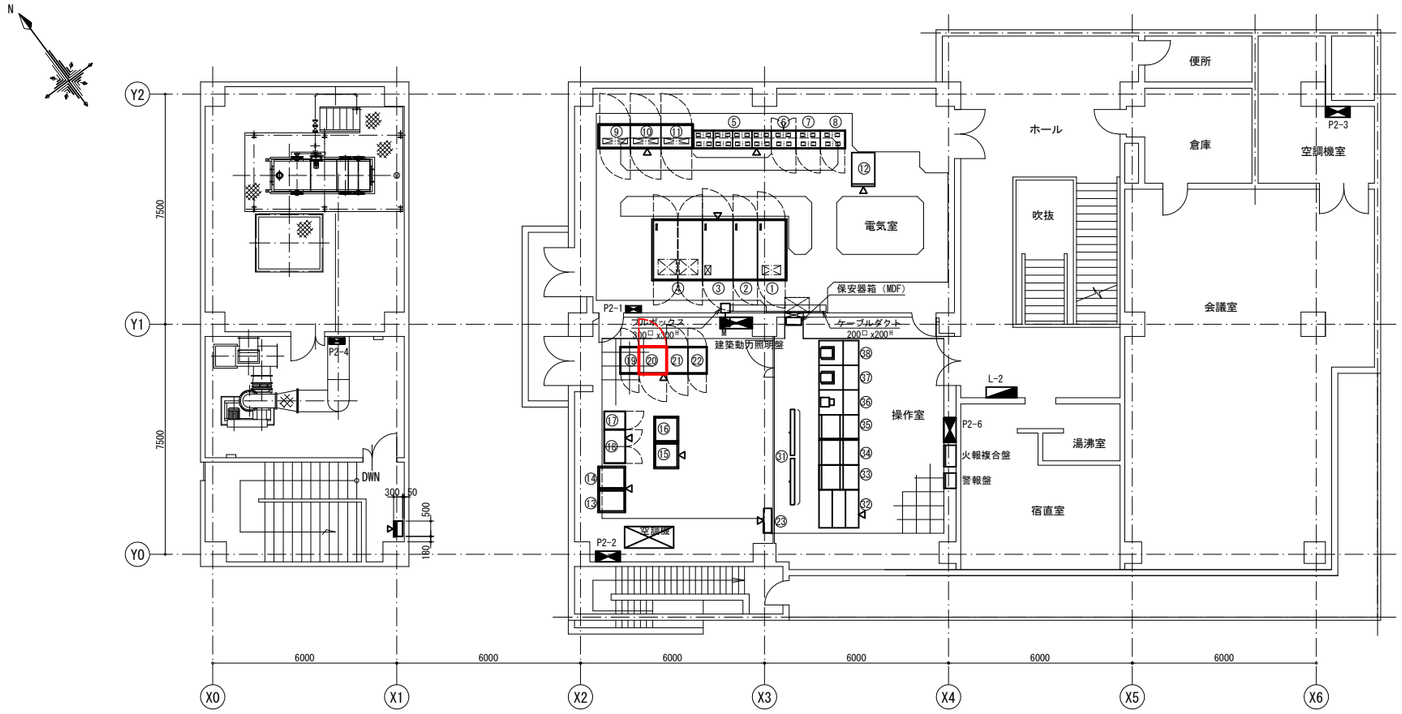
STEP. 3

1．既設M盤撤去、既設幹線撤去（×）

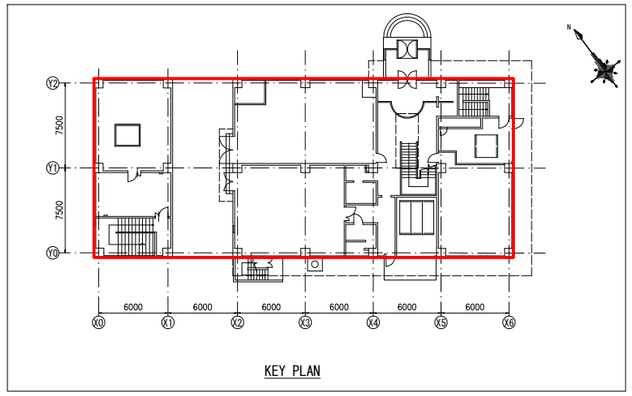
：既設配管配線
：新設配管配線



工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	幹線切替手順図（参考）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	―	図面番号	AE-25
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		



2階 平面図［改修前］ (1/100)



KEY PLAN

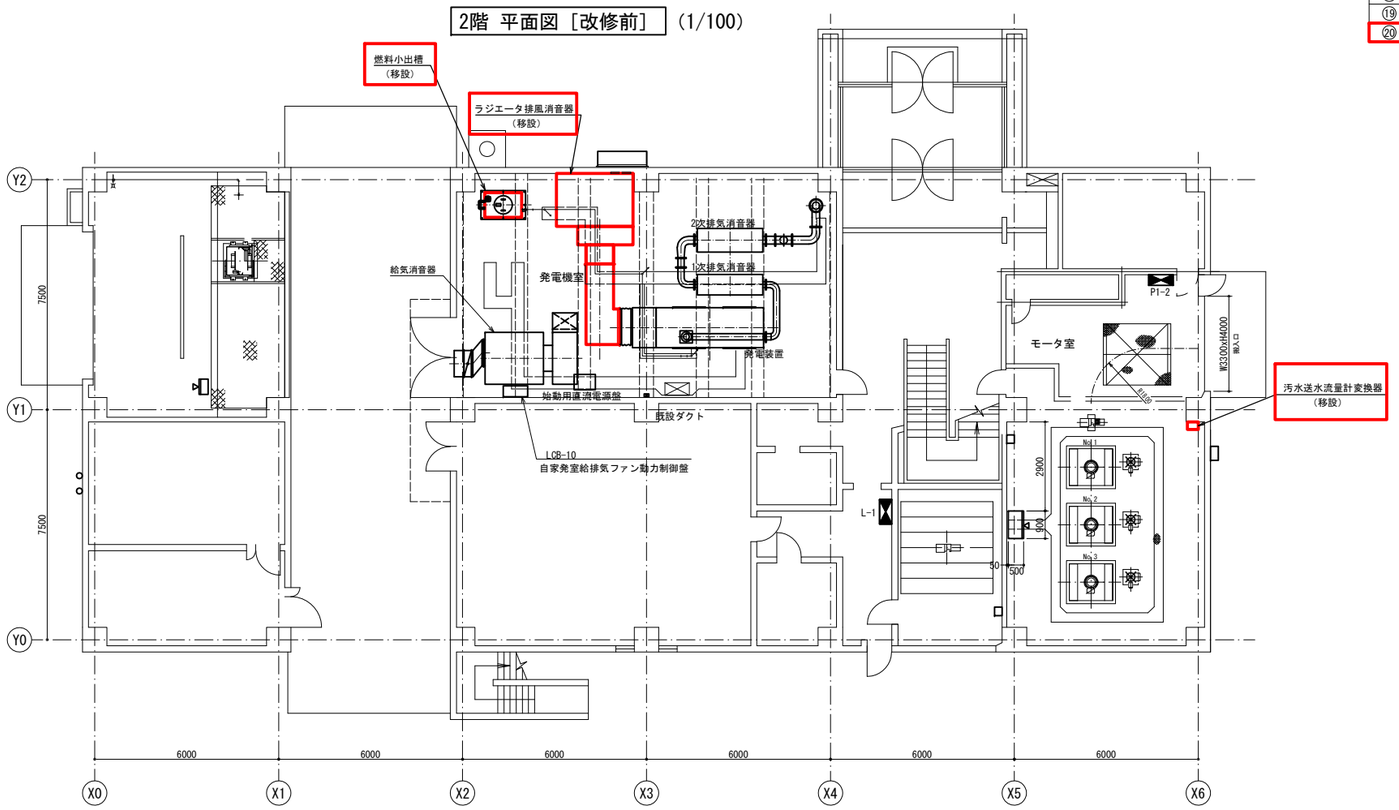
機器一覧表

NO.	名　　称	記　号	備　考
①	引込盤	HP-1	既　設
②	受電盤	HP-2	〃
③	主変圧器盤	LP-1	〃
④	低圧分岐盤	LP-2	〃
⑤	コントロールセンタ	C/C	〃
⑥	沈砂池設備（1）補助継電器盤	RY-1（1）	〃
⑦	沈砂池設備（2）補助継電器盤	RY-2（2）	〃
⑧	汚水ポンプ設備補助継電器盤	RY-2	〃
⑨	No.1汚水ポンプVVVF盤	VF-P1	〃
⑩	No.2汚水ポンプVVVF盤	VF-P2	〃
⑪	No.3汚水ポンプVVVF盤	VF-P3	〃
⑫	直流電源盤	DC-1	〃
⑬	遠方制御盤（鴨川親局）	TM-2	〃
⑭	遠方制御盤（芝川親局）	TM-1	〃
⑮	入出力装置	SQC-1	〃
⑯	入出力装置	SQC-2	〃
⑰	汎用ＵＰＳ	CV-1	〃
⑱	蓄電池盤	CV-2	〃
⑲	操作卓制御装置	DP-COT	〃
⑳	監視用補助継電器盤	RC-1	撤改造

NO.	名　　称	記　号	備　考
㉑	変換器盤	1H	既　設
㉒	分電盤	1B	〃
㉓	POD制御箱		〃
㉛	大型ディスプレイ		既　設
㉜	芝川用監視操作卓	DP	〃
㉝	データ・CRT装置（2）	CRT-2	〃
㉞	データ・CRT装置（3）	LCD-DP	〃
㉟	データ・CRT装置（1）	CRT-1	
㊱	管理用パソコン		
㊲	プリンタ	PR-1	
㊳	プリンタ	PR-2	

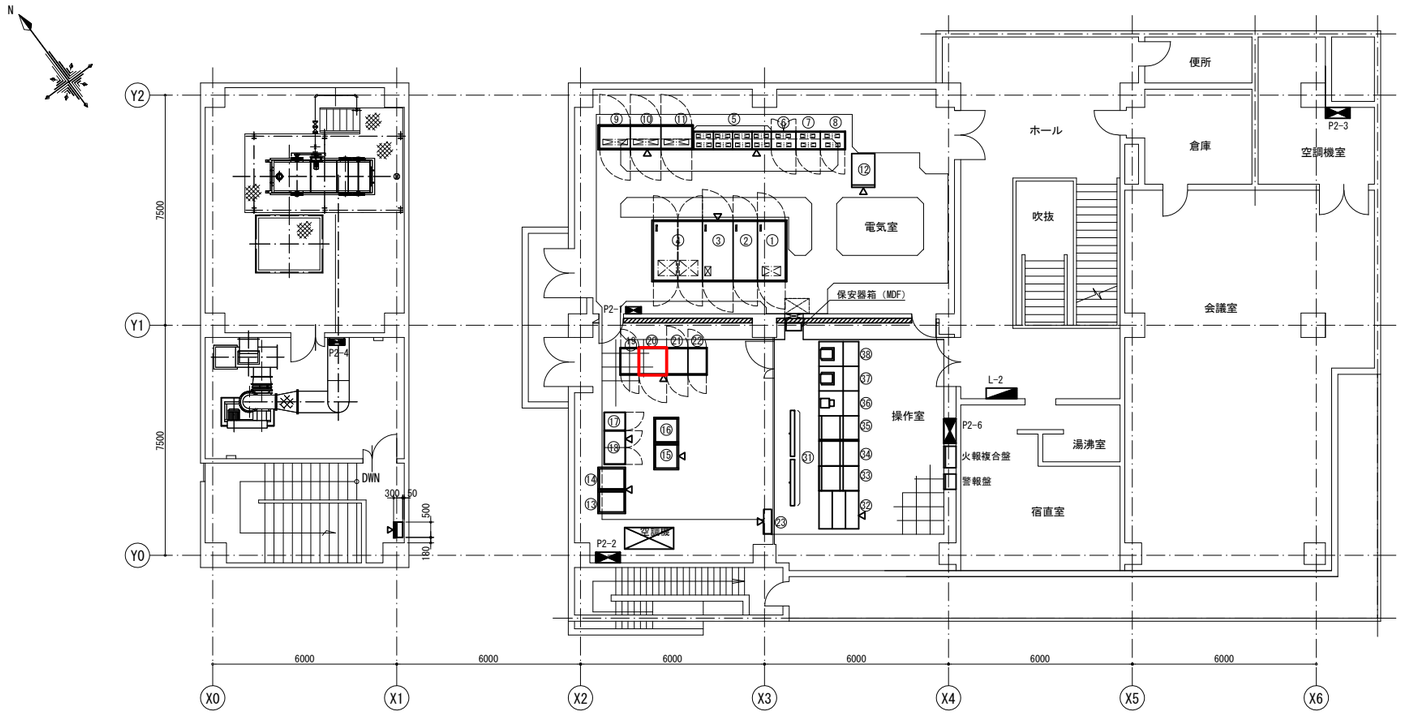
注記）

1. 　　は今回工事を示す。

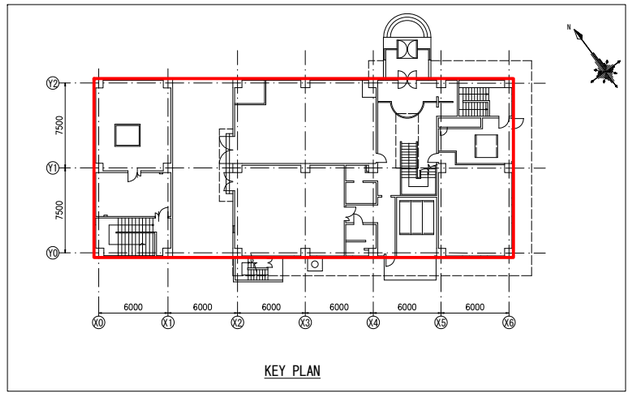


1階 平面図［改修前］ (1/100)

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	1階・2階平面図（改修前）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	PE-01
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		



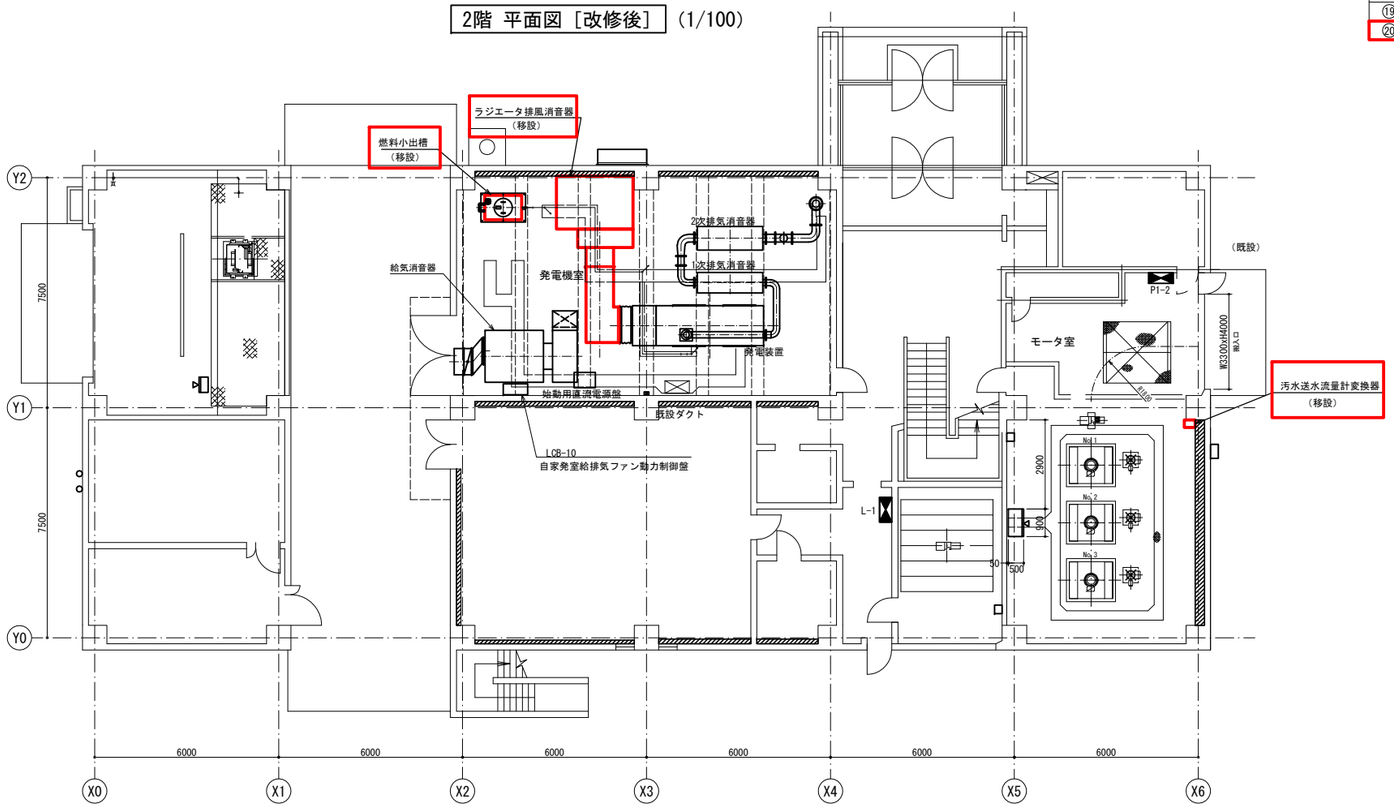
2階 平面図［改修後］ (1/100)



機器一覧表

NO.	名　　称	記　号	備　考
①	引込盤	HP-1	既　設
②	受電盤	HP-2	〃
③	主変圧器盤	LP-1	〃
④	低圧分岐盤	LP-2	〃
⑤	コントロールセンタ	C/C	〃
⑥	沈砂池設備（1）補助継電器盤	RY-1（1）	〃
⑦	沈砂池設備（2）補助継電器盤	RY-2（2）	〃
⑧	汚水ポンプ設備補助継電器盤	RY-2	〃
⑨	No.1汚水ポンプVVVF盤	VF-P1	〃
⑩	No.2汚水ポンプVVVF盤	VF-P2	〃
⑪	No.3汚水ポンプVVVF盤	VF-P3	〃
⑫	直流電源盤	DC-1	〃
⑬	遠方制御盤（鴨川親局）	TM-2	〃
⑭	遠方制御盤（芝川親局）	TM-1	〃
⑮	入出力装置	SQC-1	〃
⑯	入出力装置	SQC-2	〃
⑰	汎用ＵＰＳ	CV-1	〃
⑱	蓄電池盤	CV-2	〃
⑲	操作卓制御装置	DP-COT	〃
⑳	監視用補助継電器盤	RC-1	扉改造

NO.	名　　称	記　号	備　考
㉑	変換器盤	1H	既　設
㉒	分電盤	1B	〃
㉓	POD制御箱		〃
㉛	大型ディスプレイ		既　設
㉜	芝川用監視操作卓	DP	〃
㉝	データ・CRT装置（2）	CRT-2	〃
㉞	データ・CRT装置（3）	LCD-DP	〃
㉟	データ・CRT装置（1）	CRT-1	
㊱	管理用パソコン		
㊲	プリンタ	PR-1	
㊳	プリンタ	PR-2	

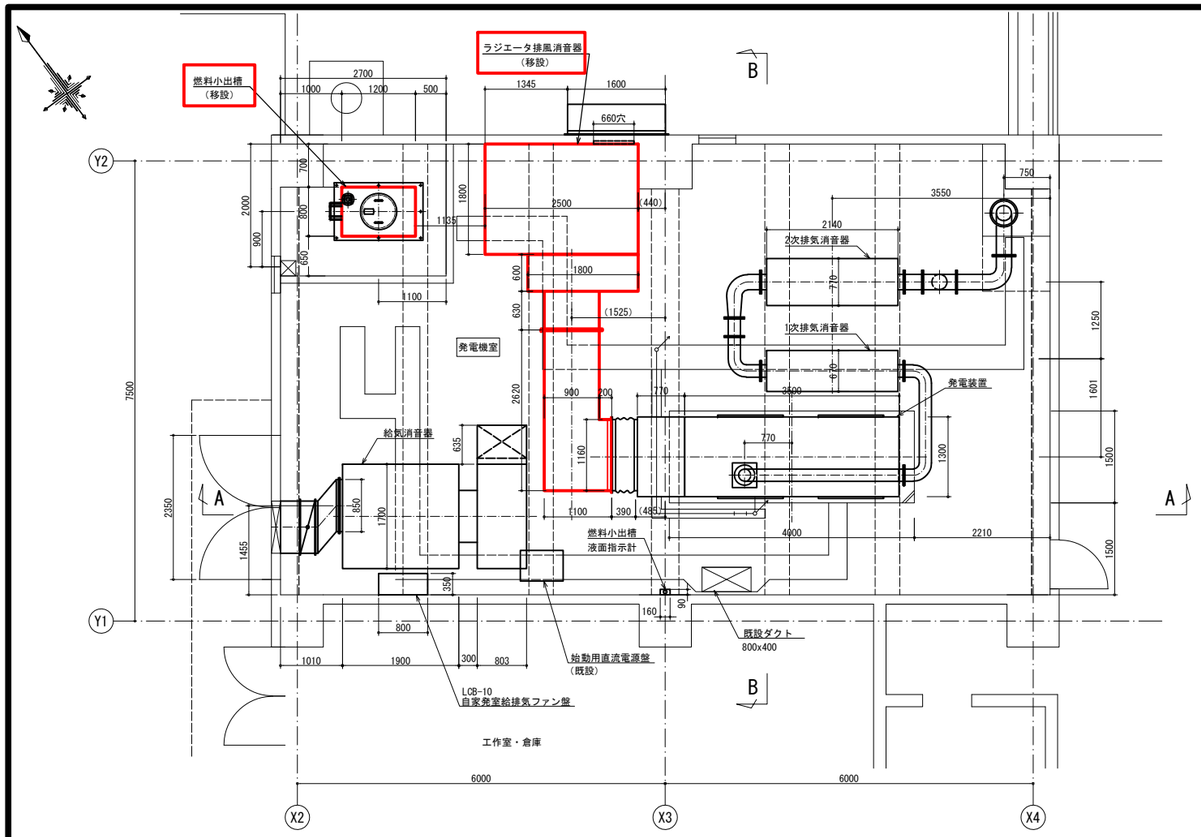


1階 平面図［改修後］ (1/100)

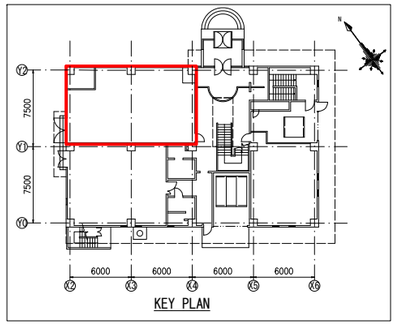
注記）

1. ［　］は今回工事を示す。
2. ［▨］は耐震補強箇所を示す。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	1階・2階平面図（改修後）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	PE-02
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

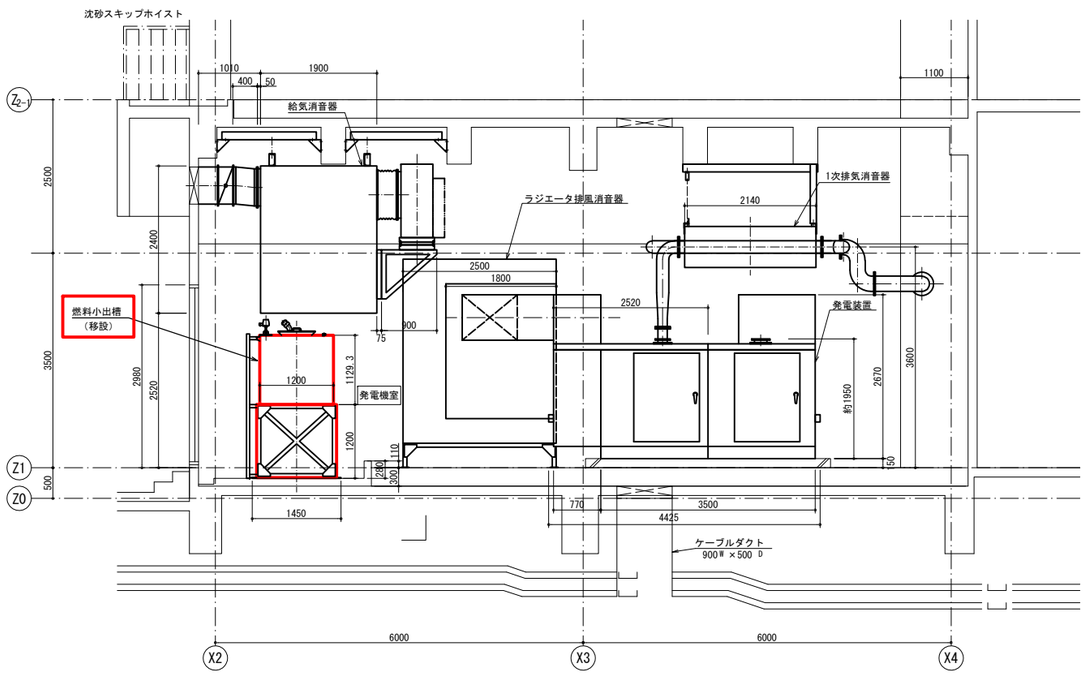


1階 平面図［改修前］（1/50）

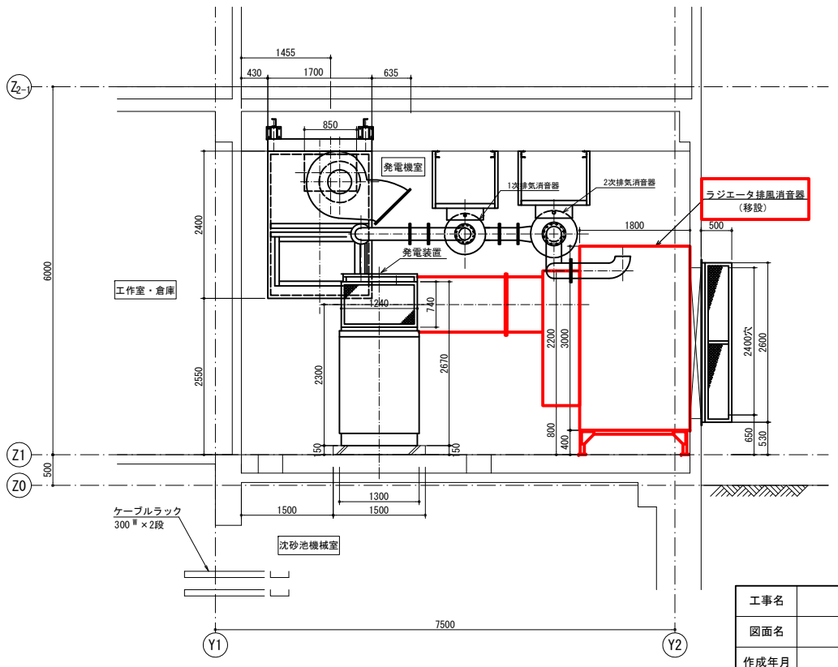


注記）

1. ［　　］は今回工事を示す。

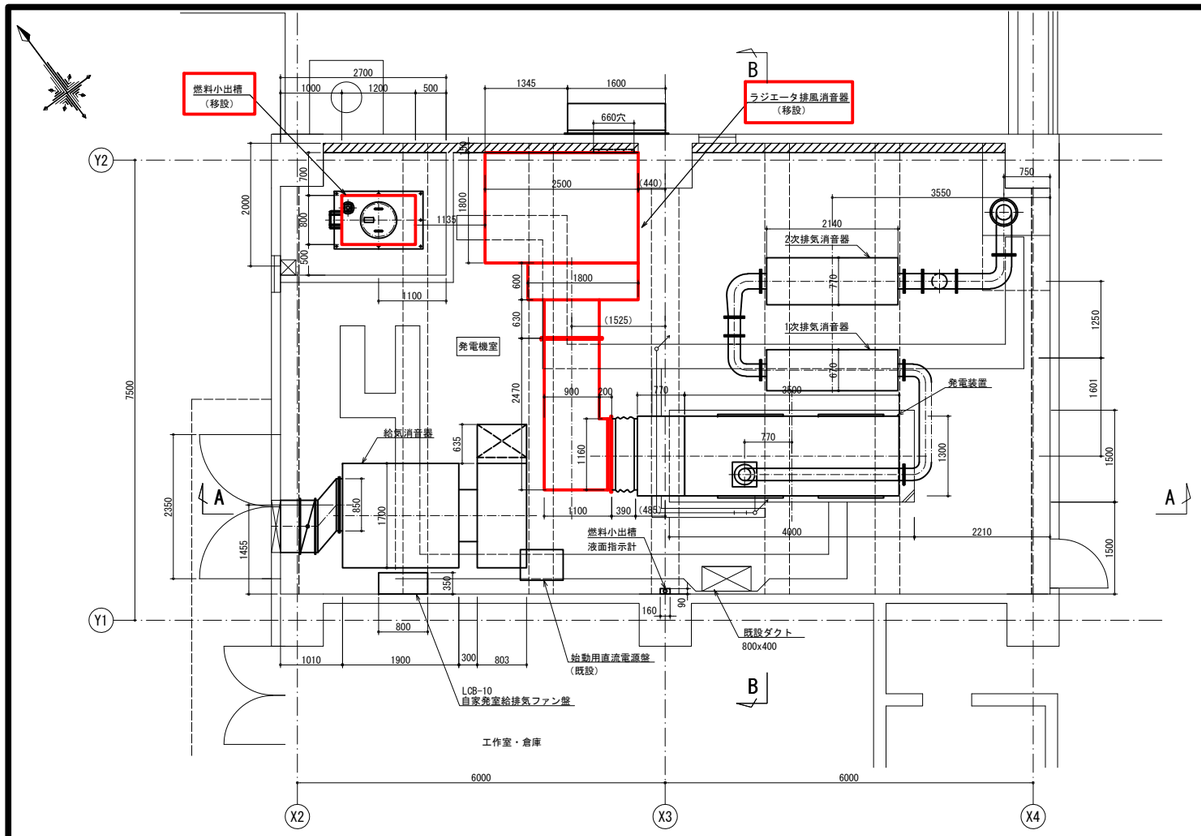


A － A 断面図［改修前］（1/50）

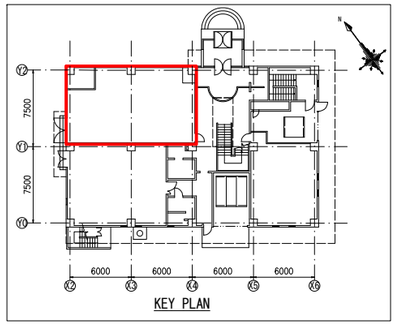


B － B 断面図［改修前］（1/50）

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	1階発電機室平面図（改修前）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	PE-03
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		



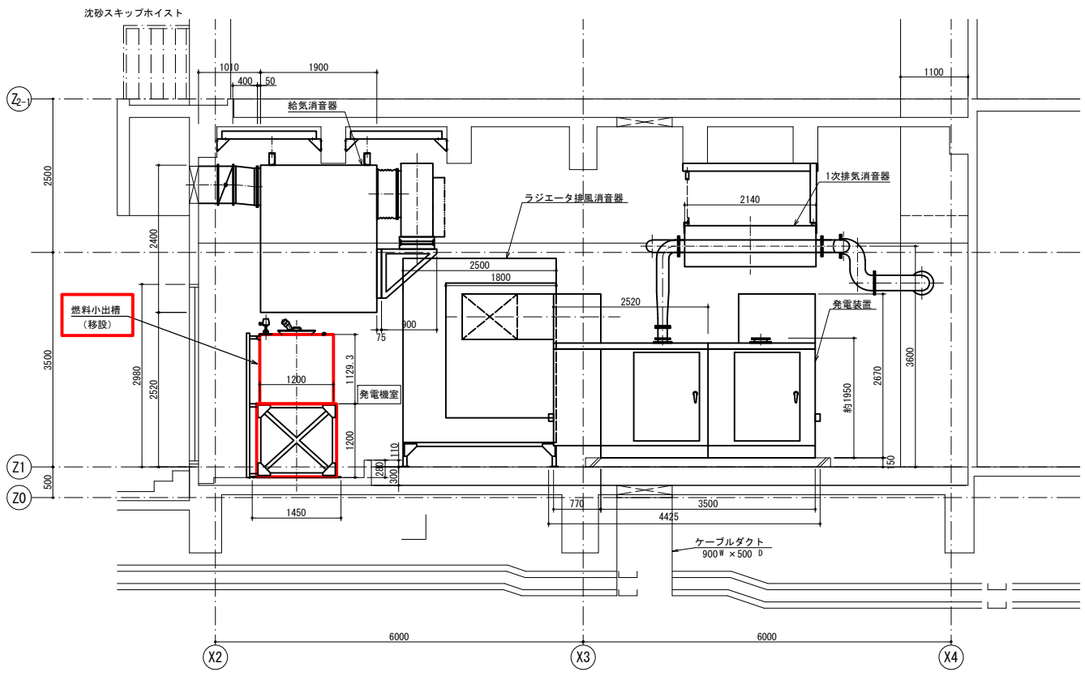
1階 平面図［改修後］（1/50）



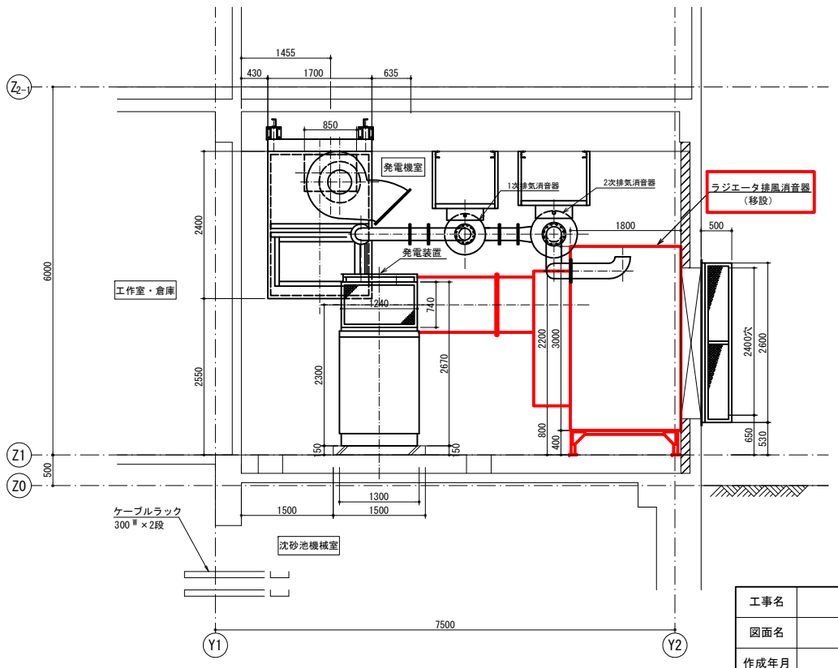
注記）

1. ▭ は今回工事を示す。

2. ▨ は耐震補強箇所を示す。

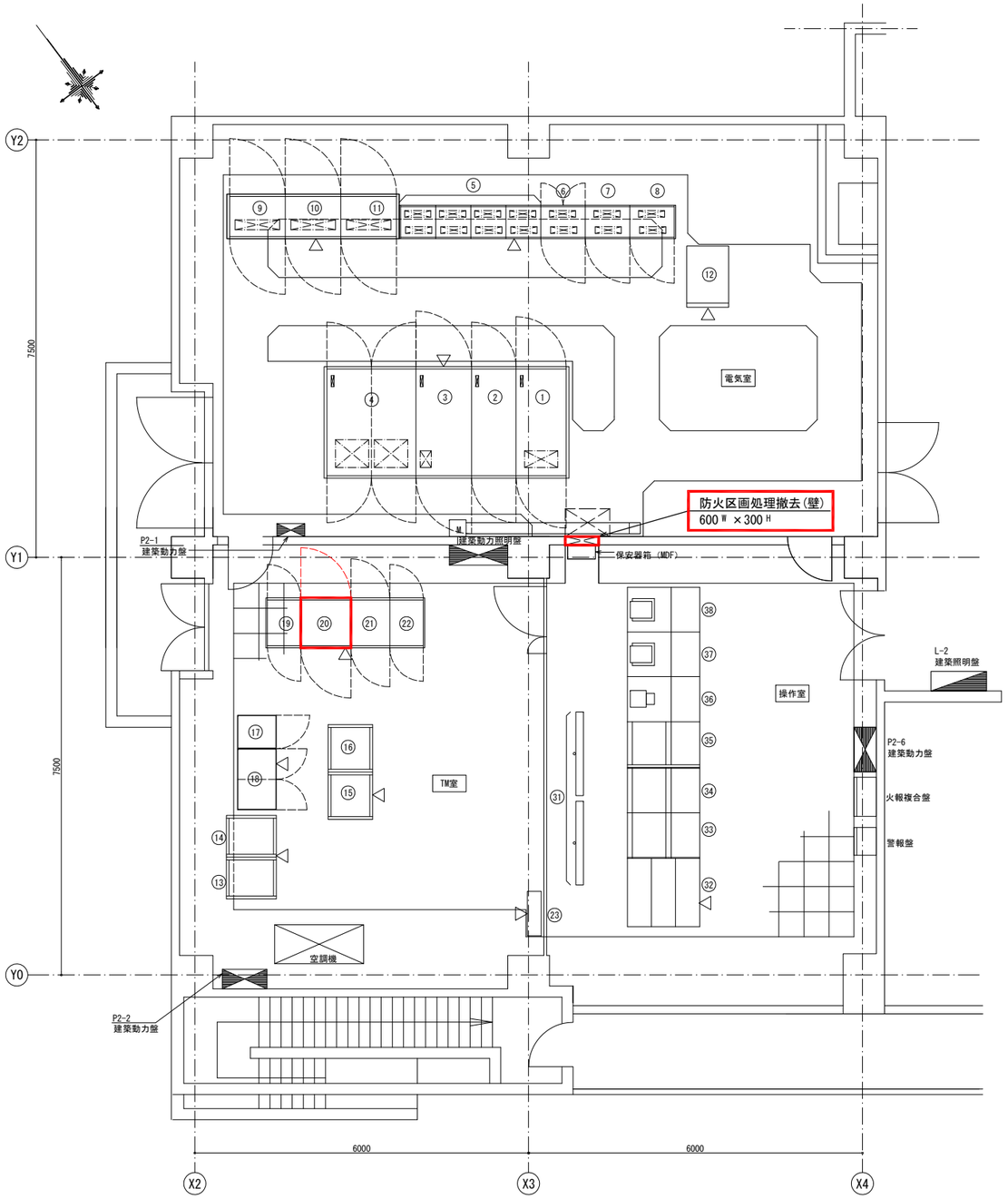


A － A 断面図［改修後］（1/50）

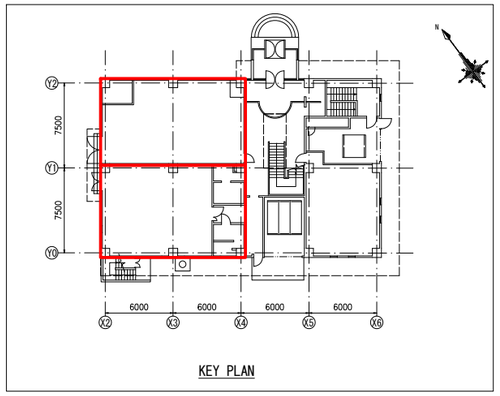


B － B 断面図［改修後］（1/50）

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	1階発電機室平面図（改修後）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	PE-04
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		



2階 平面図［改修前］ (1/50)



KEY PLAN

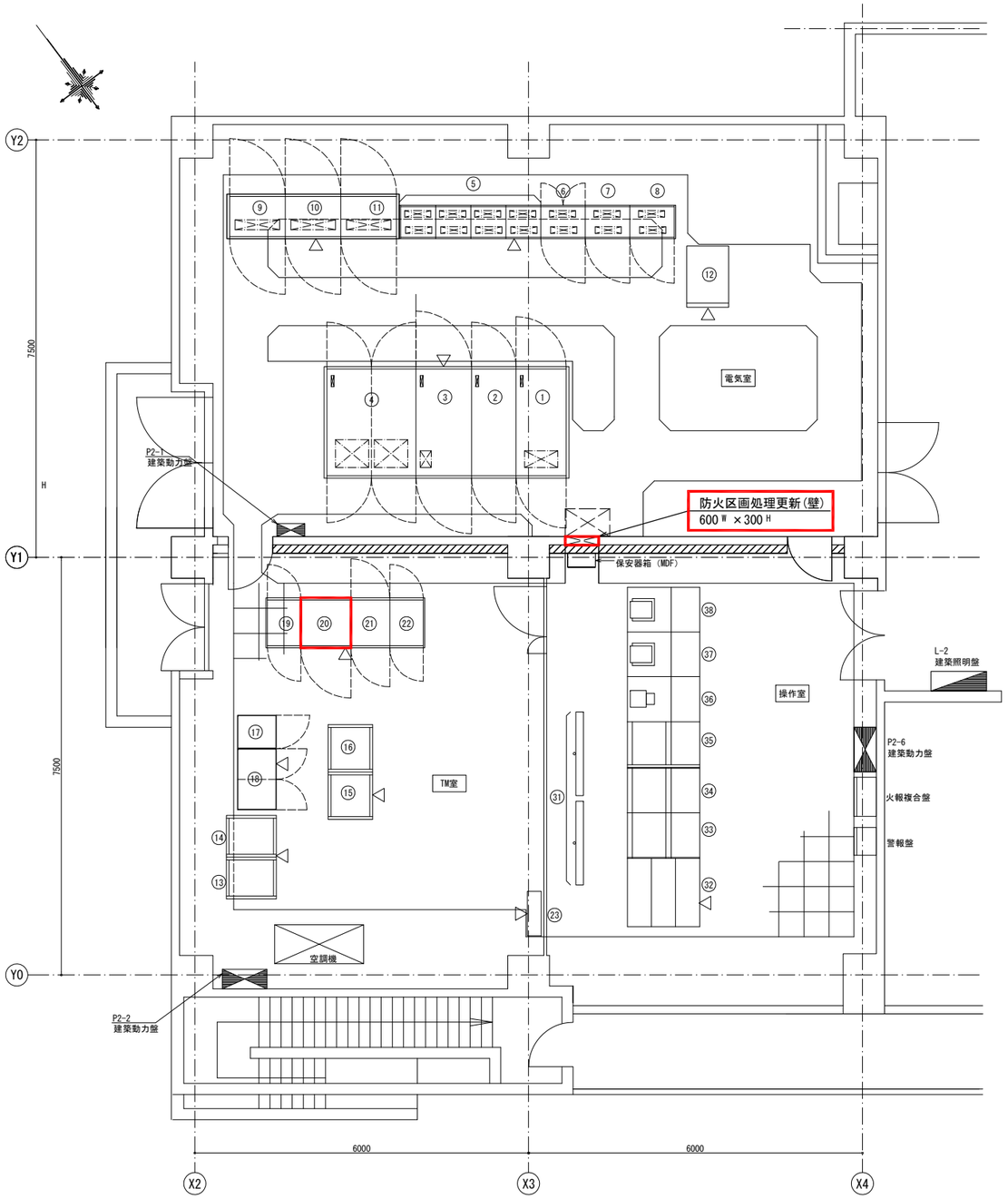
機器一覧表

NO.	名　　称	記　号	備　考
①	引込盤	HP-1	既　設
②	受電盤	HP-2	〃
③	主変圧器盤	LP-1	〃
④	低圧分岐盤	LP-2	〃
⑤	コントロールセンタ	C/C	〃
⑥	沈砂池設備（1）補助継電器盤	RY-1（1）	〃
⑦	沈砂池設備（2）補助継電器盤	RY-2（2）	〃
⑧	汚水ポンプ設備補助継電器盤	RY-2	〃
⑨	No.1汚水ポンプVVVF盤	VF-P1	〃
⑩	No.2汚水ポンプVVVF盤	VF-P2	〃
⑪	No.3汚水ポンプVVVF盤	VF-P3	〃
⑫	直流電源盤	DC-1	〃
⑬	遠方制御盤（鴨川親局）	TM-2	〃
⑭	遠方制御盤（芝川親局）	TM-1	〃
⑮	入出力装置	SOC-1	〃
⑯	入出力装置	SOC-2	〃
⑰	汎用ＵＰＳ	CV-1	〃
⑱	蓄電池盤	CV-2	〃
⑲	操作卓制御装置	DP-COT	〃
⑳	監視用補助継電器盤	RC-1	扉改造
㉑	変換器盤	1H	既　設
㉒	分電盤	1B	〃
㉓	POD制御箱		〃
㉛	大型ディスプレイ		既　設
㉜	芝川用監視操作卓	DP	〃
㉝	データ・CRT装置（2）	CRT-2	〃
㉞	データ・CRT装置（3）	LCD-DP	〃
㉟	データ・CRT装置（1）	CRT-1	〃
㊱	管理用パソコン		〃
㊲	プリンタ	PR-1	〃
㊳	プリンタ	PR-2	〃

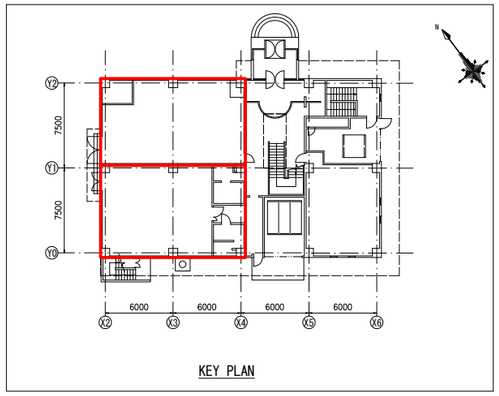
注記）

1. ［　　］は今回工事を示す。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	2階電気室・操作室平面図（改修前）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	PE-05
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		



2階 平面図［改修後］ (1/50)



KEY PLAN

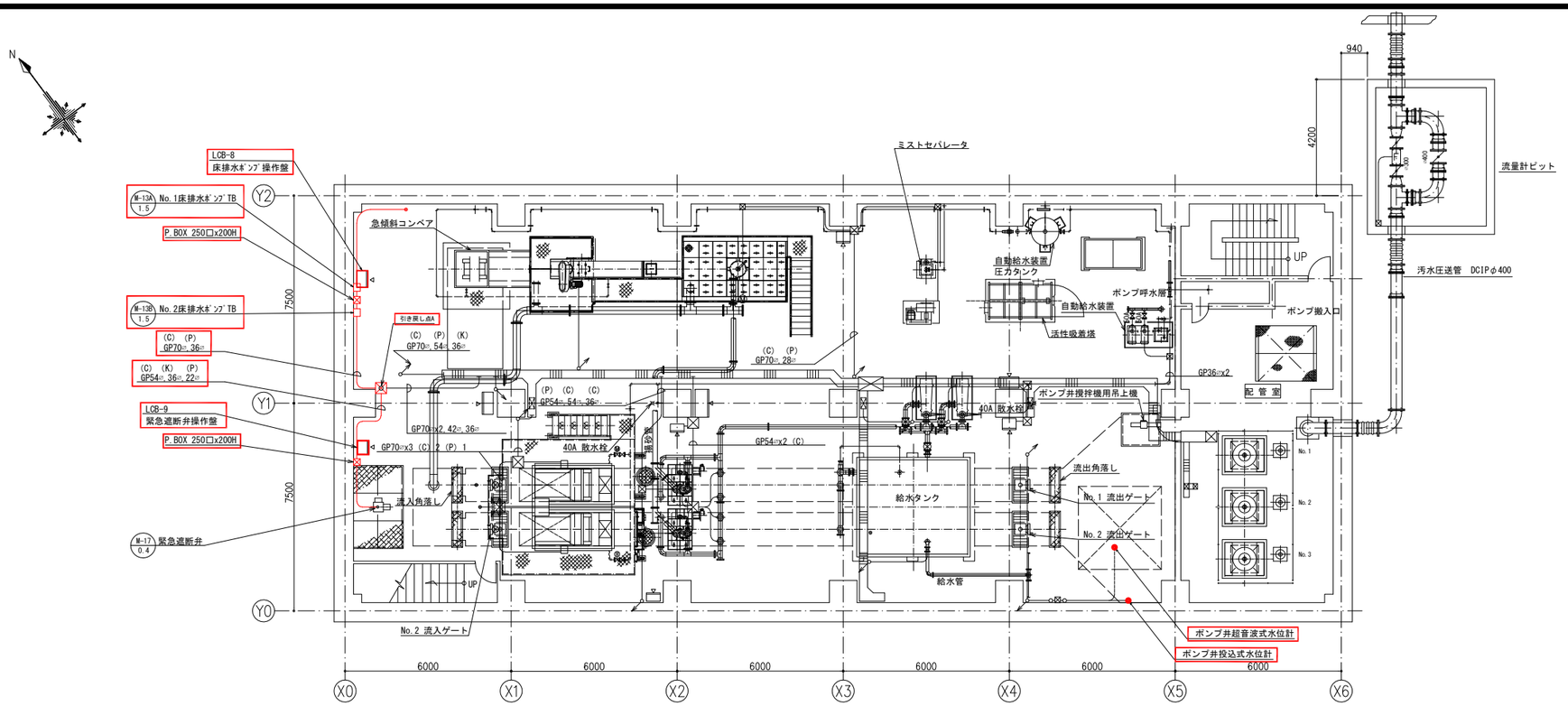
機器一覧表

NO.	名　　称	記　号	備　考
①	引込盤	HP-1	既　設
②	受電盤	HP-2	〃
③	主変圧器盤	LP-1	〃
④	低圧分岐盤	LP-2	〃
⑤	コントロールセンタ	C/C	〃
⑥	沈砂池設備（1）補助継電器盤	RY-1（1）	〃
⑦	沈砂池設備（2）補助継電器盤	RY-2（2）	〃
⑧	汚水ポンプ設備補助継電器盤	RY-2	〃
⑨	No.1汚水ポンプVVVF盤	VF-P1	〃
⑩	No.2汚水ポンプVVVF盤	VF-P2	〃
⑪	No.3汚水ポンプVVVF盤	VF-P3	〃
⑫	直流電源盤	DC-1	〃
⑬	遠方制御盤（鴨川親局）	TM-2	〃
⑭	遠方制御盤（芝川親局）	TM-1	〃
⑮	入出力装置	SOC-1	〃
⑯	入出力装置	SOC-2	〃
⑰	汎用ＵＰＳ	CV-1	〃
⑱	蓄電池盤	CV-2	〃
⑲	操作卓制御装置	DP-COT	〃
⑳	監視用補助継電器盤	RC-1	扉改造
㉑	変換器盤	1H	既　設
㉒	分電盤	1B	〃
㉓	POD制御箱		〃
㉛	大型ディスプレイ		既　設
㉜	芝川用監視操作卓	DP	〃
㉝	データ・CRT装置（2）	CRT-2	〃
㉞	データ・CRT装置（3）	LCD-DP	〃
㉟	データ・CRT装置（1）	CRT-1	〃
㊱	管理用パソコン		〃
㊲	プリンタ	PR-1	〃
㊳	プリンタ	PR-2	〃

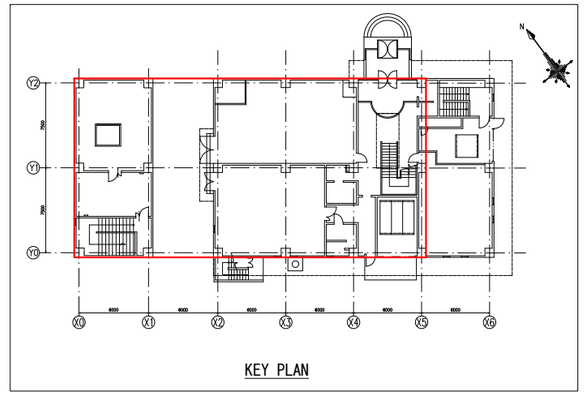
注記）

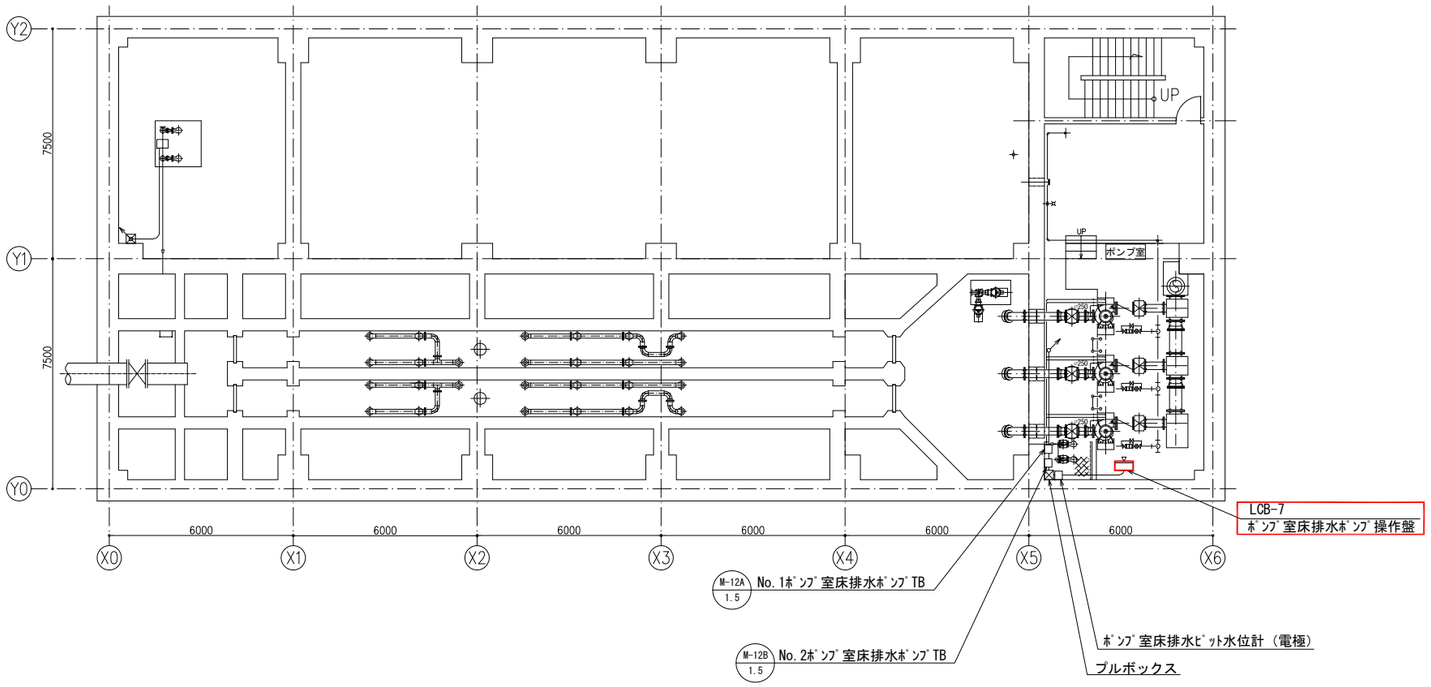
1. ▭ は今回工事を示す。
2. ケーブルが不足した場合は直接接続を施すこと。
3. ▨ は耐震補強箇所を示す。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	2階電気室・操作室平面図（改修後）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	PE-06
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		



地下1階 平面図 (1/100)



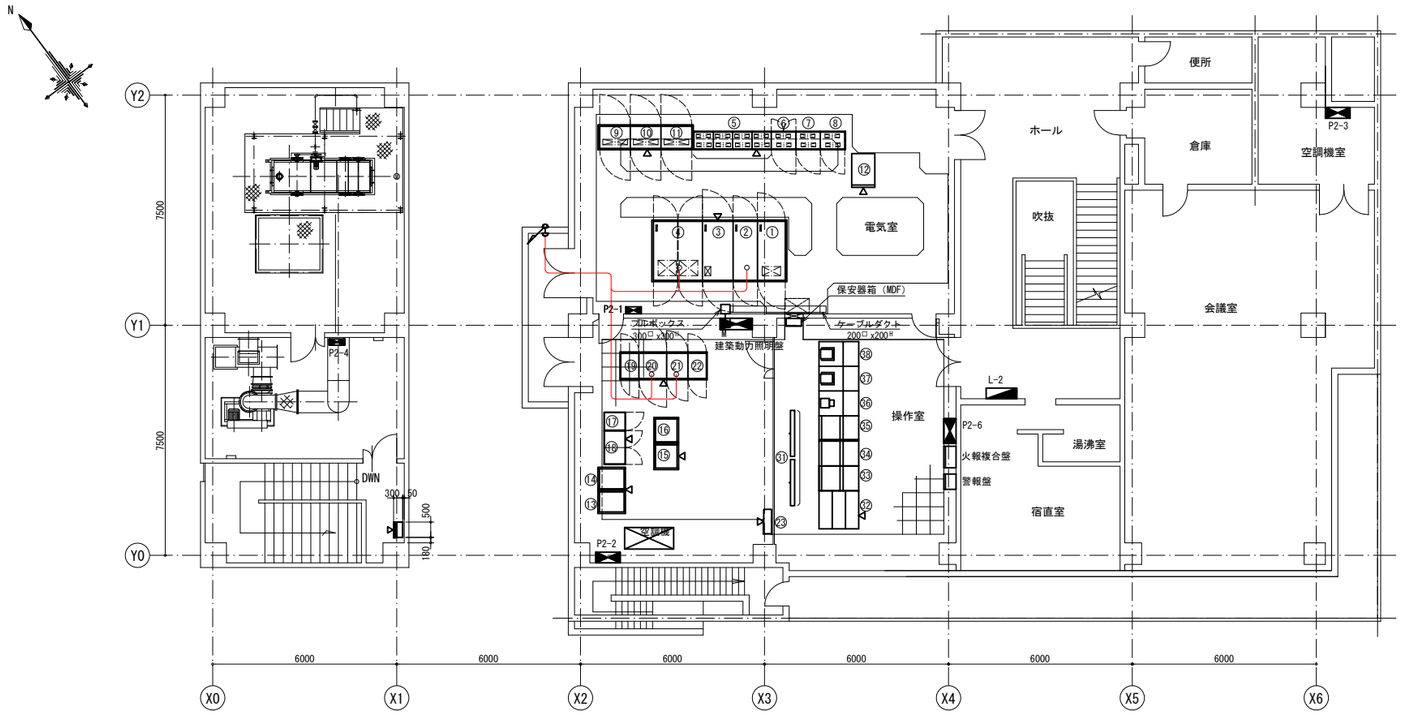


地下2階 平面図 (1/100)

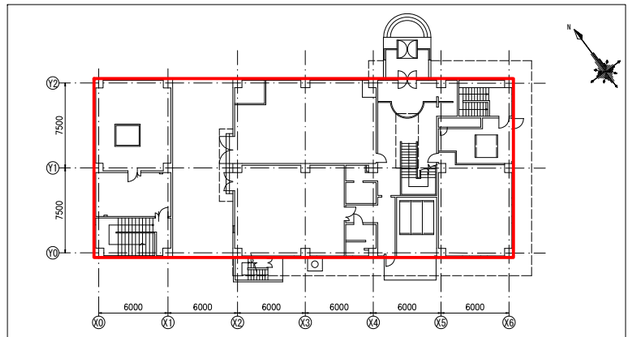
注記）

1. [red box] は今回工事(取外し再取付)を示す。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	地下1階・地下2階平面図（取外し再取付）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	PE-07
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		



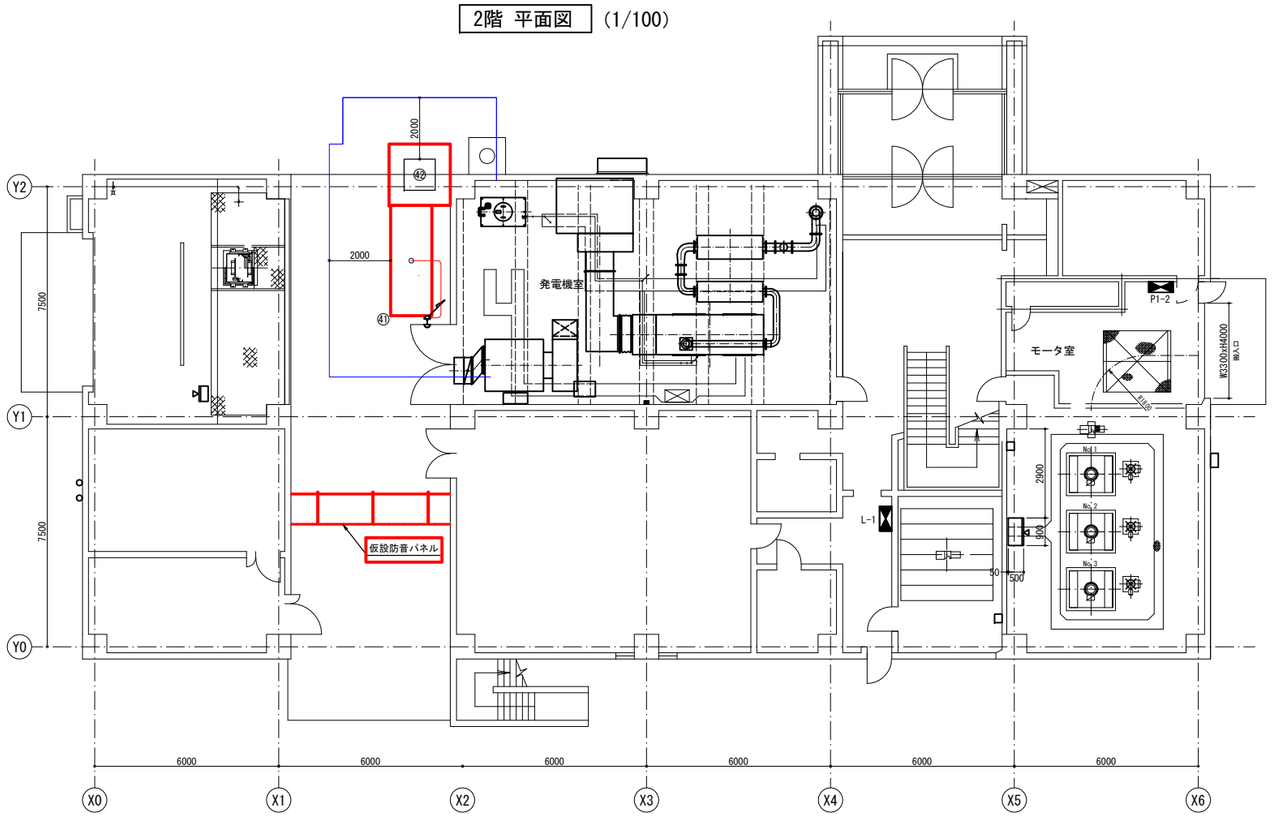
2階 平面図 (1/100)



機器一覧表

NO.	名　　称	記　号	備　考
①	引込盤	HP-1	既　設
②	受電盤	HP-2	〃
③	主変圧器盤	LP-1	〃
④	低圧分岐盤	LP-2	〃
⑤	コントロールセンタ	C/C	〃
⑥	沈砂池設備（1）補助継電器盤	RY-1（1）	〃
⑦	沈砂池設備（2）補助継電器盤	RY-2（2）	〃
⑧	汚水ポンプ設備補助継電器盤	RY-2	〃
⑨	No.1汚水ポンプVVVF盤	VF-P1	〃
⑩	No.2汚水ポンプVVVF盤	VF-P2	〃
⑪	No.3汚水ポンプVVVF盤	VF-P3	〃
⑫	直流電源盤	DC-1	〃
⑬	遠方制御盤（鴨川親局）	TM-2	〃
⑭	遠方制御盤（芝川親局）	TM-1	〃
⑮	入出力装置	SQC-1	〃
⑯	入出力装置	SQC-2	〃
⑰	汎用ＵＰＳ	CV-1	〃
⑱	蓄電池盤	CV-2	〃
⑲	操作卓制御装置	DP-COT	〃
⑳	監視用補助継電器盤	RC-1	〃

NO.	名　　称	記　号	備　考
㉑	変換器盤	1H	既　設
㉒	分電盤	1B	〃
㉓	POD制御箱		〃
㉛	大型ディスプレイ		既　設
㉜	芝川用監視操作卓	DP	〃
㉝	データ・CRT装置（2）	CRT-2	〃
㉞	データ・CRT装置（3）	LCD-DP	〃
㉟	データ・CRT装置（1）	CRT-1	〃
㊱	管理用パソコン		〃
㊲	プリンタ	PR-1	〃
㊳	プリンタ	PR-2	〃
㊶	仮設発電機(200kVA)		仮　設
㊷	仮設燃料小出槽(950L)		仮　設

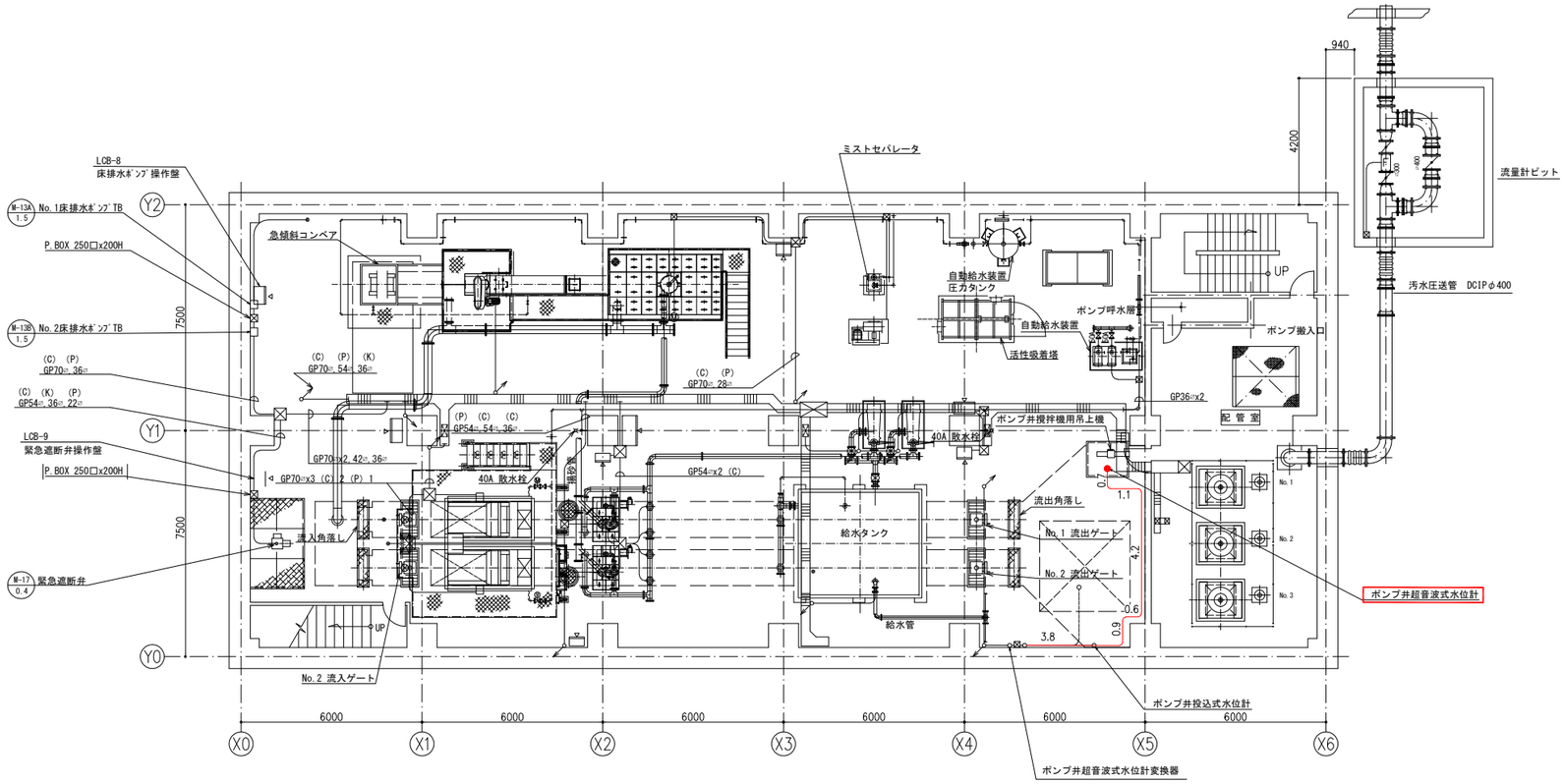


1階 平面図 (1/100)

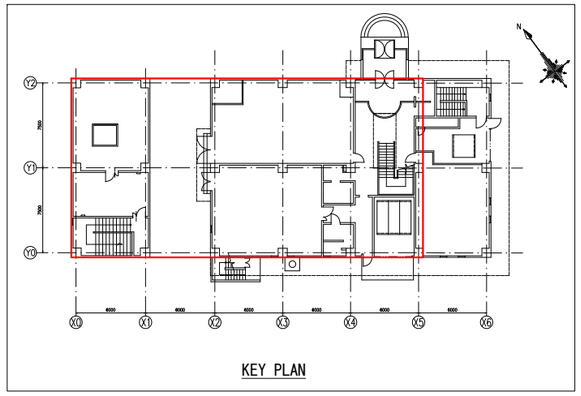
注記）

1. 　　は今回工事(仮設)を示す。
2. 　10号消火器(ABC)を1本設置すること。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	1階・2階平面図（仮設図）		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	PE-08
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		



地下1階 平面図 (1/100)



注記)

1. ▭ は今回工事(仮設)を示す。
2. 土木工事期間中のみ既設ポンプ井超音波式水位計の移設を行う。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	地下1階平面図 (仮設図)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	PE-09
設計者	株式会社 日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県 上尾市		

芝川ポンプ場（改修）（ 1/ 1）　　配　線　表

配線番号	自 記号	自 名称	至 記号	至 名称	配線仕様 種別、サイズ、芯数、本数	端末 屋外	端末 屋内	接地線 種別、サイズ	電線管 種別、サイズ、本数	備考
Ⅱ 1	LCB-9	緊急しゃ断弁操作盤		引き戻し点A	CVV-S 2□ - 2C				GP 36㎜	
Ⅱ 2	〃	〃		〃	CVV 2□ - 15C					
Ⅱ 3	〃	〃		〃	CVV 2□ - 10C					
Ⅱ 4	〃	〃		緊急遮断弁	CVV-S 2□ - 2C					
Ⅱ 5	〃	〃		引き戻し点A	600VCV 3.5□ - 2C					
Ⅱ 6	〃	〃	LCB-8	床排水ﾎﾟﾝﾌﾟ操作盤	600VCV 3.5□ - 2C					
Ⅱ 7		緊急遮断弁		引き戻し点A	600VCV 3.5□ - 1C					
Ⅱ 8	LCB-9	緊急しゃ断弁操作盤		〃	CVV 2□ - 15C					
Ⅱ 9	〃	〃		〃	CVV 2□ - 10C					
Ⅱ 10		緊急遮断弁(LS)		〃	CVV 2□ - 2C					
Ⅱ 11	LCB-9	緊急しゃ断弁操作盤		〃	600VCV 3.5□ - 2C					
Ⅱ 12		緊急遮断弁開度計		〃	600VCV 3.5□ - 2C					
Ⅱ 13	LCB-9	緊急しゃ断弁操作盤		〃	CVV-S 2□ - 2C					
Ⅱ 14	M-17			〃	600VCV 3.5□ - 2C				GP 22㎜	
Ⅱ 15	〃		LCB-9	緊急しゃ断弁操作盤	CVV-S 2□ - 2C					
Ⅱ 16	〃			引き戻し点A	CVV 2□ - 12C				GP 54㎜	
Ⅱ 17	LCB-9	緊急しゃ断弁操作盤	LCB-8	床排水ﾎﾟﾝﾌﾟ操作盤	600VCV 3.5□ - 2C					
Ⅱ 18	LCB-8	床排水ﾎﾟﾝﾌﾟ操作盤		引き戻し点A	CVV 3.5□ - 4C				GP 70㎜	
Ⅱ 19	〃	〃		〃	CVV 2□ - 20C					
Ⅱ 20	〃	〃		〃	CVV 2□ - 15C					
Ⅱ 21	〃	〃		〃	CVV 2□ - 20C					
Ⅱ 22	〃	〃		〃	CVV 2□ - 15C					
Ⅱ 23	〃	〃		〃	CVV 3.5□ - 4C					
Ⅱ 24	M-13A			〃	600VCV 3.5□ - 3C					
Ⅱ 25	〃			〃	IV 3.5□					
Ⅱ 26	M-13B			〃	600VCV 3.5□ - 3C					
Ⅱ 27	〃			〃	IV 3.5□					
Ⅱ 28	M-13			〃	CVV 2□ - 6C					

芝川ポンプ場（撤去）（ 1/ 1）　　配　線　表

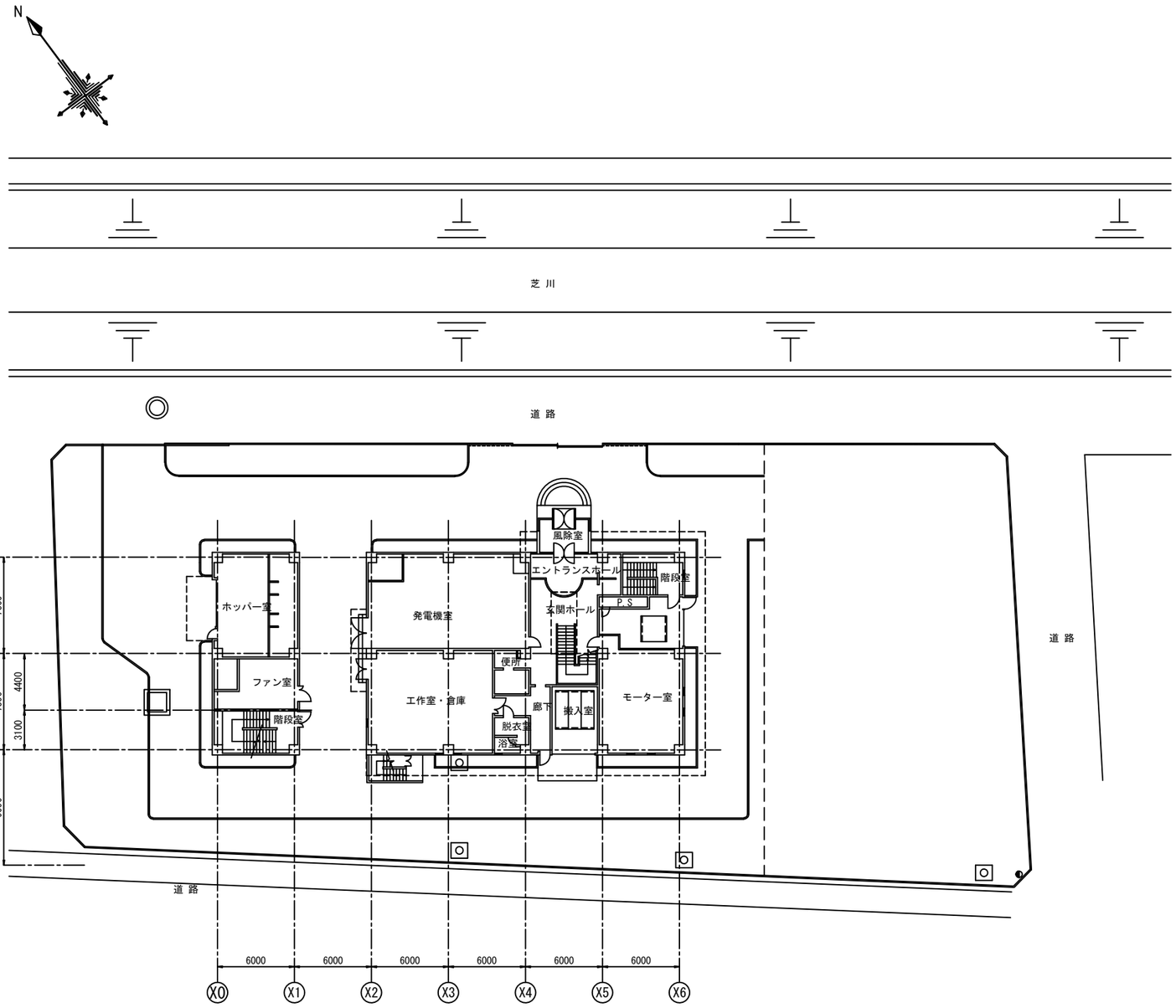
配線番号	自 記号	自 名称	至 記号	至 名称	配線仕様 種別、サイズ、芯数、本数	端末 屋外	端末 屋内	接地線 種別、サイズ	電線管 種別、サイズ、本数	備考
S 1	LCB-9	緊急しゃ断弁操作盤		引き戻し点A	CVV-S 2□ - 2C				GP 36㎜	
S 2	〃	〃		〃	CVV 2□ - 15C					
S 3	〃	〃		〃	CVV 2□ - 10C					
S 4	〃	〃		緊急遮断弁	CVV-S 2□ - 2C					
S 5	〃	〃		引き戻し点A	600VCV 3.5□ - 2C					
S 6	〃	〃	LCB-8	床排水ﾎﾟﾝﾌﾟ操作盤	600VCV 3.5□ - 2C					
S 7		緊急遮断弁		引き戻し点A	600VCV 3.5□ - 1C					
S 8	LCB-9	緊急しゃ断弁操作盤		〃	CVV 2□ - 15C					
S 9	〃	〃		〃	CVV 2□ - 10C					
S 10		緊急遮断弁(LS)		〃	CVV 2□ - 2C					
S 11	LCB-9	緊急しゃ断弁操作盤		〃	600VCV 3.5□ - 2C					
S 12		緊急遮断弁開度計		〃	600VCV 3.5□ - 2C					
S 13	LCB-9	緊急しゃ断弁操作盤		〃	CVV-S 2□ - 2C					
S 14	M-17			〃	600VCV 3.5□ - 2C				GP 22㎜	
S 15	〃		LCB-9	緊急しゃ断弁操作盤	CVV-S 2□ - 2C					
S 16	〃			引き戻し点A	CVV 2□ - 12C				GP 54㎜	
S 17	LCB-9	緊急しゃ断弁操作盤	LCB-8	床排水ﾎﾟﾝﾌﾟ操作盤	600VCV 3.5□ - 2C					
S 18	LCB-8	床排水ﾎﾟﾝﾌﾟ操作盤		引き戻し点A	CVV 3.5□ - 4C				GP 70㎜	
S 19	〃	〃		〃	CVV 2□ - 20C					
S 20	〃	〃		〃	CVV 2□ - 15C					
S 21	〃	〃		〃	CVV 2□ - 20C					
S 22	〃	〃		〃	CVV 2□ - 15C					
S 23	〃	〃		〃	CVV 3.5□ - 4C					
S 24	M-13A			〃	600VCV 3.5□ - 3C					
S 25	〃			〃	IV 3.5□					
S 26	M-13B			〃	600VCV 3.5□ - 3C					
S 27	〃			〃	IV 3.5□					
S 28	M-13			〃	CVV 2□ - 6C					

芝川ポンプ場（仮設）（ 1/ 1）　　配　線　表

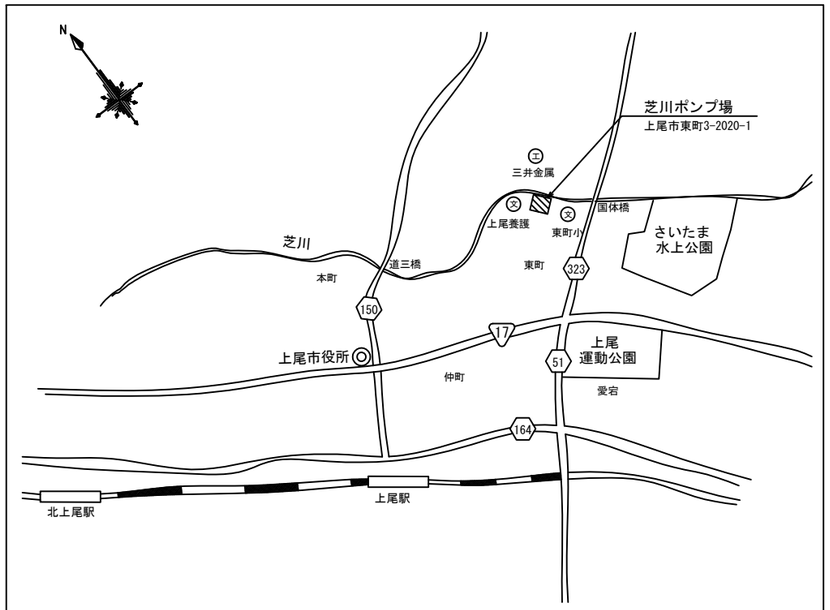
配線番号	自 記号	自 名称	至 記号	至 名称	配線仕様 種別、サイズ、芯数、本数	端末 屋外	端末 屋内	接地線 種別、サイズ	電線管 種別、サイズ、本数	備考
T 1		仮設ディーゼル発電機	LP-2	低圧分岐盤	600VCVT 200□ x 2	2	2	EM-IE 60□		
T 2		〃	〃	〃	600VCV 5.5□ - 3C					
T 3		〃	〃	〃	CVV 2□ - 2C					
T 4		〃	HP-2	受電盤	CVV 2□ - 4C					
T 5		〃	RC-1	監視用補助継電器盤	CVV 2□ - 4C					
T 6		〃	〃	〃	CVV 2□ - 20C					
T 7		〃	1H	変換器盤	CVV 3.5□ - 2C x 3					
8		ポンプ井超音波式水位計変換器		ポンプ井超音波式水位計	専用ケーブル				GP 22㎜	
		〃		〃	CVV 3.5□ - 2C				GP 22㎜	
		〃		〃	CVV-S 2□ - 2C				GP 22㎜	
R		〃		〃	専用ケーブル				GP 22㎜	
R		〃		〃	CVV 3.5□ - 2C				GP 22㎜	
R		〃		〃	CVV-S 2□ - 2C				GP 22㎜	

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	配線表		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	―	図面番号	PE-10
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

一般平面図・案内図



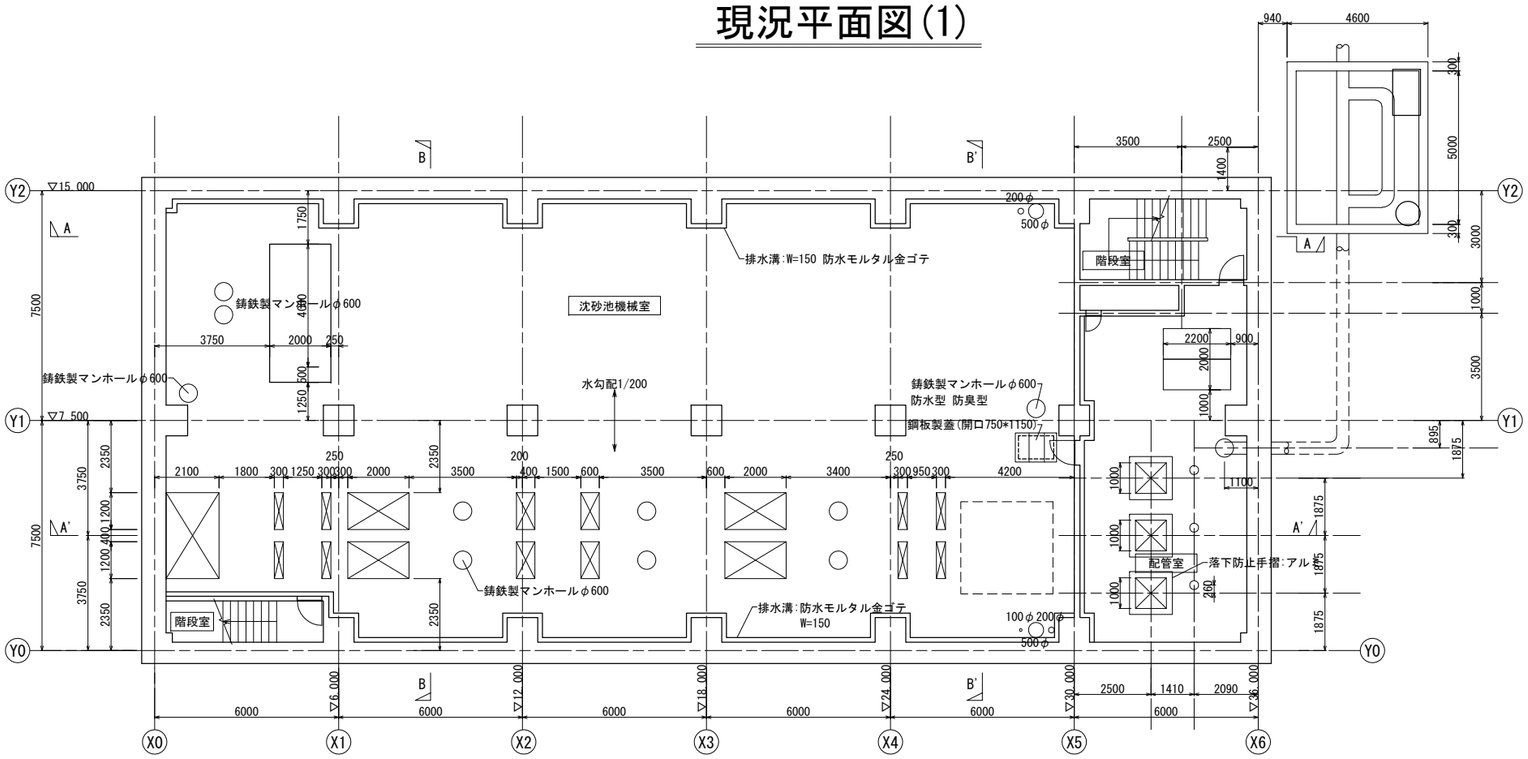
一般平面図　S=1/200



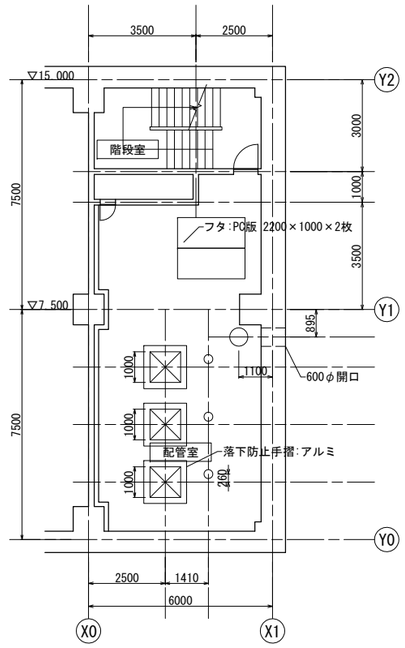
案 内 図

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	一般平面図・案内図		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/200	図面番号	C-01
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

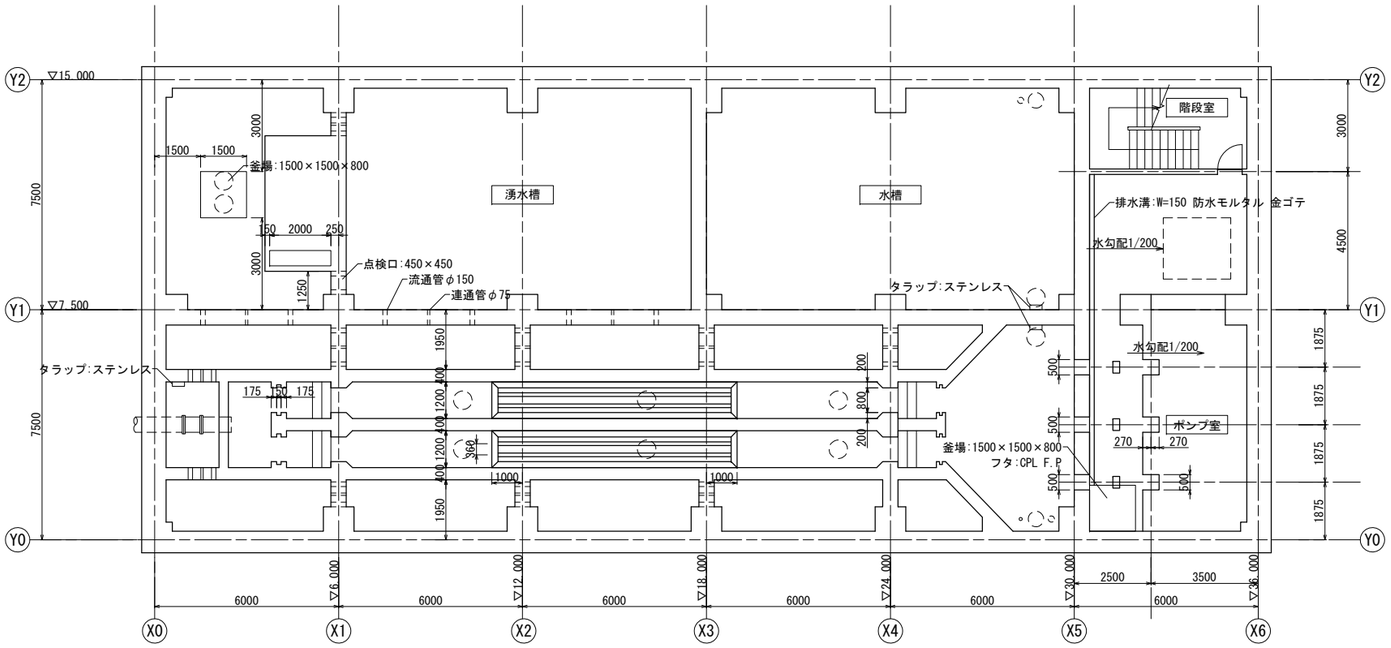
現況平面図(1)



地下1階平面図 1/100



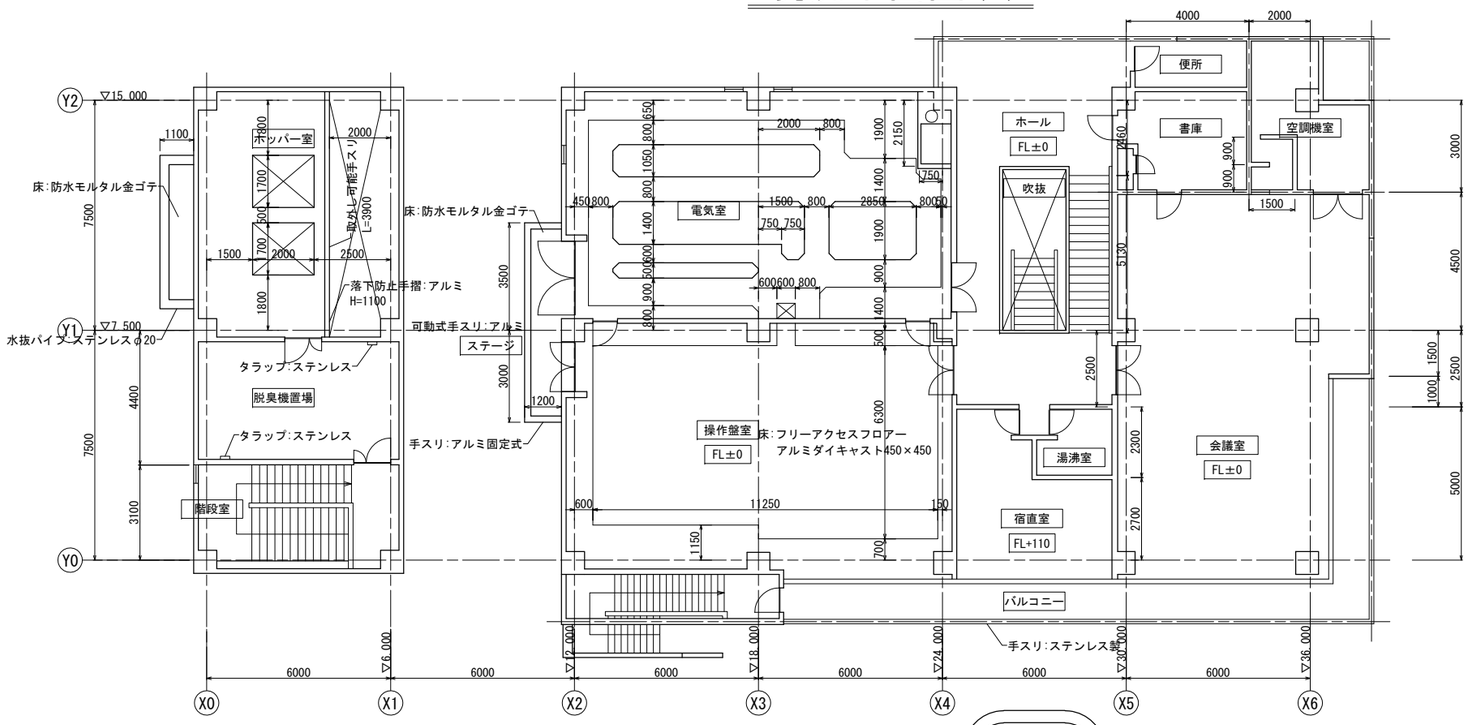
中1階平面図 1/100



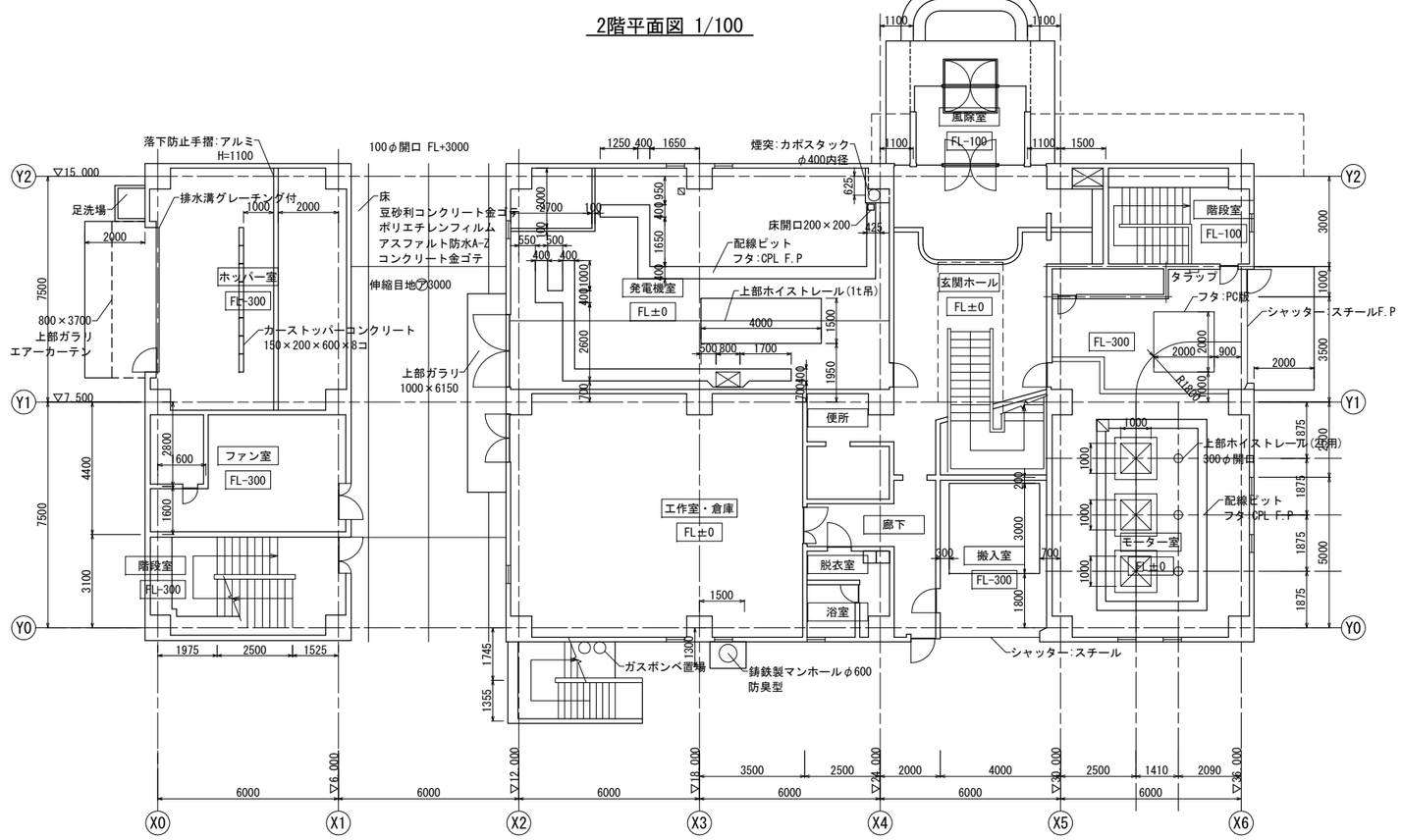
地下2階平面図 1/100

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	現況平面図(1)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	C-02
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

現況平面図(2)



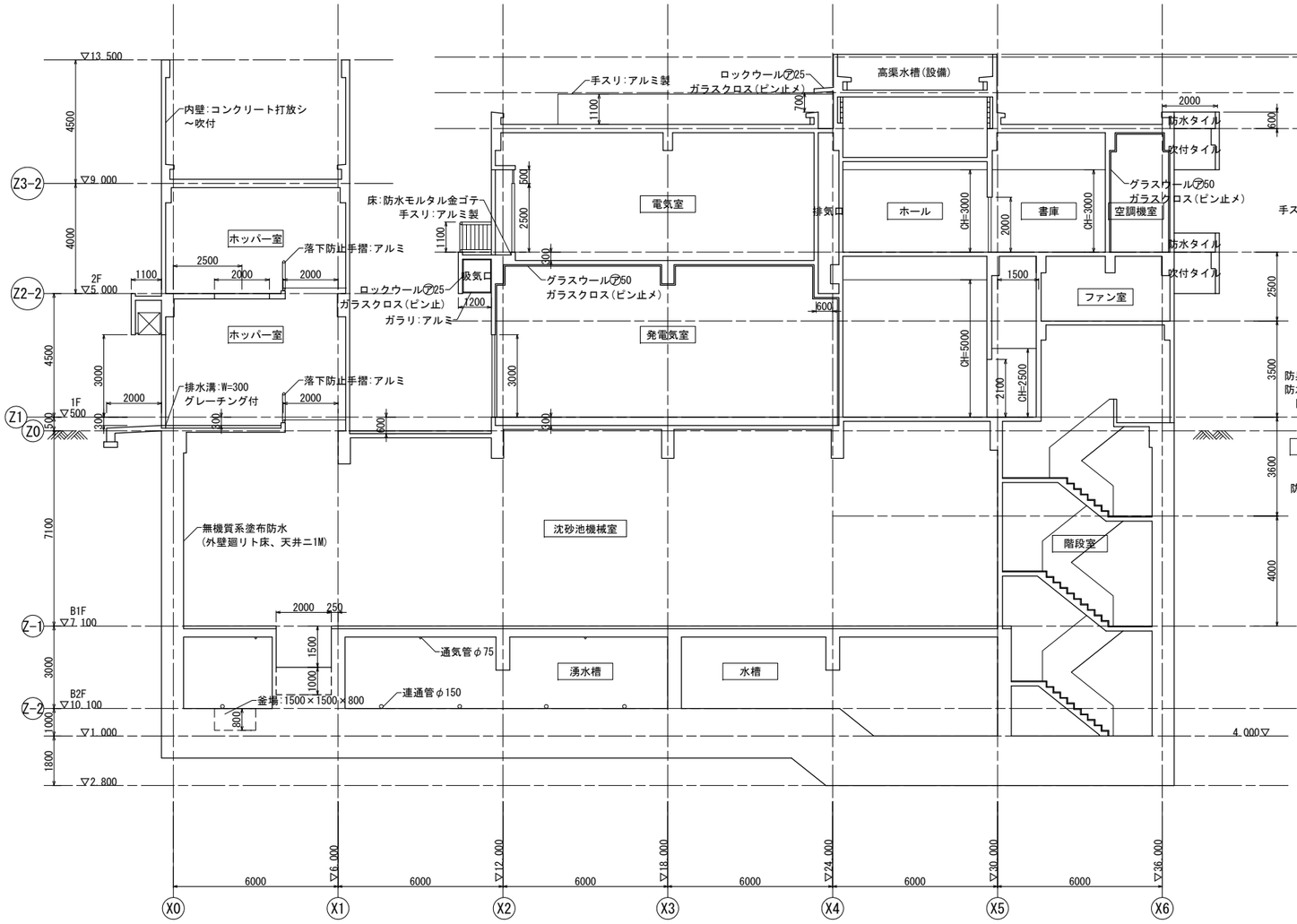
2階平面図 1/100



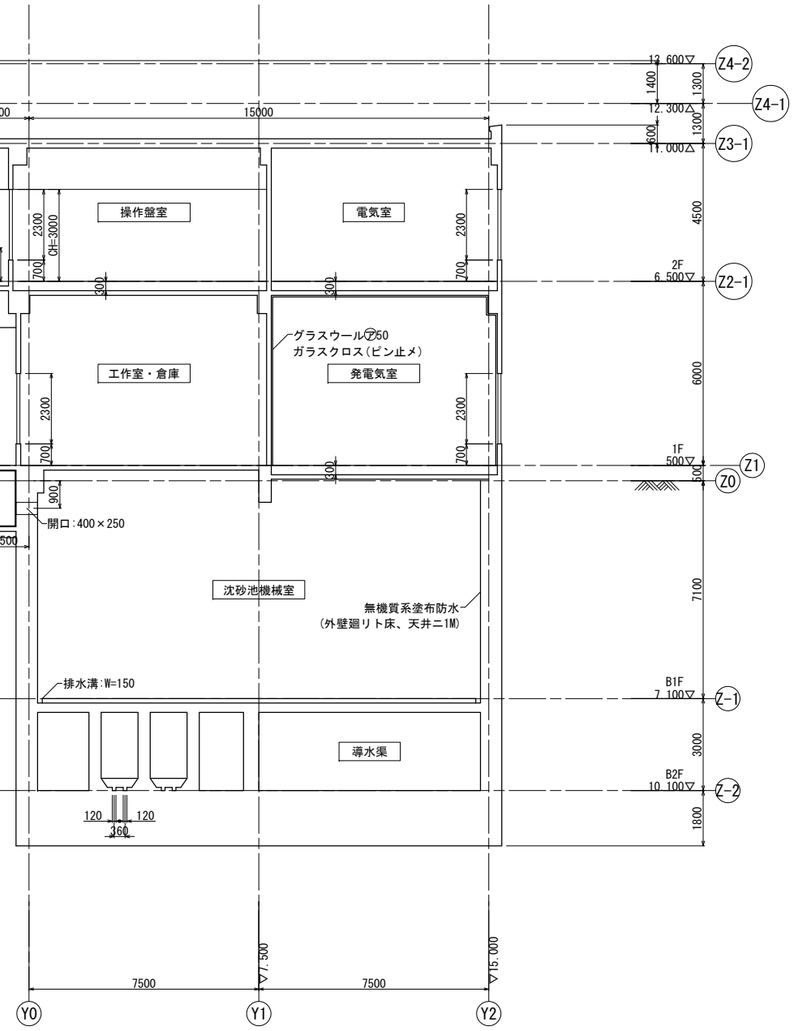
1階平面図 1/100

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	現況平面図(2)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	C-03
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

現況断面図(1)



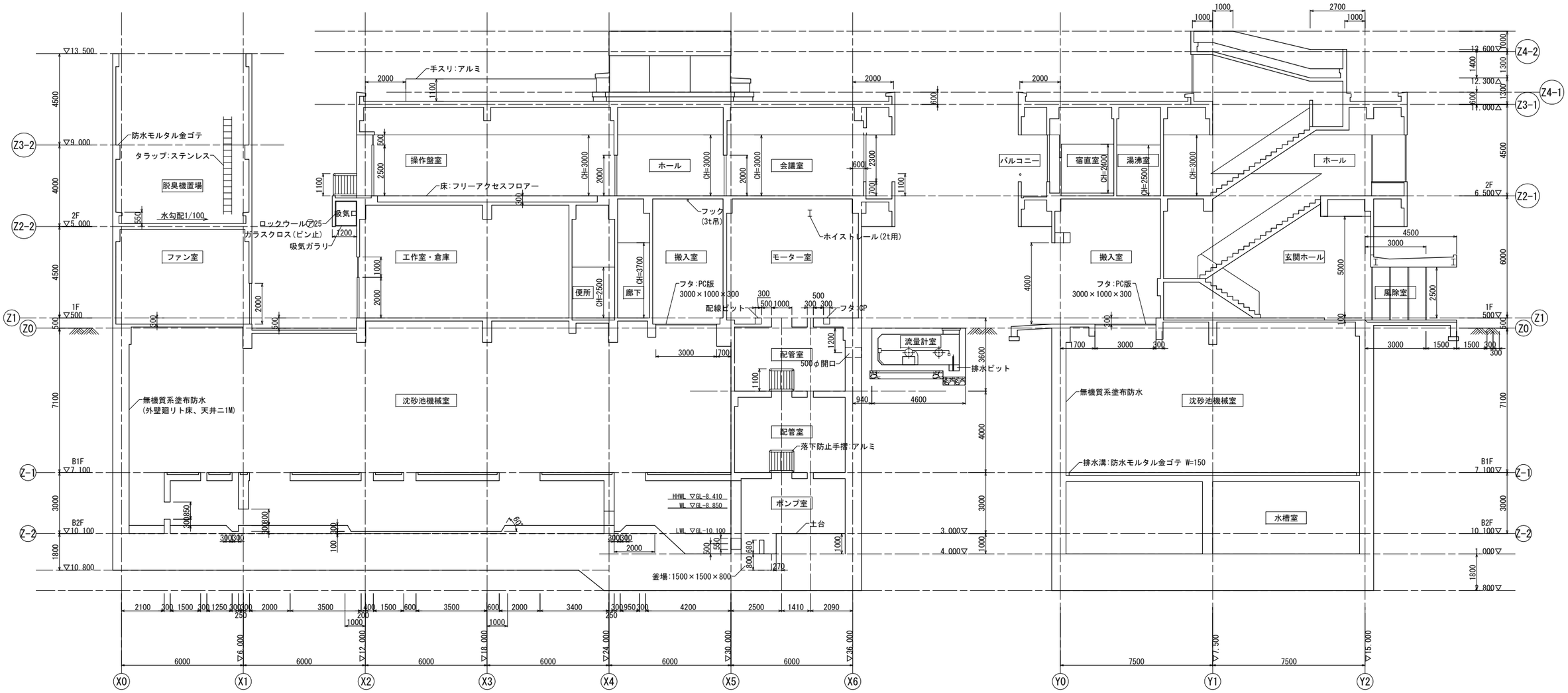
A-A断面図 1/100



B-B断面図 1/100

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	現況断面図(1)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	C-04
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

現況断面図(2)

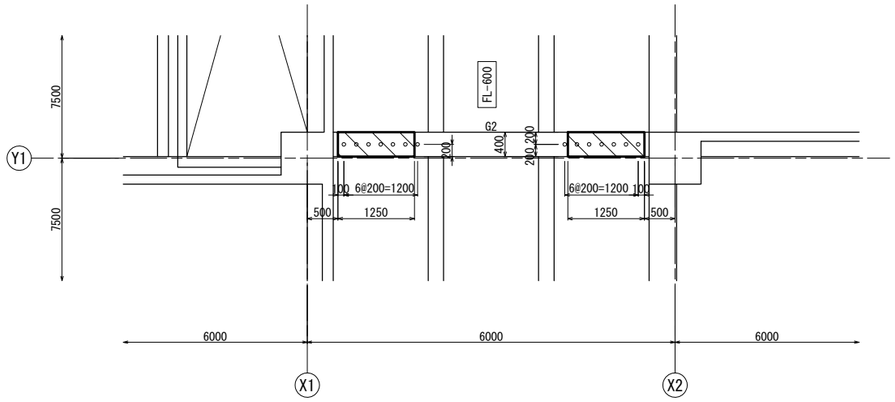


A'-A'断面図 1/100

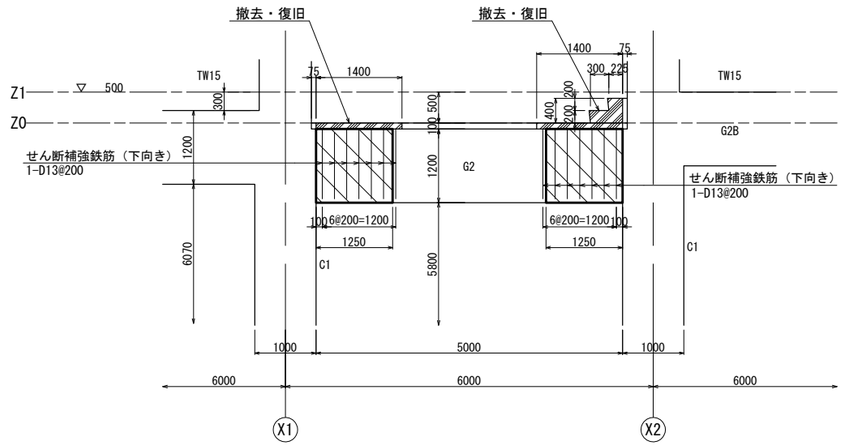
B'-B'断面図 1/100

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	現況断面図(2)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	C-05
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

芝川ポンプ場補強配筋図　梁(1)

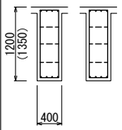


平面図 1/50



A-A断面図 1/50

大梁リスト　[注記] 特記外 1. 腹筋　2-D13
2. スターラップ　□-D13@200
3. 巾止筋　▽-D10@800

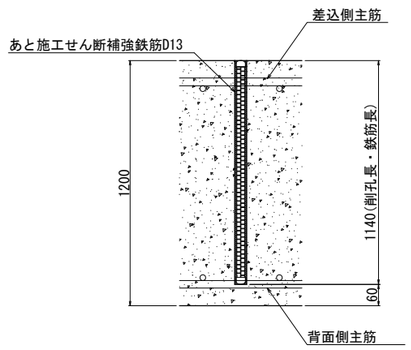
階	符号	G2 (, G2B)		
	位置	中央部	内端部	
1	断面			
	上主筋	4-HD25	4-HD25	
	下主筋	4-HD25	4-HD25	
	腹筋	6-D13		
	スターラップ			

鉄筋補強工法(X1通り側)

補 強 位 置	芝川ポンプ場
	1F梁
削孔長	1140mm
削孔径	φ30mm
補強鉄筋径・ピッチ	1-D13@200
せん断補強鉄筋長	1140mm
せん断補強鉄筋本数	7本
特記事項	下向き施工

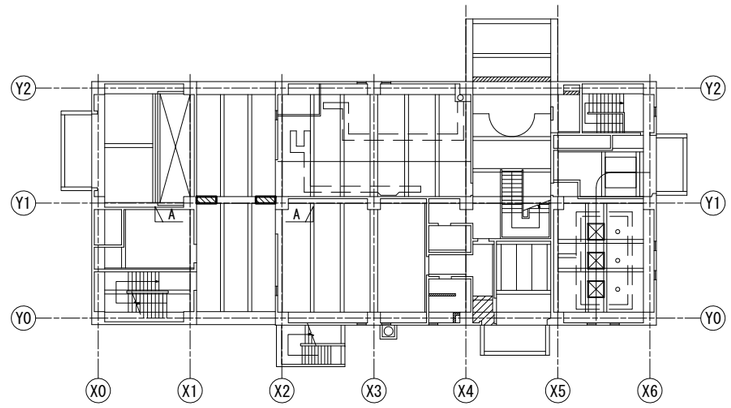
鉄筋補強工法(X2通り側)

補 強 位 置	芝川ポンプ場
	1F梁
削孔長	1140mm
削孔径	φ30mm
補強鉄筋径・ピッチ	1-D13@200
せん断補強鉄筋長	1140mm
せん断補強鉄筋本数	7本
特記事項	下向き施工



あと施工せん断補強筋詳細図

1. 使用鋼材
異形棒鋼SD345とする。
2. 注意事項
1) 穿孔前に、既存鉄筋の位置を鉄筋探査器等により確認し、既存鉄筋の損傷を極力避ける。
2) 施工に際し、アンカーの径・深さ・位置を確認し、アンカー埋込み前には穿孔内の切り粉等を除去する。
3) アンカーの削孔時に既存鉄筋に当たった場合は、耐力上支障のない部分に削孔位置を変更する。

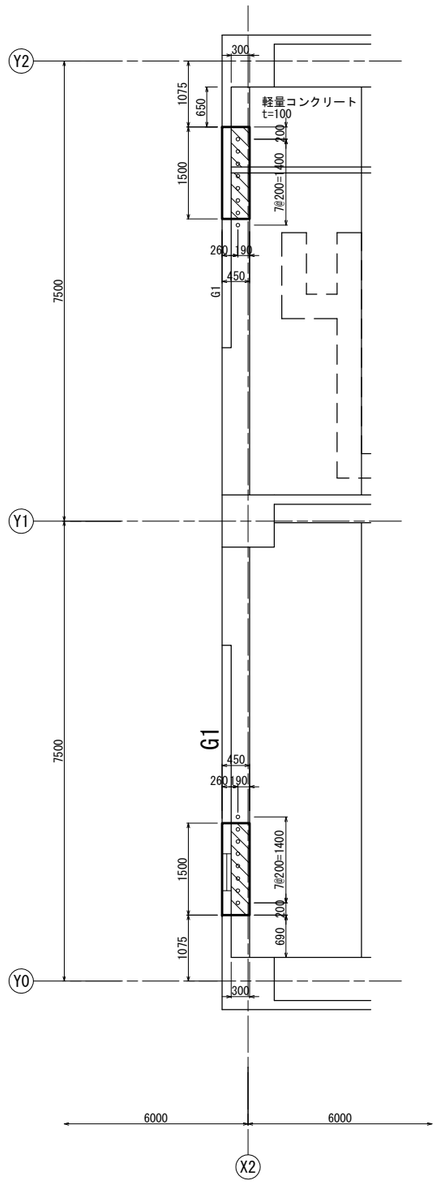


位置図
(1F平面図)

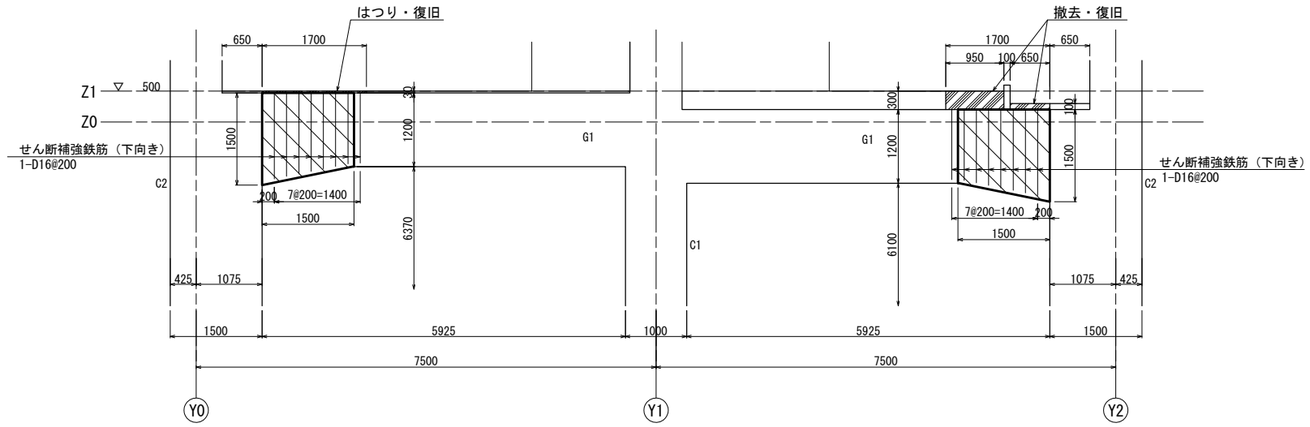
凡例
：補強範囲

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	芝川ポンプ場補強配筋図　梁(1)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	C-06
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

芝川ポンプ場補強配筋図　梁(2)



平面図 1/50



A-A断面図 1/50

大梁リスト

［注記］特記外 1. 腹筋 2-D13
2. スターラップ □-D13@200
3. 巾止筋 ▽-D10@800

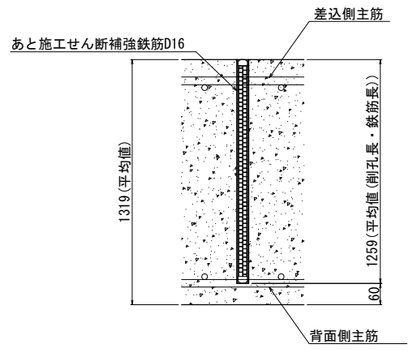
階	符号	G1		
	位置	外端部	中央部	内端部
1	断面	1500 / 450	1200	
	上主筋	7-HD25	4-HD25	4-HD25
	下主筋	4-HD25	4-HD25	4-HD25
	腹筋	6-D13		
	スターラップ			

鉄筋補強工法(Y0通り側)

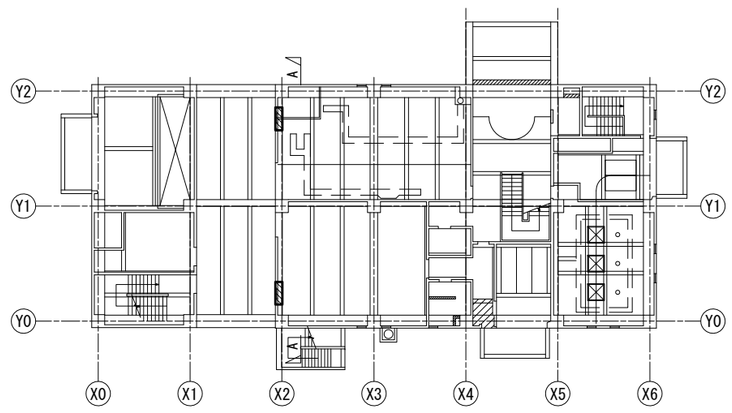
補 強 位 置	芝川ポンプ場 1F梁
削孔長	1259mm(平均値)
削孔径	φ30mm
補強鉄筋径・ピッチ	1-D16@200
せん断補強鉄筋長	1259mm(平均値)
せん断補強鉄筋本数	8本
特記事項	下向き施工

鉄筋補強工法(Y2通り側)

補 強 位 置	芝川ポンプ場 1F梁
削孔長	1259mm(平均値)
削孔径	φ30mm
補強鉄筋径・ピッチ	1-D16@200
せん断補強鉄筋長	1259mm(平均値)
せん断補強鉄筋本数	8本
特記事項	下向き施工



あと施工せん断補強筋詳細図



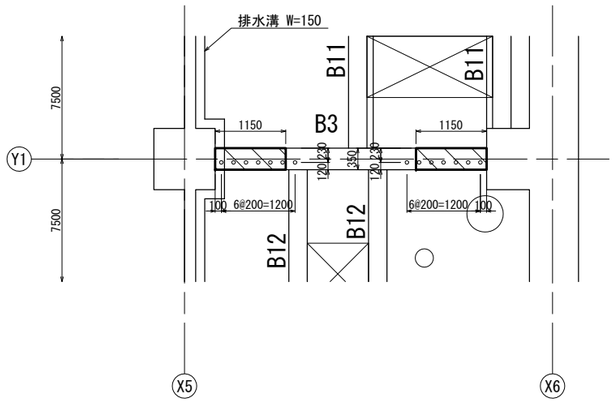
位置図
(1F平面図)

凡例
：補強範囲

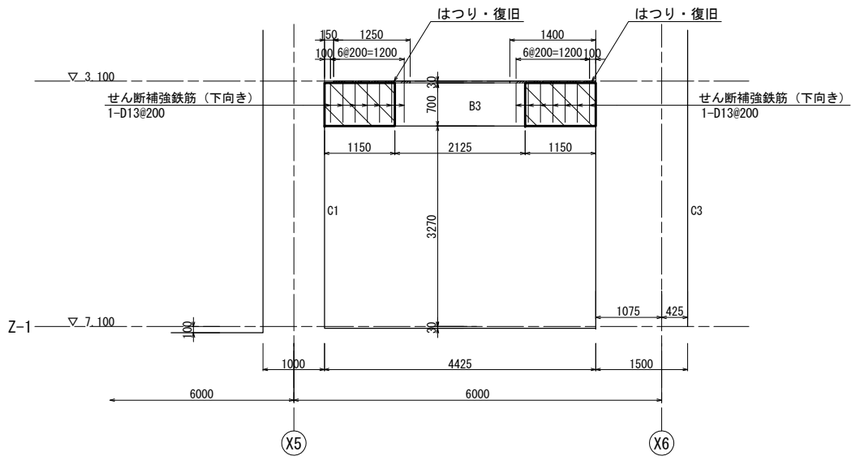
1. 使用鋼材
異形棒鋼SD345とする。
2. 注意事項
1) 穿孔前に、既存鉄筋の位置を鉄筋探査器等により確認し、既存鉄筋の損傷を極力避ける。
2) 施工に際し、アンカーの径・深さ・位置を確認し、アンカー埋込み前には穿孔内の切り粉等を除去する。
3) アンカーの削孔時に既存鉄筋に当たった場合は、耐力上支障のない部分に削孔位置を変更する。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	芝川ポンプ場補強配筋図　梁(2)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	C-07
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

芝川ポンプ場補強配筋図　梁(3)



平面図 1/50



A-A断面図 1/50

小梁リスト

［注記］特記外 1.腹筋　2-D10（但 D=600以上）
2.スターラップ □-D10@200
3.巾止筋　⊓-D10@800

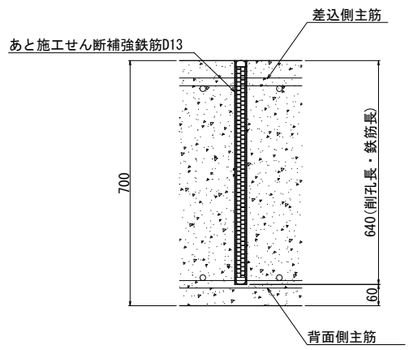
階	符号	B3	
	位置	端部	中央部
M1	断面	700 / 350	
	上主筋	3-D22	3-D22
	下主筋	3-D22	5-D22
	腹筋		
	スターラップ		

鉄筋補強工法(X5通り側)

補 強 位 置	芝川ポンプ場
	M1F梁
削孔長	640mm
削孔径	φ30mm
補強鉄筋径・ピッチ	1-D13@200
せん断補強鉄筋長	640mm
せん断補強鉄筋本数	7本
特記事項	下向き施工

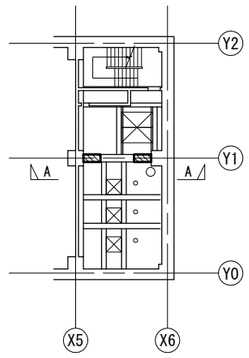
鉄筋補強工法(X6通り側)

補 強 位 置	芝川ポンプ場
	M1F梁
削孔長	640mm
削孔径	φ30mm
補強鉄筋径・ピッチ	1-D13@200
せん断補強鉄筋長	640mm
せん断補強鉄筋本数	7本
特記事項	下向き施工



あと施工せん断補強筋詳細図

1. 使用鋼材
異形棒鋼SD345とする。
2. 注意事項
1) 穿孔前に、既存鉄筋の位置を鉄筋探査器等により確認し、既存鉄筋の損傷を極力避ける。
2) 施工に際し、アンカーの径・深さ・位置を確認し、アンカー埋込み前には穿孔内の切り粉等を除去する。
3) アンカーの削孔時に既存鉄筋に当たった場合は、耐力上支障のない部分に削孔位置を変更する。

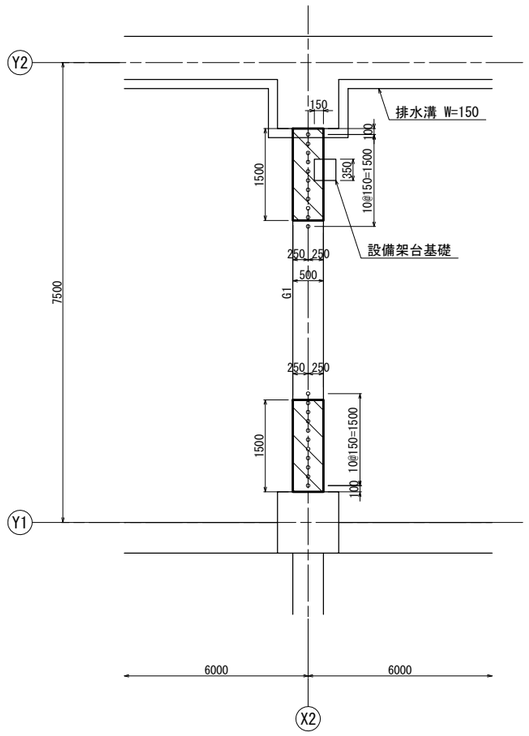


位置図
(M1F平面図)

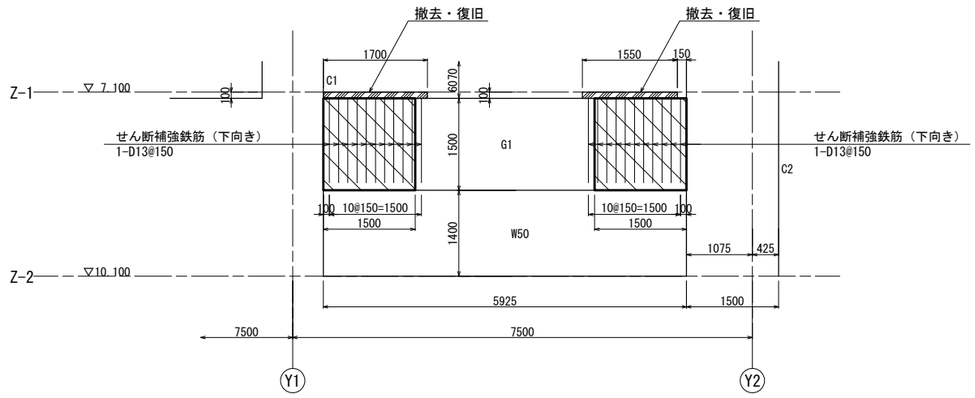
凡例
：補強範囲

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	芝川ポンプ場補強配筋図　梁(3)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	C-08
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

芝川ポンプ場補強配筋図　梁(4)



平面図 1/50



A-A断面図 1/50

大梁リスト　[注記] 特記外 1.腹筋 2-D13
2.スターラップ □-D13@200
3.巾止筋 ▽-D10@800

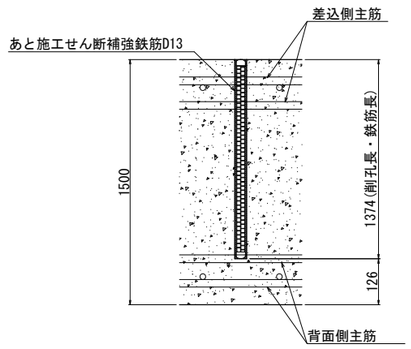
階	符号	G1		
	位置	外端部	中央部	内端部
B1	断面	1500 / 500		
	上主筋	7-HD25	4-HD25	5-HD25
	下主筋	7-HD25	5-HD25	4-HD25
	腹筋	8-D13		
	スターラップ	-D13@150□		

鉄筋補強工法(Y1通り側)

補 強 位 置	芝川ポンプ場
	B1F梁
削孔長	1374mm
削孔径	φ30mm
補強鉄筋径・ピッチ	1-D13@150
せん断補強鉄筋長	1374mm
せん断補強鉄筋本数	11本
特記事項	下向き施工

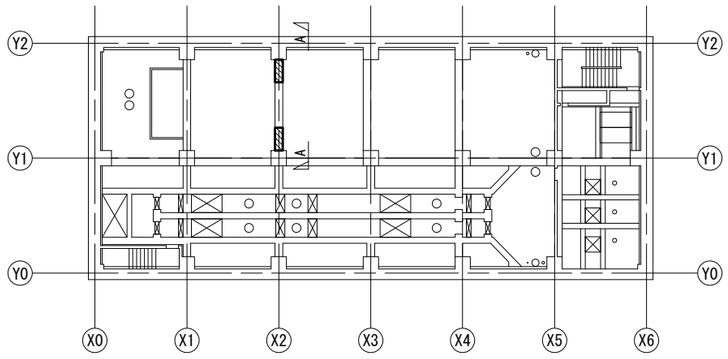
鉄筋補強工法(Y2通り側)

補 強 位 置	芝川ポンプ場
	B1F梁
削孔長	1374mm
削孔径	φ30mm
補強鉄筋径・ピッチ	1-D13@150
せん断補強鉄筋長	1374mm
せん断補強鉄筋本数	11本
特記事項	下向き施工



あと施工せん断補強筋詳細図

1. 使用鋼材
異形棒鋼SD345とする。
2. 注意事項
1) 穿孔前に、既存鉄筋の位置を鉄筋探査器等により確認し、既存鉄筋の損傷を極力避ける。
2) 施工に際し、アンカーの径・深さ・位置を確認し、アンカー埋込み前には穿孔内の切り粉等を除去する。
3) アンカーの削孔時に既存鉄筋に当たった場合は、耐力上支障のない部分に削孔位置を変更する。

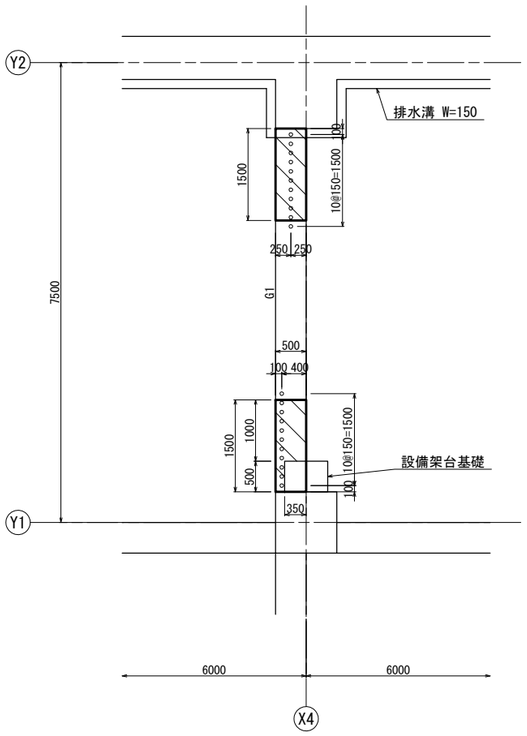


位置図
(B1F平面図)

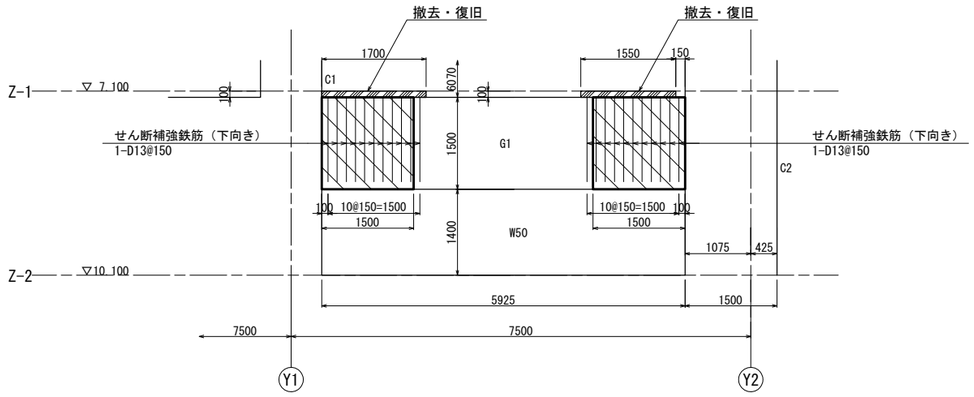
凡例
：補強範囲

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	芝川ポンプ場補強配筋図　梁(4)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	C-09
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

芝川ポンプ場補強配筋図　梁(5)



平面図 1/50



A-A断面図 1/50

大梁リスト　[注記] 特記外 1.腹筋 2-D13
2.スターラップ □-D13@200
3.巾止筋 ⌒-D10@800

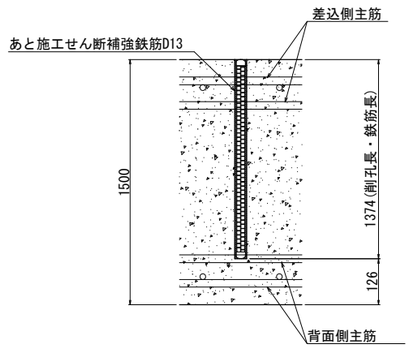
階	符号	G1		
	位置	外端部	中央部	内端部
B1	断面	1500 / 500		
	上主筋	7-HD25	4-HD25	5-HD25
	下主筋	7-HD25	5-HD25	4-HD25
	腹筋	8-D13		
	スターラップ	-D13@150□		

鉄筋補強工法(Y1通り側)

補 強 位 置	芝川ポンプ場
	B1F梁
削孔長	1374mm
削孔径	φ30mm
補強鉄筋径・ピッチ	1-D13@150
せん断補強鉄筋長	1374mm
せん断補強鉄筋本数	11本
特記事項	下向き施工

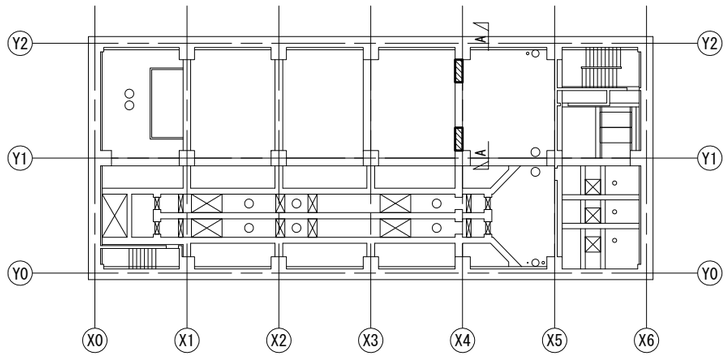
鉄筋補強工法(Y2通り側)

補 強 位 置	芝川ポンプ場
	B1F梁
削孔長	1374mm
削孔径	φ30mm
補強鉄筋径・ピッチ	1-D13@150
せん断補強鉄筋長	1374mm
せん断補強鉄筋本数	11本
特記事項	下向き施工



あと施工せん断補強筋詳細図

1. 使用鋼材
異形棒鋼SD345とする。
2. 注意事項
1) 穿孔前に、既存鉄筋の位置を鉄筋探査器等により確認し、既存鉄筋の損傷を極力避ける。
2) 施工に際し、アンカーの径・深さ・位置を確認し、アンカー埋込み前には穿孔内の切り粉等を除去する。
3) アンカーの削孔時に既存鉄筋に当たった場合は、耐力上支障のない部分に削孔位置を変更する。

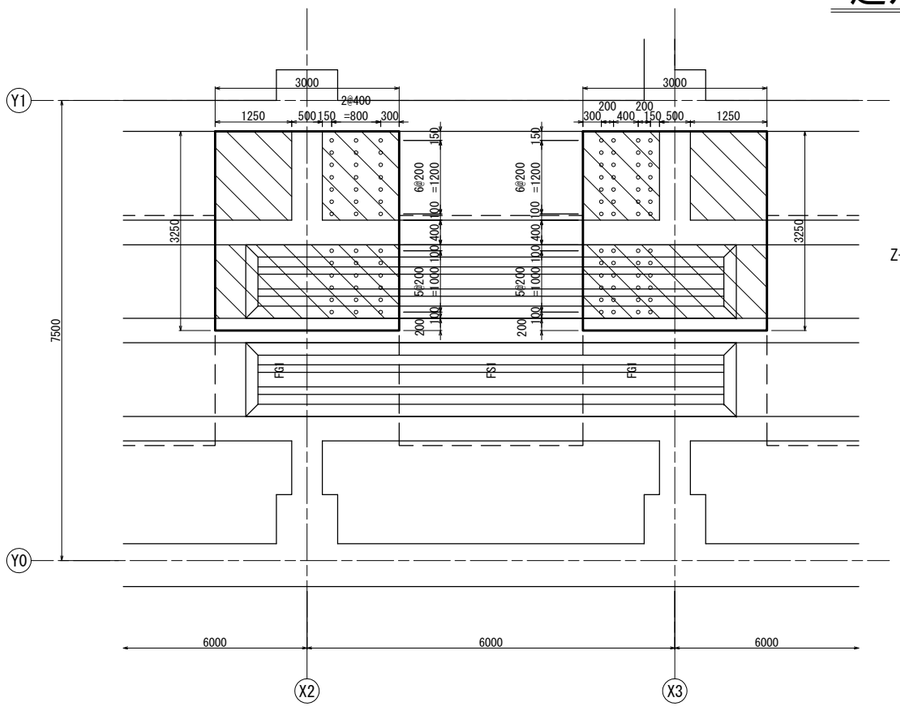


位置図
(B1F平面図)

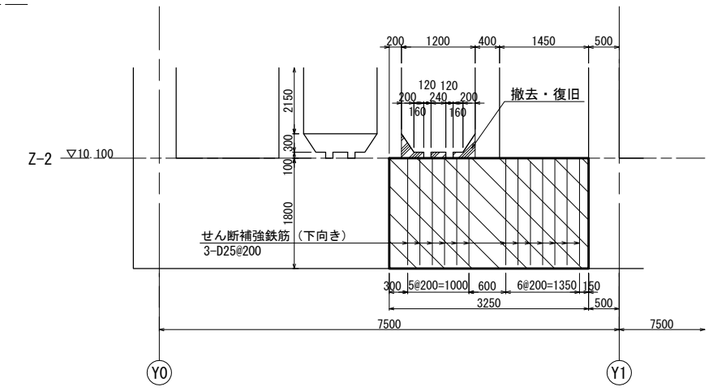
凡例
：補強範囲

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	芝川ポンプ場補強配筋図　梁(5)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	C-10
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

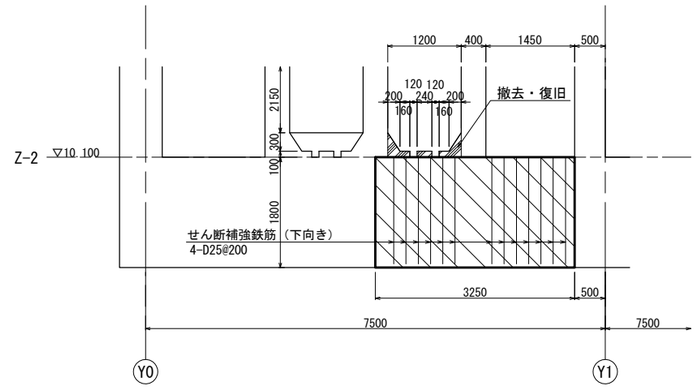
芝川ポンプ場補強配筋図　梁(6)



平面図 1/50



A-A断面図 1/50



B-B断面図 1/50

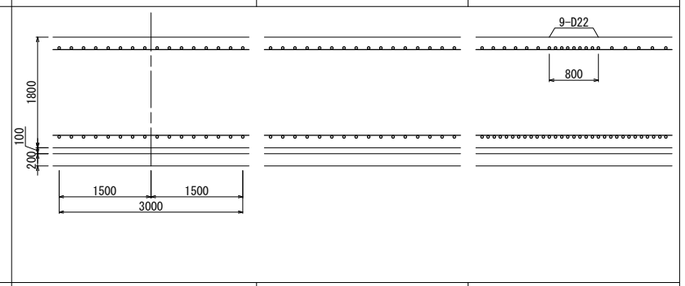
鉄筋補強工法(X2通り)

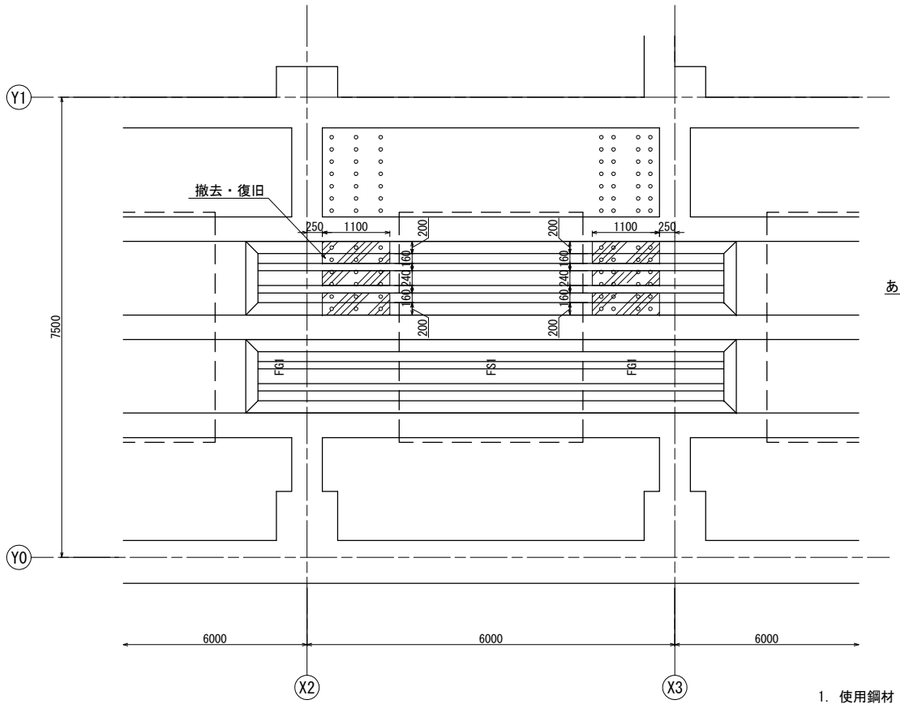
補 強 位 置	芝川ポンプ場
	B2F梁
削孔長	1730mm
削孔径	φ46mm
補強鉄筋径・ピッチ	3-D25@200
せん断補強鉄筋長	1730mm
せん断補強鉄筋本数	39本
特記事項	下向き施工

鉄筋補強工法(X3通り)

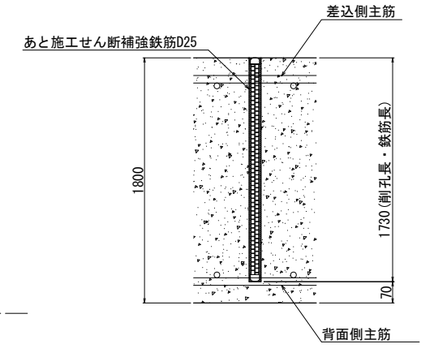
補 強 位 置	芝川ポンプ場
	B2F梁
削孔長	1730mm
削孔径	φ46mm
補強鉄筋径・ピッチ	4-D25@200
せん断補強鉄筋長	1730mm
せん断補強鉄筋本数	52本
特記事項	下向き施工

基礎梁リスト

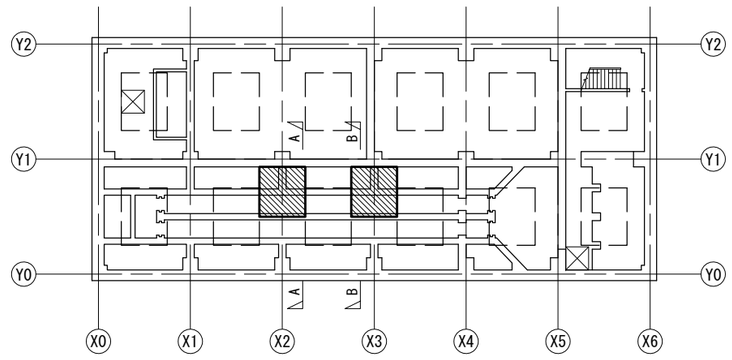
符号	FG1		
位置	外端部	中央部	内端部
断面			
上主筋	16-D22	16-D22	20-D22
下主筋	20-D25	20-D25	31-D25



撤去・復旧範囲図 1/50



あと施工せん断補強筋詳細図



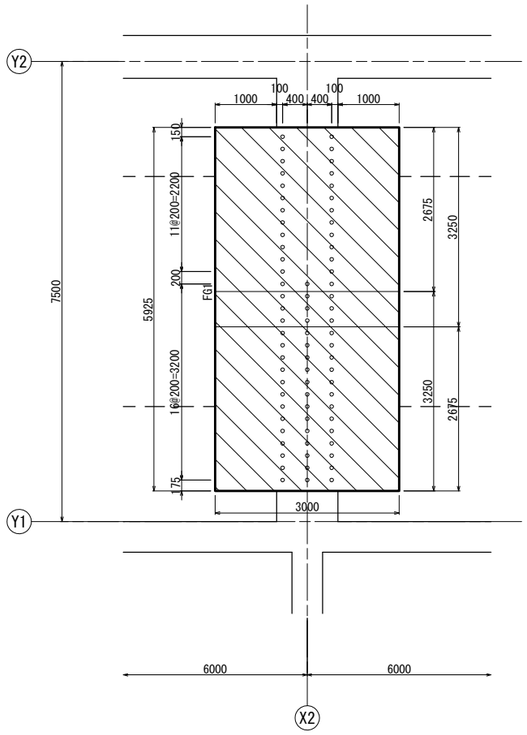
位置図
(B2F平面図)

凡例
：補強範囲

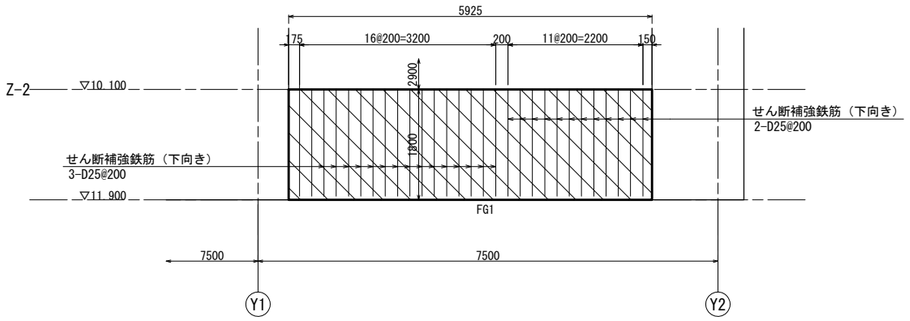
1. 使用鋼材
異形棒鋼SD345とする。
2. 注意事項
1) 穿孔前に、既存鉄筋の位置を鉄筋探査器等により確認し、既存鉄筋の損傷を極力避ける。
2) 施工に際し、アンカーの径・深さ・位置を確認し、アンカー埋込み前には穿孔内の切り粉等を除去する。
3) アンカーの削孔時に既存鉄筋に当たった場合は、耐力上支障のない部分に削孔位置を変更する。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	芝川ポンプ場補強配筋図　梁(6)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	C-11
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

芝川ポンプ場補強配筋図　梁(7)

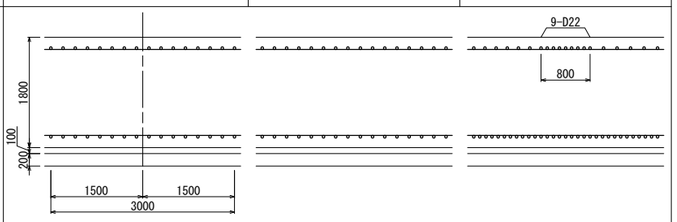


平面図 1/50



A-A断面図 1/50

基礎梁リスト

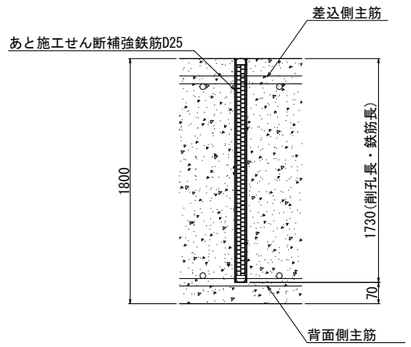
符号	FG1		
位置	外端部	中央部	内端部
断面			
上主筋	16-D22	16-D22	20-D22
下主筋	20-D25	20-D25	31-D25

鉄筋補強工法(Y1通り側)

補 強 位 置	芝川ポンプ場
	B2F梁
削孔長	1730mm
削孔径	φ46mm
補強鉄筋径・ピッチ	3-D25@200
せん断補強鉄筋長	1730mm
せん断補強鉄筋本数	51本
特記事項	下向き施工

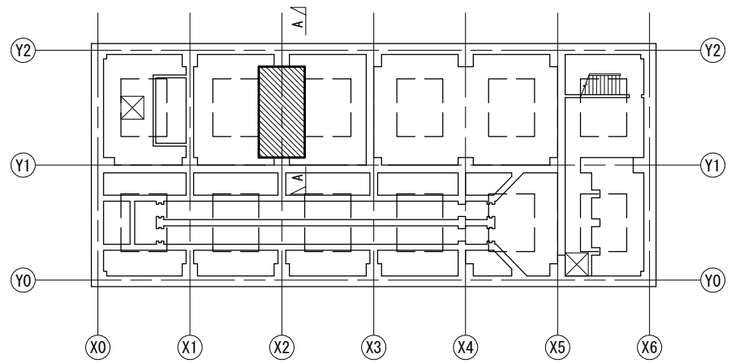
鉄筋補強工法(Y2通り側)

補 強 位 置	芝川ポンプ場
	B2F梁
削孔長	1730mm
削孔径	φ46mm
補強鉄筋径・ピッチ	2-D25@200
せん断補強鉄筋長	1730mm
せん断補強鉄筋本数	24本
特記事項	下向き施工



あと施工せん断補強筋詳細図

1. 使用鋼材
   異形棒鋼SD345とする。
2. 注意事項
   1) 穿孔前に、既存鉄筋の位置を鉄筋探査器等により確認し、既存鉄筋の損傷を極力避ける。
   2) 施工に際し、アンカーの径・深さ・位置を確認し、アンカー埋込み前には穿孔内の切り粉等を除去する。
   3) アンカーの削孔時に既存鉄筋に当たった場合は、耐力上支障のない部分に削孔位置を変更する。

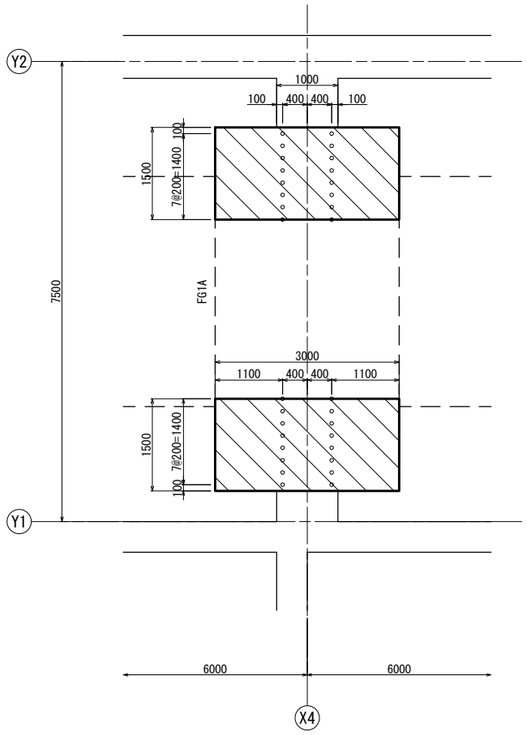


位置図
(B2F平面図)

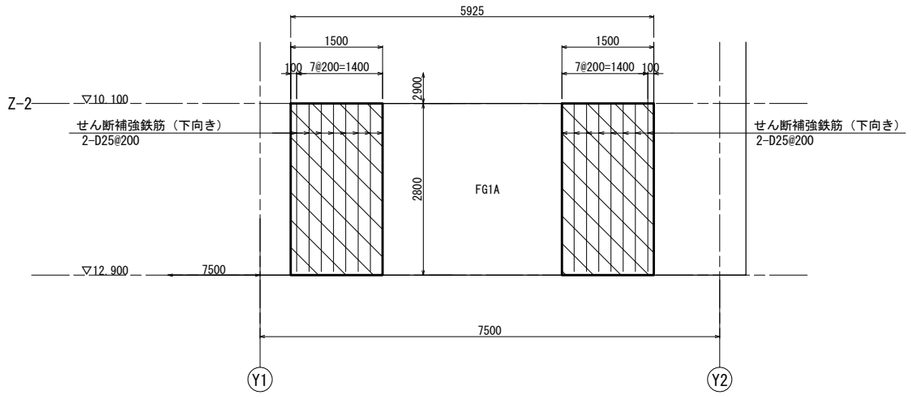
凡例
：補強範囲

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	芝川ポンプ場補強配筋図　梁(7)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	C-12
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

芝川ポンプ場補強配筋図　梁(8)

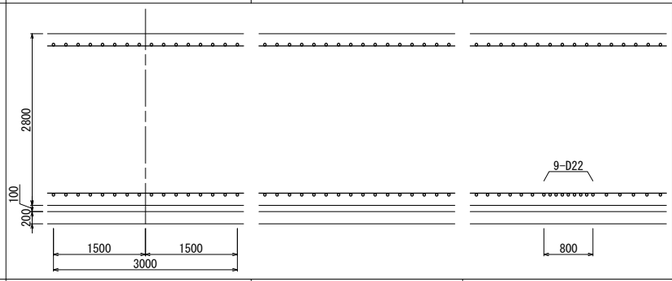


平面図 1/50



A-A断面図 1/50

基礎梁リスト

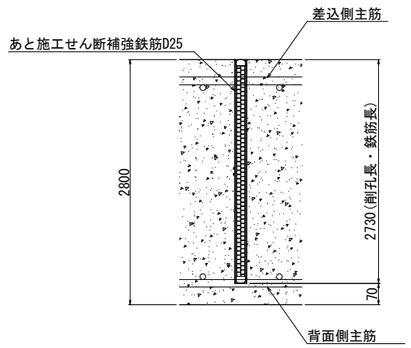
符号	FG1A		
位置	外端部	中央部	内端部
断面			
上主筋	16-D22	16-D22	16-D22
下主筋	20-D25	20-D25	20-D25

鉄筋補強工法(Y1通り側)

補 強 位 置	芝川ポンプ場
	B2F梁
削孔長	2730mm
削孔径	φ46mm
補強鉄筋径・ピッチ	2-D25@200
せん断補強鉄筋長	2730mm
せん断補強鉄筋本数	16本
特記事項	下向き施工

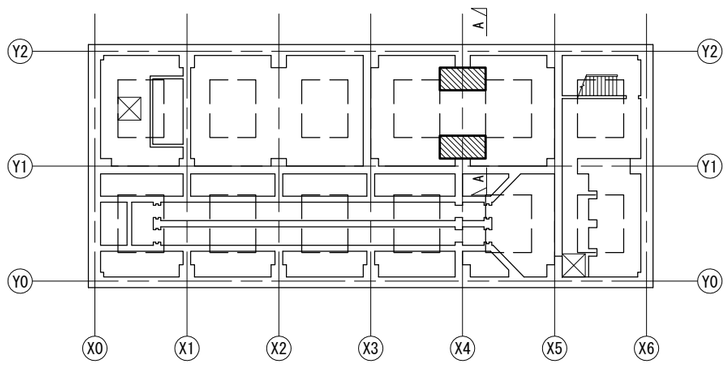
鉄筋補強工法(Y2通り側)

補 強 位 置	芝川ポンプ場
	B2F梁
削孔長	2730mm
削孔径	φ46mm
補強鉄筋径・ピッチ	2-D25@200
せん断補強鉄筋長	2730mm
せん断補強鉄筋本数	16本
特記事項	下向き施工



あと施工せん断補強筋詳細図

1. 使用鋼材
   異形棒鋼SD345とする。
2. 注意事項
   1) 穿孔前に、既存鉄筋の位置を鉄筋探査器等により確認し、既存鉄筋の損傷を極力避ける。
   2) 施工に際し、アンカーの径・深さ・位置を確認し、アンカー埋込み前には穿孔内の切り粉等を除去する。
   3) アンカーの削孔時に既存鉄筋に当たった場合は、耐力上支障のない部分に削孔位置を変更する。

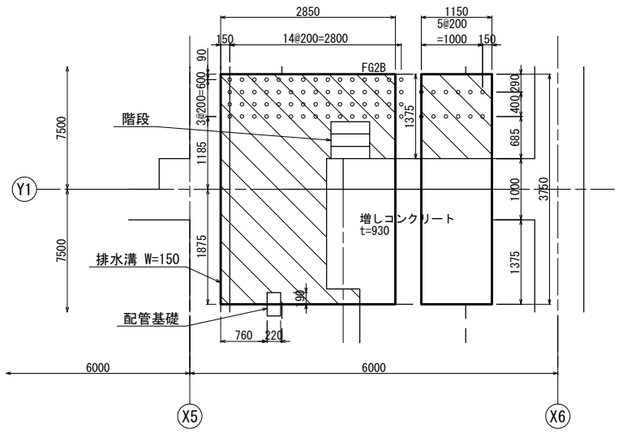


位置図
(B2F平面図)

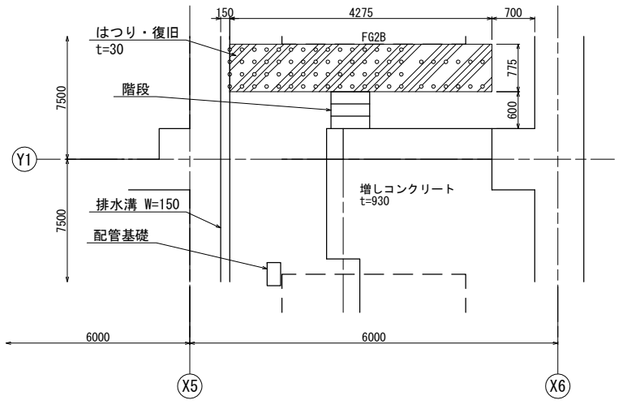
凡例
：補強範囲

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	芝川ポンプ場補強配筋図　梁(8)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	C-13
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

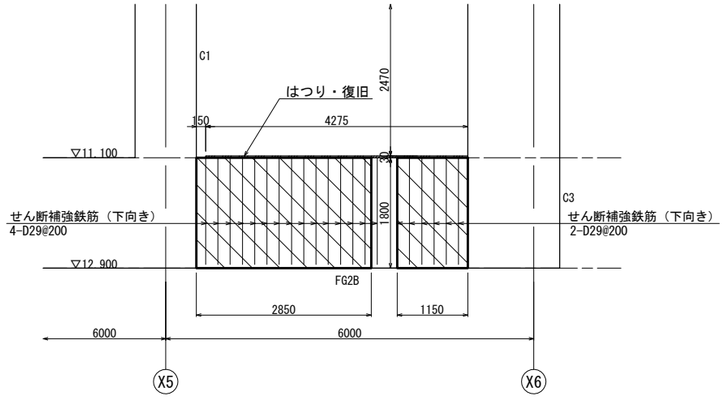
芝川ポンプ場補強配筋図　梁(9)



平面図 1/50

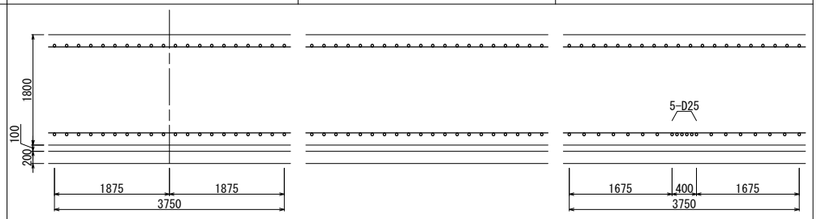


撤去・復旧範囲図 1/50



A-A断面図 1/50

基礎梁リスト

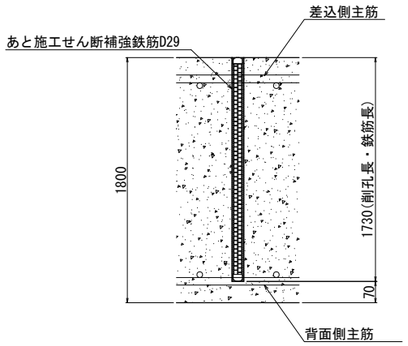
符号	FG2B		
位置	外端部	中央部	内端部
断面			
上主筋	20-D22	20-D22	20-D22
下主筋	20-D25	20-D25	22-D25

鉄筋補強工法(X5通り側)

補 強 位 置	芝川ポンプ場
	B2F梁
削孔長	1730mm
削孔径	φ50mm
補強鉄筋径・ピッチ	4-D29@200
せん断補強鉄筋長	1730mm
せん断補強鉄筋本数	60本
特記事項	下向き施工

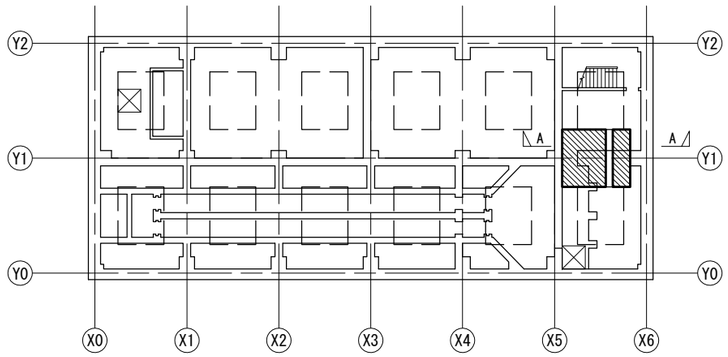
鉄筋補強工法(X6通り側)

補 強 位 置	芝川ポンプ場
	B2F梁
削孔長	1730mm
削孔径	φ50mm
補強鉄筋径・ピッチ	2-D29@200
せん断補強鉄筋長	1730mm
せん断補強鉄筋本数	12本
特記事項	下向き施工



あと施工せん断補強筋詳細図

1. 使用鋼材
   異形棒鋼SD345とする。
2. 注意事項
   1) 穿孔前に、既存鉄筋の位置を鉄筋探査器等により確認し、既存鉄筋の損傷を極力避ける。
   2) 施工に際し、アンカーの径・深さ・位置を確認し、アンカー埋込み前には穿孔内の切り粉等を除去する。
   3) アンカーの削孔時に既存鉄筋に当たった場合は、耐力上支障のない部分に削孔位置を変更する。

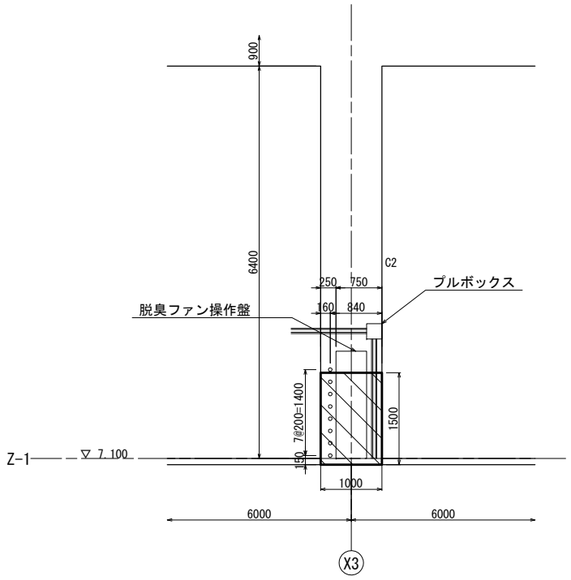


位置図
(B2F平面図)

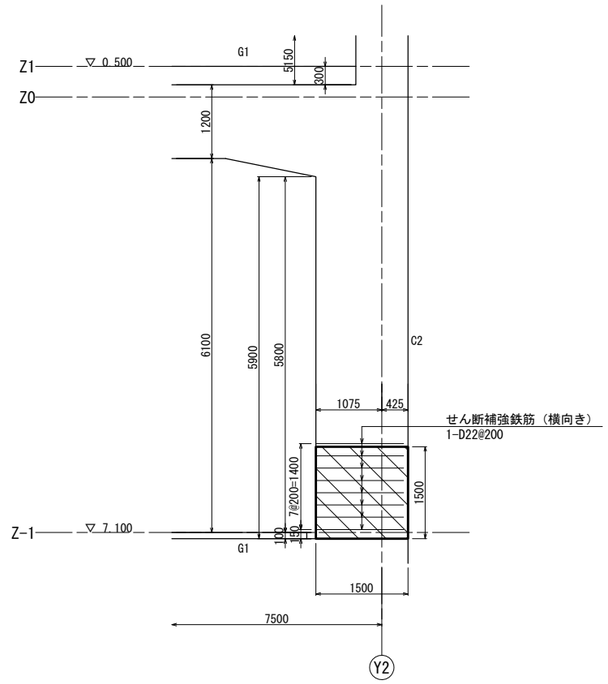
凡例
：補強範囲

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	芝川ポンプ場補強配筋図　梁(9)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	C-14
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

芝川ポンプ場補強配筋図　柱(1)

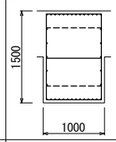


A-A断面図 1/50



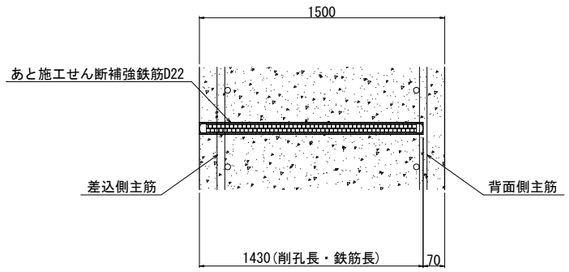
B-B断面図 1/50

柱リスト　[注記] 1. 特記外フープ □-D13@100
2. 巾止筋 ⊞-D13@500

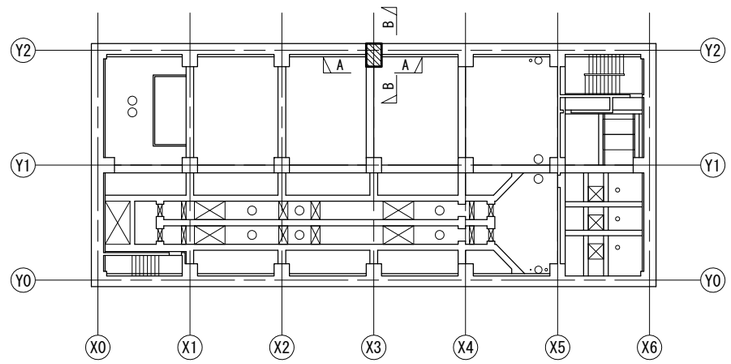
階	符号	C2
B1	断面	
	主筋	38-D22
	フープ	⊞-D13@100

鉄筋補強工法

補 強 位 置	芝川ポンプ場
	B1F柱
削孔長	1430mm
削孔径	φ36mm
補強鉄筋径・ピッチ	1-D22@200
せん断補強鉄筋長	1430mm
せん断補強鉄筋本数	8本
特記事項	横向き施工



あと施工せん断補強筋詳細図



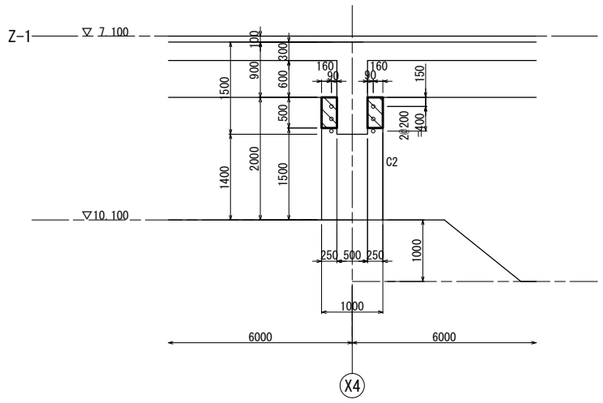
位置図
(B1F平面図)

凡例
：補強範囲

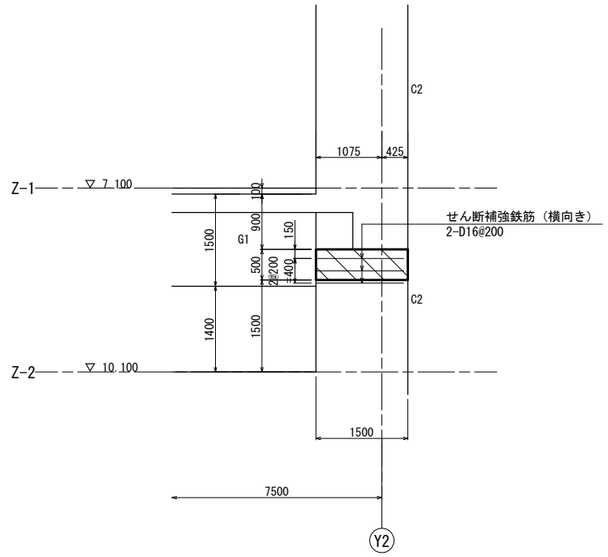
1. 使用鋼材
異形棒鋼SD345とする。
2. 注意事項
1) 穿孔前に、既存鉄筋の位置を鉄筋探査器等により確認し、既存鉄筋の損傷を極力避ける。
2) 施工に際し、アンカーの径・深さ・位置を確認し、アンカー埋込み前には穿孔内の切り粉等を除去する。
3) アンカーの削孔時に既存鉄筋に当たった場合は、耐力上支障のない部分に削孔位置を変更する。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	芝川ポンプ場補強配筋図　柱(1)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	C-15
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

芝川ポンプ場補強配筋図　柱(2)

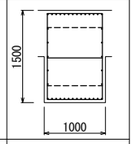


A-A断面図 1/50



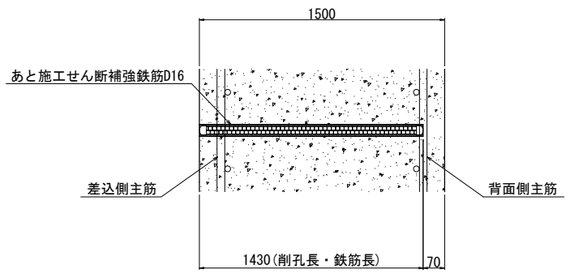
B-B断面図 1/50

柱リスト　[注記] 1. 特記外フープ □-D13@100
2. 巾止筋 ⊞-D13@500

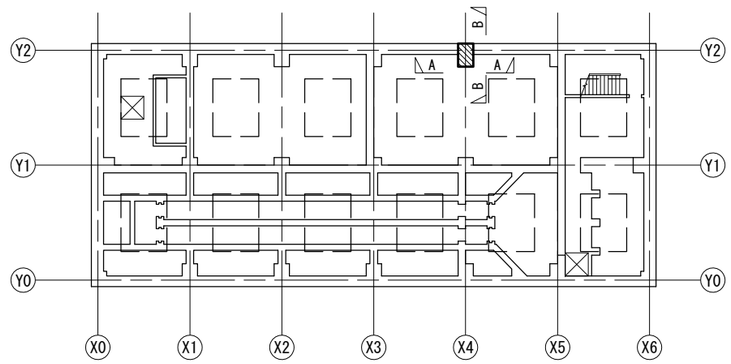
階	符号	C2
B2	断面	
	主筋	38-D22
	フープ	⊞-D13@100

鉄筋補強工法

補 強 位 置	芝川ポンプ場
	B2F柱
削孔長	1430㎜
削孔径	φ30㎜
補強鉄筋径・ピッチ	2-D16@200
せん断補強鉄筋長	1430㎜
せん断補強鉄筋本数	6本
特記事項	横向き施工



あと施工せん断補強筋詳細図



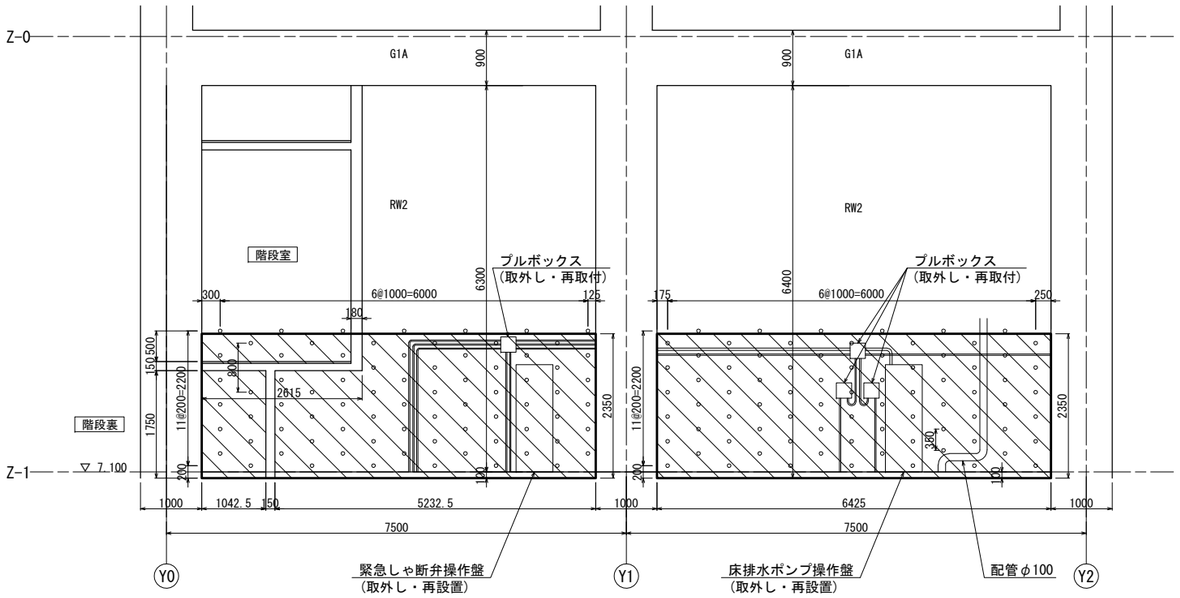
位置図
(B2F平面図)

凡例
：補強範囲

1. 使用鋼材
異形棒鋼SD345とする。
2. 注意事項
1) 穿孔前に、既存鉄筋の位置を鉄筋探査器等により確認し、既存鉄筋の損傷を極力避ける。
2) 施工に際し、アンカーの径・深さ・位置を確認し、アンカー埋込み前には穿孔内の切り粉等を除去する。
3) アンカーの削孔時に既存鉄筋に当たった場合は、耐力上支障のない部分に削孔位置を変更する。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	芝川ポンプ場補強配筋図　柱(2)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	C-16
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

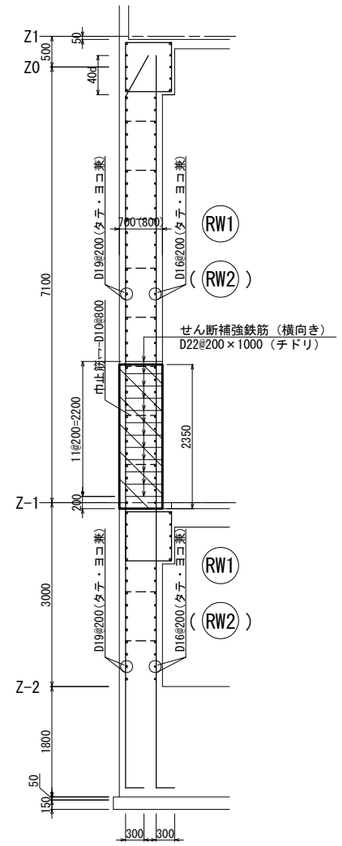
芝川ポンプ場補強配筋図　壁(1)



A-A断面図 1/50

地下壁リスト

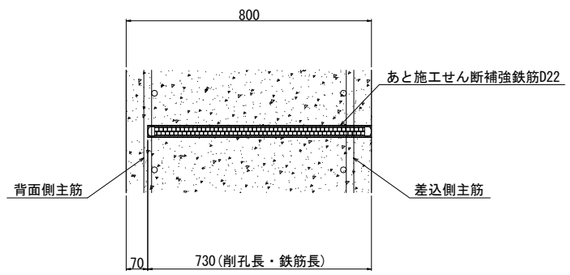
[注記]・( )内寸法はRW2を示す。



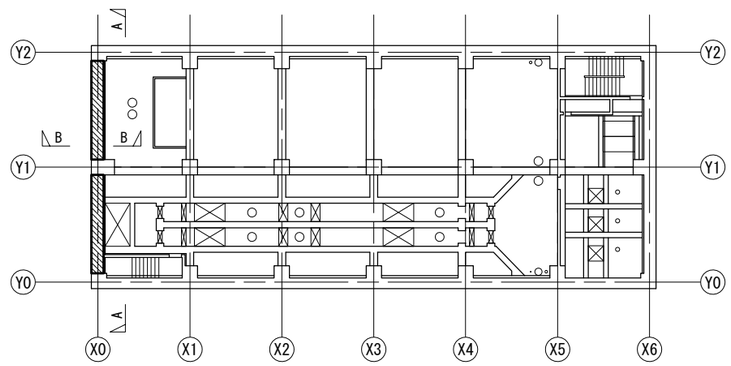
B-B断面図 1/50

鉄筋補強工法

補 強 位 置	芝川ポンプ場
	B1F壁
削孔長	730mm
削孔径	φ36mm
補強鉄筋径・ピッチ	D22@200×1000(チドリ)
せん断補強鉄筋長	730mm
せん断補強鉄筋本数	154本
特記事項	横向き施工



あと施工せん断補強筋詳細図



位置図
(B1F平面図)

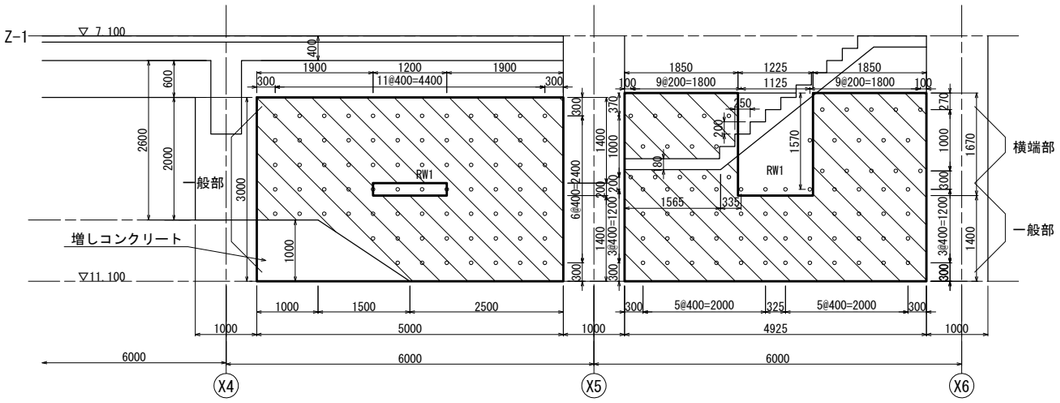
凡例

：補強範囲

1. 使用鋼材
   異形棒鋼SD345とする。
2. 注意事項
   1) 穿孔前に、既存鉄筋の位置を鉄筋探査器等により確認し、既存鉄筋の損傷を極力避ける。
   2) 施工に際し、アンカーの径・深さ・位置を確認し、アンカー埋込み前には穿孔内の切り粉等を除去する。
   3) アンカーの削孔時に既存鉄筋に当たった場合は、耐力上支障のない部分に削孔位置を変更する。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	芝川ポンプ場補強配筋図　壁(1)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	C-17
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

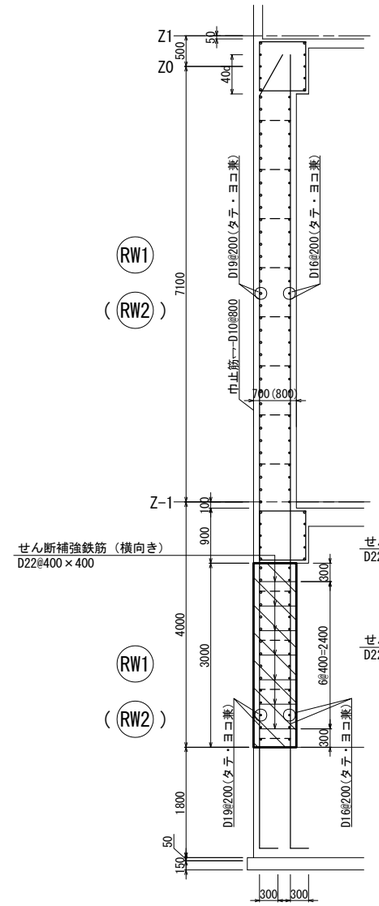
芝川ポンプ場補強配筋図　壁(2)



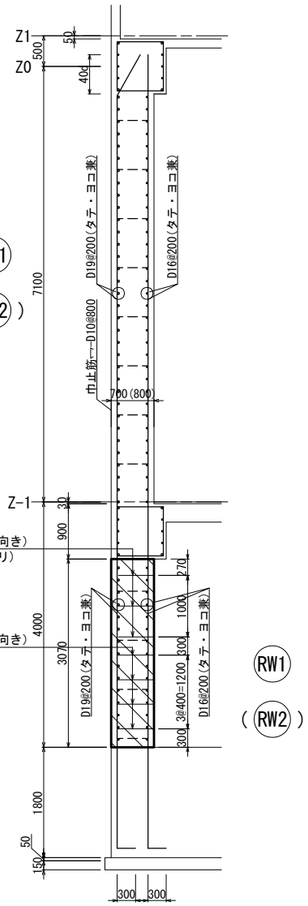
A-A断面図 1/50

地下壁リスト

[注記]・( )内寸法はRW2を示す。



B-B断面図 1/50



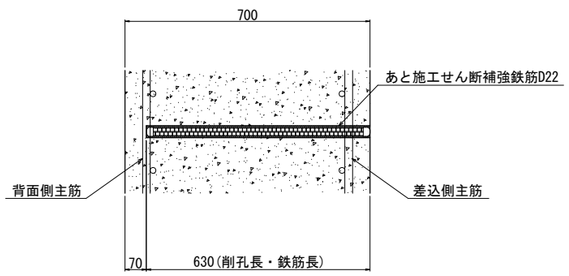
C-C断面図 1/50

鉄筋補強工法(一般部)

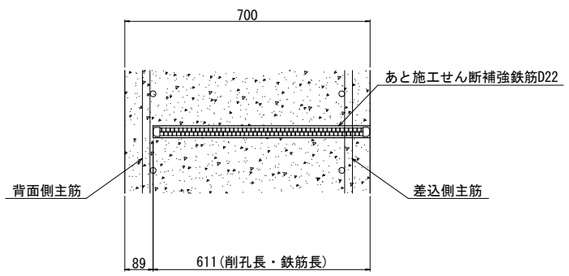
補 強 位 置	芝川ポンプ場
	B2F壁
削孔長	630mm
削孔径	φ36mm
補強鉄筋径・ピッチ	D22@400×400
せん断補強鉄筋長	630mm
せん断補強鉄筋本数	123本
特記事項	横向き施工

鉄筋補強工法(横端部)

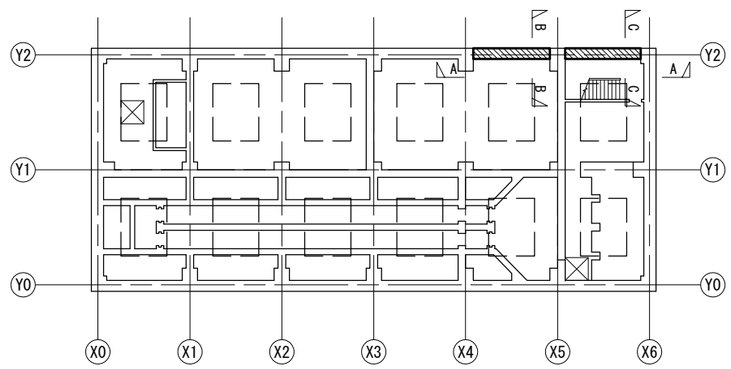
補 強 位 置	芝川ポンプ場
	B2F壁
削孔長	611mm
削孔径	φ36mm
補強鉄筋径・ピッチ	D22@200×1000(チドリ)
せん断補強鉄筋長	611mm
せん断補強鉄筋本数	29本
特記事項	横向き施工



あと施工せん断補強筋詳細図(1)



あと施工せん断補強筋詳細図(2)



位置図
(B2F平面図)

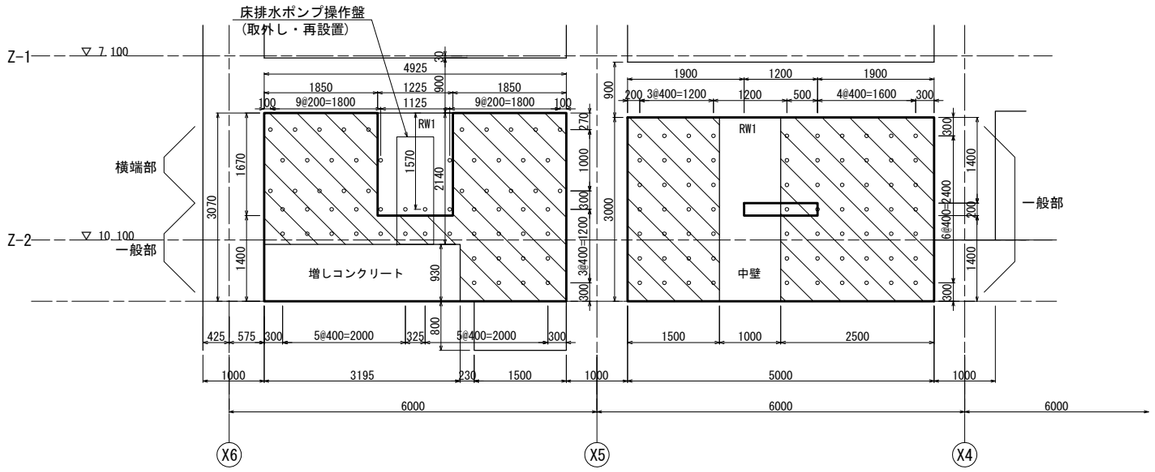
凡例

：補強範囲

1. 使用鋼材
   異形棒鋼SD345とする。
2. 注意事項
   1) 穿孔前に、既存鉄筋の位置を鉄筋探査器等により確認し、既存鉄筋の損傷を極力避ける。
   2) 施工に際し、アンカーの径・深さ・位置を確認し、アンカー埋込み前には穿孔内の切り粉等を除去する。
   3) アンカーの削孔時に既存鉄筋に当たった場合は、耐力上支障のない部分に削孔位置を変更する。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	芝川ポンプ場補強配筋図　壁(2)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	C-18
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

芝川ポンプ場補強配筋図　壁(3)



A-A断面図 1/50

鉄筋補強工法(一般部)

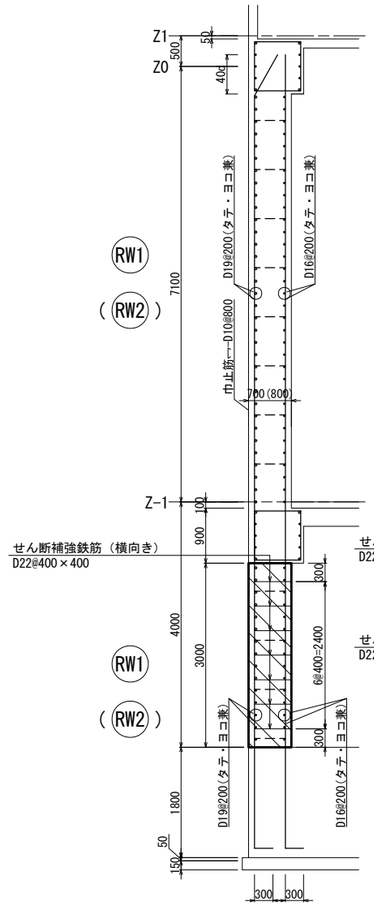
補 強 位 置	芝川ポンプ場
	B2F壁
削孔長	630mm
削孔径	φ36mm
補強鉄筋径・ピッチ	D22@400×400
せん断補強鉄筋長	630mm
せん断補強鉄筋本数	102本
特記事項	横向き施工

鉄筋補強工法(横端部)

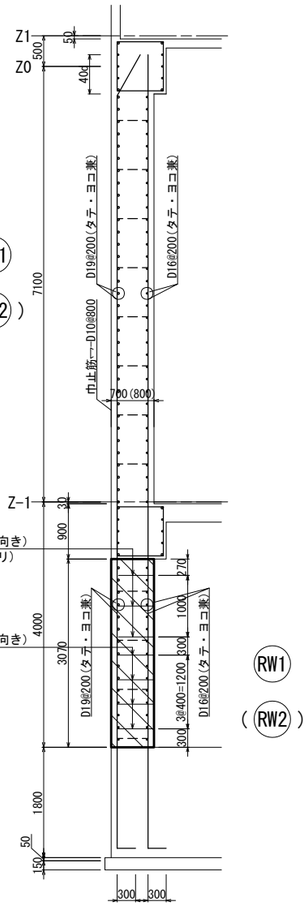
補 強 位 置	芝川ポンプ場
	B2F壁
削孔長	611mm
削孔径	φ36mm
補強鉄筋径・ピッチ	D22@200×1000(チドリ)
せん断補強鉄筋長	611mm
せん断補強鉄筋本数	30本
特記事項	横向き施工

地下壁リスト

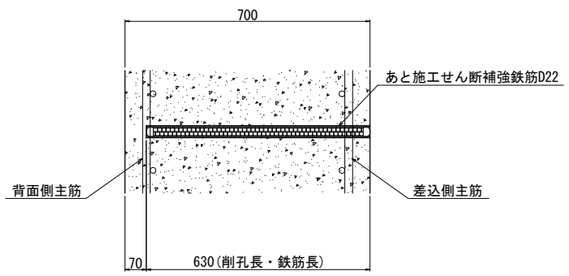
[注記]・( )内寸法はRW2を示す。



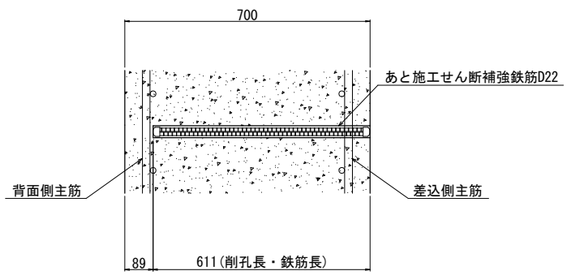
B-B断面図 1/50



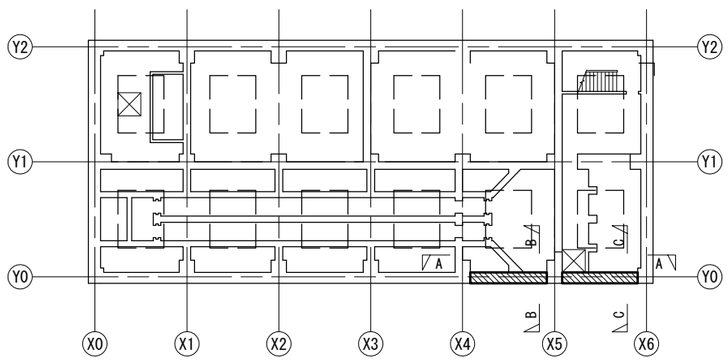
C-C断面図 1/50



あと施工せん断補強筋詳細図(1)



あと施工せん断補強筋詳細図(2)



位置図
(B2F平面図)

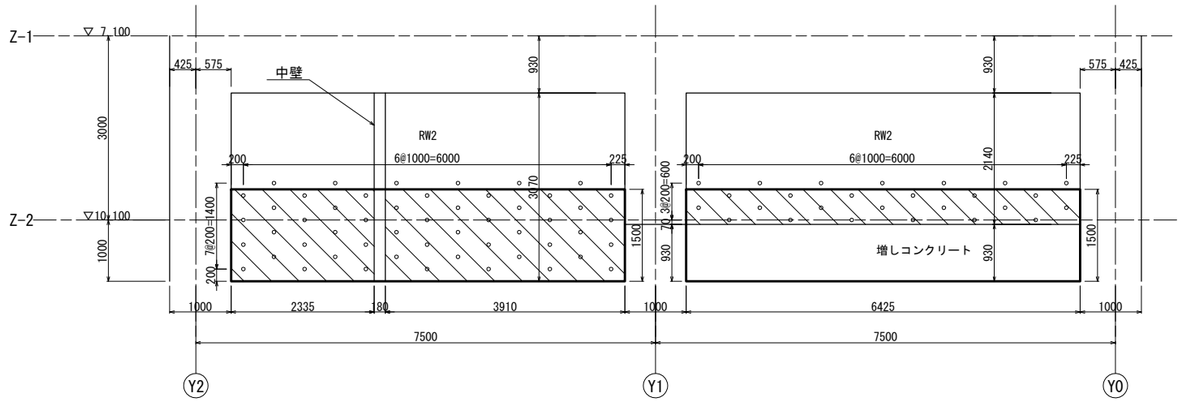
凡例

：補強範囲

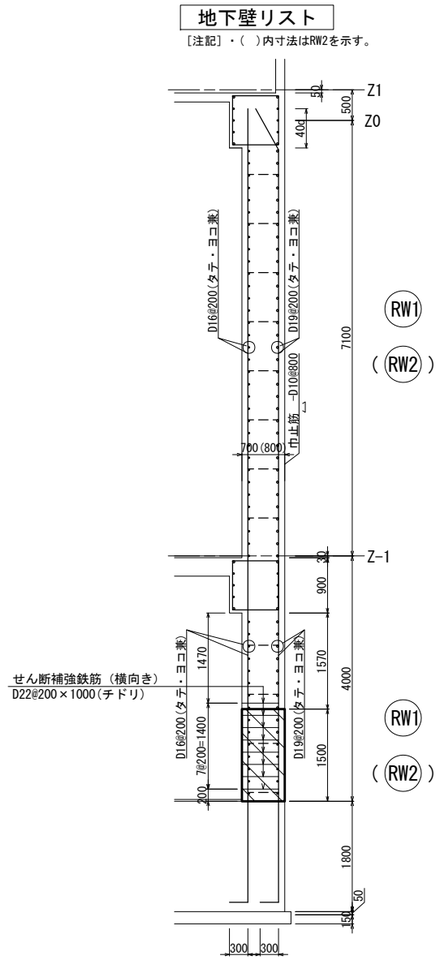
1. 使用鋼材
   異形棒鋼SD345とする。
2. 注意事項
   1) 穿孔前に、既存鉄筋の位置を鉄筋探査器等により確認し、既存鉄筋の損傷を極力避ける。
   2) 施工に際し、アンカーの径・深さ・位置を確認し、アンカー埋込み前には穿孔内の切り粉等を除去する。
   3) アンカーの削孔時に既存鉄筋に当たった場合は、耐力上支障のない部分に削孔位置を変更する。

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	芝川ポンプ場補強配筋図　壁(3)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	C-19
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

芝川ポンプ場補強配筋図　壁(4)



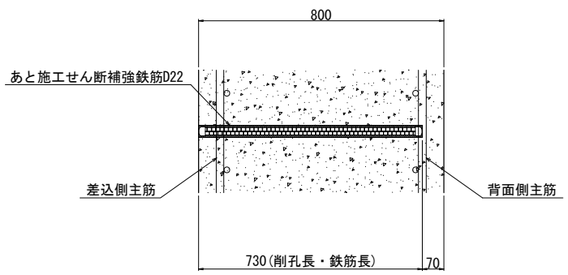
A-A断面図 1/50



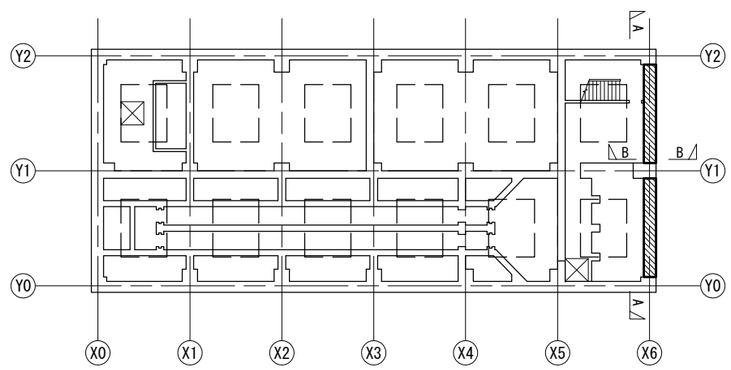
B-B断面図 1/50

鉄筋補強工法

補 強 位 置	芝川ポンプ場
	B2F壁
削孔長	730mm
削孔径	φ36mm
補強鉄筋径・ピッチ	D22@200×1000(チドリ)
せん断補強鉄筋長	730mm
せん断補強鉄筋本数	78本
特記事項	横向き施工



あと施工せん断補強筋詳細図



位置図
(B2F平面図)

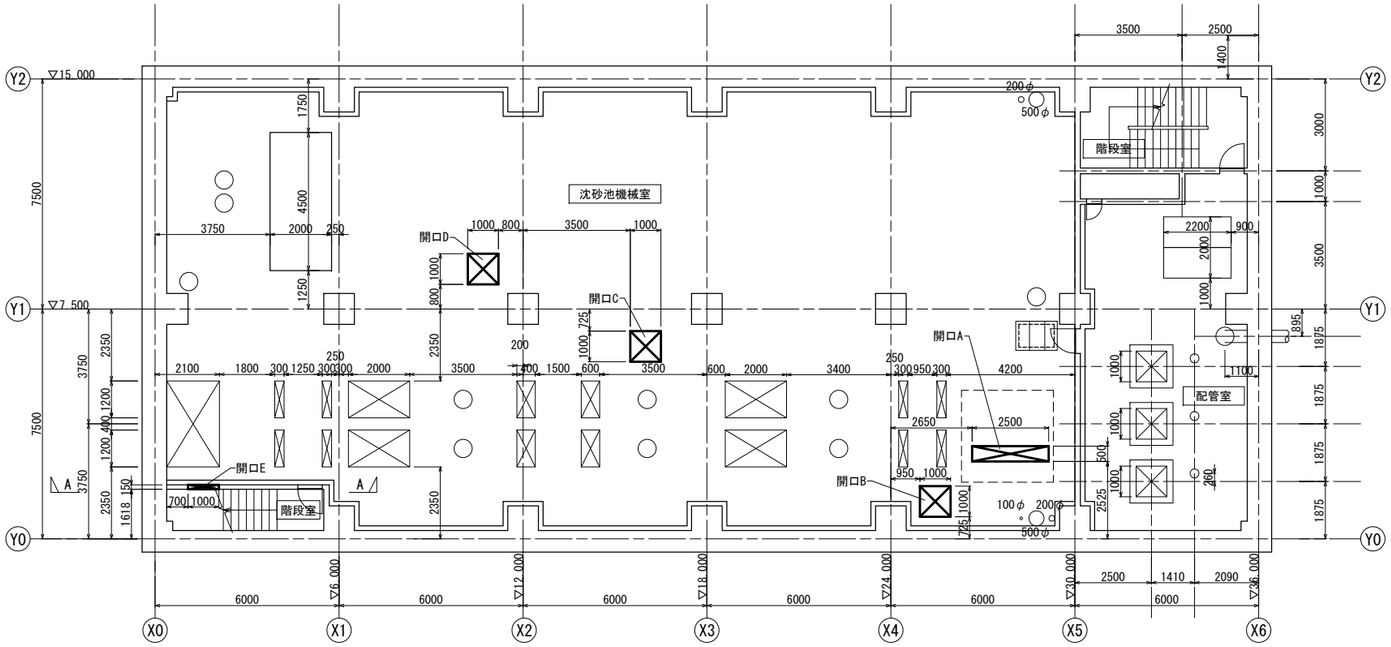
凡例

：補強範囲

1. 使用鋼材
異形棒鋼SD345とする。
2. 注意事項
1) 穿孔前に、既存鉄筋の位置を鉄筋探査器等により確認し、既存鉄筋の損傷を極力避ける。
2) 施工に際し、アンカーの径・深さ・位置を確認し、アンカー埋込み前には穿孔内の切り粉等を除去する。
3) アンカーの削孔時に既存鉄筋に当たった場合は、耐力上支障のない部分に削孔位置を変更する。

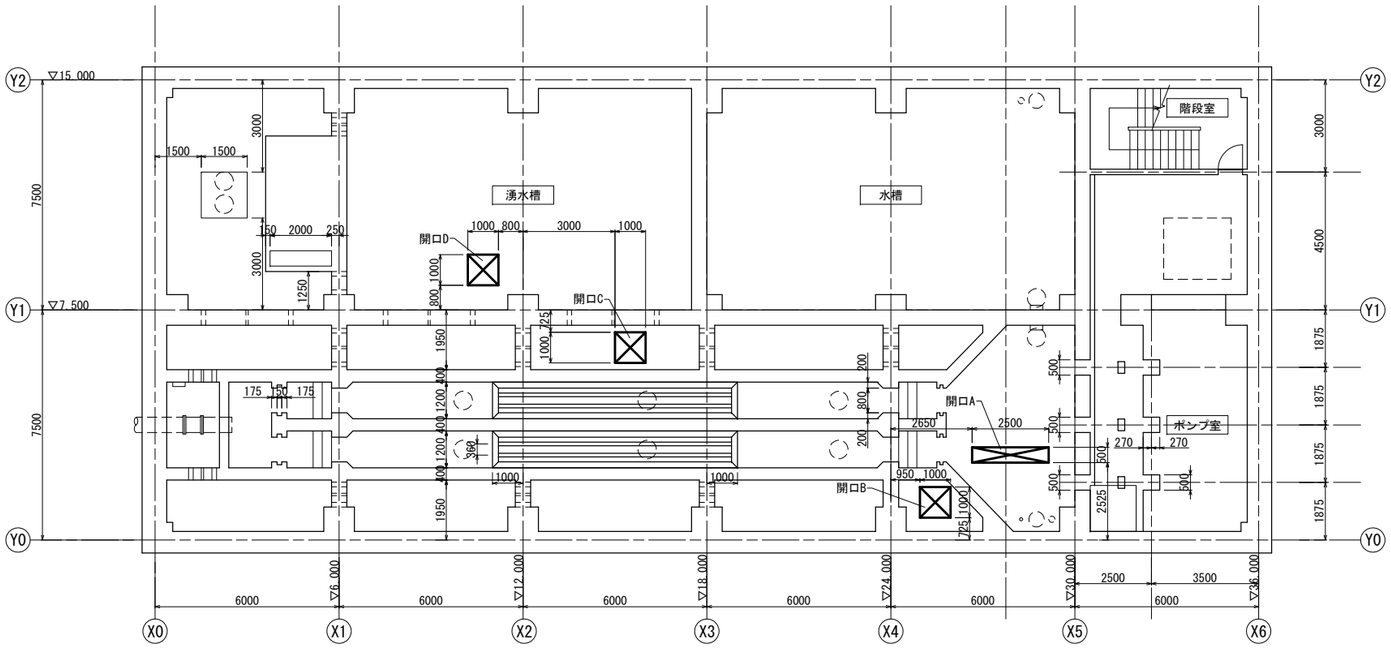
工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	芝川ポンプ場補強配筋図　壁(4)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	C-20
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

仮設開口配置図



地下1階仮設開口位置図 1/100

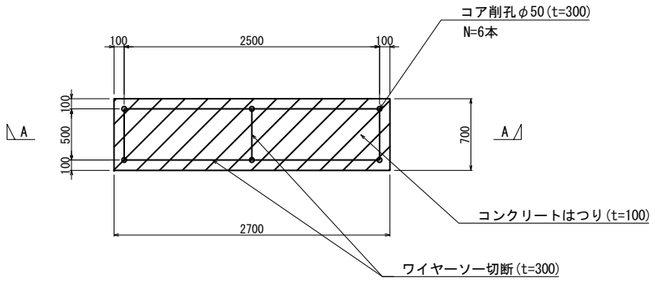
A-A断面図 1/100



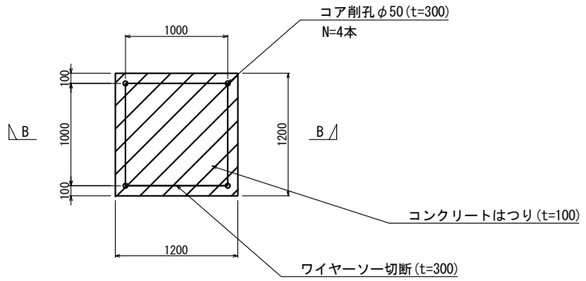
地下2階仮設開口位置図 1/100

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	仮設開口配置図		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/100	図面番号	C-21
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

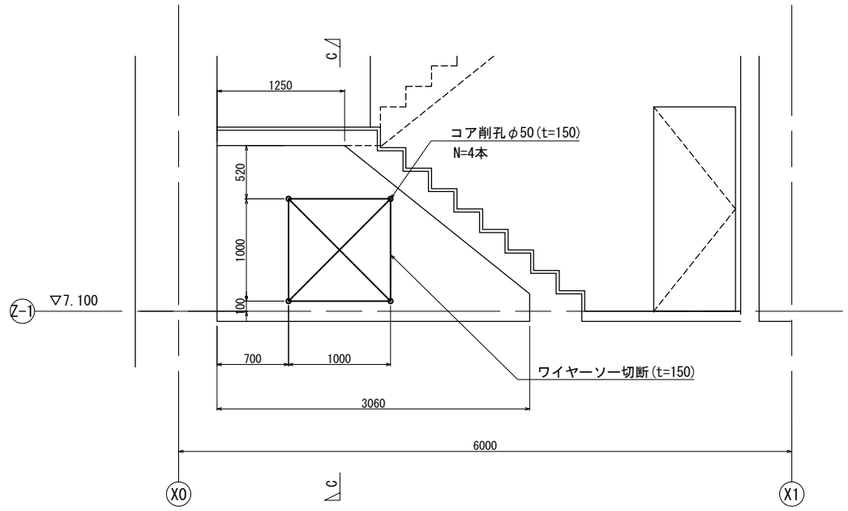
仮設開口設置詳細図



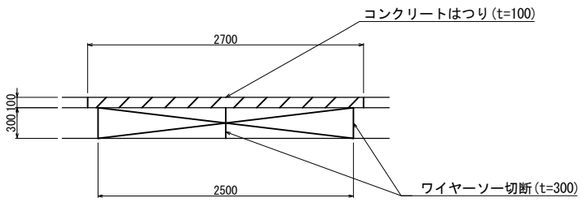
仮設開口平面図 1/30
(開口A)



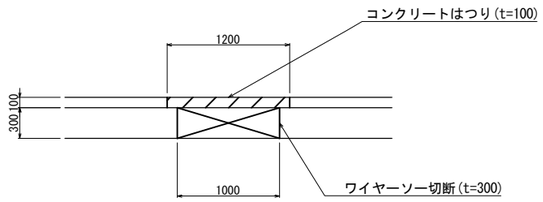
仮設開口平面図 1/30
(開口B、C、D)



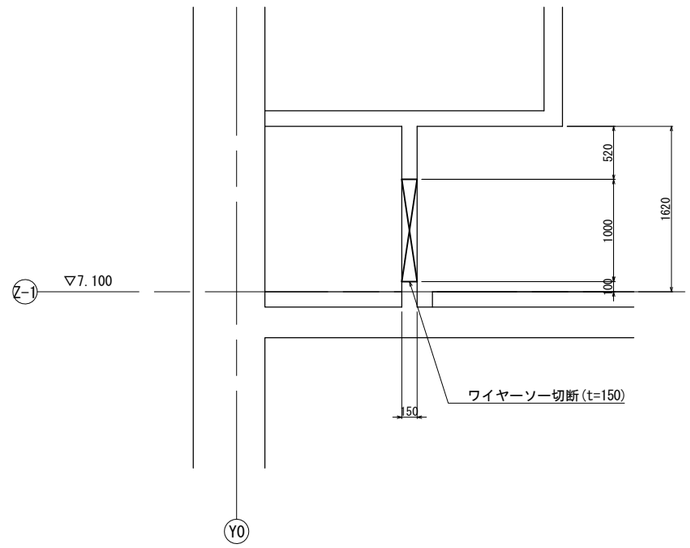
仮設開口位置図 1/30
(開口E)



A-A断面図 1/30



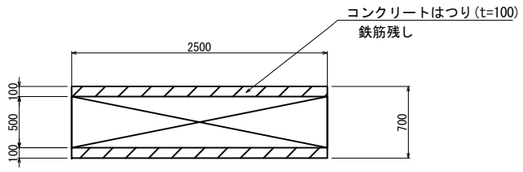
B-B断面図 1/30



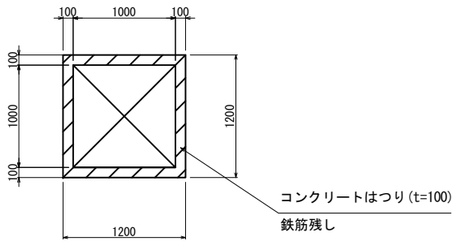
C-C断面図 1/30

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	仮設開口設置詳細図		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/30	図面番号	C-22
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

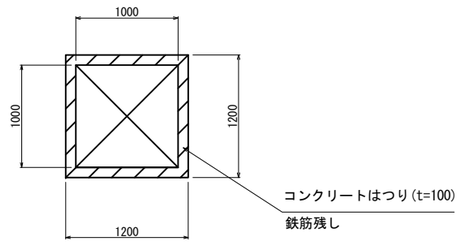
仮設開口閉塞詳細図



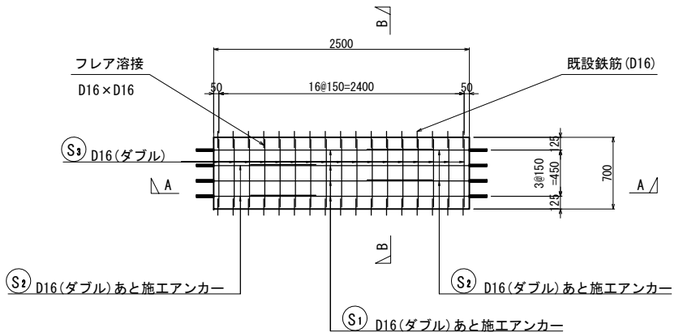
仮設開口平面図 1/30
(開口A)



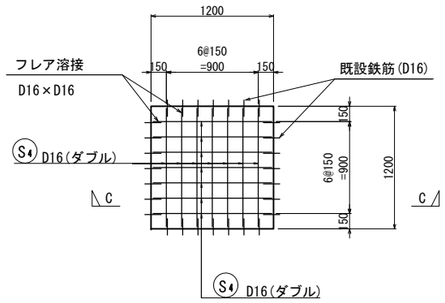
仮設開口平面図 1/30
(開口B、C、D)



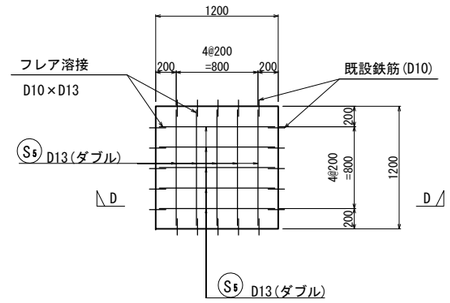
仮設開口平面図 1/30
(開口E)



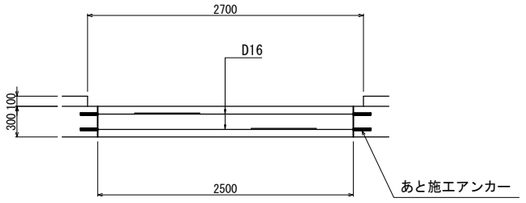
仮設開口配筋図 1/30
(開口A)



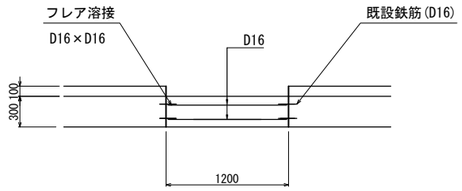
仮設開口配筋図 1/30
(開口B、C、D)



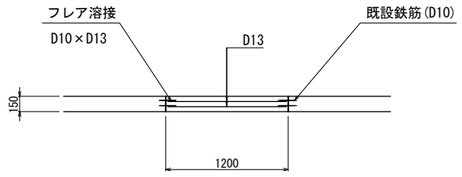
仮設開口配筋図 1/30
(開口E)



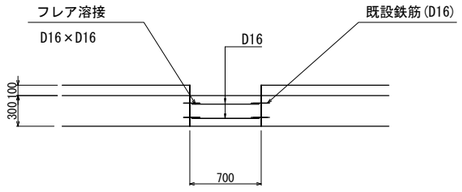
A-A断面図 1/30



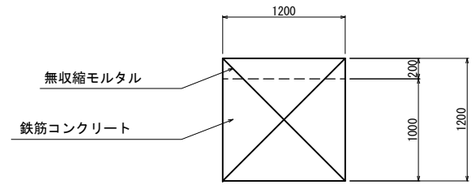
C-C断面図 1/30



D-D断面図 1/30



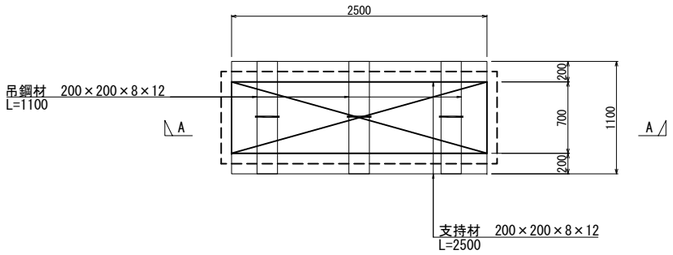
B-B断面図 1/30



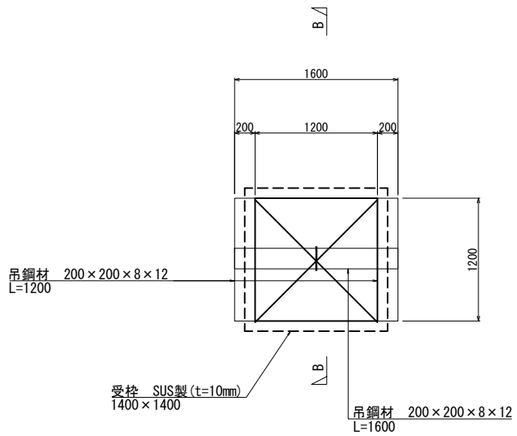
仮設開口閉塞要領図 1/30
(開口E)

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	仮設開口閉塞詳細図		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/30	図面番号	C-23
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

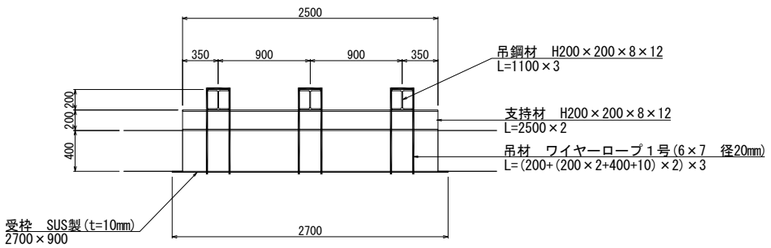
仮設支保工設置図



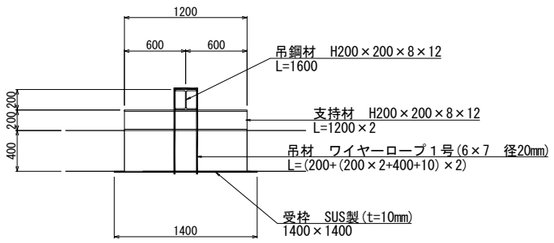
仮設支保工設置図 1/30
（開口A）



仮設支保工設置図 1/30
（開口B、C、D）



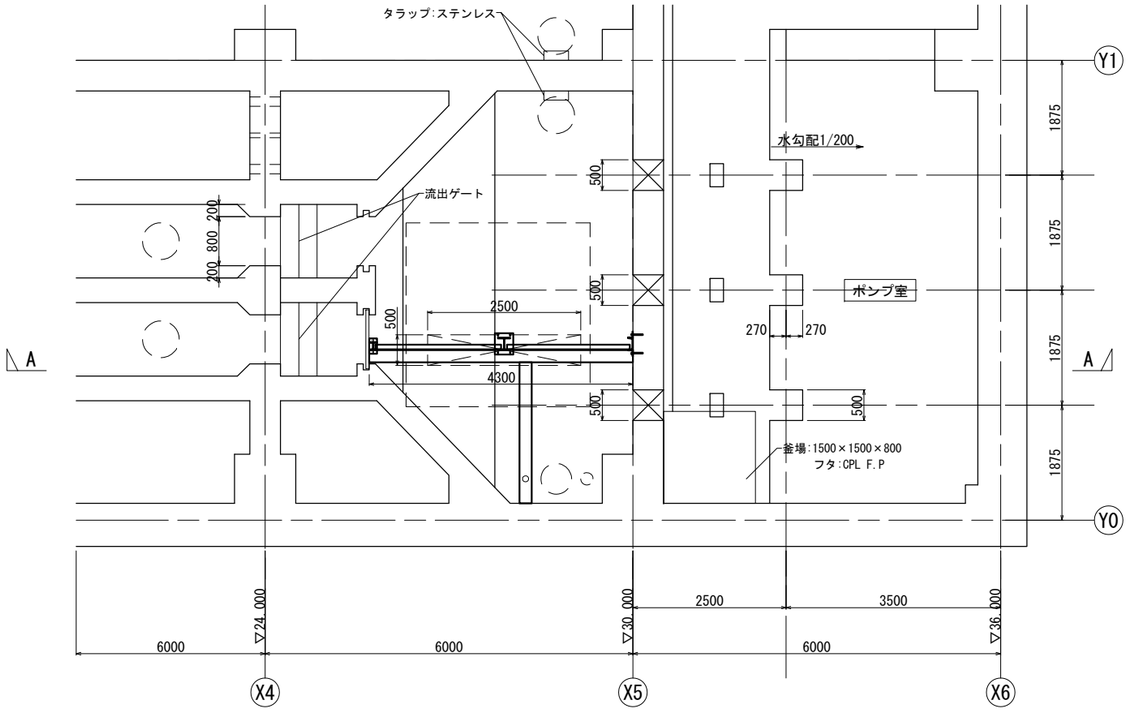
A-A断面図 1/30



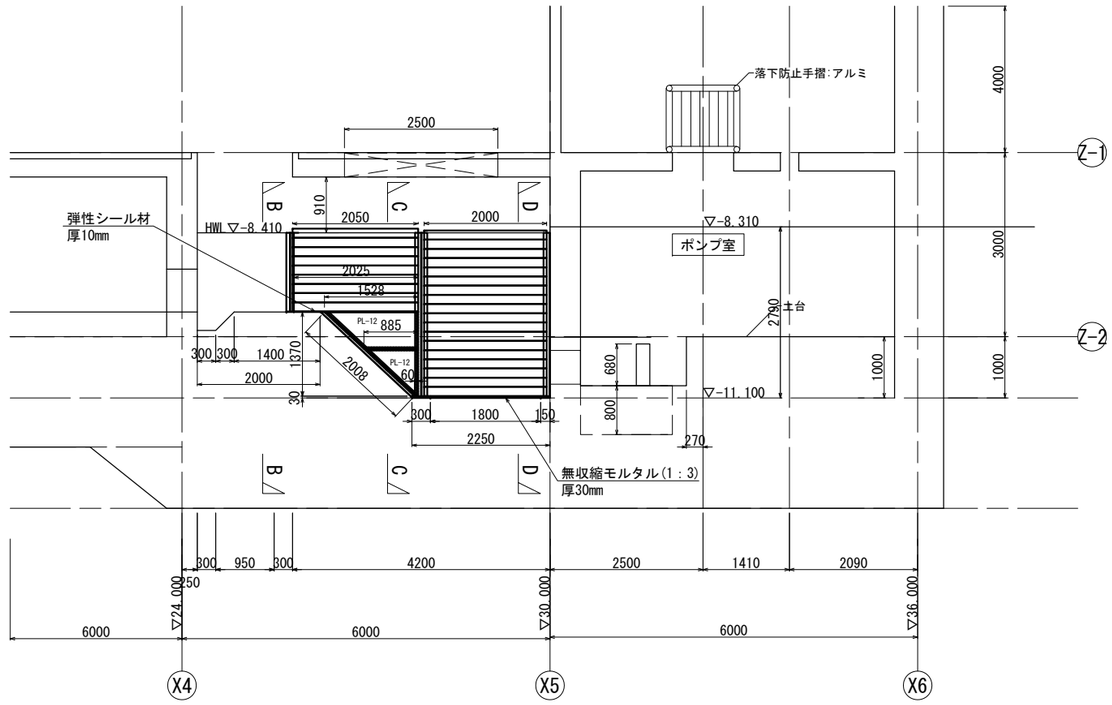
B-B断面図 1/30

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	仮設支保工設置図		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/30	図面番号	C-24
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

仮壁詳細図(1)



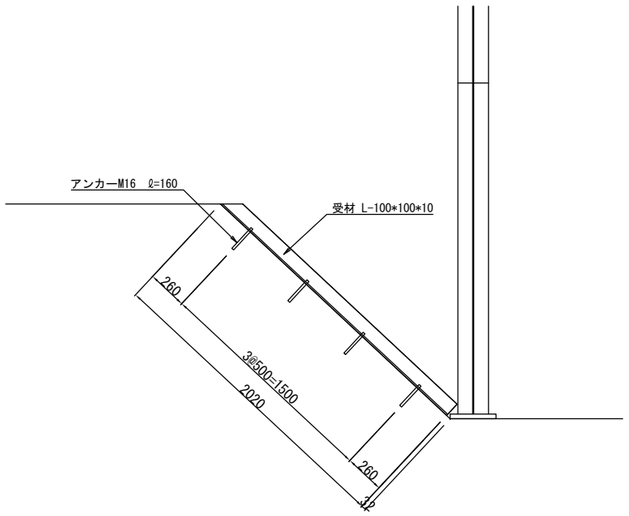
地下2階平面図 1/50



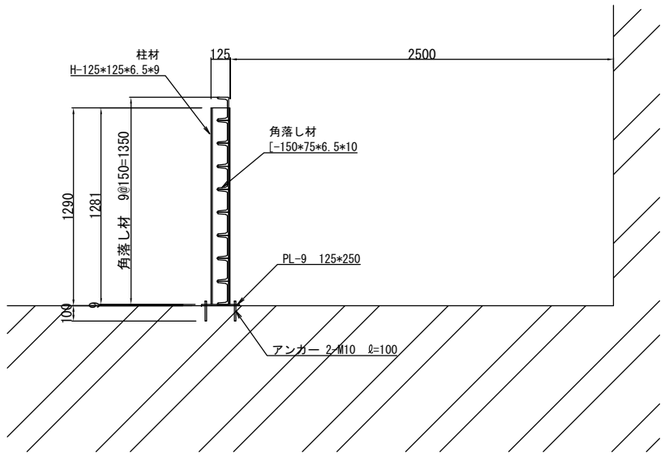
A-A断面図 1/50

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	仮壁詳細図(1)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/50	図面番号	C-25
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		

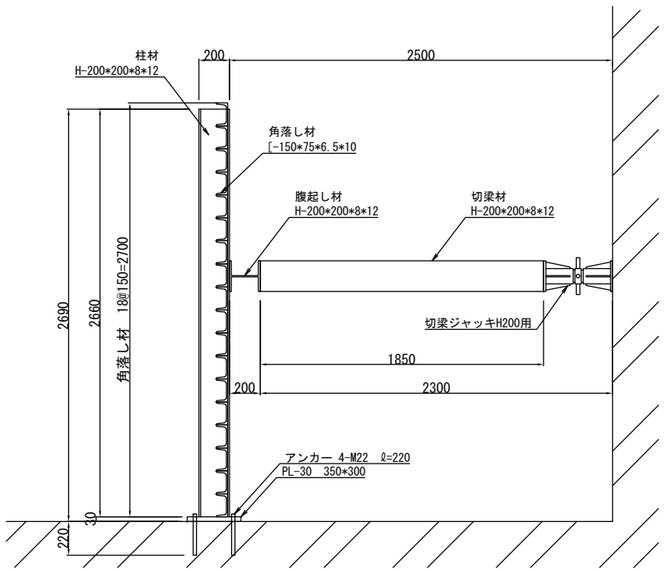
仮壁詳細図(2)



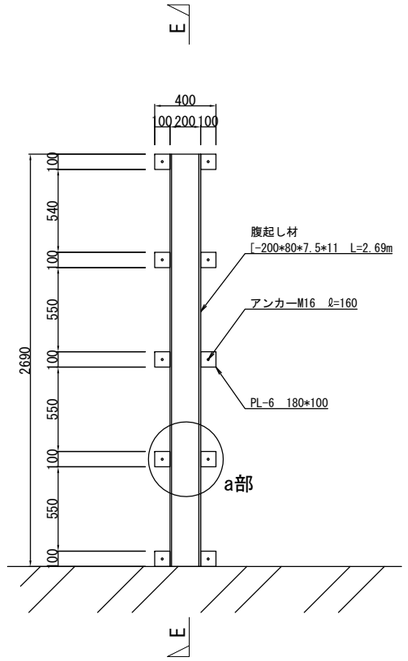
勾配部詳細図 1/20



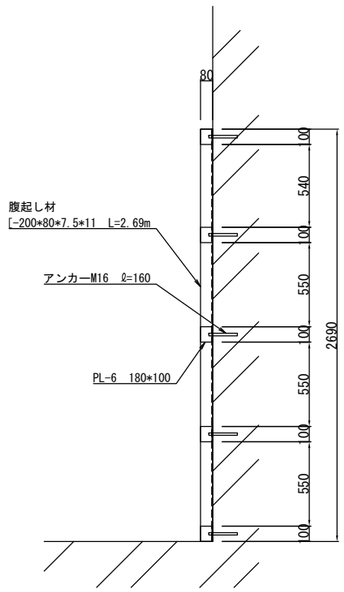
B-B断面図 1/20



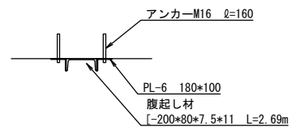
C-C断面図 1/20



D-D断面図 1/20



E-E断面図 1/20



a部詳細図 1/20

工事名	芝川ポンプ場耐震補強工事		
図面名	仮壁詳細図(2)		
作成年月	令和8年3月		
縮尺	1/20	図面番号	C-26
設計者	株式会社　日建技術コンサルタント		
発注者	埼玉県　上尾市		